

HP Release Control

Windows® オペレーティングシステム向け

ソフトウェアバージョン : 9.20

ユーザーガイド

ドキュメントリリース日 : 2012年7月

ソフトウェアリリース日 : 2012年7月



ご注意

保証

HP 製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HP はいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピュータソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HP からの有効な使用許諾が必要です。商用コンピュータソフトウェア、コンピュータソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211 および 12.212 の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 2006 -2012 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Oracle® は、Oracle Corporation (Redwood City, California) の米国登録商標です。

Microsoft®、Windows®、および Windows® XP は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国の登録商標です。

Java™ は、Oracle およびその関連会社の登録商標です。

Adobe® は、Adobe Systems Incorporated の商標です。

謝辞

本製品には、Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/> (英語サイト)) によって開発されたソフトウェアが含まれています。

本製品には、Indiana University Extreme!Lab (<http://www.extreme.indiana.edu/> (英語サイト)) によって開発されたソフトウェアが含まれています。

ドキュメントの更新情報

このドキュメントのタイトルページに、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアのバージョン番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに変更されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

最新の更新のチェック、またはご使用のドキュメントが最新版かどうかの確認には、次のサイトをご利用ください。

<http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals>

このサイトを利用するには、HP Passport への登録とサインインが必要です。HP Passport ID の取得登録は、次の Web サイトから行なうことができます。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html> (英語サイト)

または、HP Passport のログインページの **[New users - please register]** リンクをクリックします。

適切な製品サポートサービスをお申し込みいただいたお客様は、更新版または最新版をご入手いただけます。詳細は、HP の営業担当にお問い合わせください。

サポート

次のHPソフトウェアのサポート Webサイトを参照してください。

<http://support.openview.hp.com>

HPソフトウェアが提供する製品、サービス、サポートに関する詳細情報をご覧ください。

HPソフトウェアオンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様の業務の管理に必要な対話型の技術支援ツールに素早く効率的にアクセスいただけます。HPソフトウェアサポート Webサイトのサポート範囲は、次のとおりです。

- 関心のある技術情報の検索
- サポートケースとエンハンスメント要求の登録とトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HPサポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部を除き、サポートのご利用には、HP Passportユーザーとしてご登録の上、ログインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport IDを登録するには、以下のWebサイトにアクセスしてください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html> (英語サイト)

アクセスレベルに関する詳細は、以下のWebサイトにアクセスしてください。

http://support.openview.hp.com/access_level.jsp

目次

このガイドによるこそ	15
このガイドの内容	16
このガイドの対象読者	17
HP Release Controlのドキュメント	17
その他のオンラインリソース	18

パート I: はじめに

第 1 章: HP Release Controlの紹介	21
概念	21
HP Release Controlの概要	21
リファレンス	23
HP Release Controlへのアクセス	23

パート II: ユーザー設定

第 2 章: ユーザープリファレンス	27
概念	27
ユーザープリファレンスの概要	27
リファレンス	28
ユーザープリファレンスのユーザーインタフェース	28

パート III: 変更の分析

第 3 章: 分析モジュール	41
概念	42
分析モジュールの概要	42
アクションアイテム	42
インパクト分析	44
リスク分析	44
Modeling Studio の統合の概要	49
期間	50
変更要求の衝突	52
類似した変更	53
検出された変更と潜在変更	54
タスク	56
変更諮問委員会 (CAB) 会議の前に未解決の問題を解決する方法	56
変更プランナーによる変更の再スケジュール方法	57
インパクト分析の計算結果の変更方法 - CI の削除	59
インパクト分析の計算結果の変更方法 - CI の追加	62
リファレンス	65
分析モジュールのユーザーインターフェース	65
第 4 章: 変更要求および作業のフィルター	161
概念	161
変更要求および作業のフィルターの概要	161
正規表現	163
タスク	164
結合フィルターの作成方法	164
リファレンス	165
フィルターのユーザーインターフェース	165

パート IV: 作業の監視と実施

第 5 章: ディレクターモジュール	193
概念	194
ディレクターモジュールの概要	194
タイムラインでの作業の表示	194
作業アラート	196
ユーザーコミュニケーション	197
タスク	197
作業の進捗状況のモニター方法	197
リファレンス	198
ディレクターモジュールのユーザーインターフェース	198
第 6 章: 実施担当者モジュール	217
概念	217
実施担当者モジュールの概要	217
作業実施の管理	218
タスク	218
作業の進捗状況の変更方法	218
リファレンス	221
実施担当者モジュールのユーザーインターフェース	221
第 7 章: ユーザーコミュニケーション	229
概念	229
ユーザーコミュニケーションの概要	229
リファレンス	230
[コミュニケーション] ウィンドウのユーザーインターフェース	230

目次

パート V: ダッシュボード

第 8 章: ダッシュボードの使用	239
概念	240
デフォルトポートレットの表示	240
トレンドポートレット	241
分析ポートレット	243
実施後ポートレット	246
タスク	248
トレンドポートレットの表示プリファレンスの変更	248
[アプリケーションの重大度の分布] ポートレットの表示プリファレンスの 変更	249
[アプリケーションのステータスの分布] ポートレットの表示プリファレンスの 変更	250
[変更要求のインパクト分析の割合] ポートレットの表示プリファレンスの 変更	251
[結果の経時変化] ポートレットの表示プリファレンスの変更	252
[Outcome Grouped By Risk (リスク別結果グループ)] ポートレットの 表示プリファレンスの変更	253
ダッシュボードのカスタマイズ	254
ポートレットの管理	259
リファレンス	261
ダッシュボードページの使用	261

パート VI: 管理

第 9 章: HP Release Control 構成の概要	265
概念	266
HP Release Control データフロー	266
構成プロセス - 基本的な概要	267
タスク	268
HP Release Control 導入方法	268
変更要求の分析の構成方法	268
レビューとコラボレーション設定の構成方法	271
一般設定とシステムプリファレンスの構成方法	272

第 10 章: [構成] タブの操作	275
概念	276
[構成] タブの概要	276
タスク	277
[構成] タブのファイルの構成方法	277
構成変更の保存方法と適用方法	277
構成設定の検証で発生する問題の解決方法.....	278
リファレンス	280
[構成] タブのユーザーインターフェース	280
第 11 章: 変更プロセスの構成	289
概念	290
衝突の構成.....	290
変更要求の衝突の計算	291
インパクト分析.....	295
リスク分析.....	296
類似した変更分析.....	299
タスク	300
インパクト分析ルール of 構成.....	300
リスク分析 of 構成.....	302
アクションアイテム of 自動作成 of 構成方法.....	303
リファレンス	305
変更プロセス構成 of ユーザーインターフェース.....	305
第 12 章: 社内文書の作成	335
概念	335
社内文書の概要.....	335
リファレンス	338
[社内文書] ウィンドウ	338
第 13 章: フィールドと列挙設定の構成	339
概念	340
フィールド of 構成.....	340
列挙 of 概要.....	341

リファレンス.....	343
有効な表示形式.....	343
設定済み変更要求フィールド.....	345
フィールドと列挙設定の構成のユーザーインターフェース.....	350
第 14 章: HP Universal CMDB 関連設定の構成.....	369
概念.....	371
HP Universal CMDB 関連設定の構成の概要.....	371
スタンドアロンモードでの作業の概要.....	372
潜在変更と検出変更の構成.....	372
インパクト分析 (相関) ルールの構成.....	376
HP Release Control フェデレーションアダプターの概要.....	377
変更フェデレーションアダプター.....	378
タスク.....	380
HP Universal CMDB 7.5 の構成方法 (推奨).....	380
HP Universal CMDB 8.x 以降の構成方法 (推奨).....	383
JMX コンソールを使用して、インパクト分析の CI プロパティ条件の数を 増やす方法.....	386
HP Universal CMDB の詳細設定の構成方法.....	387
HP Universal CMDB バージョンのアップグレード.....	389
HP Universal CMDB パッチの手動での構成方法.....	393
HP Release Control をスタンドアロンモードで実行するための構成方法.....	394
HP Business Availability Center 8.x または HP Business Service Management 9.x で フェデレーションとして KPI を構成する方法.....	398
フェデレーションアダプターへのカスタムフィールドの追加方法.....	399
JMX コンソールを使用したパスワードの暗号化方法.....	401
JXM コンソールを使用して LDAP を操作するための HP Release Control および HP Universal CMDB の構成方法.....	402
HP Universal CMDB 7.x からのビジネス CI のインポート方法.....	403
リファレンス.....	405
統合構成のユーザーインターフェース.....	405

第 15 章: サービス デスクの構成	429
概念	431
変更要求の変換の概要.....	431
アダプターの構成の概要.....	432
変換スクリプトの記述.....	433
サービス デスクから HP Release Control インタフェースへのリンク	437
サービスデスク内の承認ステータスの更新.....	439
HP Service Manager での推奨日時解析の更新.....	440
タスク	441
サービスデスク統合の初期構成方法.....	441
サービスデスクからのチケットの取得方法.....	441
サービスデスクアダプタープロパティの変更方法.....	444
HP Service Manager を分析情報で更新するための HP Release Control の 構成方法.....	445
HP Release Control と HP Service Manager での LW-SSO の構成方法.....	446
要求承認のための HP Release Control の構成方法.....	447
HP Release Control アプリケーションへのリンクの作成方法	449
HP Release Control カレンダーへのリンクの作成方法	451
HP Release Control の [評価] タブへのリンクの作成方法.....	452
単一の変更要求へのリンクの作成方法.....	453
タイムゾーンとロケールパラメーターを使用したリンクの作成方法.....	453
テナントパラメーターを使用したリンクの作成方法.....	455
HP Service Manager/Center チケットへのリンクの作成方法.....	456
SDI 操作スクリプトを更新して Deny 関数をサポートする方法.....	463
リファレンス	464
SDI 操作スクリプト.....	464
サービス デスク アダプターのプロパティ.....	466
HP Release Control へのリンクを作成するルールおよび構文	484
カスタマイズ リンク用の URL パラメーター.....	485
HP Release Control へのリンクに使用されるフィールドパラメーター値.....	486
第 16 章: ラベルと用語の構成トピック	491
概念	492
デフォルトの表示ラベルと用語の構成に関する概要.....	492
リファレンス	494
[ラベルと用語] ウィンドウ	494

第 17 章: モジュールの構成	499
概念	499
通知構成の概要.....	499
レポート構成の概要.....	500
タスク	501
ダッシュボード設定の構成方法.....	501
リファレンス	502
値式.....	502
通知ルールの構成.....	503
モジュール構成のユーザーインタフェース.....	506
第 18 章: セキュリティの構成	523
概念	524
Lightweight Single Sign-On 認証の概要.....	524
HP Release Control ユーザー認証の概要.....	524
ID 管理の使用.....	525
HP Release Control の ID マネージャー モードのアーキテクチャ.....	526
LDAP 認証の使用.....	527
HP Release Control の LDAP 認証アーキテクチャ.....	528
タスク	529
ID 管理モードの使用方法.....	529
データベース認証モードでの動作.....	535
LDAP 接続プロパティの構成方法.....	535
HP Release Control と LDAP サーバー間の接続の設定方法.....	537
リファレンス	538
LW-SSO の制約.....	538
LW-SSO のセキュリティ警告.....	539
LW-SSO の重要な情報.....	540
セキュリティ構成のユーザーインタフェース.....	540
第 19 章: サーバーの構成	553
概念	554
複数テナントの構成の概要.....	554
クラスター導入の概要.....	556

タスク	558
HP Release Control サーバーの複数テナント向けの構成方法 (SaaSのみ)	558
HP Release Control のクラスター導入のセットアップ方法	560
リファレンス	571
サーバー構成のユーザーインターフェース	571
第 20 章: 期間の構成	579
概念	579
期間の構成の概要	579
タスク	581
期間の定義方法	581
リファレンス	583
[期間] タブ	583
第 21 章: ビジネスCIの構成	591
概念	591
ビジネスCIの構成の概要	591
リファレンス	592
ビジネスCI構成のユーザーインターフェース	592
第 22 章: ユーザーの構成	599
概念	599
ユーザーの構成の概要	599
リファレンス	600
ユーザー構成のユーザー インタフェース	600
パート VII: 付録	
付録 A: ユーティリティ	607
リファレンス	608
HP Release Control ユーティリティ	608

付録 B: ログ ファイル.....	637
概念.....	637
ログファイルの概要.....	637
タスク.....	638
ログファイルのプロパティの構成.....	638
リファレンス.....	640
HP Release Control で使用可能なログファイル.....	640
付録 C: チケット処理のエラー処理.....	643
概念.....	643
変更要求の変換中のエラー処理.....	643
変更要求の分析中のエラー処理.....	644
付録 D: データベースの構成とメンテナンス.....	645
リファレンス.....	645
MS SQL Server データベースの構成とメンテナンスのガイドライン.....	645
Oracle Server データベースのガイドライン.....	647
英語以外のロケールでの作業.....	649
データベースプールの構成設定.....	650
索引.....	651

このガイドによろこそ

この『*HP Release Control ユーザーガイド*』では、HP Release Control ソフトウェアの使用
方法と構成方法について説明します。HP Release Control は、リリースライフサイクルに
おいて、変更諮問委員会 (CAB) のメンバーと実施チームの意思決定を支援する共通のプ
ラットフォームを提供します。実施時には、システムの各変更要求を分析し、リアルタ
イムの情報の提供やアラート通知を行います。また、リリースライフサイクル全般を通
じて、コラボレーション、フィードバック、レビューが可能になります。

本章の内容

- ▶ 「このガイドの内容」 (16 ページ)
- ▶ 「このガイドの対象読者」 (17 ページ)
- ▶ 「HP Release Control のドキュメント」 (17 ページ)
- ▶ 「その他のオンラインリソース」 (18 ページ)

このガイドの内容

このガイドでは、以下の項目について説明します。

パート I はじめに

HP Release Control アプリケーションのさまざまなコンポーネント

パート II ユーザー設定

現在の HP Release Control ユーザーのユーザープロパティと分析モジュールの設定の表示および構成方法

パート III 変更の分析

分析モジュールの各タブに表示されるさまざまな変更要求ビューと変更要求情報および変更要求、アクションアイテム、作業のフィルター方法

パート IV 作業の監視と実施

実施予定の変更要求のステータスを監視するディレクターモジュール、実施する作業を管理する実施担当者モジュール、およびこれらのモジュール間の通信方法

パート V ダッシュボード

変更要求データをリアルタイムにグラフ表示する HP Release Control ダッシュボードの使用方法

パート VI 管理

HP Release Control システムのさまざまな部分の構成方法

パート VII 付録

HP Release Control ログファイル、データベースの構成とメンテナンス、HP Release Control ユーティリティ、変更要求変換プロセスで発生するエラーの処理

このガイドの対象読者

このガイドの対象読者は、変更要求が組織のIT環境に与えるビジネス インパクトを評価したり、提案された変更を承認/拒否する、変更諮問委員会のメンバーなどの変更プロセスの関係者と、変更を実施したり、実施の進行状況を監視する、変更実施担当者やNOCユーザーです。

HP Release Controlのドキュメント

HP Release Controlには、次のドキュメントが付属しています。

『**HP Release Control デプロイメントガイド**』では、HP Release Controlのインストールおよびデプロイ方法について説明しています。このガイドは、以下のフォーマットで、以下の場所に保存されています。

- ▶ PDFフォーマット。HP Release Control DVDの中。
- ▶ PDFフォーマット。HP Release Controlアプリケーションの[ヘルプ]>[マニュアル ライブラリ]を選択。

『**HP Release Control ユーザーガイド**』では、HP Release Controlアプリケーションの使用および構成方法について説明しています。このガイドは、以下のフォーマットで、以下の場所に保存されています。

- ▶ PDFフォーマット。HP Release Control DVDの中。
- ▶ PDFフォーマットおよびオンラインHTMLヘルプフォーマット。HP Release Controlアプリケーションの[ヘルプ]>[マニュアル ライブラリ]を選択。
- ▶ HTMLヘルプフォーマット。HP Release Control アプリケーションの個別のウィンドウから、ウィンドウ内をクリックして **F1** を押すか、メニューから**ヘルプ**を選択。

『**HP Release Control API Reference**』では、HP Release ControlのAPIの使用方法について説明しています。『API Reference』は、CHMフォーマットがHP Release Control DVDの中か、または[HP Release Control アプリケーション]から[ヘルプ]>[マニュアル ライブラリ]を選択することで参照できます。

HP Release Controlの『はじめにお読みください』には、製品の現行バージョンの最新情報と、既知の問題、制限について包括的な情報が記載されています。『はじめにお読みください』は、HP Release Control DVDからHTMLフォーマットで、または[ヘルプ]>[マニュアルライブラリ]を選択してHP Release Controlアプリケーションから参照できます。

注意：PDFフォーマットのドキュメントの表示と印刷には、Adobe Readerを使用します。Adobe ReaderはAdobeのWebサイト (<http://www.adobe.com>)からダウンロードできます。

その他のオンラインリソース

[HP ソフトウェア サポート]から、HPソフトウェアサポートのWebサイトにアクセスできます。このサイトで、セルフソルブナレッジベースを参照できます。また、ユーザーディスカッションフォーラムへの投稿と検索、サポートリクエストの送信、パッチや更新されたドキュメントのダウンロードなども行えます。[ヘルプ]>[HP ソフトウェア サポート]を選択してください。このWebサイトのURLは、<http://support.openview.hp.com>です。

一部を除き、サポートのご利用には、HP Passport ユーザーとしてご登録の上、ログインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。

アクセスレベルに関する詳細は、以下のWebサイトにアクセスしてください。

http://support.openview.hp.com/access_level.jsp

HP Passport IDを登録するには、以下のWebサイトにアクセスしてください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html> (英語サイト)

[HP ソフトウェア Web サイト]から、HPソフトウェアのWebサイトにアクセスできます。このサイトで、HPソフトウェア製品の最新情報を入手できます。新しいソフトウェアリソース、セミナー、展示会、カスタマーサポートなどの情報が掲載されています。[ヘルプ]>[HP ソフトウェア Web サイト]を選択してください。このWebサイトのURLは、www.hp.com/go/softwareです。

パート I

はじめに

第 1 章

HP Release Control の紹介

本章の内容

概念

▶ 「HP Release Control の概要」 (21 ページ)

リファレンス

▶ 「HP Release Control へのアクセス」 (23 ページ)

概念

HP Release Control の概要

一般的なリリースライフサイクルでは、システムにおける変更は、**承認、実施、レビュー**の各フェーズを進んでいきます。このようなフェーズは、それぞれが HP Release Control によってサポートされています。

承認

承認フェーズでは、**分析モジュール**を使ってシステムで発生する変更要求の詳細な分析を行います。変更諮問委員会 (CAB) のメンバーは、変更が及ぼす潜在的インパクト、実施に伴い起こりうるリスクなどの情報を表示できます。CAB は、この情報を使用することにより、計画された変更の承認に関して、十分な情報に基づいて正確な意思決定を行います。

また、CAB メンバーは**コラボレーション機能**を使用して、計画された変更のフィードバック、変更要求の承認/拒否、または承認の撤回を実行できます。

実施

実施時には、**ディレクターモジュール**と**実施担当者モジュール**により、変更作業に関するリアルタイム情報が提供されます。実施担当者とリリースチームは、24時間のタイムラインビューで、すべての変更作業のステータスを監視できます。また、スケジュール、衝突、遅延などで発生した問題についてアラートを受信し、承認フェーズの分析モジュールで作成された実施ガイドラインを適用します。

レビュー

実施が完了すると、レビュー担当者は、**実施後レビュー (PIR) 機能**を使用して、実施済みの変更に関する結論を提示します。レビュー担当者は、実施フェーズで収集された情報に基づいて、変更が全体的に成功したか、関係者がどの程度の満足度を得たのかに関するフィードバックを行います。

管理

IT マネージャーは、リリースライフサイクル全体を通して、HP Release Control **ダッシュボードモジュール**で変更要求および作業データをリアルタイムにグラフ表示します。また、HP Release Control 管理者は、**管理モジュール**を使用して、HP Release Control のプロパティを構成し、システムで管理タスクを実行します。

リファレンス

HP Release Control へのアクセス

HP Release Control にアクセスするには、HP Release Control サーバーにネットワーク (イントラネットまたはインターネット) 接続されたコンピューターの Web ブラウザーを使用します。Web ブラウザーの要件の詳細は、『*HP Release Control デプロイメントガイド*』の「サーバーシステム要件」を参照してください。

HP Release Control のログインページにアクセスして HP Release Control にログインするには :

- 1 Web ブラウザーで、URL として <http://<サーバー名>:<Tomcatサーバーのポート>/ccm> (ID 管理システムを使用していない場合) または <http://<サーバー名>/ccm> (ID 管理システムを使用している場合) と入力します。**サーバー名** は HP Release Control サーバーの名前または IP アドレスです。
- 2 管理者が定義し割り当てたユーザーのログインパラメーター (ユーザー名とパスワード) を入力し、[**ログイン**] をクリックします。ログインすると、画面の右上隅にユーザー名が表示されます。新規インストールでは、**admin** というユーザーが **admin** というパスワードで作成されるので、これをシステムへの最初のアクセスに使用できます。
- 3 「HP Release Control ユーザー認証の概要」(524 ページ) の説明に従って、ユーザー認証モードを構成します。

HP Release Control からログアウトするには :

セッションが完了したら、画面の右上隅にある [**ログアウト**] をクリックします。

パート II

ユーザー設定

第 2 章

ユーザープリファレンス

本章の内容

概念

- ▶ 「ユーザープリファレンスの概要」 (27 ページ)

リファレンス

- ▶ 「ユーザープリファレンスのユーザーインターフェース」 (28 ページ)

概念

ユーザープリファレンスの概要

HP Release Control では、HP Release Control の現在のユーザーのユーザープロパティの表示と構成、現在のユーザーに関連付けるビジネス CI の選択、分析モジュール設定の構成を行うことができます。

ユーザー設定の構成に関する詳細は、「ユーザーの構成」 (599 ページ) を参照してください。

リファレンス

ユーザープリファレンスのユーザーインターフェース

本項の内容

- ▶ 「[ビジネス CI] ウィンドウ」(28ページ)
- ▶ 「[詳細] ウィンドウ」(30ページ)
- ▶ 「[グリッド表示] ウィンドウ」(31ページ)
- ▶ 「[クイック フィルター表示] ウィンドウ」(33ページ)
- ▶ 「[ユーザー ワークスペース] ウィンドウ」(34ページ)

[ビジネス CI] ウィンドウ





このウィンドウでは、ビジネスCIを現在のユーザーに関連付けることができます。

ビジネスCIをユーザーに関連付けると、そのユーザーは、そのビジネスCIに影響を与える変更がスケジュールされた時点で通知を受け取ります。ビジネスCIとユーザーの最初の関連付けは管理者が行いますが、現在のユーザーとの関連付けや関連付けの削除はユーザーが実行できます。

ユーザーの基本情報や関連付けするビジネスCIなどを設定して、新規ユーザーを定義する方法の詳細は、「ユーザーの構成」(599ページ)を参照してください。

アクセス方法	[プリファレンス]>[ユーザー プリファレンス]>[ビジネス CI]を選択します。
---------------	---

ユーザー インタフェースの要素を以下に説明します (ラベルのない要素は、角かっこで囲まれています)。

UIの要素	説明
	廃止の表示/非表示。 廃止CIの非表示と表示を切り替えます。
	検索。 特定のビジネスCIを検索するには、名前または名前の一部を検索ボックスに入力します。検索結果として、入力文字列を名前に含むビジネスCIがすべて返されます。 [検索] ボタンをクリックすると、検索が実行されます。
	選択したビジネスCIを [利用できるビジネス CI] リストから [自分のビジネス CI] リストに移動します。ビジネスCIは、現在のユーザーに関連付けられます。
	選択したビジネスCIを [自分のビジネス CI] リストから [利用できるビジネス CI] リストに移動します。ビジネスCIと現在のユーザーの関連付けは解除されます。 注: ビジネスCIと現在のユーザーの関連付けを削除できるのは、管理者がビジネスCIの強制機能を使ってビジネスCIのデータ表示をユーザーに要求していない場合のみです。
<その他のページの表示>	その他のページを表示するには、左矢印と右矢印を使用します。左矢印と右矢印の間の数値は、現在表示中のページを示します。たとえば、3 / 5 ページは、全5ページのうち3ページ目が表示されていることを示します。 
利用できるビジネスCI	現在のユーザーに関連付けられていないビジネスCIです。
自分のビジネスCI	現在のユーザーに関連付けられているビジネスCIです。

[詳細] ウィンドウ

このウィンドウでは、管理者によって構成された HP Release Control の現在のユーザーのプロパティを表示および変更します。

アクセス方法	[プリファレンス]>[ユーザー プリファレンス]>[詳細]を選択します。
重要な情報	ID管理またはLDAPモードで作業している場合は、ユーザーのパスワードを変更できません。
関連項目	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「HP Release Control ユーザー認証の概要」(524ページ) ▶ 「ユーザーの構成」(599ページ)

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。





UIの要素	説明
パスワード	<p>ユーザーのパスワードを変更するには、新しいパスワードを入力します。これは、ユーザーがHP Release Control にログインするためのパスワードです。</p> <p>注： ID管理またはLDAPモードで作業している場合は、ユーザーのパスワードを変更できません。</p>
パスワードの再入力	<p>[パスワード] ボックスに入力したパスワードを確認するため、パスワードを再入力します。</p> <p>注： ID管理またはLDAPモードで作業している場合は、ユーザーのパスワードを変更できません。</p>


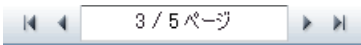
[グリッド表示] ウィンドウ

このウィンドウでは、HP Release Control でデータを表示する変更要求フィールドを指定します。

アクセス方法	[プリファレンス]>[ユーザー プリファレンス]>[分析]>[グリッド表示]を選択します。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ HP Release Controlでのデータ表示に使用する変更要求フィールドは、管理者モジュールで定義されています。詳細については、「[フィールド]ウィンドウ」(353ページ)を参照してください。 ▶ [グリッド表示]ウィンドウで定義されたユーザー固有の構成は、管理者モジュールの現在の構成よりも優先されます。この定義の適用対象は、ユーザーが変更要求フィールドの構成に使用したコンピューターに限定されます。
関連項目	「[変更要求]-一覧表示」(118ページ)


ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します(ラベルのない要素は、角かっこで囲まれています)。

UIの要素	説明
	デフォルト値に戻す。 管理者モジュールで定義されたデフォルトのフィールドに戻します。
	検索。 特定の列を検索するには、名前または名前の一部を検索ボックスに入力します。検索結果として、入力文字列を名前に含む列がすべて返されます。 [検索] ボタンをクリックすると、検索が実行されます。
	追加。 選択した列を [利用できる列] リストから [選択した列] リストに移動します。 [変更要求] ウィンドウに列が表示されます。
	削除。 選択したフィールドを [選択した列] リストから [利用できる列] リストに移動します。 [変更要求] ウィンドウに列が表示されなくなります。




UIの要素	説明
	<p>上矢印と下矢印で [変更要求] ウィンドウに表示される列の順序を変更します。</p>
<p><その他のページの表示></p>	<p>その他のページを表示するには、左矢印と右矢印を使用します。左矢印と右矢印の間の数値は、現在表示中のページを示します。たとえば、3 / 5 ページは、全5ページのうち3ページ目が表示されていることを示します。</p> 
<p>利用できる列</p>	<p>利用できる列のリスト。 注： CTRL キーを使用して複数の列を選択できます。</p>
<p>選択した列</p>	<p>[変更要求] ウィンドウに表示されるフィールドが示されます。 注： CTRL キーを使用して複数の列を選択できます。</p>



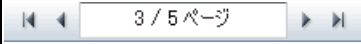
[クイック フィルター表示] ウィンドウ

このウィンドウでは、分析モジュールの [フィルター] ウィンドウに表示するフィールドを構成します。詳細については、「[フィルター] ウィンドウ」(183 ページ) を参照してください。

アクセス方法	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ユーザープリファレンス : [プリファレンス] > [ユーザー プリファレンス] > [クイック フィルター表示] を選択します。 ▶ 管理者モジュール : [構成] タブ > [フィールド] を選択します。[利用できるフィールド] ウィンドウで [クイック フィルター表示の管理]  ボタンをクリックし、[クイック フィルター表示] ダイアログ ボックスを開きます。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 変更結果は、[フィルター] ウィンドウにすぐに反映されます。 ▶ デフォルトでは、[フィルター] ウィンドウに表示される各フィールドは管理者によって定義されています ([モジュール] > [管理者] > [構成] タブ > [統合] > [フィールド] > [利用できるフィールド] ウィンドウ > [クイック フィルター表示の管理] ボタン)。 ▶ [クイック フィルター表示] ウィンドウで定義されたユーザー固有の構成は、管理者がユーザーに対して行った現在の構成より優先します。
関連項目	「[フィルター] ウィンドウ」(183 ページ)

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します (ラベルのない要素は、角かっこで囲まれています)。

UIの要素	説明
	デフォルト値に戻す 。管理者モジュールで定義されたデフォルトのフィールドに戻します。
	検索 。特定のフィールドを検索するには、名前または名前の一部を検索ボックスに入力します。検索結果として、入力文字列を名前に含むフィールドがすべて返されます。 [検索] ボタンをクリックすると、検索が実行されます。
	選択したフィールドを [利用できるフィールド] リストから [選択したフィールド] リストに移動します。[クイック フィルター] ウィンドウにフィールドが表示されます。

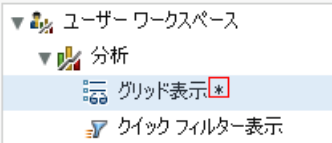

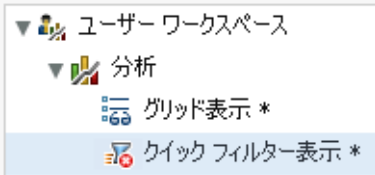
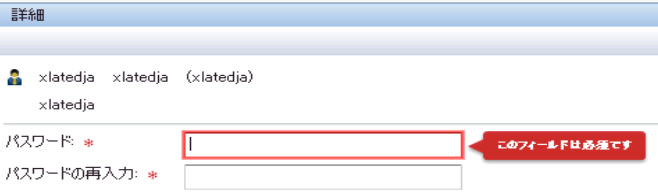
UIの要素	説明
	選択したフィールドを [選択したフィールド] リストから [利用できるフィールド] リストに移動します。[クイック フィルター] ウィンドウにフィールドが表示されなくなります。
	上矢印と下矢印で、[クイック フィルター] ウィンドウに表示されるフィールドの順序を変更できます。
<その他のページの表示>	<p>その他のページを表示するには、左矢印と右矢印を使用します。左矢印と右矢印の間の数値は、現在表示中のページを示します。たとえば、3 / 5 ページは、全5ページのうち3ページ目が表示されていることを示します。</p> 
利用できるフィールド	<p>利用できるクイックフィルターフィールドのリスト。</p> <p>注： CTRL キーを使用して複数のフィールドを選択できます。</p>
選択したフィールド	<p>[クイック フィルター] ウィンドウに表示されるフィールドが示されます。</p> <p>注： CTRL キーを使用して複数のフィールドを選択できます。</p>

[ユーザー ワークスペース] ウィンドウ

このウィンドウでは、HP Release Control の現在のユーザーのユーザープロパティを設定します。

アクセス方法	[プリファレンス] > [ユーザー プリファレンス] > [ユーザー ワークスペース] を選択します。
重要な情報	ID管理またはLDAPモードで作業している場合は、ユーザーのパスワードを変更できません。
関連項目	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「HP Release Control ユーザー認証の概要」(524ページ) ▶ 「ユーザーの構成」(599ページ)

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します (ラベルのない要素は、角かっこで囲まれています)。

UIの要素	説明
<p><左ウィンドウのユーザープリファレンスツリー></p>	<p>選択したオプションが右ウィンドウに表示されます。以下は、記号やアイコンの説明です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 選択したオプションが変更されると、ツリーで選択したオプションの右側にアスタリスク (*) が表示されます。  <p>▶ 無効なアクションが実行された場合、ツリーで選択したオプションの左側のアイコンに  が表示されます。</p>  <p>次に、無効なアクションの例を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [詳細] ウィンドウの [パスワード] ボックスが空である ▶ [クイックフィルター表示] ウィンドウの [選択したフィールド] リストでフィールドが選択されていない <p>このような場合、該当するボックスが赤い枠で囲まれ、無効なアクションが実行されたことが示されます。また、赤い枠にポインターを置くと、無効なアクションの説明が表示されます。</p> 

UIの要素	説明
<p>言語設定の自動検出</p>	<p>このオプションは、コンピューターに設定したデフォルト言語を HP Release Control でも使用する場合に選択します。</p> <p>他の言語を使用するには、[言語設定の自動検出] オプションを解除し、必要な言語を選択してください。選択した言語がサポートされていない場合、HP Release Control ではデフォルトの言語 ([モジュール]>[管理者]>[構成]>[統合]>[サーバー] の [システム言語]) が使用されます。</p> <p>デフォルト : オン</p>
<p>タイムゾーン設定の自動検出</p>	<p>このオプションは、HP Release Control サーバーに設定されたデフォルトのタイムゾーンを HP Release Control でも使用する場合に選択します。</p> <p>他のタイムゾーンを使用するには、[タイムゾーン設定の自動検出] オプションを解除し、[タイムゾーン] リストから必要なタイムゾーンを選択してください。</p> <p>注 : [クライアント タイムゾーンの強制] チェックボックス ([モジュール]>[管理者]>[構成] タブ > [統合]>[サーバー] ウィンドウ) がオンになっている場合、このオプションは無効です。</p> <p>デフォルト : オン</p>

UIの要素	説明
開始ページ	<p>現在のモジュールを開始ページとして選択します。HP Release Controlで開くモジュールにアクセスし、[現在のページを使用]をクリックします。</p> <p>分析モジュールを開始ページとして選択する場合、HP Release Controlで以下の動作も発生します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 前回表示したビューが開かれます。たとえば、一覧またはカレンダー表示があります。詳細については、「[変更要求] ツールバーのオプション」(122ページ)を参照してください。 ▶ [変更要求] ウィンドウで前回表示したフィルター(保存されていないフィルターを含む)が開きます。 <p>注: 前回表示されたフィルターが[要求 ID の検索]の検索結果である場合、[任意]フィルターが表示されます。</p> <p>ただし、[デフォルト フィルター名] ボックス ([管理者] > [構成] タブ > [サーバー] を選択)の値が空 ([任意] フィルター)でない場合、[デフォルト フィルター名] ボックスに表示されているフィルターがHP Release Controlで表示されます。</p> <p>変更要求のフィルターについては、「変更要求および作業のフィルター」(161ページ)を参照してください。</p>
最終訪問ページ	<p>ログアウトする前に最後に表示されていたモジュールを開きます。</p> <p>最後に表示されていたのが分析モジュールである場合、HP Release Controlで以下の動作も発生します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 前回表示したビューが開きます。 ▶ [変更要求] ウィンドウで前回表示されたフィルターが開きます。 <p>詳細については、前の「開始ページ」を参照してください。</p> <p>注: デフォルトでは、HP Release Controlで最後に開いたページが表示されます。</p>
自分のお気に入り一覧でアイテムが更新されたときに通知	<p>自分のお気に入りの変更要求とアクションアイテムが変更された場合に、通知を受け取ります。</p>

パート III

変更の分析

第 3 章

分析モジュール

本章の内容

概念

- ▶ 「分析モジュールの概要」 (42 ページ)
- ▶ 「アクションアイテム」 (42 ページ)
- ▶ 「インパクト分析」 (44 ページ)
- ▶ 「リスク分析」 (44 ページ)
- ▶ 「Modeling Studioの統合の概要」 (49 ページ)
- ▶ 「期間」 (50 ページ)
- ▶ 「変更要求の衝突」 (52 ページ)
- ▶ 「類似した変更」 (53 ページ)
- ▶ 「検出された変更と潜在変更」 (54 ページ)

タスク

- ▶ 「変更諮問委員会 (CAB) 会議の前に未解決の問題を解決する方法」 (56 ページ)
- ▶ 「変更プランナーによる変更の再スケジュール方法」 (57 ページ)
- ▶ 「インパクト分析の計算結果の変更方法 - CIの削除」 (59 ページ)
- ▶ 「インパクト分析の計算結果の変更方法 - CIの追加」 (62 ページ)

リファレンス

- ▶ 「分析モジュールのユーザーインターフェース」 (65 ページ)

概念

分析モジュールの概要

分析モジュールでは、システムに入力された各変更要求の詳細な分析が表示されます。

変更諮問委員会 (CAB) のメンバーは、変更が及ぼす潜在的インパクト、実施に伴い起こりうるリスクなどの情報を表示できます。CABは、この情報を使用することにより、計画された変更の承認に関して、豊富な情報に基づいた正確な意思決定を行います。

また、CABメンバーはコラボレーション機能を使用して、計画された変更のフィードバック、変更要求の承認/拒否、または承認の撤回を実行できます。

HP Release Controlにより、分析モジュールの設定を構成できます。詳細については、「ユーザープリファレンス」(27ページ)を参照してください。

アクションアイテム

アクションアイテムとは、あるユーザーが別のユーザーに特定の変更要求について実行を依頼できるタスクです。アクションアイテムが割り当てられるユーザー (HP Release Controlでは担当者と呼ばれます) は、自分に割り当てられたタスクを実行するか、アクションアイテムを作成者に返送するかを選ぶことができます。担当者がタスクの実行を選択した場合、タスクが完了してからアクションアイテムの完了を作成者に通知します。アクションアイテムの作成者はそのアクションアイテムをクローズするか必要に応じて再オープンします。

完了するためには他のユーザーの関与が必要になるアクションアイテムを受信した担当者は、割り当てられたアクションアイテムから1つまたは複数の導出アクションアイテムを作成できます。ただし、導出アクションアイテムは元のアクションアイテムと直接的には関連付けられないため、導出アクションアイテムのステータスが元のアクションアイテムのステータスに影響することはありません。元のアクションアイテムの担当者が作成者にアクションアイテムの完了を通知するまで、元のアクションアイテムのステータスは変更されません。

特定のアクションアイテムを監視するには、**お気に入り**リストにアクションアイテムを追加します。通知登録によって、アクションアイテムに変更が行われた場合に電子メール通知を受信するようにすることもできます。また、他のユーザーに電子メールでアクションアイテムを転送し、アクションアイテムのレビューやコメントを求めることもできます。

注：

- ▶ 1つの変更要求には複数のアクションアイテムを関連付けることができますが、1つのアクションアイテムと関連付けることのできる変更要求は1つのみです。
- ▶ デフォルトでは、HP Release Controlによって特定の変更要求のアクションアイテムが自動作成されます。詳細については、「アクションアイテムの自動作成の構成方法」(303ページ)を参照してください。

分析モジュールでは、2つの場所でアクションアイテムを表示できます。

- ▶ [アクションアイテム] ウィンドウ。[アクションアイテム] ウィンドウを使用して、システムのすべてのアクションアイテムや、特定のフィルター基準を満たすアクションアイテムを表示できます。詳細については、「[アクションアイテム] ウィンドウ」(66ページ)を参照してください。
- ▶ [コラボレーション] タブのアクションアイテムビュー。[コラボレーション] タブでは、特定の変更要求に関連付けられているアクションアイテムを表示できます。詳細については、「[コラボレーション]>[アクションアイテム] タブ」(126ページ)を参照してください。

インパクト分析

インパクト分析では、CIに対する変更要求の影響を計算します。CIの詳細と相互の関係が、HP Universal CMDB からインポートされます。インパクト分析を計算するためにHP Release Controlをセットアップおよび構成する方法については、「[インパクト分析ルール] ウィンドウ」(319ページ)を参照してください。

HP Release Controlの[評価]>[インパクト]タブで、変更要求のインパクト分析の計算結果を表示できます。[評価]>[インパクト]タブには、変更要求の影響を受けるビジネスCIとシステムCIが表示されます。これには、影響を受けるビジネスCIまたはシステムCIについての一般的な情報と、変更要求のインパクトの重大度インジケータが含まれます。詳細については、「[評価]>[インパクト]タブ」(76ページ)を参照してください。

リスク分析

HP Release Controlでは、各変更要求に対し、以下の式を使用して相対的なリスク値が計算されます。

$$\text{算出リスク} = \text{見込み損害} \times \text{失敗確率}$$

説明：

- ▶ **算出リスク**は、0～100の範囲の相対的な値です。数値が大きいほど、相対的なリスクレベルが大きいことを示します。リスク値は客観的な全体のリスクレベルを反映するものではありません。むしろ、選択した変更要求を他の変更要求と比較した場合の相対的なリスクレベルを示しています。
- ▶ **見込み損害**は、要求された変更を実施した場合に発生し得る見込み損害を示します。見込み損害は、0～10の範囲の重み付けされた値として計算されます。数値が大きいほど、損害の度合いが大きいことを示します。
- ▶ **失敗確率**は、変更要求の実施がある程度まで失敗し、結果的に損害が発生する確率を示します。失敗確率は、0～10の範囲の重み付けされた値として計算されます。数値が大きいほど、失敗の確率が高いことを示します。

見込み損害と失敗確率は、HP Release Control 管理者が構成プロセスで定義したリスク因子に基づいて計算されます。

たとえば、管理者は **New_technology** という名前で失敗確率のリスク因子を定義できます。これには、変更要求に関連するテクノロジーが組織で使用された時間が反映されます。

管理者は新しいリスク因子の作成時に、データソース (統合サービスデスクアプリケーションのフィールドなど) を定義し、ソースデータを 0 ~ 10 の範囲の因子値に変換するマッピングルールを定義し、その因子に重みを割り当てます。

また、管理者はリスク計算の上書きルールを定義することもできます。たとえば、ある変更要求に関連するテクノロジーが組織にとって初めて使用するものである場合、実際のリスク計算にかかわらず、リスクが自動的に100に設定されることを決定できます。

リスク分析の計算例

ここでは、変更要求のリスク値の計算に関するプロセスの詳細な例を挙げます。

HP Release Control 管理者は構成プロセスで、**New_technology** という名前のリスク因子を定義します。これは、HP Release Control で処理する各変更要求の失敗確率を測定するために使用される因子の一つです。

New_technology リスク因子のデータ ソースは、統合サービスデスク アプリケーション内で必要なフィールドであり、次に示す情報を提供します。この変更に関するテクノロジーが組織内で使用されてきた期間 (月数)。指定可能な値は、1 ~ 36です。

第3章「分析モジュール」

管理者はNew_technology リスク因子に、ソースデータを0～10の範囲の因子値に変換する以下のマッピングルールを割り当てます。

元のデータ (範囲)	因子スコア
1～12ヶ月	10
12～24ヶ月	5
24～36ヶ月	0

たとえば、このテクノロジーが18ヶ月前に導入された場合、**New_technology** リスク因子のスコアは5になります。

管理者はNew_technology リスク因子に重み4を割り当てます。

次に、失敗確率を測定するためにさらに3つのリスク因子を定義します。以下の表に、管理者が定義する失敗確率のリスク因子と、それぞれに割り当てられる重みを示します。

因子名	重み
New_technology	4
QA_approval	8
Affected_CIs	6
Duration_of_change	2
	重みの合計 = 20

各変更要求の失敗確率を測定するためのリスク因子を定義した後、同じプロセスで、各変更要求の見込み損害を測定するための別の一連のリスク因子を定義します。

では、ここで、まったく新しいテクノロジーに関する特定の変更要求がHP Release Controlで処理され、失敗確率のリスク因子スコアが以下のようになった場合について考えてみます。

因子名	因子スコア
New_technology	10
QA_approval	4
Affected_CIs	2
Duration_of_change	0

HP Release Controlにより、各因子の重み付けされた値が以下の式を使用して計算されます。

$$\text{重み/重みの合計} \times \text{スコア} = \text{重み付けされた値}$$

説明：

- ▶ **重み**は、HP Release Controlの構成プロセスでリスク因子に割り当てられた重みです。
- ▶ **重みの合計**は、リスク因子に割り当てられた重みの合計です。
- ▶ **スコア**は、ソースデータから変換されたリスク因子のスコアです。ソースデータをスコアに変換するために使用されるマッピングは、HP Release Controlの構成プロセスで定義されます。

New_technology リスク因子の値 (重み = 4、重みの合計 = 20、因子スコア = 10) をこの式に代入すると、重み付けされた値は2になります。

$$4/20 \times 10 = 2$$

第3章「分析モジュール」

以下のように、すべての失敗確率のリスク因子に対して、重み付けされた値が計算されます。

因子名	因子スコア	重み	重み付けされた値
New_technology	10	4	2
QA_approval	4	8	1.6
Affected_CIs	2	6	0.6
Duration_of_change	0	2	0
		重みの 合計 = 20	失敗確率 = 4.2

失敗確率スコアは重み付けされたすべての値の合計であり、前の表に示すように4.2になります。

見込み損害スコアは同じ方法 (別に定義されたリスク因子を使用) で計算され、5になります。

元のリスク分析の式を使用して計算すると、最終的なリスクスコアは21になります。

$$\text{失敗確率 (4.2)} \times \text{見込み損害 (5)} = \text{算出リスク (21)}$$

この例で示したように、変更要求の最終的なリスクスコアには、この変更要求の失敗確率と見込み損害の両方に影響するすべてのリスク因子が組み込まれています。

変更要求のリスク分析を表示するには、「[評価]>[リスク]タブ」(90ページ)を参照してください。

 **Modeling Studioの統合の概要**

注: この機能は、HP Universal CMDBバージョン8.01以降に接続している場合のみ使用できます。

インパクト分析の計算結果は、[評価]>[インパクト]タブの[インパクトを受けるCI]、[影響を受けるCI]、[影響するCI]のいずれかのウィンドウに表示されるCIに基づいています。計算に含まれている必要があるにも関わらず、[評価]>[インパクト]タブに表示されないCIや、[インパクト]タブに表示されているが計算に含まれてはいけなはずのCIがある場合、インパクト分析の計算結果は不正確です。インパクト分析の構成方法の詳細は、「[インパクト分析ルール]ウィンドウ」(319ページ)を参照してください。

Modeling Studioの関連するビジネスCIモデルをHP Universal CMDBで変更することで、変更要求のインパクト分析の計算結果をHP Release Controlから直接変更できます。

たとえば、[インパクトを受けるCI]ウィンドウにあるホストが表示されていても、実際にはモデルに存在しなくなった場合、この変更によってHP Universal CMDBが更新されていないため、インパクト結果にはこのホストが含まれます。このため、インパクト分析の結果は不正確です。詳細については、「[評価]>[インパクト]タブ」(76ページ)を参照してください。

更新された結果の表示

必要な変更によってHP Universal CMDBが更新されると、インパクト分析の計算結果が更新されます。[評価]>[インパクト]タブの[インパクトを受けるCI]ウィンドウには、HP Release Controlが次にインパクト計算を実行するまで、更新された結果が表示されません。更新された結果を表示するには、変更プランナーでシミュレーションを実行し、[Change Planner details(変更プランナーの詳細)]ウィンドウでシミュレーション結果を表示します。詳細については、「[変更プランナー]ダイアログボックス」(102ページ)を参照してください。

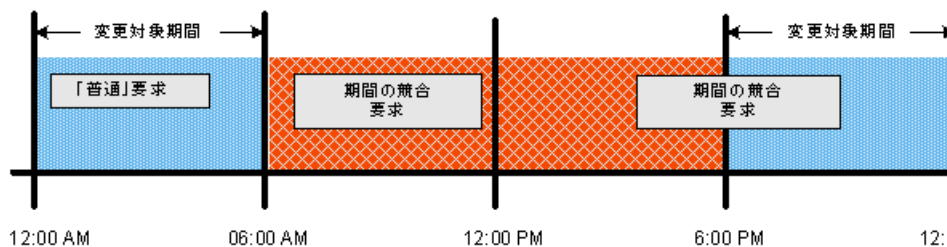
期間

期間によって、変更を実施できるときと実施できないときが定義されます。期間には以下のタイプがあります。

- ▶ **変更対象期間。** 要求を実施できる期間です。
- ▶ **ブラックアウト。** 要求を実施できない期間です。
- ▶ **変更対象外。** 休日など、要求の実施に直接影響しない外部イベントを示す期間。

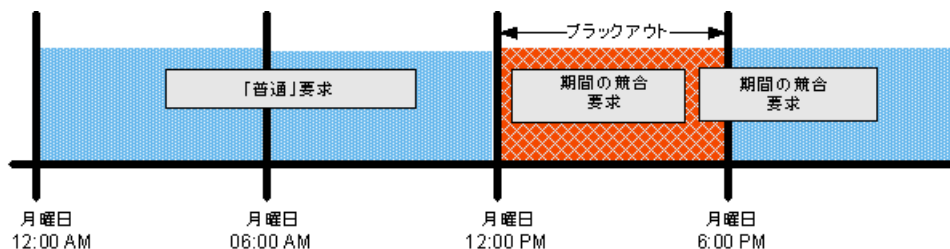
たとえば、企業のサービスレベル契約を確実に達成するために、**変更対象期間**を定義して、企業のWebサイトの変更を12:00 AM～6:00 AMまたは6:00 PM～12:00 AMにのみ行えるようにすることができます。推奨される期間の定義方法の詳細は、「期間の定義方法」(581ページ)を参照してください。

この場合、**普通**とみなされる要求は、**変更対象期間**内に完全に実施する必要があります。要求の一部が**変更対象期間**外に実施された場合、要求全体に期間の競合が生じたとみなされます。期間の競合の表示に関する詳細は、「[評価]>[期間の競合]タブ」(97ページ)を参照してください。



また、**ブラックアウト**期間を定義して、Webサイトの変更を月曜日の12:00 PM～6:00 PMに行えないようにすることもできます。

この場合、**普通**とみなされる要求は、**ブラックアウト**期間外に完全に実施する必要があります。要求の一部が**ブラックアウト**期間内に実施された場合、要求全体に期間の競合が生じたとみなされます。



期間の構成方法の詳細は、「[期間]タブ」(583ページ)を参照してください。

変更要求の衝突

HP Release Control では、同一期間または隣接する期間に実施されるようにスケジュールされ、**変更要求の衝突**を引き起こす、共通の重要要素が関連する変更要求が自動的に識別されます。

注：この章で取り上げるすべての変更要求は、アクションアイテムに関連付けられている変更要求にも関連しています。

変更要求は、次の場合に衝突として定義されます。

- ▶ 構成アイテム (CI) またはビジネスCIが、同一期間または隣接する期間で複数の変更に関係する。
- ▶ 同じ実施担当者が、同一期間または隣接する期間で複数の変更の実施を担当する。
- ▶ 指定したフィールドの値が、同一期間または隣接する期間の複数の変更で同じである。

衝突の重大度は、衝突の原因、および変更要求の互いの類似性の観点から測定されます。

この項では、次の項目を説明します。

- ▶ 「衝突の近接レベル」 (52ページ)
- ▶ 「衝突の原因」 (53ページ)
- ▶ 「衝突の重大度」 (53ページ)

衝突の近接レベル

2つの変更要求の近接レベルは、**[重複]** または **[重複の警告]** として定義できます。詳細については、「衝突の近接レベルの構成」 (291ページ) を参照してください。

衝突の原因

変更要求の衝突の原因の詳細は、「衝突の原因の構成」(293ページ)を参照してください。

衝突の重大度

HP Release Control での衝突の重大度の決定方法の詳細は、「衝突の重大度レベルの構成」(294ページ)を参照してください。

重大度レベルの定義を変更するには、**change-flow.settings** という構成ファイル (<HP Release Control インストールディレクトリ>\conf) を使用します。詳細については、「[衝突] ウィンドウ」(311ページ)を参照してください。

衝突の詳細の表示に関する詳細は、「[評価]>[衝突] タブ」(83ページ)を参照してください。

類似した変更

HP Release Control は、すべての変更要求に共通の要素を自動的に識別および比較し、提案された変更要求との類似性が検出された変更の一覧を生成します。

提案された変更をこの類似する変更の一覧と比較することで、履歴データから変更の特徴を把握し、結果をより正確に予測できます。

この機能は、HP Labs が開発した適合アルゴリズムに基づいています。類似性ティーチャーの役割を持つユーザーは、類似した変更を追加、削除、確認することで、このアルゴリズムを調整できます。

つまり、類似性ティーチャーは類似性アルゴリズムを調整することによって、HP Release Control が変更要求の類似性を計算する方法を変更し、さらに有用性の高い結果を取得できるようにします。

類似した変更の詳細は、「[評価]>[類似した変更] タブ」(93ページ)を参照してください。

検出された変更と潜在変更

デフォルトでは、HP Release Control には環境内での実施がスケジュール済みの変更がすべて含まれています。ただし、ユーザー環境で実際に実施された変更を定期的に検索し、変更に関するデータを HP Release Control に送信するように HP Universal CMDB を構成することができます。詳細については、「潜在変更と検出変更の構成」(372ページ)を参照してください。

注：この機能は、HP Release Control アプリケーションによっては使用できない場合があります。詳細については、HP Release Control 管理者にお問い合わせください。

この項では、次の項目を説明します。

- ▶ 「スケジュールされた変更と検出された変更の把握」(54ページ)
- ▶ 「検出された変更の表示」(55ページ)
- ▶ 「潜在変更の表示」(55ページ)

スケジュールされた変更と検出された変更の把握

HP Release Control では、2つのタイプの変更のデータを表示できます。

- ▶ **検出された変更。**HP Universal CMDB によってユーザー環境内で検出された、実際に完了した変更です。
- ▶ **スケジュールされた変更。**HP Release Control 内にあり、環境内での実施がスケジュールされているすべての変更です。

HP Release Control は、特定の条件に基づいて**検出された変更**と**スケジュールされた変更**をすべて照合します。変更の照合状況によって、検出された各変更は**検出された変更**または**潜在変更**のいずれかに分類されます。

検出された変更の表示

検出された変更がスケジュールされた変更がすべての照合条件で一致した場合、HP Release Controlは、この変更を**検出された変更**とみなします。検出された変更の表示方法の詳細は、「[レビュー]>[確認]タブ」(158ページ)を参照してください。

潜在変更の表示

検出された変更がスケジュールされた変更と一致しない場合や、一部の照合条件のみが一致した場合、HP Release Controlはこれを**潜在変更**とみなします。



潜在変更は、[変更要求]の一覧表示に別個の変更として、その他のすべての変更要求と一緒に表示されます。潜在変更は、一覧表示の[サマリ]列で[潜在]アイコンと[潜在変更]というラベルで示されます。検出された変更の表示方法の詳細は、「[レビュー]>[確認]タブ」(158ページ)を参照してください。


潜在変更機能には、他の使用方法もあります。ここでは、潜在変更機能が完全にアクティブであることを前提にしています。潜在変更のさまざまなモードの詳細は、「[潜在変更]ウィンドウ」(418ページ)を参照してください。

タスク

変更諮問委員会 (CAB) 会議の前に未解決の問題を解決する方法

ここでは、次回のCAB会議で取り上げる変更について、関連の変更要求に衝突がないかどうかを識別する方法を説明します。さらに、CAB会議ではオフラインで解決できない問題のみに集中できるように、会議の前に問題を解決する方法を紹介します。

1 CAB会議で取り上げる変更要求の表示

会社の変更マネージャーは、[モジュール]>[分析]>[変更要求]をクリックし、[フィルターを選択]  をクリックします。[Next CAB] フィルターを選択して、次回のCAB会議で取り上げる予定の変更要求を表示します。

変更要求のフィルターの詳細は、「[作業フィルター]/[変更要求フィルター]ダイアログボックス」(165ページ)を参照してください。

2 衝突の重大度別の変更要求のソート

[変更要求]ウィンドウで、[衝突の重大度]列の見出しをクリックし、変更要求を重大度でソートします。一覧の上部に衝突する変更要求が表示され、重大度が最も高いものが最初に示されます。

変更要求の衝突の詳細は、「変更要求の衝突」(52ページ)を参照してください。

3 アクションアイテムの作成

衝突する各変更に対してアクションアイテムを作成し、次回のCAB会議までに衝突を解決するように依頼します。



[変更要求] ウィンドウで新しいアクションアイテムを作成する変更要求を選択し、[コラボレーション]>[アクション アイテム] タブをクリックします。次に、[新規アクション アイテム] ボタンをクリックして [アクション アイテムの追加] ダイアログボックスを開き、アクションアイテムを関連するユーザーに割り当てます。

アクションアイテムの作成方法の詳細は、「[アクション アイテムの追加][アクション アイテムの編集] ダイアログボックス」(73ページ) を参照してください。

変更プランナーによる変更の再スケジュール方法

1 変更プランナーでの新規スケジュールの選択



[モジュール]>[分析]>[変更要求] を選択し、[選択した変更の計画] ボタンをクリックして変更プランナーを開きます。[スケジューリング] ウィンドウで [計画開始日時] および [計画終了日時] ボックスのカレンダーを使用して、新しいスケジュールを設定します。詳細については、「[スケジューリング] ウィンドウ」(104ページ) を参照してください。

2 変更プランナーでのシミュレーションの実行



変更プランナーで [シミュレーションの実行] ボタンをクリックし、シミュレーションを実行します。

3 サマリ情報の表示

変更プランナーで [プレビュー] タブをクリックし、以下を表示します。

- ▶ 変更の現在の計画日時とシミュレートされた日時
- ▶ 現在の分析結果とシミュレートされた分析結果のサマリ [プレビュー] タブの詳細は、「[プレビュー] タブ」(109ページ) を参照してください。

4 シミュレーションのインパクト分析の表示

変更プランナーで[インパクト]タブをクリックし、シミュレーションのインパクト分析を表示します。インパクト分析結果の表示とフィルターオプションの詳細は、「[インパクト]タブ」(110ページ)を参照してください。

5 シミュレーションの衝突分析の表示

変更プランナーで[衝突]タブをクリックし、シミュレーションの衝突分析を表示します。衝突分析結果の表示とフィルターオプションの詳細は、「[衝突]タブ」(110ページ)を参照してください。

6 シミュレーションの期間の競合分析の表示

変更プランナーで[期間の競合]タブをクリックし、シミュレーションの期間の競合分析を表示します。期間の競合分析結果の表示とフィルターオプションの詳細は、「[期間の競合]タブ」(112ページ)を参照してください。

7 シミュレーションのリスク分析の表示

変更プランナーで[リスク]タブをクリックし、シミュレーションのリスク分析を表示します。リスク分析結果の表示に関する詳細は、「[リスク]タブ」(113ページ)を参照してください。

8 更新されたスケジュールの保存

更新したスケジュールをサービスデスクに保存します。詳細については、「[変更プランナー]ダイアログボックス」(102ページ)を参照してください。

インパクト分析の計算結果の変更方法 - CIの削除

ここでは、Modeling Studioの関連するビジネスCIモデルをHP Universal CMDBで削除することで、変更要求のインパクト分析の計算結果をHP Release Controlから直接変更する方法について説明します。

このタスクでは、以下の手順を実行します。

- ▶ 「インパクト分析の計算結果のレビュー」 (59ページ)
- ▶ 「[インパクトを受ける CI] ウィンドウでのTestBusiness CIの削除」 (60ページ)
- ▶ 「シミュレーション結果の表示」 (61ページ)

1 インパクト分析の計算結果のレビュー

あるユーザーが、変更諮問委員会のメンバーとして、新しいWeb メールサーバーの導入に関するインパクト分析の計算結果のレビューを担当しているとします。



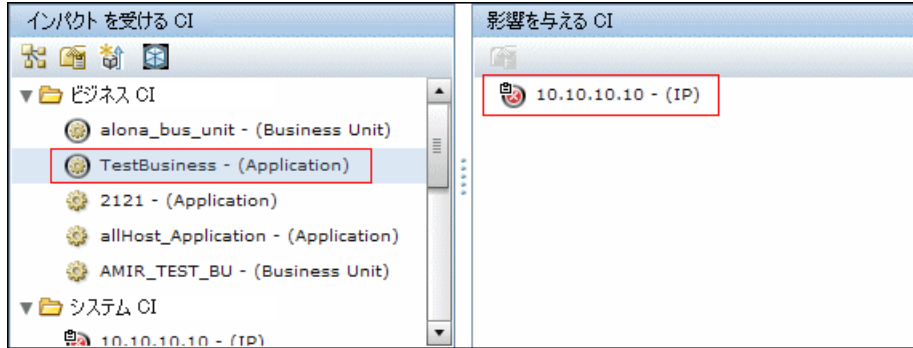
[変更要求] ウィンドウで、必要な変更要求を選択します。次に、[**選択した変更の計画**] ボタンをクリックし、変更プランナーを開きます。[**インパクト**] タブをクリックし、変更要求のインパクト分析の計算結果をレビューします。インパクト分析結果の表示に関する詳細は、「[評価]>[インパクト] タブ」 (76ページ) を参照してください。

[インパクトを受ける CI] ウィンドウに**TestBusiness** というCIが表示され、モデルに**TestBusiness CI**がもう存在しないことを思い出しました。**TestBusiness CI**は[インパクトを受ける CI] ウィンドウにまだ表示されており、HP Universal CMDBがこの変更によって更新されていないため、このCIがインパクト結果に含まれています。

このため、インパクト分析の結果は不正確です。

[インパクトを受ける CI] ウィンドウの不要なCIの例：

インパクト分析で正確な結果を得るため、**TestBusiness** CIを[インパクトを受ける CI] ウィンドウから削除し、インパクト分析結果の計算から除外する必要があります。



2 [インパクトを受ける CI] ウィンドウでのTestBusiness CIの削除

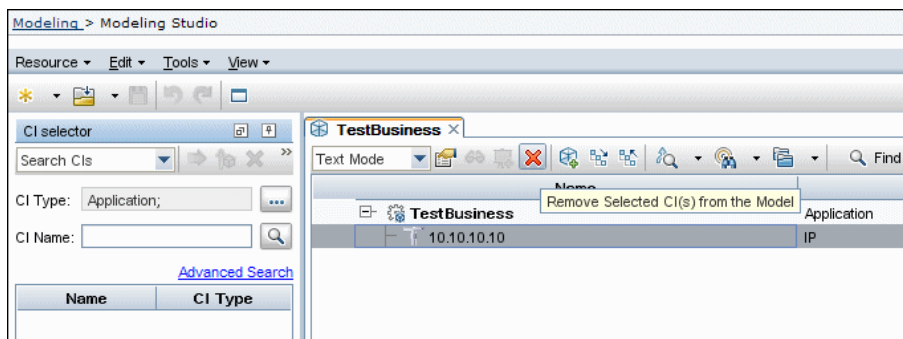


[インパクトを受ける CI] ウィンドウで**TestBusiness** CIを選択し、[モデルの更新]をクリックして、HP Universal CMDBでModeling Studioを開きます。[Editor] ウィンドウに、選択したモデルのビジネス CIが表示されます。**TestBusiness** CIがインパクトを受けるCIとして [インパクトを受ける CI] ウィンドウに表示されないように、**TestBusiness** CIに影響を受けるCIを削除します。この場合は**10.10.10.10**というCIです。[モデルの更新] ボタンの詳細は、「モデルの更新。」(79ページ)を参照してください。

モデルからCIを削除する方法の例：



Modeling Studio で **10.10.10.10** CI を選択し、[**Remove Selected CIs from the Model**] ボタンをクリックします。次に、行った変更を保存するため、Modeling Studio ツールバーの [**保存**] ボタンをクリックします。



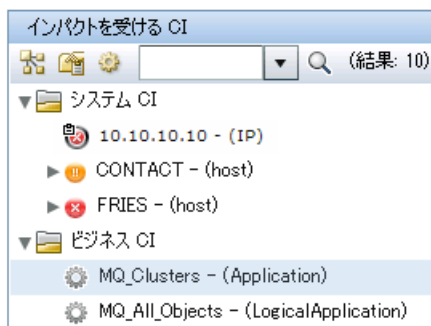
3 シミュレーション結果の表示



変更プランナーで [**シミュレーションの実行**] ボタンをクリックし、変更プランナーのシミュレーションを実行します。変更プランナーの詳細は、「[**変更プランナー**] ダイアログボックス」(102ページ) を参照してください。

[インパクトを受ける CI] ウィンドウで削除した TestBusiness CI の表示の例：

[インパクトを受ける CI] ウィンドウから **TestBusiness** CI が削除され、インパクト分析の計算結果に含まれなくなりました。



インパクト分析の計算結果の変更方法 - CIの追加

ここでは、Modeling Studioから目的のビジネスCIモデルの追加をHP Universal CMDBで行うことで、変更要求のインパクト分析の計算結果をHP Release Controlから直接変更する方法について説明します。

このタスクでは、以下の手順を実行します。

- ▶ 「インパクト分析の計算結果のレビュー」 (62ページ)
- ▶ 「[影響する CI] ウィンドウへのCriticality_App CIの追加」 (63ページ)
- ▶ 「シミュレーション結果の表示」 (64ページ)

1 インパクト分析の計算結果のレビュー

あるユーザーが、変更諮問委員会のメンバーとして、新しいWeb メールサーバーの導入に関するインパクト分析の計算結果のレビューを担当しているとします。



[変更要求] ウィンドウで、必要な変更要求を選択します。次に、[選択した変更の計画] ボタンをクリックし、変更プランナーを開きます。[インパクト] タブをクリックし、変更要求のインパクト分析の計算結果をレビューします。[インパクト] タブの詳細は、「[評価]>[インパクト] タブ」 (76ページ) を参照してください。

[インパクトを受ける CI] タブに表示されている **TestBusiness** CIが**Criticality_App** という別のCIに影響することに気がりましたが、[影響する CI] ウィンドウには **Criticality_App** CIが表示されていません。HP Universal CMDBがこの変更によって更新されていないため、**Criticality_App** CIはインパクト結果に含まれていません。

このため、インパクト分析の結果は不正確です。

[インパクトを受ける CI] タブにない CI の例 :

インパクト分析で正確な結果を得るため、**Criticality_App** CI を [影響する CI] ウィンドウに追加し、結果に含める必要があります。



2 [影響する CI] ウィンドウへの Criticality_App CI の追加



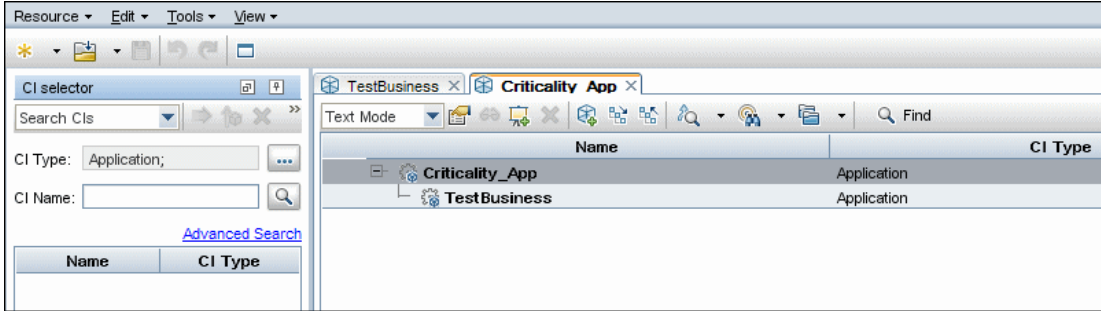
[インパクトを受ける CI] ウィンドウで **TestBusiness** CI を選択し、[モデルに CI を追加] ボタンをクリックして、HP Universal CMDB で Modeling Studio を開きます。CI Selector に **TestBusiness** CI が表示されます。**Criticality_App** CI をモデルに追加します。[モデルに CI を追加] ボタンの詳細は、「モデルに CI を追加。」(78 ページ) を参照してください。

注： HP Universal CMDB 9.0 を使用している場合、HP Release Control サーバーと HP Universal CMDB サーバーが同じドメインにないと、CI Selector は機能しません。

モデルにCIを追加する方法の例：



Modeling Studio で、[Open] ボタンの横にあるドロップダウン矢印をクリックして、[Open Model] を選択します。[Open Model] ダイアログボックスが開きます。**Criticality_App** CI を選択し、[OK] をクリックします。**Criticality_App** CI が **TestBusiness** CI の上に表示され、**TestBusiness** CI が **Criticality_App** CI に影響することが示されます。次に、変更内容を保存するため、Modeling Studio ツールバーの [Save] ボタンをクリックします。



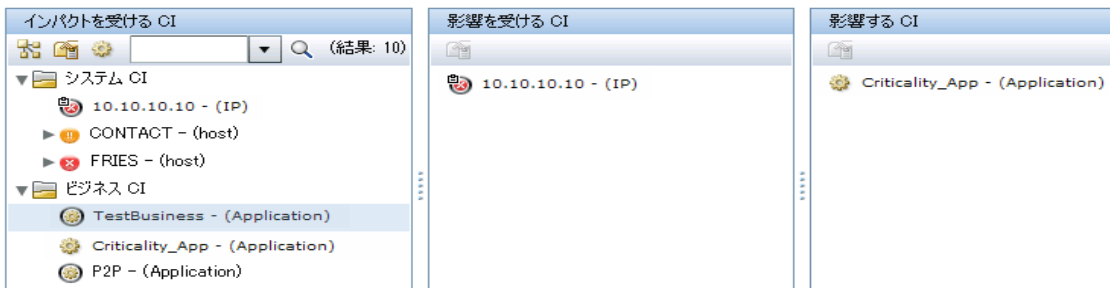
3 シミュレーション結果の表示



変更プランナーで [シミュレーションの実行] ボタンをクリックし、変更プランナーのシミュレーションを実行します。変更プランナーの詳細は、「[変更プランナー] ダイアログボックス」(102ページ)を参照してください。

[影響する CI] ウィンドウに追加された Criticality_App CI の表示の例：

Criticality_App CI が [影響する CI] ウィンドウに追加され、**TestBusiness** CI が **Criticality_App** CI に影響することが示されます。



リファレンス

分析モジュールのユーザーインターフェース

ここでは、以下について説明します。

- ▶ 「[アクション アイテム] ウィンドウ」 (66ページ)
- ▶ 「[類似性セットに変更要求を追加] ダイアログボックス」 (72ページ)
- ▶ 「[アクション アイテムの追加]/[アクション アイテムの編集] ダイアログボックス」 (73ページ)
- ▶ 「[変更要求の承認]/[変更承認の撤回] ダイアログボックス」 (75ページ)
- ▶ 「[評価]>[インパクト] タブ」 (76ページ)
- ▶ 「[評価]>[衝突] タブ」 (83ページ)
- ▶ 「[評価]>[リスク] タブ」 (90ページ)
- ▶ 「[評価]>[類似した変更] タブ」 (93ページ)
- ▶ 「[評価]>[期間の競合] タブ」 (97ページ)
- ▶ 「[変更プランナー] ダイアログボックス」 (102ページ)
- ▶ 「[変更要求]- カレンダービュー」 (114ページ)
- ▶ 「[変更要求]- 一覧表示」 (118ページ)
- ▶ 「[変更要求] ツールバーのオプション」 (122ページ)
- ▶ 「[コラボレーション]>[アクション アイテム] タブ」 (126ページ)
- ▶ 「[コラボレーション]>[ディスカッション] タブ」 (127ページ)
- ▶ 「[コラボレーション]>[決議] タブ」 (130ページ)
- ▶ 「[インパクト グラフ] ウィンドウ」 (134ページ)
- ▶ 「[手動変更プロセスの起動] ダイアログボックス」 (136ページ)
- ▶ 「[新規ディスカッション スレッド] ダイアログボックス」 (138ページ)
- ▶ 「[実施後レビュー] ダイアログボックス」 (139ページ)
- ▶ 「[プレビュー]>[詳細] タブ」 (142ページ)
- ▶ 「[プレビュー]>[概要] タブ」 (144ページ)

- ▶ 「[レビュー]>[関連レコード]タブ」(148ページ)
- ▶ 「[レポートの詳細]ダイアログボックス」(150ページ)
- ▶ 「[返答]ダイアログボックス」(152ページ)
- ▶ 「[レビュー]>[結論]タブ」(154ページ)
- ▶ 「[レビュー]>[イベント ログ]タブ」(157ページ)
- ▶ 「[レビュー]>[確認]タブ」(158ページ)

[アクション アイテム] ウィンドウ

このウィンドウには、変更要求から作成されたアクションアイテムと、リストから選択された各アクションアイテムの基本情報とユーザーコメントが表示されます。





アクセス方法	[モジュール]>[分析]>[アクション アイテム]を選択します。
関連項目	「アクションアイテム」(42ページ)





[アクション アイテム一覧] ウィンドウ


このウィンドウには、アクションアイテムの一覧が表示されます。





重要な情報	<ul style="list-style-type: none">▶ デフォルトのアクションアイテムモードでは、システムのすべての変更要求から作成されたすべてのアクションアイテムが表示されます。▶ 目的の列の見出しをクリックすることで、各列の要求の表示順序をソートできます。
-------	---

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します(ラベルのない要素は、山かっこ<>で囲まれています)。

UIの要素	説明
	<p>[返答] ダイアログボックスが開きます。ここでは、以下の操作が可能です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ユーザーによるコメントの入力 ▶ 担当者によるオープンアクションアイテムへの [完了] マークの設定または作成者への返送 ▶ 作成者による [完了] マークの付いたアクションアイテムの再オープン <p>詳細については、「[返答] ダイアログボックス」(152 ページ) を参照してください。</p> <p>注: 選択されたアクションアイテムが現在のユーザーに割り当てられているときにのみ有効になります。</p>
	<p>アクションアイテムのクローズ。 作成者はアクションアイテムのステータスを [クローズ済み] に変更できます。</p> <p>注: 選択されたアクションアイテムが現在のユーザーに割り当てられているときにのみ有効になります。</p>
	<p>アクションアイテムの編集。 作成者はアクションアイテムを編集できます。[アクション アイテムの編集] ダイアログボックスが開きます。</p> <p>注: 選択されたアクションアイテムが現在のユーザーに割り当てられているときにのみ有効になります。</p>
	<p>新規アクションアイテム。 選択したアクションアイテムと同じ変更要求に関連付けられたアクションアイテムを新しく作成できます。[アクション アイテムの追加] ダイアログボックスが開きます。</p>

UIの要素	説明
	<p>アクションアイテムの削除。作成者はアクションアイテムを削除できます。</p> <p>注：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ このボタンが有効になるのは、ログインしたユーザーがアクションアイテムの作成者である場合のみです。 ▶ アクションアイテムの追加後、更新されていないアイテムのみを削除できます。たとえば、アクションアイテムの担当者が応答した場合や、またはコメントが入力された場合などです。 <p>アクションアイテムの処理は、ステータスが [クローズ済み] になった時点で終了します。つまり、アクションアイテムで指定されたタスクがすべて完了した時点で終了します。</p>
	<p>電子メールで転送 (参考用)。参考情報として、アクションアイテムを電子メールで送信できます。[電子メールの送信] ダイアログボックスが開きます。</p>
	<p>お気に入りを選択したAIを追加/お気に入りから選択したAIを削除。選択したアクションアイテムをお気に入りフィルターに追加するか削除するかを切り替えます。フィルターの詳細は、「変更要求および作業のフィルター」(161ページ)を参照してください。</p> <p>ドロップダウン矢印をクリックし、以下のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ お気に入りから削除。選択したアクションアイテムをお気に入りフィルターから削除します。 ▶ お気に入りフィルターのすべてのAIを削除。お気に入りフィルターのすべてのアクションアイテムを削除します。 <p>注：通知登録によって、お気に入りのアクションアイテムに変更が行われた場合に特定の電子メール通知を受信するようにすることもできます。詳細については、「[ユーザー ワークスペース] ウィンドウ」(34ページ)を参照してください。</p>
	<p>選択したアクションアイテムを通知登録/選択したアクションアイテムを通知登録解除。選択したアクションアイテムの電子メール通知を受信するか、通知登録をキャンセルできます。通知ルールと条件の構成の詳細は、「[通知] ウィンドウ」(511ページ)を参照してください。</p>

UIの要素	説明
	上位アクションアイテムに移動。 選択した導出アクションアイテムの上位アクションアイテムを表示します。
<その他のページの表示>	左矢印と右矢印を使用してその他のページを表示できます。 左矢印と右矢印の間の数値は、現在表示中のページを示します。たとえば、3/5ページは、全5ページのうち3ページ目が表示されていることを示します。
割り当て先	アクションアイテムが割り当てられたユーザーの名前を表示します。このユーザーは、以下のいずれかの方法で要求に返答できます。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 関連するタスクを完了し、完了後にアクションアイテムに[完了]のマークを付ける。 ▶ 要求を拒否し、作成者に返送する。 必要な場合、担当者は現在のアクションアイテムから導出アクションアイテムを新規作成することもできます。
作成者	アクションアイテムを作成したユーザーの名前を表示します。作成者は、アクションアイテムに [クローズ済み] のマークを付けるユーザーでもあります。
期日	作成者がアクションアイテムの必須の完了期限として設定した日。この日付を過ぎてもアクションアイテムがクローズされない場合、期日が赤で表示されます。 アクションアイテムのアイコンの上にマウスポインターを置くと、アクションアイテムの期日(日時)を示すヒントが表示されます。この日付を過ぎてもアクションアイテムがクローズされない場合、ヒントに [期限切れ] とも表示されます。
ID	HP Release Controlで生成された、アクションアイテムのID番号を表示します。
変更日時	アクションアイテムが最後に変更された日付(日時)を表示します。アクションアイテムが作成されてから変更されていない場合、この列には作成日時が表示されます。

UIの要素	説明
保留中のユーザー	<p>保留中のアクションアイテムを持つユーザーの名前を表示します。アクションアイテムがオープンの場合、この列には[完了]のマークを付ける担当者の名前が表示されます(担当者がアクションアイテムを作成者に返送した場合を除く)。アクションアイテムに[完了]のマークが付いている場合、この列には[クローズ済み]のマークを付ける作成者の名前が表示されます。</p>
優先度	<p>作成者がアクションアイテムに割り当てた優先度レベルを示す色付きフラグを表示します。</p> <p>フラグの色は優先度レベルを以下のように示しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 赤 高い ▶ 黄 普通 ▶ 緑 低い <p>アクションアイテムのアイコンの上にマウスポインターを置くと、アクションアイテムの優先度を示すヒントが表示されます。</p>
ステータス	<p>アクションアイテムのステータスを示すアイコンを表示します。</p> <p>アイコンとそれぞれのステータスは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶  オープン ▶  完了 ▶  クローズ済み <p>アクションアイテムのアイコンの上にマウスポインターを置くと、アクションアイテムのステータスを示すヒントが表示されます。</p>
件名	<p>アクションアイテムの簡単な概要が表示されます。上位アクションアイテムを展開し、すべての導出アクションアイテムを表示できます。アクションアイテムを展開または折りたたむには、アクションアイテムの左側にある[展開]  ボタンをクリックします。</p> <p>導出アクションアイテムは水色で表示されます。</p>

[アクションアイテムの記入] ウィンドウ


このウィンドウには、[アクションアイテム一覧] ウィンドウで選択した各アクションアイテムの基本情報とユーザーコメントが表示されます。

ユーザーインタフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
担当者	アクションアイテムが割り当てられたユーザーの名前を表示します。アクションアイテムが担当者に保留されている場合、担当者の名前の横に黒丸が表示されます。
コメント	アクションアイテムに関して記入されたコメントを表示します。各コメントの見出しには、コメントを記入したユーザーの名前と入力の日時が含まれます。 コメントの件名は青で表示され、ユーザーが入力した説明は黒で表示されます。 注: コメントの記入はHP Release Controlのすべてのユーザーが可能です。
作成者	アクションアイテムを作成したユーザーの名前を表示します。アクションアイテムが作成者に保留されている場合、作成者の名前の横に黒丸が表示されます。
期日	作成者がアクションアイテムの必須の完了期限として設定した日。
ステータス	アクションアイテムのステータスを表示します。オプションは以下のとおりです。 ▶ オープン ▶ 完了 ▶ クローズ済み
件名	アクションアイテムの件名を表示します(コメントの上)。

[類似性セットに変更要求を追加] ダイアログボックス

HP Release Control では、類似性設定ディレクトリで定義した特定の基準に従って類似した変更が計算されます。これらの条件では類似した変更として自動的に認識されない場合も、類似性ティーチャーの役割を持つユーザーは [類似した変更] リストに要求を追加できます。




アクセス方法	[モジュール]>[分析]>[変更要求]>[評価] タブ> [類似した変更] タブを選択し、[類似性セットに変更要求を追加]  をクリックします。
関連項目	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「ユーザーの構成」 (599ページ) ▶ 「類似した変更」 (53ページ)

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

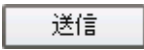


UIの要素	説明
要求ID	リストに追加する要求のIDを入力します。
サービスデスク	目的のサービスデスクを選択します。

[アクションアイテムの追加]/[アクションアイテムの編集] ダイアログボックス

このダイアログボックスでは、特定の変更要求のアクションアイテムを作成したり、既存のアクションアイテムを編集したりすることができます。






<p>アクセス方法</p>	<p>アクションアイテムモードを使用している場合 ([モジュール] > [分析] > [アクション アイテム] を選択)、新しいアクションアイテムを作成する変更要求に関連付けられているアクションアイテムを選択します。</p> <p>変更要求モードを使用している場合 ([モジュール] > [分析] > [変更要求] を選択)、新しいアクションアイテムを作成する変更要求を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ アクションアイテムを作成するには、ツールバーで [新規アクション アイテム]  をクリックします。 ▶ 既存のアクションアイテムを編集するには、ツールバーで [アクション アイテムの編集]  をクリックします。
<p>重要な情報</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ アクションアイテムの作成者は、割り当てられたオープンアクションアイテムの変更のみ可能です。アクションアイテムのステータスの詳細は、「ステータス」(70 ページ)を参照してください。 ▶ アクションアイテムを変更する際、アクションアイテムのレベル(上位/導出)は変更できません。 ▶ [アクション アイテムの編集]  ボタンが有効になるのは、選択したアクションアイテムが現在のユーザーに割り当てられ、アクションアイテムのステータスが [クローズ済み] ではない場合のみです。
<p>関連項目</p>	<p>「アクションアイテム」(42 ページ)</p>

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
	作成/編集したアクションアイテムは、[アクション アイテム一覧] ウィンドウと、関連付けられている変更要求の [コラボレーション]>[アクション アイテム] タブのアクションアイテムビューの両方に追加されます。電子メール通知は担当者に送信されます。
次の名前を追加	自分が担当者となっているアクションアイテムを選択した場合、アクションアイテムを新規アクションアイテムとして作成するのかわりに、既存アクションアイテムとして作成するのを選択します。既存アクションアイテムは、[アクション アイテム一覧] ウィンドウで上位アクションアイテムの下に表示されます。
担当者	<p>選択したアクションアイテムを割り当てるユーザーを選択します。[担当者] ボックスの右側にある [担当者]  をクリックします。[ユーザーの選択] ダイアログボックスが開きます。</p> <p>アクションアイテムを割り当てるユーザーを参照して選択します。選択したユーザーのユーザー名が [担当者] ボックスに表示されます。</p>
作成者	アクションアイテムの作成者。
説明	(オプション)アクションアイテムの簡単な概要を示すフリーテキストボックス。
期日	<p>アクションアイテムの必須の完了期限として設定する日時を選択します。[期日] ボックスの右側にある [カレンダー]  ボタンをクリックし、日時を選択します。[期日] ボックスに日付が表示されます。</p> <p>注: カレンダーボックスに表示されているコンピューターのタイムゾーンに従って時間を選択します。</p>
優先度	<p>選択したアクションアイテムに割り当てる優先度を選択します。オプションは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 低い ▶ 中 ▶ 高い
要求ID	変更要求のID。
件名	アクションアイテムの簡単な概要。

[変更要求の承認]/[変更承認の撤回] ダイアログボックス

このダイアログボックスでは、変更要求を承認/撤回します。

アクセス方法	[モジュール]>[分析]>[変更要求]>[コラボレーション]>[決議]タブを選択し、[決議] ウィンドウで[承認]  、[撤回]  、または[拒否]  をクリックします。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [承認]/[撤回]/[拒否] ボタンが有効になるのは、必要な基準が満たされている場合のみです。詳細については、[コラボレーション]>[決議] タブを参照してください。 ▶ 提供した認証データが不正確な場合、または現在変更要求の承認を許可されていない場合、HP Release Controlは詳細なエラーメッセージを発行します。要求のサービスデスクアプリケーションのバージョンがHP Release Controlのバージョンより新しい場合、変更要求の承認を強制するかどうかをたずねるメッセージが表示されます。承認を強制するには、チェックボックスをオンにして、[承認] をクリックします。 ▶ 承認の詳細を表示するには、[コラボレーション]>[決議] タブの[変更の承認] ウィンドウで [承認ログ]  ボタンをクリックします。 ▶ 変更要求の承認を撤回した場合、[コラボレーション]>[決議] タブの [CAB 決定事項] ウィンドウに撤回の詳細が表示されます。 ▶ [変更要求] ウィンドウで変更要求のステータスを更新するには、[更新]  ボタンをクリックします。HP Release Control がサービスデスクアプリケーションから更新された要求を受信すると、要求のステータスが更新されます。これには数秒かかることがあります。
関連項目	「[コラボレーション]>[決議] タブ」(130ページ)

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
<p>コメント</p>	<p>承認/撤回の一部として HP Release Control で表示する情報を入力します。</p> <p>表示された [ログイン] ダイアログボックスに、サービスデスクアプリケーションのユーザー名とパスワードを入力します。この情報は、セッションを終了するまで、HP Release Control に保存されるため、変更要求を承認、撤回、または拒否するたびに再入力する必要はありません。</p> <p>選択した変更要求にサービスデスクアプリケーションの元の要求への URL リンクが含まれるように構成すると、[サービス デスク アプリケーションの元の要求をオープン] をクリックして、サービスデスクアプリケーションで要求を表示できます。</p> <p>[承認]、[撤回]、または [拒否] をクリックすると、HP Release Control によってユーザー名とパスワードが正しいか、また変更要求の承認/撤回/拒否が現在許可されているかどうかをチェックされます。ユーザー名とパスワードが正しく、要求の承認/撤回/拒否が許可されている場合、HP Release Control で要求が承認/撤回/拒否され、[コラボレーション] タブに詳細が表示されます。</p> <p>変更要求の承認/拒否や承認の撤回の詳細は、「[コラボレーション] > [決議] タブ」(130 ページ) を参照してください。</p>

[評価] > [インパクト] タブ



このタブでは、変更要求のインパクト分析の計算結果をさまざまな方法で表示できます。[インパクト] タブには、変更要求の影響を受けるビジネス CI とシステム CI が表示されます。これには、影響を受けるビジネス CI またはシステム CI についての一般的な情報と、変更要求のインパクトの重大度インジケーターが含まれます。




また、Modeling Studio で作成されたビジネス CI モデルを HP Universal CMDB で変更することで、変更要求のインパクト分析の計算結果を変更できます。




注：HP Universal CMDB ユーザーインターフェースは、Firefox 3.0.9では表示できません。





アクセス方法	[モジュール]>[分析]>[変更要求]>[評価]>[インパクト]タブを選択します。
関連タスク	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「インパクト分析の計算結果の変更方法 - CIの削除」(59ページ) ▶ 「インパクト分析の計算結果の変更方法 - CIの追加」(62ページ)
関連項目	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「インパクト分析」(44ページ) ▶ 「Modeling Studioの統合の概要」(49ページ)




ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します(ラベルのない要素は、山かっこ<>で囲まれています)。









UIの要素	説明
	グラフウィンドウを開く。 インパクト分析の計算結果をグラフ形式で表示します。[インパクト グラフ]ウィンドウを開きます。
	CI属性。 選択したCIの属性を表示します。[CI 属性]ウィンドウを開きます。 注： HP Release Controlで表示される属性をカスタマイズするには、「[CI 表示]ウィンドウ」(411ページ)を参照してください。

UIの要素	説明
	<p>モデルにCIを追加。</p> <p>HP Universal CMDBを開くリンク。選択したCIを検索し、HP Universal CMDBを開きます。Modeling Studioで、CI Selectorに選択したCIが表示され、[Editor] ウィンドウは空です。新規モデルを作成するか、既存のモデルにCIを追加できます。</p> <p>注：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ HP Universal CMDB 9.0を使用している場合、HP Release Control サーバーとHP Universal CMDB サーバーが同じドメインにないと、CI Selectorは機能しません。 ▶ Lightweight Single Sign-On Authentication Support (LW-SSO) が有効になっている場合、Modeling Studioを自動的に開く設定が可能です。LW-SSOが有効になっていない場合は、HP Universal CMDBのログインページが開きます。 <p>このボタンに以下の場所でアクセスできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 変更プランナー:[モジュール]>[分析]>[変更要求]をクリックします。[変更要求] ウィンドウで、[選択した変更の計画]  をクリックして[変更プランナー] ウィンドウを開き、[インパクト] タブをクリックします。 ▶ 分析モジュール: [モジュール]>[分析]>[変更要求]>[評価]>[インパクト] タブを選択します。 ▶ [インパクト グラフ] ウィンドウ:[モジュール]>[分析]>[変更要求]>[評価]>[インパクト] タブを選択します。[インパクトを受けるCI] ウィンドウで[グラフ ウィンドウを開く]  ボタンをクリックして、[インパクト グラフ] ウィンドウを開きます。 <p>注：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ HP Universal CMDB ユーザーインターフェースは、Firefox 3.0.9では表示できません。 ▶ このボタンは、接続しているHP Universal CMDBのバージョンがバージョン8.01以降の場合にのみ表示されます。 ▶ このボタンは、以下の場合に無効になります。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 選択されているCIがない ▶ 選択されているCIが有効なCIでない

UIの要素	説明
	<p>モデルの更新。</p> <p>HP Universal CMDBを開くリンク。Modeling Studioで、[Editor] ウィンドウに選択したモデルのビジネスCIが表示されます。CI SelectorでCIを選択し、モデルのCIを追加または削除します。</p> <p>注：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ HP Universal CMDB 9.0を使用している場合、HP Release Control サーバーとHP Universal CMDB サーバーが同じドメインにないと、CI Selectorは機能しません。 ▶ Lightweight Single Sign-On Authentication Support (LW-SSO) が有効になっている場合、Modeling Studioを自動的に開く設定が可能です。LW-SSOが有効になっていない場合は、HP Universal CMDBのログインページが開きます。 <p>このボタンに以下の場所でアクセスできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 変更プランナー:[モジュール]>[分析]>[変更要求]をクリックします。[変更要求] ウィンドウで、[選択した変更の計画]  をクリックして[変更プランナー]ウィンドウを開き、[インパクト] タブをクリックします。 ▶ 分析モジュール: [モジュール]>[分析]>[変更要求]>[評価]>[インパクト] タブを選択します。 ▶ [インパクト グラフ] ウィンドウ:[モジュール]>[分析]>[変更要求]>[評価]>[インパクト] タブを選択します。[インパクトを受けるCI] ウィンドウで[グラフ ウィンドウを開く]  ボタンをクリックして、[インパクト グラフ] ウィンドウを開きます。 <p>注：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ HP Universal CMDB ユーザーインターフェースは、Firefox 3.0.9では表示できません。 ▶ このボタンは、接続しているHP Universal CMDBのバージョンがバージョン8.01以降の場合にのみ表示されます。 ▶ このボタンは、以下の場合に無効になります。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 選択されているCIがない ▶ 選択されているCIが有効なCIでない ▶ システムCIが選択されている

UIの要素	説明
	<p>[自分のビジネス CI] ボタンインパクトを受けるCIの検索範囲を、通知登録しているCI ([自分のビジネス CI] リストで定義) に絞り込む場合は、このボタンをクリックします。このボタンを放すと、すべてのRFC CIについて検索範囲がグローバルになります。</p> <p>インパクトを受けるCIの最大数を変更要求ごとに定義する方法の詳細は、「インパクト検索結果の最大サイズ」を参照してください。</p>
	<p>[CI 検索] ボックス。CI検索ボックスにCI名を入力して、CIを検索できます。このテキストボックスは、ワイルドカード検索もサポートしています。たとえば、CIの名前が「abc」の場合は、「a*」または「a?c」と入力してそのCIを検索できます。この検索では、検索パターンに名前が一致するすべての関連CIが返されます。そのCIの直接上位と直接下位も結果に含まれます。</p> <p>ボックスを空のままにしたときのデフォルトは「*」です。</p>
	<p>検索。[検索] ボタンをクリックすると、インパクトを受けるCIの検索が実行されます。</p>
	<p>展開/折りたたみ。CIを展開するか折りたたみ、すべての下位CIを表示または非表示にします。</p>

UIの要素	説明
<p><ビジネスCIのインパクトの重大度レベル></p>	<p>各ビジネスCIの左側にあるアイコンは、そのビジネスCIが変更要求によって直接的または間接的な影響を受けるかどうかを示しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶  変更要求によって直接的に影響を受けるビジネスCI (DAB)。これは、このビジネスCIがRC_DIRECTLY_AFFECTED 関連ルールグループのuCMDBインパクト分析結果に含まれていることを意味します。 ▶  変更要求によって間接的に影響を受けるビジネスCI (IAB)。これは、このビジネスCIがRC_DIRECTLY_AFFECTED 関連ルールグループのuCMDBインパクト分析結果には含まれておらず、RC_IMPACT 関連ルールグループの結果に含まれていることを意味します。 <p>CIがチケットから直接トリガーされている場合 (トリガーされているCI)、インパクトの重大度レベルのアイコンが黒丸で囲まれます。</p> <p></p> <p>影響を受ける各ビジネスCIに対し、変更要求をフィルターして、現在のビジネスCIに影響するもののみを表示できます。そのためには、影響を受けるビジネスCIを右クリックし、メニューから [クイックフィルター: 影響する要求を表示します] を選択します。このビジネスCIに影響する変更要求が [変更要求] ウィンドウに表示されます。</p>

UIの要素	説明
<p><システムCIのインパクトの重大度レベル></p>	<p>チケットで明示的に指定されたCI (トリガーされたCI) のインパクトの重大度レベルは、自動的に[致命的]に設定されます。トリガーされたCI以外のCIの重大度はHP Universal CMDBによって計算されます。</p> <p>デフォルトのインパクトの重大度レベルのアイコンは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none">  致命的  高い  中  低い  極めて低い  使用可能なインパクト分析がない <p>▶ CIが変更CI (CCI) から直接的な影響を受ける場合、インパクトの重大度レベルのアイコン  が黒丸で囲まれます。</p> <p>▶ CIがチケットから直接トリガーされている場合 (トリガーされているCI)、インパクトの重大度レベルのアイコン  にチケットの記号が付加されます。</p> <p>マウスを重大度レベルのアイコンの上に置くと、ビジネスCIまたはシステムCIのインパクトの重大度レベルを示すヒントが表示されます。CCIは、変更要求の結果としてCIが変更されたことを示します。ACIは、CIが変更要求の変更によって影響を受けたことを示します。</p> <p>注： HP Universal CMDBなしでHP Release Controlを使用している場合、ACIを検出することはできません。</p>
<p>[影響を受ける CI] ウィンドウ</p>	<p>選択したCIに影響を与えるCIを表示します。</p>
<p>[影響する CI] ウィンドウ</p>	<p>選択したCIによって影響を受けるCIを表示します。</p>
<p>[インパクトを受ける CI] ウィンドウ</p>	<p>影響を受けるCIと変更されるCI (ACIとCCI) を表示します。</p>

[評価]>[衝突] タブ

このタブには、[変更要求] ウィンドウで選択した変更要求と衝突するすべての変更要求に関する詳細が表示されます。



衝突は、一覧表示またはタイムラインビューで表示できます。衝突の原因も表示されます。



アクセス方法	[モジュール]>[分析]>[変更要求]>[評価]>[衝突] タブを選択します。
重要な情報	HP Release Controlが衝突結果を計算する最大衝突数は、「[衝突] ウィンドウ」(311ページ)の[衝突カウントしきい値]ボックスで設定します。 選択した変更の衝突数が[衝突カウントしきい値]ボックスで指定した値より大きい場合、衝突はリストされず、以下のメッセージが表示されます。 衝突数が構成されているしきい値を超過しました。衝突の構成に問題がある可能性があります。管理者に問い合わせてください。
関連タスク	「変更諮問委員会 (CAB) 会議の前に未解決の問題を解決する方法」(56ページ)
関連項目	「変更要求の衝突」(52ページ)

[衝突する変更] ウィンドウ

このウィンドウでは、一覧表示またはカレンダービューで衝突を表示できます。

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
	一覧。 [変更要求] ウィンドウで選択した変更要求と衝突するすべての変更要求を表形式で表示します。詳細については、「一覧表示」(86ページ)を参照してください。
	タイムライン。 衝突する変更要求をタイムライン上の横棒として表示します。詳細については、「タイムラインビュー」(89ページ)を参照してください。



UIの要素	説明
 移動	衝突する要求に移動します。 [変更要求] ウィンドウで、[衝突する変更] ウィンドウに表示されている変更要求と衝突する変更要求を表示できます。
	ズームイン/ズームアウト。 タイムラインを1時間、6時間、または24時間の時間間隔に分割できます。[ズーム イン/ズーム アウト] ボタンの横にある矢印をクリックし、目的の間隔を選択します。 注： タイムラインビューでのみ使用できます。



[衝突の原因] ウィンドウ

このウィンドウには、選択した変更要求の衝突の原因となっている要素の詳細が一覧表示またはタイムラインビューで示されます。

重要な情報	HP Universal CMDB なしで HP Release Control を使用している場合、ACIを検出することはできません。その場合、CIに関連する衝突の原因は CCI-CCI のみです。
--------------	---



ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します (ラベルのない要素は、山かっこ<>で囲まれています)。

UIの要素	説明
	すべて展開/すべて折りたたみ。 衝突の原因を展開または折りたたみできます。
	CI属性。 選択したCIの属性を表示します。[CI属性] ウィンドウを開きます。 注： HP Release Control で表示される属性をカスタマイズするには、「[CI表示] ウィンドウ」(411ページ) を参照してください。


UIの要素	説明
<p><衝突の原因 : ビジネスCI></p>	<p>影響を受けることの多いビジネスCIが衝突の原因である場合、[衝突の原因] ウィンドウの [ビジネスCI] に表示されます。</p> <p>ビジネスCIの左側にあるアイコンは、衝突によって直接的または間接的な影響を受けるかどうかを示しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶  ビジネスCIと関連付けられているCIにCCIが1つ以上ある場合、そのビジネスCIは衝突によって直接的な影響を受けます。 ▶  ビジネスCIと関連付けられているすべてのCIがACIである場合、そのビジネスCIは衝突によって間接的な影響を受けます。 <p>注: 変更要求をフィルターして、特定のビジネスCIに影響するもののみを表示できます。[衝突の原因] ウィンドウでビジネスCIを右クリックし、[クイック フィルター: 影響する要求を表示します] を選択します。このビジネスCIに影響する変更要求のみが [変更要求] ウィンドウに表示されます。</p>
<p><衝突の原因 : 実施担当者></p>	<p>共通の実施担当者が衝突の原因となっている場合、変更要求の実施に責任を持つ実施担当者の名前が [衝突の原因] ウィンドウの [実施担当者] に表示されます。</p>
<p><衝突の原因 : システム></p>	<p>影響を受けることの多いシステムCIが衝突の原因である場合、[衝突の原因] ウィンドウの [システム] にこれらのCIの一覧が表示されます。</p> <p>衝突するCIの横に、そのCIのインパクトの重大度を示すアイコンが表示されます。インパクトの重大度の詳細は、「[評価]>[インパクト] タブ」(76ページ) を参照してください。</p>

一覧表示








このビューでは、[変更要求] ウィンドウで選択した変更要求と衝突するすべての変更要求が表形式で表示されます。表は衝突の重大度別にソートされます。

	サマリ	要求 ID	原因
	Deployment of new webmail server	T-00000063	IAB/IAB, 実施...
	Add 512 MB to terminal server called RAYON. Using by...	T-00000066	実施担当者

表の要素にカーソルを置くと、ヒントと関連する情報が表示されます。

アクセス方法	[モジュール]>[分析]>[変更要求]>[評価]>[衝突] タブを選択し、 [衝突する 変更] ウィンドウで [一覧]  をクリックします。
---------------	--

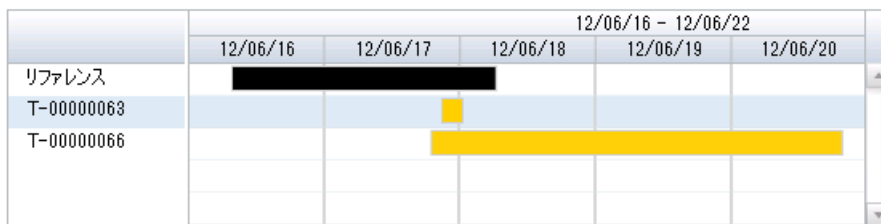
ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します(ラベルのない要素は、山かっこ<>で囲まれています)。

UIの要素	説明
<衝突の重大度>	<p>衝突の重大度を示すアイコンを表示します。衝突の原因が複数ある場合、最も重大度の高い原因によって衝突の重大度が決まります。</p> <p>衝突の重大度は以下のように示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶  致命的 (赤) ▶  高い (オレンジ) ▶  中 (黄) ▶  低い (カーキ) ▶  極めて低い (薄緑) <p>衝突の重大度の計算方法の詳細は、「変更要求の衝突」(52ページ)を参照してください。</p>
<近接レベル>	<p>近接レベルを示すアイコンを表示します。</p> <p>衝突の近接レベルは以下のように示されます。</p> <ul style="list-style-type: none">  重複  重複の警告 <p>衝突の近接レベルの詳細は、「変更要求の衝突」(52ページ)を参照してください。</p>

UIの要素	説明
<p>原因</p>	<p>衝突の原因を表示します。変更要求の衝突を引き起こす要素はいくつかあります (CI関連、ビジネスCI関連、実施担当者関連、またはフィールド関連)。衝突の原因となっている要素が複数ある場合、複数の要素がリストされます。</p> <p>以下に、衝突の原因となり得るすべての要素を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ CCI-CCI。共通のCIが両方の変更要求によって変更されます。 ▶ CCI-ACI。共通のCIが一方の変更要求によって変更され、もう一方の変更要求によって間接的に影響されます。 ▶ ACI-ACI。共通のCIが両方の変更要求によって間接的に影響されます。 ▶ DAB-DAB。共通のCIが両方の変更要求によって直接的に影響されます。 ▶ IAB-DAB。共通のビジネスCIが一方の変更要求によって直接的に影響され、もう一方の変更要求によって間接的に影響されます。 ▶ IAB-IAB。共通のビジネスCIが両方の変更要求によって間接的に影響されます。 ▶ 実施担当者。共通の実施担当者が両方の変更要求の実施を担当します。 ▶ フィールド。指定したフィールドの値が両方の変更要求で同じです。 <p>衝突の原因の詳細は、「変更要求の衝突」(52ページ)を参照してください。</p>
<p>終了日時</p>	<p>競合する変更要求の終了がスケジュールされている日付を表示します。</p>
<p>要求ID</p>	<p>競合する変更要求のサービスデスクアプリケーションでの要求IDを表示します。</p>
<p>開始日時</p>	<p>競合する変更要求の開始がスケジュールされている日付を表示します。</p>
<p>サマリ</p>	<p>競合する変更要求の簡単な概要を表示します。</p>


タイムラインビュー

このビューでは、衝突する変更要求がタイムライン上の横棒として表示されます。各ブロックはそれぞれ衝突する変更要求を表しています。



[変更要求] ウィンドウで選択した変更要求はタイムライン上で常に最初に表示され、[リファレンス] というラベルが付いています。衝突する変更要求は、要求IDによってラベル付けされます。

横棒の色は、衝突の重大度を示しています。衝突の原因が複数ある場合、最も重大度の高い原因によって衝突の重大度が決まります。

アクセス方法	[モジュール]>[分析]>[変更要求]>[評価]>[衝突] タブを選択します。[衝突する変更] ウィンドウで [タイムライン]  をクリックします。
---------------	---

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します (ラベルのない要素は、山かっこ<>で囲まれています)。

UIの要素	説明
<衝突の重大度>	デフォルトでは、衝突の重大度は以下のように示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 赤 致命的 ▶ オレンジ 高い ▶ 黄 中 ▶ カーキ 低い ▶ 薄緑 極めて低い ▶ グレー 使用可能な衝突分析がない




[評価] > [リスク] タブ


このタブでは、変更要求のリスク分析を表示できます。[リスク]タブには、見込み損害と失敗確率の計算に影響するリスク因子の分布図など、選択した変更要求のリスク分析の全体的なサマリが表示されます。このリスク分布図により、選択した変更要求のリスクレベルに影響する最も重要な因子を特定できます。


リスク計算は[リスク情報]ウィンドウに表示されます。上書きルールがある場合、上書きルールの詳細が分布図とともに表示されます。

アクセス方法	[モジュール]>[分析]>[変更要求]>[評価]>[リスク]タブを選択します。
関連項目	「リスク分析」(44ページ)

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
	内訳表示. [見込み損害]ウィンドウと[失敗確率]ウィンドウにリスク計算の詳細を表示します。
	上位のビューに戻ります。
見込み損害	<p>要求された変更を実施した場合に発生し得る見込み損害をグラフ表示します。見込み損害は、0～10の範囲の重み付けされた値として計算されます。数値が大きいほど、損害の度合いが大きいことを示します。</p> <p>注：このグラフは下位ビューにも表示されます ([内訳表示]  をクリック)。</p>

UIの要素	説明
見込み損害因子の詳細	<p>各リスク因子の詳細を表形式で表示します。</p> <p>表には以下の列があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ データ。リスク因子のソースデータ。たとえば、統合サービスデスクアプリケーションのフィールドからのデータ。 ▶ 説明。HP Release Controlの構成プロセスで定義されたリスク因子の説明。 ▶ 名前。HP Release Controlの構成プロセスで定義されたリスク因子の名前。 ▶ 因子スコア。ソースデータから変換されたリスク因子のスコア。ソースデータをスコアに変換するために使用されるマッピングは、HP Release Controlの構成プロセスで定義されます。 ▶ 重み。HP Release Controlの構成プロセスでリスク因子に割り当てられた重み。 ▶ 重み付けされた値。最終的な見込み損害または失敗確率スコア内のリスク因子の重み付けされた値。重み付けされた値は以下のように計算されます。 重み付けされた値 = 重み/重みの合計 x スコア <p>ここで重みは、リスク因子に割り当てられた重み、重みの合計は、リスク因子に割り当てられたすべての重みの合計です。</p>
失敗確率	<p>変更要求の実施がある程度まで失敗し、結果的に損害が発生する確率をグラフ表示します。失敗確率は、0～10の範囲の重み付けされた値として計算されます。数値が大きいほど、失敗の確率が高いことを示します。</p> <p>注：このグラフは下位ビューにも表示されます ([内訳表示]  をクリック)。</p>

UIの要素	説明
<p>失敗確率因子の詳細</p>	<p>各リスク因子の詳細を表形式で表示します。</p> <p>表には以下の列があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ データ。 リスク因子のソースデータ。たとえば、統合サービスデスクアプリケーションのフィールドからのデータ。 ▶ 説明。 HP Release Controlの構成プロセスで定義されたリスク因子の説明。 ▶ 名前。 HP Release Controlの構成プロセスで定義されたリスク因子の名前。 ▶ 因子スコア。 ソースデータから変換されたリスク因子のスコア。ソースデータをスコアに変換するために使用されるマッピングは、HP Release Controlの構成プロセスで定義されます。 ▶ 重み。 HP Release Controlの構成プロセスでリスク因子に割り当てられた重み。 ▶ 重み付けされた値。 最終的な見込み損害または失敗確率スコア内のリスク因子の重み付けされた値。重み付けされた値は以下のように計算されます。 重み付けされた値 = 重み/重みの合計 x スコア ここで重みは、リスク因子に割り当てられた重み、重みの合計は、リスク因子に割り当てられたすべての重みの合計です。 アクセス方法： [失敗確率] ウィンドウで [内訳表示]  をクリックします。
<p>リスク情報</p>	<p>リスク計算を表示します。</p>




[評価] > [類似した変更] タブ





このタブには、[変更要求] ウィンドウまたは [アクション アイテム] ウィンドウで選択した変更要求と類似した変更の一覧が表示されます。


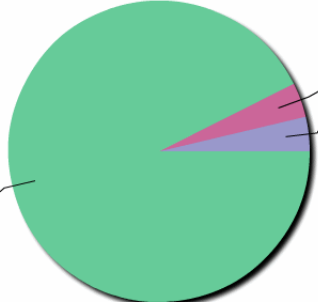




類似した変更の詳細は、「類似した変更」（53ページ）参照してください。

アクセス方法	[モジュール] > [分析] > [変更要求] または [アクション アイテム] > [評価] > [類似した変更] タブを選択します。
---------------	--

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
	類似した変更。 [変更要求] ウィンドウまたは [アクション アイテム] ウィンドウで選択した変更要求と類似した変更要求の一覧が表示されます。
	統計。 [結果] グラフと [悪影響のあるビジネス CI] グラフを表示します。グラフに表示される情報は、[類似した変更] リストに表示されているすべての要求を集計したものです。
	<p>類似性セットに変更要求を追加。 HP Release Controlでは、類似性設定ディレクトリで定義した特定の基準に従って類似した変更が計算されます。これらの基準に従って類似した変更として自動的に認識されない場合も、類似性ティーチャーの役割を持っているユーザーは [類似した変更] リストに要求を追加できます。[類似性セットに変更要求を追加] ダイアログボックスが開きます。</p> <p>注：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [類似した変更] リストに要求が追加されると、[確認済み] 列にチェックマークが表示されます。 ▶ [類似した変更] リストに要求を追加すると、HP Release Control がそれ以降の類似した変更を計算する方法に影響します。

UIの要素	説明
	<p>変更要求の類似性の確認。類似性ティーチャーの役割を持つユーザーは、要求が類似するものであることを確認できます。これによって、[類似した変更]リストに加えられたその他の変更にかかわらず、[類似した変更]リストにこの要求が常に表示されます。</p> <p>注：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 類似した変更として確認した要求の横の[確認済み]列には、チェックマークが表示されます。 ▶ 要求を類似した変更として確認すると、HP Release Controlがそれ以降の類似した変更を計算する方法に影響します。
	<p>類似性セットから変更要求を削除。HP Release Controlでは、類似性設定ディレクトリで定義した特定の基準に従って類似した変更が計算されます。これらの定義に従って類似した変更として認識された場合も、類似性ティーチャーの役割を持っているユーザーは[類似した変更]リストから要求を削除できます。</p> <p>注：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [類似した変更]リストから要求を削除すると、HP Release Controlがそれ以降の類似した変更を計算する方法に影響します。
	<p>類似した変更の詳細ウィンドウを開く。PIRが作成されている場合、ステータスが[クローズ済み]になっている類似した変更のPIR詳細を表示できます。[類似した変更の詳細]ウィンドウが開き、PIRの作成時に入力された悪影響のあるビジネスCIとレビューメモの情報が表示されます。</p> <p>PIRの作成の詳細は、「[レビュー]>[結論]タブ」(154ページ)を参照してください。</p>
	<p>類似した変更要求に移動します。[類似した変更]リストに表示されている変更要求に類似した変更要求の一覧を表示できます。</p> <p>[変更要求]の一覧表示に選択した要求が表示され、[類似した変更]リストが更新されて、新しく選択した変更要求に類似した変更の一覧が表示されます。</p>

UIの要素	説明
確認済み	<p>リストに追加されている、または類似した変更として確認されている変更要求を示します。類似した変更の詳細は、「類似した変更」(53ページ) 参照してください。</p> <p>アクセス方法: [類似した変更]  ボタンをクリックします。</p>
[悪影響のあるビジネス CI] ウィンドウ	<p>類似した変更によって影響を受けた他のビジネス CIが表示されます。</p> <div data-bbox="619 440 1258 788" style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>悪影響のあるビジネス CI</p>  <p>悪影響のあるビジネス CI は ありません 92.6%</p> <p>J2EE_WebSphere_WebCtx 3.7%</p> <p>J2EE_Weblogic 3.7%</p> </div> <p>アクセス方法: [統計]  ボタンをクリックします。</p>
終了した日時	<p>要求の終了日時を表示します。</p> <p>アクセス方法: [類似した変更]  ボタンをクリックします。</p>
インパクトの重大度	<p>要求のインパクトの重大度レベルを示します。</p> <p>アクセス方法: [類似した変更]  ボタンをクリックします。</p>
結果	<p>要求の結果を表示します。ステータスが[クローズ済み]以外の変更要求には、[未レビュー]の結果が自動的に割り当てられます。</p> <p>アクセス方法: [類似した変更]  ボタンをクリックします。</p>

UIの要素	説明										
<p>[結果] ウィンドウ</p>	<p>[類似した変更] リストのすべての要求を集計した統計結果を表示します。</p> <div data-bbox="579 314 1218 661" style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>結果</p> <table border="1" style="display: none;"> <caption>統計結果のデータ</caption> <thead> <tr> <th>結果</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>未レビュー</td> <td>88.89%</td> </tr> <tr> <td>失敗</td> <td>3.7%</td> </tr> <tr> <td>キャンセル済み</td> <td>3.7%</td> </tr> <tr> <td>成功</td> <td>3.7%</td> </tr> </tbody> </table> </div> <p>アクセス方法：[統計] ボタンをクリックします。</p>	結果	割合	未レビュー	88.89%	失敗	3.7%	キャンセル済み	3.7%	成功	3.7%
結果	割合										
未レビュー	88.89%										
失敗	3.7%										
キャンセル済み	3.7%										
成功	3.7%										
<p>要求ID</p>	<p>サービスデスクアプリケーションでの要求のリファレンスID番号を表示します。</p> <p>アクセス方法：[類似した変更] ボタンをクリックします。</p>										
<p>レビュー日</p>	<p>要求の実施前レビュー (PIR) が作成された日付を表示します。PIRの詳細は、「[レビュー]>[結論] タブ」(154ページ)を参照してください。</p> <p>アクセス方法：[類似した変更] ボタンをクリックします。</p>										
<p>リスク</p>	<p>リスクレベル(低い、中、高い)を表示します。</p> <p>アクセス方法：[類似した変更] ボタンをクリックします。</p>										
<p>開始した日時</p>	<p>要求の開始日時を表示します。</p> <p>アクセス方法：[類似した変更] ボタンをクリックします。</p>										
<p>サマリ</p>	<p>要求の簡単な概要を表示します。</p> <p>アクセス方法：[類似した変更] ボタンをクリックします。</p>										

[評価] > [期間の競合] タブ

このタブには、期間の競合が表示されます。**変更対象期間** (変更要求を実施できる期間) 外または**ブラックアウト** 期間内 (変更要求を実施できない期間) に、選択した変更要求の実施が予定されています。

期間の競合の計算方法の詳細は、「[期間] タブ」(583ページ) を参照してください。




HP Release Control 管理者が構成したカテゴリ色と期間パターンに従って、ビューのバックグラウンドで期間が表示されるように選択できます。

アクセス方法	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [モジュール]>[分析]>[変更要求]>[評価]>[期間の競合] タブを選択します。 または ▶ [モジュール]>[分析]>[変更要求]>[プレビュー]>[概要] を選択します。[分析情報] ウィンドウで [期間の競合] フィールドに表示されているカテゴリは、[期間の競合] タブへのリンクとなっています。 または ▶ [変更プランナー] ダイアログボックスで、[期間の競合] タブをクリックします。
重要な情報	選択した変更要求に計画開始日時または終了日時がない場合、ツールバーのボタンは使用できず、タイムライン内のグリッドは表示されません。
関連タスク	「期間の定義方法」(581ページ)
関連項目	「期間」(50ページ)

[競合] ウィンドウ

このウィンドウには、期間の競合の原因となっている、構成済みの変更対象期間やブラックアウト期間が表示されます。




ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します (ラベルのない要素は、山かっこ <> で囲まれています)。


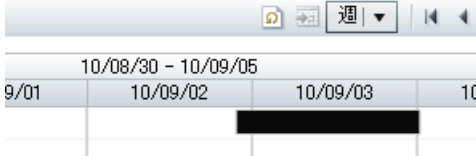
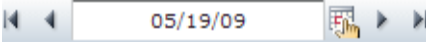

UIの要素	説明
	<p>選択した変更の計画。 [変更プランナー] ダイアログボックスを開き、変更要求の詳細を修正した場合の影響をシミュレートできます。 [変更プランナー] ダイアログボックスを使用して、期間の競合が発生しないように変更要求の計画開始日時や計画終了日時を変更してから、変更の影響をシミュレートできます。</p> <p>注: 緊急、普通、標準などの変更カテゴリーの場合、変更のスケジュールは、最初の登録および分類フェーズでは発生しません。変更の計画開始/計画終了日時が入力されるまで、[選択した変更の計画] ボタンは使用できません。</p>
	<p>ブラックアウト。 変更要求を実施できない期間を示します。</p>
	<p>変更対象期間。 変更要求を実施できる期間を示します。</p>
<p><期間の色></p>	<p>HP Release Control管理者による定義に従って、期間カテゴリーに割り当てられた色。これは、HP Release Controlが分析モジュールのカテゴリー表示で使用する色です。</p>
<p>期間</p>	<p>変更要求が競合している、HP Release Control管理者によって定義された期間カテゴリー。</p>

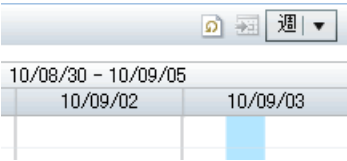
[タイムライン] ウィンドウ

このウィンドウでは、選択した変更要求の期間の競合がタイムライン上に表示されます。

以下の要素があります (ラベルのないGUI要素は、山かっこ <> で囲まれています)。

UIの要素	説明
	<p>期間の選択。 要求がカテゴリで選択されているフィルターの基準を満たしている期間カテゴリの一覧が表示されます。</p> <p>バックグラウンドで表示する構成済みの期間を選択できます。</p> <p>デフォルト： すべての期間が表示されます。</p> <p>期間の構成方法の詳細は、「期間の構成の概要」(579 ページ) を参照してください。</p>
	<p>タイムラインのリセット。 選択した変更要求の開始日時に戻ります。</p>
	<p>今日。 現在の日付を表示します。</p>
<p>日</p> <p>週</p> <p>月</p>	<p>変更要求を表示する時間枠を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 日。 選択した日付のみの変更要求を表示します。 ▶ 週。 選択した日付の週の変更要求を表示します。 ▶ 月。 選択した日付の月の変更要求を表示します。 <p>デフォルトでは、表示される時間枠は、変更要求の期間と終了日時によって決まります。</p>

UIの要素	説明
	<p>日付の選択。表示する日付を選択します。選択した日付の週がカレンダーに表示されます。</p> <p>注：HP Release Controlのカレンダーでナビゲーションできる最新の日付は、以下のうち長い方です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 現在の日付 + 60 日 デフォルト値は60で、変更可能です。期間の構成方法の詳細は、「[期間] タブ」(583ページ)を参照してください。 または ▶ 選択した変更要求の計画終了日時 + 30 日
<p><タイムライン上の 選択されている 変更要求></p>	<p>タイムライン上の選択されている変更要求は、太い黒線で表されます。</p> 
<p><選択した日付></p>	<p>選択した日付を表示します。選択した時間枠によって、選択した日付、週、月がカレンダーに表示されます。</p>  <p>[日付の選択]  ボタンを使用するか、左矢印または右矢印をクリックしてスクロールできます。</p>



UIの要素	説明
<タイムライン上の期間>	<p>タイムライン上の期間は、HP Release Control 管理者によって定義された色で表示されます。</p> 
<タイムライン>	<p>タイムライン上で選択されている変更要求の計画期間と、その期間が属する期間カテゴリを表示します。</p>

[変更プランナー] ダイアログボックス




このダイアログボックスでは、変更要求の詳細を修正した場合に発生する影響をシミュレートできます。

変更プランナーを使用して、以下の変更要求の詳細を修正した場合の影響をシミュレートします。

- ▶ 変更要求の計画開始日時および計画終了日時。
- ▶ 変更要求の結果として変更されたCI (CCI)。

<p>アクセス方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [モジュール]>[分析]>[変更要求]を選択し、[選択した変更の計画]  をクリックします。 ▶ [評価] > [期間の競合] をクリックし、[選択した変更の計画]  をクリックします。 <p>[変更プランナー] ボタンの横にあるドロップダウン矢印をクリックし、以下のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 選択した変更の計画。変更プランナーが開き、選択した変更要求の現在の詳細が表示されます。このオプションは、既存の変更要求に対する変更をシミュレートする場合に使用します。 ▶ 新規変更の計画。変更プランナーが開き、現在の変更要求のデータは表示されません。このオプションは、新規の変更をシミュレートする場合に使用します。
<p>重要な情報</p>	<p>HP Service Managerをサービスデスクとして使用している場合、更新した変更要求の計画開始日時と計画終了日時をサービスデスクに保存できます。</p>
<p>関連タスク</p>	<p>「変更プランナーによる変更の再スケジュール方法」(57ページ)</p>




ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。



UIの要素	説明
	<p>シミュレーションの実行。 変更プランナーのシミュレーションを実行します。</p> <p>注：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ シミュレーション結果は [Change Planner details(変更プランナーの詳細)] ウィンドウに表示されます。 ▶ 既存の変更を計画しており、シミュレーション結果に問題がない場合、更新した変更要求の計画開始日時と計画終了日時を作成元のサービスデスクに保存できます。 <p>保存アクションを使用できるのは、HP Service Manager をサービスデスクとして使用している場合のみです。</p>
	<p>保存。 更新した変更要求の計画日時をサービスデスクに保存します。</p> <p>注：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 新規変更をシミュレートしている場合、このオプションを利用できません。 ▶ これを使用できるのは、HP Service Manager をサービスデスクとして使用している場合のみです。 ▶ HP Release Control が Lightweight Single Sign-On (LW-SSO) と統合されている場合、HP Service Manager の資格情報の入力が必要とされます。
	<p>元の要求をオープン。 作成元のサービスデスクで変更要求を開きます。</p> <p>注：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 新規変更をシミュレートしている場合、このオプションを利用できません。 ▶ このオプションを有効にするには、「HP Service Manager/Center チケットへのリンクの作成方法」(456ページ)を参照してください。

[スケジュールリング] ウィンドウ

このウィンドウでは、変更要求のシミュレーションの計画開始日時および計画終了日時を設定できます。HP Service Managerを使用している場合、更新した日時をサービスデスクに保存できます。

ユーザーインタフェースの要素を以下に説明します。




UIの要素	説明
	<p>日時のリセット。 現在計画されている日時に戻すことができます。</p>
	<p>推奨される日時の取得。 HP Release Controlが、変更の実施が可能な次の日時を推奨するように設定します。これは、変更要求に関連付けられている変更対象期間内とブラックアウト期間外のいずれかです。</p> <p>以下の場合、HP Release Controlによる日時の推奨は行われません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 変更に関連付けられている期間がない場合 ▶ 変更がブラックアウト期間内にあり、それ以降の変更対象期間がない場合 <p>注： 変更要求の計画終了日時がサービスデスクアプリケーションの要求チケットに入力されている [要求終了日時] フィールドより後である場合、以下の警告が表示されます。</p> <p>要求された終了日時は、変更要求の計画終了日時を超過しています。</p>
	<p>前または次の推奨される日時にスクロールします。</p> <p>注： これらのボタンは、HP Release Controlに推奨される別の日時がある場合にのみ表示されます。これらが有効になるのは、推奨される日時が複数ある場合のみです。</p>
<p>受け入れ</p>	<p>HP Release Controlで推奨される日時を受け入れ、推奨される日時に従って変更プランナーのシミュレーションを実行します。</p> <p>注： HP Release Controlに推奨される別の日時がある場合にのみ表示されます。</p>



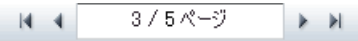
UIの要素	説明
キャンセル	<p>前の日時に戻ります。</p> <p>注： HP Release Control に推奨される別の日時がある場合にのみ表示されます。</p>
期間のロック	<p>変更の期間をロックします。たとえば、このオプションを選択して計画終了日時が4時間遅くなるように変更すると、計画開始日時は自動的に4時間遅くなるように調整され、変更の期間は変わりません。</p> <p> このオプションが選択され、変更の期間がロックされている場合に表示されます。</p> <p> このオプションが選択されておらず、変更の期間がロックされていない場合に表示されます。</p>
計画期間	変更要求の計画開始日時から計画終了日時までの期間。
計画終了日時	<p>カレンダーを使用して、変更要求の計画終了日時を設定します。</p> <p>注： 変更要求に計画終了日時がない場合、このボックスは空です。</p>
計画開始日時	<p>カレンダーを使用して、変更要求の計画開始日時を設定します。</p> <p>注： 変更要求に計画開始日時がない場合、このボックスは空です。</p>




[変更 CI] ウィンドウ

このウィンドウでは、変更要求のシミュレーションの一部として変更された CI (CCI) を選択できます。

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します (ラベルのない要素は、山かっこ <> で囲まれています)。

UIの要素	説明
	CIのリセット。 現在の変更済みの CI に戻します。
	ビジネスCI/システムCIの表示。 ビジネスCIとシステムCIの表示を切り替えます。
	CI属性。 選択したCIの属性を表示します。[CI属性] ウィンドウを開きます。 注： <ul style="list-style-type: none">▶ HP Release Controlで表示される属性をカスタマイズするには、「[CI表示] ウィンドウ」(411ページ)を参照してください。▶ 複数のCIを選択した場合やCIを選択しない場合、このボタンは無効です。

UIの要素	説明
	<p>詳細CI検索。 HP Universal CMDB内でCI Selectorを開くリンク。HP Release Controlのデータベースに存在しないCIをインポートし、HP Release Controlにインポートできます。インポートしたCIは[選択したCI]ウィンドウに表示されます。</p> <p>CI Selectorの詳細は、HP Universal CMDBのドキュメントを参照してください。</p> <p>注：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ Firefox 3.0.9では、CI Selectorを表示できません。 ▶ HP Universal CMDB 9.0を使用している場合、HP Release ControlサーバーとHP Universal CMDBサーバーが同じドメインにないと、CI Selectorは機能しません。 ▶ Lightweight Single Sign-On Authentication Support (LW-SSO)が有効になっている場合、CI Selectorを自動的に開く設定が可能です。LW-SSOが有効になっていない場合は、HP Universal CMDBのログインページが開きます。 ▶ HP Universal CMDBからHP Release ControlにインポートしたCIは、データベースには追加されません。[変更プランナー]ダイアログボックスを閉じると、[選択したCI]ウィンドウにはインポートしたCIが表示されなくなります。 ▶ このボタンは、接続しているHP Universal CMDBのバージョンがバージョン8.01以降の場合にのみ表示されます。
	<p>検索。 名前または名前の一部を検索ボックスに入力して、特定のビジネスCI/システムCIを検索します。検索結果として、入力文字列を名前に含むビジネスCIがすべて返されます。</p> <p>[検索] ボタンをクリックすると、検索が実行されます。</p>
<p><その他のページの表示></p>	<p>その他のページを表示するには、左矢印と右矢印を使用します。左矢印と右矢印の間の数値は、現在表示中のページを示します。たとえば、3/5ページは、全5ページのうち3ページ目が表示されていることを示します。</p> 

UIの要素	説明
<p>[利用できるビジネス CI]/ [利用できるシステム CI] ウィンドウ</p>	<p>シミュレーションで利用できるビジネス CI/システム CIの一覧が表示されます。</p> <p>1つまたは複数の目的の CI を選択し (CTRL キーを使用)、上の矢印  をクリックして [選択した CI] リストに移動します。シミュレーションには選択した CI のみが含まれます。</p>
<p>[選択した CI] ウィンドウ</p>	<p>シミュレーションに含まれるビジネス CI/システム CIの一覧が表示されます。</p> <p>1つまたは複数の目的の CI を選択し (CTRL キーを使用)、下の矢印  をクリックして [利用できるビジネス CI]/[利用できるシステム CI] リストに移動します。[利用できるビジネス CI]/[利用できるシステム CI] リストに移動した CI は、シミュレーションには含まれません。</p> <p>注: このウィンドウでは、それぞれの表示ラベルで CI が表示されません。複数の CI が同じ表示ラベルになっている場合、[CI 属性] ウィンドウを使用して属性の違いを確認することで区別できます。[CI 属性] ウィンドウを開くには、[CI 属性]  をクリックします。</p>

[プレビュー] タブ

このタブには、変更の現在の計画日時とシミュレートされた日時、また現在の分析結果とシミュレートされた分析結果のサマリが表示されます。

以下のポートレットが表示されます。


UIの要素	説明
[分析情報] ウィンドウ	現在の分析結果とシミュレートされた分析結果のサマリを表示します。詳細については、「[プレビュー]>[概要] タブ」(144ページ)を参照してください。
[時間ウィンドウ情報] ウィンドウ	変更の現在の計画日時とシミュレートされた日時を表示します。 計画開始日時。 変更要求の計画開始日時。 計画終了日時。 変更要求の計画終了日時。 期間。 変更要求の計画開始日時から計画終了日時までの期間。 要求終了日時。 サービスデスクアプリケーションの要求チケットに入力された、変更要求の最新の終了日時。 注： 変更要求の計画終了日時がサービスデスクアプリケーションの要求チケットに入力されている変更要求の終了日時より後である場合、以下の警告が表示されます。 要求された終了日時は、変更要求の計画終了日時を超過しています。

[インパクト] タブ

このタブには、シミュレーションのインパクト分析が表示されます。

重要な情報	このタブでの情報の表示方法は、分析モジュールの [評価]>[インパクト] タブと同様です。インパクト分析結果の表示に関する詳細は、「[評価]>[インパクト] タブ」(76 ページ) を参照してください。
--------------	---

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。


UIの要素	説明
	現在のインパクト分析やシミュレートされたインパクト分析を表示し、一覧から関連するオプションを選択できます。 注： このオプションは、既存の変更を計画している場合のみ使用します。

[衝突] タブ

このタブには、シミュレーションの衝突分析が表示されます。

重要な情報	このタブでの情報の表示方法は、分析モジュールの [評価]>[衝突] タブと同様です。衝突分析結果の表示に関する詳細は、「[評価]>[衝突] タブ」(83 ページ) を参照してください。
--------------	--

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。


UIの要素	説明
	<p>タブに表示されている情報をフィルターし、一覧から以下のいずれかのオプションを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ シミュレートされた衝突。シミュレートされた設定を適用した場合に発生するすべての衝突を表示します。 ▶ 追加の衝突。シミュレートされた設定の結果として発生する追加の衝突を表示します。これらは、現在の設定では発生しない衝突です。 ▶ 解決されていない衝突。現在の設定とシミュレートされた設定に共通する衝突を表示します。これらは、シミュレートされた設定の結果として解決されていない衝突です。 ▶ 解決された衝突。シミュレートされた設定の結果として解決された衝突を表示します。これらは、現在の設定で発生し、シミュレートされた設定では発生しない衝突です。 <p>注：このオプションは、既存の変更を計画している場合にのみ使用します。</p>

[期間の競合] タブ

このタブには、シミュレーションの期間の競合分析が表示されます。

重要な情報	このタブでの情報の表示方法は、分析モジュールの [評価]> [期間の競合] タブと同様です。期間の競合結果の表示に関する詳細は、「[評価]> [期間の競合] タブ」(97ページ) を参照してください。
--------------	--

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
	<p>タブに表示されている情報をフィルターし、一覧から以下のいずれかのオプションを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none">▶ 現在の期間の競合。現在表示されている日付のすべての期間の競合を表示します。▶ シミュレートされた期間の競合。シミュレートされた設定を適用した場合に発生するすべての期間の競合を表示します。 <p>注：このオプションは、既存の変更を計画している場合のみ使用します。</p>

[リスク] タブ

このタブには、シミュレーションのリスク分析が表示されます。

リスク因子の表の [重み付けされた値] 列に、変更のあった各リスク因子に対し、元の重み付けされた値が山かっこ <> で囲まれて表示されます。

プレビュー					
		インパクト	衝突	期間の競合	リスク
失敗確率因子の詳細					
名前	説明	データ	重み	因子スコア	重み付けされた値
Collisions-Seve	Indicates whether or not the change collic	HIGH	5	7	0.3
Planned-outage	A controlled outage is planned as part of	Yes	5	10	0.3
Past-experienc	Indicates the percentage of similar chang	0	3	0	1.1 [0.6]
Impl-experienc	Indicates the implementor's percentage of	0	3	0	0.6 [0.3]
Num-of-ccis	Number of CCIs involved in the change	5	2	5	0.3 [0.2]
Planned-duratic	Planned duration of the change (Hrs)	2	2	2	0.7 [0.4]
元重み付けされた値。					合計: 8 (8.3)

重要な情報


- ▶ このタブでの情報の表示方法は、分析モジュールの [評価]>[リスク] タブと同様です。リスク分析結果の表示に関する詳細は、「[評価]>[リスク] タブ」(90ページ) を参照してください。
- ▶ このオプションは、既存の変更を計画している場合にのみ使用します。

[変更要求]-カレンダービュー


[変更要求]-カレンダービューウィンドウには、HP Release Controlによって処理された変更要求がカレンダー形式で日付ごとに表示されます。表示される変更要求は、現在アクティブなフィルターに含まれている変更要求です。


選択した表示モードによって、変更要求をカレンダー形式または一覧形式で表示します。


- ▶ **日モードおよび週モード**。HP Release Controlで処理された変更要求を表形式とカレンダー形式の両方で表示します。
- ▶ **月モード**。各暦日の変更要求の数をリンクとして表示します。

アクセス方法	[モジュール]>[分析]> [変更要求] を選択します。[変更要求]ウィンドウで、 [カレンダー]  をクリックします。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 開始日時または終了日時のない変更要求や、開始日時が終了日時より遅くなっている変更要求は、カレンダービューでは表示されません。 ▶ デフォルトでは、カレンダーの週は月曜から始まり、日曜に終わります。 ▶ 日モードおよび週モードでの変更要求の横棒の色は、[モジュール]>[管理者]>[モジュール]>[分析]>[カレンダー]でフィールドの値にマッピングされている色を示しています。たとえば、インパクトの重大度「中」に紫をマッピングできます。これらの設定を再構成するには、「[カレンダー]ウィンドウ」(508ページ)を参照してください。

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します(ラベルのない要素は、山かっこ<>で囲まれています)。

UIの要素	説明
	以下を選択できます。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 前日/先週/先月 ▶ 現在の日付 ▶ 翌日/翌週/翌月


UIの要素	説明
<div data-bbox="354 222 486 270" style="border: 1px solid gray; background-color: #e0e0e0; text-align: center; padding: 2px;">日</div> <div data-bbox="354 270 486 319" style="border: 1px solid gray; background-color: #c0c0c0; text-align: center; padding: 2px;">週</div>	<p>▶ 日モード。選択した日付のみの変更要求を表示します。6時間の間隔に4分割されます。</p> <p>▶ 週モード。選択した日付の週の変更要求を表示します。</p> <p>日モードまたは週モードを使用している場合、[変更要求]ウィンドウにHP Release Controlで処理された変更要求が表形式とカレンダー形式で表示されます。</p> <p>表やカレンダーのサイズを拡大または縮小するには、縦の分割線をクリックして左右にドラッグします。</p> <p>注：左側の表の列は、[変更要求]の一覧表示に表示される列と同じです。詳細については、「[変更要求]-一覧表示」（118ページ）を参照してください。要求の表示順序は変更できません。</p> <p>各列はカレンダーの日付、横棒は変更要求に対応します。データはタイムライン上の時間ブロックで表示されます。各エントリはそれぞれ別の行に表示されます。この表示はガントチャートと同様に、時間ベースの概要を示します。</p> <p>さまざまな項目にマウスポインターを置くと、その項目に関する詳細情報を含むヒントが表示されます。行エントリをクリックすると、[プレビュー]ウィンドウ、[評価]ウィンドウ、[コラボレーション]ウィンドウ、[レビュー]ウィンドウに詳細と分析情報が表示されます。</p> <p>構成済みの期間をカレンダービューで表示するように選択することができます。[期間の選択]  ボタンをクリックして、表示する期間カテゴリを選択してください。アイコンの上にマウスポインターを置くと、期間が属するカテゴリと期間の開始日時および終了日時がヒントに表示されます。</p>

UIの要素	説明
	<p>月モード。 選択した日付の月の変更要求を表示します。</p> <p>月モードを使用している場合、[変更要求] ウィンドウには変更要求がカレンダー形式でのみ表示され、[変更要求] ウィンドウの下の<[変更要求サマリ チャート] ウィンドウ>に集計データがグラフ形式で表示されます。詳細については、「<[変更要求サマリ チャート] ウィンドウ>」(117ページ)を参照してください。</p> <p>変更要求は、リンク形式で表示されます。リンクをクリックすると、HP Release Controlが自動的に日モードに切り替えられ、変更要求が表形式で表示されます。</p>
<p><[変更要求サマリ チャート] ウィンドウ></p>	<p>現在アクティブなフィルターに含まれている変更要求の特定のフィールドのデータを表すグラフを表示します。詳細については、「<[変更要求サマリ チャート] ウィンドウ>」(117ページ)を参照してください。</p>
<p><日付セレクター></p>	<p>表示する変更要求を選択できます。</p> <p>注：日モードまたは週モードを使用している場合、SHIFT キーを使用して前後の日付を追加して選択できます。</p>
<p><ツールバー></p>	<p>詳細については、「[変更要求] ツールバーのオプション」(122ページ)を参照してください。</p>
<p>[フィルター] ウィンドウ</p>	<p>[変更要求] ウィンドウに表示される変更要求をフィルターできます。詳細については、「[フィルター] ウィンドウ」(183ページ)を参照してください。</p> <p>注：デフォルトでは、システム内のすべての変更要求がHP Release Controlで表示されます。フィルターを使用すると、さまざまなビューのすべてで変更要求がフィルターされます。</p>




<[変更要求サマリ チャート] ウィンドウ>

このウィンドウには、現在アクティブなフィルターに含まれている変更要求の特定のフィールドのデータを表すグラフが表示されます。棒グラフまたは円グラフでの表示が可能です。

注：このウィンドウが表示されるのは、**月**モードのみです。

アクセス方法	[モジュール]>[分析]>[変更要求]を選択します。[変更要求] ウィンドウで、[カレンダー]  をクリックします。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ グラフは、データグループの値が 1 つの数字のみを表しているフィールドをサポートしています。たとえば、優先度 [低い] には値1が、[普通] には値2が、[高い] には値3が与えられている場合、グラフで優先度レベルを表示できます。 値が数字グループを表しているフィールドは、グラフではサポートされません。たとえば、値mm/dd/yyを持つ日時フィールドです。 ▶ 月のカレンダービューでデータを表示するフィールドを定義したり、データを表示するデフォルトのグラフ形式を決定したりすることができます。詳細については、「[グラフ] ウィンドウ」(510 ページ) を参照してください。 デフォルトでは、3つのフィールドが構成されています。フィールドを定義しない場合、カレンダービューでグラフは表示されません。 ▶ 値が8個より多い場合、該当する棒グラフウィンドウの上部に (上位8) と表示されます。 ▶ グラフでのフィールドの表示色は、[Calendar mapping(カレンダーマッピング)] ウィンドウで指定します。このウィンドウでは、カラーマッピングスキーマを、既存のフィールド値に関連付けることができます。色を定義しない場合、[デフォルトの色] ボックスで定義されている色でフィールドは表示されます。詳細については、「[カレンダー] ウィンドウ」(508ページ) を参照してください。

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
	<p>棒グラフ。フィールドデータを棒グラフ形式で表示します。</p> <p>フィールドごとに上位8位までの値を表示します。左から高い順に示されます。同じ値は、アルファベット順になります。</p> <p>各棒の上にマウスポインターを置くと、値の名前を示すヒントが表示されます。</p>
	<p>円グラフ。フィールドデータを円グラフ形式で表示します。</p> <p>フィールドごとに上位8位までの値を表示します。各区分の上にマウスポインターを置くと、変更の数、そのスライスが表す値、全体に対する割合を示すヒントが表示されます。値が8個より多い場合、[その他]という別の区分が作成され、ここに他のすべての値がまとめて表されます。</p>
	<p>凡例。各フィールド値の完全な名前を示します。</p> <p>注：凡例は画面の任意の位置にドラッグできます。</p>


[変更要求] - 一覧表示

一覧表示では、HP Release Controlによって処理された変更要求がソート可能な表の形式で表示されます。列の見出しをクリックすると、その列で要求の表示順序をソートできます。







一覧表示では、デフォルトで、インパクトの重大度に従って降順で変更が表示されます。カレンダービューの**日**モードおよび**週**モードでは、スケジュールされた開始日時に従って昇順で変更が表示されます。



一覧で変更要求を選択すると、選択した変更要求の詳細と分析情報が[プレビュー]ウィンドウ、[評価]ウィンドウ、[コラボレーション]ウィンドウ、[レビュー]ウィンドウに表示されます。

選択した各変更要求に関連するタスクを表示するには、「[プレビュー]>[関連レコード]タブ」(148ページ)を使用します。

アクセス方法	[モジュール]>[分析]>[変更要求]を選択し、[一覧]  をクリックします。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 変更要求モードで表示される変更要求をフィルターできます。詳細については、「変更要求および作業のフィルター」(161ページ)を参照してください。 デフォルトでは、システム内のすべての変更要求がHP Release Controlで表示されます。フィルターを使用する場合、選択したフィルターの条件を満たす変更要求のみが表示されます。 ▶ 一覧表示をカスタマイズして、異なる情報を表示することができます。一覧表示の列のカスタマイズに関する詳細は、「[<下のウィンドウ>-一覧]タブ」(366ページ)を参照してください。

管理者がその他のカスタマイズを行っていない場合、以下の要素が表示されます。

UIの要素	説明
異常。	<p> アイコンは、変更要求が変更対象期間 (変更要求を実施できる期間) 外またはブラックアウト期間 (変更要求を実施できない期間) 内に実施されたことを示します。</p>
衝突の重大度	<p>変更要求の衝突の重大度レベルを示すアイコンを表示します。変更要求がその他の複数の変更要求と衝突する場合、最悪の衝突の重大度レベルが表示されます。</p> <p>デフォルトでは、以下の色分けされたアイコン (記号を含む) で重大度レベルが示されます。</p> <ul style="list-style-type: none">  致命的  高い  中  低い  極めて低い <p>変更要求との衝突がない場合、衝突の重大度アイコンは表示されません。</p> <p>衝突の重大度アイコンの上にマウスポインターを置くと、衝突の重大度レベルを示すヒントが表示されます。</p> <p>衝突および衝突の重大度の計算方法の詳細は、「変更要求の衝突」(52ページ) を参照してください。</p>
連絡先窓口	<p>変更要求を担当するユーザーの名前を表示します。</p>

UIの要素	説明
インパクトの重大度	<p>変更要求のインパクトの重大度レベルを示すアイコンを表示します。変更要求の重大度レベルは、その要求によって影響を受けるビジネスCIの重大度レベルのうち最も高いものによって決まります。</p> <p>デフォルトでは、以下の色分けされたアイコン（記号を含む）でインパクトの重大度レベルが示されます。</p> <ul style="list-style-type: none">  致命的  高い  中  低い  極めて低い  使用可能なインパクト分析がない <p>重大度レベルのアイコンの上にマウスポインターを置くと、変更要求のインパクトの重大度レベルを示すヒントが表示されます。</p> <p>インパクト分析およびインパクトの重大度の計算方法の詳細は、「インパクト分析」（44ページ）を参照してください。</p>
Priority	<p>変更要求のHP Release Controlでの優先度レベルを表示します。HP Release Controlを構成するとき、変更要求に割り当てることができる優先度レベルを構成します。</p>
要求ID	<p>サービスデスクアプリケーションでの変更要求のリファレンスID番号を表示します。</p>
リスク	<p>リスクレベル（低い、中、高い）を表示します。これらのレベルは、さまざまな数値によるリスクレベルに対応するように手動で構成できます。</p> <p>この数値は、HP Release Control管理者が構成プロセスで客観的に重み付けをしたリスク因子に基づいてHP Release Controlによって計算されます。リスクレベルの計算方法の詳細は、「リスク分析」（44ページ）を参照してください。</p>








UIの要素	説明
開始日時	変更要求の開始がスケジュールされている日を表示します。
Status	変更要求のHP Release Controlでのステータスを表示します。 HP Release Controlを構成するとき、変更要求に割り当てることができるステータスを構成します。
サマリ	変更要求の簡単な説明を表示します。
ユーザーディスカッションスレッドと投稿	ユーザーディスカッションスレッドと投稿のアイコン表示は、選択した変更要求に対して、ユーザースレッドとそれらのスレッドへのコメントが存在することを示します。このアイコン上にマウスポインターを置くと、存在するユーザースレッドとコメントの数を示すヒントが表示されます。 [コラボレーション]タブの[ディスカッション]で、ディスカッションスレッドを表示できます。詳細については、「[コラボレーション]>[ディスカッション]タブ」(127ページ)を参照してください。



[変更要求] ツールバーのオプション




ここでは、[変更要求] ウィンドウのツールバーオプションについて説明します。


アクセス方法	[モジュール]>[分析]>[変更要求]を選択します。
関連項目	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「[変更要求]-一覧表示」(118ページ) ▶ 「[変更要求]-カレンダービュー」(114ページ)

以下の表では、[変更要求 - 一覧表示]の各ツールバーオプションについて説明します。

UIの要素	説明
	一覧。 変更要求を一覧形式で表示します。[変更要求]の一覧表示を開きます。
	カレンダー。 変更要求をカレンダー形式で表示します。[変更要求]のカレンダービューを開きます。
	<p>選択した変更の計画。変更要求の詳細を修正した場合の影響をシミュレートし、これらの変更が分析データに及ぼす影響を表示できます。</p> <p>ドロップダウン矢印をクリックし、以下のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 選択した変更の計画。 ▶ 新規変更の計画。 <p>変更プランナーを開きます。</p>
	新規ディスカッションスレッド。 [コラボレーション]>[ディスカッション]タブの[投票]ウィンドウで、ディスカッションに新規スレッドを追加できます。「[新規ディスカッションスレッド]ダイアログボックス」(138ページ)が開きます。
	新規アクションアイテム。 要求に関連付けられているアクションアイテムを作成するために使用します。「[アクションアイテムの追加][アクションアイテムの編集]ダイアログボックス」(73ページ)が開きます。
	手動変更プロセスの起動。 選択した変更要求または選択したフィルター内のすべての変更要求の再計算プロセスを手動で再実行できます。「[手動変更プロセスの起動]ダイアログボックス」(136ページ)が開きます。
	レポートの生成。 PDF、HTML、Excelでレポートを生成します。「[レポートの詳細]ダイアログボックス」(150ページ)が開きます。

UIの要素	説明
	<p>変更データの送信。ディスカッションスレッドを電子メールで送信します。</p> <p>ドロップダウン矢印をクリックし、以下のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 変更データの送信。選択した変更要求のみを含む電子メールを送信します。 ▶ 変更データとログの送信。選択した変更要求と関連付けられているイベントログ情報含む電子メールを送信します。 ▶ CAB招待の送信。CAB会議への招待を送信します。 ▶ CAB議事録の送信。選択した変更のCAB議事録を送信します。 ▶ PIR招待の送信。PIR会議への招待を送信します。 ▶ PIR議事録の送信。選択した変更のPIR議事録を送信します。
	<p>お気に入りに選択した要求を追加/お気に入りから選択した要求を削除。選択した変更要求をお気に入りフィルターに追加するか削除するかを切り替えます。詳細については、「変更要求および作業のフィルター」(161ページ)を参照してください。</p> <p>ドロップダウン矢印をクリックし、以下のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ お気に入りから削除。選択した変更要求をお気に入りフィルターから削除します。 ▶ お気に入りフィルターのすべてのAIを削除。お気に入りフィルターのすべての変更要求を削除します。 <p>注:通知登録では、お気に入りの変更要求に変更が行われた時点で、特定の電子メール通知を受信する設定も可能です。詳細については、「[ユーザーワークスペース]ウィンドウ」(34ページ)を参照してください。</p>

UIの要素	説明
	<p>選択した要求を通知登録/選択した要求を通知登録解除。 選択した変更要求の電子メール通知を受信するか、通知登録をキャンセルできます。通知を構成する方法の詳細と、HP Release Controlがftlファイルで送信する電子メールの形式については、「[通知] ウィンドウ」(511 ページ) を参照してください。</p> <p>注： 変更要求に対する修正の種類によっては、通知が送信されない場合があります。HP Release Controlは、次のいずれかのイベントが発生した場合にのみ、通知登録したユーザーに電子メール通知を送信します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 投稿の追加。新しいディスカッション投稿が変更要求に追加されました。 ▶ アクション アイテムの追加。新しいアクション アイテムが変更要求に追加されました。 ▶ 承認。変更要求が承認されました。 ▶ 撤回。変更要求が撤回されました。
	<p>期間の選択。 構成済みの期間をカレンダービューのバックグラウンドに表示するように選択します。</p> <p>期間の構成方法の詳細は、「期間の構成の概要」(579 ページ) を参照してください。</p> <p>注： カレンダービューでのみ有効にできます。</p>
	<p>更新。[変更要求] ウィンドウに表示される変更要求または[アクションアイテム一覧] ウィンドウに表示されるアクションアイテムを更新します。</p>

UIの要素	説明
	<p>要求IDの検索/アクションアイテムIDの検索。 目的の変更要求またはアクションアイテムを検索します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [変更要求] ウィンドウの [変更要求の検索] ボックスに要求IDを入力し、変更要求一覧で目的の変更要求を検索します。 ▶ [アクションアイテム] ウィンドウの [アクションアイテムの検索] ボックスにアクションアイテムIDを入力し、変更要求一覧で目的のアクションアイテムを検索します。
合計	<p>定義した一連の基準を満たす変更要求の数。</p> <p>注：月モードでは、合計数はその月の実際の変更数を表します。</p>

[コラボレーション]>[アクション アイテム] タブ

このタブでは、変更要求のアクションアイテムを表示できます。


- ▶ 変更要求モードを使用している場合、変更要求に関連付けられているアクションアイテムを表示し、アクションアイテムモードの[アクション アイテム] ウィンドウと同様にそれらのアクションアイテムを使用できます。
- ▶ アクションアイテムモードを使用している場合、選択したアクションアイテムと同じ変更要求と関連付けられているすべてのアクションアイテムを表示できます。

アクセス方法	[モジュール]>[分析]>[変更要求] または [アクション アイテム]>[コラボレーション]>[アクション アイテム] タブを選択します。
関連項目	「アクションアイテム」(42ページ)

[アクションアイテム] ウィンドウ

このウィンドウには、変更要求と関連付けられているアクションアイテムが表示されます。このウィンドウの詳細は、「[アクションアイテム] ウィンドウ」(66ページ)を参照してください。

ユーザーインタフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
 移動	[アクション アイテム] ウィンドウにアクションアイテムを表示します。

[アクションアイテムの記入] ウィンドウ

一覧から選択した各アクションアイテムの情報を表示します。このウィンドウの詳細は、「[アクションアイテム] ウィンドウ」(66ページ)を参照してください。

[コラボレーション]>[ディスカッション] タブ






このタブには、ディスカッションスレッドとコメントのほか、選択した、または関連付けられている変更要求に関する投票のサマリが表示されます。このタブでは、CAB会議で実際に話し合う前に、変更要求についてオンラインディスカッションを実施できます。その結果、CAB会議を先の段階から始めることができ、ユーザーの応答から変更要求を承認すべきかどうかが明らかな場合は会議が不要になることがあります。

アクセス方法	[モジュール]>[分析]>[変更要求]>[コラボレーション]>[ディスカッション]を選択します。
--------	--

[コメント] ウィンドウ

このウィンドウには、変更要求に関するすべてのディスカッションスレッドが表示されます。各スレッドの見出しには、ディスカッションを開始したユーザーの名前、ディスカッション開始者が投稿した投票を表すアイコン、最初のコメントの日時、件名、テキスト、そのスレッドで他のユーザーが投稿したコメントが含まれます。



ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
	<p>すべてのコメントの展開。ディスカッションスレッドに含まれるすべてのコメントを展開します。</p>
	<p>すべてのコメントの折りたたみ。ディスカッションスレッドに含まれるすべてのコメントを折りたたみます。</p>
	<p>古い順/新しい順。コメントをソートし、最も古いコメントまたは最も新しいコメントを最初に表示します。</p>
	<p>新規ディスカッションスレッド。変更要求にスレッドを追加します。「[新規ディスカッション スレッド] ダイアログボックス」(138ページ)が開きます。</p>
	<p>電子メールの送信。1つまたは複数のディスカッションスレッドを電子メールで送信します。[電子メールの送信] ダイアログボックスを開きます。</p> <p>電子メールの各宛先の電子メールアドレスと、変更要求に関する追加のコメントを入力します。</p>

[投票] ウィンドウ

このウィンドウには、変更要求についてディスカッション開始者が投稿した最新の投票のサマリが表示されます。

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
<p><[投票のサマリ] ツリー ></p>	<p>変更要求についてディスカッション開始者が投稿した最新の投票が表示されます。使用できる各投票オプション ([反対]、[賛成]、[要CAB裁定]、[投票なし]) と、そのオプションに投票したユーザー数が丸かっこで表示されます</p> <p>注：ユーザーの最新の投票のみが考慮されます。</p> <p>各投票オプションの下に、そのオプションに投票したユーザー (ディスカッション開始者) の一覧が表示されます。各投票オプションの横になる矢印をクリックすると、その下のユーザー一覧を展開または折りたたむことができます。</p> <p>ユーザーを選択すると、そのユーザーによって開始されたすべてのディスカッションスレッドが [コメント] ウィンドウに表示されます。[コメント] ウィンドウですべてのユーザーによって開始されたディスカッションスレッドを表示するには、[すべて] をクリックします。ディスカッションスレッドを時系列でソートするには、[古い順/新しい順]   ボタンをクリックします。</p> <p>注：ユーザーは各変更要求に対して複数のディスカッションスレッドを開始できます。すべてのディスカッションスレッドとともに、ユーザーの最新の投票が表示されます。</p>

[コラボレーション]>[決議] タブ

このタブでは、変更要求の承認、承認の撤回、承認履歴およびステータスの表示、CAB 議事録の作成、実施前および実施後のガイドラインの作成を行います。

アクセス方法	[モジュール]>[分析]>[変更要求]>[コラボレーション]>[決議] タブを選択します。
--------	--

[決議] ウィンドウ

このウィンドウは、以下のサービスデスクを使用している場合にのみ使用します。

- ▶ HP Service Manager/Center
 - ▶ HP Project and Portfolio Management / IT Governance Center
-


このウィンドウでは、変更要求の承認、承認の撤回、承認履歴およびステータスの表示を行います。


承認、撤回、拒否の各オプションは要求のステータスによって決まり、**approveChange** 権限を持っているユーザーのみ使用できます。HP Release Control で変更要求を承認、撤回、または拒否すると、サービスデスクアプリケーションで要求のステータスが更新されます。HP Service Manager を使用している場合、更新されたステータスとともに承認コメントもエクスポートされます。

この機能により、サービスデスクアプリケーションから各要求に直接アクセスすることなく、HP Release Controlから要求承認プロセスを管理できます。

<p>重要な情報</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 変更要求を承認すると、HP Release Controlによってユーザー名とパスワードが正しいか、また変更要求の承認が現在許可されているかどうかチェックされます。ユーザー名とパスワードが正しく、要求の承認/撤回が許可されている場合、HP Release Controlで要求が承認され、[コラボレーション]タブに承認の詳細が表示されます。 <p>提供した認証データが不正確な場合、または現在変更要求の承認を許可されていない場合、HP Release Controlは詳細なエラーメッセージを発行します。要求のサービスデスクアプリケーションのバージョンがHP Release Controlのバージョンより新しい場合、変更要求の承認を強制するかどうかをたずねるメッセージが表示されます。承認を強制するには、チェックボックスをオンにして、[承認]をクリックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 管理者は、[承認] ボタンが有効になるステータスを定義できます。詳細については、「要求承認のためのHP Release Controlの構成方法」(447ページ)を参照してください。
---------------------	---

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
	<p>承認ログ。 選択した変更に対してHP Release Controlで行われた承認および撤回の履歴を表示します。変更要求を承認または承認を撤回したユーザーとともに、投稿されたコメントが表示されます。</p>

UIの要素	説明
	<p>承認ステータス。 選択した変更の承認ステータスが表示されます。</p> <p>[決議] ウィンドウは3つの承認カテゴリに分かれています。各カテゴリに関連するユーザーグループ (Adminなど) が表示されます。</p> <p>以下の3つの承認カテゴリがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 完了した承認。 変更をすでに承認したユーザーグループが表示されます。 ▶ 承認待ち。 未処理の承認があるユーザーグループが表示されます。 ▶ 今後の承認。 別のユーザーグループが承認した後のみ、変更を承認できるユーザーグループが表示されます。変更の承認を最初に行う必要のあるユーザーグループは、[承認待ち] カテゴリに表示されます。


UIの要素	説明
  	<p>承認。変更要求を承認します。[変更要求の承認]ダイアログボックスを開きます。</p> <p>撤回。選択した変更要求に対して行った承認を撤回できます。[変更要求の撤回]ダイアログボックスが開きます。</p> <p>拒否。変更要求を拒否します。[変更要求の拒否]ダイアログボックスが開きます。</p> <p>変更要求の承認、撤回、または拒否の詳細は、「[変更要求の承認]/[変更承認の撤回]ダイアログボックス」(75ページ)を参照してください。</p> <p>[変更要求]ウィンドウまたは[アクションアイテム]ウィンドウで関連する変更要求またはアクションアイテムを選択し、[コラボレーション]>[決議]タブを選択すると、[承認]ボタン、[撤回]ボタン、および[拒否]ボタンのヒントとして[ステータスを確認しています...]というメッセージが表示され、HP Release Controlによって以下のチェックが実行されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ approveChange 権限を持ち、変更要求の承認が許可されているユーザーかどうか ▶ 選択した変更要求を現在承認できるかどうか <p>前記のすべての基準が満たされている場合、[承認]ボタンが有効になります。変更要求がサービスデスクアプリケーションで許可されていない場合、[承認]ボタン、[撤回]ボタン、および[拒否]ボタンのヒントとして[操作はサポートされていません]というステータスメッセージが表示されます。</p> <p>変更要求が承認されたばかりで、HP Release Controlでステータスが更新されていない場合、[承認]ボタンのヒントとして[承認済み]ステータスメッセージが表示されます。</p> <p>HP Release Controlの確認プロセスでエラーが発生した場合、[承認]ボタン、[撤回]ボタン、および[拒否]ボタンのヒントとしてエラーメッセージが表示されます。</p>

[CAB 決定事項] ウィンドウ

このウィンドウでは、承認/撤回/拒否プロセスについてさまざまなタイプのメモを投稿できます。

重要な情報	この手順を実行するには、 変更マネージャー の役割を持つユーザーである必要があります。
--------------	--

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。


UIの要素	説明
	<p>決定事項の追加。承認/撤回/拒否プロセスについてさまざまなタイプのメモを投稿します。投稿するメモのタイプを選択できるダイアログボックスが開きます。</p> <ul style="list-style-type: none">▶ CAB議事録。関連するCAB会議の詳細です。▶ 実施前ガイドライン。変更要求を実施する前に従うべきガイドラインです。これらのガイドラインは、変更要求をスケジュールする前に、ディレクターモジュールの [アラート] ウィンドウに表示されます。▶ 実施後ガイドライン。変更を実施した後のフォローアップ手順です。これらのガイドラインは、変更要求をスケジュールした後に、ディレクターモジュールの [アラート] ウィンドウに表示されます。 <p>表示されるダイアログボックスに、メモの件名と内容を入力します。[CAB 決定事項] ウィンドウにメモが表示されます。</p>

[インパクト グラフ] ウィンドウ






このウィンドウでは、選択した変更要求のインパクトの関係が視覚的に表現されます。

個々のCIをドラッグアンドドロップすることで、表示を操作できます。線、矢印、関係には影響しません。

[インパクト グラフ] ウィンドウでCIまたはCIグループを選択すると、個々のCIまたはCIグループのインパクトグラフを表示できます。

アクセス方法	[モジュール]>[分析]>[変更要求]>[評価]>[インパクト] タブを選択し、[グラフ ウィンドウを開く]  をクリックします。
--------	---

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
	ルートノード。 個々のCIまたはCIグループのインパクトグラフが現在表示されている場合、[インパクト グラフ] ウィンドウを元の表示に戻します。
	同心円レイアウト。 CIを同心円レイアウトで再編成します。
	階層レイアウト。 CIを階層レイアウトで再編成します。
	上位中心円レイアウト。 CIを上位中心円レイアウトで再編成します。
	ばね式レイアウト。 CIをばね式レイアウトで再編成します。
	拡大。 拡大または縮小で倍率を変更できます。
インパクトを受けるすべてのCIの影響	インパクトの関係をグラフ形式で視覚的に表現します。 CIは、インパクトの方向を示す矢印の付いた線でつながっています。たとえば、 host11 というCIの矢印は serverB を指しています。これは、 host11 が serverB に影響することを意味します。 インパクトの関係を变えずに、インパクトグラフのレイアウトをカスタマイズしてCIを再編成することができます。
インパクトを受けるCI	影響を受けるCIと変更されるCI (ACIとCCI) を表示します。


[手動変更プロセスの起動] ダイアログボックス

このダイアログボックスでは、選択した変更要求または選択したフィルター内のすべての変更要求の計算プロセスを手動で再実行します。

注意：多数の変更に対して手動変更プロセスを実行すると、システムのパフォーマンスに影響することがあります。


計算プロセスを手動で再実行する必要があるのは、以下の状況です。

- ▶ HP Universal CMDBに変更がある場合。たとえば、CIの変更が発生したときです。
- ▶ 構成に変更がある場合。たとえば、変更されるCIのため、2つの変更要求に少なくとも共通のCIが1つ関与しており、変更要求の衝突が生じたときです。
- ▶ リスク因子の構成に変更がある場合。

アクセス方法	[モジュール]>[分析]>[変更要求]を選択します。[変更要求]ウィンドウで、[手動変更プロセスの起動]  をクリックします。
重要な情報	潜在変更を含むフィルターを使用している場合や、潜在変更に対しては、手動変更プロセスを実行することはできません。

[新規プロセスの起動] ウィンドウ

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
現在のフィルター	選択したフィルターのすべての変更要求を再計算します。下矢印  をクリックし、目的のフィルターを選択します。
説明	再計算プロセスを説明するフリーテキストを入力できます。
実行	再計算プロセスを実行します。
選択した変更要求	選択した変更要求を再計算します。

[変更要求の計算] ウィンドウ

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。



UIの要素	説明
中止	手動再計算を終了するには、目的の再計算プロセスの左側にあるチェックボックスを選択し、 [中止] をクリックします。 注： 自分の再計算プロセスはいつでも中止できます。他のユーザーのプロセスを中止するには、 abortAnyManualChangeProcess 権限が必要です。
一覧から完了した項目を自動的に削除	プロセスが完了した後、ウィンドウから再計算プロセスを自動的に削除するために選択します。
計算ステータス	[実行] ボタンをクリックして手動再計算を起動すると、まだ再計算されていない変更要求の数が進行状況バーに表示されます。
説明	[新規プロセスの起動] ウィンドウの [説明] ボックスで説明した再計算プロセスの名前。

UIの要素	説明
すべてのユーザーのプロセスを表示	すべてのユーザーによって起動された手動再計算プロセスを表示するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにしないと、自分が起動したプロセスのみが表示されます。
開始日時	再計算プロセスが実行された日時。
ユーザー	手動再計算プロセスを起動したユーザー。

[新規ディスカッションスレッド] ダイアログボックス

このダイアログボックスでは、変更要求にディスカッションスレッドを追加できます。ディスカッションスレッドの中では、目的の投票オプションを選択して自分の意見を表明できます。

各変更要求に対して複数のディスカッションスレッドを追加できます。[コラボレーション]>[ディスカッション]タブには、すべてのディスカッションスレッドとともに、ユーザーの最新の投票が表示されます。

アクセス方法	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [モジュール]>[分析]>[変更要求]を選択します。[変更要求]ウィンドウのツールバーで、[新規ディスカッションスレッド]  をクリックします。 ▶ [モジュール]>[分析]>[変更要求]>[コラボレーション]>[ディスカッション]タブを選択します。ツールバーで、[新規ディスカッションスレッド]  をクリックします。
関連項目	「[コラボレーション]>[ディスカッション]タブ」(127ページ)

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します(ラベルのない要素は、山かっこ<>で囲まれています)。


UIの要素	説明
<メッセージボックス>	(オプション) 目的のメッセージを入力します。

UIの要素	説明
件名	目的の件名を入力します。
投票	<p>以下のいずれかの投票オプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 反対 ▶ 要CAB裁定 ▶ 賛成 ▶ 投票なし <p>この変更要求について以前に投票した場合、ダイアログボックスの右側の [現在の投票] に最新の投票が表示されます。</p>

[実施後レビュー] ダイアログボックス

このダイアログボックスでは、変更要求の実施後レビュー (PIR) を作成/編集できます。

PIR を変更要求に追加すると、[レビュー]>[結論] タブの [結論情報] ウィンドウに送信済みのすべてのPIR情報が表示されます。

アクセス方法	[モジュール]>[分析]>[変更要求]>[レビュー]>[結論] タブを選択し、[結論情報] ウィンドウで [レビュー]  をクリックします。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ デフォルトでは、HP Release Control で PIR を作成できるのは、[評価と終了] ステータスの変更要求に対してのみです。 ▶ HP Service Manager を使用している場合、HP Release Control によって PIR 情報が直接更新されます。
関連項目	「[レビュー]>[結論] タブ」(154 ページ)

[詳細] タブ

このタブでは、選択した変更要求のPIRを作成/編集します。

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。





UIの要素	説明
変更結果	変更要求の結果をドロップダウンリストから選択します。
顧客の満足度	顧客とは、サービスデスクアプリケーションで要求チケットをオープンしたユーザーです。要求の全体的な顧客満足度レベルをドロップダウンリストから選択します。
計画満足度	要求の全体的な計画満足度レベルをドロップダウンリストから選択します。
レビューコメント	関連するコメントを追加します。
レビュー日	カレンダーを使用して、レビューの作成日時を設定します。最初のPIR作成日時はシステムに保存されます。PIRを編集する場合、これは変更しないことをお勧めします。
サービスデスク認証	HP Service Managerを使用している場合、PIR情報を直接更新するためのユーザー名とパスワードを入力します。他のサービスデスクアプリケーションを使用している場合、このフィールドは表示されません。



[悪影響のあるビジネス CI] タブ

このタブには、PIRに含まれているビジネスCIが表示されます。

PIRに含まれているビジネスCIは、[レビュー]>[結論]タブの[悪影響のあるビジネスCI]ウィンドウに表示されます。

以下の要素があります (ラベルのない要素は、山かっこ <> で囲まれています)。

UIの要素	説明
	<p>インパクトを受けるビジネスCIのみを表示/すべてのビジネスCIを表示</p> <p>以下の表示を切り替えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 現在の要求によってインパクトを受けるすべてのビジネス CI の一覧 ([インパクトを受けるビジネス CIのみを表示])。 ▶ HP Release Controlによって認識されている、HP Universal CMDBの関連するすべてのビジネスCIの一覧 ([すべてのCIを表示])。
	<p>廃止CIの表示。 廃止するビジネスCIを表示します。</p>
	<p>検索。[利用できるビジネス CI] リストで特定のビジネスCIを検索するには、名前または名前の一部を検索ボックスに入力します。検索結果として、入力文字列を名前に含むビジネス CIがすべて返されます。</p> <p>[検索] ボタンをクリックすると、検索が実行されます。</p>
<p><その他のページの表示></p>	<p>その他のページを表示するには、左矢印と右矢印を使用します。左矢印と右矢印の間の数値は、現在表示中のページを示します。たとえば、3 / 5 ページは、全5ページのうち3ページ目が表示されていることを示します。</p> <div data-bbox="615 973 968 1013" style="border: 1px solid gray; padding: 2px; text-align: center;">  </div>

UIの要素	説明
利用できるビジネスCI	<p>利用できるビジネスCIのうち、HP Release Controlによって認識されているHP Universal CMDBの現在の要求またはビジネスCIによってインパクトを受けるものの一覧が表示されます。</p> <p>PIRに1つまたは複数のビジネスCIを含めるには、目的のCIを選択し (CTRLキーを使用)、 上の矢印をクリックして [悪影響のあるビジネスCI] リストに移動します。</p>
悪影響のあるビジネスCI	<p>PIRに含まれるビジネスCIの一覧が表示されます。</p> <p>PIRから1つまたは複数のビジネスCIを削除するには、目的のCIを選択し (CTRLキーを使用)、 下の矢印をクリックして [利用できるビジネスCI] リストに移動します。</p>

[プレビュー] > [詳細] タブ

このタブには、サービスデスクアプリケーションから取得した変更要求の詳細と、HP Release Controlで処理されたいくつかの重要な分析データが表示されます。

アクセス方法	[モジュール] > [分析] > [変更要求] > [プレビュー] > [詳細] タブを選択します。
重要な情報	[プレビュー] > [詳細] タブのカスタマイズの詳細は、[モジュール] > [管理者] > [構成] > [統合] > [フィールド] > <下のウィンドウ> - [詳細] タブを選択します。詳細については、「<下のウィンドウ> - 詳細」タブ (367ページ) を参照してください。

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
実際の終了日時	変更要求の実行が実際に終了した日時。
実際の開始日時	変更要求の実行が実際に開始した日時。
カテゴリ	変更要求のタイプを説明するカテゴリ。
連絡先窓口	変更要求を担当するユーザーの名前。
連絡先の場所	変更要求を担当するユーザーの地理的な場所。
作成日時	変更要求がサービスデスクアプリケーションで最初に作成された日時。
緊急	変更要求が緊急変更手順に従って処理されていることを示します。
見積もりリスク	ユーザーが変更要求に割り当てた見積もりリスクのレベル。
インパクトの重大度	HP Release Controlで計算された、変更要求のインパクトの重大度レベル。インパクトの重大度の詳細は、「インパクト分析」(44ページ)を参照してください。
実施担当者	変更要求の実施を担当するユーザー。
開始実行者	要求の開始者(1番目のレベルの変更要求のみ)。
最終インパクト分析日時	インパクト分析が最後に計算された時間。
最終更新日時	変更要求がサービスデスクアプリケーションで最後に更新された日時。
オープン実行者	要求の開始者(2番目のレベルの変更要求のみ)。
計画終了日時	変更要求の実行の終了がスケジュールされている日時。

UIの要素	説明
計画開始日時	変更要求の実行の開始がスケジュールされている日時。
Priority	変更要求のHP Release Controlでの優先度レベル。HP Release Controlを構成するとき、変更要求に割り当てることができる優先度レベルを構成します。
要求ID	サービスデスクアプリケーションでの変更要求のリファレンスID番号。
要求終了日時	要求を実施する最終期限。
リスク分析	HP Release Controlで計算されたリスクレベル(低い、中、高い)を表示します。リスクレベルの計算方法の詳細は、「リスク分析」(44ページ)を参照してください。
スケジュールされた ダウンタイム開始日時	変更作業の計画されたダウンタイム開始日時。
サービスデスク	変更要求の作成元のサービスデスクアプリケーション。
サブカテゴリ	[カテゴリ]フィールドの下位で、変更要求のタイプを詳細に示します。
緊急度	要求開始者によって要求に割り当てられた緊急度。

[プレビュー]>[概要] タブ

このタブでは、サービスデスクアプリケーションから受け取った変更要求情報のサマリが表示されます。

アクセス方法	[モジュール]>[分析]>[変更要求]>[プレビュー]>[概要] タブを選択します。
--------	--

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
分析情報	<p>変更要求に対してHP Release Controlによって実施された変更分析のサマリを表示します。以下のデータが含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ インパクトの重大度。変更要求のインパクトの重大度レベルを表示します。レベルは、インパクトの重大度アイコンによって表わされます。マウスをアイコンの上に置くと、変更要求のインパクトの重大度レベルを示すヒントが表示されます。アイコンは、[インパクト分析]タブへのリンクとなります。 インパクト分析およびインパクトの重大度の計算方法の詳細は、「インパクト分析」(44ページ)を参照してください。 ▶ 衝突。変更要求の衝突の重大度レベルを表示します。レベルは、衝突の重大度アイコンによって表わされます。変更要求がその他の複数の変更要求と衝突する場合、最悪の衝突の重大度レベルが表示されます。マウスをアイコンの上に置くと、衝突の重大度レベルを示すヒントが表示されます。アイコンは、[衝突]タブへのリンクとなります。 衝突および衝突の重大度の計算方法の詳細は、「変更要求の衝突」(52ページ)を参照してください。 ▶ リスク。リスクレベル(低い、中、高い)を表示します。表示されるレベルは、[リスク]タブへのリンクとなります。 リスクレベルの計算方法の詳細は、「リスク分析」(44ページ)を参照してください。



UIの要素	説明
<p>分析情報 (続き)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 変更されるCI。変更要求の直接の結果として変更されたCIの数を表示します。表示された数は、[インパクト分析]タブへのリンクとなります。 ▶ 影響を受けるビジネスCI。変更要求の結果として影響を受けたビジネスCIの数を表示します。表示された数は、[インパクト分析]タブへのリンクとなります。 ▶ 期間の競合。 変更要求が期間カテゴリの繰り返しルールを侵害した場合、カテゴリの名前が表示されます。表示されたカテゴリは、[評価]>[期間の競合]タブへのリンクとなります。

UIの要素	説明
一般情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 要求ID。サービスデスクアプリケーションでの変更要求のリファレンスID番号。 ▶ サービスデスク。変更要求の作成元のサービスデスクアプリケーション。 ▶ スケジュール。変更要求のスケジュールされた開始日時。 ▶ 期間。変更要求のスケジュールされた期間。 ▶ ステータス。サービスデスクアプリケーションに定義された変更要求のステータス。 ▶ 結果。変更要求の結果。結果は[レビュー]タブで送信されます。結果値は[レビュー]>[結論]タブにリンクされています。
ユーザー情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ディスカッションスレッド。変更要求への応答として、ユーザーによって処理されたディスカッションスレッドの数。 ▶ 反対。変更要求への応答として[反対]を投票したユーザーの数。 ▶ 要CAB裁定。変更要求への応答として[要 CAB 裁定]を投票したユーザーの数。 ▶ 賛成。変更要求への応答として[賛成]を投票したユーザーの数。 <p>注: データは[コラボレーション]>[ディスカッション]タブにリンクされています。詳細については、「[コラボレーション]>[ディスカッション]タブ」(127ページ)を参照してください。</p>



[プレビュー]>[関連レコード] タブ

バージョン5.0以降、変更要求とそのタスク (関連レコード) は同じウィンドウに表示されなくなりました。変更要求とその関連タスクはHP Release Control の異なるウィンドウに表示されます。

- ▶ 変更要求モードを使用している場合、以下のように表示されます。
 - ▶ 変更要求が [変更要求] ウィンドウに表示されている場合、選択した変更に割り当てられているタスクは [プレビュー]>[関連レコード] タブに表示されます。
 - ▶ 変更要求が [プレビュー]>[関連レコード] タブに表示されている場合、選択した変更に割り当てられているタスクは [変更要求] ウィンドウに表示されます。
- ▶ アクションアイテムモードを使用している場合、タスクは常に [プレビュー]>[関連レコード] タブに表示されます。


アクセス方法	[モジュール]>[分析]>[変更要求]>[プレビュー]>[関連レコード] タブを選択します。
重要な情報	<p>デフォルトでは、変更要求は [変更要求] ウィンドウに表示され、その関連タスクは [プレビュー]>[関連レコード] タブに表示されません。これは、[作業フィルター]/[変更要求フィルター] ダイアログボックスの [階層] ボックスで [変更] を選択することで構成されています([モジュール]>[分析]>[変更要求]を選択します。[フィルター] ウィンドウで、[新規]  ボタンの右側にある下矢印  をクリックし、[新規] または [編集] を選択します)。</p> <p>または、[階層] ボックスで [タスク] を選択することで、関連タスクがデフォルトで [変更要求] ウィンドウに表示されるように構成することもできます。</p>
関連項目	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「[変更要求]-一覧表示」 (118ページ) ▶ 「[アクション アイテム] ウィンドウ」 (66ページ)

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
	<p>[関連レコード]を開きます。タスクと変更要求の表示を、[変更要求]ウィンドウと [プレビュー]>[関連レコード]タブで切り替えます。</p> <p>注：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ このボタンは[変更要求]ウィンドウでのみ有効です。 ▶ このボタンをクリックすると、HP Release Controlによって[関連レコード]という一時フィルターが自動的に作成されます。 ▶ 変更要求モードでは、[戻る]  ボタンをクリックすると前のフィルターから項目を表示できます。詳細については、「[フィルター]ウィンドウ」(183ページ)を参照してください。
<列>	このタブの列の詳細は、「[変更要求]-一覧表示」(118ページ)を参照してください。
合計	[変更要求]ウィンドウまたは[アクション アイテム]ウィンドウで選択した項目に割り当てられているレコードの数。

[レポートの詳細] ダイアログボックス

このダイアログボックスでは、1つの変更要求または現在のフィルターに含まれているすべての変更要求のデータを含むレポートを、PDF、HTML、Excel形式で生成します。

<p>アクセス方法</p>	<p>[モジュール]>[分析]をクリックします。レポート作成の対象となる変更要求やフィルターを選択してから、[レポートの生成]  をクリックします。</p>
<p>重要な情報</p>	<p>アジア言語環境でPDFレポートを生成する場合、<HP Release Controlインストールディレクトリ>\conf\reports.extディレクトリにある以下のレポートテンプレートファイルで、PDFのエンコード値(現在、CP1250として定義済み)を変更する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ calendar.changes-report.days-subreport.pdf.jrxml ▶ calendar.changes-report.pdf.jrxml ▶ calendar.changes-report.tickets-subreport.pdf.jrxml ▶ grid.change-single-pager-report.pdf.jrxml ▶ grid.changes-report.pdf.jrxml ▶ grid.changes-report.tasks-subreport.pdf.jrxml
<p>関連項目</p>	<p>「[レポート]ウィンドウ」(516ページ)</p>

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
データ	<p>レポートに表示するデータによって、目的の要求の範囲を選択します。オプションは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 現在のフィルター。 選択したフィルターのすべての変更要求です。 ▶ 選択した変更要求。 現在選択している変更要求です。 <p>注：レポートの変更要求の数が「[レポート] ウィンドウ」(516ページ)で定義されている生成レポートに含めることのできる変更要求の最大数を超える場合、以下の警告が表示されます。</p> <p>選択した項目数がn(1レポートの最大要求数)を超過しています。一部の要求がレポートから削除されます。</p>
形式	<p>目的のレポート出力タイプを選択します。オプションは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ PDF ▶ Excel <p>注：このオプションが表示されるのは、[レイアウト] オプションとして[一覧]を選択した場合のみです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ HTML



UIの要素	説明
レイアウト	<p>目的の要求のレイアウトオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 1 ページ。各変更要求のデータをそれぞれ別のページに表示します。 <small>注:このオプションが表示されるのは、一覧表示モードのみです。</small> ▶ 一覧。各変更要求のデータを一覧形式で簡潔に表示します。各ページに複数のリストが表示されます。
レベルポリシー	<p>下位の変更要求 (タスク) と上位の変更要求 (変更) をレポートに含めるかどうかを定義します。</p> <p>以下のとおり選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 折りたたみ。上位の変更要求 (変更) のデータのみが含まれます。 ▶ 展開。下位の変更要求 (タスク) と上位の変更要求 (変更) がレポートに含まれます。 <p>デフォルト値 : 展開</p>

[返答] ダイアログボックス

このダイアログボックスでは、以下の操作を行うことができます。

- ▶ HP Release Control ユーザーはクローズされていないアクションアイテムにコメントを追加できます。
- ▶ アクションアイテムの担当者は、受け入れない理由がある場合、アクションアイテムを作成者に返送できます。
- ▶ アクションアイテムの担当者は、アクションアイテムのステータスを [**オープン**] から [**完了**] に変更できます。

- ▶ アクションアイテムの作成者は、アクションアイテムのステータスを [オープン] または [完了] から [クローズ済み] に変更できます。

アクセス方法	[モジュール]>[分析]>[アクション アイテム] を選択します。[アクション アイテム] ウィンドウで、目的のアクションアイテムを選択して  をクリックします。
重要な情報	 ボタンは、選択したアクションアイテムが現在のユーザーに割り当てられている場合のみ有効です。

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
説明	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [投稿して、アクション アイテムを保留中にする] を選択した場合、アクションアイテムを受け入れない理由を入力します。 ▶ [投稿で返答] を選択した場合、コメントをフルテキストで入力します。
<作成者>にアクションアイテムが完了したことを通知する	<p>担当者は、アクションアイテムのステータスを [オープン] から [完了] に変更できます。</p> <p>アクションアイテムのステータスの詳細は、「ステータス」(70ページ)を参照してください。</p> <p>注: このオプションは、選択したアクションアイテムが現在のユーザーに割り当てられており、ステータスがまだ [完了] ではない場合に表示されます。</p>
投稿して、アクションアイテムを保留中にする	<p>担当者は、受け入れない理由がある場合、アクションアイテムを作成者に返送できます。[件名] ボックスに [次のユーザーに戻す: <作成者>] と表示されます。</p> <p>注: アクションアイテムは、[アクション アイテム一覧] ウィンドウと [コラボレーション] タブのアクションアイテムビューウィンドウの両方にコメントとして表示されます。アクションアイテムは作成者に保留中として表示されます。</p>

UIの要素	説明
アクションアイテムを再オープンし、<担当者>にさらに作業が必要なことを通知する	作成者は、アクションアイテムのステータスを[完了]から[再オープン]または[クローズ済み]に変更できます。
投稿で返答	HP Release Controlユーザーはクローズされていないアクションアイテムにコメントを追加できます。 [アクションアイテム一覧]ウィンドウまたは[コラボレーション]タブのアクションアイテムビューでアクションアイテムを選択している場合、[アクションアイテムの記入]ウィンドウにコメントが表示されます。


[レビュー]> [結論] タブ

このタブでは、変更レビュー担当者が以下の操作を行うことができます。

- ▶ **[評価と終了]** ステータスの変更要求にレビューメモを追加
- ▶ 要求をクローズし、変更を行えないようにする

レビューメモは要求の結論を示し、全体的な成功と関係者の満足度に関する情報を提供します。

HP Service Managerを使用している場合、PIR情報を直接同期し、HP Service ManagerからHP Release Controlに情報を同期できます。

アクセス方法	[モジュール]>[分析]>[変更要求]>[レビュー]>[結論]タブを選択します。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 変更レビュー担当者は、[変更要求]ツールバーの[電子メールの送信]  ボタンを使用して、PIR会議への招待状や完了した要求のPIR結論のサマ리를電子メールで送信できます。 ▶ レビュー関連の基準に応じて変更要求をフィルターできます。詳細については、「変更要求および作業のフィルター」(161ページ)を参照してください。
関連項目	「[実施後レビュー]ダイアログボックス」(139ページ)

[結論情報] ウィンドウ



このウィンドウでは、**[評価と終了]**ステータスの変更要求のPIRを作成/編集できます。

HP Service Managerを使用している場合、要求をクローズし、変更を行えないようにすることができます。

重要な情報	このウィンドウの [クローズ] ボタンが有効になるのは、HP Service Managerを使用している場合のみです。他のサービスデスクアプリケーションを使用している場合、 [クローズ] ボタンは無効になります。
-------	---

第3章「分析モジュール」

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します (ラベルのない要素は、山かっこ<>で囲まれています)。

UIの要素	説明
	<p>HP Service Manager と完全に統合されている場合、このボタンをクリックして、ステータスが [クローズ済み] ではない変更要求の PIR を作成/編集できます。[実施後レビュー] ダイアログボックスを開きます。</p> <p>注: 他のサービスデスクアプリケーションを使用している場合、ボタンは無効になります。</p>
	<p>HP Service Manager と完全に統合されていない場合、このボタンをクリックして変更を HP Service Manager で直接クローズし、変更を行えないようにすることができます。</p> <p>注: 他のサービスデスクアプリケーションを使用している場合、ボタンは無効になります。</p> <p>[ログイン] ダイアログボックスが開きます。HP Service Manager のユーザー名とパスワードを入力します。操作が正常に行われると、HP Service Manager でチケットが更新され、HP Release Control で要求のステータスが [クローズ済み] になります。</p>
<結論情報>	選択した要求に対して [実施後レビュー] ダイアログボックスで入力したレビュー情報を表示します。

[悪影響のあるビジネス CI] ウィンドウ

このウィンドウには、PIR に含めるために [実施後レビュー] ダイアログボックスで選択した悪影響のあるビジネスCIが表示されます。


[レビュー]>[イベント ログ] タブ

このタブには、選択した作業に関連するすべてのイベントが表示されます。

このイベントは、ユーザーまたはシステムのどちらかが原因で発生します。

- ▶ ユーザーの操作によって発生するイベントには、次のものがあります。
 - ▶ 作業ステータスの更新
 - ▶ 作業実施スケジュールの変更
 - ▶ 作業に関するアラートの処理
 - ▶ 作業に関するメモの送信
 - ▶ 類似の (追加、確認、または削除による) 変更
 - ▶ 変更要求の承認/拒否または承認の撤回
 - ▶ 実施ガイドラインの議事録の投稿
 - ▶ アクションアイテムの管理
 - ▶ 実施後レビューの更新
 - ▶ 変更要求に関する投票の投稿
- ▶ システムの処理によって発生するイベントには、次のものがあります。
 - ▶ 作業に関するアラートの生成

- ▶ 変更要求に対する処理(たとえば、リスク分析、インパクト分析、衝突分析)

アクセス方法	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 分析モジュール: [モジュール] > [分析] > [変更要求] > [レビュー] > [イベント ログ] タブを選択します。 ▶ ディレクターモジュール: [モジュール] > [ディレクター] > [コントロール] をクリックします。[作業タイムライン] ウィンドウまたは [アラート] ウィンドウで [作業情報]  をクリックして、[作業情報] ダイアログボックスを開きます。次に [イベント ログ] タブをクリックします。
--------	--

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
説明	イベントの説明。
時間	イベントがイベントログに書き込まれた時間。
ユーザー	<ul style="list-style-type: none"> ▶ システム処理によって発生したイベントは、ユーザー名 System の下に一覧表示されます。 ▶ ユーザー操作によって発生したイベントには、該当するユーザーの名前が表示されます。

[レビュー] > [確認] タブ

このタブでは、**検出された変更**と**潜在変更**のデータを表示できます。

選択した要求の検出された変更とともに、HP Universal CMDBから受け取った情報が表示されます。

検出された変更と潜在変更の詳細は、「検出された変更と潜在変更」(54ページ)を参照してください。

[検出された変更] ウィンドウには、検出された各変更について以下の情報が表示されます。

- ▶ **CI名。** 変更されたCIの名前です。
- ▶ **CIタイプ。** 変更されたCIのタイプです。

- ▶ **変更タイプ**。CIに対して行われた変更のタイプです。
- ▶ **検出期間**。検出された変更が検出された変更検出期間です。

[変更された属性]ウィンドウには、検出された各変更について以下の情報が表示されます。

- ▶ **属性**。変更されたCIの特徴です(例：オペレーティングシステム (OS_VERSION))。
- ▶ **古い値**。変更前の属性の定義(例：XP SP1)。
- ▶ **新しい値**。変更後の属性の定義(例：XP SP2)。

潜在変更は、[変更要求]の一覧表示に別個の変更として、その他のすべての変更要求と一緒に表示されます。潜在変更は、一覧表示の[サマリ]列で[潜在]アイコンと[潜在変更]という文字で示されます。

アクセス方法	[モジュール]>[分析]>[変更要求]>[レビュー]>[確認]タブを選択します。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ この機能は、HP Release Controlアプリケーションによっては使用できない場合があります。詳細については、HP Release Control管理者にお問い合わせください。 ▶ ここでは、潜在変更機能が完全にアクティブであることを前提にしています。

第4章

変更要求および作業のフィルター

本章の内容

概念

- ▶ 「変更要求および作業のフィルターの概要」 (161 ページ)
- ▶ 「正規表現」 (163 ページ)

タスク

- ▶ 「結合フィルターの作成方法」 (164 ページ)

リファレンス

- ▶ 「フィルターのユーザーインターフェース」 (165 ページ)

概念

変更要求および作業のフィルターの概要

分析モジュールでは変更要求をフィルターでき、ディレクターモジュールでは作業をフィルターできます。公開フィルターまたは定義済みのフィルターを選択するか、新規フィルターを定義できます。また、クイックフィルターフィールドを使用して、一般的に[変更要求]ウィンドウで必要になる情報を表示することもできます。

フィルターを作成する場所にかかわらず、分析モジュールでもディレクターモジュールでも同じフィルターが表示されます。

分析モジュールの詳細は、「分析モジュール」(41ページ)を参照してください。ディレクターモジュールの詳細は、「ディレクターモジュール」(193ページ)を参照してください。

この項では、次の項目を説明します。

- ▶ 「分析モジュールでのフィルターの使用」(162ページ)
- ▶ 「ディレクターモジュールでのフィルターの使用」(163ページ)

分析モジュールでのフィルターの使用

[フィルター] ウィンドウのフィルター機能を使用して、HP Release Controlの変更要求モードで表示する変更要求や、アクションアイテムモードで表示するアクションアイテムを決定する条件を定義します。

変更要求モードでは、以下の操作を実行できます。



- ▶ 特定の変更要求の検索。ページの右上隅にある検索ボックスに要求のID番号を入力し、**[検索]** ボタンをクリックします。使用可能な正規表現の一覧は、「正規表現」(163ページ) を参照してください。
- ▶ 変更要求フィルターの選択。選択した変更要求フィルターの条件を満たす変更要求がHP Release Controlで表示されます。

アクションアイテムモードでは、以下の操作を実行できます。



- ▶ 特定のアクションアイテムの検索。ページの右上隅にある検索ボックスにアクションアイテムのID番号を入力し、**[検索]** ボタンをクリックします。使用可能な正規表現の一覧は、「正規表現」(163ページ) を参照してください。
- ▶ 選択した変更要求フィルターの条件を満たすアクションアイテムがHP Release Controlで表示されます。

注：アクションアイテムフィルターは、[コラボレーション] タブのアクションアイテムビューには適用されません。[変更要求] ウィンドウでは、選択した変更要求に関連付けられているアクションアイテムがすべて表示されます。[アクションアイテム] ウィンドウでは、選択したアクションアイテムに関連付けられている変更要求と関連付けられているアクションアイテムがすべて表示されます。

ディレクターモジュールでのフィルターの使用

ディレクターモジュールの上部にあるフィルター機能を使用して、HP Release Control のディレクターモジュールで表示する作業を決定する条件を定義します。

ディレクターモジュールのフィルターと分析モジュールのフィルターは、同じ方法で機能します。分析モジュールで作成したフィルターを使用して、ディレクターモジュールの作業をフィルターできます。ただし、分析モジュールでのみ使用するフィルター条件もあり、これはディレクターモジュールでは使用できません。この逆も同様です。

たとえば、時間関連の条件は分析モジュールでのみ使用する条件であって、ディレクターモジュールでは使用しません。時間関連の条件を使って分析モジュールで作成されたフィルターは、ディレクターモジュールでそのまま使用できます。ただし、ディレクターモジュールで時間関連の条件を編集することはできません。

正規表現

特定のフィルターフィールドや検索フィールドでは、正規表現を使用して検索結果やフィルター結果を絞り込むことができます。これらのフィールドでは、以下の正規表現を使用できます。

- ▶ **OR またはカンマ (,)**。述語の間で論理ORが作成されます。たとえば、「**david OR steve**」と入力すると、**david**と**steve**の両方がフィルターに含まれます。また、「**steve, da***」と入力すると、**steve**と**da**から始まる任意の文字列の両方がフィルターに含まれます。
- ▶ **NOT**。表現の先頭に「**NOT**」を指定すると、式全体に対して論理NOTが適用されます。NOTは述語の数にかかわらず、全体に対する論理条件として適用されます。丸かっこは使用しません。たとえば、「**NOT a***」と入力すると、**a**以外から始まるすべての文字列がフィルターに含まれます。また、「**NOT da*, steve**」と入力すると、**da**以外から始まり、**steve**ではないすべての文字列がフィルターに含まれます。

アスタリスク (*) は任意の文字のゼロ回以上の繰り返しを示します。疑問符 (?) は任意の1文字を示します。



タスク

結合フィルターの作成方法

ここでは、次の内容について考えてみましょう。変更諮問委員会 (CAB) の次回の会議で、2009年6月の第1週に実施予定の変更要求について話し合いを行います。対象となるのは、高リスクの変更要求、他の要求と致命的に衝突する変更要求、CABの前に投票が行われている変更要求です。

以下では、これらの条件を満たす変更要求を表示する結合フィルターを作成する方法を説明します。

1 新しいフィルターの定義

[モジュール]>[分析]>[変更要求]を選択します。[フィルター]ウィンドウで、[新規]  ボタンの右側にある下矢印  をクリックし、[新規]を選択します。[次回の CAB 会議] という新しいフィルターを定義します。[日時] タブの [計画の期間] で 6月第1週を選択します。フィルターの定義方法の詳細は、「[作業フィルター]/[変更要求フィルター] ダイアログ ボックス」(165ページ)を参照してください。

2 [次回の CAB 会議] フィルターと既存のフィルターの連結

[フィルターの結合] タブで、HP Release Control で定義済みの [Critical collisions]、[High risk]、[Voted to CAB] の各フィルターを選択します。[結合フィルター] タブの詳細は、「[作業フィルター]/[変更要求フィルター] ダイアログ ボックス」(165ページ)を参照してください。

3 結果

[次回の CAB 会議] フィルターを選択すると、2009年6月第1週に計画され、以下の基準を満たすすべての変更要求がHP Release Controlで表示されます。

- ▶ リスクが高い (High risk)
- ▶ 衝突の重大度が致命的 (Critical collisions)
- ▶ 要CAB裁定の投票がある (Voted to CAB)

リファレンス

フィルターのユーザーインターフェース





ここでは、以下について説明します。

- ▶ 「[作業フィルター]/[変更要求フィルター]ダイアログボックス」(165ページ)
- ▶ 「[利用できるフィルター]ダイアログボックス」(180ページ)
- ▶ 「[<条件>値]ダイアログボックス」(182ページ)
- ▶ 「[フィルター]ウィンドウ」(183ページ)
- ▶ 「[フィルターの選択]リスト」(187ページ)
- ▶ 「[フィルターの保存]ダイアログボックス」(189ページ)

[作業フィルター]/[変更要求フィルター]ダイアログボックス




このダイアログボックスでは、変更要求フィルターや作業フィルターを新規作成できます。新しいフィルターの作成は、分析モジュールまたはディレクターモジュールで実行します。

作業のフィルターでは、さまざまな条件を設定できます。これらの条件は、定義済みのフィルターカテゴリに分類されています。また、[結合フィルター]タブで、現在のフィルターの結果を既存のフィルターと連結することもできます。

<p>アクセス方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ディレクターモジュールの場合： <p>[モジュール]>[ディレクター]>[コントロール]をクリックします。[作業タイムライン]ウィンドウで、[新規]  ボタンの右側にある下矢印  をクリックし、[新規] または [編集] を選択します。</p> ▶ 分析モジュール： <p>[モジュール]>[分析]>[変更要求]をクリックします。[フィルター]ウィンドウで、[新規]  ボタンの右側にある下矢印  をクリックし、[新規] または [編集] を選択します。</p>
----------------------	--

<p>重要な情報</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ HP Release Controlは、定義されたすべての条件を (AND演算子を使用して) フィルターに適用します。たとえば、[優先度]が[高い]で[インパクトの重大度]が[致命的]のフィルターを定義した場合、両方の基準 ([優先度]:[高い]で[インパクトの重大度]:[致命的])を満たす結果のみが表示されます。 ▶ HP Release Control管理者は、定義済みのフィルター条件を削除できます。そのため、[一般]、[分析データ]、[ビジネス CI]、[フィルターの結合]の各タブの説明に記載されている条件を使用できないことがあります。 ▶ HP Release Control管理者はカスタムフィルターを追加作成できます。この場合、[作業フィルター]/[変更要求フィルター]ダイアログボックスにフィルターカテゴリが追加されます。フィルターのカスタマイズについては、「[フィールド]ウィンドウ」(353ページ)を参照してください。 ▶ 適用されるフィルター条件は、モジュールごとに異なります。モジュール固有の条件を使ってフィルターを作成した場合、他のモジュールでそのフィルターを使用することは可能ですが、制限があります。 たとえば、時間関連の条件は分析モジュールでのみ使用する条件であって、ディレクターモジュールでは使用しません。時間関連の条件を使って分析モジュールで作成されたフィルターは、ディレクターモジュールでそのまま使用できます。ただし、ディレクターモジュールで時間関連の条件を編集することはできません。
<p>関連タスク</p>	<p>「結合フィルターの作成方法」(164ページ)</p>
<p>関連項目</p>	<p>「変更要求および作業のフィルターの概要」(161ページ)</p>

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
	消去。 選択したフィルタープロパティをすべて消去します。
	名前を付けて保存。 フィルター設定を保存します。[フィルターの保存] ダイアログボックスが開きます。
	フィルター結果の表示。 [作業タイムライン] ウィンドウでフィルター結果を表示します。フィルターは保存されません。


[一般] タブ

このタブでは、サービスデスクアプリケーションから取得されたフィールドに基づくフィルター条件が表示されます。

変更要求フィルターと作業用のフィルターの作成では、以下のユーザー インターフェース要素を使用できます。

UIの要素	説明
カテゴリ	カテゴリに基づいて変更要求をフィルターします。
変更タイプ	<p>要求タイプに基づいて作業をフィルターします。以下のオプションを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 計画。 HP Release Control にスケジュールされている定期的な変更要求を表示します。 ▶ 潜在 (潜在変更機能が設定されている場合に使用可能)。 HP Universal CMDB で検出された変更要求を表示します。詳細については、「検出された変更と潜在変更」(54 ページ) を参照してください。 ▶ 代理。 HP Release Control で自動作成された変更要求を表示します。HP Release Control ではまだ取得されておらず、サービスデスクアプリケーションに存在する変更要求を示します。 ▶ 自動。 HP Network Automation または HP Server Automation から取得した変更を表示します。


UIの要素	説明
連絡先窓口	連絡先窓口に基づいて変更要求をフィルターします。使用可能な正規表現の一覧は、「正規表現」(163ページ)を参照してください。
検出ステータス	<p>検出方法に基づいて変更要求をフィルターします。以下のオプションを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 未検出。HP Release Controlにスケジュールされている定期的な変更要求を表示します。 ▶ 検出済み。潜在変更、または検出済みの変更を含む変更要求を表示します。詳細については、「検出された変更と潜在変更」(54ページ)を参照してください。 <p>注：分析モジュールでのみ使用します。潜在変更機能が設定されている場合のみ使用可能です。</p>
緊急	<p>以下の方法で変更要求をフィルターします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ True。緊急手順で処理された変更要求。 ▶ False。緊急手順で処理されていない変更要求。
階層レベル	<p>階層レベルに基づいて作業をフィルターします。以下のオプションを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 変更。最上位レベルの変更要求のみを表示します。 ▶ タスク。第2レベルの変更要求のみを表示します。 <p>注：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 5.0以前のバージョンで [階層レベル] オプションを選択した場合、最上位レベルの変更要求のみが表示されます。 ▶ 第1レベルと第2レベルの要求の名前は、[ラベルと用語] ウィンドウの enumeration-labels.properties ファイルで設定できます。詳細については、「[ラベルと用語] ウィンドウ」(494ページ)を参照してください。

UIの要素	説明
実施担当者	実施担当者に基づいて変更要求をフィルターします。実施担当者を選択するには、ボックスに実施担当者の名前を入力するか、 「一覧から選択」  ボタンをクリックして表示されるダイアログボックスで実施担当者を選択します。使用可能な正規表現の一覧は、「正規表現」(163ページ)を参照してください。
サービスデスク	作成元のサービスデスクアプリケーションに基づいて変更要求をフィルターします。リストされているサービスレベルアプリケーションを1つまたは複数選択できます。
ステータス	ステータスに基づいて変更要求をフィルターします。リストされているステータスを1つまたは複数選択できます。ステータスは、サービスデスクアプリケーションで決定されます。
サブカテゴリ	サブカテゴリに基づいて変更要求をフィルターします。

[分析データ] タブ

このタブでは、HP Release Control が変更要求の処理で実行する計算に基づいて適用されるフィルター条件が表示されます。

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
<p>算出リスク</p>	<p>リスク分析レベルに基づいて変更要求をフィルターします。リスク分析レベルは0～100の範囲の数値であり、他の変更要求との相対的なこの変更要求のリスクレベルを示します。数値が大きいほど、リスクレベルは高くなります。</p> <p>表示されているボックスを使用して範囲を入力または選択します。</p> <p>リスクレベルの計算方法の詳細は、「リスク分析」(44ページ)を参照してください。</p>
<p>CI</p>	<p>インパクト分析の計算をベースに、各変更要求の影響を受けるCIに基づいて変更要求をフィルターします。CIを選択するには、ボックスにCIの名前を入力するか、[値の選択]  ボタンをクリックして[値の選択]ダイアログボックスを開きます。</p> <p>使用可能な正規表現の一覧は、「正規表現」(163ページ)を参照してください。</p> <p>[値の選択]ダイアログボックスを使用してCIを選択するには、[利用できる値]リストで該当するCIを選択し、ダブルクリックするか上の矢印をクリックして[選択した値]リストに移動して[OK]をクリックします。CIの選択を解除するには、[選択した値]リストでCIを選択して下の矢印をクリックします。</p> <p>注: NOT正規表現を使用する場合、指定したCIのみを含み、他のCIを含まないすべての変更要求がフィルターによって除外されます。ただし、変更要求に指定したCI以外のCIも含まれている場合は、その変更要求は結果に表示されます。</p>

UIの要素	説明
衝突の重大度	<p>衝突の重大度レベルに基づいて変更要求をフィルターします。リストされている衝突の重大度レベルを1つまたは複数選択できます。</p> <p>衝突の重大度はHP Release Controlによって計算されます。衝突の重大度の詳細は、「変更要求の衝突」(52ページ)を参照してください。</p>
衝突タイプ	<p>衝突のタイプまたは原因に基づいて変更要求をフィルターします。リストされている衝突の原因を1つまたは複数選択できます。衝突の原因の詳細は、「変更要求の衝突」(52ページ)を参照してください。</p> <p>注：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 衝突の原因をカスタム定義している場合、指定したフィールドの名前を衝突の原因として選択できます。 ▶ 分析モジュールでのみ使用します。
ディスカッションの作成日時	<p>要求のディスカッションスレッドとコメントが追加された日時に基づいて変更要求をフィルターします。</p> <p>注：分析モジュールでのみ使用します。</p>
インパクトの重大度	<p>インパクトの重大度レベルに基づいて変更要求をフィルターします。リストされているインパクトの重大度レベルを1つまたは複数選択できます。</p> <p>インパクトの重大度はHP Release Controlによって計算されます。インパクトの重大度の詳細は、「インパクト分析」(44ページ)を参照してください。</p> <p>注：[ビジネス CI] タブで[インパクトが不明の要求]を選択している場合には、インパクトの重大度レベルに基づくフィルター処理はできません。</p>




UIの要素	説明
<p>期間の競合</p>	<p>期間カテゴリの繰り返しルールで違反が発生しているものについて、期間カテゴリに基づいて変更要求をフィルターします。リストされている期間カテゴリを1つまたは複数選択できます。期間カテゴリの詳細は、「期間の構成」(579ページ)を参照してください。</p> <p>注: 分析モジュールでのみ使用します。タイムラインおよびカレンダービューでフィルターされた変更要求を表示すると、変更要求フィルターで選択した期間カテゴリが自動的に表示されます。</p>
<p>投票内容</p>	<p>受け取ったユーザー投票に基づいて変更要求をフィルターします。リストされている投票オプションを1つまたは複数選択できます。</p> <p>ユーザーは変更要求に対する意見を表明するため、その要求に関する投票を行うことができます([反対]、[要CAB裁定]、[賛成]、[投票なし])。変更要求に関する投票の詳細は、「[コラボレーション] > [ディスカッション] タブ」(127ページ)を参照してください。</p> <p>注: 分析モジュールでのみ使用します。</p>

[アクション アイテム] タブ

このタブでは、関連付けられているアクションアイテムに基づいて変更要求をフィルターします。

- ▶ [変更要求] ウィンドウでアクションアイテムフィールドをベースにフィルターを作成すると、関連付けられているアクションアイテムがフィルターに定義されているアクションアイテムの条件を満たすすべての変更要求が [変更要求] ウィンドウに表示されます。たとえば、ステータスが [**オープン**] のアクションアイテムが関連付けられている変更要求をすべて表示することができます。
- ▶ [アクション アイテム] ウィンドウを使用している場合、フィルターで定義されているアクションアイテムフィールドと変更要求フィールドの両方の条件を満たすすべてのアクションアイテムが [アクション アイテム] ウィンドウに表示されます。





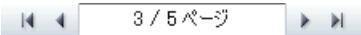
ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
アクションアイテム担当者	担当するユーザーに基づいてアクションアイテムをフィルターします。表示されているテキストボックスに担当者の名前を入力するか、テキストボックスの右側にある[一覧から選択]  ボタンをクリックして[ユーザーの選択]ダイアログボックスで担当者を参照して選択します。
アクションアイテム作成者	作成したユーザーに基づいてアクションアイテムをフィルターします。表示されているテキストボックスに作成者の名前を入力するか、テキストボックスの右側にある[一覧から選択]  ボタンをクリックして[ユーザーの選択]ダイアログボックスで作成者を参照して選択します。
アクションアイテム期日	作成者がアクションアイテムの完了期限として設定した日に基づいてアクションアイテムをフィルターします。
アクションアイテム最終変更日時	アクションアイテムが最後に変更された日時に基づいてアクションアイテムをフィルターします。
アクションアイテムを保留中のユーザー	保留中のアクションアイテムを持つユーザーに基づいてアクションアイテムをフィルターします。表示されているテキストボックスにユーザーの名前を入力するか、テキストボックスの右側にある[一覧から選択]  ボタンをクリックして[ユーザーの選択]ダイアログボックスでユーザーを参照して選択します。
アクションアイテム優先度	優先度レベルに基づいてアクションアイテムをフィルターします。リストされている優先度レベルを1つまたは複数選択できます。優先度レベルは、サービスデスクアプリケーションで決定されます。
アクションアイテムステータス	ステータスに基づいてアクションアイテムをフィルターします。リストされているステータスを1つまたは複数選択できます。ステータスは、サービスデスクアプリケーションで決定されます。

[ビジネス CI] タブ

このタブでは、インパクトに基づいて変更要求をフィルターします。

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します(ラベルのない要素は、角かっこで囲まれています)。

UIの要素	説明
	<p>廃止の表示/非表示。 廃止CIの非表示と表示を切り替えます。</p> <p>注： [選択したビジネス CI に影響する要求] オプションを選択した場合にのみ使用できます。</p>
	<p>検索。 特定のビジネスCIを検索するには、名前または名前の一部を検索ボックスに入力します。検索結果として、入力文字列を名前に含むビジネスCIがすべて返されます。</p> <p>[検索] ボタンをクリックすると、検索が実行されます。</p>
	<p>選択したビジネスCIを、[利用できるビジネス CI] の一覧から [選択したビジネス CI] の一覧に移動します。ビジネスCIはフィルターに含まれます。</p>
	<p>選択したビジネスCIを、[選択したビジネス CI] の一覧から [利用できるビジネス CI] の一覧に移動します。ビジネスCIはフィルターに含まれません。</p>
<その他のページの表示>	<p>その他のページを表示するには、左矢印と右矢印を使用します。左矢印と右矢印の間の数値は、現在表示中のページを示します。たとえば、3 / 5 ページは、全5ページのうち3ページ目が表示されていることを示します。</p> 
すべての要求	<p>変更要求をすべて表示します。</p>
利用できるビジネスCI	<p>利用できるビジネスCIのリスト。</p> <p>注：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [選択したビジネス CI に影響する要求] オプションを選択した場合にのみ利用できます。 ▶ CTRL キーを使用して複数のビジネスCIを選択できます。

UIの要素	説明
任意のビジネスCIに影響する要求	インパクト分析の結果が、いずれかのビジネスCIに影響を与える変更要求を表示します。
自分のビジネスCIに影響する要求	インパクト分析の結果が、自分に関連付けられているビジネスCIに影響を与える変更要求を表示します。
選択したビジネスCIに影響する要求	インパクト分析の結果が、自分に関連付けられているビジネスCIに影響を与える変更要求を選択します。
インパクトが不明の要求	インパクト分析の結果がない変更要求のみを表示します。
選択したビジネスCI	<p>フィルターに含めるビジネスCIを表示します。</p> <p>注：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [選択したビジネスCIに影響する要求] オプションを選択した場合にのみ利用できます。 ▶ CTRLキーを使用して複数のビジネスCIを選択できます。

[日時] タブ

このタブでは、時間関連のオプションを選択することにより、時間関連の条件に基づいて変更要求をフィルターします。

選択した各フィルター条件の横にあるボックスで、ドロップダウンリストから目的のオプションを選択します。



[次の日時より後]、[次の日時より前]、[次の日時の間] のいずれかを選択した場合、カレンダーボタンをクリックして日時を選択します。

注： カレンダーボックスに表示されているタイムゾーンに基づいて時間間隔を選択します。

重要な情報	このタブは、分析モジュールでのみ使用できます。
--------------	-------------------------

第4章「変更要求および作業のフィルター」

変更要求フィルターと作業用のフィルターの作成では、以下のユーザー インタフェース要素を使用できます。

UIの要素	説明
実際の終了日時	実際の実行終了日時に基づいて変更要求をフィルターします。
実際の開始日時	実際の実行開始日時に基づいて変更要求をフィルターします。
作成日時	作成日時に基づいて変更要求をフィルターします。
実施の期間	実施する時間範囲に基づいて変更要求をフィルターします。実際の実施期間の中で、この時間範囲に含まれるすべての部分がフィルターに含まれます。
最終更新日時	最後に更新された日時に基づいて変更要求をフィルターします。
計画終了日時	計画されている実行終了日時に基づいて変更要求をフィルターします。
計画開始日時	計画されている実行開始日時に基づいて変更要求をフィルターします。
計画の期間	実施がスケジュールされた時間範囲に基づいて変更要求をフィルターします。実施が計画された期間の中で、この時間範囲に含まれるすべての部分がフィルターに含まれます。
要求終了日時	実施の必須の完了期限として設定された日時に基づいて変更要求をフィルターします。
スケジュールされた ダウンタイム終了日時	ダウンタイムの終了がスケジュールされている日時に基づいて変更要求をフィルターします。
スケジュールされた ダウンタイム開始日時	ダウンタイムの開始がスケジュールされている日時に基づいて変更要求をフィルターします。

アクションアイテム用のフィルター作成では、以下のユーザーインターフェース要素を使用できます。

UIの要素	説明
期日	必須の完了期限として設定された日時に基づいてアクションアイテムをフィルターします。
変更日時	変更日時に基づいてアクションアイテムをフィルターします。

[レビュー] タブ

このタブでは、レビュー関連の条件に基づいて変更要求をフィルターします。

重要な情報	このタブは、分析モジュールでのみ使用できます。
--------------	-------------------------

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
顧客の満足度	変更レビュー担当者が割り当てた顧客満足度レベルに基づいて変更要求をフィルターします。リストされているレベルを1つまたは複数選択できます。
悪影響のあるビジネスCI	実施によって悪影響を受けるビジネスCIに基づいて変更要求をフィルターします。[利用できるビジネスCI] リストから1つまたは複数のCIを選択し (CTRLキーを使用)、上の矢印をクリックして選択したビジネスCIを [選択したビジネスCI] リストに移動します。
結果	変更レビュー担当者が割り当てた結果に基づいて変更要求をフィルターします。リストされている結果を1つまたは複数選択できます。

第4章「変更要求および作業のフィルター」

UIの要素	説明
計画満足度	変更レビュー担当者が割り当てた計画満足度レベルに基づいて変更要求をフィルターします。リストされているレベルを1つまたは複数選択できます。
レビュー済み	<p>レビュー日時に基づいて変更要求をフィルターします。</p> <p>選択ボックスのドロップダウンリストから目的のオプションを選択し、レビューの時間間隔を設定します。[次の日時より後]、[次の日時より前]、[次の日時の間]のいずれかを選択した場合、カレンダーボタンをクリックするとカレンダーボックスが開きます。月の名前の横にある左矢印と右矢印を使用して月を選択し、カレンダーから日付を選択して、時間ボックスに正確な時刻を入力または選択してから、[OK]をクリックします。</p> <p>注： カレンダーボックスに表示されているタイムゾーンに基づいて時間間隔を選択します。</p>



[フィルターの結合] タブ

このタブでは、定義中のフィルターに連結したい条件を含む既存のフィルターを選択します。

注： CTRL キーを使用して複数のフィルターを選択できます。

<p>重要な情報</p>	<p>結合フィルターでは、A AND (B OR C OR D OR...) 演算子を使用します。Aは現在のフィルター、B、C、D...はHP Release Controlの既存のフィルターを示しています。例は、「結合フィルターの作成方法」(164ページ)を参照してください。</p> <p>注：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ お気に入りフィルターと結合フィルターを含むフィルターは、[利用できるフィルター] リストに表示されないため、結合フィルターとして現在定義しているフィルターと連結することはできません。 ▶ 非公開フィルターと現在定義しているフィルターを連結する場合、現在のフィルターを非公開フィルターとして保存します。 ▶ 管理者が期間フィルターとして定義したフィルターは、期間フィルターとして定義されていないフィルターと連結することはできません。
---------------------	---




ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
	<p>選択したフィールドを [利用できるフィルター] リストから [選択したフィルター] リストに移動します。選択したフィルターは現在定義しているフィルターと連結されます。</p>
	<p>選択したフィールドを [選択したフィルター] リストから [利用できるフィルター] リストに移動します。選択したフィルターは現在定義しているフィルターと連結されません。</p>




UIの要素	説明
利用できるフィルター	既存のフィルター。
選択したフィルター	現在のフィルターと結果を連結するフィルターを選択します。

[利用できるフィルター] ダイアログ ボックス

このダイアログボックスでは、分析モジュールとディレクターモジュールのカテゴリを追加、編集、削除します。


アクセス方法	<p>▶ ディレクターモジュール： [モジュール]>[ディレクター]>[コントロール]をクリックします。[作業タイムライン]ウィンドウで、[作業]ボックスの右側にある下矢印  をクリックし、[整理]を選択します。</p> <p>▶ 分析モジュール： [モジュール]>[分析]>[変更要求]をクリックします。[フィルター]ウィンドウで、[新規]  ボタンの右側にある下矢印  をクリックし、[整理]を選択します。</p>
重要な情報	<p>▶ 分析モジュールまたはディレクターモジュールで使用します。</p> <p>▶ 削除されるなどして、[利用できるフィルター] ダイアログボックスにデフォルトのフィルターが表示されない場合、HP Release Controlでは[保存していないフィルター(すべて)]が開きます。アクションアイテムフィルターでは、常に[保存していないフィルター(すべて)]フィルターが表示されます。</p>
関連タスク	「結合フィルターの作成方法」(164ページ)
関連項目	「変更要求および作業のフィルターの概要」(161ページ)

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。





UIの要素	説明
	<p>フィルターの削除。 フィルターを削除します。</p> <p>注：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [利用できるフィルター] ダイアログボックスで、[お気に入り] フィルター以外のすべてのフィルターを削除できます。 ▶ 期間カテゴリの定義で使用した期間フィルターや、別のフィルター内の結合フィルターとして使用されているフィルターは削除できません。 ▶ CTRL キーを使用して複数のフィルターを選択し、まとめて削除できます。
	<p>カテゴリの追加。 カテゴリを追加します。</p> <p>注： カテゴリの下に新しい別のカテゴリを追加することはできません。</p>
	<p>カテゴリの編集。 カテゴリを編集します。</p>
	<p>カテゴリの削除。 カテゴリを削除します。</p> <p>注：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [利用できるフィルター] ダイアログボックスでは、[自分のフィルター] カテゴリ以外のすべてのカテゴリを削除できます。 ▶ 削除できるのは、空のカテゴリのみです。 ▶ CTRL キーを使用して複数のカテゴリを選択し、まとめて削除できます。
	<p>更新。 [利用できるフィルター] リストを更新します。</p> <p>注： 分析モジュールの [利用できるフィルター] ダイアログボックスでカテゴリやフィルターの追加、編集、削除を行った後、ディレクターモジュールの [利用できるフィルター] ダイアログボックスで [利用できるフィルター] リストの更新を確認するには、[利用できるフィルター] ダイアログボックスの [更新] ボタンをクリックします。</p>

[<条件>値] ダイアログボックス

このダイアログボックスでは、フィルターの新規作成で使用する追加の条件値を選択します。

アクセス方法	[モジュール]>[分析]>[変更要求]を選択します。[フィルター]ウィンドウで、目的のクイックフィルターフィールドの右側にある下矢印  をクリックし、[さらに表示]をクリックします。
重要な情報	分析モジュールでのみ使用します。
関連項目	「変更要求および作業のフィルターの概要」(161ページ)

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します(ラベルのない要素は、角かっこで囲まれています)。

UIの要素	説明
	検索する基準の値の名前またはその一部を入力し、[検索]ボタンをクリックします。
	選択した値を[利用できる値]リストから[選択した値]リストに移動します。[選択した値]リストに移動した値は、フィルターの作成に使用されます。
	選択した値を[選択した値]リストから[利用できる値]リストに移動します。[利用できる値]リストに移動した値は、フィルターの作成に使用されません。
<その他のページの表示>	その他のページを表示するには、左矢印と右矢印を使用します。左矢印と右矢印の間の数値は、現在表示中のページを示します。たとえば、3/5ページは、全5ページのうち3ページ目が表示されていることを示します。 



[フィルター] ウィンドウ



このウィンドウでは、以下の操作を実行します。


- ▶ [変更要求] ウィンドウにどの変更要求を表示するかを決定するフィルターの選択。
- ▶ 新しいフィルターの定義と既存のフィルターの編集。[フィルター] ウィンドウで作成または編集したフィルターは、[アクションアイテム] ウィンドウの [フィルターの選択] リストやディレクターモジュールでも表示されます。
- ▶ 分析モジュールおよびディレクターモジュールでのカテゴリの追加、編集、削除。
- ▶ クイックフィルターフィールドを使用して、一般的に [変更要求] ウィンドウで必要になる情報を表示。




アクセス方法	[モジュール]>[分析]>[変更要求]>[フィルター] ウィンドウを選択します。
重要な情報	[フィルター] ウィンドウは、分析モジュールの [変更要求] ウィンドウのみで表示されます。
関連タスク	「結合フィルターの作成方法」(164ページ)
関連項目	「変更要求および作業のフィルターの概要」(161ページ)

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します(ラベルのない要素は、角かっこで囲まれています)。

UIの要素	説明
	<p>フィルターの選択。 以下を決定するフィルターを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ディレクターモジュールで表示する作業 ▶ [変更要求] ウィンドウで表示する変更要求 ▶ [アクションアイテム] ウィンドウで表示するアクションアイテム <p>「[フィルターの選択] リスト」(187ページ) が開きます。</p>
	<p>戻る/進む。 前後のフィルター、ビュー、選択した変更要求に移動します。</p>





UIの要素	説明
	<p>最後に選択したフィルターにリセット。 前回保存したフィルター設定に戻します。</p>
	<p>名前を付けて保存。 [お気に入り] フィルターを除くすべてのフィルターを、別の名前または別のアクセスプロパティ (非公開/公開) で保存することによって、コピーします。「[フィルターの保存] ダイアログ ボックス」(189ページ) が開きます。</p> <p>たとえば、管理者権限のないユーザーが公開フィルターを変更する場合、公開フィルターの名前を変更して個人のフィルターとして保存し、フィルターのプロパティを変更します。</p> <p>注：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 自動生成された [お気に入り] フィルターのプロパティは変更できません。 ▶ 公開フィルターのプロパティを変更できるのは管理者のみです。 ▶ 変更したフィルターが期間フィルターで、期間カテゴリに含まれている場合、HP Release Controlは、構成されているカテゴリに対する変更要求のルールコンプライアンスを再計算します。

UIの要素	説明
	<p>フィルターの編集。以下のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none">▶ 新規。新しいフィルターを定義します。「[作業フィルター][変更要求フィルター]ダイアログボックス」(165ページ)が開きます。▶ 編集。既存のフィルターを編集します。「[作業フィルター][変更要求フィルター]ダイアログボックス」(165ページ)が開きます。▶ 整理。分析モジュールおよびディレクターモジュールのカテゴリを追加、編集、削除します。「[利用できるフィルター]ダイアログボックス」(180ページ)が開きます。



UIの要素	説明
<p><デフォルトのクイックフィルターフィールド></p>	<p>一般的に表示が必要になる情報を表示するフィールドをあらかじめ定義しておきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 管理者は、管理者モジュールでデフォルトのクイックフィルターフィールドを定義できます。[管理者]>[構成]タブ>[フィールド]を選択します。[利用できるフィールド]ウィンドウで[クイックフィルター表示の管理]  ボタンをクリックすると、[クイックフィルター表示]ダイアログボックスが開きます。詳細については、「[クイックフィルター表示]ウィンドウ」(33ページ)の[クイックフィルター表示]ウィンドウを参照してください。 ▶ 管理者以外の権限を持つユーザーは、デフォルトのクイックフィルターフィールドを定義できます。詳細については、「[クイックフィルター表示]ウィンドウ」(33ページ)を参照してください。[ユーザープリファレンス]ダイアログボックスで定義したクイックフィルターフィールドは、特定のユーザーにのみ適用され、管理者が管理者モジュールで定義したフィールドを上書きします。 <p>フィルター結果を変更するには、各フィールドの右側にある下矢印  をクリックし、以下の操作を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 目的のフィルターの値を選択します。詳細については、「[利用できるフィルター]ダイアログボックス」(180ページ)を参照してください。 ▶ [さらに表示] をクリックして、その他の条件値を選択します。「[<条件>値]ダイアログボックス」(182ページ)が開きます。 ▶ [消去] をクリックして、フィルター条件として選択した値を消去します。 <p>注： HP Release Control は、定義されたすべての条件を (AND 演算子を使用して) フィルターに適用します。たとえば、[優先度] が [高い] で [インパクトの重大度] が [致命的] のフィルターを定義した場合、両方の基準 ([優先度] : [高い] で [インパクトの重大度] : [致命的]) を満たす結果のみが表示されます。</p> <p>フィルターを保存せずにフィルター結果を表示するか、[保存]  ボタンで「[フィルターの保存]ダイアログボックス」(189ページ)を開いて新しいフィルターを保存できます。</p>

[フィルターを選択] リスト

[フィルターを選択] リストでは、ディレクターモジュールの [作業タイムライン] ウィンドウと分析モジュールの [変更要求]/[アクション アイテム] ウィンドウに作業を表示するときの条件を決定するフィルターを選択します。

アクセス方法	<p>▶ ディレクターモジュール： [モジュール]>[ディレクター]>[コントロール] をクリックします。[作業タイムライン] ウィンドウで、[作業] ボックスの右側にある下矢印  をクリックします。</p> <p>▶ [変更要求] ウィンドウ： [モジュール]>[分析]>[変更要求] をクリックします。[フィルター] ウィンドウで、[フィルターを選択]  ボタンの右側にある下矢印  をクリックしします。</p> <p>▶ [アクション アイテム] ウィンドウ： [モジュール]>[分析]>[アクション アイテム] を選択します。[フィルター] ボックスの右側にある下矢印  をクリックします。</p>
関連タスク	「結合フィルターの作成方法」(164ページ)
関連項目	「変更要求および作業のフィルターの概要」(161ページ)

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。


UIの要素	説明
	フィルターの表示。
	結合フィルターを示します。詳細については、「[フィルターの結合] タブ」(179ページ) を参照してください。
[自分のフィルター] カテゴリ	[自分のフィルター] カテゴリに保存されているフィルターを表示します。このフィルターは他のユーザーには表示されません。詳細については、「[フィルターの保存] ダイアログ ボックス」(189ページ) を参照してください。

UIの要素	説明
<p>[公開フィルター] カテゴリ</p>	<p>[フィルターの保存] ダイアログボックスで[公開フィルター] オプションを選択し、[公開フィルター] カテゴリに保存されているフィルターを表示します。</p> <p>注：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [公開フィルター] カテゴリのフィルターはすべてのユーザーに表示されます。 ▶ ユーザーに管理者の役割がない場合、フィルターは[自分のフィルター] カテゴリに表示されます。
<p>期間フィルター</p>	<p>[フィルターの保存] ダイアログボックスで[期間フィルター] オプションを選択し、[期間フィルター] カテゴリに保存されているフィルターを表示します。</p>

[フィルターの保存] ダイアログ ボックス

このダイアログボックスでは、フィルター設定を保存し、分析モジュールの [変更要求] ウィンドウおよびディレクターモジュールの [作業タイムライン] ウィンドウにフィルター結果を表示します。

注：保存したフィルターが期間フィルターで、期間カテゴリに含まれている場合、HP Release Control は、設定されているカテゴリに対する変更要求のルールコンプライアンスを再計算します。

アクセス方法	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [作業フィルター]/[変更要求フィルター] ダイアログボックスで、[保存]  をクリックします。 ▶ [フィルター] ウィンドウで、[名前を付けて保存] をクリックします。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [公開フィルター] または [期間フィルター] を保存する場合、カテゴリを指定して保存する必要があります ([カテゴリ] ドロップダウンリストからカテゴリを選択します)。 ▶ 保存したフィルターは、[フィルターの選択] リストで以下のいずれかのカテゴリに表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ [自分のフィルター] ▶ [公開フィルター] ([公開フィルター] チェックボックスがオンになっている場合) ▶ [期間フィルター] ([期間フィルター] チェックボックスがオンになっている場合)
関連タスク	「結合フィルターの作成方法」 (164 ページ)
関連項目	「変更要求および作業のフィルターの概要」 (161 ページ)

第4章「変更要求および作業のフィルター」

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
カテゴリ	[公開フィルター]または[期間フィルター]を保存する場合、カテゴリを指定して保存する必要があります([カテゴリ]ドロップダウンリストからカテゴリを選択します)。
説明	フィルターの説明を入力します。
名前	フィルターの名前を入力します。 注: フィルター名には疑問符(?)やアンパーサンド文字(&)は使用できません。
公開フィルター	管理者または変更マネージャーの役割を割り当てられているユーザーは、[公開フィルター]チェックボックスをオンにすることができます。これにより、作成中のフィルターは、すべてのユーザーが表示できるようになります。 注: 一般ユーザーの場合、フィルターは、[フィルターの選択]リストの[自分のフィルター]カテゴリに表示されます。管理者の場合、[公開フィルター]チェックボックスがオンになっていると、フィルターは[フィルターの選択]リストの[公開フィルター]カテゴリに表示されます。
期間フィルター	管理者の場合、[期間フィルター]チェックボックスをオンにすると、作成中のフィルターをベースに期間カテゴリを定義できるようになります。このフィルターは、[フィルターの選択]ダイアログボックスに表示され、管理モジュールの[期間]タブで期間カテゴリを定義するときに選択可能になります。期間の定義の詳細は、「[期間]タブ」(583ページ)を参照してください。 注: 以下の場合、[期間フィルター]チェックボックスをオンにすることはできません。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ [分析データ]タブで[期間の競合]オプションが選択されている場合 ▶ [ビジネス CI]タブで[自分のビジネス CIに影響する要求]オプションが選択されている場合 ▶ [日時]タブで[次の日時より後]、[次の日時より前]、[次の日時の間]以外のオプションが選択されている場合

パート IV

作業の監視と実施

第 5 章

ディレクターモジュール

注：この章は、NOCユーザーを対象としています。この章に記載されているアクションの大部分は、NOC権限がないと実行できません。

本章の内容

概念

- ▶ 「ディレクターモジュールの概要」 (194 ページ)
- ▶ 「タイムラインでの作業の表示」 (194 ページ)
- ▶ 「作業アラート」 (196 ページ)
- ▶ 「ユーザーコミュニケーション」 (197 ページ)

タスク

- ▶ 「作業の進捗状況のモニター方法」 (197 ページ)

リファレンス

- ▶ 「ディレクターモジュールのユーザーインターフェース」 (198 ページ)

概念

ディレクターモジュールの概要

ディレクターモジュールを使用すると、実施対象としてスケジュールされている変更要求のステータスをモニターできます。

ディレクターモジュールは、すべてのユーザーが表示することができます。**NOCユーザー** (NOC役割を割り当てられているユーザー)であれば、このモジュールでアクションを実行できます。NOC権限がない場合 (たとえば、リリースマネージャーや変更マネージャーの場合)、このモジュールを使用すれば、懸案の変更要求の情報を他のユーザーに通知できます。

実施段階では、変更要求は「**作業**」と呼ばれます。ディレクターモジュールでは、作業に関連するイベント (作業ステータスの更新や、実施中に発生した問題など) を監視できます。問題が発生した場合は、直ちにアクションを講じて、実施効率をできるだけ向上すると共に、本番環境へのインパクトを可能な限り抑えることができます。

作業実施の進捗状況をモニターする方法、実施中に起こりうる問題に対処する方法の例については、「作業の進捗状況のモニター方法」(197ページ)を参照してください。

タイムラインでの作業の表示

[作業タイムライン]ウィンドウには、選択した時間範囲内でスケジュールされている作業の一覧が表示されます。その作業のスケジュールは、タイムライン上にグラフィック表示されます。詳細については、「[作業タイムライン]ウィンドウ」(204ページ)を参照してください。

作業スケジュールのグラフィック表示には、作業のステータスが示されます。作業スケジュールを変更した場合は、その旨がタイムライン上に示されます。詳細については、「タイムライン上の作業の表示」(195ページ)を参照してください。

タイムライン領域は、過去の時間を表示する影付きの領域と、将来の時間を表示する影なしの領域に分割されています。過去と将来を分割する縦線は、現在の時間を表しています。デフォルトでは、現在の時間から12時間前までと12時間後までの範囲内でスケジュールされた作業が、テーブルに表示されます。タイムライン上に表示される時間間隔は、変更することが可能です。詳細については、「タイムラインの日時表示の変更」(196ページ)を参照してください。

作業をフィルターすることにより、特定の条件で絞り込んだ作業だけを表示できます。詳細については、「変更要求および作業のフィルター」(161ページ)を参照してください。

この項では、次の項目を説明します。

- ▶ 「タイムライン上の作業の表示」(195ページ)
- ▶ 「タイムラインの日時表示の変更」(196ページ)

タイムライン上の作業の表示

タイムラインを表示することにより、計画済み作業スケジュールと現在の作業ステータスを簡単に把握できます。

計画済み作業スケジュールは白抜きの横長の棒で表されるのに対して、**実際の実施期間**はベタ塗りの棒で表されます。

次の図の例で、白抜きの棒で表されているのが C00000221の計画済みスケジュールです。実際の実施時間は、ベタ塗りで表示されています。作業実施の開始時刻が午後1時30分頃だったことがわかります。

ID	サマリ	04/15/08 11:57AM	01:12 PM	02:27 PM	03:42 PM
C-00000383	Please open port 443 between servers th..				
C-00000221	SOX Remediation and Validatio/n of GCR..				

タイムライン上に暗い灰色の棒で表されているのが、作業のダウンタイムです。上の例では、ダウンタイムが開始された時刻は午後2時15分頃です。

作業にアラートがあるかどうか、また作業の実施が終了しているかどうかは、タイムライン上の作業の色でわかります。

- ▶ アラートのない作業は、緑で表示されます。
- ▶ アラートのある作業は、該当する作業で最も重大度の高いアラートが示す色（赤、黄色、青）で表示されます。作業のアラートの詳細は、「作業アラート」（196ページ）を参照してください。
- ▶ 実施が完了している作業は、灰色で表示されます。

タイムラインの日時表示の変更

タイムラインは4等分されていて、デフォルトでは時間の片半分（過去の時間）が影付き領域に表示され、もう片半分（将来の時間）が影なし領域に表示されます。現在の時間は、過去と将来を分割する縦線で表されます。

タイムライン上に表示される時間範囲、過去/将来の時刻として表示される時間値は、変更が可能です。詳細については、「[作業タイムライン]ウィンドウ」（204ページ）を参照してください。

作業アラート

ディレクターモジュールの[アラート]ウィンドウには、タイムライン上に表示されている作業についてのアラートが表示されます。このアラートには、一覧に表示された作業に関して検出された問題が通知されます。必要に応じて、アクションの実行要否を問い合わせるメッセージが表示されます。詳細については、「[アラート]ウィンドウ」（207ページ）を参照してください。

アラートにはエラーや警告が表示されることもあれば、情報提供目的のメッセージだけが表示されることもあります。アラートが生成されるのは、次のいずれかの状況に該当する場合です。

- ▶ 作業がスケジュールよりも前に開始された場合
- ▶ 作業が予定より遅れて開始する可能性が高いか、または実際に予定より遅れて開始した場合
- ▶ 作業が予定より遅れて終了する可能性が高いか、または実際に予定より遅れて終了した場合
- ▶ 変更諮問委員会 (CAB) からの承認なしに、作業が所定期間を外れた場合

- ▶ 作業に実施前ガイドラインまたは実施後ガイドラインがある場合
- ▶ 作業が別の作業と衝突する可能性が高いか、またはCABからの承認なしに作業が別の作業と実際に衝突した場合
- ▶ 実施担当者がアシスタンスを必要としている場合
- ▶ 緊急の作業が追加された場合
- ▶ 作業の詳細が変更された場合

ユーザーコミュニケーション

[コミュニケーション]ウィンドウでは、他のユーザーとのコミュニケーションを介して、関与している共通作業やその他のトピックについての情報をやり取りできます。詳細については、「[コミュニケーション]ウィンドウ」(231ページ)を参照してください。

タスク

作業の進捗状況のモニター方法

このタスクでは、作業の進捗状況を変更する方法と、実施中に発生する可能性のある問題への対処方法について説明します。

1 作業にアラートがあるかどうかの検査

ここでは、ABC Software CompanyのNOC変更マネージャーを考えてみましょう。このマネージャーは、新しいWebメールサーバーの導入作業の進捗状況のモニターを担当しています。

[作業タイムライン]ウィンドウで、担当している作業を選択します。[アラート]ウィンドウに、作業が予定より遅れて開始した旨を通知するアラートが表示されます。その結果、この作業は、CABからの承認なしに、別の作業と衝突するようにスケジュールされます。[アラート]ウィンドウの詳細については、「[アラート]ウィンドウ」(207ページ)を参照してください。

2 作業が予定より遅れた理由の把握

NOC変更マネージャーは、作業が所定の時間に開始されなかった理由を把握したいと考えています。そのため、[コミュニケーション]ウィンドウでチャットルームを開き、作業を担当する実施担当者とのコミュニケーションを通して、作業が遅延した理由についての情報を入手します。[コミュニケーション]ウィンドウの詳細については、「ユーザーコミュニケーション」(229ページ)を参照してください。

3 作業の再スケジュールによる衝突の回避

NOC変更マネージャーは、作業が別の作業と衝突するのを回避できるように、当初CABが計画したスケジュールよりも早期に作業を終了するように再スケジュールすることになりました。[作業タイムライン]ウィンドウで[作業の再スケジュール]をクリックし、[作業の再スケジュール]ダイアログボックスを開きます。詳細については、「[作業の再スケジュール]ダイアログボックス」(213ページ)を参照してください。

リファレンス



ディレクターモジュールのユーザーインターフェース

ここでは、以下について説明します。

- ▶ 「[作業情報]ダイアログボックス」(199ページ)
- ▶ 「[作業タイムライン]ウィンドウ」(204ページ)
- ▶ 「[アラート]ウィンドウ」(207ページ)
- ▶ 「[CI属性]ダイアログボックス」(210ページ)
- ▶ 「[コミュニケーション]ウィンドウ」(210ページ)
- ▶ 「ディレクターモジュールウィンドウ」(211ページ)
- ▶ 「[アラートの処理]ダイアログボックス」(211ページ)
- ▶ 「[作業<ID>のメモ]ダイアログボックス」(212ページ)
- ▶ 「[作業の再スケジュール]ダイアログボックス」(213ページ)
- ▶ 「[作業の更新]ダイアログボックス」(214ページ)

[作業情報] ダイアログボックス

このダイアログボックスでは、各作業についての情報を表示することができます。提供される情報には、作業についての詳細が含まれています。これ以外にも、実施前ガイドライン、実施後ガイドライン、作業関連イベント（たとえば、作業が再スケジュールされたかどうか、ステータスが更新されたかどうかなど）も表示されます。

アクセス方法	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ディレクターモジュールでの操作: [モジュール] > [ディレクター] > [コントロール] をクリックします。[作業タイムライン] ウィンドウまたは [アラート] ウィンドウで必要な作業を選択し、[作業情報]  をクリックします。 ▶ 実施担当者モジュールでの操作: [モジュール] > [ディレクター] > [実施担当者] を選択します。[To-Do一覧] ウィンドウで必要な作業を選択し、[作業情報]  をクリックします。
関連タスク	「作業の進捗状況のモニター方法」(197ページ)
関連項目	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「[レビュー] タブ」(177ページ) ▶ 「[アラート] ウィンドウ」(207ページ)

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
分析ビュー	分析モジュール内の作業を表示します。

[詳細] タブ

このタブには、選択した作業についての詳細が表示されます。

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
実際の終了日時	作業の実施が実際に終了した日時。
実際の開始日時	作業の実施が実際に開始された日時。

UIの要素	説明
変更タイプ	変更のタイプ (例: [計画済み] や [自動])。
連絡先の場所	作業を担当する人員の地理的場所。
連絡先窓口	作業を担当するユーザーの名前。
作成日時	当初サービスデスクアプリケーションで作業が作成された日時。
説明	作業の説明。
見積もりリスク	ユーザーが作業に割り当てた見積もりリスクレベル。
インパクトの重大度	HP Release Controlで計算された、作業のインパクトの重大レベル。
実施担当者	作業の実施を担当する人員。
最終インパクト計算日時	インパクト分析が最後に計算された時間。
最終更新日時	サービスデスクアプリケーション内で作業が最後に更新された時間。
NOC 計画終了日時	NOC ユーザーによって再スケジュールされた作業実施の終了予定日時。
NOC 計画開始日時	NOC ユーザーによって再スケジュールされた作業実施の開始予定日時。
計画終了日時	作業実施の終了予定日時。
計画開始日時	作業実施の開始予定日時。
Priority	作業の優先レベル。
要求ID	サービスデスクアプリケーションの作業のリファレンスID番号。

UIの要素	説明
リスク	この作業のリスクレベルを他の作業に対する相対値で示した0～100の数値。この値はHP Release Controlで計算されます。
サービスデスク	作業が生成されたサービスデスクアプリケーション。

[実施ガイドライン] タブ

このタブには、作業実施前/後に遵守すべきガイドラインが表示されます (CABによって割り当てられている場合)。

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
実施後	作業実施後に遵守すべきガイドラインが (CABによって割り当てられている場合)、表示されます。
実施前	作業実施前に遵守すべきガイドラインが (CABによって割り当てられている場合)、表示されます。

[イベント ログ] タブ



このタブでは、作業に関連するイベントが表示されます。ユーザーによって誘発されるイベントとシステムによって誘発されるイベントがあります。イベントログで表示される内容については、「[レビュー]>[イベント ログ] タブ」(157ページ)を参照してください。

[CI KPI] タブ

このタブには、選択した作業によってインパクトを受けるCIの重要業績評価指数 (KPI) が表示されます。

<p>アクセス方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [作業タイムライン] ウィンドウを選択し、[作業 CI の KPI]  をクリックします。 ▶ [作業タイムライン] ウィンドウで作業を選択し、[作業情報]  をクリックし、[CI KPI] タブをクリックします。
<p>重要な情報</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ この機能が使用可能になるのは、HP Release ControlがHP Business Availability Center 8.0以降に統合されている場合だけです。 ▶ CI KPIを表示するには、HP Business Availability Centerが実行中である必要があります。
<p>関連項目</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ この機能の構成方法の詳細は、「[監視] ウィンドウ」(425ページ)を参照してください。 ▶ 作業の情報やコメントを送信する方法については、「[作業 <ID> のメモ] ダイアログボックス」(212ページ)を参照してください。 ▶ タイムラインに追加情報レイヤーを表示する方法については、「[作業タイムライン] ウィンドウ」(204ページ)を参照してください。

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します(ラベルのない要素は、山かっこ<>で囲まれています)。





UIの要素	説明
<p>[インパクトを受ける CI] ウィンドウ</p>	<p>変更要求の影響を受けるビジネスCIとシステムCIを表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶  HP Release Controlでは、インパクトを受けるCIの一覧が毎分自動的に更新されます。[作業タイムラインの更新]をクリックすると、表示が最新の情報に更新されます。 ▶  選択したCIの属性を表示します。[CI 属性]ダイアログボックスが開きます。 ▶ <インパクトを受けるCIの一覧> 変更要求のインパクトを受けるビジネスCIとシステムCIの一覧。 <p>[インパクトを受ける CI] ウィンドウでCIをどれか1つ選択すると、[重要業績評価指数] ウィンドウにKPIの詳細が表示されます。このウィンドウのアイコンの説明は、「[評価]>[インパクト] タブ」(76ページ)を参照してください。</p>
<p>[重要業績評価指数] ウィンドウ</p>	<p>[インパクトを受ける CI] ウィンドウで選択したCIに関連付けられているKPIの詳細が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 名前。 KPIタイプ。 ▶ ソース。 KPI情報を提供するアプリケーション。 ▶ ステータス。 KPIのステータス。 ▶ 値。 ステータスが提供されていない場合は、KPIの値が表示されます。値の単位は、かっこの中に表示されます。

[作業タイムライン] ウィンドウ


このウィンドウには、選択した時間範囲内にスケジュールされている作業の一覧が表示されます。その作業のスケジュールは、タイムライン上にグラフィック表示されます。作業スケジュールのグラフィック表示には、未開始、開始済み、完了済みなどの作業ステータスが示されます。作業スケジュールを変更した場合は、その旨がタイムライン上に示されます。

アクセス方法	[モジュール]>[ディレクター]>[コントロール]>[作業タイムライン] ウィンドウを選択します。
関連項目	「タイムラインでの作業の表示」(194ページ)

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
	<p>レイヤーの表示。 タイムラインに情報レイヤーを追加することによって、追加情報を表示できます。表示したい情報レイヤーを選択します。</p> <p>閲覧できる有効な情報レイヤーについては、「[作業タイムライン] ウィンドウ内の情報レイヤー」(206ページ)を参照してください。</p>
 	<p>ドラッグモード/カーソルモード。 タイムライン領域に表示される過去/将来の時刻の時間値を変更することができます。[ドラッグモード]と[カーソルモード]は、切り替えが可能です。</p> <p>▶ [ドラッグモード]をクリックして、タイムライン領域上にカーソルを置くと、カーソルが手の形状に変わります。タイムライン領域を左側にドラッグすると未来の時間の表示範囲が広がり、右側にドラッグすると過去の時間の表示範囲が広がります。先に表示されていた作業は、新しく表示された時間範囲に従って更新されます。</p> <p>▶ [カーソルモード]をクリックすると、通常のカーソルに戻ります。</p>
	<p>作業情報。 [作業情報] ダイアログボックスを開きます。選択した作業に関する詳細が表示されます。</p> <p>注: [作業情報] ボタンは[アラート] ウィンドウ内でも使用可能です。</p>

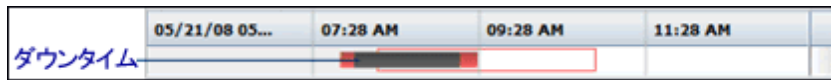
UIの要素	説明
	作業ステータスの更新。 [作業ステータスの更新]ダイアログボックスを開きます。実施担当者が直接に作業ステータスを更新できない場合に、実施担当者に代わってステータスを更新することができます。
	作業の再スケジュール。 [作業の再スケジュール]ダイアログボックスが開きます。当初CABによって計画されたスケジュールよりも前または後に開始/終了するように、作業を再スケジュールすることができます。
	イベントログにメモを送信。 [作業<ID>のメモ]ダイアログボックスを開きます。作業の情報やコメントをイベントログに送信することができます。
	作業チャットルームが開きます。 [コミュニケーション]ウィンドウにチャットルームが開きます。詳細については、「ユーザーコミュニケーション」(229ページ)を参照してください。
	HP Release Controlでは、[作業タイムライン]ウィンドウを毎分自動更新します。[作業タイムラインの更新]をクリックすると、表示が最新の情報に更新されます。
作業	[作業タイムライン]ウィンドウに表示すべき作業を指定する基準を定義します。詳細については、「[フィルターを選択]リスト」(187ページ)を参照してください。
ID	サービスデスクアプリケーションの作業のリファレンスID番号。
結果	[作業タイムライン]ウィンドウに表示される作業の数。

UIの要素	説明
サマリ	作業の説明。
日時範囲	<p>タイムライン上に表示される時間範囲を変更します。</p>  <p>[日時範囲] スライダーを左または右にドラッグするか、数値ステッパを使用して、表示される時間の数値を選択できます。選択可能な時間範囲は、1～24時間です。デフォルトでは、時間範囲として24時間が表示されます。</p>

[作業タイムライン] ウィンドウ内の情報レイヤー

タイムライン内の有効な情報レイヤーは、1つずつまたは同時に表示することができます。

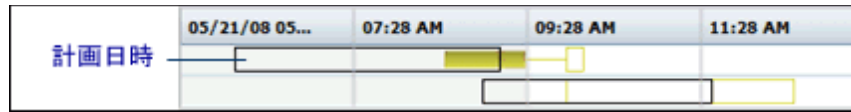
- ▶ **ダウンタイム**。作業実施中のCI側でのダウンタイム間隔。ダウンタイムは、暗い灰色でベタ塗りされた棒で表されます。



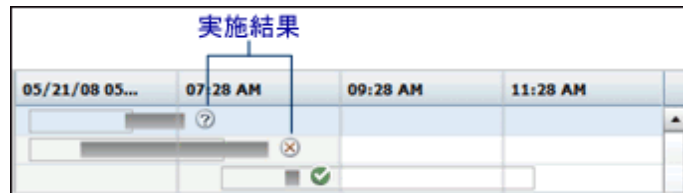
- ▶ **リンク線**。2つの作業スケジュール（計画済み実施スケジュールと実際の実施スケジュール）は、重なっていないときに細い線でリンクされます。







- ▶ **計画日時。**当初CABによって定義された作業の実施スケジュール。黒で囲んだ白抜き
の棒で表されます。



- ▶ **実施結果。**終了した作業については、タイムライン上に実施結果を表示することが
できます。













- ▶  **成功。**実施が成功したことを示します。
- ▶  **成功 (問題あり)。**実施が成功したが、なんらかの問題が発生したことを示
します。
- ▶  **失敗。**実施が失敗したことを示します。
- ▶  **キャンセル済み。**実施がキャンセルされたことを示します。









[アラート] ウィンドウ

このウィンドウには、作業に関連した問題について通知が表示されます。アラートには
それ以外にも警告が表示されることもあれば、情報提供目的のメッセージだけが表示さ
れることもあります。

アクセス方法	[モジュール]>[ディレクター]>[コントロール]>[アラート] ウィ ンドウを選択します。
重要な情報	これらの構成を有効にするには、いったんログアウトしてからログ オンする必要があります。
関連項目	「作業アラート」(196ページ)




ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明																																	
	<p>オープンのアラートのみを表示。 オープンのアラートのみを表示します。このビューでは、取り消し済みのアラートとリマインダーモードのアラートは表示対象外になります。</p> <p>注：これはデフォルトのビューです。</p>																																	
	<p>選択した作業と同期。 選択した作業に関連付けられているアラートだけを表示します。</p> <p>注：オープンのアラートだけを表示するには、[オープンのアラートのみを表示]  をクリックします。</p>																																	
	<p>作業別にグループ化。 [アラート] ウィンドウ内のアラートを作業別にグループ化できます。アラートが作業別にグループ化されている場合、アラートアイコンの隣に簡条書きマークが表示されます。</p> <table border="1" data-bbox="578 716 1096 791"> <thead> <tr> <th>▼</th> <th>日時</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>火 午後 09:40</td> <td>T-00000131 (2)</td> </tr> </tbody> </table> <p>簡条書きマークをクリックすると、作業のアラートが展開されます。</p> <table border="1" data-bbox="578 869 1228 1055"> <thead> <tr> <th>▼</th> <th>日時</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>▼</td> <td>火 午後 09:40</td> <td>Alona_3 (2)</td> </tr> <tr> <td>▼</td> <td>火 午後 09:40</td> <td>Alona_3 which was planned to start at: Mon 04:30 AM is late to start</td> </tr> <tr> <td>▼</td> <td>火 午後 09:40</td> <td>Emergency Alona_3 was inserted</td> </tr> <tr> <td>▼</td> <td>火 午後 09:40</td> <td>2000 (4)</td> </tr> <tr> <td>▼</td> <td>火 午後 09:40</td> <td>Collision detected between 2000 and 3000 on Implementor, DAB/DAB</td> </tr> <tr> <td>▼</td> <td>火 午後 09:40</td> <td>2000 which was planned to start at: Mon 07:30 AM has started early</td> </tr> <tr> <td>▼</td> <td>火 午後 09:40</td> <td>2000 has pre-implementation CAB guidelines</td> </tr> <tr> <td>▼</td> <td>火 午後 09:40</td> <td>Emergency 2000 was inserted</td> </tr> </tbody> </table> <p>注：オープンのアラートだけを表示するには、[オープンのアラートのみを表示]  をクリックします。</p>	▼	日時	説明		火 午後 09:40	T-00000131 (2)	▼	日時	説明	▼	火 午後 09:40	Alona_3 (2)	▼	火 午後 09:40	Alona_3 which was planned to start at: Mon 04:30 AM is late to start	▼	火 午後 09:40	Emergency Alona_3 was inserted	▼	火 午後 09:40	2000 (4)	▼	火 午後 09:40	Collision detected between 2000 and 3000 on Implementor, DAB/DAB	▼	火 午後 09:40	2000 which was planned to start at: Mon 07:30 AM has started early	▼	火 午後 09:40	2000 has pre-implementation CAB guidelines	▼	火 午後 09:40	Emergency 2000 was inserted
▼	日時	説明																																
	火 午後 09:40	T-00000131 (2)																																
▼	日時	説明																																
▼	火 午後 09:40	Alona_3 (2)																																
▼	火 午後 09:40	Alona_3 which was planned to start at: Mon 04:30 AM is late to start																																
▼	火 午後 09:40	Emergency Alona_3 was inserted																																
▼	火 午後 09:40	2000 (4)																																
▼	火 午後 09:40	Collision detected between 2000 and 3000 on Implementor, DAB/DAB																																
▼	火 午後 09:40	2000 which was planned to start at: Mon 07:30 AM has started early																																
▼	火 午後 09:40	2000 has pre-implementation CAB guidelines																																
▼	火 午後 09:40	Emergency 2000 was inserted																																
	<p>作業情報。 選択した作業に関する詳細が含まれます。[作業情報] ダイアログボックスを開きます。</p> <p>注：[作業情報] ボタンは [作業タイムライン] ウィンドウ内でも使用可能です。</p>																																	
 処理	<p>アラートの処理。 アラートの生成時に、アラートの処理方法を指定することができます。[アラートの処理] ダイアログボックスを開きます。</p>																																	

UIの要素	説明
	<p>作業チャットルームが開きます。[コミュニケーション] ウィンドウにチャットルームが開きます。詳細については、「ユーザーコミュニケーション」(229ページ)を参照してください。</p>
	<p>アラートの重大度を示します。アラートアイコンの色は、該当する作業で最も重大度の高いアラートが示す色です。</p> <p>アラートの重大度およびアラートステータスは、各アラートの横に表示されるアイコンで示されます。</p> <p>アラートアイコンには次の種類があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 赤 。エラーを示します。 ▶ 黄色 。警告を示します。 ▶ 青 。通知を示します。 <p>アラートステータスは、次のいずれかです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ オープン 。アラートがアクティブです。 ▶ 取り消し済み 。アラートは検知された後で[アラート]ウィンドウから削除されました。 ▶ リマインダーモード 。アラートはリマインダーモードです。
<p>説明</p>	<p>作業のID。作業IDの横のかつこ内の数は、該当する作業のアラートの数を示しています。</p>
<p>時間</p>	<p>アラートが生成された時間。</p>

[CI 属性] ダイアログボックス

このダイアログボックスには、選択したCIの属性が表示されます。

<p>アクセス方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 分析モジュールでのアクセス方法: [モジュール]>[分析]>[評価]>[インパクト] タブを選択します。次に、[インパクトを受ける CI] ウィンドウの [CI 属性]  をクリックします。 ▶ ディレクターモジュールでのアクセス方法: [モジュール]>[ディレクター]>[コントロール] をクリックします。[作業タイムライン] ウィンドウまたは [アラート] ウィンドウの [作業情報]  をクリックして、[作業情報] ダイアログボックスを開きます。[CI KPI] タブをクリックし、[インパクトを受ける CI] ウィンドウで [CI 属性]  をクリックします。
<p>重要な情報</p>	<p>表示される属性をカスタマイズする方法については、「[CI 表示] ウィンドウ」(411ページ) を参照してください。</p>

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
<p>名前</p>	<p>属性の名前。</p>
<p>値</p>	<p>属性の値。</p>

[コミュニケーション] ウィンドウ

このウィンドウでは、各作業に携わるユーザーや特定のトピックに関心のあるユーザーとコミュニケーションをとることができます。詳細については、「ユーザーコミュニケーション」(229ページ) を参照してください。

<p>アクセス方法</p>	<p>[モジュール]>[ディレクター]>[コントロール]>[コミュニケーション] ウィンドウを選択します。</p>
<p>関連タスク</p>	<p>「作業の進捗状況のモニター方法」(197ページ)</p>

ディレクターモジュールウィンドウ

このウィンドウでは、実施対象としてスケジュールされている変更要求のステータスをモニターできます。

このウィンドウには、次のウィンドウが含まれます。

- ▶ 「[作業タイムライン]ウィンドウ」(204ページ)
- ▶ 「[アラート]ウィンドウ」(207ページ)
- ▶ 「[コミュニケーション]ウィンドウ」(210ページ)


アクセス方法	[モジュール]>[ディレクター]>[コントロール]をクリックします。
関連タスク	「作業の進捗状況のモニター方法」(197ページ)
関連項目	「ディレクターモジュールの概要」(194ページ)

[アラートの処理]ダイアログボックス



このダイアログボックスでは、アラートの処理方法を指定します。

アラートの生成時に、そのアラートの処理方法を選択することができます。次の操作を行うことができます。

- ▶ アラートリマインダーの要求
- ▶ アラートの取り消し
- ▶ 取り消し済みのアラートまたはリマインダーモードでのアラートの再オープン


アクセス方法	[モジュール]>[ディレクター]>[コントロール]を選択します。 [アラート]ウィンドウで必要なアラートを選択し、[アラートの処理]  処理 をクリックします。
関連タスク	「作業の進捗状況のモニター方法」(197ページ)
関連項目	「作業アラート」(196ページ)

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
アラートを取り消す。アラートの重大度が増大した場合のみアラートを再オープン	アラートを取り消すことができます。 このアラートの重大度が高くなると、アラートは前よりも高い重大度で再オープンされます。たとえば、アラートが別のアラートと衝突しかかっているときは、警告アラート(黄色)が生成されます。このアラートの取り消し後に作業どうしが衝突した場合、アラートはエラーアラート(赤色)として再オープンされます。
注	(オプション)アラートに関連付けたいメモを入力できる、自由形式のテキストボックス。
再通知する。再通知までの時間：	アラートリマインダーを要求します。ドロップダウンリストで、リマインダーをいつアクティブ化するかを選択します。
アラートを再オープン	取り消し済みのアラートのうちのどれかを選択して再オープンします。通常のアラート  アイコンがアラートの横に表示された場合、そのアラートがオープン状態であることを示しています。 注： アラートを再オープンする際には、 [オープンのアラートのみを表示]  がオフであることを確認してください。

[作業 <ID> のメモ] ダイアログボックス

このダイアログボックス内の自由形式のテキストボックスには、イベントログに送信したい作業情報やコメントを入力できます。


アクセス方法	[モジュール]>[ディレクター]>[コントロール]を選択します。[作業タイムライン]ウィンドウで、コメントする作業を選択し、 [イベント ログにメモを送信]  をクリックします。
関連項目	「[イベント ログ]タブ」(202ページ)

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。


UIの要素	説明
注	イベントログに送信する作業情報やコメント。

[作業の再スケジュール] ダイアログボックス

このダイアログボックスでは、当初CABによって計画されたスケジュールよりも前に開始あるいは後に終了するように、作業を再スケジュールすることができます。


アクセス方法	[モジュール]>[ディレクター]>[コントロール]を選択します。[作業タイムライン] ウィンドウで、必要な作業を選択して [作業の再スケジュール]  をクリックします。
重要な情報	作業の開始は、当初CABによって計画された開始時間から12時間前までの任意の時間に再スケジュールできます。作業の終了は、当初CABによって計画された終了時間から12時間後までの任意の時間に再スケジュールできます。
関連タスク	「作業の進捗状況のモニター方法」(197ページ)
関連項目	「[イベント ログ] タブ」(202ページ)

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。





UIの要素	説明
	カレンダーを開きます。新しい日付と時刻を選択します。 注： 更新済みのスケジュールがタイムラインに表示され、対象のイベントがイベントログに記録されます。
終了日時	選択した作業の新しい終了時間を表示します。
開始日時	選択した作業の新しい開始時間を表示します。






[作業の更新] ダイアログボックス

このダイアログボックスでは、実施担当者が直接に作業ステータスを更新できない場合に、実施担当者に代わってステータスを更新することができます。

アクセス方法	[モジュール]>[ディレクター]>[コントロール]を選択します。[作業タイムライン]ウィンドウで、必要な作業を選択し、[作業ステータスの更新]  をクリックします。
関連タスク	「作業の進捗状況のモニター方法」(197ページ)

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
実際の終了日時	<ul style="list-style-type: none"> ▶  をクリックすると、作業が終了した (現在または過去の) 日時を選択できます。 ▶  をクリックして現在のステータスを消去します。 <p>注：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [実際の終了日時] を更新するには、先に [実際の開始日時] を更新しておく必要があります。 ▶ ユーザーが HP Service Manager/Center にサービスデスクとして完全に統合されている場合、[実際の終了日時] フィールドは、ディレクターモジュール内で更新された時点で、元のサービスデスク内でも自動的に更新されます。
実際の開始日時	<ul style="list-style-type: none"> ▶  をクリックすると、作業が開始した (現在または過去の) 日時を選択できます。 ▶  をクリックして現在のステータスを消去します。 <p>注：ユーザーが HP Service Manager/Center にサービスデスクとして完全に統合されている場合、[実際の開始日時] フィールドは、ディレクターモジュール内で更新された時点で、元のサービスデスク内でも自動的に更新されます。</p>

UIの要素	説明
ダウンタイム終了日時	<ul style="list-style-type: none"> ▶  をクリックすると、ダウンタイムが終了した (現在または過去の) 日時を選択できます。 ▶  をクリックして現在のステータスを消去します。 <p>注： [ダウンタイム終了日時] を更新するには、先に [ダウンタイム開始日時] を更新しておく必要があります。</p>
ダウンタイム開始日時	<ul style="list-style-type: none"> ▶  をクリックすると、ダウンタイムが開始した (現在または過去の) 日時を選択できます。 ▶  をクリックして現在のステータスを消去します。 <p>注：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [ダウンタイム開始日時] を更新するには、先に [実際の開始日時] を更新しておく必要があります。 ▶ [ダウンタイム開始日時] を更新した場合、先に [ダウンタイム終了日時] を更新してからでないと、[実際の終了日時] を更新できません。
注	(省略可能) ステータス更新についてのメモを入力できる、自由形式のテキストボックス。
対象	実施担当者に代わって作業ステータスを更新する場合、対象の実施担当者を選択します。実施担当者の名前は、ドロップダウンメニューから選択できます。別の方法として、[実施担当者の選択]  をクリックし、表示された一覧から名前を選択する方法もあります。
Outcome	[実際の終了日時] を更新すると、[結果] ボックスが有効になります。次の作業結果のいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 成功。 作業が成功したことを示します。 ▶ 成功 (問題あり)。 作業が全面的に成功したが、なんらかの問題が発生したことを示します。 ▶ 失敗。 作業が失敗したことを示します。 ▶ キャンセル済み。 作業がキャンセルされたことを示します。

第 6 章

実施担当者モジュール

本章の内容

概念

▶ 「実施担当者モジュールの概要」 (217 ページ)

▶ 「作業実施の管理」 (218 ページ)

タスク

▶ 「作業の進捗状況の変更方法」 (218 ページ)

リファレンス

▶ 「実施担当者モジュールのユーザーインターフェース」 (221 ページ)

概念

実施担当者モジュールの概要

実施担当者は、自分に割り当てられた作業を実施担当者モジュールで管理することができます。担当している作業の情報を表示し、担当している作業のステータスを更新できます。ステータスが更新されると、現在の作業ステータスがNOCユーザーに通知されます。詳細については、「[To-Do一覧] ウィンドウ」 (225 ページ) を参照してください。

実施担当者モジュールを使用することにより、同じ作業が割り当てられている他の実施担当者だけでなく、その作業に関与しているNOCユーザーやその他のユーザーともコミュニケーションできます。詳細については、「ユーザーコミュニケーション」 (229 ページ) を参照してください。

作業実施の管理

実施担当者モジュールには、現在の日時をまたいだ24時間（過去の12時間と未来の12時間）以内に自分に割り当てられた作業の一覧が、スケジュール済みの開始日時を基準にソートされて表示されます。

各作業の現在のステータスは、**To-Do**一覧に表示されます。実施の進捗に合わせて、作業ステータスを更新してください。作業ステータスの更新方法については、「**[To-Do一覧] ウィンドウ**」（225ページ）を参照してください。

実施が完了すると、実施結果を更新できます。実施結果の更新方法については、「**[作業完了のレポート] ダイアログボックス**」（224ページ）を参照してください。

タスク

作業の進捗状況の変更方法

ここでは、作業の進捗状況を変更する方法と、実施中に発生する可能性のある問題への対処方法について説明します。

このタスクでは、以下の手順を実行します。

- ▶ 「作業情報の表示」（219ページ）
- ▶ 「イベントログ情報の表示」（219ページ）
- ▶ 「作業ステータスの更新」（220ページ）
- ▶ 「NOCアシスタンスの要求」（220ページ）
- ▶ 「他の実施担当者とのコミュニケーション」（220ページ）
- ▶ 「サーバーダウンタイム開始のレポート」（221ページ）
- ▶ 「サーバーダウンタイム終了のレポート」（221ページ）
- ▶ 「作業結果のレポート」（221ページ）

1 作業情報の表示

ここでは、HP Release Control サーバーで電子メール通知の問題が発生しており、あるユーザーが、問題解決の進捗状況の変更を担当しているとします。



このユーザーは、[To-Do 一覧] ウィンドウで、担当している作業を選択します。[作業情報] ボタンをクリックし、[作業情報] ダイアログボックスを開きます。次に、[実施ガイドライン] タブをクリックすると、作業実施の前後に実行する必要がある CAB ガイドラインが表示されます。

電子メール通知の問題を解決するためには、HP Release Control サーバーのダウンタイム期間のスケジューリングを行う必要があるため、実施前ガイドラインに従い、事前にサーバーの停止予定日時および期間を関係者に通知しなければなりません。

また、実施後ガイドラインに従い、ダウンタイムについて関係者に事前通知しておく必要があります。

[実施ガイド] タブの詳細については、「[実施ガイドライン] タブ」(201 ページ) を参照してください。

2 イベントログ情報の表示

HP Release Control サーバーのダウンタイムが他のクリティカルアプリケーションに影響しないことを確認するためには、担当している作業の関連情報をレビューする必要があります。

この情報は、次で確認できます。

- ▶ **イベントログ。**[作業情報] ダイアログボックスの [イベント ログ] タブをクリックします。イベントログ情報の詳細は、「[イベント ログ] タブ」(202 ページ) を参照してください。
- ▶ **分析モジュール。**[作業情報] ダイアログボックスの [詳細] タブで、[分析ビュー] ボタンをクリックします。詳細については、「[詳細] タブ」(199 ページ) を参照してください。

3 作業ステータスの更新

実施を開始する前、作業ステータスは **[未開始]** です。実施を開始してよいと判断したら、作業ステータスを **[作業開始のレポート]** に更新します。



To-Do 一覧で担当の作業を選択し、**[作業開始のレポート]** ボタンをクリックします。作業ステータスが **[開始済み]** に更新されます。

作業ステータスについては、「[To-Do 一覧] ウィンドウ」(225 ページ) を参照してください。

4 NOC アシスタンスの要求

ここでは、電子メール通知の問題を解決する過程で、対象サーバーで別のハードウェア障害が発生していることに気づき、調査を開始したと想定します。この問題に対するアシスタンス要求のメッセージを NOC ユーザーに送信します。



[To-Do 一覧] ウィンドウで、アシスタンスが必要な作業を選択します。**[NOC アシスタンスの要求]** ボタンをクリックし、[NOC アシスタンス要求] ダイアログボックスを開きます。アシスタンス要求を入力し、**[OK]** をクリックします。この要求はディレクターモジュールに送信され、モジュール内で重大度の高いアラートとして表示されます。

詳細については、「[NOC アシスタンス要求] ダイアログボックス」(223 ページ) を参照してください。

5 他の実施担当者とのコミュニケーション

予定のサーバーダウンタイムを実施する準備が整いました。ここでは、同僚の Lauren がそのサーバーで作業していることに気付いたことを想定します。まず、作業チャットルームを開き、サーバーを停止する必要があることを Lauren に通知します。



チャットを行う作業を To-Do 一覧で選択し、[To-Do 一覧] ツールバーの **[作業チャットルームを開く]** ボタンをクリックします。[コミュニケーション] ウィンドウに、チャットルームウィンドウが開きます。**[送信]** ボタンの隣にあるボックスにメッセージを入力し、**[送信]** をクリックします。

作業チャットルームの使用方法については、「ユーザーコミュニケーション」(229ページ)を参照してください。

6 サーバーダウンタイム開始のレポート



サーバーを停止する前に、作業ステータスを更新する必要があります。担当する作業を選択し、[To-Do一覧] ツールバーの [**ダウンタイム開始のレポート**] ボタンをクリックします。

7 サーバーダウンタイム終了のレポート



サーバーを再起動する準備ができたなら、担当の作業を選択し、[To-Do一覧] ツールバーの [**ダウンタイム終了のレポート**] ボタンをクリックします。

8 作業結果のレポート



作業の実施完了後、作業のステータスを更新して、その結果を通知する必要があります。担当する作業を選択し、[To-Do一覧] ツールバーの [**作業完了のレポート**] ボタンをクリックします。[作業完了のレポート] ダイアログボックスが開くので、必要な作業結果を選択します。

作業結果のオプションについては、「[作業完了のレポート] ダイアログボックス」(224ページ)を参照してください。

リファレンス

実施担当者モジュールのユーザーインターフェース

ここでは、以下について説明します。

- ▶ 「[コミュニケーション] ウィンドウ」(222ページ)
- ▶ 「[実施担当者] ウィンドウ」(222ページ)
- ▶ 「[NOCアシスタンス要求] ダイアログボックス」(223ページ)
- ▶ 「[作業完了のレポート] ダイアログボックス」(224ページ)
- ▶ 「[To-Do一覧] ウィンドウ」(225ページ)

[コミュニケーション] ウィンドウ

このウィンドウでは、各作業に携わるユーザーや特定のトピックに関心のあるユーザーとコミュニケーションをとることができます。詳細については、「ユーザーコミュニケーション」(229ページ)を参照してください。

アクセス方法	[モジュール]>[ディレクター]>[実施担当者]>[コミュニケーション] ウィンドウをクリックします。
関連タスク	「作業の進捗状況の変更方法」(218ページ)

[実施担当者] ウィンドウ

このウィンドウでは、現在日時を中心とした24時間(過去12時間と今後12時間)以内に自分に割り当てられた作業が、スケジュールされた開始日時順に一覧表示されます。

担当している作業の情報を表示し、担当している作業のステータスを更新できます。作業ステータスの更新方法については、「[To-Do一覧] ウィンドウ」(225ページ)を参照してください。

実施が完了すると、実施結果を更新できます。詳細については、「[作業完了のレポート] ダイアログボックス」(224ページ)を参照してください。

このウィンドウには、次のウィンドウが含まれます。

- ▶ 「[To-Do一覧] ウィンドウ」(225ページ)
- ▶ 「[コミュニケーション] ウィンドウ」(222ページ)

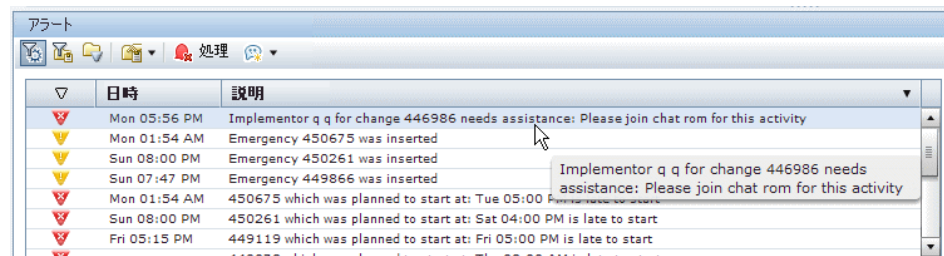
アクセス方法	[モジュール]>[ディレクター]>[実施担当者] を選択します。
関連タスク	「作業の進捗状況の変更方法」(218ページ)
関連項目	「作業実施の管理」(218ページ)

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。


UIの要素	説明
説明	選択した変更についての長い説明。
サマリ	選択した変更についての短い説明。

[NOCアシスタンス要求] ダイアログボックス

実施担当者は、このダイアログボックスで、特定の作業に対するアシスタンス要求メッセージをNOCユーザーに送信できます。これは、重要度の高いアラートメッセージとしてディレクターモジュールに送信され、ユーザーのアシスタンス要求を通知します。




ディレクターモジュールの詳細は、「ディレクターモジュール」(193ページ)を参照してください。

アクセス方法	アシスタンスに必要な作業を選択し、[To-Do 一覧] ツールバーの [NOC アシスタンスの要求]  をクリックします。
関連タスク	「作業の進捗状況の変更方法」(218ページ)
関連項目	「作業実施の管理」(218ページ)

[作業完了のレポート] ダイアログボックス

作業ステータスを更新したら、このダイアログボックスのTo-Do一覧から必要な実施結果を選択することができます。作業ステータスの更新方法については、「[To-Do一覧] ウィンドウ」（225ページ）を参照してください。

[ステータス] 列のステータスが [完了] に変わり、[結果] 列が適切なアイコンで更新されます。[更新日時] 列に表示されるアイコンについては、「[To-Do一覧] ウィンドウ」（225ページ）を参照してください。

アクセス方法	[To-Do一覧] ツールバーの [作業完了のレポート]  をクリックします。
関連タスク	「作業の進捗状況の変更方法」（218ページ）
関連項目	「作業実施の管理」（218ページ）

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。








UIの要素	説明
注	(省略可能) 作業の結果についてのコメントを入力します。
Outcome	次の作業結果のいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 成功。作業が成功したことを示します。 ▶ 成功 (問題あり)。全体としては成功しましたが、何らかの問題が発生したことを示します。 ▶ 失敗。作業が失敗したことを示します。 ▶ キャンセル済み。作業がキャンセルされたことを示します。













 **[To-Do一覧] ウィンドウ**

To-Do一覧には、現在日時を中心とする24時間(過去12時間と今後12時間)以内に自分に割り当てられた作業が一覧表示されます。この一覧には、スケジュールされた作業開始日時、要約、説明が表示されます。作業ステータスと実施結果は、実施の進捗状況に合わせて更新されます。

アクセス方法	[モジュール]>[ディレクター]>[実施担当者]>[To-Do一覧] ウィンドウをクリックします。
関連タスク	「作業の進捗状況の変更方法」(218ページ)
関連項目	「作業実施の管理」(218ページ)

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
	<p>作業情報。[作業情報] ダイアログボックスを開きます。選択した作業に関する詳細が表示されます。詳細については、「[作業情報] ダイアログボックス」(199ページ)を参照してください。</p>
	<p>作業チャットルームが開きます。[コミュニケーション] ウィンドウにチャットルームが開きます。詳細については、「ユーザーコミュニケーション」(229ページ)を参照してください。</p>
	<p>NOCアシスタンスの要求。[NOC アシスタンス要求] ダイアログボックスが開きます。実施担当者は、作業に対するアシスタンス要求メッセージをNOCユーザーに送信できます。これは、重要度の高いアラートメッセージとしてディレクターモジュールに送信され、実施担当者のアシスタンス要求を通知します。詳細については、「作業アラート」(196ページ)を参照してください。</p>
	<p>作業開始のレポート。作業のステータスを [開始済み] に更新します。 注:ユーザーがサービスデスクとして HP Service Manager/Center に完全に統合されている場合、[作業開始のレポート] フィールドを実施担当者モジュール内で更新すると、要求発生元のサービスデスク内でも自動的に更新されます。</p>
	<p>作業完了のレポート。作業のステータスを [完了] に更新します。[作業完了のレポート] ダイアログボックスが開くので、実施結果を入力してください。 注:ユーザーがサービスデスクとして HP Service Manager/Center に完全に統合されている場合、[作業完了のレポート] フィールドが実施担当者モジュール内で更新された時点で、要求発生元のサービスデスク内でも自動的に更新されます。</p>
	<p>ダウンタイム開始のレポート。作業ダウンタイムの開始をレポートします。</p>
	<p>ダウンタイム終了のレポート。作業ダウンタイムの終了をレポートします。</p>

UIの要素	説明
	<p>結果。 [作業完了のレポート] ダイアログボックスで結果を選択すると、[結果] 列が次のいずれかのアイコンで更新されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶  成功。 実施が成功しました。 ▶  成功 (問題あり)。 実施は成功しましたが、何らかの問題が発生しました。 ▶  失敗。 実施が失敗しました。 ▶  キャンセル済み。 作業がキャンセルされました。
作業ID	サービスデスクアプリケーションの作業のリファレンスID番号。
NOC 計画開始日時	NOCユーザーによって再スケジュールされた作業開始の予定日時。
ステータス	<p>実施を開始する前、作業ステータスは[未開始]です。実施を開始してステータスを更新すると、ディレクターモジュールも自動的に更新されます。これにより、NOCユーザーは実施の進行状況を追跡し、必要に応じてアシスタンスを提供することができます。</p> <p>実施担当者モジュールで作業ステータスを更新するには、[To-Do 一覧] ツールバーの該当のボタンを使用して、更新したい作業を選択します。</p> <p>作業のステータスは、次のいずれかに更新されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶  未開始。 実施を開始する前、作業ステータスは[未開始]です。 ▶  開始済み。 作業ステータスを[開始済み]に更新するには、[作業開始のレポート]  または [ダウンタイム終了のレポート]  をクリックします。 ▶  ダウン。 作業のステータスを[ダウン]に更新するには、[ダウンタイム開始のレポート]  をクリックします。 ▶  完了。 変更の実施は完了しています。

第7章

ユーザーコミュニケーション

本章の内容

概念

- ▶ 「ユーザーコミュニケーションの概要」(229ページ)

リファレンス

- ▶ 「[コミュニケーション]ウィンドウのユーザーインタフェース」(230ページ)

概念

ユーザーコミュニケーションの概要

[コミュニケーション]ウィンドウで作業チャットルームを開くことによって、他のユーザーとのコミュニケーションを通じて、関与している作業やその他のトピックについての情報をやり取りできます。詳細については、「[コミュニケーション]ウィンドウ」(231ページ)を参照してください。

[コミュニケーション]ウィンドウは、ディレクターモジュールと実施担当者モジュールで表示されます。

- ▶ ディレクターモジュールのユーザー（たとえば、NOCユーザー、リリースマネージャー、変更マネージャー）はディレクターモジュールからコミュニケーションを行います。詳細については、「ディレクターモジュール」(193ページ)を参照してください。
- ▶ 実施担当者は、実施担当者モジュールからコミュニケーションを行います。詳細については、「実施担当者モジュール」(217ページ)を参照してください。

作業チャットルーム

NOCユーザーがチャットセッションを開始すると、作業に関連付けられているユーザーやオンライン状態のユーザーを対象に、チャットセッションがアラートで通知されます。

チャットセッションを開始したのが実施担当者または他のNOC以外のユーザーの場合、作業に関連付けられているNOC以外のユーザーやオンライン状態のユーザーを対象に、チャットセッションがアラートで通知されます。NOCユーザーを作業チャットセッションに加えるためには、そのユーザーをチャットセッションに強制的に参加させる必要があります。

注：ユーザーは、ディレクターモジュールまたは実施担当者モジュールを開いた時点で**オンライン**状態になります。

リファレンス


[コミュニケーション] ウィンドウのユーザーインターフェース

ここでは、以下について説明します。

- ▶ 「[新規ルームの追加] ダイアログボックス」 (231 ページ)
- ▶ 「[コミュニケーション] ウィンドウ」 (231 ページ)
- ▶ 「[チャット ルームの管理] ダイアログボックス」 (234 ページ)



[新規ルームの追加] ダイアログボックス

このダイアログボックスでは、チャットルームを新規作成します。カスタムチャットルームの名前を入力します。チャットルームがルームの一覧に追加され、自分の名前がチャットルームの所有者として表示されます。

アクセス方法	[チャットルームの管理] ダイアログボックスで、[チャットルームの追加]  をクリックします。
関連項目	「ユーザーコミュニケーションの概要」(229ページ)

[コミュニケーション] ウィンドウ


このウィンドウでは、他のユーザーとのコミュニケーションを通じて、関与している作業やその他のトピックについての情報をやり取りできます。作業チャットルームウィンドウを開きます。

アクセス方法	<p>▶ ディレクターモジュール：</p> <p>[作業タイムライン] ウィンドウで、チャット対象の作業を選択します。次に、[作業タイムライン] または [アラート] ウィンドウツールバーの [作業チャットルームを開く]  をクリックします。</p> <p>▶ 実施担当者モジュールでの操作：</p> <p>[To-Do 一覧] ウィンドウで、チャット対象の作業を選択します。次に、[To-Do 一覧] ツールバーの [作業チャットルームを開く]  をクリックします。</p>
重要な情報	[コミュニケーション] ウィンドウは、ディレクターモジュールと実施担当者モジュールで表示されます。
関連タスク	「作業の進捗状況のモニター方法」(197ページ)
関連項目	「ユーザーコミュニケーションの概要」(229ページ)

第7章「ユーザーコミュニケーション」


ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します (ラベルのない要素は、山かっこ<>で囲まれています)。

UIの要素	説明
	<p>チャットルームから退室します。</p> <p>注：このボタンは、チャットルームのタブにカーソルを置くと、作業IDの隣に表示されます。</p> 
	<p>[チャットルームの管理] ダイアログボックスが開きます。一般的な事柄についてディスカッションを行うカスタムチャットルームを作成します。</p>
	<p>NOCユーザーをチャットルームに強制的に参加させます。次のメッセージを送信すると、NOCユーザーの[コミュニケーション]ウィンドウにチャットルームウィンドウが開きます。</p> <p>注：このボタンがディレクターモジュールに表示されるのは、NOCユーザーのみです。</p>
	<p>通常フォントで表示されるユーザーは、オンライン状態ですが、チャットルーム内には入室していません。</p>
	<p>ボールドフォントで表示されるユーザーは、チャットルームに入室中です。</p>
<p><作業ID></p>	<p>チャットルームウィンドウの名前。チャットルームウィンドウのタブには、そのディスカッションの作業IDに対応した名前が付けられています。</p>




UIの要素	説明
送信	<p>[送信] ボタンの左側にあるボックスにメッセージを入力して[送信]をクリックすると、入力したメッセージが他のユーザーに送信されます。送信したメッセージは、メッセージウィンドウに表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ NOC ユーザーは、一覧に表示されたすべてのユーザーをチャットセッションに自動的に参加させることができます。 ▶ 各ユーザーの[コミュニケーション]ウィンドウに、チャットルームウィンドウが開きます。 ▶ 次に、[ユーザー一覧]内のすべてのユーザーはボードテキストで表示されます。これは、入室中であることを示します。 ▶ 実施担当者または他のNOC以外のユーザーは、NOCユーザーをチャットセッションに自動的に参加させることはできません。NOCユーザーは、自発的にルームに参加しない限り、オンライン中として表示されます。または、[コミュニケーション]ウィンドウの[NOC参加の強制]  クリックすると、NOCユーザーをチャットルームに強制参加させることもできます。次のメッセージを送信すると、再びNOCユーザーの[コミュニケーション]ウィンドウにチャットルームウィンドウが開きます。 <p>チャットセッション中は、ユーザーがオンライン/オフラインになった時刻やチャットルームへの入退室時刻を示すメッセージが自動送信されます。</p>
ユーザー一覧	作業に関連付けられているオンラインユーザーをすべて表示します。


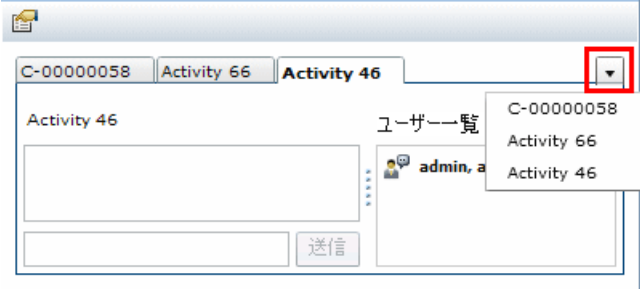
[チャット ルームの管理] ダイアログボックス

このダイアログボックスでは、一般的な事柄についてディスカッションを行うカスタムチャットルームを作成します。チャットルームには、たとえば、データベース管理者向けのチャットルームや、実施担当者が実施対象の作業について一般的な事柄を話し合うチャットルームなどがあります。

アクセス方法	[コミュニケーション] ウィンドウで、[チャット ルームの管理]  をクリックします。
重要な情報	チャットルームを作成したユーザーは、そのチャットルームの所有者になります。チャットルームへの参加はすべてのユーザーに許可されますが、チャットルームを削除する権限があるのは所有者のみです。
関連タスク	「作業の進捗状況のモニター方法」(197ページ)
関連項目	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「実施担当者モジュール」(217ページ) ▶ 「ディレクターモジュール」(193ページ) ▶ 「ユーザーコミュニケーションの概要」(229ページ)

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
	カスタムチャットルームを作成します。[新規ルームの追加]ダイアログボックスが開きます。
	選択したチャットルームを削除します。 注： 削除できるのは、自分で作成したチャットルームだけです。
	選択したチャットルームに参加します。ユーザーは一度に複数のチャットルームに参加し、他のユーザーとさまざまな事柄についてディスカッションできます。 [コミュニケーション]ウィンドウに、チャットルームウィンドウが開きます。[ユーザー一覧]に、チャットルームに参加している他のユーザーが表示されます。

UIの要素	説明
	<p>自分が参加しているチャットルームの一覧を表示します。2つ以上のチャットルームに参加している場合は、ドロップダウン矢印が表示されます。</p> 
所有者	チャットルームを作成したユーザーの名前。
ルーム名	新しいチャットルームの名前を入力します。

パート V

ダッシュボード

第 8 章

ダッシュボードの使用

注：この章では、通常のユーザー向けに提供されているダッシュボード機能について説明します。管理者向けに提供されているダッシュボード機能については、カスタマーサポートにお問い合わせください。

本章の内容

概念

- ▶ 「デフォルトポートレットの表示」 (240 ページ)
- ▶ 「トレンドポートレット」 (241 ページ)
- ▶ 「分析ポートレット」 (243 ページ)
- ▶ 「実施後ポートレット」 (246 ページ)

タスク

- ▶ 「トレンドポートレットの表示プリファレンスの変更」 (248 ページ)
- ▶ 「[アプリケーションの重大度の分布] ポートレットの表示プリファレンスの変更」 (249 ページ)
- ▶ 「[アプリケーションのステータスの分布] ポートレットの表示プリファレンスの変更」 (250 ページ)
- ▶ 「[変更要求のインパクト分析の割合] ポートレットの表示プリファレンスの変更」 (251 ページ)
- ▶ 「[結果の経時変化] ポートレットの表示プリファレンスの変更」 (252 ページ)

- ▶ 「**[Outcome Grouped By Risk (リスク別結果グループ)]**ポートレットの表示プリファレンスの変更」 (253 ページ)
- ▶ 「**ダッシュボードのカスタマイズ**」 (254 ページ)
- ▶ 「**ポートレットの管理**」 (259 ページ)

リファレンス

- ▶ 「**ダッシュボードページの使用**」 (261 ページ)

概念

デフォルトポートレットの表示

[**モジュール**] > [**ダッシュボード**] をクリックすると、ダッシュボードが開きます。ダッシュボードを開くと、[ホーム] タブが表示されます。

[ホーム] タブにはポートレットが表示され、トレンド、分析、実施後というポートレットごとに変更要求情報が表示されます。デフォルトでは、トレンドポートレットが表示されます。

別のポートレットセットを表示するには、[**ページの切り替え**] をクリックしてから [**Release Control Default Module (Release Controlのデフォルトモジュール)**] をクリックし、目的のポートレットを選択します。



ポートレットを最大化するには、ポートレットの右上角にある [**最大化**] ボタンをクリックします。そのポートレットだけが拡大されてページに表示されます。元の表示に戻すには、[**戻る**] をクリックします。

注：

- ▶ サーバーの起動後、最初にアプリケーションにログインしたユーザーがダッシュボードを表示しようとする、読み込みに数分かかることがあります。それ以降は、ダッシュボードはすぐに読み込まれます。
 - ▶ Release Controlのデフォルトページは、編集やカスタマイズできません。このページのプリファレンスをカスタマイズまたは編集するには、このページをカスタマイズ用の[ダッシュボード]ページにコピーしてください。ページのコピー機能はデフォルトでは使用できないので、管理者が有効にする必要があります。
 - ▶ ユーザーがRelease Controlのデフォルトページをコピーした後、プリファレンスを定義してからポートレットを表示する必要があると管理者が判断した場合には、ポートレットのプリファレンスを定義する必要があります。
 - ▶ Release Controlのデフォルトページのコピー後、一般的にはこのページ上でプリファレンスを編集することが可能ですが、管理者が事前設定しているポートレットのプリファレンスは編集できません。
-

トレンドポートレット

デフォルトのトレンドポートレットには、変更要求の情報が時系列で表示されます。

以下のポートレットが表示されます。

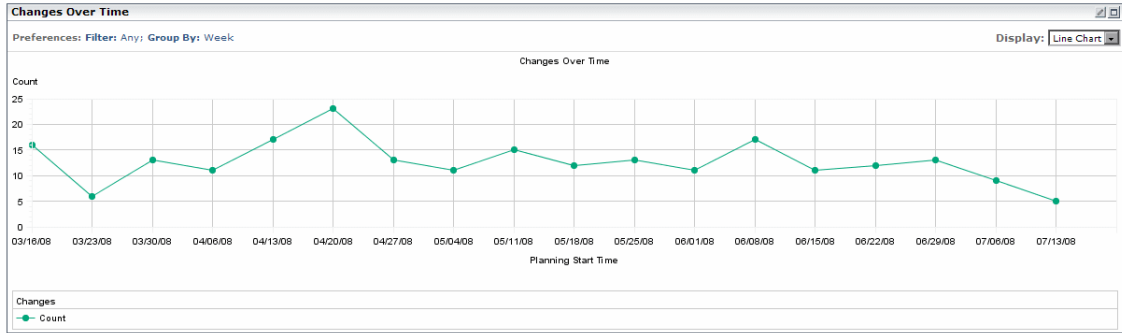
- ▶ 「[変更の経時変化] ポートレット」 (242ページ)
- ▶ 「[異常変更の経時変化] ポートレット」 (242ページ)
- ▶ 「[潜在変更の経時変化] ポートレット」 (243ページ)

トレンドポートレットのデフォルトの表示形式は、折れ線グラフです。各ポートレットの右上にある**[表示]**ドロップダウンリストから**[一覧]**をクリックすると、同じ内容が一覧表示されます。

トレンドポートレットの表示プリファレンスの変更についての詳細は、「トレンドポートレットの表示プリファレンスの変更」 (248ページ) を参照してください。

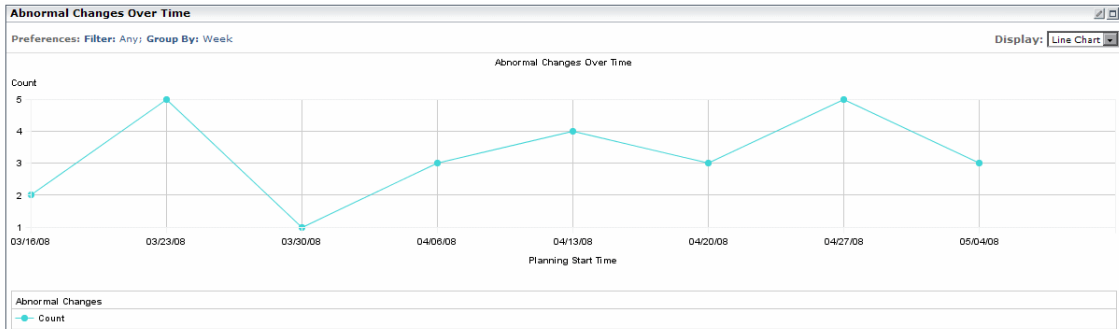
[変更の経時変化] ポートレット

[変更の経時変化] ポートレットでは、変更要求の数を1週間間隔で測定し、その変動を表示します。



[異常変更の経時変化] ポートレット

[異常変更の経時変化] ポートレットでは、異常変更要求の数を1週間間隔で測定し、その変動を表示します。



[潜在変更の経時変化] ポートレット

[潜在変更の経時変化] ポートレットでは、潜在変更要求の数を1週間間隔で測定し、その変動を表示します。



分析ポートレット

デフォルトの分析ポートレットには、変更要求の分析情報が表示されます。

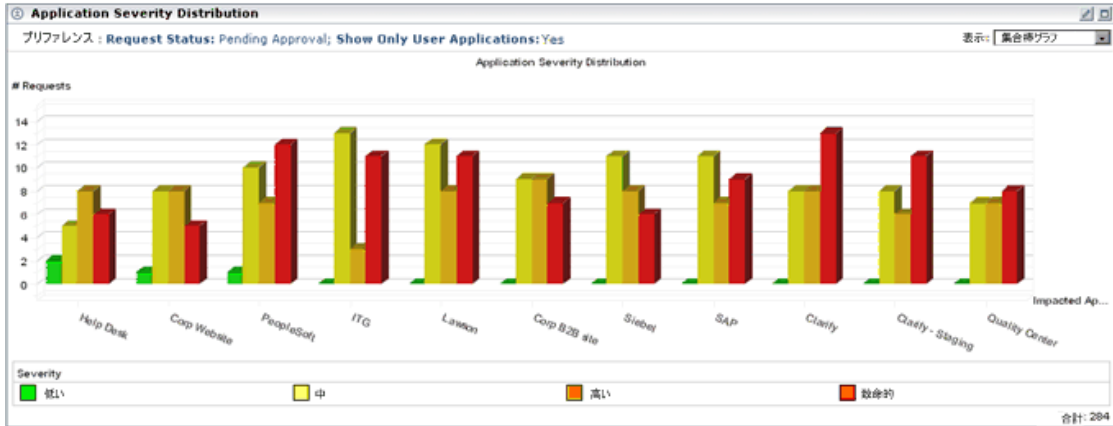
以下のポートレットが表示されます。

- ▶ 「[アプリケーションの重大度の分布] ポートレット」 (244ページ)
- ▶ 「[アプリケーションのステータスの分布] ポートレット」 (245ページ)
- ▶ 「[変更要求のインパクト分析の割合] ポートレット」 (246ページ)

分析ポートレットのデフォルトの表示形式は、グループ化された棒グラフです。各ポートレットの右上にある **[表示]** ドロップダウンリストからオプションを選択すると、同じ内容が円グラフまたは一覧で表示されます。

[アプリケーションの重大度の分布] ポートレット

[アプリケーションの重大度の分布] ポートレットでは、ユーザーが選択した要求ステータスに基づいて、各アプリケーションの変更要求の数を重大度ごとに表示します。

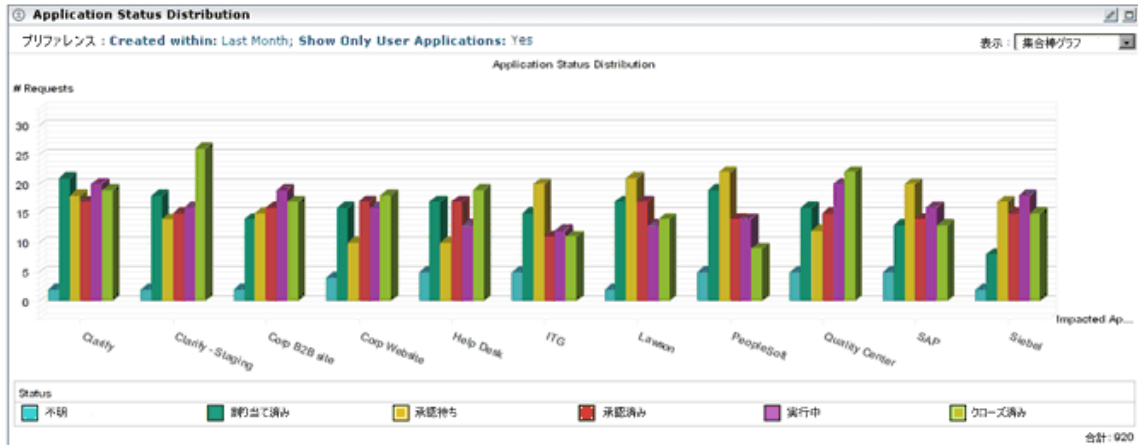


たとえば上のグラフは、ヘルプデスクアプリケーションについて次のような情報を示しています。

- ▶ 承認待ちの変更要求で、重大度が**低い**ものが2件
- ▶ 承認待ちの変更要求で、重大度が**中**のものが5件
- ▶ 承認待ちの変更要求で、重大度が**高い**ものが8件
- ▶ 承認待ちの変更要求で、重大度が**致命的**なものが6件

[アプリケーションのステータスの分布] ポートレット

[アプリケーションのステータスの分布] ポートレットでは、ユーザーが選択した時間枠内で作成された各アプリケーションの変更要求の数を、ステータスレベルごとに表示します。

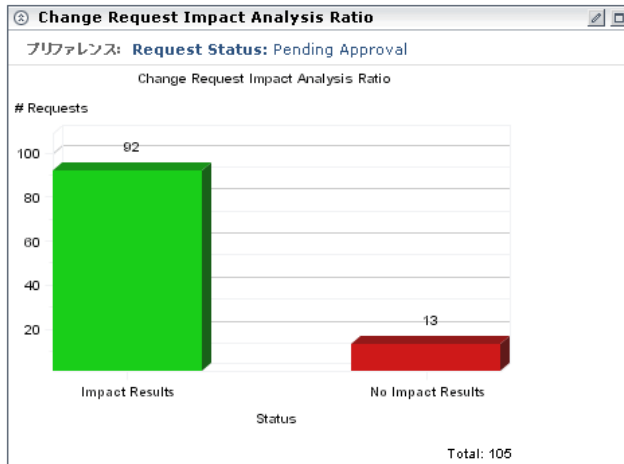


たとえば上のグラフは、先月中に作成されたヘルプデスクアプリケーションに関連する変更要求について、次のような情報を示しています。

- ▶ 現在のサービスレベルが**不明**の変更要求が5件
- ▶ 現在のサービスレベルが**割り当て済み**の変更要求が17件
- ▶ 現在のサービスレベルが**承認待ち**の変更要求が10件
- ▶ 現在のサービスレベルが**承認済み**の変更要求が17件
- ▶ 現在のサービスレベルが**実行中**の変更要求が13件
- ▶ 現在のサービスレベルが**クローズ済み**の変更要求が19件

[変更要求のインパクト分析の割合] ポートレット

[変更要求のインパクト分析の割合] ポートレットでは、ユーザーが選択した変更要求のステータスについて、インパクト分析の結果が存在する変更要求の数と、インパクト分析の結果が見つからない変更要求の数が表示されます。



たとえば上のグラフは、次のような情報を示しています。

- ▶ 承認待ちの変更要求について、インパクト分析の結果が存在するものは92件あります。
- ▶ 承認待ちの変更要求について、インパクト分析の結果が見つからないものは13件あります。

実施後ポートレット

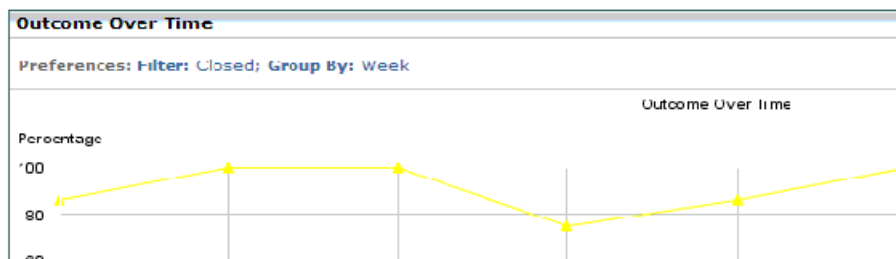
デフォルトの実施後ポートレットには、完了した変更要求の情報が表示されます。

以下のポートレットが表示されます。

- ▶ [結果の時間変化] ポートレット - 詳細についての参照先、247ページ
- ▶ [Outcome Grouped By Risk (リスク別結果グループ)] ポートレット - 詳細についての参照先、247ページ

[結果の時間変化] ポートレット

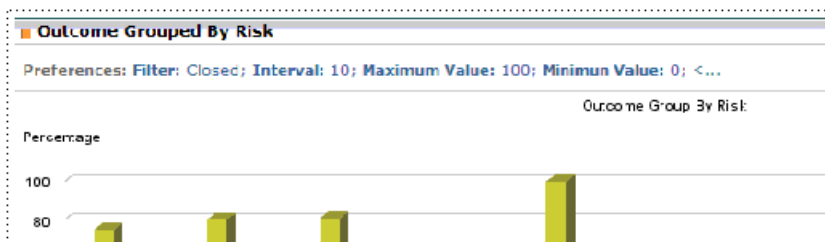
変更要求の結果を1週間間隔で測定し、その変動をパーセンテージで表示します。



このポートレットのデフォルトの表示形式は、折れ線グラフです。各ポートレットの右上にある[表示]ボックスで[一覧]をクリックすると、同じ内容が一覧表示されます。

[Outcome Grouped By Risk (リスク別結果グループ)] ポートレット

[Outcome Grouped By Risk (リスク別結果グループ)] ポートレットでは、特定の結果を持つ変更要求のパーセンテージを、リスクの計算値の範囲ごとにグループ化して表示します。



たとえば、上のポートレットは、完了した変更要求の中で、リスクが0～9のものを表示しています。

- ▶ 22% は、結果が**成功 (問題あり)**
- ▶ 78% は、結果が**未レビュー**
- ▶ 結果が**キャンセル済み**のものはなし
- ▶ 結果が**失敗**のものはなし

このポートレットのデフォルトの表示形式は、グループ化された棒グラフです。各ポートレットの右上にある**[表示]**ドロップダウンリストからオプションを選択すると、同じ内容が積上棒グラフまたは一覧で表示されます。

タスク

トレンドポートレットの表示プリファレンスの変更

トレンドポートレットの表示プリファレンスを変更するには、カスタマイズしたダッシュボードページ一覧にポートレットをコピーする必要があります。

表示プリファレンスを変更するには：



- 1 [編集]** ボタンをクリックします。[プリファレンスの編集] ページが開き、以下のオプションが表示されます。
 - ▶ **タイトルを変更。** このボタンをクリックすると [ポートレット タイトルを変更] ウィンドウが開くので、そこでポートレットの別のタイトルを入力できます。
 - ▶ **フィルター。** ポートレットに変更要求のどのカテゴリを含めるかを選択できます。ここに表示されるオプションは、分析モジュールのフィルターオプションと同じです。
 - ▶ **グループ。** 変更要求の数の変動を表示する間隔として、日次、週次、月次、年次を選択できます。
 - ▶ **ポートレットのプリファレンスの概要を表示します。** デフォルトでは、プリファレンスがポートレットの一部として表示されますが、プリファレンスを表示しないことも可能です。表示しない場合は、**[ポートレットのプリファレンスの概要を表示]** チェックボックスをオフにします。
- 2 [完了]** をクリックしてプリファレンス設定を保存し、デフォルトの[ダッシュボード] ページに戻ります。

[アプリケーションの重大度の分布] ポートレットの表示プリファレンスの変更

[アプリケーションの重大度の分布] ポートレットの表示プリファレンスを変更するには、カスタマイズしたダッシュボードページ一覧にポートレットをコピーする必要があります。

表示プリファレンスを変更するには：



- [編集]** ボタンをクリックします。[プリファレンスの編集] ページが開き、以下のオプションが表示されます。
 - ▶ **タイトルを変更。** このボタンをクリックすると [ポートレット タイトルを変更] ウィンドウが開くので、そこで [アプリケーションの重大度の分布] ポートレットに別のタイトルを入力できます。
 - ▶ **ユーザーアプリケーションのみを表示。** デフォルトオプションを変更することで、現在のユーザーに関連付けられたアプリケーションのデータのみを表示します(アプリケーションを、[ユーザー設定] ダイアログボックスの現在のユーザーに関連付けます。詳細については、「ユーザープリファレンス」(27ページ) を参照してください)。HP Release Controlが処理する変更要求によって影響を受けるすべてのITアプリケーションのデータを表示するには、[ユーザーアプリケーションのみを表示] の下で [いいえ] をクリックします。
 - ▶ **要求ステータス。** デフォルトオプションを変更して、ステータスが**承認待ち**の要求のデータのみを表示します。別のステータスを持つ要求のデータを表示するには、[要求ステータス] 選択ボックスから必要なステータスを選択します。
 - ▶ **ポートレットのプリファレンスの概要を表示します。** デフォルトでは、プリファレンスがポートレットの一部として表示されますが、プリファレンスを表示しないことも可能です。表示しない場合は、[ポートレットのプリファレンスの概要を表示] チェックボックスをオフにします。
- [完了]** をクリックしてプリファレンス設定を保存し、デフォルトの [ダッシュボード] ページに戻ります。

[アプリケーションのステータスの分布] ポートレットの表示プリファレンスの変更

[アプリケーションのステータスの分布] ポートレットの表示プリファレンスを変更するには、カスタマイズしたダッシュボードページ一覧にポートレットをコピーする必要があります。

表示プリファレンスを変更するには：



1 [編集] ボタンをクリックします。[プリファレンスの編集] ページが開き、以下のオプションが表示されます。

- ▶ **タイトルを変更。** このボタンをクリックすると [ポートレット タイトルを変更] ウィンドウが開くので、そこで [アプリケーションのステータスの分布] ポートレットに別のタイトルを入力できます。
- ▶ **Created Within (作成時間枠)。** デフォルト以外の時間枠内で作成された変更要求のデータを表示します。デフォルトの時間枠は、[Last Month (先月)] です。別の時間枠内で作成された変更要求のデータを表示するには、[Created Within (作成時間枠)] 選択ボックスで [Last Week (先週)] または [Last Two Weeks (過去2週間)] のいずれかを選択します。
- ▶ **ユーザーアプリケーションのみを表示。** デフォルトオプションを変更することで、現在のユーザーに関連付けられたアプリケーションのデータのみを表示します (アプリケーションを、[ユーザー設定] ダイアログボックスの現在のユーザーに関連付けます。詳細については、「ユーザープリファレンス」(27 ページ) を参照してください)。HP Release Control が処理する変更要求によって影響を受けるすべての IT アプリケーションのデータを表示するには、[ユーザーアプリケーションのみを表示] の下で [いいえ] をクリックします。
- ▶ **ポートレットのプリファレンスの概要を表示します。** デフォルトでは、プリファレンスがポートレットの一部として表示されますが、プリファレンスを表示しないことも可能です。表示しない場合は、[ポートレットのプリファレンスの概要を表示] チェックボックスをオフにします。

2 [完了] をクリックしてプリファレンス設定を保存し、デフォルトの [ダッシュボード] ページに戻ります。

[変更要求のインパクト分析の割合] ポートレットの表示プリファレンスの変更

[変更要求のインパクト分析の割合] ポートレットの表示プリファレンスを変更するには、カスタマイズしたダッシュボードページ一覧にポートレットをコピーする必要があります。

表示プリファレンスを変更するには：



- 1 [編集]** ボタンをクリックします。[プリファレンスの編集] ページが開き、以下のオプションが表示されます。
 - ▶ **タイトルを変更。** このボタンをクリックすると [ポートレット タイトルを変更] ウィンドウが開くので、[変更要求のインパクト分析の割合] ポートレットに別のタイトルを入力できます。
 - ▶ **要求ステータス。** デフォルトオプションを変更して、ステータスが**承認待ち**の要求のデータのみを表示します。別のステータスを持つ要求のデータを表示するには、[要求ステータス] 選択ボックスから必要なステータスを選択します。
 - ▶ **ポートレットのプリファレンスの概要を表示します。** デフォルトでは、プリファレンスがポートレットの一部として表示されますが、プリファレンスを表示しないことも可能です。表示しない場合は、[ポートレットのプリファレンスの概要を表示] チェックボックスをオフにします。
- 2 [完了]** をクリックしてプリファレンス設定を保存し、デフォルトの [ダッシュボード] ページに戻ります。

[結果の経時変化] ポートレットの表示プリファレンスの変更

[結果の時間変化] ポートレットの表示プリファレンスを変更するには、カスタマイズしたダッシュボードページ一覧にポートレットをコピーする必要があります。

表示プリファレンスを変更するには：



- 1 [編集]** ボタンをクリックします。[プリファレンスの編集] ページが開き、以下のオプションが表示されます。
 - ▶ **タイトルを変更。** このボタンをクリックすると [ポートレット タイトルを変更] ウィンドウが開くので、そこでポートレットの別のタイトルを入力できます。
 - ▶ **フィルター。** ポートレットに変更要求のどのカテゴリを含めるかを選択できます。ここに表示されるオプションは、分析モジュールのフィルターオプションと同じです。
 - ▶ **グループ。** 変更要求の結果の変動をパーセンテージで表示する間隔として、日次、週次、月次、年次を選択できます。
 - ▶ **ポートレットのプリファレンスの概要を表示します。** デフォルトでは、プリファレンスがポートレットの一部として表示されますが、プリファレンスを表示しないことも可能です。表示しない場合は、[ポートレットのプリファレンスの概要を表示] チェックボックスをオフにします。
- 2 [完了]** をクリックしてプリファレンス設定を保存し、デフォルトの [ダッシュボード] ページに戻ります。

[Outcome Grouped By Risk (リスク別結果グループ)]ポートレットの表示プリファレンスの変更

[Outcome Grouped by Risk (リスク別結果グループ)] ポートレットの表示プリファレンスを変更するには、カスタマイズしたダッシュボードページ一覧にポートレットをコピーする必要があります。

表示プリファレンスを変更するには：



- 1 [編集]** ボタンをクリックします。[プリファレンスの編集] ページが開き、以下のオプションが表示されます。
 - ▶ **タイトルを変更。** このボタンをクリックすると [ポートレット タイトルを変更] ウィンドウが開くので、そこでポートレットの別のタイトルを入力できます。
 - ▶ **フィルター。** ポートレットに変更要求のどのカテゴリを含めるかを選択できます。
 - ▶ **数値タイプ。** システム設定で定義した数値フィールドに基づいて、変更要求の結果の表示を選択できます。
 - ▶ **最小値。** ポートレットで表示する数値タイプの最小値。
 - ▶ **最大値。** ポートレットで表示する数値タイプの最大値。
 - ▶ **間隔。** 変更要求をグループ化する間隔を数値で定義します。
 - ▶ **ポートレットのプリファレンスの概要を表示します。** デフォルトでは、プリファレンスがポートレットの一部として表示されますが、プリファレンスを表示しないことも可能です。表示しない場合は、[ポートレットのプリファレンスの概要を表示] チェックボックスをオフにします。
- 2 [完了]** をクリックしてプリファレンス設定を保存し、デフォルトの [ダッシュボード] ページに戻ります。

ダッシュボードのカスタマイズ

ダッシュボードのカスタマイズでは、グループの追加、グループ内でのページの追加、各ページでまとめて表示するポートレットの選択、ページ上でのポートレットの表示位置の指定を行います。

[カスタマイズ]画面では、グループ、ページ、ポートレットをカスタマイズできます。この画面にアクセスするには、現在のページの右上角にある[**個人用設定**]ボタンまたはトップメニューの[**カスタマイズ**]タブをクリックしてください。

ここには、以下のものが含まれます。

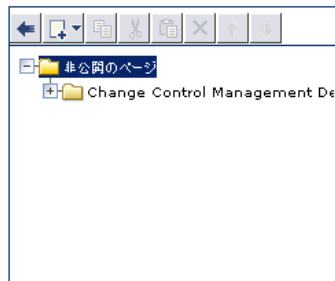
- ▶ 「グループの追加」(255ページ)
- ▶ 「ページの追加」(255ページ)
- ▶ 「ページのコピー」(257ページ)
- ▶ 「ページの変更」(257ページ)
- ▶ 「ポートレットの追加」(258ページ)
- ▶ 「ページ上でのポートレットの配置」(259ページ)
- ▶ 「ポートレットを別ページにコピー」(259ページ)
- ▶ 「ポートレットの名前変更」(260ページ)
- ▶ 「ポートレットをページから削除」(260ページ)

グループの追加

ページの配置先となるグループを追加します。これにより、カスタマイズページを分類できます。

グループを追加するには：

- 1 [カスタマイズ] 画面で、ダッシュボードページツリーにある **[非公開のページ]** をクリックします。



- 2 **[追加]** ボタンをクリックしてから、**[新規グループ]** をクリックします。ダッシュボードページツリーに、新しいグループが追加されます。
- 3 右側の **[グループの編集]** ウィンドウで、新しいグループの名前と簡単な説明を入力します。これで、ダッシュボードページツリーに表示される新規グループの名前が変更されます。

ページの追加

ページを追加するには、空白の新しいページを、作成したグループに追加する方法と、ダッシュボードページツリーに直接追加する方法があります。ページを追加したら、そのページにポートレットを配置します。

ユーザーに必要な権限があれば、設定済みページ (モジュール) の追加も可能です。設定済みページとは、管理者が事前に作成したページであり、ポートレットが配置された複数のページで構成されます。

ダッシュボードページツリーに、新しいページを追加するには：

1 [カスタマイズ]のダッシュボードページツリーで、[非公開のページ]またはページの追加先となるグループをクリックします。



2 [追加] ボタンをクリックしてから、[新規グループ] をクリックします。ダッシュボードページツリーに、新しいページが追加されます。

3 右側の [ページの編集] ウィンドウで、新しいページの名前と簡単な説明を入力します。ダッシュボードページツリーに表示される新規ページの名前が変更されます。

4 ページのデータ更新頻度を指定するには、[このページを次の頻度で更新する] チェックボックスをオンにしてから、更新の頻度を入力します。デフォルトでは、ダッシュボードページの更新は行いません。

ページの作成が完了したら、ポートレットを配置します。詳細については、「ポートレットの追加」(258ページ)を参照してください。

ダッシュボードページツリーに、設定済みページを追加するには：

1 [カスタマイズ]画面のダッシュボードページツリーで、[非公開のページ] をクリックします。



2 [追加] ボタンをクリックしてから、[事前設定ページの追加] をクリックします。右ウィンドウで、[事前設定ページの追加] ダイアログボックスが開きます。

3 モジュールの左にあるチェックボックスをオンにすると、ダッシュボードページツリーに追加したいページを選択できます。選択したモジュールは、グループとしてツリーに追加されます。モジュールのページは、モジュールで作成されたグループに表示されます。

ページのコピー

ダッシュボードページツリーでは、グループ間でページをコピーできます。さらに、必要な権限が割り当てられているユーザーは、共有モジュール(複数のページで構成)または共有ページを、カスタマイズしたダッシュボードページの一覧にコピーできます。

モジュールまたはページをコピーするには：



1 コピーしたいモジュールまたはページを選択し (ダッシュボードページツリーまたは**[共有ページ]**)、**[コピー]** ボタンをクリックします。



2 ダッシュボードページツリーで、**[非公開のページ]**、もしくはモジュールまたはページのコピー先となるグループを選択し、**[貼り付け]** ボタンをクリックします。選択した場所に、モジュールまたはページがコピーされます。

ページの変更

[Switch to page(ページに切り替え)] 一覧で表示するダッシュボードページの順序を変更できます。また、ページの名前の変更、削除、ページの更新頻度の変更も可能です。

ページを変更するには：

[カスタマイズ] 画面にアクセスします。



▶ **[Switch to page (ページに切り替え)]** 一覧内でのページの位置を変更するには、ダッシュボードページツリーで**[上へ]** ボタンと**[下へ]** ボタンをクリックしてページの位置を変更します。

▶ ページの名前を変更するには、ダッシュボードページツリーでページを選択し、[ページの編集] ウィンドウの**[ページの名前]** ボックスに新しい名前を入力します。



▶ ダッシュボードページツリーからページを削除するには、ダッシュボードページツリーでページを選択し、**[削除]** ボタンをクリックします。**[OK]** をクリックして、削除に同意します。

▶ ページの更新頻度を変更するには、ダッシュボードページツリーでページを選択し、**[このページを次の頻度で更新する]** チェックボックスをオンにしてから、[ページの編集] ウィンドウで新しい更新頻度を入力します。

▶ ページにポートレットを追加する手順は、「ポートレットの追加」(258ページ)を参照してください。

▶ ページでのポートレットの表示方法を変更する手順は、「ポートレットの管理」(259ページ)を参照してください。

ポートレットの追加

選択したページにポートレットを追加します。ページの読み込みにかかる時間を最適化し、見やすいページを作成するという点から、1ページあたりのポートレットの数を6までにすることをお勧めします。

ページにポートレットを追加するには：

- 1 [カスタマイズ] ページのダッシュボードページツリーで、ポートレットを追加するページを選択し、[ページの編集] ウィンドウの [ポートレットの追加] をクリックします。[ポートレットの追加] ウィンドウが開きます。

ポートレットの追加

追加するポートレットを検索

カテゴリ:

ポートレット名:

- 2 [ポートレット名] ボックスに、ページに追加するポートレットの名前を入力します。
- 3 管理者がポートレットのカテゴリを定義している場合は、[カテゴリ] ボックスで、ポートレットの追加先となるカテゴリを選択します。
- 4 [追加] をクリックします。

または、[ポートレットを検索] をクリックすると使用可能なポートレットが一覧表示されるので、ページに追加するポートレットを選択してから [追加] をクリックします。

指定したポートレットは、[ページの編集] ウィンドウとダッシュボードページツリーの両方に追加されます。

ポートレットの表示順序を変更する方法やポートレットをページから削除する方法は、「ポートレットの管理」(259ページ) を参照してください。

ポートレットの管理

ここでは、以下のダッシュボードの機能について説明します。

- ▶ 「ページ上でのポートレットの配置」(259ページ)
- ▶ 「ポートレットを別ページにコピー」(259ページ)
- ▶ 「ポートレットの名前変更」(260ページ)
- ▶ 「ポートレットをページから削除」(260ページ)

ページ上でのポートレットの配置

各ダッシュボードページでのポートレットのレイアウトを指定します。

ページ上にポートレットを配置するには：

- 1 [ページの編集] ウィンドウで、移動するポートレットを選択します。選択したポートレットは、ページ上でハイライト表示されます。
- 2 ポートレットを目的の位置までドラッグします。

移動したい各ポートレットで、手順1と2を実行してください。

ポートレットは、[ページの編集] ウィンドウとダッシュボードページツリー内で、新しい場所に表示されます。

ポートレットを別ページにコピー

カスタマイズページ間で既存のポートレットをコピーすることができます。また、管理者によって必要な権限が割り当てられているユーザーは、共有ポートレットをカスタマイズページにコピーすることができます。

注： ページの読み込みにかかる時間を最適化し、見やすいページを作成するという点から、1ページあたりのポートレットの数を6までにすることをお勧めします。

別ページにポートレットをコピーするには：



1 コピーしたいポートレットを選択し、[コピー] ボタンをクリックします。



2 ダッシュボードページツリーでページを選択し、[貼り付け] ボタンをクリックします。選択したページにポートレットがコピーされます。

注：新しいポートレットの名前には、コピー元の名前の前に「**Copy of**」が付加されます。コピーしたポートレットの名前を変更するには、「ポートレットの名前変更」を参照してください。

ポートレットの名前変更

ポートレットのプリファレンスを変更して複製する場合には、ポートレットの名前を変更すると便利です。

ポートレットの名前を変更するには：



1 [ページの編集] ウィンドウで、名前を変更したいポートレットを選択し、[ポートレットのプリファレンスを編集] ボタンをクリックします。[プリファレンスの編集:<ポートレット名>] ウィンドウが表示されます。

2 [タイトルを変更] をクリックします。[ポートレットのタイトルを変更] ウィンドウが開きます。

3 [タイトル] ボックスに新しい名前 (30文字まで) を入力し、[変更] をクリックします。新しいポートレットタイトルは、[ページの編集] ウィンドウとダッシュボードページツリーに表示されます。

ポートレットをページから削除

ポートレットをダッシュボードページから削除します。ダッシュボードページからポートレットを削除しても、他のダッシュボードページのポートレットには影響しません。

ページからポートレットを削除するには：



1 [ページの編集] ウィンドウで、削除したいポートレットを選択し、[削除] ボタンをクリックします。または、[ページの編集] ウィンドウで、削除したいポートレットを選択し、[ポートレットをページから削除] ボタンをクリックします。








2 [OK] をクリックして、削除に同意します。ポートレットは、[ページの編集] ウィンドウとダッシュボードページツリーから削除されます。

リファレンス

ダッシュボードページの使用

ダッシュボードページには、次のようなボタンがあります。

ボタン	説明
	[お気に入り] ボタンをクリックすると、現在のページがお気に入りに追加されるか、[自分のお気に入り] ページが開きます。
	[モジュール コメントを表示] ボタンをクリックすると、現在のモジュールについて管理者が入力したコメントを表示できます (ページが公開されていて、管理者が定義したモジュールに含まれている場合のみ)。
	[ページ ローテーション] ボタンをクリックすると、現在のページの更新頻度を指定できます。
	[ダッシュボード ページを PDF へエクスポート] ボタンをクリックすると、現在のページにあるデータを掲載したPDFを作成できます。
	[個人用設定] ボタンをクリックすると、個人用設定画面が開き、ダッシュボードをカスタマイズできます。このボタンをクリックすると、現在のポートレットが開いて編集可能になります。詳細については、「ダッシュボードのカスタマイズ」を参照してください。

ページが公開されていて、複数ユーザーによるアクセスを許可する設定を管理者が行っている場合、ページの右上に**共有ページ**と表示されます。

パート VI

管理

第 9 章

HP Release Control 構成の概要

本章の内容

概念

- ▶ 「HP Release Control データフロー」 (266 ページ)
- ▶ 「構成プロセス - 基本的な概要」 (267 ページ)

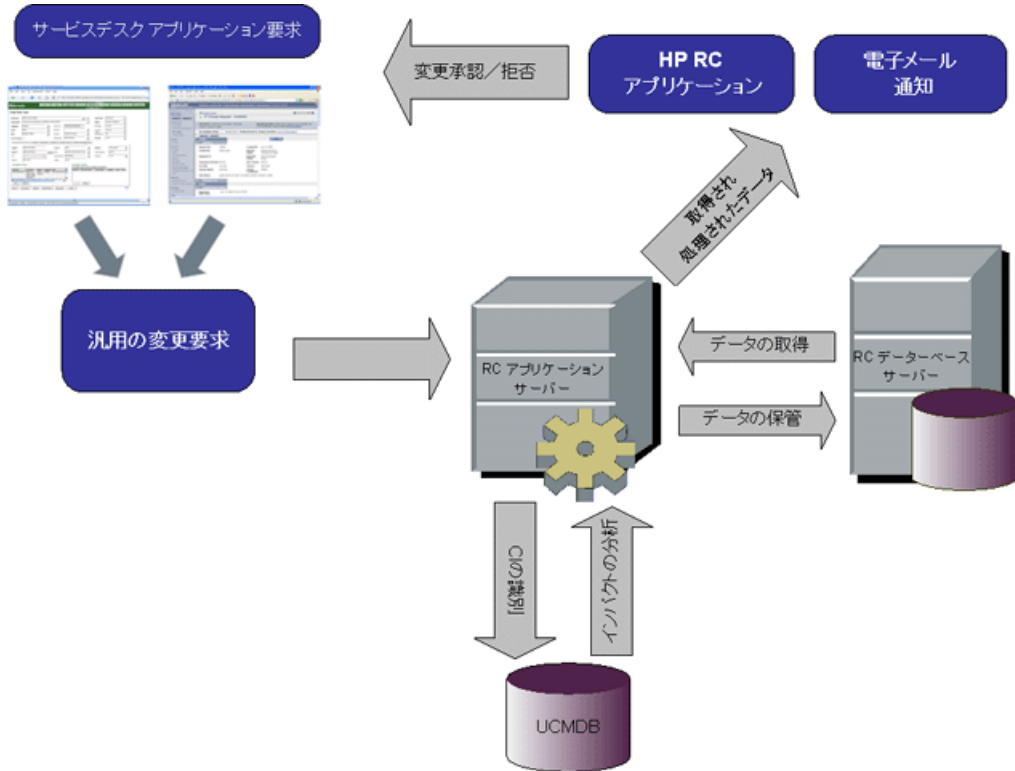
タスク

- ▶ 「HP Release Control 導入方法」 (268 ページ)
- ▶ 「変更要求の分析の構成方法」 (268 ページ)
- ▶ 「レビューとコラボレーション設定の構成方法」 (271 ページ)
- ▶ 「一般設定とシステムプリファレンスの構成方法」 (272 ページ)

概念

HP Release Control データフロー

以下の図は、HP Release Control実行時のデータフローを示しています。

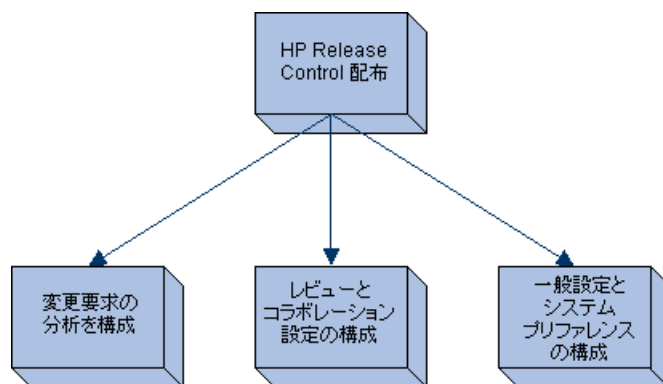


- ▶ 変更要求はサービスデスクアプリケーションで作成されてから、汎用要求に変換されます。
- ▶ HP Release Controlはその要求を分析して、構成アイテム (CI) 間の関係を決定するためにHP Universal CMDBに要求を送信します。
- ▶ HP Release ControlはHP Universal CMDBからデータを取得し、インパクトの分析を実行します。

- ▶ HP Release Control は、リスクや衝突の分析などの計算を実行することで、変更要求をさらに分析します。
- ▶ 情報はHP Release Control Database Serverに格納されます。
- ▶ 電子メール通知が構成の設定に従って意思決定者に送信され、変更が承認または拒否されます。

🔗 構成プロセス - 基本的な概要

次の図は、HP Release Control構成プロセスに関する大まかな手順を示しています。



- 1 「HP Release Control 導入方法」 (268ページ)
- 2 「変更要求の分析の構成方法」 (268ページ)
- 3 「レビューとコラボレーション設定の構成方法」 (271ページ)
- 4 「一般設定とシステムプリファレンスの構成方法」 (272ページ)

タスク

HP Release Control 導入方法

HP Release Controlのインストールと導入については、『*HP Release Control デプロイメントガイド*』を参照してください。

変更要求の分析の構成方法

このタスクには、HP Release Controlで変更要求の分析を構成するための手順が含まれます。

このタスクでは、以下の手順を実行します。

- ▶ 「初期構成の実行」(268ページ)
- ▶ 「収集したオブジェクトの分析」(270ページ)
- ▶ 「要求のインパクト分析の計算」(270ページ)
- ▶ 「システムが含まるべき期間カテゴリ、各カテゴリに適用するルールを決定」(270ページ)
- ▶ 「衝突の計算設定の構成」(270ページ)
- ▶ 「要求のリスク分析の計算」(270ページ)
- ▶ 「類似した変更の構成」(271ページ)

1 初期構成の実行

初期構成では、変更要求処理の前と後の因子の計算を設定します。また、変更要求を収集する頻度も設定できます。

- a 変更要求を収集する頻度を設定するには、構成ツリーで[**モジュール**] > [**管理者**] > [**構成**] タブ > [**変更プロセス**] を選択します。[**収集の頻度**] ボックスに、目的の値を入力します。詳細については、「[**変更プロセス**] ウィンドウ」(306ページ)を参照してください。

- b** 変更要求処理の前または後の因子の計算は、[モジュール]>[管理者]>[構成]タブ > [変更プロセス]> [変更フロー スクリプト] の `change-flow.js` スクリプトにある `preChangeProcess` および `postChangeProcess` で行います。

たとえば、変更要求がHP Release Control システム内で未処理のままになっている時間をベースにリスク因子を定義する場合、`preChangeProcess` 関数を使用して、変更要求が最初にHP Release Control に入力された日時を計算します。そのためには、変更要求がHP Release Control に入力された時点で設定されるカスタムフィールド `first-time` を定義します。次に、以下のように `first-time` 値を計算するように、HP Release Control を設定します。

```
function preChangeProcess(prevChange, newChange)
{
    If (prevChange == null) {
        var now = java.lang.System.currentTimeMillis();
        newChange.setField("first-time", now);
    }
    else {
        var firstTime = prevChange.getField("first-time");
        newChange.setField("first-time", firstTime);
    }
}
}
```

同様の方法で `postChangeProcess` 関数を使用することにより、要求処理で実行する手順(リスクや衝突など)に関する因子を計算できます。

この関数に含めることができるオブジェクトの詳細については、**API_Reference.chm** ファイル内の GenericRFC クラスを参照してください(API リファレンスにアクセスするには、[スタート]>[プログラム]>[HP Release Control 9.20]>[ドキュメント]をクリックし、`pdfs` ディレクトリを開きます)。

2 収集したオブジェクトの分析

HP Release Controlでは、収集した要求を分析するには、分析ルールを使用して要求に含まれるCIの場所と形式を特定する必要があります。HP Release Controlで使用する分析ルールを設定する方法の詳細については、「[インパクト分析ルール] ウィンドウ」(319ページ)を参照してください。

3 要求のインパクト分析の計算

HP Release Controlは、ユーザーが設定した計算ルールに従って、収集した要求で特定されたCIのインパクトを計算します。インパクト分析を実行するタイミングを決定する計算ルールを設定する方法は、「[インパクト分析ルール] ウィンドウ」(319ページ)を参照してください。

4 システムが含めるべき期間カテゴリ、各カテゴリに適用するルールを決定

HP Release Controlは変更要求の、要求が含まれる期間カテゴリに関係するルールとのコンプライアンスを計算します。変更の各カテゴリの変更対象期間、ブラックアウト期間、定義された期間カテゴリに変更要求が含まれるかどうかをHP Release Controlが判断する際、参照する基準を指定する必要があります。詳細については、「期間の定義方法」(581ページ)を参照してください。

5 衝突の計算設定の構成

HP Release Controlは、衝突の計算対象となる要求を定義したプロパティに基づいて、要求間の衝突を識別し計算します。HP Release Controlの衝突計算を設定する方法の詳細については、「変更要求の衝突の計算」(291ページ)を参照してください。

6 要求のリスク分析の計算

HP Release Controlは、ユーザーが定義するリスク因子とユーザーが設定するリスク計算プロパティに基づいて、各要求の実施に伴うリスクを計算します。リスク因子の定義、リスク計算プロパティの設定の詳細については、「リスク分析」(296ページ)を参照してください。

7 類似した変更の構成

HP Release Controlは、すべての変更要求に共通の要素を自動的に識別および比較し、提案された変更要求との類似性が検出された変更の一覧を生成します。提案された変更をこの類似する変更の一覧と比較することで、履歴データから変更の特徴を把握し、結果をより正確に予測できます。類似した変更の構成の詳細については、「類似した変更分析」(299ページ)を参照してください。

レビューとコラボレーション設定の構成方法

このタスクには、HP Release Controlでレビューとコラボレーションの設定を構成するための手順が含まれます。

このタスクでは、以下の手順を実行します。

- ▶ 「アクションアイテムを自動的に作成する条件を決定」(271ページ)
- ▶ 「変更要求の承認/撤回/拒否操作の構成」(272ページ)
- ▶ 「電子メール通知の構成」(272ページ)
- ▶ 「実施後レビュー(PIR)機能の構成」(272ページ)

1 アクションアイテムを自動的に作成する条件を決定

デフォルトでは、ステータスが**承認待ち**であり、インパクトの重大度が**低い**以上であり、計算されたリスク値が**0**より大きい変更要求のアクションアイテムを自動的に作成します。アクションアイテムは、変更要求が影響を与えるビジネスCIに関連付けられたユーザーに割り当てられます。詳細については、「アクションアイテムの自動作成の構成方法」(303ページ)を参照してください。

2 変更要求の承認/撤回/拒否操作の構成

HP Release Controlには、ユーザーが変更要求を承認し、必要に応じて承認を撤回する機能があります。この操作の設定の詳細については、「要求承認のためのHP Release Controlの構成方法」(447ページ)を参照してください。

3 電子メール通知の構成

影響を受けるビジネス CI に関連付けられたユーザーに通知を送信するようにHP Release Controlを構成できます。通知内容の書式設定、およびHP Release Controlが通知を送信する環境の構成については、「通知構成の概要」(499ページ)を参照してください。

4 実施後レビュー (PIR) 機能の構成

PIR機能を使用することで、変更レビューアーは**評価と終了**ステータスの変更要求に対してレビューメモを追加できます。レビューメモには、要求に関する結論、要求の全体的な成果、当事者による満足度のレベルが記載されます。詳細については、「[実施後レビュー]ダイアログボックス」(139ページ)を参照してください。

一般設定とシステムプリファレンスの構成方法

このタスクには、HP Release Controlで一般設定とシステムプリファレンスを構成するための手順が含まれます。

このタスクでは、以下の手順を実行します。

- ▶ 「一般設定の構成」(273ページ)
- ▶ 「ビジネス設定の構成」(273ページ)
- ▶ 「ユーザー設定の構成」(273ページ)

1 一般設定の構成

以下の項目を構成します

- ▶ **SNMP メールサーバーとHP Release Controlサーバー**。詳細については、「[サーバー] ウィンドウ」(571ページ) を参照してください。
- ▶ **カレンダー設定**。詳細については、「[カレンダー] ウィンドウ」(508ページ) を参照してください。
- ▶ **ダッシュボード設定**。詳細については、「[ダッシュボード] ウィンドウ」(517ページ) を参照してください。

2 ビジネス設定の構成

ビジネスCIにユーザーを関連付け、ユーザーインターフェースに表示されるビジネスCIの詳細を設定します。この操作の設定の詳細については、「ビジネスCIの構成の概要」(591ページ) を参照してください。

3 ユーザー設定の構成

ユーザー名、パスワード、ユーザー認証などのユーザー設定を行います。詳細については、「ユーザーの構成」(599ページ) と「HP Release Control ユーザー認証の概要」(524ページ) を参照してください。

第 10 章

[構成] タブの操作

本章の内容

概念

- ▶ 「[構成] タブの概要」 (276 ページ)

タスク

- ▶ 「[構成] タブのファイルの構成方法」 (277 ページ)
- ▶ 「構成変更の保存方法と適用方法」 (277 ページ)
- ▶ 「構成設定の検証で発生する問題の解決方法」 (278 ページ)

リファレンス

- ▶ 「[構成] タブのユーザーインターフェース」 (280 ページ)

概念

[構成] タブの概要

管理者モジュールにある [構成] タブでは、環境のセットアップに必要な構成設定を定義できます。

構成セットには、[モジュール]>[管理者]>[構成] タブのシステムに対して定義したプロパティが含まれています。システムのすべての構成は [構成] タブで行います。構成セットは任意の数だけ作成でき、その中からシステムを実行する構成セットを1つ選択できます。HP Release Control は、作成した構成セットすべての履歴を維持します。既存の構成セットバージョンすべてを一覧表示する方法については、「[構成セットを開く] ダイアログ ボックス」(286 ページ) を参照してください。

HP Release Control では、あるシステムから別のシステムへと構成セットを移動できます。次の操作を行うことができます。

- ▶ ローカルディレクトリに構成セットをエクスポートする。
- ▶ ローカルシステムから別のシステムに構成セットをインポートする。たとえば、テスト環境から実稼働環境への移動などです。

構成セットを新しく作成すると、ドラフトとして保存されます。ドラフトとは、まだアクティブになっていない構成セットです。ドラフトは、最初にアクティブ化するまでの間は編集可能です。ドラフトがアクティブになった時点で、新しい構成プロパティが HP Release Control に適用されます。ドラフトをアクティブにする方法の詳細については、「構成変更の保存方法と適用方法」(277 ページ) を参照してください。

アクティブ化の後で構成セットの編集が必要になった場合は、新しいドラフトを作成する必要があります。ドラフトは、任意の構成セットに基づいて新規作成できます。

ドラフトを作成する方法の詳細については、「[ドラフトとして保存] ダイアログ ボックス」(287 ページ) を参照してください。

[構成] タブを操作する方法の詳細については、「[構成] タブ」(280 ページ) を参照してください。

タスク

[構成] タブのファイルの構成方法

構成の設定は、[構成] タブにある構成ファイル (スクリプトファイルやXMLファイルなど) で定義されます。このタスクでは、このようなファイルの変更方法を説明します。

1 [モジュール]>[管理者]>[構成] タブを選択し、構成するファイルをクリックします。そのファイルの内容が右側のウィンドウに表示されます。

2 必要な修正をファイルに加えたら、[現在の編集できる構成セットの保存] ボタン をクリックして、[ドラフトとして保存] ダイアログボックスを開き、修正した構成セットをドラフトとして保存します。



構成変更の保存方法と適用方法

このタスクでは、構成の変更を保存する方法と、HP Release Control に新しい構成プロパティを適用する方法について説明します。

1 [モジュール]>[管理者]>[構成] タブを選択して、必要な構成の変更を行います。

2 左側ウィンドウにある [現在の編集できる構成セットの保存] ボタン をクリックすると、[ドラフトとして保存] ダイアログボックスが開きます。ここで、変更した構成セットをドラフトとして保存します。ドラフトとは、まだアクティブになっていない構成セットです。ドラフトがアクティブ化されると、HP Release Control に新しい構成プロパティが適用されます。

3 [ドラフト名] ボックスに、ドラフトの名前を入力して [保存] をクリックします。

4 左側ウィンドウで、[構成セットを開く] をクリックすると、[構成セットを開く] ダイアログボックスが開きます。

5 [ドラフト] ボタンをクリックすると、既存のドラフトのみが表示されます。

6 必要なドラフトを選択して、[開く] をクリックします。現在選択されている構成セットの名前が左側ウィンドウの一番上に表示されます。





- 7 左側ウィンドウで、**[現在の構成セットのアクティベーション]** ボタンをクリックします。選択したドラフトがアクティブになり、HP Release Control に新しい構成プロパティが適用されます。

構成設定の検証で発生する問題の解決方法

環境のセットアップで必要となる構成設定を定義する作業では、エラーが発生して構成セットをアクティブにできなくなることがあります。

このタスクでは、衝突の計算に John Smith がオープンした変更要求のみを含むカスタムフィルターを作成することによって、衝突の原因を定義する方法を説明します。ここでは、John Smith という値が格納されているはずのフィールドが空であると想定します。

このタスクでは、HP Release Control が以下の操作をどのように行うのかを説明します。

- ▶ 構成にエラーが含まれることを通知する
- ▶ 問題の内容を正確に通知する
- ▶ 問題が存在するアプリケーション内の場所へのリンクを作成する

1 衝突の原因として定義するフィールドの指定

- a **[モジュール]** > **[管理者]** > **[構成]** タブ > **[変更プロセス]** > **[衝突]** > **[前提条件]** をクリックします。[フィールドの値前提条件] ウィンドウで、衝突の計算に John Smith がオープンした変更要求のみを含むカスタムフィルターを作成します。



- b **[構成を構成セットに追加]** ボタン をクリックして、フィルターに使用するフィールドを追加します。



- c **[フィールド名]** 列で下矢印 をクリックして、**[オープン実行者]** を選択します。このフィールドには値が指定されている必要がありますが、このタスクでは **[値]** フィールドを空にしておきます。

[前提条件] ウィンドウの詳細は、「[前提条件] ウィンドウ」(312 ページ) を参照してください。

2 構成セットの保存






左側ウィンドウで、**[現在の編集できる構成セットの保存]** ボタン をクリックして、構成セットを保存します。HP Release Control は、構成の検証を計算し、選択したフィールドの値を定義する必要があることを判定します。



左側ウィンドウの **[現在の構成セットのアクティベーション]** ボタン が無効になり、[問題] ウィンドウに以下の項目が表示されます。



- ▶ **[説明]** 列の問題の説明
- ▶ **[問題の重大度レベル]**  列のエラー アイコン
- ▶ **[コード]** 列の **[前提条件]** ウィンドウへのリンク

問題	
コード	 説明
RC-00001	 Value is required for property Values in configuration Field value prerequisites.

3 [オープン実行者] フィールドの値の定義

[フィールドの値前提条件] ウィンドウの **[値]** ボックスに「John Smith」と入力します。

4 構成セットの保存



左側ウィンドウで、**[現在の編集できる構成セットの保存]** ボタン をクリックして、構成セットを保存します。[問題] ウィンドウの内容が消去され、**[現在の構成セットのアクティベーション]** ボタン が有効になります。



5 構成セットのアクティベーション



左側ウィンドウで、**[現在の構成セットのアクティベーション]** ボタン をクリックして、構成セットをアクティブにします。

リファレンス

[構成] タブのユーザーインターフェース

本項の内容

- ▶ 「[構成] タブ」 (280ページ)
- ▶ 「[構成セットを開く] ダイアログ ボックス」 (286ページ)
- ▶ 「[ドラフトとして保存] ダイアログ ボックス」 (287ページ)

[構成] タブ

管理者モジュールにある [構成] タブでは、環境のセットアップに必要な構成設定を定義します。

構成セットには、システムに関して定義したプロパティが含まれています。構成セットの詳細は、「[構成] タブの概要」 (276ページ) を参照してください。






アクセス方法	[モジュール]>[管理者]>[構成] タブをクリックします。
関連タスク	<ul style="list-style-type: none">▶ 「構成設定の検証で発生する問題の解決方法」 (278ページ)▶ 「[構成] タブのファイルの構成方法」 (277ページ)▶ 「構成変更の保存方法と適用方法」 (277ページ)




<左側ウィンドウ>

このウィンドウには、構成ツリーが表示されます。このツリーには、HP Release Control 環境のセットアップで定義が必要になるプロパティが含まれています。プロパティはカテゴリに分割されています。ツリーで選択した各ノードの構成フィールドが、右ウィンドウに表示されます。

重要な情報	現在の構成セットの名前が左側ウィンドウの一番上に表示されます。
--------------	---------------------------------

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します (ラベルのない要素は、山かっこ <> で囲まれています)。

UIの要素	説明
	<p>現在編集可能な構成セットの保存。新しい構成セットのドラフトを作成します。ドラフトとは、まだアクティブになっていない編集可能な構成セットです。</p> <p>このボタンは、現在の構成セットを変更すると有効になります。詳細については、「[ドラフトとして保存] ダイアログ ボックス」(287 ページ) を参照してください。</p>
	<p>構成セットを開く。既存の構成セットバージョンすべてを一覧表示します。詳細については、「[構成セットを開く] ダイアログ ボックス」(286 ページ) を参照してください。</p>
	<p>構成セットのインポート。ローカルシステムから別のシステムに構成セットをインポートします。[構成セットのインポート] ダイアログボックスが開きます。</p>
	<p>構成セットを zip ファイルにエクスポート。選択した1つまたは複数の構成ファイルをローカルディレクトリに zip ファイルとしてエクスポートします。[構成セットを zip ファイルにエクスポート] ダイアログボックスが開きます。</p>
	<p>現在の構成セットのアクティベーション。ドラフト/構成セット内の構成プロパティを HP Release Control に適用することで、この構成セットがアクティブな構成セットになります。</p> <p>注：同時に複数の構成セットがアクティブになることはありません。</p>

UIの要素	説明
	<p>構成を構成セットに追加。このボタンは、構成ツリーでノードを選択したときのみ有効になります。下位構成を追加できます。</p>
	<p>構成を構成セットから削除。このボタンは、構成ツリーでノードを選択したときのみ有効になります。下位構成を削除できます。</p>
	<p>構成カテゴリを表します。</p> <p>注：各カテゴリの隣にある矢印で、下位レベルカテゴリを展開または折りたたみます。</p>
<p><構成ツリー></p>	<p>構成カテゴリが含まれます。</p> <p>ツリーで選択した各ノードの構成フィールドが、右ウィンドウに表示されます。構成カテゴリを以下に挙げます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 変更プロセス。詳細については、「変更プロセスの構成」(289ページ)を参照してください。 ▶ 統合。詳細については、「HP Universal CMDB 関連設定の構成」(369ページ)、「フィールドと列挙設定の構成」(339ページ)、および「サービスデスクの構成」(429ページ)を参照してください。 ▶ ラベルと用語。詳細については、「ラベルと用語の構成トピック」(491ページ)を参照してください。 ▶ モジュール。詳細については、「モジュールの構成」(499ページ)を参照してください。 ▶ セキュリティ。詳細については、「セキュリティの構成」(523ページ)を参照してください。 ▶ サーバー。詳細については、「サーバーの構成」(553ページ)を参照してください。

構成セットの一部をローカルディレクトリにエクスポートするには：

- 1 左側ウィンドウで、[モジュール]>[管理者]>[構成] タブ>[構成セットを zip ファイルにエクスポート] を選択します。[構成セットのエクスポート] ツリーが表示されます。
- 2 ツリーで、変更をエクスポートする構成ノードを選択します。
- 3 [エクスポート] をクリックします。

部分インポートを実行する際の注意事項：

同じバージョンの HP Release Control から一部がエクスポートされた構成セットを既存の構成セットにインポートする場合：

- ▶ 構成のインポートによって上書きされるのは、インポートしようとする zip ファイル内に存在する部分のみです。
- ▶ 既存の構成は、それがインポートする構成セット内に存在しない場合は削除できません。

例：

- 1 [モジュール]>[管理者]>[構成] タブ>[モジュール]>[分析]>[カレンダー] をクリックします。
- 2 [カレンダー色マッピング] ウィンドウで、フィールド値 `very_low` とそれに関連付けられている色を削除します。
- 3 その構成セットをエクスポートします。
- 4 その構成セットを、フィールド 値 `very_low` が存在する別のドラフトにインポートします。

このインポート操作で、フィールド値 `very_low` がドラフトから削除されることはありません。この操作で行われるのは、他の既存エントリを上書きするか、そのドラフトに新しいエントリを追加する処理のみです。エントリを削除する場合は、手動で行う必要があります。

注： アクティブになっていない構成セット (ドラフト) を処理しているときに構成セットをインポートすると、インポートした構成セットによって現在のドラフトが上書きされます。

注：既にアクティブになっている構成セットを処理しているときに、一部がエクスポートされた構成セットをインポートする場合は、[構成セットのインポート] ダイアログボックスの [ドラフト名] フィールドで別のドラフト名を指定して、ドラフトを作成する必要があります。

<右側ウィンドウ>

このウィンドウには、左側ウィンドウで選択したノードの構成フィールドが表示されます。

重要な情報	ウィンドウの一番上には、構成ツリーで選択したノードの名前が表示されます。
--------------	--------------------------------------

[問題] ウィンドウ






HP Release Control は、構成設定の検証を行い、構成に問題があるかどうか (フィールドの値がない場合など) を判定します。問題が検出されると、問題の説明、問題が検出された構成ウィンドウへのリンク、問題の重大度を示すアイコンが表示されます。

HP Release Control がどのようにして構成エラーを通知するかを示した例については、「構成設定の検証で発生する問題の解決方法」(278 ページ) を参照してください。

以下の操作の後に、構成が検証されます。


- ▶ 構成セットを保存する
- ▶ 構成セットを開く
- ▶ 構成セットをインポートする

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。




UIの要素	説明
	<p>問題の重大度レベルを示します。以下のアイコンが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶  構成設定にエラーが存在することを示します。この場合、構成セットをアクティブ化することはできません。[現在の構成セットのアクティベーション]  ボタンは無効です。 ▶  警告を示します。この場合、HP Release Control で構成セットをアクティブ化できます。 ▶  情報メッセージを表示します。この場合、HP Release Control で構成セットをアクティブ化できます。
コード	<p>問題を含むウィンドウへのリンクを含みます。リンクをクリックすると、構成ツリーでノードが選択され、それに対応するウィンドウが右側に表示されます。</p>
説明	<p>問題の説明を含みます。</p>

[構成セットを開く] ダイアログ ボックス

このダイアログボックスでは、既存の構成セットバージョンすべてが一覧表示されます。

アクセス方法	左側ウィンドウで [モジュール] > [管理者] > [構成] タブ > [構成セットを開く]  を選択します。
重要な情報	構成セットバージョンの名前は変更できません。
関連タスク	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「構成設定の検証で発生する問題の解決方法」 (278ページ) ▶ 「構成変更の保存方法と適用方法」 (277ページ) ▶ 「[構成] タブのファイルの構成方法」 (277ページ)

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。


UIの要素	説明
	現在アクティブな構成セット。 現在アクティブな構成セットを示します。
	これまでにアクティブ化した構成セット。 これまでにアクティブ化した構成セットを示します。
	ドラフト。 ドラフト (まだアクティブになっていない構成セット) を示します。ドラフトをアクティブ化すると、ドラフトの変更内容は HP Release Control の履歴のみに適用され、保存されます。ドラフトをアクティブにする方法の詳細については、「構成変更の保存方法と適用方法」 (277ページ) を参照してください。
アクティベーション済み	現在アクティブな構成セットを表示します。
すべて	既存の構成セットとドラフトすべてを表示します。
ドラフト	既存のドラフトすべてを表示します。
最終アクティベーション 実行者	ドラフト / 構成セットを最後にアクティベーションしたユーザーの名前。

UIの要素	説明
最終アクティベーション 実行日時	ドラフト/構成セットを最後にアクティベーションした日時。
最終変更者	ドラフト/構成セットを最後に変更したユーザーの名前。
最終変更日時	ドラフト/構成セットを最後に変更した日時。

[ドラフトとして保存] ダイアログ ボックス

このダイアログボックスでは、新しい構成セットのドラフトを作成できます。ドラフトとは、まだアクティブになっていない構成セットです。ドラフトは、最初にアクティブ化するまでの間は編集可能です。ドラフトがアクティブになると、HP Release Control に構成プロパティが適用されます。ドラフトをアクティブにする方法の詳細については、「[構成] タブ」(280ページ)を参照してください。

アクティブ化の後で構成セットの編集が必要になった場合は、新しいドラフトを作成する必要があります。

アクセス方法	左側ウィンドウで [モジュール] > [管理者] > [構成] タブ > [保存]  を選択します。
重要な情報	既存ドラフトの名前は変更できません。
関連タスク	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「構成設定の検証で発生する問題の解決方法」(278ページ) ▶ 「構成変更の保存方法と適用方法」(277ページ) ▶ 「[構成] タブのファイルの構成方法」(277ページ)

第 10 章 「[構成] タブの操作」

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します (ラベルのない要素は、山かっこ <> で囲まれています)。

UIの要素	説明
<既存ドラフトの一覧>	既存ドラフトすべてを一覧表示します。
ドラフト名	新規ドラフトの一意の名前を入力します。
最終変更者	ドラフトを最後に変更したユーザーの名前。
最終変更日時	ドラフトを最後に変更した日時。
名前	ドラフトの名前。

第 11 章

変更プロセスの構成

本章の内容

概念

- ▶ 「衝突の構成」 (290 ページ)
- ▶ 「変更要求の衝突の計算」 (291 ページ)
- ▶ 「インパクト分析」 (295 ページ)
- ▶ 「リスク分析」 (296 ページ)
- ▶ 「類似した変更分析」 (299 ページ)

タスク

- ▶ 「インパクト分析ルール of 構成」 (300 ページ)
- ▶ 「リスク分析 of 構成」 (302 ページ)
- ▶ 「アクションアイテム of 自動作成 of 構成方法」 (303 ページ)

リファレンス

- ▶ 「変更プロセス構成 of ユーザーインターフェース」 (305 ページ)

概念

衝突の構成

HP Release Control は、同じ期間または隣接する期間にスケジュールされた変更要求の中で、主要な要素が同じものを自動的に識別します。

変更要求は、次の場合に衝突として定義されます。

- ▶ 構成アイテム (CI) またはビジネス CI が、同一期間または隣接する期間で複数の変更に関係する。
- ▶ 同じ実施担当者が、同一期間または隣接する期間で複数の変更の実施を担当する。
- ▶ 指定したフィールドの値が、同一期間または隣接する期間の複数の変更で同じである。

衝突の重大度は、衝突の原因、および変更要求の互いの類似性の観点から測定されます。

HP Release Control では、衝突計算の対象となる変更要求を選択する方法、衝突を特定する方法、計算方法を設定できます。

衝突計算の対象となる変更要求の指定

HP Release Control では、衝突を計算するときに、対象となる変更要求を限定できます。これにより、不適切な結果が計算されたり、システムで不要なオーバーヘッドが発生する事態を回避できます。

カスタムフィルターや事前定義されたフィルターを使用することで、変更計算に変更要求を含める条件を定義できます。詳細については、「[前提条件] ウィンドウ」(312 ページ) を参照してください。

- ▶ カスタムフィルターでは、以下のいずれかの変更要求が計算対象になります。
 - ▶ 指定されたフィールドに指定された値が格納されている変更要求
 - ▶ 指定されたフィールドの値が一致する変更要求

- ▶ 事前定義されたフィルターでは、変更要求のステータスや期間を基準に、衝突計算に含める変更要求を絞り込むことができます。詳細については、「[フィールド別衝突] ウィンドウ」(316 ページ) を参照してください。

変更要求の衝突の計算

変更要求の計算は、リソースのスケジューリングの競合が基準になります。複数の変更要求に共通の要素があり、変更要求の予定開始時刻と終了時刻が重複または非常に近い場合、これらの変更要求は衝突するとみなされます。

[モジュール]>[管理者]>[構成] タブで、「[タイプ] ウィンドウ」(315 ページ) で変更要求の衝突を識別する方法と計算方法をカスタマイズできます。

この項では、次の項目を説明します。

- ▶ 「衝突の近接レベルの構成」(291 ページ)
- ▶ 「衝突の原因の構成」(293 ページ)
- ▶ 「衝突の重大度レベルの構成」(294 ページ)

衝突の近接レベルの構成

2つの変更要求間の近接レベルは、以下のいずれかの方法で定義できます。

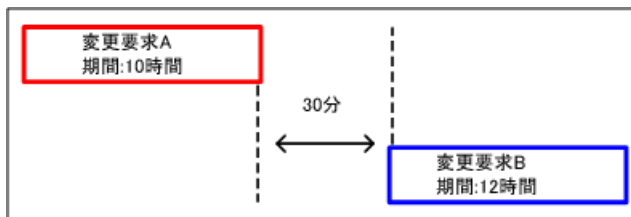
- ▶ **重複。**2つの変更要求のスケジュールが重複しています。



- ▶ **重複警告**。実際には、計画された変更が当初の期間を超過することは頻繁に発生します。この場合には2つの変更要求スケジュール間に予期しない衝突が発生することになります。2つの変更要求が非常に近い間隔でスケジュールされる場合の近接レベルは**重複警告**とみなされます。

デフォルトで、変更要求間の時間差が、前の変更要求の期間の10%未満であるとき、変更要求が十分に近いとみなされます。

以下の図では、変更要求Aと変更要求B間の時間差が30分であるため、変更要求Aの期間を下回ります。このため、この2つの変更要求間の近接レベルは**重複警告**と定義されます。



[**重複警告**]を設定するには、[衝突]ウィンドウで[警告率]を指定します。[警告率]の設定方法については、「警告率」(312ページ)を参照してください。

警告率を設定することによって、2つの変更要求が十分に近い(**重複警告**の近接レベル)と判断される時間差が定義されます。

衝突の原因の構成

2つの変更要求は、近接しているという理由だけで衝突しているとはみなされません。相互に影響を及ぼすことなく、同時に実行できる場合もあります。変更要求が衝突するのは、相互に近接しており、以下の要素のいずれか1つに該当する場合のみです。

- ▶ **構成アイテム (CI)**。2つの変更要求に、同じCIが1つ以上存在します。

あるCIが変更要求の直接的な結果として変更される場合、このCIは変更されたCI (CCI) と呼ばれます。変更要求に直接的には関係しないが、変更要求の結果として影響を受ける可能性があるCIがある場合、このCIは、影響を受けるCI (ACI) と呼ばれます。

たとえば、変更要求がサーバー A のメモリーの増大を伴う場合、サーバー A はCCI といえることができます。ホストマシン B がサーバー A に接続されていて、変更要求には直接的に関係しない場合、ホストマシン B はACI といえることができます。

注： HP Universal CMDB が無効な状態で HP Release Control を使用している場合、ACI は検出されません。

- ▶ **影響を受けるビジネスCI**。2つの変更要求が、同じビジネスCIに影響を与えます。

ビジネスCIに関連付けられているCIにCCIが含まれる場合、そのビジネスCIは、直接的に影響を受けるビジネスCI (DAB) と呼ばれます。ビジネスCIに関連付けられているCIすべてがACIである場合、このビジネスCIは間接的に影響を受けるビジネスCI (IAB) と呼ばれます。

- ▶ **実施担当者**。変更要求の実施担当者が同じです。
- ▶ **指定されたフィールド値**。指定した事前定義フィールド、またはカスタマイズフィールドの値が、両方の変更要求で一致します。

- ▶ **複数テナント文字列。**2つの変更要求に、共通の値が1つ以上存在します。たとえば、2つの変更要求がそれぞれ「Finance,IT,Application」と「QA,Finance」という値を含むとします。この場合、いずれの変更要求も「Finance」という値を持っています。値の区切り文字 (フィールド内の値を区切られた値として認識できます) については、「[フィールドの属性 - フィールド定義] タブ」(355ページ) を参照してください。

衝突の重大度レベルの構成

HP Release Control は、衝突の原因となる要素と、衝突する変更要求間の近接度に基づいて衝突の重大度を決定します。デフォルトでは、衝突の重大度レベルは以下のように構成されます。

衝突の原因となる要素	近接レベル	
	重複	重複警告
CCI-CCI	致命的	致命的
CCI-ACI	高い	高い
ACI-ACI	なし	なし
DAB-DAB	高い	高い
IAB-DAB	中	中
IAB-IAB	低い	低い
IMPLEMENTATOR	中	極めて低い
<ユーザー定義> (下記注記参照)	ユーザー定義	ユーザー定義

たとえば、変更要求が1つの共通の変更されたCI (**CCI-CCI**) を共有し、変更要求の近接レベルが**重複**として定義される場合、衝突の重大度は**致命的**になります。

注：

- ▶ 複数の要素が衝突の原因となっている場合、重大度は最も高い重大度の衝突によって決定されます。
 - ▶ 衝突の原因として1つまたは複数のフィールドを定義することで、カスタム定義の衝突の重大度レベルを構成することもできます。この場合、各フィールドで、近接レベルごとに衝突の重大度レベルを指定する必要があります。たとえば、衝突の原因としてフィールド **場所** を追加した場合、場所に関連する **重複** と **重複警告** の両方の衝突の重大度を指定する必要があります。衝突の原因としてフィールドを指定する方法の詳細については、「[フィールド別衝突] ウィンドウ」(316 ページ) を参照してください。
-

衝突の原因と近接レベルの任意の組み合わせに対する重大度レベルの決定方法を変更できます。詳細については、「[タイプ] ウィンドウ」(315 ページ) を参照してください。

インパクト分析

インパクト分析では、CI に対する変更要求の影響を計算します。CI の詳細と相互の関係が、HP Universal CMDB からインポートされます。したがって、インパクト分析を実行するには、HP Universal CMDB 設定を構成する必要があります。詳細については、「HP Universal CMDB 関連設定の構成の概要」(371 ページ) を参照してください。

インパクト分析を計算するために HP Release Control をセットアップおよび構成する方法については、「インパクト分析ルールの構成」(300 ページ) を参照してください。

インパクト分析を計算するタイミングの決定

インパクト分析の計算は、システムリソースを大量に消費します。インパクト分析を実行するインスタンスを最小限にして、システムリソースの使用量を最適化するように HP Release Control を構成できます。

新規チケットが作成されるたびに、インパクトを計算する必要があります。ただし、古いチケット/変更要求が変更された場合にもインパクトは計算されます。

- ▶ 「[変更プロセス] ウィンドウ」(306ページ) を選択し、最初の読み込み時に取得した新規変更要求のインパクト分析を計算することができます。
- ▶ チケットに関連付けられた HP Universal CMDB CI の一覧が変更されなかった場合や、**[分析対象 CI が更新された場合のみインパクトを計算]** チェックボックスがオンの場合、インパクト分析は計算されません。

注： ([モジュール]>[管理者]>[構成] タブ > [変更プロセス]>[変更フロー スクリプト]にある) `change-flow.js` スクリプト内で `shouldCalcImpact` 関数を使用することで、HP Release Control は、**[初期読み込みのインパクトを常に計算]** および **[分析対象 CI が更新された場合のみインパクトを計算]** オプションの構成を上書きします。
`change-flow.js` スクリプトの詳細については、「[変更フロー スクリプト] ウィンドウ」(308ページ) を参照してください。

リスク分析

HP Release Control は、各変更要求のリスク分析を実行します。これにより、変更マネージャーは実施に伴うリスクの観点から変更要求を比較できます。

要求の相対リスク計算に HP Release Control が使用する式や具体的な処理例は、「リスク分析」(44ページ) を参照してください。

この項では、次の項目を説明します。

- ▶ 「リスク計算プロパティの構成」(297ページ)
- ▶ 「リスク分析前に操作を追加」(298ページ)

リスク計算プロパティの構成

[モジュール]>[管理者]>[構成] タブ > [変更プロセス]>[変更フロー スクリプト] 内で **shouldCalcRisk** 関数を使用して、計算するリスクの定義を変更できます。

たとえば、デフォルトでは、リスクはすべてのステータスについて計算されます。承認済みの変更要求やクローズ済みの変更要求についてリスクを計算しないようにするには、**shouldCalcRisk** 関数から不要なステータスを除外します。

```
function shouldCalcRisk(prevChange, newChange) {
    return true;
}
```

HP Release Control に入力された新しい変更要求のリスクを計算するには、**shouldCalcRisk** 関数の一部に以下の行を追記します。

```
if (prevChange==null)
    shouldCalc= true;
```

change-flow.js スクリプト内の **overrideRisk** 関数を使用すると、HP Release Control は標準リスク計算を上書きします。たとえば、以下のスクリプトのように、特定のビジネス CI に影響を与える変更要求に最大のリスク値を割り当てることができます。

```
function overrideRisk(prevChangeInfo, changeInfo, analysis, result)
{
    if (changeInfo.getField("is-sox-app-involved").equalsIgnoreCase("Yes")){
        result.addRule("Sox Application - max risk");
        result.risk= 100;
    }
}
```

shouldCalcRisk 関数と **overrideRisk** 関数の両方に含まれるオブジェクトの詳細については、**API_Reference.chm** ファイルにある **RiskAnalysis**、**RawRiskFactorCalculationResult**、**OverrideRulesResult** の各クラスを参照してください(API リファレンスにアクセスするには、[スタート]>[プログラム]>[HP Release Control 9.20]>[ドキュメント])をクリックし、**pdfs** ディレクトリを開きます。

リスク分析前に操作を追加

インパクト分析計算に基づいて、リスク分析の前に操作を実行することができます。たとえば、リスク計算の前に、リスク分析に影響を与える CI データを更新できます。

各リスク分析の前に実行が必要な操作を追加するには、[モジュール]>[管理者]>[構成] タブ > [変更プロセス] > [変更フロー スクリプト] を選択します。**change-flow.js** スクリプト内の **preCalcRisk** 関数には、実行する操作を追加する場所が含まれます。

デフォルトではこの関数は空です。これは、各リスク分析の前に自動的に実行する操作がないことを意味します。この関数は、いずれも書き込み可能な **WritableGenericRFCImpl** 引数を 2 つ取ります。

```
function preCalcRisk(prevChange, newChange){
}
```

この関数で指定できるオブジェクトの詳細については、**API_Reference.chm** ファイル内の **WritableGenericRFCImpl** クラスを参照してください(API リファレンスにアクセスするには、[スタート]>[プログラム]>[HP Release Control 9.20]>[ドキュメント])をクリックし、**pdfs** ディレクトリを開きます。

類似した変更分析

HP Release Control は、すべての変更要求に共通の要素を自動的に識別および比較し、提案された変更要求との類似性が検出された変更の一覧を生成します。

提案された変更をこの類似する変更の一覧と比較することで、履歴データから変更の特徴を把握し、結果をより正確に予測できます。

類似性計算の仕組み

HP Release Control は、共通の重要要素に関わる変更要求を自動的に特定します。共通要素は相互に比較され、近接値が求められます。この値は常に **0** ~ **1** の範囲となり、要求が類似している度合を示します。

次に、定義されたしきい値と近接値が比較されます。このしきい値は、比較対象の要求が類似しているとみなされる最小の近接値です。

つまり、2つの変更間の近接値がしきい値以上であれば、類似変更機能の点で変更は類似しているとみなされます。近接値がしきい値未満であれば、変更は類似しているとはみなされません。

たとえば、**変更A**と**変更B**の共通要素を比較した結果、**0.7**の近接値が得られたとします。定義された最小類似性のしきい値が**0.5**であれば、定義された類似性の最小値よりも近接値が高いことから、**変更A**と**変更B**は類似しているとみなされます。

HP Release Control が類似した変更を特定して計算する方法のカスタマイズ方法については、「[類似性] ウィンドウ」(332ページ)を参照してください。

タスク

インパクト分析規則の構成

このタスクでは、インパクト分析規則の構成方法について説明します。

ここでは、以下の手順を実行します。

- ▶ 「CI検索命令の構成 - オプション」 (300ページ)
- ▶ 「インパクト分析を計算するタイミングの決定 - オプション」 (300ページ)
- ▶ 「分析規則の構成」 (301ページ)

1 CI検索命令の構成 - オプション

デフォルトでは、HP Release Controlがインパクト計算を行う場合、タイプが**host**または**ip**で、形式がHP Universal CMDB属性のいずれか ([**モジュール**] > [**管理者**] > [**構成**] タブ > [**統合**] > [**HP Universal CMDB**] > [**CI 分析ルックアップ命令**] ウィンドウ) と一致する変更済みCIを検索します。

この一覧を変更することにより、別のタイプや別の属性のCIを検索できます。詳細については、「[CI分析ルックアップ命令] ウィンドウ」(410ページ)を参照してください。

2 インパクト分析を計算するタイミングの決定 - オプション

デフォルトでは、HP Release Controlはチケットが作成されるたびにインパクト分析を計算します。さらに、古いチケット/変更要求が変更された場合にもインパクト分析は再計算されます。

システムリソースを節約する目的で、インパクト分析を計算する頻度を低くすることもできます。インパクト分析を再計算するタイミングを決定するには、[**モジュール**] > [**管理者**] > [**構成**] タブ > [**変更プロセス**] > [**変更フロー スクリプト**] を選択します。**change-flow.js** スクリプト内の **shouldCalcImpact** 関数には、インパクトの再計算が必要なタイミングを決定するためのプロトコルが含まれます。インパクト分析を計算するタイミングを決定する方法については、「インパクト分析を計算するタイミングの決定」(296ページ)を参照してください。

3 分析ルールの構成

- a** (オプション) 変更要求のCIとタスクを集計します。デフォルトでは、HP Release Controlは上位の要求のCIと一緒にタスクのCIを計算します。CIを個別に計算するには、[モジュール]>[管理者]>[構成]タブ>[変更プロセス]を選択します。右側の[変更プロセス]ウィンドウで、[CIを集計する]チェックボックスをオフにします。詳細については、「CIを集計する」(307ページ)を参照してください。
- b** HP Release Controlに認識させる各CITの分析ルールを定義します。[モジュール]>[管理者]>[構成]タブ>[変更プロセス]>[インパクト分析ルール]をクリックします。[CI分析ルール]ウィンドウで[ルールの追加]ボタンをクリックします。[CI分析ルール定義]ウィンドウで新しいルールを構成します。[CI分析ルール]ウィンドウと[CI分析ルール定義]ウィンドウについては、「[インパクト分析ルール]ウィンドウ」(319ページ)を参照してください。
- c** 定義した新しいルールをテストします。[モジュール]>[管理者]>[構成]タブ>[変更プロセス]>[インパクト分析ルール]をクリックします。[選択したアナライザーのテスト]ウィンドウで[アナライザーのテスト]ボタンをクリックします。[選択したアナライザーのテスト]ウィンドウの詳細については、「[インパクト分析ルール]ウィンドウ」(319ページ)を参照してください。
- d** 変更要求フィールドに分析ルールを適用します。[モジュール]>[管理者]>[構成]タブ>[統合]>[フィールド]を選択します。右側にある[フィールドの属性]ウィンドウで[フィールドの属性 - CI分析ルール]タブをクリックして、ルールを適用するレベル([変更]または[タスク])を選択します。詳細については、「[フィールドの属性 - CI分析ルール]タブ」(364ページ)を参照してください。



リスク分析の構成

このタスクでは、変更要求のリスク分析の構成方法を説明します。

注：リスク分析は、インパクト分析、衝突、類似した変更、期間の競合などの構成に依存するので、リスク分析の構成を構成プロセスの最後に行うことをお勧めします。

1 リスク計算プロパティの構成 - オプション

[モジュール]>[管理者]>[構成] タブ > [変更プロセス]>[変更フロー スクリプト] の **change-flow.js** スクリプト内で、**shouldCalcRisk** 関数で計算するリスクの定義を変更します。詳細については、「リスク計算プロパティの構成」(297 ページ) を参照してください。

2 リスク分析実行前に操作を追加 - オプション

[モジュール]>[管理者]>[構成] タブ > [変更プロセス]>[変更フロー スクリプト] の **change-flow.js** スクリプト内で、**preCalcRisk** 関数を使って各リスク分析の前に実行する操作を追加します。詳細については、「リスク分析前に操作を追加」(298 ページ) を参照してください。

3 リスク因子の構成

見込み損害、または**失敗確率**リスク因子を定義します。[モジュール]>[管理者]>[構成] タブ > [変更プロセス]>[リスク因子] をクリックします。[リスク因子] ウィンドウで [確率の因子]、または [損害の因子] タブをクリックしてから、[因子の追加] ボタンをクリックします。[因子定義] ウィンドウで、新しいリスク因子を定義します。詳細については、「[因子定義] ウィンドウ」(327 ページ) を参照してください。



4 リスク因子のテスト - オプション



a リスク因子を保存する前に、サンプルの変更要求をインポートしてその変更要求のリスク計算を実行することで、リスク因子をテストします。[モジュール]>[管理者]>[構成] タブ > [変更プロセス] > [リスク因子] をクリックします。[リスク因子のテスト] ウィンドウで [サンプルの変更要求の追加] ボタンをクリックすると、[サンプルの変更要求の追加] ダイアログボックスが開きます。リスク因子をテストするためのサンプルの変更要求を選択します。詳細については、「[リスク因子] ウィンドウ」(325ページ) を参照してください。



b テストを実行して、新しい設定をベースにすべての変更要求のリスク計算をシミュレートします。[リスク因子のテスト] ウィンドウで [リスク計算のシミュレート] ボタンをクリックします。詳細については、「[リスク因子のテスト] ウィンドウ」(329ページ) を参照してください。

5 リスク因子の再計算 - オプション



注：このステップを実施する前に、左ウィンドウにある [現在の編集できる構成セットの保存] ボタンをクリックして、新しい設定を保存して適用します。詳細については、「構成変更の保存方法と適用方法」(277ページ) を参照してください。

手動で再計算処理を実行することで、新しい設定をベースにリスク因子を再計算します。詳細については、「[手動変更プロセスの起動] ダイアログボックス」(136ページ) を参照してください。

アクションアイテムの自動作成の構成方法

デフォルトでは、HP Release Control は自動的にある変更要求からアクションアイテムを作成し、このアイテムを特定の HP Release Control ユーザーに割り当てます。ここでは、**change-flow.js** スクリプト内で **addActionItemsOnChange** 関数を使用し、アクションアイテムを自動的に作成するための条件を変更する方法について説明します。

1 [モジュール]>[管理者]>[構成] タブ > [変更プロセス]>[変更フロー スクリプト] を選択しますそのファイルの内容が右側のウィンドウに表示されます。

2 **addActionItemsOnChange** 関数を探します。デフォルトでは、**addActionItemsOnChange** 関数は、指定されたステータスを持つ (代理要求ではない) 新しい変更要求それぞれと、以前に収集された要求のバージョンとを比較するように HP Release Control に指示します。

変更のインパクトの重大度が指定された重大度以上であり、計算されたリスクが指定されたしきい値より高い場合、HP Release Control は変更要求によって影響を受けるビジネス CI に関連付けられたユーザーのアクションアイテムを作成します。

```
function addActionItemsOnChange(prevChange, newChange, actionItemsContext){
    if(prevChange != null || newChange.getChangeCategory() ==
    CHANGECATEGORY_SURROGATE) return;

    statusIsPendingApproval = newChange.getField("status") ==
    STATUS_PENDING_APPROVAL;
    threshold = 0;
    riskAboveThreshold = (newChange.getField("calculated-risk") > threshold);

    if(statusIsPendingApproval && riskAboveThreshold){
        users = newChange.getAffectedUsersAboveSeverityAsArray(SEVERITY_LOW);
        for(i=0; i<users.length; i++){
            assignee = users[i];
            actionItem = newChange.createActionItem(assignee);
            actionItem.setCreator("admin");
            actionItem.setAutoClose(true);
            actionItem.setDeadlineTimeStamp(newChange.getField("planned-start-time"));
            actionItem.setActionItemPriority(ACTIONITEMPRIORITY_NORMAL);
            actionItem.setSubject("Please check the impact on this change from your side");
            actionItemsContext.addActionItem(actionItem);
        }
    }
}
```

3 必要に応じて、アクションアイテムに関連付けられた以下のプロパティを変更します。

- ▶ **担当者**。デフォルトでは、変更要求が影響を与えるビジネス UI に関連付けられたユーザー。
- ▶ **作成者**。デフォルトでは、HP Release Control 管理者。
- ▶ **期日**。デフォルトでは、新しい変更要求の計画開始日時。

- ▶ **優先度**。デフォルトでは、普通レベルの優先度。

addActionItemsOnChange 関数で使用できるオブジェクトの例については、**API_Reference.chm** ファイルの **GenericRFC** クラスを参照してください。(API リファレンスにアクセスするには、**[スタート]>[プログラム]>[HP Release Control 9.20]>[ドキュメント]** をクリックし、**pdfs** ディレクトリを開きます)。

- 4 必要な修正を加えたら、変更を保存し適用します。

リファレンス

変更プロセス構成のユーザーインターフェース

本項の内容

- ▶ 「[変更プロセス] ウィンドウ」 (306 ページ)
- ▶ 「[変更フロー スクリプト] ウィンドウ」 (308 ページ)
- ▶ 「[衝突] ウィンドウ」 (311 ページ)
- ▶ 「[前提条件] ウィンドウ」 (312 ページ)
- ▶ 「[タイプ] ウィンドウ」 (315 ページ)
- ▶ 「[インパクト分析ルール] ウィンドウ」 (319 ページ)
- ▶ 「[リスク因子] ウィンドウ」 (325 ページ)
- ▶ 「[類似性] ウィンドウ」 (332 ページ)

[変更プロセス] ウィンドウ

このウィンドウでは、以下の操作を実行します。

- ▶ タスク (第2レベルの要求) 内のCIのインパクトを、タスクが属す変更とは別に計算するか、タスクのそれぞれの変更のインパクト分析に含めるかを指定します。詳細については、「CIを集計する」(307ページ)を参照してください。
- ▶ プリエンプティブインパクト機能を構成します。詳細については、「プリエンパティブインパクトを有効にする」(308ページ)を参照してください。
- ▶ 必要に応じて、要求の収集頻度を変更します。詳細については、「収集の頻度」(307ページ)を参照してください。

アクセス方法	[モジュール]>[管理者]>[構成] タブ>[変更プロセス]をクリックします。
関連項目	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「[構成] タブの操作」(275ページ) ▶ 「衝突の近接レベルの構成」(291ページ) ▶ 「[タイプ] ウィンドウ」(315ページ)

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
初期読み込みでインパクトを常に計算	HP Release Controlは、初期読み込みで取得される新しい変更要求それぞれについて、インパクト分析を必ず計算します。
分析対象CIが更新された場合のみインパクトを計算	HP Release Controlは、チケットに関連付けられたHP Universal CMDB CIの一覧が更新された場合のみ、インパクト分析を行います。

UIの要素	説明
CIを集計する	<p>タスク (第2レベルの要求) 内のCIのインパクトを、タスクが属す変更とは別に計算するか、タスクのそれぞれの変更のインパクト分析に含めるかを指定します。</p> <p>デフォルトでは、タスクのインパクト分析を行うと、そのタスクが関連付けられている変更のインパクト分析が行われ、タスクの変更済みCIがタスクの上位変更の変更されたCI一覧に含まれます。</p> <p>CIを個別に計算するには [CIを集計する] チェックボックスをオフにします。</p>
収集の頻度	<p>HP Release Controlが変更要求を収集する間隔 (秒) を示します。</p> <p>デフォルト : 5</p>
手動変更処理の 処理共有 (%)	<p>手動変更処理に割り当てられる処理時間の最大比率 (パーセント)。</p> <p>サービスデスク統合モジュール (SDI) キューの変更の処理時間と、手動処理の変更の処理時間の比率を指定します。詳細については、「[手動変更プロセスの起動] ダイアログボックス」(136ページ) を参照してください。</p>
プリエンプティブ インパクトの 最小キュー長	<p>プリエンプティブインパクト機能をアクティブにするのに必要なキューのサイズ。</p>
インパクトの計算機数	<p>インパクト分析の計算に使用する計算機の個数。</p>

UIの要素	説明
<p>プリエンプティブインパクトを有効にする</p>	<p>変更間には依存関係が存在する可能性があるため、HP Release Controlは、デフォルトでは、1回に1つの変更要求を処理します。したがって、分析が実行されるまでの間、変更はキュー内で待機します。</p> <p>ただし、インパクト計算フェーズは、他の分析計算には依存しないため、並列実行が可能です。</p> <p>プリエンプティブインパクトを使用すると、複数の計算機を同時に起動してキュー内の変更のインパクトを事前計算することにより、HP Release Controlの性能を改善できます。</p> <p>デフォルトでは、プリエンプティブインパクト機能は無効です。有効にするには、このチェックボックスをオンにします。</p>
<p>推奨日時解析で有効なステータス</p>	<p>選択したステータスに基づいて、HP Release Controlが変更要求の推奨日時を計算するかどうかを指定します。詳細については、「HP Service Managerでの推奨日時解析の更新」(440ページ)を参照してください。</p>

[変更フロー スクリプト] ウィンドウ

このウィンドウには **change-flow.js** スクリプトが含まれ、スクリプトには関数が含まれます。この関数は、HP Release Controlの分析プロセスをきめ細かくカスタマイズして制御することで、ビジネスロジックをフィールドレベルで適用します。

<p>アクセス方法</p>	<p>[モジュール]>[管理者]>[構成] タブ > [変更プロセス]>[変更フロー スクリプト] をクリックします。</p> <p>注： このファイルの編集の詳細については、「[構成] タブのファイルの構成方法」(277ページ)を参照してください。</p>
----------------------	--

重要な情報	このスクリプト関数で指定できるオブジェクトの詳細については、 API_Reference.chm ファイルを参照してください(API リファレンスにアクセスするには、[スタート]>[プログラム]>[HP Release Control 9.20]>[ドキュメント]をクリックし、pdfs ディレクトリを開きます)。
関連項目	「[構成] タブの操作」(275 ページ)

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します (ラベルのない要素は、山かっこ <> で囲まれています)。

UIの要素	説明
<p><change-flow.js スクリプトに含まれる 関数></p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ preChangeProcess および postChangeProcess。変更要求の処理前の因子や変更要求の処理後の因子を計算します。詳細については、「変更要求の分析の構成方法」(268 ページ)を参照してください。 ▶ shouldCalcImpact。インパクト分析を再計算するタイミングを決定します。詳細については、「インパクト分析を計算するタイミングの決定」(296 ページ)を参照してください。 ▶ preCalcRisk。各リスク分析の前に実行する必要がある操作を追加します。詳細については、「リスク分析前に操作を追加」(298 ページ)を参照してください。 ▶ shouldCalcRisk。計算が必要な変更要求のリスクを決定します。詳細については、「リスク計算プロパティの構成」(297 ページ)を参照してください。 ▶ overrideRisk。標準のリスク計算を上書きするように HP Release Control に指示します。詳細については、「リスク計算プロパティの構成」(297 ページ)を参照してください。 ▶ addActionItemsOnChange。アクションアイテムを自動作成するための条件を変更します。詳細については、「アクションアイテムの自動作成の構成方法」(303 ページ)を参照してください。 ▶ getUsersToNotify。変更プロセス中に通知するユーザーを指定します。詳細については、「通知構成の概要」(499 ページ)を参照してください。 ▶ shouldCalcSimilar。類似した変更を計算するかどうかを決定します。詳細については、「[類似性] ウィンドウ」(332 ページ)を参照してください。 ▶ shouldCalcSuggestTime。推奨日時解析を計算するかどうかを決定します。詳細については、「HP Service Manager での推奨日時解析の更新」(440 ページ)を参照してください。

[衝突] ウィンドウ

このウィンドウでは、変更要求の期間に基づいて、変更要求が衝突計算の対象かどうかを判定し、**重複警告**の定義を構成します。

アクセス方法	[モジュール]>[管理者]>[構成] タブ>[変更プロセス]>[衝突] をクリックします。
関連項目	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「[構成] タブの操作」 (275 ページ) ▶ 「衝突の構成」 (290 ページ) ▶ 「変更要求の衝突の計算」 (291 ページ) ▶ 「[タイプ] ウィンドウ」 (315 ページ) ▶ 「[評価]>[衝突] タブ」 (83 ページ)

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
衝突カウントしきい値	<p>HP Release Control が衝突結果を計算する衝突の最大数。衝突の個数が指定された値を超過すると、衝突の計算結果は無視されます。</p> <p>注：0 を指定すると衝突カウントしきい値機能が無効になります。</p>
最大変更期間 (日)	<p>変更要求の期間に基づいて、変更要求が衝突計算の対象かどうかを決定します。許容される変更要求の最長期間を指定します。特定の変更要求の期間がこの値を超過すると、HP Release Control は、その変更要求は衝突計算の対象にはなりません。</p> <p>新しい最大期間値 (日) を定義します。変更要求期間を破棄して、任意の期間を適用するには、この値を 0 に設定します。</p> <p>デフォルト値：7</p> <p>注：デフォルトでは、変更要求の期間が7日間を超過しない限り、変更要求は衝突計算の対象になります。</p>

UIの要素	説明
警告率	<p>重複警告の定義を構成します。衝突警告の詳細については、「衝突の近接レベルの構成」(291 ページ)を参照してください。</p> <p>警告率オプションの値を設定することによって、2つの変更要求が十分に近い(重複警告の近接レベル)と判断される時間差が定義されます。</p> <p>デフォルト値: 1.1。最初と次の変更要求間の時間差が、最初の変更要求の期間の10%未満であるとき、変更要求が十分に近いとみなされます。</p> <p>たとえば、近接の時間差を最初の変更期間の25%増にするには、警告率を1.25に設定します。</p>

[前提条件] ウィンドウ

このウィンドウで以下を実行できます。

- ▶ 変更要求のステータスに基づいて、変更要求を衝突計算の対象にするかどうかを決定します。
- ▶ 変更要求を衝突計算の対象にするかどうかを決定するカスタムフィルターを作成します。カスタムフィルターには次の2つのタイプがあります。
 - ▶ 指定されたフィールドに指定された値がある変更要求のみを、衝突計算の対象とするカスタムフィルター。
 - ▶ 指定されたフィールドに一致する値がある変更要求のみを、衝突計算の対象とするカスタムフィルター。

アクセス方法	[モジュール] > [管理者] > [構成] タブ > [変更プロセス] > [衝突] > [前提条件] をクリックします。
---------------	--

重要な情報	両方のフィルターを含めると、HP Release Controlは、変更要求に両方のフィルターの条件を適用します。
関連項目	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「[構成] タブの操作」 (275 ページ) ▶ 「変更要求の衝突の計算」 (291 ページ)

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。



UIの要素	説明
計算する衝突ステータス	<p>変更要求のステータスに基づいて、変更要求を衝突計算の対象にするかどうかを決定します。</p> <p>注：デフォルトでは、すべてのステータスの変更要求が衝突計算の対象になります。</p> <p>必要な変更要求ステータスを1つまたは複数選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 承認前 ▶ 承認待ち ▶ 承認済み ▶ 実行中 ▶ 評価と終了 ▶ クローズ済み ▶ 不明

[フィールドの値前提条件] ウィンドウ

このウィンドウでは、指定されたフィールドに指定された値がある変更要求のみを、衝突計算の対象とするカスタムフィルターを作成します。

フィールド名とそのフィールドの値を指定します。たとえば、このフィルターを使用して **ticket-level** フィールドが **2** に定義されている変更要求のみを計算の対象にすることができます。この場合、HP Release Controlは第2レベル(下位)要求間でのみ衝突を計算します。

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。



UIの要素	説明
	構成を構成セットに追加。 フィルターで使用する別のフィールドを追加します。
	構成を構成セットから削除。 選択したフィールドを削除します。
フィールド名	必要なフィールド名をドロップダウンリストから選択します。変更要求がこのフィールドに指定された値を含む場合、その変更要求は衝突計算の対象となります。
値	選択したフィールドの値を1つまたは複数入力します。変更要求が指定された値を含む場合、その変更要求は衝突計算の対象になります。

[フィールドの等値前提条件] ウィンドウ

このウィンドウでは、指定されたフィールドに一致した値がある変更要求のみを、衝突計算の対象とするカスタムフィルターを作成します。たとえば、このフィルターを使用して **region** フィールドに一致する値がある変更要求のみを計算対象にすることができません。この場合、HP Release Controlは同一地域でのみ衝突を計算します。

たとえば、**New York** と **London** の2つの地域がある場合を考えます。**New York** には **NY1** と **NY2** の要求が、**London** には **LON1** と **LON2** の要求が含まれます。HP Release Controlは **NY1** と **NY2** 間、および **LON1** と **LON2** 間の衝突を計算しますが、**NY1** と **LON1** 間など、地域をまたがって衝突を計算することはありません。

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
	構成を構成セットに追加。 フィルターで使用する別のフィールドを追加します。
	構成を構成セットから削除。 選択したフィールドを削除します。

UIの要素	説明
フィールド名	必要なフィールド名をドロップダウンリストから選択します。フィールドの値が変更要求内の値と一致する場合、その変更要求は衝突計算の対象になります。

[タイプ] ウィンドウ

HP Release Control は、衝突の原因となる要素と、衝突する変更要求間の近接度に基づいて衝突の重大度を決定します。このウィンドウでは、衝突の原因と近接レベルの組み合わせに基づいて重大度レベルを決定する方法を変更します。

デフォルトの衝突の重大度レベルの構成や、衝突の原因として定義するフィールドの指定が可能です。

定義した各衝突の原因について、以下の項目を定義することで、近接レベルと関連付ける重大度レベルを指定します。

- ▶ **近接**。衝突する変更要求の近接レベル。これは、**[重複]** または **[重複の警告]** のいずれかに定義できます。衝突の近接レベルについては、「衝突の近接レベルの構成」(291 ページ) を参照してください。
- ▶ **重大度**。衝突の重大度レベル。詳細については、「衝突の重大度レベルの構成」(294 ページ) を参照してください。



アクセス方法	[モジュール]>[管理者]>[構成]タブ>[変更プロセス]>[衝突]>[タイプ]をクリックします。
関連項目	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「[構成] タブの操作」(275 ページ) ▶ 「変更要求の衝突の計算」(291 ページ) ▶ 「衝突の構成」(290 ページ)

[フィールド別衝突] ウィンドウ

このウィンドウでは、衝突の原因を示すフィールドを指定することで、ユーザー定義の衝突の重大度レベルを設定します。指定されたフィールドの値は、いずれの変更要求でも同じ値になります。

重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 管理者モジュールの [フィールド] タブで定義されているのと同じフィールド名を入力する必要があります。フィールド名の定義については、「[フィールド] ウィンドウ」(353 ページ) を参照してください。 ▶ 数値、または短いテキスト形式の値を持つフィールドのみを指定できます。 ▶ システムに入力された新しい変更要求、またはこの衝突の原因を構成した後にインパクト分析の結果として更新された変更要求についてのみ、指定されたフィールドに基づいて衝突が計算されます。システム内に既に存在している変更要求は、指定されたフィールドに基づいて、衝突計算の対象になることはありません。また、この衝突の原因の構成後に更新されることはありません。
--------------	--

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
	構成を構成セットに追加。 衝突の原因として定義するフィールドを追加します。
	構成を構成セットから削除。 選択したフィールドを削除します。
有効	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 選択する場合、定義済みの衝突タイプが衝突計算に適用されます。 ▶ 選択しない場合、事前定義された衝突のタイプは衝突の計算に適用されません。
フィールド名	衝突の原因として定義するフィールドを指定します。
重複の重大度の相関	<p>2つの変更要求のスケジュールが重複していることを示す近接レベル。</p> <p>衝突の重大度レベルは、衝突なし、極めて低い、低い、中、高い、致命的、不明 として定義できます。</p>

UIの要素	説明
重複警告の重大度の相関	2つの変更要求のスケジュールが近いことを示す近接レベル。 衝突の重大度レベルは、 衝突なし、極めて低い、低い、中、高い、致命的、不明 として定義できます。

[事前定義された衝突タイプ] ウィンドウ

このウィンドウでは、デフォルトの衝突の重大度レベルを構成します。

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
有効	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 選択する場合、定義済みの衝突タイプが衝突計算に適用されます。 ▶ 選択しない場合、事前定義された衝突のタイプは衝突の計算に適用されません。 <p>デフォルトでは、ACI_ACIタイプ名を含む事前定義された衝突のタイプは無効になります。したがって、2つの変更要求が共通のACIに関連している場合、デフォルトでは、HP Release Controlは衝突とみなしません。</p> <p>注意：事前定義された衝突のタイプが衝突の計算に適用されない場合、このタイプに基づいて、以前の衝突の計算は [衝突] タブに表示されますが、新しい衝突の計算は実行されません。同様に、この衝突のタイプを含む定義済みのフィルターを使用することはできませんが、この衝突のタイプに基づいて新しいフィルターを作成することはできません。</p>

UIの要素	説明
<p>名前</p>	<p>衝突の原因となる要素。</p> <p>以下の衝突の原因がデフォルトで定義されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ACI/ACI。2つの変更要求の影響を受けるCI (ACI) に、同じものが1つ以上あります。 ▶ CCI/ACI。同じCIを、一方の変更要求が変更し、もう一方の変更要求が影響を与えています。 ▶ CCI/CCI。2つの変更要求の変更されたCI (CCI) に、同じものが1つ以上あります。 ▶ IAB/IAB。2つの変更要求が、同じビジネスCIに間接的に影響を与えます (IAB)。 ▶ IAB/DAB。共通のビジネスCIに対して、一方の変更要求が間接的な影響を与え、もう一方の変更要求が直接的な影響を与えています。 ▶ DAB/DAB。2つの変更要求が、同じビジネスCIに直接的に影響を与えます (DAB)。 ▶ IMPLEMENTOR。変更要求の実施担当者が同じです。
<p>重複の重大度の相関</p>	<p>2つの変更要求のスケジュールが重複していることを示す近接レベル。</p> <p>衝突の重大度レベルは、衝突なし、極めて低い、低い、中、高い、致命的、不明として定義できます。</p>
<p>重複警告の重大度の相関</p>	<p>2つの変更要求のスケジュールが近いことを示す近接レベル。</p> <p>衝突の重大度レベルは、衝突なし、極めて低い、低い、中、高い、致命的、不明として定義できます。</p>

[インパクト分析ルール] ウィンドウ

収集した変更要求のインパクトを分析するためには、HP Release Control は、要求に含まれる CI の場所と形式を特定する必要があります。この作業は分析ルールによって行われます。このウィンドウでは、HP Release Control が使用する分析ルールを定義します。

アクセス方法	[モジュール]>[管理者]>[構成] タブ > [変更プロセス]>[インパクト分析ルール] をクリックします。
関連タスク	「インパクト分析ルールの構成」 (300 ページ)
関連項目	「[構成] タブの操作」 (275 ページ)






[CI 分析ルール] ウィンドウ

このウィンドウには、変更要求フィールドに適用する分析ルールが一覧表示されます。既存のルールのフィールドの編集や、新規ルールの追加ができます。ルールのフィールドを構成します (「[CI 分析ルール定義] ウィンドウ」 (322 ページ) を参照)。HP Release Control では、識別対象となる CIT それぞれに個別の分析ルールを定義する必要があります。

重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 第1レベルと第2レベルの要求の名前は、[モジュール]>[管理者]>[構成] タブ > [ラベルと用語] > enumeration-labels.properties ファイルで設定します。詳細については、「[ラベルと用語] ウィンドウ」 (494 ページ) を参照してください。 ▶ [短いテキスト] または [長いテキスト] 形式の変更要求フィールドに分析ルールを適用できます。CI のみを含み、追加のテキストコメントを含まない変更要求フィールドに分析ルールを適用することをお勧めします。詳細については、「[フィールドの属性 - フィールド定義] タブ」 (355 ページ) を参照してください。 ▶ 選択した各分析ルールに対し、ルールの適用先レベル ([変更] または [タスク]) を選択します。詳細については、「[フィールドの属性 - CI 分析ルール] タブ」 (364 ページ) を参照してください。
-------	--

第 11 章 「変更プロセスの構成」

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します (ラベルのない要素は、山かっこ <> で囲まれています)。



UIの要素	説明
	ルールの追加。 新しいCI分析ルールを追加します。 注： ルールのフィールドを構成します。詳細については、「[CI分析ルール定義] ウィンドウ」(322ページ)を参照してください。
	ルールの削除。 既存CI分析ルールを削除します。
	変更を更新して元に戻す。 変更の問題があれば、変更を保存する前に [変更を更新して元に戻す] ボタンをクリックすることで、すべての変更を取り消すことができます。 注： このボタンをクリックすると、最後に設定を保存してから行ったすべての変更が失われます。
	事前定義されたCI分析ルール。 HP Release Controlにより提供されるデフォルトのルールを表します。
	カスタムCI分析ルール。 ユーザー定義ルールを表します。

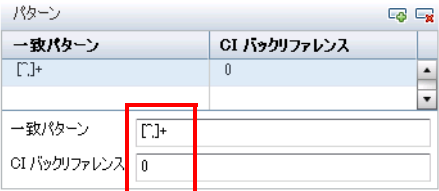
UIの要素	説明
<分析ルール>	<p>利用できる分析ルールの一覧。デフォルトで、次の分析ルールが利用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ cmdb-object-id。サービスデスクアプリケーションがCMDBサーバーと同期している場合のみ使用できる、定義済みの内蔵分析ルール。 このルールは、HP Universal CMDB 構成アイテムIDを使用してCIを検索します。 ▶ mam-ticket。サービスデスクアプリケーションがCMDBサーバーと同期している場合のみ使用できる、定義済みの内蔵分析ルール。 このルールは、変更要求IDを使用してCIを検索します。 ▶ host。選択したフィールド内のホストを識別します。 ▶ ip。選択したフィールド内のIPアドレスを識別します。 ▶ ip-range。定義したIPアドレスの範囲から、選択したフィールド内のIPアドレスを識別します。 <p>注：デフォルトでは、host、ip、ip-range CITの分析ルールが定義されています。また、サービスデスクアプリケーションがCMDBサーバーと同期している場合に使用できる、2つの定義済みの内蔵分析ルールがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ cmdb-object-id分析ルールは、HP Universal CMDB CIのIDを使用してCIを検索します。 ▶ mam-ticket分析ルールは、変更要求IDを使用してCIを検索します。 <p>注：これらのルールは、編集または削除できません。</p>
説明	CITの説明。「[CI 分析ルール定義] ウィンドウ」(322 ページ) を参照してください。
名前	CITの名前。「[CI 分析ルール定義] ウィンドウ」(322 ページ) を参照してください。

[CI 分析ルール定義] ウィンドウ

このウィンドウでは、分析ルールを定義します。[CI 分析ルール] ウィンドウで選択したルールの定義が表示されます。

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。


UIの要素	説明
	パターンの追加。 新しいパターンを追加します。
	パターンの削除。 既存のパターンを削除します。
Analyzer クラス	<ul style="list-style-type: none"> ▶ CITがIP-Rangeではない場合、[ルール名を CI クラス名として使用する]を選択します。 ▶ CITがIP-Rangeの場合、[IP 範囲アナライザーの使用]を選択します。
説明	収集した要求の中から HP Release Control が検出する CIT の説明。
名前	<p>収集した要求の中から HP Release Control が検出する CIT の名前と、フィールド設定で参照できる分析ルールの論理名。</p> <p>注：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ CITの名前は、[モジュール]>[管理者]>[構成] タブ > [Universal CMDB]>[CI 分析ルックアップ命令] ウィンドウで定義されている名前と一致する必要があります (HP Universal CMDB を使用している場合)。詳細については、「[CI 分析ルックアップ命令] ウィンドウ」(410ページ) を参照してください。 ▶ ip-range 分析ルールは、HP Universal CMDB 内の ip CIT と対応している点が異なります。

UIの要素	説明
<p>パターン</p>	<p>収集された要求に含まれる各種フィールドのテキストは、パターンとして定義される正規表現を使用して解析されます。正規表現の使用方法は、URL：http://java.sun.com/j2se/1.4.2/docs/api/java/util/regex/Pattern.htmlを参照してください。</p> <p>パターンは、次の2つの要素によって定義されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 一致パターン。CIを識別する際、正規表現を使用して収集された要求をどのように解析するかを定義する正規表現。 ▶ CIバックリファレンス。正規表現を使用して、パターン内でのCIの正確な位置を指定します。パターンの最初のグループを指定するには1、パターン内の2番目のグループを指定するには2を指定します。0を指定すると、パターン全体が使用されます。 <p>デフォルトのCI分析ルールが英語以外の文字をサポートしないことに注意してください。</p> <p>CI名で多言語文字をサポートするには；</p> <p>1 [一致パターン]を [(^,)+] に変更します。</p>  <p>2 HP Release Control サーバーを再起動して、変更を有効にします。</p>

[選択したアナライザーのテスト] ウィンドウ


このウィンドウでは、分析ルールを手動でテストします。文字列を入力して、その文字列に対してパターンを実行します。

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
	アナライザーのテスト。 分析ルールをテストします。
すべてのパターン	定義されているすべてのパターンを使用してテストを実行します。
HP UCMDBで候補を照合	テストを実行すると、チケットのテキストはいくつかの文字列に分割されます。このオプションを使用すると、HP Release ControlはHP Universal CMDBを使用してこれらの文字列が有効なCIであるかどうかを確認します。
選択したパターン	選択したパターンを使用してテストを実行します。
次の値のテスト	分析ルールをテストするための文字列を入力します。テスト結果はグラフウィンドウに表示されます。このウィンドウには、[分析されたCI]ウィンドウからアクセスします。

[分析されたCI] ウィンドウ

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
	グラフウィンドウを開く。 [インパクトグラフ]ウィンドウを開きます。このウィンドウでは、選択した変更要求のインパクトの関係がグラフで表示されます。[インパクトグラフ]ウィンドウの詳細は、「[インパクトグラフ]ウィンドウ」(134ページ)を参照してください。 注: [次の値のテスト] ボックスに入力された文字列に、HP Universal CMDBからのCIが1つまたは複数含まれる場合、このボタンが有効になります。

[リスク因子] ウィンドウ

このウィンドウでは、リスク計算に使用されるリスク因子を定義します。



アクセス方法	[モジュール]>[管理者]>[構成] タブ > [変更プロセス]>[リスク因子] をクリックします。
関連タスク	「リスク分析の構成」(302ページ)
関連項目	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「[構成] タブの操作」(275ページ) ▶ 「リスク分析」(44ページ)


[確率/損害の因子] ウィンドウ

このウィンドウでは、存在する**見込み損害**と**失敗確率**のリスク因子が一覧表示されます。テーブル内のリスク因子を選択すると、[因子定義] ウィンドウにリスク因子の定義が表示されます。

重要な情報	リスク因子をリスク計算に含めるには、リスク因子の隣にあるチェックボックスをオンにする必要があります。
-------	--

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します(ラベルのない要素は、山かっこ<>で囲まれています)。

UIの要素	説明
	<p>因子の追加。リスク因子を作成します。作成したり変更するリスク因子のタイプに応じて、[見込み損害]、または[失敗確率] タブのいずれかを選択します。</p> <p>[因子定義] ウィンドウでリスク因子プロパティを定義または変更します。</p>
	<p>因子の削除。既存のリスク因子を削除します。</p>

UIの要素	説明
	<p>リスクしきい値。リスク因子を計算すると、リスク因子の数値はリスクレベル (低い、中、または高い) に関連付けられます。このボタンで、どの値がどのレベルに対応するのかが設定できます。[リスクしきい値の定義] ダイアログボックスが開きます。</p> <div data-bbox="576 378 986 482" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>リスクしきい値の定義</p>  </div> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 緑色のセクションは低いリスクレベルに対応します。 ▶ 黄色のセクションは中リスクレベルに対応します。 ▶ 赤色のセクションは高いリスクレベルに対応します。 <p>矢印をドラッグしてドロップすることで、各レベルのしきい値を調整します。</p> <p>注：しきい値を変更すると、これらの変更は、HP Release Control に入力された新しい変更要求にのみ有効になります。既存の変更要求のリスクレベルは、システムに入力されたときに割り当てられたレベルのまま変わりません。</p>
<因子の円グラフ>	リスク計算での各因子の重みをグラフィック表現で表示します。
説明	分析モジュールの [リスク] タブの 見込み損害 または 失敗確率セクション に表示されるリスク因子の説明。
名前	リスク因子の名前。分析モジュールの [リスク] タブに表示された名前です。
重み	リスク計算で使用されるリスク因子の相対重み。

[因子定義] ウィンドウ

このウィンドウでは、[リスク因子] ウィンドウで選択したリスク因子のプロパティを定義または変更します。

ユーザーインタフェースの要素を以下に説明します。



UIの要素	説明
説明	分析モジュールの [リスク] タブの 見込み損害 または 失敗確率 セクション に表示されるリスク因子の説明。
フィールド名	サービスデスクアプリケーションから提供されたデータが格納される変更要求のフィールド。データのソースとして [フィールド] を選択する場合、必要な変更要求フィールドの名前を選択します。
名前	リスク因子の名前。分析モジュールの [リスク] タブに表示された名前です。
マップ基準	<p>範囲 または 値 ごとにマッピングします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 値 ごとのマッピングでは、ソース値が取り得る値ごとに、因子の値をマッピングします。 ▶ 範囲 ごとのマッピングでは、ソース値の範囲ごとに、因子の値をマッピングします。
ソース	リスク因子の作成に使用される必要なソースを選択します。使用できるデータソースの一覧とその説明については、「リスク因子の作成に使用されるデータソース」(330ページ)を参照してください。
重み	リスク計算で使用されるリスク因子の相対重み。

[マッピング定義] ウィンドウ

このウィンドウでは、選択したリスク因子に対応するマッピングルールを定義します。このルールに基づいて、ソースデータは**0**～**10**の因子の値に変換されます。

重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ このウィンドウに表示される列は、[因子定義] ウィンドウでリスク因子を作成する際に使用したソースによって異なります。 ▶ リスク因子をテストしてから、保存するかどうかを決定することによって、リスク因子が示す意味を把握できます。詳細については、以下の [リスク因子のテスト] ウィンドウを参照してください。
--------------	---




ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
	エントリの追加。 新規マッピング定義エントリを追加します。作成する新しい行にマッピング定義を定義できます。
	エントリの削除。 既存のマッピングエントリを削除します。
デフォルトマッピング	フィールド値がマップされない場合のデフォルトのリスク因子の値を選択します。この場合にリスク因子を無視する場合は、 [無視] を選択します。

[リスク因子のテスト] ウィンドウ

このウィンドウでは、サンプルの変更要求をインポートしてリスク計算を実行することで、保存する前にリスク因子をテストすることができます。リスク計算をシミュレートしてから保存するかどうかを決定することによって、リスク因子が示す意味を把握できます。

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
	<p>サンプルの変更要求の追加。ドロップダウンメニューからフィルターを選択するか、変更要求IDを入力することで、リスク因子のテストで使用するサンプルの変更要求を選択できます。</p> <p>[サンプルの変更要求の追加]ダイアログボックスから、以下のオプションのいずれか1つを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 変更要求ID別。シミュレーションに使用する変更要求のIDを入力します。 ▶ フィルター別。特定フィルターに含まれる変更要求を選択します。 <p>注: 指定されたフィルターの最初の10個の要求が [リスク因子のテスト] ウィンドウに表示されます。</p>
	<p>選択したサンプルの変更要求の削除。選択したサンプルの変更要求を削除します。</p>
	<p>リスク計算のシミュレート。変更要求のテストを実行して、リスク計算を更新します。</p> <p>各変更要求がそれぞれの行に表示され、その詳細が列に表示されません。各リスク因子が計算されたスコアと共に、右側の独立した列に表示されます。</p>

リスク因子の作成に使用されるデータソース

[因子定義] ウィンドウの [ソース] 一覧内のデータソースの一覧が表示されます。ここから、リスク因子を作成したり変更するデータソースを選択できます。

▶ **フィールド**。サービスデスクアプリケーションから提供されたデータが格納される変更要求のフィールド。[フィールド名] リストから変更要求フィールドの名前を選択します。

▶ **失敗の割合 (%)**。失敗した類似した変更の比率 (パーセント)。[失敗の結果] 一覧で、失敗した変更を定義します。**失敗の結果** 一覧には、変更が原因となる結果が表示されます。類似変更を**失敗**と定義する基準となる結果を選択します。

失敗の割合 (%) データソースの計算には、**キャンセル済み**や**不明**ステータスは含まれません。詳細については、「リスク計算プロパティの構成」(297ページ) を参照してください。

▶ **実施担当者の失敗の割合 (%)**。変更要求に関する実施担当者の平均失敗率。

[失敗の結果] 一覧で、実施の失敗の定義を設定します。**失敗の結果** 一覧には、変更が原因となる結果が表示されます。実施を**失敗**と定義する基準となる結果を選択します。

実施担当者の失敗の割合 (%) データソースの計算には、**キャンセル済み**や**不明**ステータスは含まれません。詳細については、「リスク計算プロパティの構成」(297ページ) を参照してください。

▶ **計画期間 (時間数)**。変更要求の計画された期間 (計画された開始日時から、計画された終了日時までの期間)。これは、HP Release Controlによって計算されます。

▶ **CCIの個数**。変更要求の結果として直接的に影響を受けるCIの数を表示します。これは、HP Release Controlによって計算されます。

▶ **重要度:**

- ▶ **直接的に影響を受けるビジネス CI。** 変更により直接的に影響を受けるビジネス CI の全体としての重要度。
- ▶ **間接的に影響を受けるビジネス CI。** 変更により間接的に影響を受けるビジネス CI の全体としての重要度。

注: HP Universal CMDB バージョン 7.5 を使用している場合、ビジネス CI の重要度レベルは HP Release Control で設定します ([**モジュール**] > [**管理者**] > [**ビジネス CI**] タブ)。

HP Universal CMDB 8.x では、ビジネス CI の重要度レベルは HP Universal CMDB で設定します。HP Universal CMDB 7.x 環境で稼働する HP Release Control で重要度レベルを定義し、その後 8.x 以降にアップグレードした場合、**ApplicationImportanceExporter.bat** ユーティリティを使用して Business Criticality 属性を HP Release Control から HP Universal CMDB にエクスポートできます。詳細については、「アプリケーション重要度のエクスポート」(617 ページ) を参照してください。

-
- ▶ **期間の競合の原因。** 変更要求が変更対象期間外、またはブラックアウト期間内に実施されるようにスケジュールされるかどうかを指定します。

注: HP Release Control は、4.10 未満のバージョンで定義された期間のリスク因子計算はサポートしていません。

[類似性] ウィンドウ

このウィンドウでは、HP Release Control が要求の比較で使用する共通の要素を指定します。近接値計算には、指定したすべての要素が考慮され、最終的な近接値は各要素の近接レベルから算出されます。

アクセス方法	[モジュール]>[管理者]>[構成] タブ > [変更プロセス] > [類似性] をクリックします。
関連項目	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「[構成] タブの操作」 (275 ページ) ▶ 「類似した変更分析」 (299 ページ)

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。



UIの要素	説明
類似性分析を有効にする	類似した変更の計算を有効/無効にします。
変更されるCIセットを有効にする	変更される CI セット を類似性計算の対象にするかどうかを指定します。
直接的に影響を受けるビジネスCIセットを有効にする	直接的に影響を受けるビジネスCIセットを類似性計算の対象にするかどうかを決定します。
インデックス処理の頻度	類似性のインデックス処理を更新する頻度を示す間隔 (秒) を指定します。 デフォルト : 300
フィールドによる類似性	HP Release Control が要求の比較で使用する共通の要素を選択します。近接値計算には、指定したすべての要素が考慮され、最終的な近接値は各要素の近接レベルから算出されます。

UIの要素	説明
しきい値	<p>要求が類似しているとみなす近接レベルの最小値を指定します。0より大きく1以下の値を入力してください。0は類似性がなく、1は完全な類似性があることを示します。</p> <p>変更要求の近接値がこのしきい値を超えていると、類似しているとみなされます。</p>

[数値の類似性] ウィンドウ

このウィンドウでは、変更が類似しているとみなす数値の範囲を定義します。

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
	構成を構成セットに追加。 数値フィールドを追加します。
	構成を構成セットから削除。 選択したフィールドを削除します。
フィールド名	システム設定で定義した必須数値フィールドを選択します
ゼロ距離	<p>提案された変更のフィールド値を中心とした範囲を指定し、類似性の計算で適用します。この範囲に含まれる場合、関連性があるとみなされます。</p> <p>たとえば、計算されたリスクが数値フィールドであり、提案された変更の計算されたリスク値が10、ゼロ距離が5の場合、近接レベルがゼロ以外になるのは、5より大きく15より小さいリスク値の変更のみです。</p>

第 12 章

社内文書の作成

本章の内容

概念

▶ 「社内文書の概要」 (335 ページ)

リファレンス

▶ 「[社内文書] ウィンドウ」 (338 ページ)

概念

社内文書の概要

社内文書機能を使用することで、既存のオンラインヘルプに独自のカスタマイズした文書(テキストまたはURL)を追加できます。



この文書にアクセスするには、製品の関連領域にある **[ヘルプ]** ボタン をクリックします。文書を表示するページへのリンクは、**社内文書** ヘッダーの下にある製品のヘルプに表示されます。

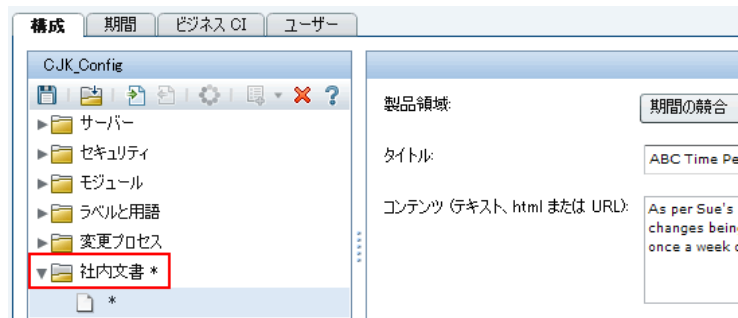
[管理者] モジュールの **[社内文書]** ウィンドウで、社内文書を作成します。詳細については、「**[社内文書] ウィンドウ**」 (338 ページ) を参照してください。

例：

John は、組織 ABC の HP Release Control 管理者です。Web 管理者である Sue は、毎週月曜日に Web サイトのメンテナンスを実行することを John に伝え、月曜日に会社の Web サイトへのアクセスを制限する期間カテゴリを HP Release Control に作成するように依頼しました。

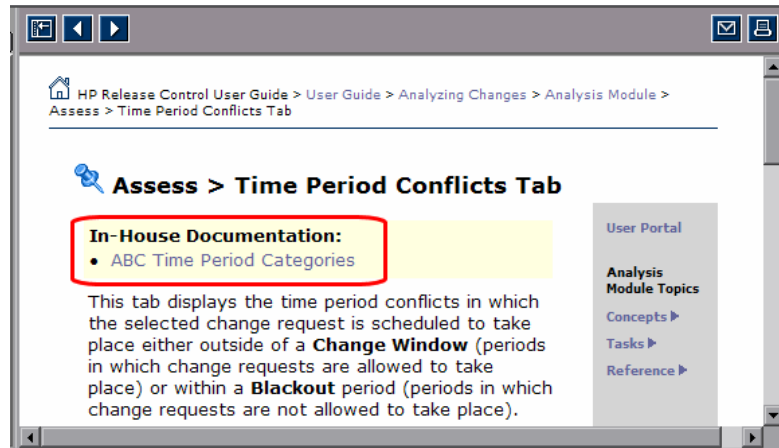
John は **Web_blackout** という 期間カテゴリ を作成します。HP Release Control ユーザーが [分析] モジュールの [評価] > [期間の競合] タブにアクセスすると、スケジュールされた変更が **Web_blackout** 期間と競合しているのに気付くことがあります。John は、この期間カテゴリが存在する理由をユーザーに説明する必要性を感じ、社内文書を作成することにしました。

John は [社内文書] ウィンドウ ([モジュール] > [管理者] > [構成] タブ > [社内文書]) にアクセスして、[製品領域] ウィンドウから [期間の競合] ウィンドウを選択します。次に必要なフィールドに入力して変更を保存し、文書を送信します。





ユーザーが [分析] モジュールの [評価] > [期間の競合] タブにアクセスして、[ヘルプ] ボタンをクリックすると、新しい期間について説明する John の文書へのリンクが製品のヘルプに表示されます。




リンクをクリックすると、John が送信した内容を表示する独立したページに John の文書が表示されます。John は、[社内文書] ウィンドウのテキストを送信する代わりに、社内 Web サイトに期間に関する文書を掲載し、URL を挿入することもできます。この場合、リンクをクリックすると URL が直接開きます。


リファレンス

[社内文書] ウィンドウ

このウィンドウでは、既存のオンラインヘルプに独自のカスタマイズした文書 (テキストまたは URL) を追加します。

アクセス方法	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [モジュール]>[管理者]>[構成] タブ>[社内文書] を選択します。 ▶ 新しいトピックを追加するには、[社内文書] ノードを選択して、左側ウィンドウの [構成を構成セットに追加] ボタン  をクリックします。
関連項目	「社内文書の概要」 (335 ページ)

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
製品領域	カスタマイズした社内文書を追加する製品の領域を選択します。 ユーザーは、製品の関連する領域にある [ヘルプ] ボタン  をクリックして、この文書にアクセスします (通常は [分析] モジュール内のタブのいずれか)。文書を表示するページへのリンクは、 社内文書 ヘッダーの下にある製品のヘルプに表示されます。
タイトル	[タイトル] に入力するテキストは、社内文書を開くリンクに表示されます。このテキストは、[社内文書] ページの見出しとしても表示されます。
コンテンツ	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 既存ページにリンクする場合は、そのページの URL を入力します。URL には、"http://" を指定する必要があります。 ▶ ページを新規作成する場合、プレーンテキストまたは HTML でページのコンテンツを入力します。

第 13 章

フィールドと列挙設定の構成

本章の内容

概念

- ▶ 「フィールドの構成」 (340 ページ)
- ▶ 「列挙の概要」 (341 ページ)

リファレンス

- ▶ 「有効な表示形式」 (343 ページ)
- ▶ 「設定済み変更要求フィールド」 (345 ページ)
- ▶ 「フィールドと列挙設定の構成のユーザーインターフェース」 (350 ページ)

概念

フィールドの構成

変更要求フィールドを構成することにより、フィールドのデータを HP Release Control アプリケーションで表示することができます。管理者モジュールの [フィールド] ウィンドウにある各フィールドのプロパティと、アプリケーションでフィールドを表示する方法を定義できます。変更要求フィールドの構成方法の詳細は、「[フィールド] ウィンドウ」(353 ページ) を参照してください。

注： HP Release Control に含まれる設定済み変更要求フィールドの一覧については、「設定済み変更要求フィールド」(345 ページ) を参照してください。

HP Release Control では、サービスデスクアダプターを使用して、変更要求をサービスデスクから取得し、要求発生元のサービスデスクアプリケーションの形式から汎用形式へと変換します。元のサービスデスクから HP Release Control フィールドへのマッピングは、サービスデスクアダプターに含まれる変換スクリプトで行います。詳細については、「変換スクリプトの記述」(433 ページ) を参照してください。

 **列挙の概要**

HP Release Control には、デフォルトのアプリケーション表示マッピングスキーマが付属します。ここでは、列挙フィールドと列挙エントリの表示順序が定義されています。

HP Release Control が各列挙フィールドを表示する方法とデフォルトの表示順序は、変更することができます。

例：

[変更要求]ウィンドウの [**優先度**] 列で表示する優先度レベルは、次のように定義できます。

低い	1
普通	2
高い	3
即時	4

この例では、この列の優先度レベルを昇順にソートします。

- ▶ 優先度が**低い**変更要求はすべて最初のグループに表示されます。
- ▶ 優先度が**普通**の変更要求はすべて2番目のグループに表示されます。
- ▶ 優先度が**高い**変更要求はすべて3番目のグループに表示されます。

- ▶ 優先度が**即時**の変更要求はすべて4番目のグループに表示されます。

開始日時	優先度 ▲	ステータス
10/06/16	低い	クローズ済み
10/05/30	低い	クローズ済み
10/06/30	低い	クローズ済み
10/07/10	低い	クローズ済み
10/06/19	普通	クローズ済み
10/06/29	普通	クローズ済み
10/06/10	高い	クローズ済み
10/06/18	高い	クローズ済み
10/05/17	高い	クローズ済み
10/07/08	即時	クローズ済み

HP Release Control において、各列挙フィールドを表示する方法とデフォルトの表示順序を変更する方法の詳細は、「[列挙] ウィンドウ」(351ページ)を参照してください。

注意: 列挙設定を変更した場合、この列挙設定を参照するすべての変換スクリプトも、それに応じて変更する必要があります。変換スクリプトでの列挙設定の参照の詳細については、「変換スクリプトの記述」(433ページ)を参照してください。HP Release Control アプリケーションで列挙設定の表示方法を変更した場合、変換スクリプトを変更する必要はありません。

リファレンス

有効な表示形式

[フィールド] ウィンドウにはさまざまなオプションがあり、特定のフィールドの表示形式を定義します。表示タイプごとに、異なる表示形式が適用されます。次の表では、有効な表示形式を表示タイプごとにまとめています。

注：ブーリアンまたは長いテキストの表示タイプについては、表示形式を定義することはできません。

表示タイプ	表示形式
短いテキスト	<p>表示タイプとして [短いテキスト] を選択した場合、定義済みフィールドの名前をパラメーターで指定できます。フィールドを2つのパーセント記号で囲んでください。</p> <p>たとえば、Please contact %%contact-person%% という表示形式を定義すると、%%contact-person%% パラメーターは、要求の連絡先窓口の名前 (contact-person フィールドから取得) を返します。</p> <p>形式ボックスに何も指定しないと、フィールドの値がそのまま表示されます。</p>

表示タイプ	表示形式
<p>日付</p>	<p>表示タイプとして [日付] を選択した場合、次の文字を含む文字パターンを使用して、日付の表示方法を指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ Y。年 ▶ M。月 ▶ D。月の日付 ▶ E。週の曜日 ▶ A。AM/PM の指定 ▶ J。時間帯 (0 ~ 23) ▶ H。時間帯 (1 ~ 24) ▶ K。AM/PM 形式での時間 (0-11) ▶ L。AM/PM 形式での時間 (1-12) ▶ N。分 ▶ S。秒 <p>たとえば、Sat 04 Mar 2006 09:43AM と表示するには、次の日付フォーマットを使用します。</p> <p>EEE DD MMM YYYY LL:NNA</p>
<p>リンク</p>	<p>表示タイプとして [リンク] を選択した場合、URL を含むフィールドの名前を指定します。フィールドの名前を含むパラメーターとしてフィールドを入力するには、フィールドの前後を2つのパーセント記号で囲んでください (%%field_name%%)。</p> <p>この形式を指定すると、最新のフィールドの値が表示され (URL を含むフィールドではありません)、この値のヒントとして URL が表示されます。フィールドをクリックすると、URL に移動します。</p>

設定済み変更要求フィールド

HP Release Control では、設定済み変更要求フィールドのデフォルトセットが提供されています。このセットには、事前定義フィールドとカスタムフィールドの2タイプが含まれます。フィールドのデータは、サービスデスクまたは HP Release Control から取得できます。

本項の内容

- ▶ 「事前定義フィールド」 (345 ページ)
- ▶ 「カスタムフィールド」 (348 ページ)

事前定義フィールド

事前定義フィールドは、ITIL 標準に基づいて定義された編集不可のフィールドであり、ほとんどのサービスデスクアプリケーションで共通です。HP Release Control では、次の**事前定義**フィールドが提供されています。

名前	説明
actionitems-assignee	アクションアイテムが割り当てられるユーザー。
actionitems-creator	アクションアイテムを作成したユーザー。
actionitems-deadline	作成者がアクションアイテムの必須の完了期限として設定した日。
actionitems-modified	アクションアイテムが最後に変更された日付 (曜日と時間を含む)。
actionitems- pending	アクションが実行待ちになっているユーザー。
actionitems- priority	変更要求の優先レベル。
actionitems- status	変更要求のステータス。
actual-end-time	実際の変更作業の完了日時。
actual-start-time	実際の変更作業の開始日時。
approved-groups	変更要求をすでに承認したユーザーグループの一覧。

名前	説明
approvals-required	現在保留中の一覧に含まれるユーザーグループが承認または却下しないと、変更を承認できないユーザーグループの一覧。
calculated-risk	変更要求で計算されたリスクの値。
calculated-risk-severity	このフィールドは、 calculated-risk フィールドの値に基づいて、 低い 、 普通 、 高い の列挙値にマッピングします。
collision-severity	変更要求について評価される衝突の重大度。
contact-email	変更要求の作成者として指定されている連絡先窓口の電子メール。
contact-location	変更要求の作成者として指定されている連絡先窓口の場所。
contact-person	変更要求の作成者として指定されている連絡先窓口の名前。
contact-phone	変更要求の作成者として指定されている連絡先窓口の電話番号。
creating-service-desk	この変更要求が作成されたサービスデスク。
creation-time	この変更要求が作成された日時。
current-pending-groups	現在も承認が求められているユーザーグループの一覧。
description	変更要求の説明。
down-end-time	変更の実施中に発生したダウンタイムの終了日時。
down-start-time	変更の実施中に発生したダウンタイムの開始日時。
ignore-detection	検出段階において、HP Release Control が変更要求の検出を試行するか省略するかを指定します。
impact-severity	変更要求について評価されるインパクトの重大度。

名前	説明
implementation-outcome	変更実施のレポート。実施担当者がこのレポートを送信します。
implementors	変更実施を担当するユーザーの一覧。
internal-id	HP Release Control が内部的に使用する ID 値。
is-abnormal	実施した期間または実施すべき期間という点で、変更要求を普通であるとみなすかどうかを判定します。
last-impact-time	変更要求のインパクトを最後に計算した日時。
last-update-time	変更要求を最後に更新した日時。
number-of-comments	変更要求について作成したコメントの数。
origin-url	サービスデスクアプリケーションの元の変更要求をポイントする URL アドレス。
planned-end-time	変更作業の計画終了日時。
planned-start-time	変更作業の計画開始日時。
priority	要求を作成したユーザーが要求に割り当てた優先度。
request-end-date	要求を実施する最終期限。
request-id	サービスデスクアプリケーションで作成された ID 値。
review-comments	変更要求に関するコメント。実施後レビュー中に送信されます。
review-customer-satisfaction	変更要求に関する顧客 (要求チケットを生成した人) の満足度。実施後レビュー中に送信されます。
review-outcome	変更要求の結果。実施後レビュー中に送信されます。

名前	説明
review-planning-satisfaction	変更要求に関する計画満足度のレベル。実施後レビュー中に送信されます。
review-time	変更要求をレビューした日時 (実施後レビュー)。
source-itsm-entity	この変更要求の作成元となった ITIL エンティティ (インシデント、問題、要件)。
status	変更要求の現在のステータス。
summary	変更要求の簡単なサマリ。
ticket-level	変更要求の階層レベル。この情報は、サービスデスクから取得されます。
user-estimated-risk	作成ユーザーによって評価される変更要求のリスクレベル。

カスタムフィールド

カスタムフィールドは編集可能なフィールドであり、HP Release Control 分析機能を最適化するために使用することが推奨されています。HP Release Control では、次の **カスタム** フィールドが提供されています。

名前	説明
カテゴリ	変更要求のタイプを説明するカテゴリ。
changed-ci-list	CI 名ごとに格納される計画済み変更の一部である CI 一覧。変更を作成したユーザーが送信します。
changed-ci-id-list	HP Universal CMDB ID ごとに格納される計画済み変更の一部である CI 一覧。変更を作成したユーザーが送信します。
departments-involved	変更実施担当者の関連部署の数。
emergency	変更要求が緊急変更手順に従って処理されていることを示します。

名前	説明
implementor-experience	変更に関連する作業についての実施担当者の経験レベル。
involved-users	変更に関連するビジネスCIを使用するユーザーの数。
initiated-by	要求の開始者 (1 番目のレベルの変更要求のみ)。
is-backout-possible	有効な切り戻し計画があるかどうかを示します。
is-outage-planned	変更の一部として、停止が計画されているかどうかを示します。
is-sox-app-involved	変更に関し SOX アプリケーションが関連しているかどうかを示します。
is-tested	変更がテスト環境でテスト済みかどうかを示します。
new-deployment	変更が、新規ハードウェア、主要機能、ビジネスCIの導入かどうかを示します。
opened-by	要求の開始者 (2 番目のレベルの変更要求のみ)。
past-experience	過去に実施した類似の変更の成功率。
recent-incidents	変更に関連するビジネスCIに、最近 2 週間に大きなインシデントがあったかどうかを示します。
scheduled-downtime-end	変更作業の計画されたダウンタイム終了日時。
scheduled-downtime-start	変更作業の計画されたダウンタイム開始日時。
subcategory	[カテゴリ] フィールドの詳細を指定し、変更要求のタイプを詳しく記述します。
site-location	変更が行われるサイトの場所。衝突計算で使用できます。
sla-status	変更に関連するビジネスCIのSLAが違反間近かどうかを示します。

名前	説明
technology-experience	変更に関連する技術を組織が導入して以来、経過した時間 (四半期単位)。
urgency	要求開始者によって要求に割り当てられた緊急度。
vip-users	変更に関連するビジネス CI を使用している VIP ユーザーが存在するかどうかを示します。

フィールドと列挙設定の構成のユーザーインターフェース

本項の内容



- ▶ 「[列挙] ウィンドウ」 (351 ページ)
- ▶ 「[フィールド] ウィンドウ」 (353 ページ)

[列挙] ウィンドウ

このウィンドウでは、HP Release Control で使用するフィールドの列挙値と、列挙エントリをドロップダウンリストで表示する順序を定義します。

アクセス方法	[モジュール]>[管理者]>[構成] タブ>[統合]>[列挙] をクリックします。
重要な情報	列挙設定を変更した場合、この列挙設定を参照するすべての変換スクリプトも、それに応じて変更する必要があります。変換スクリプトでの列挙設定の参照の詳細については、「変換スクリプトの記述」(433 ページ) を参照してください。HP Release Control アプリケーションで列挙設定の表示方法を変更した場合、変換スクリプトを変更する必要はありません。
関連項目	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「[構成] タブの操作」(275 ページ) ▶ 「列挙の概要」(341 ページ)

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
	構成を構成セットに追加。 選択したフィールドの列挙エントリを追加できます。
	構成を構成セットから削除。 選択したフィールドの列挙エントリを削除できます。
デフォルトエントリ名	デフォルトの初期値。
名前	選択したフィールドの列挙エントリの名前。
不明エントリ名	ステータスが不明の場合に入力される値。
値	HP Release Control で列挙エントリを表示するときの順序を決定する数値。

[列挙] ウィンドウを以下に説明します。

UIの要素	説明
ActionItemPriority	[Add/Edit Action (アクションの追加/編集)] ダイアログボックスで、アクションアイテムを作成したユーザーが要求に割り当てた優先度。詳細については、「[アクション アイテムの追加]/[アクション アイテムの編集] ダイアログボックス」(73ページ)を参照してください。
ChangeType	変更のタイプ。詳細については、「[CI タイプに一致する変更タイプ] ウィンドウ」(422ページ)を参照してください。
CustomerSatisfaction	変更要求に関する顧客(要求チケットを生成した人)の満足度。詳細については、「[実施後レビュー] ダイアログボックス」(139ページ)を参照してください。
EstimatedRisk	作成ユーザーによって評価される変更要求のリスクレベル。詳細については、「[プレビュー]>[詳細] タブ」(142ページ)を参照してください。
Implementing Outcome	実施担当者が評価した実施結果のレベル。詳細については、「[作業完了のレポート] ダイアログボックス」(224ページ)を参照してください。
Level	各分析ルールを適用するレベル (変更 または タスク)。
Opinion	変更要求に関してディスカッション開始者が投票した投稿。詳細については、「[新規ディスカッション スレッド] ダイアログボックス」(138ページ)を参照してください。
Outcome	ディレクターモジュールにおいて、実際の終了作業ステータスを更新する際に [結果] ボックスで選択できる結果オプション。詳細については、「[作業情報] ダイアログボックス」(199ページ)を参照してください。
PlanningSatisfaction	ドロップダウンリストから選択可能な、変更要求の計画満足度のレベル(「[実施後レビュー] ダイアログボックス」(139ページ)を参照)。
Priority	アクションアイテムまたは変更要求の HP Release Control 優先度レベル。
Severity	衝突の重大度レベル。詳細については、「[評価]>[衝突] タブ」(83ページ)を参照してください。

UIの要素	説明
Status	変更要求のステータス。

[フィールド] ウィンドウ


このウィンドウでは、HP Release Control アプリケーションで表示したいデータの変更要求フィールドを構成します。





アクセス方法	[モジュール]>[管理者]>[構成] タブ > [統合] > [フィールド] を選択します。
関連項目	「[構成] タブの操作」(275 ページ)



[利用できるフィールド] ウィンドウ

このウィンドウには、すべての変更要求フィールドが一覧表示されます。このウィンドウでフィールドを選択すると、[フィールドの属性] ウィンドウで変更できます。フィルター処理を行うために、フィールドはデフォルト カテゴリ (**アクションアイテム、分析データ、一般、各種、レビュー、日時**) に分類されています。フィルター可能として定義されたフィールドは、この [利用できるフィールド] ウィンドウで定義したカテゴリに基づいて、[作業フィルター/変更要求フィルター] ダイアログボックス (「[作業フィルター][変更要求フィルター] ダイアログボックス」(165 ページ) を参照) に表示されます。フィールドを新規作成または既存のカスタムフィールドを変更する際に、新しいカテゴリを作成することができます。

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します (ラベルのない要素は、山かっこ <> で囲まれています)。

UIの要素	説明
	フィールドの追加。 フィールドを新規作成します。フィールドの構成は、[フィールドの属性] ウィンドウで行います。

UIの要素	説明
	<p>フィールドの削除。既存のフィールドを削除します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ HP Release Control で提供されている、またはユーザーが手作業で追加したカスタムフィールド  を削除します。ただし、リスク因子または期間の定義で使用中のフィールドは削除できません。 ▶ 事前定義フィールド  は削除できません。これは、HP Release Control アプリケーションを正常稼働するために必ず必要になるフィールドです。 <p>注：新しい構成セットを作成し、保存が完了するまで、フィールドは削除されません。構成セットの作成方法については、「[構成] タブ」(280ページ)を参照してください。フィールド設定を保存する前であれば、[利用できるフィールド] ウィンドウの [変更を更新して元に戻す] ボタンをクリックすると、削除を取り消すことができます。これにより、フィールドは最後に保存された設定に戻ります。</p> <p>注意：変更要求フィールドを削除すると、そのフィールドに関連するデータもすべて削除されます。</p>
	<p>クイックフィルター表示の管理。分析モジュールの [フィルター] ウィンドウに表示されるフィールドを定義します。[クイックフィルター表示] ダイアログボックスが開きます。詳細については、「[クイックフィルター表示] ウィンドウ」(33ページ)を参照してください。</p> <p>[フィルター] ウィンドウについては、「[フィルター] ウィンドウ」(183ページ)を参照してください。</p>

UIの要素	説明
<利用できるフィールド>	<p>このウィンドウでは、次の2つのタイプの変更要求フィールドが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶  事前定義フィールド。事前定義フィールドは、ITIL 標準に基づいて定義されたフィールドであり、ほとんどのサービスデスクアプリケーションで共通です。一部の事前定義フィールドは、HP Release Control アプリケーションが正常稼働するために不可欠な役割を果たすため、このようなフィールドの削除や基本プロパティを変更することはできません。ただし、アプリケーションでの表示方法をカスタマイズすることは可能です。 ▶  カスタムフィールド。HP Release Control 分析機能の最適化を目的にしたフィールドや、ユーザーが新しく追加したフィールドです。カスタムフィールドは、変更や削除が可能です。 <p>注：フィールドのデータは、サービスデスクまたは HP Release Control から取得できます。</p>

[フィールドの属性 - フィールド定義] タブ

このウィンドウでは、フィールドの基本プロパティを定義または変更します。

重要な情報	既存のフィールドの名前またはタイプは変更できません。ただし、既存のフィールドを削除してから、設定を保存し、同じプロパティを指定した新規フィールドを別名で作成しなおすことは可能です。
--------------	--

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
カテゴリ	<p>カスタマイズフィールドの分類先となるフィルターカテゴリ。新しいカテゴリを作成するには、[カテゴリ] ボックスに一意のカテゴリ名を入力します。カテゴリ名は、大文字と小文字を区別しません。新しく作成したカテゴリは、[利用できるフィールド] ウィンドウに追加されます。</p> <p>注：カスタマイズフィールドは、ビジネスまたは結合フィルターのフィルターカテゴリに分類できません。</p>

UIの要素	説明
説明	フィールドの用途を示す、管理者向けの簡単な説明。フィールドの説明は、アプリケーション内では表示されません。
フィルター可能	フィルター条件の1つとしてフィールドを使用するかどうかを示します。[フィルターのレイアウト]タブでは、[フィルター]ダイアログボックスでフィルターを表示する方法を定義します。
ラベル	フィールドの表示場所で示すテキスト。デフォルトでは、ここで指定したテキストが、[一覧のレイアウト]タブの[ヘッダー]ボックス、[詳細のレイアウト]タブの[ラベル]ボックス、[フィルターのレイアウト]タブの[ラベル]ボックスで表示されます。上記のボックスの値は、変更可能です。
一覧可能	選択したフィールドのタイプが、分析モジュールの一覧表示で表示可能なタイプかどうかを示します。 注 ：このチェックボックスは変更できません。
名前	構成上のさまざまな用途にフィールドを定義する際に使用する名前。これは、アプリケーションで表示される名前ではありません。 カスタムフィールドを定義する際には、名前は一意で、 [a-zA-Z][a-zA-Z0-9-]* という形式で指定する必要があります。名前は、大文字と小文字を区別しません。 新しいフィールドを保存した後は、そのフィールドの名前は変更できません。 注 ：カスタマイズフィールド (タイプが 長いテキスト のフィールドを除く) を定義すると、新しい列がHP Release Control データベースに追加されます。タイプが 長いテキスト のフィールドに含まれるデータは、別のテーブルに格納されます。
サンプルの値	HP Release Controlは、サンプルの値を使って、[プレビュー]ウィンドウの[一覧]タブまたは[詳細]タブで、フィールドのプレビュー表示を行います。 注 ：フィールドをプレビューできるのは、分析モジュールの一覧表示または[プレビュー>詳細]タブ([一覧のレイアウト]タブまたは[詳細のレイアウト]タブ)にフィールドを表示するように構成している場合のみです。

UIの要素	説明
ソート可能	<p>選択したフィールドに基づいて、HP Release Controlでソートが可能かどうかを示します。</p> <p>ソート可能に設定できるのは、分析モジュールの一覧表示で表示可能なフィールドのみです。一覧表示できないフィールドについては、[ソート可能] オプションは無効になります。</p>
タイプ	<p>フィールドの値タイプ。以下のタイプを指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 短いテキスト。要求フィールドの値は、単純なテキスト文字列です。 注：カスタムフィールドの文字列の最大長は、使用言語によって異なります。たとえば英語の場合、最大長は2000文字です。アジア言語は、500文字です。 ▶ 長いテキスト。要求フィールドの値は、文字数制限なしの単純なテキスト文字列です。 注：このタイプのフィールドは、一覧表示で表示できません。また、このフィールドに基づいてソートまたはフィルターできません。 ▶ ブーリアン。要求フィールドの値はブーリアン (true/false、はい/いいえ、1/0) です。 ▶ 日付。値は日付として表示されます。 ▶ 数値。要求フィールドの値は数字列です。
値の区切り文字	<p>文字列に複数の値が含まれている場合など、フィルターがフィールドに含まれる値を個別の値として識別できるようにします。</p> <p>次の例では、「,」(カンマ)を区切り文字として使用し、文字列の値を区切っています。</p> <p>Finance,IT,Application</p> <p>注：このフィールドを使用できるのは、タイプが短いテキストのフィールドのみです。</p>

[フィールドの属性 - 一覧のレイアウト] タブ

[フィールドの定義] で [一覧可能] チェックボックスをオンにした場合、このウィンドウでは、分析モジュールの一覧表示でフィールドを表示する方法を定義できます。詳細については、「[変更要求]-一覧表示」(118 ページ) を参照してください。

ユーザーインタフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
ヘッダー	変更要求のフィールド 値を表示する列のヘッダーに表示するテキスト。
ヘッダーヒント	カーソルを列ヘッダーの上に置いたままにすると現れるヒントのテキスト。 指定しないと、ヘッダー名がヒントとして表示されます。
サイズ変更可能	列の幅が調整可能かどうかを示します。列のサイズ変更に関する詳細は、[<下のウィンドウ>-一覧] タブを参照してください。
一覧表示で表示	フィールドが、分析モジュールの一覧表示で表示可能かどうかを示します。 注: [一覧表示で表示] を選択すると、[<下のウィンドウ>-一覧] タブに、一覧表示でのフィールドのプレビューが表示されます。サンプル値が表示される方法を見るには、[フィールド定義] タブの [サンプルの値] ボックスにサンプル値を入力します。
ヒントの表示形式	カーソルをフィールド値の上に置いたままにすると現れるヒントのテキストと形式。 各値タイプで有効な形式については、「有効な表示形式」(343 ページ) を参照してください。

UIの要素	説明
ヒントの表示タイプ	<p>選択したフィールドを説明するヒントの表示タイプ。使用可能な表示オプションは、[フィールド定義] タブに定義したフィールドタイプに依存します。以下の表示タイプが使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 短いテキスト。値は単純なテキストとして表示されます。 ▶ 日付。値は日付として表示されます。 <p>ヒントの値を使用することによって、一覧表示で表示する情報を別の方法で説明することができます。</p> <p>以下で説明する [ヒントの表示形式] ボックスでは、ヒントの表示タイプをカスタマイズできます。</p>
値の表示形式	<p>フィールドが表示される形式。各値の表示タイプの有効な形式については、「有効な表示形式」(343ページ)を参照してください。</p> <p>注：ブーリアンの表示タイプについては、値の表示形式を定義することはできません。</p>
値の表示タイプ	<p>一覧表示で値を表示するときの表示タイプ。使用可能な表示オプションは、[フィールド定義] タブに定義したフィールドタイプに依存します。以下の表示タイプが使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 短いテキスト。値は単純なテキストとして表示されます。 ▶ ブーリアン。値がチェックボックスとして表示されます (true/false、はい/いいえ、1/0をサポートします)。 ▶ 日付。値は日付として表示されます。 <p>[値の表示形式] ボックスに値が表示される方法をカスタマイズします。</p>

【フィールドの属性 - 詳細のレイアウト】タブ

分析モジュールの [プレビュー > 詳細] タブでフィールドを表示する方法を定義します。詳細については、「[プレビュー] > [詳細] タブ」(142ページ) を参照してください。

ユーザーインタフェースの要素を以下に説明します。



UIの要素	説明
ラベル	[プレビュー > 詳細] タブで、フィールド値の前にラベルとして表示するテキスト。
【詳細】タブに表示	フィールドを、分析モジュールの [プレビュー > 詳細] タブで表示するかどうかを示します。 注: 【詳細】タブに表示を選択すると、[プレビュー] ウィンドウでは、[プレビュー > 詳細] タブでのフィールドがプレビュー表示されます。サンプル値が表示される方法を見るには、[フィールド定義] タブの [サンプルの値] ボックスにサンプル値を入力します。
ヒント	カーソルをラベルの上に置いたままにすると現れるヒントのテキスト。
値の表示形式	フィールドが表示される形式。各値の表示タイプの有効な形式については、「有効な表示形式」(343ページ) を参照してください。 注: プーリアンまたは長いテキストの表示タイプについては、値の表示形式を定義することはできません。



UIの要素	説明
値の表示タイプ	<p>[プレビュー>詳細] タブでの、フィールド値の表示タイプ。使用可能な表示オプションは、[フィールド定義] タブに定義したフィールドタイプに依存します。以下の表示タイプが使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 短いテキスト。値は、ラベルの横に、単純なテキストとして表示されます。 ▶ 長いテキスト。値は、ラベルの下に、単純なテキストとして表示されます。必要に応じて、テキストは折り返します。 ▶ ブーリアン。値がチェックボックスとして表示されます (true/false、はい/いいえ、1/0をサポートします)。 ▶ 日付。値は日付として表示されます。 ▶ リンク。現在のフィールドの値はリンクとして表示されます。リンクは、URLを含む別のフィールドへと移動します。 <p>[値の表示形式] ボックスに値が表示される方法をカスタマイズします。</p>

[フィールドの属性 - フィルターのレイアウト] タブ

[フィールドの定義] タブの [**フィルター可能**] チェックボックスをオンにした場合、このウィンドウでは、「[作業フィルター]/[変更要求フィルター] ダイアログ ボックス」(165 ページ) でのフィールドの表示方法を定義できます。

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
	<p>フィルター値の追加。ドロップダウンリストボックスに含める値と、値の表示方法を定義します。</p> <p>注：このボタンを使用できるのは、[単一選択]、[複数選択]、[編集できる選択]のいずれかを [値の表示タイプ] 一覧から選択してから、[可能な値の定義] オプションを選択した場合のみです。</p>
	<p>フィルター値の削除。既存のフィルター値を削除します。</p>


UIの要素	説明
	<p>上に移動と下に移動。フィルター値がドロップダウンリストボックスで表示される順序を変更します。</p>
<p>可能な値の定義</p>	<p>ドロップダウンリストボックスに含める値と、値の表示方法を定義します。</p> <p>このオプションを選択すると、ドロップダウンリストに含めるフィルター値オプションを定義する必要があります。値を定義するには、[フィルター値の追加]  ボタンをクリックしてください。</p> <p>注：このオプションは、値の表示タイプ一覧から単一選択、複数選択、編集できる選択のいずれかを選択したときにのみ使用できます。</p>
<p>表示</p>	<p>値の表示ラベルを入力します。</p>
<p>既存の値の取得</p>	<p>ドロップダウンリストに表示する値を、データベースから直接取得するようにHP Release Controlに指示します。</p> <p>注：このオプションは、値の表示タイプ一覧から単一選択、複数選択、編集できる選択のいずれかを選択したときにのみ使用できます。</p>
<p>ラベル</p>	<p>[作業フィルター/変更要求フィルター]ダイアログボックスで、フィールド値の前にラベルとして表示するテキスト。詳細については、[作業フィルター][変更要求フィルター]ダイアログボックス(165ページ)を参照してください。</p>
<p>分析フィルターに表示</p>	<p>フィールドを、分析モジュールフィルター条件の1つとして表示するかどうかを示します。</p>
<p>ディレクターフィルターに表示</p>	<p>フィールドを、ディレクターモジュールフィルター条件の1つとして表示するかどうかを示します。</p>
<p>ヒント</p>	<p>カーソルをラベルの上に置いたままにすると現れるヒントのテキスト。</p>
<p>値</p>	<p>オプションの必要な値を入力します。</p>

UIの要素	説明
値の表示タイプ	<p>選択したフィールドをフィルターとして使用する際の動作を指定します。使用可能な表示オプションは、[フィールド定義] タブに定義したフィールドタイプに依存します。次のオプションを指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 数値。特定の数値に基づいてフィルター処理します。 ▶ 数値範囲。数値の範囲に基づいてフィルター処理します。このオプションを選択すると、[値の表示タイプ] 一覧の下にあるボックスに、範囲を入力する必要があります。 ▶ 日付。日付に基づいてフィルター処理します。このオプションを使用できるのは、分析モジュールのみです。 ▶ ブーリアン。ブーリアン値に基づいてフィルター処理します。[値の表示タイプ] 一覧の下にある ['True' ラベル] ボックスと ['False' ラベル] ボックスで、各ブーリアン値にラベルを割り当てます。このラベルは、[フィルター] ダイアログボックスで表示されます。 ▶ 短いテキスト。フィルター値に一致する文字列を入力します。アスタリスク (*) は、複数の値を持つ文字列に相当します。(たとえば、Da* という文字列は、David と Danny のいずれにも一致します)。 ▶ 単一選択。ユーザーは、ドロップダウンリストボックスからフィルター値オプションを1つのみ選択できます。 ▶ 複数選択。ユーザーは、ドロップダウンリストボックスからフィルター値オプションを複数選択できます。 ▶ 編集できる選択。ユーザーは、ドロップダウンリストボックスからフィルター値オプションを選択するか、フィルター値に一致する文字列を入力できます。

[フィールドの属性 - CI 分析ルール] タブ

このタブでは、変更要求フィールドに分析ルールを適用します。HP Release Control は、このルールに基づいて、フィールドのテキストに含まれる CI の場所と形式を識別します。

選択した各分析ルールに対し、ルールの適用先レベル ([**変更**] または [**タスク**]) を選択します。

重要な情報	<ul style="list-style-type: none">▶ [短いテキスト] または [長いテキスト] 形式の変更要求フィールドに分析ルールを適用できます。CI を含む変更要求フィールドのみに分析ルールを適用し、テキストコメントを追加しないことを推奨します。▶ 選択したフィールドを含む要求すべてに分析ルールを適用したい場合は、[変更] と [タスク] の両方を選択することができます。▶ 無効のフィールドが存在する場合、[利用できるフィールド] ウィンドウで、無効なフィールドの横に  アイコンが表示されます。
--------------	---

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。


UIの要素	説明
<CI分析ルール>	<p>利用できる分析ルールの一覧。デフォルトで、次の分析ルールが利用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ cmdb-object-id。サービスデスクアプリケーションがCMDBサーバーと同期している場合にのみ使用できる、定義済みの内蔵分析ルール。 このルールは、HP Universal CMDB 構成アイテムIDを使用してCIを検索します。 ▶ mam-ticket。サービスデスクアプリケーションがCMDBサーバーと同期している場合にのみ使用できる、定義済みの内蔵分析ルール。 このルールは、変更要求IDを使用してCIを検索します。 ▶ host。選択したフィールド内のホストを識別します。 ▶ ip。選択したフィールド内のIPアドレスを識別します。 ▶ ip-range。定義したIPアドレスの範囲から、選択したフィールド内のIPアドレスを識別します。 <p>デフォルトでは、host、ip、ip-rangeのCITに対して分析ルールを定義します。また、サービスデスクアプリケーションがCMDBサーバーと同期している場合に使用できる、2つの定義済みの内蔵分析ルールがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ cmdb-object-id分析ルールは、HP Universal CMDB CIのIDを使用してCIを検索します。 ▶ mam-ticket分析ルールは、変更要求IDを使用してCIを検索します。 <p>分析ルールは、編集または削除できません。</p> <p>注: [CI 分析ルール] タブには、[CI 分析ルール] ウィンドウで指定された分析ルールがすべて表示されます ([管理者] > [構成] タブ > [変更プロセス] > [インパクト分析ルール] > [CI 分析ルール] ウィンドウをクリック)。[CI分析ルール] ウィンドウ ([インパクト分析ルール] ウィンドウ (319 ページ) を参照してください。) にルールを追加すると、[CI分析ルール] タブの末尾にルールが表示されます。</p>
変更	<p>分析ルールがフィールドに適用されるのは、そのフィールドが最上位の要求に含まれる場合のみです。</p>

UIの要素	説明
説明	分析ルールの動作の説明。
名前	分析ルールの名前。
タスク	分析ルールがフィールドに適用されるのは、そのフィールドが第2レベルの要求に含まれる場合のみです。

[<下のウィンドウ> - 一覧] タブ

このタブでは、分析モジュールの一覧表示のレイアウトをカスタマイズします。このタブには、[一覧のレイアウト] タブで [一覧表示で表示] オプションを選択したフィールドが含まれます。





ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します (ラベルのない要素は、山かっこ <> で囲まれています)。

UIの要素	説明
	列の表示順序を指定します。列ヘッダーを選択し、[列を右に移動] ボタンまたは [列を左に移動] ボタンをクリックすると、列を左右に移動できます。
<列幅の調整>	列の幅を調整します。列の境界にカーソルを置き、カーソルがサイズ変更ポインターに変わったら、境界をドラッグして幅を調整します。 注: 列の幅を調整できるのは、[一覧のレイアウト] タブで [サイズ変更可能] を選択した場合のみです。
<特定の列に基づいて一覧表をソート>	特定の列に基づいて一覧表をソートできます。列ヘッダーを2回クリックしてください。列ヘッダーの横に矢印が表示され、その列で一覧がソートされることを示します。列ヘッダーをもう一度クリックすると、ソート順を変更できます。矢印が逆向きになります。 注: ソートする列を選択できるのは、[フィールド定義] タブで [ソート可能] を選択した場合のみです。

【<下のウィンドウ> - 詳細】 タブ

このタブでは、分析モジュールの [プレビュー] > [詳細] タブのレイアウトをカスタマイズします。このタブには、[詳細のレイアウト] タブで **[[詳細] タブに表示]** オプションを選択したフィールドが含まれます。列の追加や削除に加えて、選択したフィールドを別の列に移動することもできます。

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
	列の追加。 分析モジュールの [プレビュー > 詳細] タブで表示するために、空の列を追加します。
	列の削除。 列を削除します。 注： 列を削除するには、フィールドではなく列内をクリックし、列全体をハイライト表示にして列を選択します。この列に含まれていたフィールドは、別の列に移動します。
	右に移動または左に移動。 フィールドを選択し、[右に移動] ボタンまたは [左に移動] ボタンをクリックすると、フィールドを別の列に移動できます。
	上に移動または下に移動。 フィールドを選択し、[上に移動] ボタンまたは [下に移動] ボタンをクリックすると、列内でフィールドを上下に移動できます。

第 14 章

HP Universal CMDB 関連設定の構成

本章の内容

概念

- ▶ 「HP Universal CMDB 関連設定の構成の概要」 (371 ページ)
- ▶ 「スタンドアロンモードでの作業の概要」 (372 ページ)
- ▶ 「潜在変更と検出変更の構成」 (372 ページ)
- ▶ 「インパクト分析 (相関) ルールの構成」 (376 ページ)
- ▶ 「HP Release Control フェデレーションアダプターの概要」 (377 ページ)
- ▶ 「変更フェデレーションアダプター」 (378 ページ)

タスク

- ▶ 「HP Universal CMDB 7.5 の構成方法 (推奨)」 (380 ページ)
- ▶ 「HP Universal CMDB 8.x 以降の構成方法 (推奨)」 (383 ページ)
- ▶ 「JMX コンソールを使用して、インパクト分析の CI プロパティ条件の数を増やす方法」 (386 ページ)
- ▶ 「HP Universal CMDB の詳細設定の構成方法」 (387 ページ)
- ▶ 「HP Universal CMDB バージョンのアップグレード」 (389 ページ)
- ▶ 「HP Universal CMDB パッチの手動での構成方法」 (393 ページ)
- ▶ 「HP Release Control をスタンドアロンモードで実行するための構成方法」 (394 ページ)

第 14 章 「HP Universal CMDB 関連設定の構成」

- ▶ 「HP Business Availability Center 8.x または HP Business Service Management 9.x でフェデレーションとして KPI を構成する方法」 (398 ページ)
- ▶ 「フェデレーションアダプターへのカスタムフィールドの追加方法」 (399 ページ)
- ▶ 「JMX コンソールを使用したパスワードの暗号化方法」 (401 ページ)
- ▶ 「JXM コンソールを使用して LDAP を操作するための HP Release Control および HP Universal CMDB の構成方法」 (402 ページ)
- ▶ 「HP Universal CMDB 7.x からのビジネス CI のインポート方法」 (403 ページ)

リファレンス

- ▶ 「統合構成のユーザーインターフェース」 (405 ページ)

概念

HP Universal CMDB 関連設定の構成の概要

HP Universal CMDB は、CI、CIT、その関係が格納されたデータベースです。HP Release Control は、さまざまな方法で HP Universal CMDB と連携し、インパクト分析などに関連した計算を行います。

注：

- ▶ 変更プロセス中に、HP Release Control が次のエラー (サンプル) を返すことがあります。エラーは **<HP Release Control インストールディレクトリ>** `\server-0\logs\cmdb-90\cmdb-90_general.log` ファイルに書き込まれます。

原因：com.mercury.topaz.cmdb.shared.tql.exception.TqlValidationException:[エラーコード [122] プロパティ条件が、変数の許容最大数を超えました]
プロパティ条件が、変数の許容最大数を超えました! 変数の数：100 許容される変数の数：50

この例外が発生する場合は、HP Universal CMDB JMX コンソール 9.01 を使用して、インパクト分析に対する変数の許容最大数を増やす必要があります (「JMX コンソールを使用して、インパクト分析の CI プロパティ条件の数を増やす方法」(386 ページ) を参照)。許容される最大数は、必ずエラーメッセージに出力された数に更新してください。上の例の場合、その数は 100 です。それよりも大きな最大値を設定すると、HP Universal CMDB のパフォーマンスに影響することがあります。

- ▶ HP Universal CMDB と HP Release Control の連携に必要な設定の詳細は、『*HP Release Control デプロイメントガイド*』を参照してください。
 - ▶ この章では、HP Universal CMDB の用語を使用します。オブジェクトとは、CI、および CIT としての CI タイプを指します。
-

スタンドアローンモードでの作業の概要

注意： スタンドアローンモードでは、実行できる機能が制限されます。したがって、HP Release Control を初めて使用するユーザー向けのモードです。HP Release Control の機能をすべてを使用するためには、HP Universal CMDB を使用してください。

通常の HP Release Control 環境では、サービスデスクアプリケーションが CMDB サーバーと同期していると、HP Release Control は CI または変更要求 ID を使って CI を検索し、その CI のインパクト分析を行います。

スタンドアローンモードでは、**cmdb-mock.js** スクリプト内の関数を使用して、HP Release Control が CI を識別する方法や、インパクト分析の計算で CI を使用する方法を設定します。

スタンドアローンモードで HP Release Control を使用する構成方法については、「HP Universal CMDB ウィンドウ」(406 ページ) を参照してください。

cmdb-mock.js スクリプトを設定する方法については、「HP Release Control をスタンドアローンモードで実行するための構成方法」(394 ページ) と「[スタンドアローン HP Universal CMDB スクリプト] ウィンドウ」(427 ページ) を参照してください。

潜在変更と検出変更の構成

HP Release Control には、ユーザー環境内でスケジュールされているすべての変更が含まれています。

HP Universal CMDB を使用することによって、ユーザー環境に対する実際の変更を定期的に検出し、検出した変更に関するデータを HP Release Control に送信することができます。

潜在変更機能では、ユーザー環境で検出された変更 (**検出された変更**) が、HP Release Control でスケジュール済みの変更 (**スケジュールされた変更**) に対応しているかどうかを判定できます。

潜在変更機能の構成方法の詳細は、「[潜在変更] ウィンドウ」(418ページ)を参照してください。

潜在変更と検出変更について

注意：潜在変更機能には、動作モードが複数あります。ここでは、潜在変更機能 (**潜在および検出済み**モード) が完全にアクティブになっていることを想定しています。これ以外の動作モードの詳細は、「[潜在変更] ウィンドウ」(418ページ)を参照してください。

変更が検出されると、HP Release Control は、次の条件に基づいて、検出された変更とスケジュール済みの変更のマッチングを試行します。

- ▶ **期間。**HP Release Control は、検出された変更の期間が、スケジュール済みの変更と同じかどうかをチェックします。

スケジュール済みの変更の期間については、まず、スケジュール済みの変更が発生した実際の時間をチェックします (サービスデスクまたは Traffic Control モジュールで設定)。実際の時間が記録されていない場合は、計画日時をチェックします。

- ▶ **CCI/グループCI。**検出された変更とスケジュール済みの変更が同じ期間内である場合、HP Release Control は、検出された変更のCCI (変更済みCI) が、スケジュールされた変更のCCIと同じかどうかをチェックします。CCIが異なる場合、同じグループCI (同じホストなど) にリンクされているかどうかをチェックします。
- ▶ **変更タイプ。**検出された変更とスケジュール済みの変更が上記の条件 (同じ期間とグループCI) を満たしている場合、HP Release Control は、検出された変更とスケジュールされた変更が同じ変更タイプかどうかをチェックします。変更タイプは、ハードウェアの追加またはソフトウェアの追加 (デフォルトでは、**HW_ADD**または**SW_ADD**) を行うタイプです。

注: `change-type-orig` フィールドの値が不明であるために潜在変更が無視されてしまわないように、このフィールドを `convertChange.js` ファイルに追加します。このファイルにアクセスするには、[モジュール]>[管理者]>[構成] タブ>[統合]>[サービスデスク アダプター]><サービスデスクアプリケーション>を選択してください。

詳細については、「[CI タイプに一致する変更タイプ] ウィンドウ」(422 ページ) を参照してください。

検出された変更の処理

HP Release Control は、上記のどの条件を満たしているかに基づいて、検出された変更を次のいずれかの方法で処理します。

▶ HP Release Control は、検出変更として表示

上記の条件 (期間、CCI/グルーパー CI、変更タイプ) に基づいて、検出された変更がスケジュール済み変更と一致する場合、HP Release Control はこの変更を **検出変更** とみなします。検出変更は、分析モジュールの [レビュー]>[確認] タブに、対応する変更要求と一緒に表示されます。

▶ HP Release Control は、潜在変更として表示

検出された変更がスケジュール済み変更と一致しない場合、または上記の条件の一部を満たしていない場合、HP Release Control はこの変更を **潜在変更** とみなします。

注: ただし、変更タイプが不明な場合、このルールは適用されません。詳細については、以下の HP Release Control が**変更を無視**を参照してください。

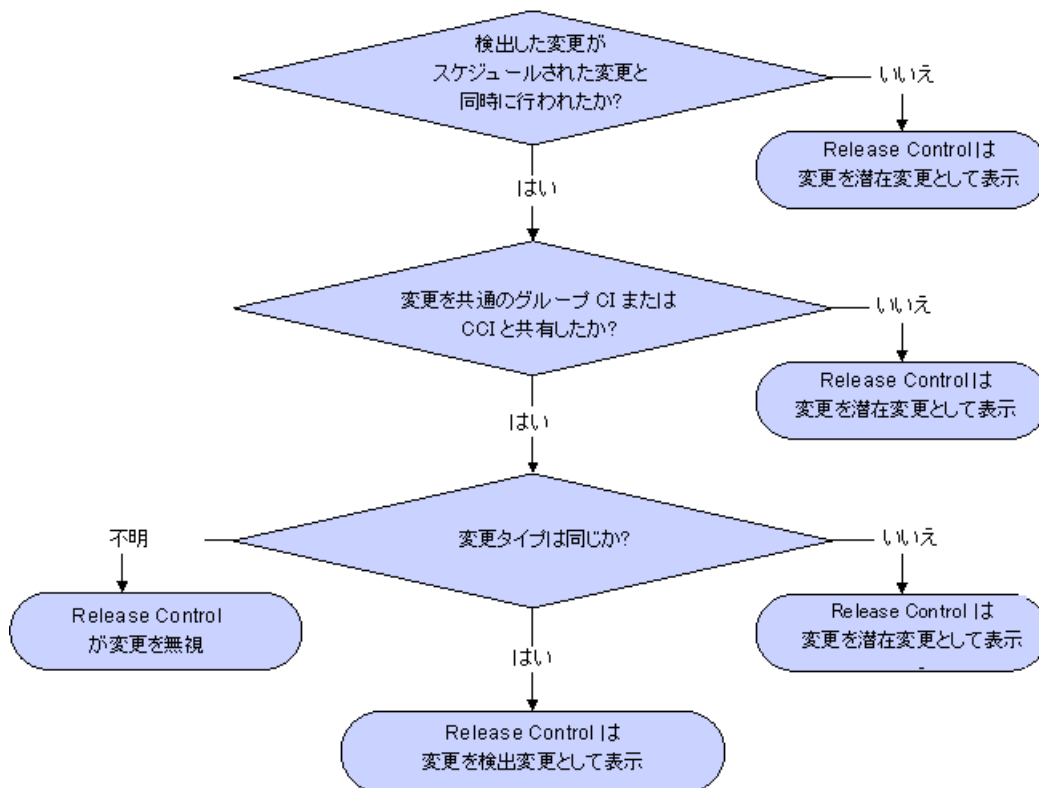
たとえば、検出された変更とスケジュール済みの変更の期間は同じでも、グルーパー CI が異なる場合、検出された変更は潜在変更とみなされます。

潜在変更は、分析モジュールの [変更要求] ウィンドウで別の変更として表示されます。

▶ HP Release Controlが変更を無視

検出された変更とスケジュール済みの変更が最初の2つの条件 (期間とCCI/グループCI) を満たしていても、スケジュール済み変更に変更タイプ¹の情報がない (つまり、変更タイプが不明) 場合、HP Release Controlは、検出された変更を無視します。したがって、この変更は表示されません。

次のフローチャートでは、HP Release Controlが検出した変更を処理する方法をまとめています。



例：

たとえば、HP Universal CMDBが**NewChange**という名前の変更を検出し、**CCMrequest1**、**CCMrequest2**、**CCMrequest3**がスケジュール済みの変更としてHP Release Controlに含まれているとします。

HP Release Controlは、検出された変更**NewChange**を、上記の条件に基づいて、既存のスケジュール済みの変更(**CCMrequest1**、**CCMrequest2**、**CCMrequest3**)とマッチングします。

NewChangeと**CCMrequest2**の期間が同じ場合、**NewChange**と**CCMrequest2**のCIが同じかどうかをチェックします。CIが異なる場合、同じグルーパ CIにリンクされているかどうかをチェックします。リンク先が同じ場合、変更タイプをチェックします。

- ▶ **NewChange**と**CCMrequest2**の変更タイプが同じ場合(両方ともハードウェアを追加する変更、など)、**NewChange**は**検出変更**とみなされます。
- ▶ **NewChange**と**CCMrequest2**の変更タイプが異なる場合(一方はハードウェアの変更、他方はソフトウェアの変更など)、**NewChange**は**潜在変更**とみなされます。
- ▶ **CCMrequest2**の変更タイプを特定できない場合、**NewChange**は無視され、表示されません。

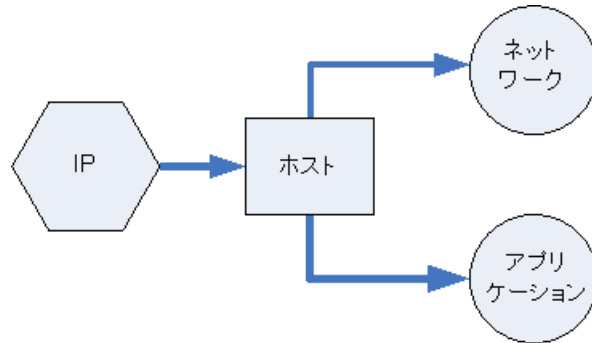
インパクト分析 (相関) ルールの構成

インパクト分析(相関)ルールは、CI間の関係を定義します。このルールはHP Universal CMDBで定義され、HP Release Controlとの連携にはユーザー定義が必要になります。インパクト分析の基盤は、インパクト分析ルールです。

インパクト分析ルールをHP Universal CMDBで定義すると、HP Release Controlはインパクト分析用に選択されたルールをインポートします。

CIは、インパクトの方向に基づいて、インパクト分析での関連付けを行います。つまり、あるCIについて、このCIの影響を受けるCI、またはそのCIに影響を与えるCIとして他のCIを関連付けます。このように、インパクト分析ルールでは、CI間のインパクト関係を定義します。

- ▶ HP Universal CMDB 7.5では、プレフィックスが**ccm**のルールのみがデフォルトでインポートされます。これは、次の図で示すように、IP、ホスト、ネットワーク、アプリケーションの各タイプのCITの相関を示します。矢印の方向がインパクトの方向を示しています。



必要に応じて、正規表現を使ってインパクト分析ルールを追加または代替ルールを作成することもできます。詳細については、「[インパクト] ウィンドウ」(412ページ)を参照してください。

- ▶ HP Universal CMDB 8.x以降には、HP Release Controlに相関ルール群が組み込まれています。このルールに基づいて、インパクト分析計算が実行されます。さらに、インパクト分析の確度を上げるため、インパクト分析ルールを追加で定義することも可能です。詳細については、「[インパクト] ウィンドウ」(412ページ)を参照してください。

HP Release Control フェデレーションアダプターの概要

HP Release Control フェデレーションアダプターは、HP Release Controlからのデータ取得をサポートしています。HP Release Controlに対する連携クエリの計算要求は、すべてこのアダプターを通して行われます。

HP Release Control フェデレーションアダプターには、次の2つのタイプがあります。

- ▶ **変更フェデレーションアダプター**。詳細については、「変更フェデレーションアダプター」(378ページ)を参照してください。

- ▶ **KPI フェデレーションアダプター**。詳細については、「HP Business Availability Center 8.x または HP Business Service Management 9.x で フェデレーションとして KPI を構成する方法」(398 ページ) を参照してください。

注: HP Release Control フェデレーションアダプターの構成方法の詳細は、HP Universal CMDB ドキュメントを参照してください。

変更フェデレーションアダプター

変更フェデレーションアダプターは、**変更要求** CI タイプをサポートしています。システム CI または ビジネス CI の計画された変更をすべて表示するクエリを HP Universal CMDB で作成するには、**メンバーシップ**リンクを使用します。

変更フェデレーションアダプターのアダプター ID は **RcChangeAdapter** です。

アダプターをどのように使うことができるかを、次の使用事例で示します。

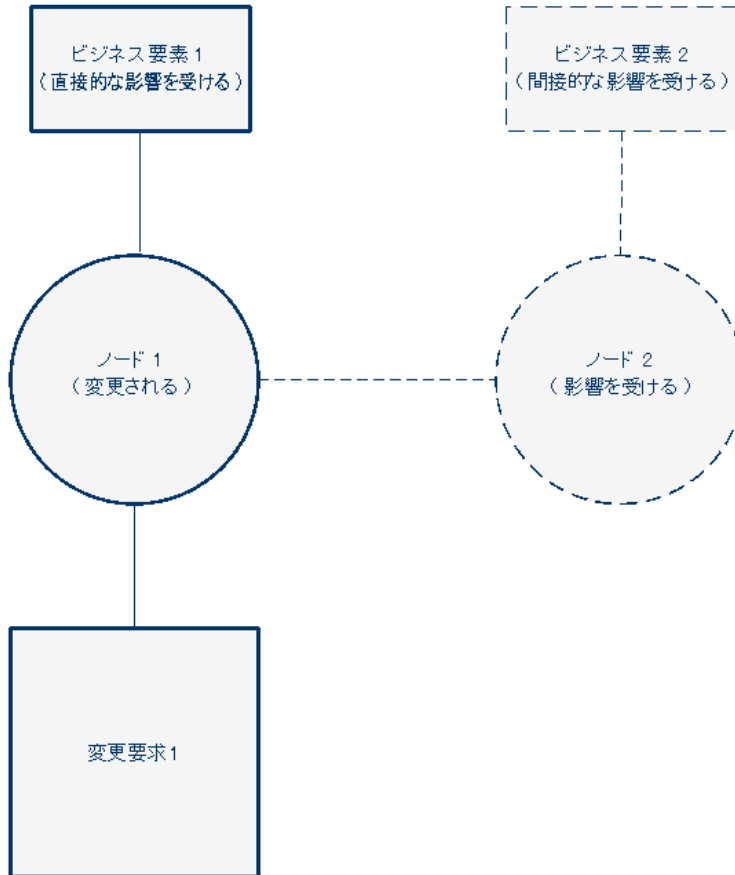
- ▶ 指定時間枠内のあらゆる CI に接続されている **変更要求** をクエリできます。
- ▶ 指定するインフラストラクチャ要素 CI に接続されている **変更要求** をクエリできます。
この場合に HP Universal CMDB が取得するのは、システム CI に間接的に影響する変更ではなく、システム CI を直接変更する変更です。
- ▶ 指定するビジネス要素 CI に接続されている **変更要求** をクエリできます。
この場合に HP Universal CMDB が取得するのは、ビジネス CI に間接的に影響する変更ではなく、ビジネス CI に直接影響する変更です。

上記のすべての場合に、HP Universal CMDB は上位の変更および独立したタスクを取得します。上位の要求に含まれるタスクは取得されません。

例：

次のサンプルは、使用事例を示しています。HP Release Control に 1 つの計画された変更 (**変更要求 1**) があります。変更要求 1 は、**ノード 1** で実行されます。**ビジネス要素 1** は **ノード 1** で実行されます。そのため、変更から直接的な影響を受けます。

ノード 2 は、**ノード 1** に接続されているため、**変更要求 1** の影響を受けることがあります。が、**ノード 2** に実際の変更が加えられるわけではありません。**ビジネス要素 2** は、**ノード 2** で実行され、変更から間接的な影響を受けることがあります。



ユーザーが、**ノード 1**または**ビジネス要素 1**に対する計画された変更を取得するクエリを実行すると、**変更要求 1**が表示されます。これは、その変更がこれらのCIに直接影響するためです。

ユーザーが、**ノード 2**または**ビジネス要素 2**に対する計画された変更を取得するクエリを実行した場合は、どの変更も表示されません。これは、これらのCIに直接影響する変更がないためです。

注：フェデレーションアダプターにカスタムフィールドを追加する方法の詳細は、「フェデレーションアダプターへのカスタムフィールドの追加方法」(399ページ)を参照してください。

タスク

HP Universal CMDB 7.5の構成方法 (推奨)

ここでは、HP Universal CMDB 7.5の構成について、推奨される手順を説明します。

- ▶ 「CI検索命令の構成」(381ページ)
- ▶ 「システムCIとビジネスCI間の関係の構成」(381ページ)
- ▶ 「HP Universal CMDBからのビジネスCIのインポート」(382ページ)
- ▶ 「インパクト分析(相関)ルールの構成」(382ページ)
- ▶ 「トリガーされたCIとCCIを示す関係の定義」(383ページ)

CI 検索命令の構成

チケットを受け取ると、このチケットは分析ルールに基づいて解析されます。解析された文字列は、HP Universal CMDB で有効な CI を取得するための検索に使用されます。エントリーを HP Universal CMDB で検索する際、各エントリーで指定された属性のみが検索対象になります。この処理では、各 CIT の検索に使用する属性を指定します。詳細については、「[CI 分析ルックアップ命令] ウィンドウ」(410 ページ) を参照してください。

システム CI とビジネス CI 間の関係の構成

インパクト分析などの計算では、CI 間の関係が重要な役割を果たします。ある CI の変更要求が他の CI にどのように影響を与えるかを理解するには、どのような CI がリンクされているかを理解する必要があります。HP Universal CMDB では、さまざまなシステム CI 間のリンクが自動的に検出されます。ただし、システム CI とビジネス CI 間に関連がある場合、HP Universal CMDB でリンクを手動で定義する必要があります。

これらの関係を定義する手順は、実行している HP Universal CMDB のバージョンによって異なります。

システム CI とビジネス CI の関係を HP Universal CMDB 7.5 で構成するには :

- 1 HP Universal CMDB View Manager を開きます。
- 2 それぞれのビュー定義において、ビジネス CI にリンクしたいノード (ホストまたは他の CI のグループ) を検索します。
- 3 各ノードを右クリックし、[アプリケーションに追加] をクリックします。

ビジネス CI へのノードのリンクについての詳細は、HP Universal CMDB のドキュメントを参照してください。

HP Universal CMDB からのビジネス CI のインポート

HP Release Control では、HP Release Control によって処理される変更要求が影響するビジネス CI の詳細を表示できます。また、ビジネス CI に重要度レベルを割り当て、これに対してユーザーを関連付けることもできます ([**モジュール**] > [**管理者**] > [**ビジネス CI**] タブ)。

HP Universal CMDB 7.5 を使用している場合、ビジネス CI を HP Release Control で表示するには、HP Universal CMDB からビジネス CI をインポートする必要があります。

詳細については、「HP Universal CMDB 7.x からのビジネス CI のインポート方法」(403 ページ) を参照してください。

インパクト分析 (相関) ルールの構成

インパクト分析 (相関) ルールは、CI 間の関係を定義します。このルールは HP Universal CMDB で定義され、HP Release Control との連携にはユーザー定義が必要になります。インパクト分析の基盤は、インパクト分析ルールです。

インパクト分析ルールを HP Universal CMDB で定義すると、HP Release Control はインパクト分析用に選択されたルールをインポートします。

この手順では、HP Release Control にインポートするインパクト分析ルールを定義します。詳細については、「[インパクト] ウィンドウ」(412 ページ) を参照してください。

トリガーされたCIとCCIを示す関係の定義

トリガーされているCIは、チケットで明示的に指定されているCIです。変更CI (CCI) は、変更要求の結果として直接変更されたCIです。本来、トリガーされているCIはすべてCCIです。CCIは、トリガーされることも、されないこともあります。CCIは、直接的影響を受けるインパクト分析 (相関) ルールによって決定されます。つまり、直接的影響を受けるインパクト分析ルールによって、影響を受けるCIのどれがCCIなのかが決定されます。トリガーされたCIとCCIを示す関係は、[インパクト] ウィンドウにあるインパクト分析ルールで定義されます。詳細については、「直接的に影響を受ける 相関ルールパターン」(413ページ) を参照してください。

HP Universal CMDB 8.x 以降の構成方法 (推奨)

ここでは、HP Universal CMDB 8.x以降で推奨される構成について説明します。

注：以下には、HP Universal CMDB 8.xのみに適用される手順が含まれます。

- ▶ 「CI検索命令の構成」(384ページ)
- ▶ 「システムCIとビジネスCIの関係の構成 - HP Universal CMDB 8.xのみ」(384ページ)
- ▶ 「システムCITからビジネスCITへの変換 - HP Universal CMDB 8.xのみ」(384ページ)
- ▶ 「インパクト分析 (相関) ルールの構成」(385ページ)
- ▶ 「変更されるCIインパクト分析 (相関) ルールに対してトリガーされたCI」(386ページ)

CI 検索命令の構成

チケットを受け取ると、このチケットは分析ルールに基づいて解析されます。解析された文字列は、HP Universal CMDB で有効な CI を取得するための検索に使用されます。エントリーを HP Universal CMDB で検索する際、各エントリーで指定された属性のみが検索対象になります。この処理では、各 CIT の検索に使用する属性を指定します。詳細については、「[CI 分析ルックアップ命令] ウィンドウ」(410 ページ) を参照してください。

システム CI とビジネス CI の関係の構成 - HP Universal CMDB 8.x のみ

インパクト分析などの計算では、CI 間の関係が重要な役割を果たします。ある CI の変更要求が他の CI にどのように影響を与えるかを理解するには、どのような CI がリンクされているかを理解する必要があります。HP Universal CMDB では、さまざまなシステム CI 間のリンクが自動的に検出されます。ただし、システム CI とビジネス CI 間に関連がある場合、HP Universal CMDB でリンクを手動で定義する必要があります。

これらの関係を定義する手順は、実行している HP Universal CMDB のバージョンによって異なります。

システム CI とビジネス CI の関係を HP Universal CMDB 8.x 以降で構成するには :

HP Universal CMDB Modeling Studio を使用して、ビジネス CI をモデル化します。

詳細については、ご使用の HP Universal CMDB バージョンのドキュメントを参照してください。

システム CIT からビジネス CIT への変換 - HP Universal CMDB 8.x のみ

CIT をビジネス CI とシステム CI に最初に分類する処理は、HP Universal CMDB によって実行されます。CIT を HP Universal CMDB からインポートしている場合、カテゴリが HP Release Control に引き継がれます。ただし、HP Universal CMDB のシステム CIT を、HP Release Control でビジネス CIT としてインポートする設定も可能です。

システム CIT をビジネス CIT としてインポートするには :

- 1 HP Universal CMDB を開きます。
- 2 CIT に移動し、**MODELING_ENABLED** 修飾子を選択します。

インパクト分析 (相関) ルールの構成

インパクト分析 (相関) ルールは、CI間の関係を定義します。ルールはHP Universal CMDBで定義され、ユーザー定義によってHP Release Controlとの連携が可能になります。インパクト分析の基盤は、インパクト分析ルールです。

CIは、インパクトの方向に基づいて、インパクト分析での関連付けを行います。つまり、あるCIについて、このCIの影響を受けるCI、またはそのCIに影響を与えるCIとして他のCIを関連付けます。CIのインパクト関係を決定するインパクト分析ルールは、[インパクト] ウィンドウで定義します。詳細については、「[インパクト] ウィンドウ」(412ページ) を参照してください。

HP Release Control では、インパクト分析ルールが事前に組み込まれています。このルールに基づいて、インパクト分析計算が実行されます。さらに、インパクト分析の確度を上げるため、インパクト分析ルールを追加で定義することも可能です。

新しいインパクト分析ルールを定義するには：

- 1 HP Universal CMDBでインパクト分析ルールを定義します。
- 2 インパクト分析ルールを右クリックし、プロパティを選択します。
- 3 以下の手順で、**相関ルールグループ**を設定します。
 - a **RC_IMPACT**。このオプションを選択してください。この相関がHP Release Controlのインパクトに関連することを示します。
 - b **RC_DIRECTLY_AFFECTED**。関連がある場合にのみ、このオプションを選択してください。直接的なインパクト関係であることを示します。

変更される CI インパクト分析 (相関) ルールに対してトリガーされた CI

トリガーされている CI は、チケットで明示的に指定されている CI です。変更 CI (CCI) は、変更要求の結果として直接変更された CI です。本来、トリガーされている CI はすべて CCI です。CCI は、トリガーされることも、されないこともあります。

この手順では、トリガーされた CI と CCI の関連性を定義するインパクト分析ルールを指定します。詳細については、「直接的に影響を受ける 相関ルールパターン」(413 ページ) を参照してください。

JMX コンソールを使用して、インパクト分析の CI プロパティ条件の数を増やす方法

変更プロセス中に、HP Release Control が次のエラー (サンプル) を返すことがあります。エラーは HP Release Control インストールディレクトリ **<HP Release Control\server-0\logs\cmdb-90\cmdb-90_general.log>** ファイルに書き込まれます。

```
原因 : com.mercury.topaz.cmdb.shared.tql.exception.TqlValidationException:[エラーコード [122]
プロパティ条件が、変数の許容最大数を超えました]
プロパティ条件が、変数の許容最大数を超えました! 変数の数 : 100 許容される変数の数 : 50
```

この例外が発生する場合は、HP Universal CMDB JMX コンソール 9.01 を使用して、インパクト分析に対する変数の許容最大数を増やす必要があります。許容される最大数は、必ずエラーメッセージに出力された数に更新してください。上の例の場合、その数は 100 です。それよりも大きな最大値を設定すると、HP Universal CMDB のパフォーマンスに影響することがあります。

次の手順は、インパクト分析に使用する CI プロパティ条件の数を増やす方法を示しています。

- 1 Web ブラウザーを起動し、アドレスに **http://<server_name>:8080/jmx-console** と入力します。**<server_name>** は、HP Universal CMDB がインストールされているマシンの名前です。
- 2 UCMDB で、**UCMDB:service=Settings Services** をクリックします。
- 3 **setSettingValue** を探します。
- 4 パラメーター **customerId** の **[Value]** ボックスに、顧客 ID を入力します。

- 5 パラメーター **Name** の [Value] ボックスに `sql.validation.max.vars.propertiescondition` と入力します。
- 6 パラメーター **Value** の [Value] ボックスに、エラーメッセージ (上記) に書かれていた数を入力します。
- 7 [Invoke (実行)] をクリックします。
- 8 HP Universal CMDB サーバーを再起動します。

HP Universal CMDB の詳細設定の構成方法

ここでは、HP Universal CMDB の詳細構成オプションについて説明します。

注： 以下には、HP Universal CMDB 8.x のみに適用される手順が含まれます。

- ▶ 「CI 属性表示の構成 - HP Universal CMDB 8.x のみ」 (387 ページ)
- ▶ 「同期の頻度の構成」 (388 ページ)
- ▶ 「接続設定の構成」 (388 ページ)
- ▶ 「HP Release Control と HP Universal CMDB のインパクトの重大度のマッピング」 (389 ページ)

CI 属性表示の構成 - HP Universal CMDB 8.x のみ

HP Release Control で CI の詳細を表示する際、デフォルトで表示される属性は **name** のみです。ここでは、HP Release Control で表示する CIT 属性を指定することができます。詳細については、「[CI 表示] ウィンドウ」 (411 ページ) を参照してください。

同期の頻度の構成

ここでは、HP Release Control を HP Universal CMDB データベースとどの程度の頻度で同期させるかを設定できます。詳細については、「[同期] ウィンドウ」(426 ページ) を参照してください。

接続設定の構成

ここでは、HP Release Control と HP Universal CMDB の接続タイプを定義します。

接続タイプを設定するには：

- 1 [モジュール]>[管理者]>[構成]>[統合]>[HP Universal CMDB]>[利用できる接続] をクリックします。
- 2 [接続タイプ] ボックスの値を **RMI**、**HTTP**、**HTTPS** のいずれかに設定します。

注：有効な値は、HP Universal CMDB 7.5 では **RMI** のみ、8.x 以降では **HTTP** と **HTTPS** です。

- 3 HTTPS を指定した場合は、以下の手順を実行してください。
 - a HP Universal CMDB 証明書を <HP Release Control インストールディレクトリ> \java\bin ディレクトリにコピーします。
 - b コマンド行から、<HP Release Control インストールディレクトリ>\java\bin ディレクトリに移動し、次のコマンドを実行します。

```
keytool -importcert -alias <uCMDB host name> -file <uDMDB certificate file location> -keypass <uCMDB certificate password> -keystore <RC Installation folder>\java\lib\security\cacert -storepass changeit
```
 - c この証明書を信頼するかどうかを指定するプロンプトが表示されたら、「y」と入力し、**ENTER** を押します。

HP Release Control と HP Universal CMDB のインパクトの重大度のマッピング

HP Universal CMDB と HP Release Control は、異なる重大度レベルスケールを使用します。ここでは、HP Universal CMDB からインポートされた重大度を、HP Release Control のインパクトの重大度にマッピングします。詳細については、「[重大度列举マッピング] ウィンドウ」(416 ページ) を参照してください。

HP Universal CMDB バージョンのアップグレード

HP Universal CMDB をインストールし、HP Release Control との連携に必要な構成が完了した後、アップグレードを行う場合は、このセクションの手順を実行してください。

1 HP Universal CMDB の新しいバージョンのインストールまたはアップグレード

HP Universal CMDB のドキュメントのインストール手順に従って、目的のサーバー上に HP Universal CMDB の新しいバージョンをインストールまたはアップグレードします。

2 ビジネス CI 同期の無効化

注意： HP Universal CMDB 7.x から 8.x 以降へのアップグレードでは、次の手順を実行してください。これにより、HP Release Control と CMDB データベースの同期が無効になります。この手順を実行しないと、データが損失します。

[モジュール]>[管理者]>[構成] タブ > [統合]> [HP Universal CMDB]> [同期] をクリックし、[ビジネス CI の同期] チェックボックスをオフにします。

3 HP Universal CMDB サーバーの DNS 名の定義

HP Universal CMDB がインストールされているサーバーの DNS 名を定義します。詳細については、「<使用可能な接続ウィンドウ>」(407 ページ) を参照してください。

4 接続設定の構成

HP Release Control と HP Universal CMDB を接続する接続タイプを定義します。詳細については、「接続設定の構成」(388 ページ) を参照してください。

5 ロケーター接続タイプのプロパティ定義

注：この手順は、HP Business Availability Center または HP Business Service Management との統合が必要な場合にのみ実行してください。

HP Universal CMDB 7.5 で分散構成を行っている場合、[ロケータ-接続タイプ] プロパティを定義します。[モジュール]>[管理者]>[構成] タブ>[統合]>[HP Universal CMDB]>[利用できる接続] をクリックしてください。[ロケータ-接続タイプ] プロパティには、RMI、HTTP、HTTPS のいずれかを定義できます。デフォルト値は RMI です。[ロケータ] プロパティを [接続タイプ] プロパティと同じ値に設定することをお勧めします。詳細については、「<使用可能な接続ウィンドウ>」(407 ページ) を参照してください。

6 HP Release Control と連携する HP Universal CMDB のアップグレードバージョンの選択

[モジュール]>[管理者]>[構成] タブ>[統合]>[HP Universal CMDB] をクリックし、HP Universal CMDB のバージョンを選択します。

有効なバージョンは、**No HP Universal CMDB**、**7.5.x**、**8.x**、**9.x** です。上記バージョンでパッチをインストール済みであり、使用中のバージョンが上記のいずれでもない場合は、「HP Universal CMDB パッチの手動での構成方法」(393 ページ) を参照してください。

7 HP Release Control パッケージの再導入

<HP Release Control インストールディレクトリ>\MAM\mam-<version>.zip に収録されている **ccm_package.zip** ファイルを再導入します。この zip ファイルの <version> は HP Universal CMDB の新しいバージョンを示します。パッケージの導入の詳細は、HP Universal CMDB のドキュメントを参照してください。

8 アプリケーションの重要度プロパティのエクスポート (HP Universal CMDB 7.x から HP Universal CMDB 8.x 以降へのアップグレード)

HP Universal CMDB バージョン 7.5 以前を使用している場合、ビジネス CI の重要度レベルは HP Release Control で設定されます ([モジュール]>[管理者]>[ビジネス CI] タブ)。

HP Universal CMDB 8.x 以降では、ビジネス CI の重要度レベルは HP Universal CMDB で定義します。

このプロパティのデータを、HP Release Control から HP Universal CMDB へエクスポートできます。

- a [モジュール]>[管理者]>[構成] タブ>[統合]>[HP Universal CMDB]>[同期] をクリックし、[ビジネス CI の同期] チェックボックスをオフにします。これにより、HP Release Control と CMDB データベースの同期が無効になります。
- b HP Universal CMDB および HP Release Control サーバーが稼働していることを確認してください。
- c <HP Release Control インストールディレクトリ>\bin ディレクトリにある **ApplicationImportanceExporter.bat** ファイルを実行します。
ApplicationImportanceExporter.bat ファイルの詳細は、「アプリケーション重要度のエクスポート」(617 ページ) を参照してください。

9 ビジネス CI の同期

注意：アプリケーションの重要度プロパティをエクスポートするには、まずこの手順 8 を完了する必要があります。異なる順番で手順を実行すると、データが失われる可能性があります。

[モジュール]>[管理者]>[構成] タブ>[統合]>[HP Universal CMDB]>[同期] をクリックし、[ビジネス CI の同期] チェックボックスをオンにします。これにより、HP Release Control と CMDB データベースの同期が有効になります。

HP Universal CMDB パッチの手動での構成方法

HP Universal CMDBのパッチがすでにインストールされている場合、インパクト分析が機能しなくなることがあります。HP Release Controlがパッチをサポートする更新をリリースしていない場合、この構成を手動で実行できます。

HP Release ControlをHP Universal CMDBに統合する構成を手動で行うには：

- 1 各列のファイルが、HP Universal CMDB サーバー上の <HP Universal CMDB>\j2f\lib ディレクトリにあることを確認します。

➤ HP Universal CMDB 7.5

HP Universal CMDB でのファイル名	HP Release Control でのファイル名
➤ AllClasses.jar	➤ AllClasses-7.51ga1866.jar
➤ cmdb_framework.jar	➤ cmdb_framework-7.51ga1866.jar
➤ cmdb_history_client.jar	➤ cmdb_history_client-7.51ga1866.jar
➤ cmdb_history_server.jar	➤ cmdb_history_server-7.51ga1866.jar
➤ cmdb_history_shared.jar	➤ cmdb_history_shared-7.51ga1866.jar
➤ cmdb_server.jar	➤ cmdb_server-7.51ga1866.jar
➤ cmdb_shared.jar	➤ cmdb_shared-7.51ga1866.jar
➤ find-adapter.jar	➤ find-adapter-7.51ga1866.jar
➤ hacapi.jar	➤ hacapi-7.51ga1866.jar
➤ javacore.jar	➤ javacore-7.51ga1866.jar
➤ jbossall-client.jar	➤ jbossall-client-7.51ga1866.jar
➤ mam-common.jar	➤ mam-common-7.51ga1866.jar
➤ setting.jar	➤ setting-7.51ga1866.jar
➤ federation_api.jar	➤ federation_api-7.51ga1866.jar
➤ logging.jar	➤ logging-7.51ga1866.jar

➤ HP Universal CMDB 8.x 以降

HP Universal CMDB でのファイル名	HP Release Control でのファイル名
ucmdb-api-<version>-impactapi-5.jar	ucmdb-api-8.0-impactapi-5.jar

- 2 上記の .jar ファイルをすべてバックアップし、<HP Release Control インストールディレクトリ>\apps\cmdb-adapter-<version>\WEB-INF\lib ディレクトリ から削除します。
- 3 .jar ファイルを HP Universal CMDB から <HP Release Control インストールディレクトリ>\apps\cmdb-adapter-<version>\lib ディレクトリにコピーします。上記の HP Release Control ファイル名と一致するように、ファイル名を変更します。
- 4 HP Release Control サーバーを再起動します。

HP Release Control をスタンドアローンモードで実行するための構成方法

ここでは、HP Release Control をスタンドアローンモードで実行するために、**cmdb-mock.js** スクリプトを構成する方法を説明します。このファイルは、[モジュール]>[管理者]>[構成] タブ > [統合] > [HP Universal CMDB] > [インパクト] > [スタンドアローン UCMDB スクリプト] にあります。

HP Release Control をスタンドアローンモードで使用する方法の詳細については、「スタンドアローンモードでの作業の概要」(372 ページ) を参照してください。

このタスクでは、以下の手順を実行します。

- ▶ 「CI 構成の分析」(395 ページ)
- ▶ 「インパクト分析の計算中の CI の動作の決定」(396 ページ)
- ▶ 「アプリケーション構成の同期」(397 ページ)

CI 構成の分析

HP Release Control は、分析ルールに基づいて、収集された要求内で CI の名前を検索します。**cmdb-mock.js** スクリプトの **Analyze CI config** セクションにある次の関数を使用して、検索した CI 名を示す一意の ID を生成し、HP Release Control ユーザーインターフェースで CI を表示する方法を指定できます。

- ▶ **getCiType**。この関数は、CI のタイプを割り当てます。デフォルトでは、CI を検索した分析ルールの名前を元に、CI タイプが割り当てられます。

```
function getCiType(analyserName){
    return analyserName.toLowerCase();
}
```

- ▶ **getCiID**。デフォルトでは、この関数は上記で定義された CI タイプと、要求で指定されている CI 名を使用して、CI の一意の ID を生成します。

```
function getCiID(ciName, ciType){
    return ciName.toLowerCase() + ciType.;
}
```

注意： **getCiID** 関数は必ず、生成された ID の値が HP Release Control 内で一意になるように定義されます。これにより、各 CI をシステム内で一意に分析することができます。

- ▶ **getCiLabel**。この関数は、HP Release Control ユーザーインターフェースで CI を表示する方法を定義します。デフォルトでは、この関数は、要求で指定されている CI の名前を返します。

```
function getCiLabel(ciName, ciType){
    return ciName;
}
```

インパクト分析の計算中のCIの動作の決定

`cmdb-mock.js` スクリプトの **Impact config** セクションにある次の関数を使用して、インパクト分析の計算中のCIの動作を決定します。

- ▶ **isSystem**。この関数は、**Analyze CI config** セクションにある上記で定義したCIを、ビジネスCI とシステムCI（ハードウェア）のどちらに分類するかを決定します。HP Release Control ユーザーインターフェースでは、ビジネスCI とシステムCI は、インパクト分析結果では異なる方法で表示されます。

```
function isSystem(ciName, ciType){
    for(i=0; i< APPLICATION_TYPES.length; i++){
        if(APPLICATION_TYPES[i].toLowerCase() == ciType.toLowerCase()){
            return false;
        }
    }
    return true;
}
```

上記の関数は、**Impact config** セクションの先頭で定義したアプリケーションタイプ変数またはjavascriptファイルを参照することができます。

- ▶ **getSeverity**。この関数は、インパクト分析の計算において、各CIのインパクトの重大度を定義します。

```
function getSeverity(name, type){
    if (type.toLowerCase() == APP_TYPE1.toLowerCase()){
        return SEVERITY_CRITICAL;
    }
    else if(type.toLowerCase() == APP_TYPE2.toLowerCase()){
        return SEVERITY_HIGH;
    }
    else if(name.toLowerCase() == APP_NAME1.toLowerCase()){
        return SEVERITY_MEDIUM;
    }
    return SeverityEnum.getUnknown();
}
```

この関数の戻り値を **HP Release Control インストールディレクトリ** > **\conflenumerations.settings** ファイルで定義する必要があります。

アプリケーション構成の同期

通常の HP Release Control 環境では、HP Release Control は CMDB データベースと同期されます。CMDB データベース内で表示されなくなったビジネス CI は HP Release Control ユーザーインタフェースで廃止 CI とみなされます。

スタンドアロンモードでは、HP Release Control が関連のビジネス CI と廃止 CI を区別するかどうかを指定できます。区別する場合、関連するビジネス CI のリストを定義します。このリストに一致しないビジネス CI はすべて、廃止 CI とみなされます。

cmdb-mock.js スクリプトの **Synchronize Application config** セクションで次の関数を使用して、動作を定義します。

- ▶ **showObsolete**。この関数は、HP Release Control で関連のビジネス CI と廃止 CI を区別するかどうかを定義します。

```
function showObsolete(){
    return false;
}
```

デフォルトでは、この関数は **false** に設定され、HP Release Control は関連のビジネス CI と廃止 CI を区別しません。 **true** に設定する場合は、 **synchronizerApplication** 関数を使用して関連のビジネス CI のリストを定義します。

- ▶ **synchronizerApplication**。この関数は、関連のビジネス CI のリストを定義します。上記セクションで定義されたビジネス CI の中で、この関数で指定された条件を満たさないものは、廃止 CI とみなされます。

```
function synchronizerApplication(applicationsSet){
    // ScriptingApplicationImpl (appName, appType)
    applicationsSet.add(new ScriptingApplicationImpl(APP_NAME1, APP_TYPE1));
    applicationsSet.add(new ScriptingApplicationImpl(APP_NAME2, APP_TYPE2));
    applicationsSet.add(new ScriptingApplicationImpl(APP_NAME3, APP_TYPE3));

    return applicationsSet;
}
```

上記で示したように、関数内で関連のビジネス CI の条件を定義することや、外部ファイルまたは外部データベースを参照することができます。

関数内で条件を定義する場合、変更内容を有効にするためには HP Release Control サーバーを再起動する必要があります。

注： HP Release Control ユーザーインターフェースでは、この関数で定義したビジネス CI 条件を使用して、変更要求がシステムによって受信される前にフィルター処理することができます。

HP Business Availability Center 8.x または HP Business Service Management 9.x でフェデレーションとして KPI を構成する方法

HP Release Control が HP Business Availability Center 8.x または HP Business Service Management 9.x 以降と統合されている場合、選択した作業によってインパクトを受ける CI の重要業績評価指数 (KPI) を表示できます。

KPI の表示を有効にするには、HP Release Control を参照してください。

- 1 BACKPIsAdapter** をセットアップします。**BACKPIsAdapter** のセットアップ方法については、『*HP Universal CMDB 開発者向け参考情報ガイド*』を参照してください。
- [モジュール] > [管理者] > [構成] タブ > [統合] > [HP Universal CMDB] > [監視] をクリックし、[KPI を有効にする] チェックボックスをオンにします。
- ディレクターモジュールでは、HP Universal CMDB で設定した各 KPI フェデレーションアダプターからすべての KPI を参照できます。たとえば、**BACKPIsAdapter** や **RCKpiActualChangeAdapter** があります。

HP Release Control アダプターを構成するには：

HP Release Control では、次のアダプターが提供されています。

- ▶ **RCKpiActualChangeAdapter。**過去24時間(現時点が開始ポイント)に特定のCIで発生した変更の数を測定します。
- ▶ **RCKpiPlannedChangeAdapter。**過去24時間(現時点が開始ポイント)に特定のCIで計画された変更の数を測定します。
- ▶ **RCKpiLatentChangeAdapter。**特定のCIのステータスを示します。このステータスは、次のいずれかです。
 - ▶ **致命的** - 過去24時間(現時点が開始ポイント)に潜在変更(未承認の変更)が1つ以上発生しました。
 - ▶ **OK** - 過去24時間(現時点が開始ポイント)に潜在変更(未承認の変更)は発生していません。

アダプターを設定するためには、各アダプターに関連パッケージを導入する必要があります。パッケージは、**<HP Release Control インストールディレクトリ>**
`\uCmdblucmdb-<バージョン番号>\extensions\federation`ディレクトリに格納されています。

フェデレーションアダプターへのカスタムフィールドの追加方法

ここでは、フェデレーションアダプターにカスタムフィールドを追加する方法を説明します。(フェデレーションアダプターの詳細は、「変更フェデレーションアダプター」(378ページ) および「HP Release Control フェデレーションアダプターの概要」(377ページ)を参照してください。)

- 1** HP Release Control で、**[モジュール]>[管理者]>[構成]** タブ > **[統合]>[フィールド]** に関連フィールドを追加します。カスタムフィールドの追加の詳細は、「**[フィールド] ウィンドウ**」(353ページ)を参照してください。
- 2** HP Universal CMDB で、**変更要求** CIタイプを選択し、新しい属性名を追加します。
 - ▶ 属性には、HP Release Control で作成したカスタムフィールド用に使用したのと同じ名前を使用します。ただし、フィールド名でハイフン(-)を使用していた場合は、ハイフンの代わりに下線(_)を属性の名前で使用します。

- ▶ カスタムフィールド名と異なる属性名を使用する場合は、**convertfields.properties** で属性名を特定のフィールド名にマッピングできます。このファイルは、<HP Universal CMDB ルートディレクトリ> **UCMDBServer\runtime\fcmdb\CodeBase\RcChangeAdapter** ディレクトリにあります。
- 3 (オプション) 特定の属性について、HP Universal CMDB で使用されていた値とは異なる属性値を使用する場合は、以下の処理を実行する必要があります。
 - a 属性名が **convertfields.properties** ファイルにまだない場合は、追加します。
 - b ファイルを作成し、HP Release Control のフィールド値を HP Universal CMDB の属性値にマッピングします。ファイルの名前は、HP Universal CMDB に表示される属性の名前と同じにする必要があります。たとえば、**priority** というフィールドに別の属性値をマッピングする場合は、ファイルの名前を **priority.properties** にする必要があります。次の例の **priority.properties** ファイルでは、**priority** フィールドに対してマッピングされた値が表示されています。

```
# File format:
# RC priority value=uCMDB priority value
IMMEDIATE=1_critical
HIGH=2_high
NORMAL=3_average
LOW=4_low
#UNKNOWN= there is no available value in uCMDB: 'it_process_priority_enum'
```

注: マッピングされた値が含まれるファイルは、**convertfields.properties** ファイルと同じフォルダーに存在する必要があります。

JMX コンソールを使用したパスワードの暗号化方法

CIセレクトターをHP Universal CMDBで開く場合、HP Universal CMDBへのURLリンクに含まれるパスワードを暗号化する必要があります。ここでは、JMX コンソールを使用してパスワードを暗号化する方法について説明します。

注： HP Universal CMDB 9.0を使用している場合、HP Release ControlサーバーとHP Universal CMDBサーバーが同じドメインにないと、CIセレクトターは機能しません。

- 1 Webブラウザを起動し、アドレスに`http://<server_name>:8080/jmx-console`と入力します。`<server_name>` は、HP Universal CMDBがインストールされているマシンの名前です。
- 2 MAMで、**service=MAM Security Services**をクリックしてJMX MBEAN Viewページを開きます。
- 3 `java.lang.String getUser`を検索します。
- 4 パラメーター `customerId` の [ParamValue] ボックスに、顧客IDを入力します。
- 5 パラメーター `userName` の [ParamValue] ボックスにユーザー名を入力します。
- 6 パラメーター `password` の [ParamValue] ボックスにパスワードを入力します。
- 7 [Invoke (実行)] をクリックすると、パスワードが暗号化されます。暗号化されたパスワードが表示されます。
- 8 [利用できる接続] ウィンドウの [暗号化されたパスワード] ボックスに、暗号化されたパスワードを貼り付けます。詳細については、「<使用可能な接続ウィンドウ>」(407ページ) を参照してください。

JXM コンソールを使用して LDAP を操作するための HP Release Control および HP Universal CMDB の構成方法

注: これは、HP Universal CMDB バージョン 8.x 以降を使用する場合に適用される手順です。

ここでは、JXM コンソールを使用して、HP Release Control と HP Universal CMDB の両方を有効にして LDAP を使用する方法を説明します。

- 1 Webブラウザを起動し、アドレスに `http://<server_name>:8080/jmx-console` と入力します。`<server_name>` は、HP Universal CMDB がインストールされているマシンの名前です。
- 2 MAM で、`service=MAM Security Services` をクリックして JMX MBEAN View ページを開きます。
- 3 `java.lang.String createIntegrationUser` を検索します。
- 4 パラメーター `customerId` の [ParamValue] ボックスに、顧客 ID を入力します。
- 5 `userName` パラメーターの [ParamValue] ボックスに、管理者のユーザー名を入力します。これは、[モジュール]>[管理者]>[構成] タブ>[セキュリティ]>[認証]>>[LDAP モード]>[LDAP サーバー プロパティ]にある `ldap.properties` ファイルで指定されています。
- 6 `password` パラメーターの [ParamValue] ボックスに、管理者のパスワードを入力します。これは、[モジュール]>[管理者]>[構成] タブ>[セキュリティ]>[認証]>>[LDAP モード]>[LDAP サーバー プロパティ]にある `ldap.properties` ファイルで指定されています。
- 7 パラメーター `dataStoreOrigin` の [ParamValue] ボックスに RC と入力します。
- 8 [Invoke (実行)] をクリックすると、必要なユーザー名とパスワードが生成されます。
- 9 ユーザー名とパスワードをコピーし、[モジュール]>[管理者]>[構成] タブ>[統合]>[HP Universal CMDB]>[利用できる接続] をクリックして、[ユーザー名] ボックスと [パスワード] ボックスに貼り付けます。詳細については、「<使用可能な接続ウィンドウ>」(407 ページ) を参照してください。

HP Universal CMDB 7.xからのビジネスCIのインポート方法

HP Release Control では、HP Release Control によって処理される変更要求が影響するビジネスCIの詳細を表示できます。また、ビジネスCIに重要度レベルを割り当て、これに対してユーザーを関連付けることもできます ([モジュール]>[管理者]>[ビジネス CI] タブ)。

HP Universal CMDB 7.xを使って作業中の場合、ビジネスCIをHP Release Controlで表示するためにHP Universal CMDBからビジネスCIをインポートする必要があります。

HP Universal CMDBからビジネスCIをインポートするには、次の方法を使用できます。

- ▶ 「事前定義のビューを使用して、タイプがアプリケーションのCIをインポート」 (403 ページ)
- ▶ 「事前定義のビューにCIをドラッグしてインポート」 (404 ページ)
- ▶ 「HP Universal CMDBの修飾子を使用して特定のCIをインポート」 (404 ページ)

事前定義のビューを使用して、タイプがアプリケーションのCIをインポート

HP Release Control 導入パッケージとして、HP Universal CMDBでは**AllApplicationsCIs** という名前のビューが事前定義されています。このビューは、タイプが**Application**のCIをすべてビジネスCIとして定義します。HP Release Controlの構成により、このビューで定義されているCIをすべてインポートすることができます。

AllApplicationsCIs ビューで定義されているCIをすべてインポートするには：

- 1 [モジュール]>[管理者]>[構成] タブ>[統合]>[HP Universal CMDB]>[インパクト]>[ビジネス CI] をクリックします。
- 2 [ビジネス CI 名ビュー] ボックスに、AllApplicationsCIs と入力します。

注：HP Universal CMDBのビューの詳細については、HP Universal CMDBのドキュメントを参照してください。

事前定義のビューにCIをドラッグしてインポート

HP Release Control 導入パッケージとして、HP Universal CMDB では **ccmApplications** という名前のビューが事前定義されています。デフォルトでは、このビューには何も含まれていません。このビューに特定のCIをドラッグすると、このビューに含まれるCIのみをインポートするようにHP Release Controlを構成できます。

ccmApplicationsビューに含まれるCIのみをインポートするには：

- 1 HP Release Control で、[**モジュール**] > [**管理者**] > [**構成**] タブ > [**統合**] > [**HP Universal CMDB**] > [**インパクト**] > [**ビジネス CI**] をクリックします。
- 2 [**ビジネス CI 名ビュー**] ボックスに、**ccmApplications** と入力します。
- 3 HP Universal CMDB の **ccmApplications** ビューに、HP Release Control でビジネスCIとしてインポートしたいCIを追加します。

注： HP Universal CMDB のビューの詳細については、HP Universal CMDB のドキュメントを参照してください。

HP Universal CMDB の修飾子を使用して特定のCIをインポート

HP Universal CMDB では、修飾子を定義し、これを特定のCIタイプと関連付けることができます。この修飾子に関連付けられたすべてのCIをビジネスCIとして定義するように、HP Release Controlを構成することが可能です。

注： 修飾子を使ってビジネスCIを定義する場合、HP Release Controlは、HP Universal CMDB からビジネスCIをすべて自動的にインポートすることはありません。HP Release Control でビジネスCIがインポートされるのは、変更要求に含まれている場合のみです。

HP Universal CMDB 修飾子を使用してCIをインポートするには：

- 1 HP Universal CMDBで修飾子を定義し、HP Release ControlでビジネスCIとして定義したいCIタイプに関連付けます。
- 2 HP Release Controlで、[**モジュール**] > [**管理者**] > [**構成**] タブ > [**統合**] > [**HP Universal CMDB**] > [**インパクト**] をクリックします。
- 3 [**ビジネス CI 修飾子**] ボックスに、HP Universal CMDBで定義した修飾子の名前を入力します。

注： HP Universal CMDB 修飾子の詳細については、HP Universal CMDBのドキュメントを参照してください。

リファレンス

統合構成のユーザーインターフェース

本項の内容

- ▶ 「HP Universal CMDB ウィンドウ」 (406ページ)
- ▶ 「<使用可能な接続ウィンドウ>」 (407ページ)
- ▶ 「[CI分析ロックアップ命令] ウィンドウ」 (410ページ)
- ▶ 「[CI 表示] ウィンドウ」 (411ページ)
- ▶ 「[インパクト] ウィンドウ」 (412ページ)
- ▶ 「[アプリケーション] ウィンドウ」 (415ページ)
- ▶ 「[ビジネス CI 名属性] ウィンドウ」 (416ページ)
- ▶ 「[重大度列挙マッピング] ウィンドウ」 (416ページ)
- ▶ 「[潜在変更] ウィンドウ」 (418ページ)
- ▶ 「[CI タイプに一致する変更タイプ] ウィンドウ」 (422ページ)
- ▶ 「[監視] ウィンドウ」 (425ページ)

- ▶ 「[同期] ウィンドウ」 (426 ページ)
- ▶ 「[スタンドアローン HP Universal CMDB スクリプト] ウィンドウ」 (427 ページ)
- ▶ 「[スタンドアローン HP Universal CMDB KPI スクリプト] ウィンドウ」 (427 ページ)

HP Universal CMDB ウィンドウ

このウィンドウでは、HP Release Control で使用する HP Universal CMDB のバージョンを選択します。

アクセス方法	[モジュール]>[管理者]>[構成] タブ > [統合]>[HP Universal CMDB] をクリックします。
関連タスク	「HP Universal CMDB バージョンのアップグレード」 (389 ページ)
関連項目	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「[構成] タブの操作」 (275 ページ) ▶ 「スタンドアローンモードでの作業の概要」 (372 ページ)

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UI の要素	説明
UCMDB バージョン	<p>HP Release Control で使用する HP Universal CMDB のバージョンを選択します。</p> <p>注： HP Universal CMDB を使用せず、スタンドアローンモードで HP Release Control を使用している場合は、[HP Universal CMDB がありません(スタンドアローン)] を選択してください。</p>

<使用可能な接続ウィンドウ>

このウィンドウでは、HP Release Control と HP Universal CMDB 間の接続タイプを定義します。

アクセス方法	[モジュール]>[管理者]>[構成] タブ > [統合] > [HP Universal CMDB] > [利用できる接続] をクリックします。
重要な情報	このウィンドウで表示されるオプションは、「HP Universal CMDB ウィンドウ」(406ページ) で選択した HP Universal CMDB バージョンによって異なります。
関連タスク	「HP Universal CMDB の詳細設定の構成方法」(387ページ)
関連項目	「[構成] タブの操作」(275ページ)

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
接続タイプ	<p>必要な接続タイプを選択します。オプションは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ RMI。HP Universal CMDB バージョン 7.5 でのみ有効です。 ▶ HTTP。HP Universal CMDB バージョン 8.x 以降でのみ有効です。 ▶ HTTPS。HP Universal CMDB バージョン 8.x 以降でのみ有効です。 <p>注：HTTPS を指定した場合は、「接続設定の構成」(388ページ) の手順3を実行してください。</p>
暗号化されたパスワード	<p>HP Universal CMDB で CI セレクターを開くと、暗号化されたパスワードを入力します。</p> <p>注：HP Universal CMDB 9.0 を使用している場合、HP Release Control サーバーと HP Universal CMDB サーバーが同じドメインにないと、CI セレクターは機能しません。</p> <p>暗号化されたパスワードは、JMX コンソールで生成します。詳細については、「JMX コンソールを使用したパスワードの暗号化方法」(401ページ) を参照してください。</p>



UIの要素	説明
<p>ロケーター接続タイプ</p>	<p>このオプションの指定が必要になるのは、HP Business Availability Centerとの統合を行うが、HP Universal CMDBサーバー名が不明な場合のみです。</p> <p>このような場合には、次の手順を実行してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 [HP Universal CMDBサーバー名] ボックスに、HP Business Availability Centerサーバー名を入力します。 2 [接続タイプ] ボックスで、必要な接続タイプを選択します。 3 [ロケーター接続タイプ] ボックスで、[接続タイプ] ボックスで選択した接続タイプと同じタイプを選択します。[ロケーター接続タイプ オプション] により、HP Universal CMDBサーバー名が検出されます。 <p>HP Business Availability Centerと統合しない場合は、[ロケーター接続タイプ] を[なし] に設定してください。</p> <p>デフォルト : RMI</p> <p>注 : HP Universal CMDBバージョン7.5.xのみに該当します。</p>
<p>Modeling Studio リンク</p>	<p>HP Release ControlからModeling Studioを開くURL。</p> <p>注 : HP Universal CMDBバージョン8.x以降に該当します。</p>
<p>ポート</p>	<p>HP Universal CMDBサーバーが使用するポート。</p>
<p>HP Universal CMDB サーバー名</p>	<p>HP Universal CMDBがインストールされているサーバーのDNS名。</p>
<p>パスワード</p>	<p>HP Universal CMDB へのログインで必要になるパスワード。このパスワードは、JMX コンソールで生成します。詳細については、「JMX コンソールを使用してLDAPを操作するための HP Release Control および HP Universal CMDB の構成方法」(402ページ)を参照してください。</p> <p>注 : HP Universal CMDBバージョン8.x以降に該当します。</p>

UIの要素	説明
ユーザー名	<p>HP Universal CMDB へのログインで必要になるユーザー名。このユーザー名は、JMX コンソールで生成します。詳細については、「JXM コンソールを使用して LDAP を操作するための HP Release Control および HP Universal CMDB の構成方法」(402ページ) を参照してください。</p> <p>注： HP Universal CMDBバージョン8.x以降に該当します。</p>

UCMDB カスタムIDからテナントへのマッピング領域

HP Release Control で複数テナント構成を行っている場合、この領域は、テナントを HP Universal CMDB カスタムIDへマッピングするための領域として使用されます。複数テナントの詳細は、「複数テナントの構成の概要」(554ページ) を参照してください。

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
	構成を構成セットに追加。 テナントと顧客IDのマッピングを新規追加します。
	構成を構成セットから削除。 選択したテナントと顧客IDのマッピングを削除します。
HP Universal CMDB の顧客ID	[テナント名] 列のテナントと関連付けられている HP Universal CMDB 顧客ID。
テナント名	HP Universal CMDB の顧客ID列で指定したIDに対応するテナントの名前。テナント名は、[複数テナント] ウィンドウで指定します。詳細については、「[複数テナント] ウィンドウ」(577ページ) を参照してください。

[CI分析ルックアップ命令] ウィンドウ



チケットを受け取ると、このチケットは分析ルールに基づいて解析されます。解析された文字列は、HP Universal CMDB で有効な CI を取得するための検索に使用されます。エントリを HP Universal CMDB で検索する際、各エントリで指定された属性のみが検索対象になります。このウィンドウでは、各 CIT で検索する属性を指定します。

デフォルトでは、HP Release Control は、変更される CI の中で、**ホスト**または **ip** CIT に属し、形式が [CI 分析ルックアップ命令] ウィンドウに表示されている HP Universal CMDB 属性の 1 つに一致するものを検索します。

別の CIT に属する CI を HP Release Control で検索したい場合は、その CIT と属性を [CI 分析ルックアップ命令] ウィンドウに追加してください。

アクセス方法	[モジュール]>[管理者]>[構成] タブ>[統合]>[HP Universal CMDB]>[CI分析ルックアップ命令] をクリックします。
重要な情報	HP Release Control をスタンドアローンモードで使用している場合、このウィンドウは表示されません。
関連タスク	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「HP Universal CMDB 7.5 の構成方法 (推奨)」 (380 ページ) ▶ 「HP Universal CMDB 8.x 以降の構成方法 (推奨)」 (383 ページ)
関連項目	「[構成] タブの操作」 (275 ページ)

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UI の要素	説明
	構成を構成セットに追加。 形式が、HP Universal CMDB の属性のいずれかに一致する CIT を追加します。
	構成を構成セットから削除。 選択した行を削除します。

UIの要素	説明
属性	<p>各CITで検索する属性を指定します。</p> <p>たとえば、アドレスやDNS名の他に、ドメインでip CITを検索するには、ip_domainを追加します。</p> <p>注：属性は1つ以上選択する必要があります。文字列型属性だけがサポートされています。</p>
CIタイプ	<p>HP Release Controlが検索するHP Universal CMDBのCIT。</p> <p>デフォルト： business_element、node、ip_address</p>



[CI 表示] ウィンドウ

HP Release ControlでCIの詳細を表示する際に、デフォルトで表示される属性は **name** のみです。このウィンドウでは、HP Release Controlで表示するCIT属性を指定することができます。

注：このウィンドウは、HP Universal CMDB 8.X以前のバージョンのみで使用できます。

アクセス方法	[モジュール]>[管理者]>[構成] タブ > [統合] > [HP Universal CMDB] > [CI 表示] をクリックします。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ HP Release Controlは、HP Universal CMDB CIT階層に基づいてCITの属性を表示します。たとえば、表示するCITがルーターの場合、ルーターのホストの属性も表示されます。 ▶ HP Release Controlをスタンドアロンモードで使用している場合、このウィンドウは表示されません。
関連タスク	「HP Universal CMDBの詳細設定の構成方法」(387ページ)
関連項目	「[構成] タブの操作」(275ページ)

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
	構成を構成セットに追加。 HP Release Control で表示する CIT 属性を追加します。
	構成を構成セットから削除。 選択した行を削除します。
属性	HP Release Control で表示する CIT 属性。 注： 属性は1つ以上選択する必要があります。
CIタイプ	HP Release Control で表示する属性を持つ CIT。

[インパクト] ウィンドウ

このダイアログボックスでは、インパクト分析用に HP Release Control がインポートするインパクト分析 (相関) ルールを定義します。

アクセス方法	[モジュール]>[管理者]>[構成] タブ > [統合]> [HP Universal CMDB]>[インパクト] をクリックします。
重要な情報	HP Release Control をスタンドアローンモードで使用している場合、このウィンドウには何も表示されません。
関連タスク	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「HP Universal CMDB 7.5 の構成方法 (推奨)」 (380 ページ) ▶ 「HP Universal CMDB 8.x 以降の構成方法 (推奨)」 (383 ページ)
関連項目	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「インパクト分析 (相関) ルールの構成」 (376 ページ) ▶ 「[構成] タブの操作」 (275 ページ)

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
ビジネスCI修飾子	<p>CITをビジネスCIとシステムCIに最初に分類する処理は、HP Universal CMDBによって実行されます。CITをHP Universal CMDBからインポートしている場合、カテゴリがHP Release Controlに引き継がれます。</p> <p>ただし、HP Universal CMDBのシステムCITを、HP Release ControlでビジネスCITとしてインポートする設定も可能です。</p> <p>次の修飾子を追加してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ HP Universal CMDBバージョン7.5のCITに対する ccmBusiness 修飾子 ▶ HP Universal CMDBバージョン8.x以降の MODELING_ENABLED 修飾子 <p>詳細については、HP Universal CMDBのドキュメントを参照してください。</p>
直接的に影響を受ける 相関ルールパターン	<p>トリガーされているCIは、チケットで明示的に指定されたCIです。変更CI (CCI) は、変更要求の結果として直接変更されたCIです。本来、トリガーされているCIはすべてCCIです。CCIは、トリガーされることも、されないこともあります。</p> <p>このオプションでは、トリガーされたCIとCCIの関連性を定義するインパクト分析 (相関) ルールを指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ HP Universal CMDB 7.5の場合 : HP Release Control がインポートするインパクト分析ルールを正規表現で定義するか、正規表現と実際のインパクト分析ルール名を組み合わせで定義します。 ▶ HP Universal CMDB 8.x以降の場合 : HP Universal CMDBでインパクト分析ルールを新しく定義する場合、相関ルールパターンオプションに RC_DIRECTLY_AFFECTED を選択することによって、この相関ルールは、(直接的な) 関係によって影響されるルールであることを示します。

UIの要素	説明
<p>折りたたみ相関 ルールパターン</p>	<p>ビジネス CI とシステム CI (「[評価]>[インパクト] タブ」 (76 ページ) を参照) の組織構造を定義します。</p> <p>注: デフォルトでは、CI はインパクトを受ける (直接的) 関係によってリンクされます。システムデフォルトを上書きして変更することは可能ですが、デフォルトを使用することをお勧めします。</p>
<p>インパクト相関 ルールパターン</p>	<p>▶ HP Universal CMDB 7.5 の場合 :</p> <p>どのインパクト分析ルールによって CI のインパクト関係を決定するかを定義します。正規表現、または正規表現と実際のインパクト分析ルール名を組み合わせてプレフィックスを入力します。これにより、HP Universal CMDB によってインポートされるインパクト分析ルールが識別されます。</p> <p>たとえば、database.* と指定すると、このプレフィックスを持つすべての相関ルールが、インパクト分析計算に含まれます。</p> <p>式はそれぞれ "," (カンマ) で区切ってください。正規表現の使い方 の 詳 細 は、http://java.sun.com/j2se/1.4.2/docs/api/java/util/regex/Pattern.html を参照してください。</p> <p>▶ HP Universal CMDB 8.x 以降の場合 :</p> <p>どのインパクト分析ルールによって CI のインパクト関係を決定するかを定義します。HP Universal CMDB で新しいインパクト分析ルールを定義する場合、相関ルールパターン オプションで RC_IMPACT を選択してください。この相関が HP Release Control のインパクトに関連することを示します。</p>

[アプリケーション] ウィンドウ

このウィンドウでは、HP Release Control がビジネス CI のインポートに使用する HP Universal CMDB ビューを定義します。

アクセス方法	[モジュール]>[管理者]>[構成] タブ > [統合] > [HP Universal CMDB] > [インパクト] > [アプリケーション] をクリックします。
重要な情報	HP Universal CMDB バージョン 7.5 のみに該当します。
関連タスク	「HP Universal CMDB 7.x からのビジネス CI のインポート方法」 (403 ページ)

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
アプリケーション名のビュー	<p>HP Release Control へのインポート対象となるビジネス CI を定義する HP Universal CMDB のビュー名。</p> <p>デフォルト値 : ccmApplications</p> <p>ビジネス CI を HP Universal CMDB からインポートする手順の詳細は、「HP Universal CMDB 7.x からのビジネス CI のインポート方法」 (403 ページ) を参照してください。</p>

[ビジネス CI 名属性] ウィンドウ

このウィンドウでは、HP Release Control でビジネス CI を表示する方法を編集します。

アクセス方法	[モジュール]>[管理者]>[構成]>[統合]>[HP Universal CMDB]>[インパクト]>[ビジネス CI]>[ビジネス CI 名属性] をクリックします。
---------------	---

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UI の要素	説明
ビジネス CI 名属性	ビジネス CI 名属性 ファイルを編集し、HP Release Control でビジネス CI を表示する方法を変更します。

[重大度列挙マッピング] ウィンドウ

HP Universal CMDB と HP Release Control は、異なる重大度レベルスケールを使用します。重大度を HP Universal CMDB から HP Release Control にインポートする場合、マッピングによってスケールを変換する必要があります。このウィンドウでは、マッピングスキーマを変更できます。マッピングスキーマのデフォルトについては、以下の「デフォルトマッピングスキーマ」を参照してください。

アクセス方法	[モジュール]>[管理者]>[構成] タブ>[統合]>[HP Universal CMDB]>[インパクト]>[重大度列挙マッピング] をクリックします。
重要な情報	HP Release Control をスタンドアローンモードで使用している場合、このウィンドウは表示されません。
関連項目	「[構成] タブの操作」 (275 ページ)

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
Release Controlでの値	HP Release Control インパクトの重大度。
HP Universal CMDBでの値	HP Release Control のインパクトの重大度に相当するHP Universal CMDBでのレベルの最大値。

デフォルトのマッピングスキーマ

次の表は、デフォルトのマッピングスキーマを示します。

HP Release Control インパクトの重大度	HP Universal CMDB 重大度レベル
極めて低い	2以下
低い	3 - 4
中	5 - 6
高い	7 - 8
致命的	9

数値は、所定の重大度の上限を示します。上記の表では、重大度が**高い**の上限は**8**です。これを変更するには、上限の数値を変更します。

[潜在変更] ウィンドウ

このウィンドウでは、HP Release Control の潜在変更を構成します。

アクセス方法	[モジュール]>[管理者]>[構成] タブ>[統合]>[HP Universal CMDB]>[潜在変更] をクリックします。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ TQL 内のノードをすべて表示する設定を行ってください(プロパティ visible = true)。 ▶ HP Release Control をスタンドアローンモードで使用している場合、このウィンドウは表示されません。
関連項目	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「潜在変更と検出変更の構成」 (372 ページ) ▶ 「[構成] タブの操作」 (275 ページ) ▶ HP Universal CMDB のドキュメント (TQL クエリの詳細)

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UI の要素	説明
変更検出の間隔 (時間)	<p>新しく検出された変更に関する情報を、HP Release Control が HP Universal CMDB に要求する時間の長さを定義します。</p> <p>デフォルト : 24 時間 (時間単位)。この設定では、HP Universal CMDB は、過去 24 時間内に発生した変更を検出します。</p>
検出された変更のクエリ	<p>HP Release Control は、ccmDetectedChangesRule TQL クエリを使用して、変更の有無のチェック対象となる CI タイプを記述します。CI タイプは、それぞれグルーパー CI にもリンクする必要があります。</p>

UIの要素	説明
変更検出の復旧間隔 (時間)	<p>HP Release Control サーバーの起動時、検出した変更の計算中に発生した問題の原因を特定します (たとえば、計算中にサーバーが停止した場合など)。</p> <p>このオプションでは、どの程度時間をさかのぼって、HP Release Control が変更検出を計算するかを定義します。</p> <p>デフォルト : 1 カ月 (時間単位)</p>
変更検出のスケジュール	<p>新しく検出された変更に関する情報を、HP Release Control が HP Universal CMDB に要求するスケジュールを定義します。</p> <p>注 : この値は cron 式で入力されます。</p>

UIの要素	説明
<p>潜在変更モード</p>	<p>この要素に値を定義することによって、潜在変更機能が使用可能になります。次のいずれかの値を定義できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 潜在および検出済み。 潜在変更機能が完全にアクティブになっています。潜在変更と検出変更は、「潜在変更と検出変更について」(373 ページ) の条件に基づいて表示されます。 ▶ 変更タイプを考慮。 潜在変更機能が部分的にアクティブになっています。検出された変更が無視され、潜在変更が表示されます。ユーザー環境で検出された潜在変更は、「潜在変更と検出変更について」(373 ページ) の条件に基づいて表示されます。 ▶ 変更タイプを無視。 潜在変更機能が部分的にアクティブになっています。検出された変更が無視され、潜在変更が表示されます。このモードでは、潜在変更を特定する際に変更タイプは条件として考慮されません。 <p>変更タイプを無視モードと変更タイプを考慮モードには、次の例で示すような相違点があります。</p> <p>検出変更とスケジュールされた変更が、最初の2つの条件(時間とCCI/グルーパー CI)は一致するが、変更タイプが異なる場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 変更タイプを無視モードでは、潜在変更とみなされません。 ▶ 変更タイプを考慮モードでは、潜在変更とみなされます。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 無効。 HP Release Controlは、ユーザー環境で新たに発生した変更に関する情報を受け取りません。 <p>デフォルト：無効</p>


UIの要素	説明
潜在変更レベル	潜在変更は、分析モジュールで別の変更として表示されます。潜在変更を最上位(親)の変更要求として表示するか、第2レベル(子)の変更要求として表示するかを定義します。
潜在変更の要求ID形式	潜在変更の要求IDの形式を定義します。
潜在変更の要求IDの初期値	システムで最初に潜在変更を記録する際に、要求IDに割り当てる数値を定義します。


[CI タイプに一致する変更タイプ] ウィンドウ

このウィンドウでは、どの CI タイプで潜在変更機能をアクティブにするかを定義します。

<p>アクセス方法</p>	<p>[モジュール]>[管理者]>[構成] タブ>[統合]>[HP Universal CMDB]>[潜在変更]>[CI タイプに一致する変更タイプ]>[追加されたハードウェア]と[追加されたソフトウェア]をクリックします。</p>
<p>重要な情報</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ このウィンドウが表示されるのは、[潜在変更] ウィンドウで潜在および検出済みモードまたは変更タイプを無視モードを使用している場合のみです。詳細については、「[潜在変更] ウィンドウ」(418 ページ) を参照してください。 ▶ HP Release Control で、検出された変更とスケジュールされた変更に含まれる CCI (変更される CI) が、共通の CIT にリンクしているかどうかをチェックするには、HP Universal CMDB 内で各 CIT に次の属性を少なくとも 1 つ設定する必要があります。Change Monitored、Comparable、Asset Data。 注：デフォルトでは、CIT の属性が更新されると、その CIT は検出変更とみなされます。検出変更とみなす CIT を限定するには、Attributes リストから適切な属性を選択してください。 ▶ HP Release Control をスタンドアローンモードで使用している場合、このウィンドウは表示されません。
<p>関連項目</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「[構成] タブの操作」(275 ページ) ▶ 「潜在変更と検出変更の構成」

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UI の要素	説明
	<p>構成を構成セットに追加。潜在変更機能をアクティブにする CI タイプを追加します。</p>

UIの要素	説明
	<p>構成を構成セットから削除。 選択したCIタイプを削除します。</p>
<p>アクションタイプ</p>	<p>HP Universal CMDBにおいて、検出変更の原因となったCIで実行するアクションのタイプ。</p> <p>有効な値：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 更新 ▶ 追加 <p>注： HP Universal CMDBは、remove アクションタイプをサポートしません。</p>
<p>属性</p>	<p>変更されたCIタイプの属性です。</p> <p>デフォルトでは、HP Universal CMDBでCIT属性をChange Monitored、Comparable、Asset Dataに設定したものは、すべてチェック対象になります。</p> <p>[属性] リストで指定することによって、変更チェックを行う属性を限定することができます。</p>

UIの要素	説明
<p>変更タイプ</p>	<p>検出された変更のタイプ。変更タイプは、次のいずれかです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 追加されたハードウェア ハードウェアを追加する変更。 注: この変更タイプはHP Universal CMDBによってサポートされません。 ▶ 削除されたハードウェア ハードウェアを削除する変更。 ▶ 更新されたハードウェア ハードウェアを更新する変更。 ▶ 追加されたソフトウェア ソフトウェアを追加する変更。 ▶ 削除されたソフトウェア ソフトウェアを削除する変更。 注: この変更タイプはHP Universal CMDBによってサポートされません。 ▶ 更新されたソフトウェア ソフトウェアを更新する変更。 <p>注:HP Release Controlで変更タイプを条件として使用するためには、サービスデスクアプリケーションにおいて、変更要求の変更タイプを識別するフィールドが必要です。このフィールドを、change-type-orig フィールドの値 (HW_ADDまたはSW_ADD) にマッピングしてください。サービスデスクアプリケーションフィールドの変換とマッピングの詳細は、「変更要求の変換の概要」(431ページ)を参照してください。</p>
<p>CIタイプ</p>	<p>検出された変更のCIタイプ。</p>

[CI タイプに一致する変更タイプ] ウィンドウを以下に説明します。

UIの要素	説明
[追加されたハードウェア] ウィンドウ	ハードウェアに関連する変更が発生した場合に、どのCIタイプで潜在変更をアクティブにするかを設定します。
[追加されたソフトウェア] ウィンドウ	ソフトウェアに関連する変更が発生した場合に、どのCIタイプで潜在変更をアクティブにするかを設定します。

[監視] ウィンドウ

HP Release ControlがHP Business Availability Center 8.x以降と統合されている場合、選択した作業によってインパクトを受けるCIの重要業績評価指数 (KPI) を表示できます。HP Release ControlでKPIの表示を有効にするには、HP Business Availability CenterでKPIをフェデレーションとして設定しておく必要があります。HP Business Availability CenterでKPIをフェデレーションとして構成する方法の詳細は、「HP Business Availability Center 8.x または HP Business Service Management 9.x でフェデレーションとして KPI を構成する方法」(398ページ)を参照してください。

このウィンドウでは、KPIの表示を有効または無効にします。

アクセス方法	[モジュール]>[管理者]>[構成] タブ > [統合] > [HP Universal CMDB]>[監視] をクリックします。
重要な情報	次の条件が満たされると、このウィンドウが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ HP Release Controlをスタンドアローンモードで使用 ▶ HP Universal CMDB 8.x以降を使用
関連タスク	「HP Release Controlをスタンドアローンモードで実行するための構成方法」(394ページ)
関連項目	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「[構成] タブの操作」(275ページ) ▶ 「スタンドアローンモードでの作業の概要」(372ページ)

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
KPIを有効にする	<ul style="list-style-type: none"> ▶ HP Release Control をスタンドアロンモードで使用している場合は、シミュレートされたKPIを作成できます。詳細については、「[スタンドアロン HP Universal CMDB KPI スクリプト] ウィンドウ」(427ページ) を参照してください。 ▶ HP Universal CMDB 8.x以降を使用している場合は、HP Release Control でKPIの表示を有効または無効にします。

[同期] ウィンドウ

このウィンドウでは、HP Release Control を CMDB データベースとどの程度の頻度で同期するかを設定します。

アクセス方法	[モジュール]>[管理者]>[構成] タブ > [統合] > [HP Universal CMDB] > [同期] をクリックします。
重要な情報	HP Release Control をスタンドアロンモードで使用している場合、このウィンドウは表示されません。
関連項目	「[構成] タブの操作」(275ページ)

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
ビジネスCIの同期	<p>HP Release Control と CMDB データベース間の同期を有効または無効にします。</p> <p>デフォルト : オン</p>
同期の頻度 (分)	<p>HP Release Control が CMDB と同期する頻度です。</p> <p>デフォルト : 2時間 (分単位)</p>

[スタンドアローン HP Universal CMDB スクリプト] ウィンドウ

このウィンドウでは、HP Release Control をスタンドアローンモードで実行するための `cmdb-mock.js` スクリプトを構成します。

アクセス方法	[モジュール]>[管理者]>[構成] タブ > [統合] > [HP Universal CMDB] > [インパクト] > [スタンドアローン UCMDB スクリプト] をクリックします。
重要な情報	このウィンドウが表示されるのは、HP Release Control をスタンドアローンモードで使用している場合のみです。
関連タスク	「HP Release Control をスタンドアローンモードで実行するための構成方法」 (394 ページ)
関連項目	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「[構成] タブの操作」 (275 ページ) ▶ 「スタンドアローンモードでの作業の概要」 (372 ページ)

[スタンドアローン HP Universal CMDB KPI スクリプト] ウィンドウ

このウィンドウでは、HP Release Control のスタンドアローンバージョン向けに、シミュレートされた KPI を作成する `mock-kpi.js` スクリプトを構成します。

アクセス方法	[モジュール]>[管理者]>[構成] タブ > [統合] > [HP Universal CMDB] > [監視] > [スタンドアローン UCMDB KPI スクリプト] をクリックします。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ このウィンドウが表示されるのは、HP Release Control をスタンドアローンモードで使用している場合のみです。 ▶ シミュレートされた KPI を作成するためには、[KPI を有効にする] チェックボックスをオンにする必要があります (「[監視] ウィンドウ」 (425 ページ) を参照)。
関連項目	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「[構成] タブの操作」 (275 ページ) ▶ 「スタンドアローンモードでの作業の概要」 (372 ページ)

第 15 章

サービス デスクの構成

本章の内容

概念

- ▶ 「変更要求の変換の概要」 (431 ページ)
- ▶ 「アダプターの構成の概要」 (432 ページ)
- ▶ 「変換スクリプトの記述」 (433 ページ)
- ▶ 「サービス デスクから HP Release Control インタフェースへのリンク」 (437 ページ)
- ▶ 「サービスデスク内の承認ステータスの更新」 (439 ページ)
- ▶ 「HP Service Managerでの推奨日時解析の更新」 (440 ページ)

タスク

- ▶ 「サービスデスク統合の初期構成方法」 (441 ページ)
- ▶ 「サービスデスクからのチケットの取得方法」 (441 ページ)
- ▶ 「サービスデスクアダプタープロパティの変更方法」 (444 ページ)
- ▶ 「HP Service Managerを分析情報で更新するための HP Release Control の構成方法」 (445 ページ)
- ▶ 「HP Release Control と HP Service ManagerでのLW-SSOの構成方法」 (446 ページ)
- ▶ 「要求承認のための HP Release Control の構成方法」 (447 ページ)
- ▶ 「HP Release Control アプリケーションへのリンクの作成方法」 (449 ページ)
- ▶ 「HP Release Control カレンダーへのリンクの作成方法」 (451 ページ)

第 15 章 「サービス デスクの構成」

- ▶ 「HP Release Control の [評価] タブへのリンクの作成方法」 (452 ページ)
- ▶ 「単一の変更要求へのリンクの作成方法」 (453 ページ)
- ▶ 「タイムゾーンとロケールパラメーターを使用したリンクの作成方法」 (453 ページ)
- ▶ 「テナントパラメーターを使用したリンクの作成方法」 (455 ページ)
- ▶ 「HP Service Manager/Center チケットへのリンクの作成方法」 (456 ページ)
- ▶ 「SDI 操作スクリプトを更新して Deny 関数をサポートする方法」 (463 ページ)

リファレンス

- ▶ 「SDI 操作スクリプト」 (464 ページ)
 - ▶ 「サービス デスク アダプターのプロパティ」 (466 ページ)
 - ▶ 「HP Release Control へのリンクを作成するルールおよび構文」 (484 ページ)
 - ▶ 「カスタマイズ リンク用の URL パラメーター」 (485 ページ)
 - ▶ 「HP Release Control へのリンクに使用されるフィールドパラメーター値」 (486 ページ)
- 「トラブルシューティングと制限事項」 (488 ページ)

概念

変更要求の変換の概要

変更要求は、サービスデスクアプリケーション固有のアダプターを使用して、サービスデスクアプリケーションのフォーマットから汎用フォーマットへと変換されます。変換後の汎用要求は、HP Release Control サーバーに転送されます。

各サービスデスクアプリケーション固有のアダプターには、2つの単一レベルアダプターが組み込まれています。1つはトップレベルの変更を変換するアダプターで、もう1つは第2レベルの変更を変換するアダプターです。単一レベルアダプターのそれぞれには、次のサブコンポーネントが組み込まれています。

- ▶ **コネクター**。サービスデスクアプリケーションから、新しいトップレベル/第2レベルの変更要求を収集します。
- ▶ **コンバータ**。トップレベル/第2レベルの変更要求を、サービスデスクアプリケーションの形式から HP Release Control に認識できる汎用形式に変換します。詳細については、「変換スクリプトの記述」(433 ページ) を参照してください。

単一レベルアダプターにはそれぞれ、**変換前フィルター**と**変換後フィルター**も組み込まれています。これらのフィルターを使用して、どの要求を HP Release Control サーバーに送信するかを制御できます。変換前フィルターは、まず要求をフィルターしてから汎用フォーマットに変換します。一方、変換後フィルターが要求をフィルターするのは、要求を変換してから HP Release Control サーバーに転送するまでの間です。

アダプターの構成の概要

サービスデスクアプリケーションの要求を変換するには、サービスデスクアプリケーションごとに該当のアダプターを構成する必要があります。

アダプターの構成に必要な手順は、次のとおりです。

- ▶ **SdiConfigurer** ユーティリティを使用して、アダプター構成ファイルをセットアップします。(詳細については、『*HP Release Control* デプロイメントガイド』を参照してください。)
- ▶ **変換スクリプトをアダプター用に変更します。**

注： サービスデスクアプリケーションごとに複数のアダプターを構成することができません。このような構成を行うと、同じサービスデスクアプリケーションの複数のバージョンから要求をインポートできます。

アダプター構成ファイル

アダプター構成ファイルは、次の属性が格納されている XML ファイルです。

- ▶ **アダプター属性。** たとえば、アダプター名、要求の作成元となったサービスデスクアプリケーションの名前、一度に処理される要求の数、アダプターがサービスデスクアプリケーションをポーリングする頻度、変換対象の要求タイプなどです。
- ▶ **コネクタ属性。** この属性によって、アダプターはサービスデスクアプリケーションに接続できます。コネクタ属性は、単一レベルのアダプターごとに (つまり、アダプター構成ファイル内の要求タイプごとに) 個別に指定してください。
- ▶ **コンバータ属性。** フィールドマッピング関数およびフィルター関数が定義されている変換スクリプトファイルを呼び出します。コンバータ属性は、単一レベルのアダプターごとに異なります。

注： アダプタープロパティの変更の詳細は、「サービスデスクアダプタープロパティの変更方法」(444 ページ) を参照してください。

変換スクリプト

変換スクリプトはアダプターによって呼び出され、変更要求をサービスデスクアプリケーション形式から HP Release Control が扱える汎用形式へと実際に変換する処理を行います。

各スクリプトでは、関数を記述する必要があります。関数の詳細なリストと説明については、「変換スクリプトの記述」(433 ページ) を参照してください。

変換スクリプトの記述

HP Release Control では、サービスデスクアダプターを使用して、変更要求をサービスデスクから取得し、要求発生元のサービスデスクアプリケーションの形式から汎用形式へと変換します。サービスデスクアダプター内の変換スクリプトは、要求発生元のサービスデスクのフィールドを、それに対応する HP Release Control フィールドにマッピングします。

サービスデスクの初期構成を実行すると、デフォルトの変換スクリプトが作成されます。HP Release Control 内の変換スクリプト にアクセスするには、[モジュール] > [管理者] > [構成] タブ > [統合] > [サービス デスク アダプター] > <アダプター名> ノードを選択し、関連する構成ファイルを選択します。すると、そのファイルの内容が、右側のウィンドウに表示されます (**convertTask.js**、**convertChange.js** など)。

スクリプトを変更する方法については、「[構成] タブのファイルの構成方法」(277 ページ) を参照してください。

注： スクリプト内に 256 文字を超過している行がないことを確認します。

列挙

変換スクリプトには、サービス デスク アプリケーションの列挙フィールドに適用する詳細なマッピング スキーマを含める必要があります、これは特に重要な役割を果たします。変換スクリプト内の各 HP Release Control 列挙フィールドは、デフォルトでは次のように (大文字で) 表示されます。

```
<列挙フィールドタイプ>_<HP Release Control 列挙名>
```

例 :

```
genericRFC.setField("priority", PRIORITY_HIGH);
```

スクリプトが参照しようとした列挙フィールドが存在しない場合は、スクリプトログファイルにエラーメッセージが記録されます (「ログファイル」 (436 ページ) を参照)。

HP Release Control の列挙フィールドの作成の詳細は、「[列挙] ウィンドウ」 (351 ページ) を参照してください。

関数

各スクリプトで記述する必要がある関数については、後ほど詳しく説明します。各関数に含めることの可能なオブジェクト、または含める必要のあるオブジェクトについては、**API_Reference.chm** ファイル内の **GenericTicketImpl** クラスを参照してください。(API リファレンスにアクセスするには、[スタート]>[プログラム]>[HP Release Control 9.20]>[ドキュメント]をクリックし、pdfs ディレクトリを開きます。)

- ▶ **convert** サービスデスクアプリケーションのフィールドを汎用要求フィールドにマッピングする関数です。

例 :

```
function convert(remedyRFC, genericRFC)
```

注 : HP Release Control に含まれる設定済み変更要求フィールドの一覧については、「設定済み変更要求フィールド」 (345 ページ) を参照してください。

- ▶ **preFilter** この関数は、変更要求をフィルターした後で変換します。これにより、必要な要求だけを変換して HP Release Control サーバーに送信できます。この関数は、サービスデスクアプリケーションの用語を使用して記述されます。たとえば、優先度の**低い**要求を変換対象外にしたい場合は、次の **preFilter** 関数を使用するとよいでしょう。この関数は、BMC Remedy Action Request System の要求のうち優先度の**低い**ものを変換対象外にし、他の要求をすべて変換するように指定します。

```
function preFilter(remedyRFC){
  if (remedyRFC.get("Request Urgency")==ARS_PRIORITY_LOW)
    return false;
  else
    return true;
```

- ▶ **postFilter** この関数は、要求の変換後にフィルターすることにより、必要な要求だけを HP Release Control サーバーに転送できるようにします。この関数は、HP Release Control 要求の用語を使用して記述されます。たとえば、次の **postFilter** 関数は、汎用要求のうちステータスが [**承認済み**] のものだけを HP Release Control サーバーに転送するように指定します。

```
function postFilter(genericRFC){
  ccmStatus==genericRFC.get("status");
  if (ccmStatus==STATUS_APPROVED)
    return true;
  else
    return false;
```

注：

- ▶ ネットワーク負荷を軽減し、使用容量を低く抑えるためには、必要な要求列だけを変換対象にすることをお勧めします。SELECT クエリで変換対象の列を指定するか、該当のコネクタプロパティを使用してください。
 - ▶ HP Project and Portfolio Management/IT Governance Center、またはデータベースのサービスデスクアプリケーションから要求を変換する場合は、小文字を使用したすべての列名を参照してください。
 - ▶ 変換スクリプトでロギングオブジェクトを使用すると、要求変換処理を介してステートメントをログに記録できます。詳細については、「ログファイル」を参照してください。
-

ログファイル

要求変換中に実行された作業について記述したログメッセージを表示したい場合は、変換スクリプトにロギングオブジェクトを含めてください。変換処理中に、**<HP Release Control インストールディレクトリ>\servers\<サーバー名>** ディレクトリにある変換スクリプトログファイルのログメッセージを表示できます。

ロギングオブジェクトは、どのようなスクリプト関数にも含めることができます。次の形式で構文を指定してください。

```
logger.<メッセージのタイプ>("<ログメッセージ>");
```

使用可能なメッセージタイプは、次のとおりです。

- ▶ **info** 実行されたすべての処理を記録します。
- ▶ **warn** 警告メッセージを記録します。
- ▶ **error** エラーメッセージを記録します。
- ▶ **debug** すべての処理内容を詳細に記録します。

たとえば、次のようなロギングオブジェクトを含めることができます。

```
logger.info("converting request #3001");
```

変換スクリプトのログファイルに、サービスデスクアプリケーションのすべてのフィールドの一覧を表示したい場合は、次のロギングオブジェクトを変換スクリプトに含めてください。

```
logger.info(BeanUtils.describe(ticket));
```

上記のロギングオブジェクトを使用する場合は、変換スクリプトの先頭部に次の行を含めるようにしてください。

```
importPackage(Packages.org.apache.commons.beanutils);
```

サービス デスクから HP Release Control インタフェースへのリンク

サービスデスクから HP Release Control へのリンクを作成することができます。HP Release Control アプリケーション全体へのリンク、またはアプリケーションの特定の領域へのリンクを作成することができます。例として、サービスデスク内で作業中、チケットに割り当てる開始時刻を決める場合を考えてみましょう。サービスデスク内からリンクを作成することによって、HP Release Control カレンダーを開き、スケジュール済み変更内容を当該の時間枠で表示できるようになります。

注：

- ▶ ユーザーが HP Service Manager 7.11 (Web Tier) に完全に統合されている場合、サービスデスク内からのリンクは HP Service Manager 内に事前に構成されています。
 - ▶ LW-SSO をインストールしていない場合、サービスデスク内からのリンクにアクセスすると、HP Release Control 資格情報の入力プロンプトが表示されます。
-

- ▶ HP Release Control の次の領域へのリンクを作成することができます。
 - ▶ **HP Release Control アプリケーション。** HP Release Control の外側から使用する、HP Release Control アプリケーションへのカスタマイズされたリンクを作成できます。リンクをカスタマイズすることで、フィルター、タイムスタンプ、パースペクティブを使用して、関連ビューを表示できます。

詳細については、「HP Release Control アプリケーションへのリンクの作成方法」(449 ページ) を参照してください。
 - ▶ **HP Release Control カレンダー。** このリンクを使用してカレンダーにアクセスすると、スケジュール済み変更要求の表示、特定の変更要求の検索、変更要求の詳細表示などの操作を実行できます。ただし、HP Release Control の他の領域へのアクセスは制限されます。たとえば、フィルターまたはユーザープリファレンスは設定できません。また、変更分析の各種タブにアクセスできなくなります。

詳細については、「HP Release Control カレンダーへのリンクの作成方法」(451 ページ) を参照してください。
 - ▶ **HP Release Control の [評価] タブ。** 単一の変更要求を参照したい場合は、HP Release Control の [評価] タブへのリンクを作成します。[評価] タブに表示される情報としては、インパクト分析、衝突、リスク分析、類似した変更内容、期間の競合などがあります。このリンクを使用して [評価] タブにアクセスした場合、指定された要求のすべての変更分析情報を表示できますが、HP Release Control の他の領域にはアクセスできません。

詳細については、「HP Release Control の [評価] タブへのリンクの作成方法」(452 ページ) を参照してください。
 - ▶ **HP Release Control 内の単一の変更要求。** HP Release Control が開き、指定した変更要求が表示されます。このリンクを使用して HP Release Control にアクセスすると、HP Release Control の他のすべての領域にアクセスできます。

詳細については、「単一の変更要求へのリンクの作成方法」(453 ページ) を参照してください。
- ▶ HP Release Control アプリケーションへの直接リンクでは、タイムゾーンやロケールパラメーターを追加できます。HP Release Control で使用するタイムゾーンや、ユーザーインターフェースの表示言語を指定できます。詳細については、「タイムゾーンとロケールパラメーターを使用したリンクの作成方法」(453 ページ) を参照してください。

サービスデスク内の承認ステータスの更新

approveChange 権限を持つユーザーであれば、分析モジュールの [コラボレーション] > [決議] タブで、変更要求の承認、拒否、または承認の撤回を行うことができます。状況によっては、要求の承認ステータスは要求発生元のサービスデスク内で更新されます。

次のサービスデスク内で、要求の承認ステータスを更新することができます。

- ▶ HP Service Manager
- ▶ HP ServiceCenter
- ▶ HP Project and Portfolio Management / IT Governance Center

次のサービスデスク内で、要求の承認を撤回することができます。

- ▶ HP Service Manager
- ▶ HP ServiceCenter

次のサービスデスク内で、要求の承認を拒否することができます。

- ▶ HP Service Manager

注：承認の設定方法の詳細は、「要求承認のための HP Release Control の構成方法」(447 ページ) を参照してください。

HP Service Manager での推奨日時解析の更新

分析モジュールの [変更プランナー] ダイアログボックスでは、次回、変更の実施が可能な日時を指定できます。これは、**変更対象期間**と**ブラックアウト**期間外のいずれかです。詳細については、「[変更プランナー] ダイアログボックス」(102ページ)を参照してください。

HP Release ControlがHP Service Managerから変更要求を受け取ると、HP Release Controlは、次の条件を満たす場合にのみ、次回の実施日時を含む要求を対象に推奨日時解析を実行します。

- ▶ 変更要求のステータスが、[モジュール]>[管理者]>[構成] タブ > [変更プロセス] > [推奨日時解析で有効なステータス] ボックスで表示されるステータスのいずれかに該当する場合。詳細については、「[変更プロセス] ウィンドウ」(306ページ)を参照してください。
- ▶ **change-flow.js** スクリプト内の **shouldCalcSuggestTime** 関数が **true** に設定されている場合。詳細については、「<change-flow.js スクリプトに含まれる関数>」(310ページ)を参照してください。
- ▶ **suggested-end-time** フィールドと **suggested-start-time** フィールドの値が空の場合 ([モジュール]>[管理者]>[構成] タブ > [統合]>[フィールド]>[利用できるフィールド]>[日時] を選択)。詳細については、「[フィールド] ウィンドウ」(353ページ)を参照してください。

いずれかの条件を満たした場合、HP Release Control は推奨日時解析を行い、要求はHP Service Managerで更新されます。

タスク

サービスデスク統合の初期構成方法

HP Release Control の初期構成では、HP Release Control と連携するようにサービスデスクアプリケーションを構成します。

サービスデスク統合を構成するには、**SdiConfigurer** ユーティリティを使用します。サービスデスクの構成方法の詳細は、『*HP Release Control デプロイメントガイド*』で該当の項を参照してください。

サービスデスクからのチケットの取得方法

サービスデスクアプリケーションからチケットを取得する方法については、次に示す手順を参照してください。

変更要求を定期的に取得

デフォルトでは、変更要求を定期的に取得できるようにサービスデスクアダプターが構成されます。サービスデスクアダプターファイルで、対象のサービスデスクアプリケーションに対して変更要求のポーリングを実行するスケジュールを変更することもできます。

ポーリングスケジュールを変更するには：

- 1 [モジュール]>[管理者]>[構成] タブ > [統合] > [サービス デスク アダプター] > <アダプター名> ノードを選択します。<アダプター名>-adapter.settings ファイルをクリックすると、その内容が右側ウィンドウに表示されます。
- 2 **polling-schedules** プロパティを必要に応じて変更します。このプロパティの詳細な説明については、「アダプターの共通属性」(467 ページ) を参照してください。
- 3 構成変更を保存し、アクティブ化します (「構成変更の保存方法と適用方法」(277 ページ) を参照してください)。

指定の日付以降の変更要求をすべて取得 (Service Manager とデータベース サービスデスクアプリケーションを除くすべてのサービスデスクから取得)

状況によっては、特定の時点以降のすべての変更要求をサービスデスクから取得したい場合があります。

- 1 [モジュール] > [管理者] > [構成] タブ > [統合] > [サービス デスク アダプター] > <アダプター名> ノードを選択します。<アダプター名>-adapter.settings ファイルをクリックすると、その内容が右側ウィンドウに表示されます。
- 2 **initial-load-state** プロパティのコメントを解除し、いつ以降の変更要求を取得するかを示す開始日付を入力します。このプロパティの詳細な説明については、「アダプターの共通属性」(467 ページ) を参照してください。
- 3 構成変更を保存し、アクティブ化します (「構成変更の保存方法と適用方法」(277 ページ) を参照してください)。
- 4 HP Release Control サービスを停止します。
 - a Windows メニューで [スタート] > [ファイル名を指定して実行] の順に選択し、「services.msc」と入力します。
 - b [サービス] ウィンドウで、HP ReleaseControl 9.20 <サーバー名> を選択し、[サービスの停止] をクリックします。
- 5 **SDI Persistency Cleanup** ユーティリティを実行して、データベースの永続性を削除します。詳細については、「SDI 永続性の削除」(634 ページ) を参照してください。
- 6 HP Release Control サービスを再起動します。
- 7 すべてのチケットが取得されるまで、サービスデスクアダプターを実行します。
- 8 **initial-load-state** プロパティをコメントアウトして変更内容を保存し、サービスデスクアダプターを通常のポーリングスケジュールに戻します。

指定の日付以降の変更要求をすべて取得 (Service Manager とデータベース サービスデスクアプリケーションのみから取得)

状況によっては、特定の時点以降のすべての変更要求をサービスデスクから取得したい場合があります。オプションで、サービスデスクからアダプターがチケットを取得する時刻を限定することができます。

- 1 [モジュール]>[管理者]>[構成] タブ>[統合]>[サービス デスク アダプター]><アダプター名> ノードを選択します。<アダプター名>-adapter.settings ファイルをクリックすると、その内容が右側ウィンドウに表示されます。
- 2 次のプロパティの値を、ファイルの <connection-properties> セクションで定義します。
 - a startFrom チケットの取得を開始する過去の日時を指定します。たとえば、13/01/2000 00:00:00 EST など。
 - b (オプション) upperLimitDelta HP Release Control がチケットを取得する頻度を指定します。ミリ秒単位で指定します。

次の例では、HP Release Control は 2009 年 1 月 1 日の深夜 12:00 にチケットの取得を開始し、36000000 ミリ秒 (10 時間) 間隔で取得します。つまり、HP Release Control は 2009 年 1 月 1 日の深夜 12:00 から取得を開始し、2009 年 1 月 1 日の 10:00 時まで取得します。次に、2009 年 1 月 1 日の 10:00 から、2009 年 1 月 1 日の 20:00 まで取得を行います。

```
<connection-properties>
  userName=<username>
  password=<password>
  startFrom=013/01/2009 00:00:00 EST
  upperLimitDelta=36000000
</connection-properties>
```

注： デフォルトでは、**upperLimitDelta** プロパティは <アダプター名> **-adapter.settings** ファイルに含まれません。このプロパティの値を定義するには、ファイルの <connection-properties> セクションにプロパティを手作業で追加する必要があります。

- 3 構成変更を保存し、アクティブ化します（「構成変更の保存方法と適用方法」（277 ページ）を参照してください）。
- 4 **SDI Persistency Cleanup** ユーティリティを実行して、データベースの永続性を削除します。詳細については、「SDI 永続性の削除」（634 ページ）を参照してください。
- 5 次のポーリングジョブから、サービスデスクアダプターは、<アダプター名> **-adapter.settings** ファイルの **startFrom** の値で指定した日付からチケットを取得開始します。**upperLimitDelta** プロパティの値を定義しないと、HP Release Control は、変更要求を無期限に取得します。

サービスデスクアダプタープロパティの変更方法

サービスデスク構成ユーティリティ (**SdiConfigurer.bat**) を使用してサービスデスクの初期構成を実行すると、すべてのサービスデスク統合プロパティを含むサービスデスクアダプター構成ファイルが作成されます。

このタスクでは、サービスデスクアダプタープロパティの変更方法について説明します。

- 1 [モジュール]>[管理者]>[構成] タブ > [統合] > [サービス デスク アダプター] > <アダプター名> ノードを選択します。<アダプター名> **-adapter.settings** ファイルをクリックすると、その内容が右側ウィンドウに表示されます。
- 2 サービスデスクアダプタープロパティを変更します。プロパティについては、「サービスデスクアダプターのプロパティ」（466 ページ）を参照してください。
- 3 構成の変更を保存し、適用します（「構成変更の保存方法と適用方法」（277 ページ）を参照してください）。

HP Service Manager を分析情報で更新するための HP Release Control の構成方法

このタスクでは、HP Service Manager の分析情報が更新されるように HP Release Control を構成する方法を説明します。HP Service Manager 内の要求ごとに、リスク、インパクト、衝突の重大度を表示できます。また、期間の競合が発生したかどうかを確認することもできます。

- 1** [モジュール]>[管理者]>[構成] タブ>[統合]>[サービス デスク アダプター]><アダプター名> ノードを選択します。<アダプター名>-adapter.settings ファイルをクリックすると、その内容が右側ウィンドウに表示されます。
- 2** <request-type level="1"> 要素で、<operations> 要素の下の operation name=updateAnalysisData 下位要素をコメントアウトします。
- 3** <request-type level="2"> 要素で、<operations> 要素の下の operation name=updateAnalysisData 下位要素をコメントアウトします。
- 4** 構成の変更を保存し、適用します（「構成変更の保存方法と適用方法」（277 ページ）を参照してください）。

HP Release Control と HP Service Manager での LW-SSO の構成方法

サービスデスクの初期設定では、HP Service Manager と HP Release Control で Lightweight Single Sign-On (LW-SSO) を使用する設定を行っていない可能性があります。ここでは、資格情報を入力せずに HP Service Manager と HP Release Control にログインする方法を説明します。

- 1 HP Service Manager のドキュメントに、HP Release Control と HP Service Manager で LW-SSO を設定する方法が説明されています。この手順を実行してください。
- 2 アダプター構成ファイルの **connection-properties** セクションで、**requiresUserCredentials** パラメーターを **false** に設定すると、資格情報を入力せずに HP Service Manager にログインできるようになります。また、**serviceURL** パラメーターを変更することにより、HP Service Manager サーバーへの接続が可能になります。

次に例を示します。

- ▶ **requiresUserCredentials** パラメーターを **false** に設定すると、資格情報を入力しなくても HP Service Manager へのログインが可能になります。
- ▶ **serviceURL** パラメーターは、HP Service Manager サーバーへ接続する URL を指定します。

```
<connection-properties>  
  serviceUrl=http://<smweb-tierhostname:portnumber>/SymphonyAdapter/inbound/ws  
  requiresUserCredentials=false  
</connection-properties>
```

詳細については、「アダプターの共通属性」（467 ページ）を参照してください。

要求承認のための HP Release Control の構成方法

このタスクは、次のサービスデスクを対象としています。

- ▶ HP Service Manager
 - ▶ HP ServiceCenter
 - ▶ HP Project and Portfolio Management / IT Governance Center
-

このタスクでは、ユーザーが HP Release Control で変更要求を承認、拒否、または承認撤回した時点でサービスデスク内で要求の承認ステータスが更新されるように HP Release Control を構成する方法を説明します。

1 変更の承認を許可するための条件の定義

特定の操作を行うと、HP Release Control は、**sdOperations.js** スクリプトで定義された条件に基づいて、統合されたサービスデスクに情報を送信します。

このスクリプトでは、分析モジュールの [コラボレーション] > [決議] タブの [承認] ボタンを有効にする条件を定義できます。デフォルトでは、ステータスが [承認待ち] のすべての要求に対して [承認] ボタンが有効になります。**sdOperations.js** スクリプトの詳細は、「SDI 操作スクリプト」(464 ページ) を参照してください。

2 ユーザー権限の割り当て

要求の承認を担当するユーザーに **approveChange** 権限を割り当てます。権限の割り当ての詳細は、「ユーザーの構成」(599 ページ) を参照してください。

3 変更要求の承認が行えるようにサービスデスクが構成されていることの確認

HP Service Manager/Center を使用している場合、要求発生元のサービスデスク内の承認ステータスを更新する機能は、デフォルトで有効化されます。

HP Project and Portfolio Management / IT Governance Center を使用している場合、サービスデスクの初期構成時に**サービスデスク構成ユーティリティ**を使用して、このオプションを構成してください。初期構成時にこのオプションを構成しなかった場合は、下記の手動による手順を実行してください。

承認を実行できるように HP Project and Portfolio Management / IT Governance Center を手動で構成するには：

- a** 要求の承認の設定を行う前に、HP Project and Portfolio Management/IT Governance Center データベースへの接続用として HP Release Control で指定されたユーザーに、このデータベースに対する書き込み権限が割り当てられていることを確認します。
- b** [モジュール]>[管理者]>[構成] タブ > [統合]>[サービス デスク アダプター]><アダプター名> ノードを選択します。<アダプター名>-adapter.settings ファイルをクリックすると、その内容が右側ウィンドウに表示されます。
- c** <request-type level="1"> および <request-type level="2"> の両方の要素で、**approve** 操作を探し、<connector-type>itgApprove</connector-type> が両方のレベルで **approve** 操作に組み込まれていることを確認します。
- d** <プロパティ> 要素内の以下のプロパティを定義します。

プロパティ名	説明
dbUrl (必須)	HP Project and Portfolio Management/IT Governance Center データベースの URL。
username (必須)	HP Release Control が HP Project and Portfolio Management / IT Governance Center データベースに接続するときに使用するユーザー名。
password (必須)	HP Release Control が HP Project and Portfolio Management / IT Governance Center データベースに接続するときに使用するパスワード。 注： パスワードを暗号化できます。詳細については、「パスワードの暗号化」(623 ページ) を参照してください。
driverClassName (必須)	JDBC ドライバの名前。 デフォルト値： oracle.jdbc.OracleDriver

プロパティ名	説明
sourceStepSequence (必須)	承認の実行を開始するソースステップ番号。このプロパティまたは sourceStepName を指定する必要があります。サブワークフローの場合、<親ワークフローステップ>.<サブワークフローステップ> を指定します。例：5.5。
sourceStepName (必須)	承認の実行を開始するソースステップの名前。このプロパティまたは sourceStepSequence を指定する必要があります。
actionName (必須)	要求を承認するために HP Project and Portfolio Management/IT Governance Center アプリケーション内で実行する必要がある操作。

- e HP Release Control に送信中の要求のキューで、更新された承認済みの要求の優先度を上げるには、<sender-properties> 要素で **updateOperation=true** を指定します。
- f 構成の変更を保存し、適用します（「構成変更の保存方法と適用方法」（277 ページ）を参照してください）。

HP Release Control アプリケーションへのリンクの作成方法

HP Release Control の外側から使用する HP Release Control アプリケーションへのカスタマイズされたリンクを作成できます。リンクをカスタマイズすることで、フィルター、タイムスタンプ、パースペクティブを使用して、関連ビューを表示できます。

HP Release Control アプリケーションへのリンクを作成するには：

インターネットブラウザで以下の URL を入力します。

```
http://localhost:8080/crm?requestOrigin=EXTERNAL&<カスタマイズ可能なパラメーター>
```

第 15 章 「サービス デスクの構成」

カスタマイズ可能なパラメーターの一覧は、「カスタマイズ リンク用の URL パラメーター」（485 ページ）を参照してください。

注意：URL では、**filterName** または **field-<フィールド名>** パラメーターを 1 つ以上指定する必要があります。

URL に関するルールと構文のガイドラインについては、「HP Release Control へのリンクを作成するルールおよび構文」（484 ページ）を参照してください。

例

次の例では、HP Release Control アプリケーションへのリンクが作成されます。HP Release Control は、特定の日付でカレンダービューを開きます。HP Release Control には、ステータスが [承認済み] または [クローズ済み] で、かつリスク レベルが 20 ～ 80 の要求だけが表示されます。

```
http://localhost:8080/ccm?requestOrigin=EXTERNAL&filterName=any&
field-calculated-risk=20,80&field-status=APPROVED,CLOSED&perspective=calendar
&timestamp=1225648800000
```

HP Release Control カレンダーへのリンクの作成方法

HP Release Control カレンダーへのカスタマイズされたリンクを作成します。このリンクを使用してカレンダーにアクセスすると、スケジュール済み変更要求の表示、特定の変更要求の検索、変更要求の詳細表示などの操作を実行できます。ただし、HP Release Control の他の領域へのアクセスは制限されます。たとえば、フィルターまたはユーザープリファレンスは設定できません。また、変更分析の各種タブにアクセスできなくなります。

HP Release Control カレンダーへのリンクを作成するには：

インターネットブラウザから以下の URL を入力します。URL は、下の表に従ってカスタマイズされています。

```
http://localhost:8080/ccm/calendar.html?requestOrigin=EXTERNAL<カスタマイズ可能なパラメーター>
```

カスタマイズ可能なパラメーターの一覧は、「カスタマイズ リンク用の URL パラメーター」（485 ページ）を参照してください。

注意：URL では、**filterName** または **field-<フィールド名>** パラメーターを 1 つ以上指定する必要があります。

URL に関するルールと構文のガイドラインについては、「HP Release Control へのリンクを作成するルールおよび構文」（484 ページ）を参照してください。

例

次の例では、HP Release Control カレンダーへのリンクが作成されます。カレンダーが特定の日付で開き、ステータスが [承認済み] または [クローズ済み] で、かつリスクレベルが 20 ~ 80 の要求だけが表示されます。

```
http://localhost:8080/ccm/calendar.html?requestOrigin=EXTERNAL&filterName=any  
&field-calculated-risk=20,80&field-status=APPROVED,CLOSED&timestamp=1225648800000
```

HP Release Control の [評価] タブへのリンクの作成方法

単一の変更要求を表示する場合は、HP Release Control の [評価] タブへのリンクを作成します。[評価] タブに表示される情報としては、インパクト分析、衝突、リスク分析、類似した変更内容、期間の競合などがあります。

このリンクを使用して [評価] タブにアクセスした場合、指定された要求のすべての変更分析情報を表示できますが、HP Release Control の他の領域にはアクセスできません。

[評価] タブへのリンクを作成するには：

インターネットブラウザで以下の URL を入力します。

```
http://<HP Release Control サーバー名 : ポート >/ccm/assess.html?refId=<サービスデスク ID>
```

サービスデスク ID は、サービスデスクアプリケーションで定義されているチケットの ID です。

例：

```
http://localhost:8080/ccm/assess.html?refId=C-00000006
```

注：作業に使用しているサービスデスクアプリケーションが複数ある場合、対象のサービスデスクの名前を指定するには、**serviceDesk** パラメーターを使用します。たとえば、2つのチケットがそれぞれ別々の2つのサービスデスクで生成されたもので、その両方の ID が同じ場合は、**serviceDesk** パラメーターを識別子として利用できます。サービスデスクの名前は、分析モジュールの [詳細] タブに表示される名前と同じです。

単一の変更要求へのリンクの作成方法

HP Release Control 内の単一の変更要求へのリンクを作成できます。HP Release Control が開き、指定した変更要求が表示されます。

このリンクを使用して HP Release Control にアクセスすると、HP Release Control の他のすべての領域にアクセスできます。

HP Release Control で単一の変更要求へのリンクの作成するには：

インターネットブラウザで以下の URL を入力します。

```
http://localhost:8080/ccm?requestOrigin=EXTERNAL&requestedChangeID=<サービスデスクID>
```

サービスデスクID は、サービスデスクアプリケーションで定義されているチケットの ID です。

例：

```
http://localhost:8080/ccm?requestOrigin=EXTERNAL&requestedChangeID=C-00000006
```

タイムゾーンとロケールパラメーターを使用したリンクの作成方法

指定のタイムゾーンで HP Release Control を開き、指定の言語でユーザーインターフェースを表示するリンクを作成します。

HP Release Control アプリケーションへのリンクを作成するには：

インターネットブラウザで以下の URL を入力します。

```
http://<RC インストールのホーム>/ccm?requestOrigin=EXTERNAL&<カスタマイズ可能なパラメーター>
```

注意 : URL では、**filterName** または **field-<フィールド名>** パラメーターを 1 つ以上指定する必要があります。

例

次の例では、HP Release Control アプリケーションへのリンクが作成されます。HP Release Control は、特定の日付でカレンダー ビューを開きます。HP Release Control には、ステータスが [承認済み] で、かつリスク レベルが 20 ~ 80 の要求だけが表示されます。オーストラリア時間を使用し、ユーザー インタフェースをフランス語で表示します。

```
http://localhost:8080/ccm?requestOrigin=EXTERNAL&filterName=any&field-calculated-risk=20,80&field-status=APPROVED&perspective=calendar&timestamp=1225648800000&timezone=Australia\Currie&locale=fr_FR
```

注 :

- ▶ タイムゾーンは、Java タイムゾーンです。
 - ▶ URL のタイムゾーン入力に誤りがある場合、HP Release Control はデフォルトの GMT タイムゾーンを使用します。
 - ▶ ロケールの言語コードのスペルに誤りがある場合、HP Release Control は [プリファレンス] > [ユーザー プリファレンス] > [ユーザー ワークスペース] > [言語] ボックスで選択した言語を使用します。選択した言語がサポート対象外の場合、HP Release Control はデフォルト言語を使用します ([モジュール] > [管理者] > [構成] > [統合] > [サーバー] > [システム言語] ボックスを選択)。
 - ▶ 使用する言語は、あらかじめ HP Release Control に追加しておく必要があります。詳細については、『*HP Release Control Open Localization Toolkit User Guide*』を参照してください。
-

テナントパラメーターを使用したリンクの作成方法

HP Release Control サーバーでは、複数のテナントにサービスを提供する設定が可能です。HP Release Control を特定のテナントに開くリンクを作成できます。

HP Release Control アプリケーションへのリンクを作成するには：

インターネットブラウザで以下の URL を入力します。

```
http://<RC インストールのホーム>/ccm?requestOrigin=EXTERNAL&<カスタマイズ可能な  
パラメーター>&<tenant_field_val>
```

または

```
http://<RC インストールのホーム>/ccm?requestOrigin=EXTERNAL&<カスタマイズ可能な  
パラメーター>&<テナント>
```

説明：

- ▶ **テナント** は、HP Release Control で定義されているテナント名です。
- ▶ **tenant_field_val** は、テナント割り当てフィールドです。この値に基づいて、サービスデスクアプリケーションからの変更要求チケットは HP Release Control のテナントに割り当てられます。

注： URL で一度に指定できるパラメーターは 1 つです。

例：

```
http://localhost:8080/  
ccm?requestOrigin=EXTERNAL&filterName=any&perspective=calendar&tenant_field_  
val=CompanyX
```

注意： URL では、**filterName** または **field-<フィールド名>** パラメーターを 1 つ以上指定する必要があります。

HP Service Manager/Center チケットへのリンクの作成方法

このタスクでは、Web Tier を介して HP Service Manager/Center チケットへのリンクを作成する方法について説明します。

1 URL リンク経由で HP Service Manager/Center へのアクセスを許可する

デフォルトでは、Web Tier の URL クエリを介してセキュリティハッシュが要求されるように、HP Service Manager/Center サーバーを設定できます。この場合、URL リンク経由で HP Service Manager/Center にアクセスできるように、システムを構成する必要があります。

- ▶ HP Service Manager については、「URL リンク経由で HP Service Manager へのアクセスを許可する」(457 ページ) を参照してください。
- ▶ HP ServiceCenter については、「URL リンク経由で HP ServiceCenter へのアクセスを許可する」(460 ページ) を参照してください。

注： また、Web.xml ファイル (HP Service Manager 内の **querySecurity**、および HP ServiceCenter 内の **sc.querysecurity**) で、このセキュアクエリ要求を無効にすることもできます。

2 request-id フィールド用 URL の構成

- a** [モジュール]>[管理者]>[構成] タブ > [統合]>[フィールド] の順に選択します。

- b** [利用できるフィールド] ウィンドウで、[その他]>[request-id] の順に選択します。
- c** [フィールドの属性] ウィンドウの [詳細のレイアウト] タブで、[値の表示形式] フィールドに URL を入力します。

- ▶ Lightweight Single Sign-On (LW-SSO) を使用しているセキュアクエリまたは非セキュアクエリに対しては、次の URL を入力します。

```
http:// <Host:Port>/SymphonyAdapter/ui?
smOperation=edit&ismFromSystem=ReleaseControl&ismSubject=125
&ismEntityType=Change&ismToSystem=ChangeManager
&ismProtocolVersion=1.0&ismEntityID=%%request-id%%
```

- ▶ LW-SSO を使用していない非セキュアクエリ に対しては、次の URL を入力します。

```
<HP Service Manager/Center Web tier address>/index.do?ctx=docEngine
&file=cm3r&query=number=%%request-id%%"
```

例 :

```
http://scserver:8080/sc/index.do?ctx=docEngine
&file=cm3r&query=number=%%request-id%%"
```

- ▶ LW-SSO を使用していないセキュアクエリ に対しては、次の URL を入力します。

```
%%origin-url%%
```

- d** 構成セットを保存し、適用します。詳細については、「構成変更の保存方法と適用方法」(277 ページ) を参照してください。

URL リンク経由で HP Service Manager へのアクセスを許可する

URL セキュリティメカニズムが導入されている場合、HP Service Manager Web サーバーの名前とクエリの両方に依存する (HP Service Manager で生成された) ハッシュを URL クエリに含める必要があります。この構成は、HP Service Manager 管理者が行う必要があります。

セキュアな URL クエリを生成するには：

- 1 HP Service Manager で、**url** という名前の変更要求フィールドを新規に追加します。このフィールドに、チケット用に生成されたリンクを含めます。データ型を **[character]** に設定します。

- ▶ **[システム定義]>[テーブル]>[cm3r]>[フィールド]** を使用してフィールドを要求に追加します。
- ▶ **[システム定義]>[テーブル]>[cm3t]>[フィールド]** を使用してフィールドをデスクに追加します。

- 2 新しいフィールドを WSDL で表示します。

以下の手順を 2 回実行してください。1 回は **ChangeRC External Access オブジェクト** に対して、1 回は **ChangeTaskRC External Access オブジェクト** に対して実行します。

- a **[WSDL 設定]** に移動します。
- b **[名前]** ボックスに、関連する名前を入力します。
 - ▶ **ChangeRC External Access** オブジェクトの場合、「**cm3r**」を入力します。
 - ▶ **ChangeTaskRC External Access** オブジェクトの場合、「**cm3t**」を入力します。
- c **External Access** オブジェクトを選択します。
 - ▶ **ChangeRC External Access** オブジェクトの場合、**[ChangeRC]** を選択します。
 - ▶ **ChangeTaskRC External Access** オブジェクトの場合、**[ChangeTaskRC]** を選択します。
- d **[フィールド]** タブで、公開フィールドの一覧に、次のフィールドおよび該当のプロパティが含まれていることを確認します。

フィールド	キャプション	タイプ
url	Url	

- 3 **フォーマットコントロール計算** エントリを作成します。このエントリは、変更要求が作成または変更されると、このフィールド内に URL を生成します。

以下の手順を 2 回実行してください。1 回は **cm3r** レコードに対して、1 回は **cm3t** レコードに対して実行します。

- a **[カスタマイズ]>[フォーマット コントロール]** の順に選択します。
- b **[名前]** ボックスに、レコード名を入力します。

- ▶ cm3rレコードの場合、「cm3r」を入力します。
 - ▶ cm3tレコードの場合、「cm3t」を入力します。
- c** [計算] ボタンをクリックし、関連する計算を入力します。
- ▶ cm3rレコードの場合、以下を入力します。

追加	更新	計算
true	true	\$query="number=\""+number in \$file+"\"";\$title="Change Request Details"; url in \$file=jscall("urlCreator.getURLFrom Query", "cm3r", \$query, \$title)

削除、表示、初期ステータスの各列の値は空です。

- ▶ cm3tレコードの場合、以下を入力します。

追加	更新	計算
true	true	\$query="number=\""+number in \$file+"\"";\$title="Task Details"; url in \$file=jscall("urlCreator.getURLFrom Query", "cm3t", \$query, \$title)

削除、表示、初期ステータスの各列の値は空です。

- d** 変更をFormat Control テーブルに保存します。
- 4** 正確なコンピューター名 ([マイコンピューター] > [プロパティ] > [コンピューター名]) が以下の場所に正しく定義されている (大文字と小文字が区別されている) ことを確認します。
- ▶ HP Service Manager クライアントで、[システム管理] > [ベースシステム設定] > [その他] > [システム情報レコード] の順に選択し、[アクティブ統合] タブをクリックします。Web サーバー URL が (たとえば、<http://smsserver:8080/sm/index.do> のように) 正しく定義されていることを確認します。
 - ▶ Web サーバーの web.xml ファイルで、serverHost プロパティに Web サーバー URL が (たとえば、<http://smsserver:8080/sm/index.do> のように) 正しく定義されていることを確認します。

- 5 HP Service Manager サーバーを再起動します。
- 6 Web サービススタブファイル (.jar) を再生成します。
 - a <HP Release Control インストールディレクトリ>\bin ディレクトリの ServiceManagerWsdGen.bat ユーティリティを実行します。
 - b tomcat フォルダを <HP Release Control インストールディレクトリ>\bin\result ディレクトリからコピーして、<HP Release Control インストールディレクトリ>\apps\SDI-<アダプター名>\WEB-INF\lib ディレクトリに貼り付けます。
- 7 HP Service Manager で作成した url フィールドを HP Release Control の origin-url フィールドにマップするため、変更用とタスク用の変換スクリプトを編集します。

たとえば、convertChange.js ファイルと convertTask.js ファイルに、構成に応じて次のようなコードを convert 関数に追加できます。

```
function convert(sm_rfc, generic_rfc) {  
    ..  
    generic_rfc.setField("origin-url", sm_rfc.get("url"));  
    ..  
}
```

- 8 「HP Service Manager/Center チケットへのリンクの作成方法」の 456 ページの手順 2 の説明に従って、request-id フィールドの URL の構成を続行します。

URL リンク経由で HP ServiceCenter へのアクセスを許可する

URL セキュリティメカニズムが導入されている場合、HP ServiceCenter Web サーバーの名前とクエリの両方に依存する (HP ServiceCenter で生成された) ハッシュを URL クエリに含める必要があります。この構成は、HP ServiceCenter 管理者が実行する必要があります。

セキュアな URL クエリを生成するには：

- 1 HP ServiceCenter で、変更要求自体にリンクする **url** という名前の変更要求フィールドを新規に追加します。データ型を **text** に設定します。
 - a **[システム定義]>[テーブル]>[cm3r]>[フィールド]** を使用してフィールドを要求に追加します。
 - b **[システム定義]>[テーブル]>[cm3t]>[フィールド]** を使用してフィールドをタスクに追加します。
- 2 新しいフィールドを WSDL で表示します。

以下の手順を 2 回実行してください。1 回は **ChangeRC External Access オブジェクト** に対して、1 回は **ChangeTaskRC External Access オブジェクト** に対して実行します。

- a HP ServiceCenter で、**[ナビゲーションメニュー]>[ツールキット]>[WSDL 設定]** を選択します。
- b **[名前]** ボックスに、関連する名前を入力します。
 - ▶ **ChangeRC External Access** オブジェクトの場合、「**cm3r**」を入力します。
 - ▶ **ChangeTaskRC External Access** オブジェクトの場合、「**cm3t**」を入力します。
- c **[データ ポリシー]** タブで、公開フィールドの一覧に、次のフィールドおよび該当のプロパティが含まれていることを確認します。

フィールド名	API キャプション	除外	API データ型
url	Url	false	

- 3 **フォーマットコントロール計算** エントリを作成します。このエントリは、変更要求が作成または変更されると、このフィールド内に URL を生成します。

以下の手順を 2 回実行してください。1 回は **cm3r レコード** に対して、1 回は **cm3t レコード** に対して実行します。

 - a **[ユーティリティ]>[ツール]>[フォーマット コントロール]** の順に選択します。
 - b **[名前]** ボックスに、レコード名を入力します。
 - ▶ **cm3r レコード** の場合、「**cm3r**」を入力します。
 - ▶ **cm3t レコード** の場合、「**cm3t**」を入力します。

- c [計算] ボタンをクリックし、関連する計算を入力します。

- ▶ cm3rレコードの場合、以下を入力します。

追加	更新	計算
true	true	\$query="number=\"+number in \$file+"\\"";title="Change Request Details"; url in \$file=jscall("urlCreator.getURLFrom Query", "cm3r", \$query, \$title)

削除、表示、初期ステータスの各列の値は空です。

- ▶ cm3tレコードの場合、以下を入力します。

追加	更新	計算
true	true	\$query="number=\"+number in \$file+"\\"";title="Task Details"; url in \$file=jscall("urlCreator.getURLFrom Query", "cm3t", \$query, \$title)

削除、表示、初期ステータスの各列の値は空です。

- d 変更をFormat Controlテーブルに保存します。

- 4 正確なコンピューター名 ([マイコンピューター] > [プロパティ] > [コンピューター名]) が以下の場所に正しく定義されている (大文字と小文字が区別されている) ことを確認します。

- ▶ HP ServiceCenterクライアントで、[ユーティリティ] > [アドミニストレーション] > [情報] > [システム情報レコード] の順に選択し、[アクティブ] タブをクリックします。Webサーバー URL が (たとえば、<http://scserver:8080/sc/index.do>) 正しく定義されていることを確認します。

- ▶ Webサーバーの **web.xml** ファイルで、**sc.host** プロパティに Webサーバー URL が (たとえば、<http://scserver:8080/sc/index.do> のように) 正しく定義されていることを確認します。

- 5 HP ServiceCenterサーバーを再起動します。

- 6 Webサービススタブファイル (.jar) を再生成します。
 - a <HP Release Control インストールディレクトリ>\binディレクトリの ServiceManagerWsdGen.batユーティリティを実行します。
 - b tomcat フォルダを <HP Release Control インストールディレクトリ>\bin\resultディレクトリからコピーして、<HP Release Control インストールディレクトリ>\apps\SDI-<アダプター名>\WEB-INF\libディレクトリに貼り付けます。
- 7 HP Service Manager/Center で作成した url フィールドを HP Release Control の origin-url フィールドにマップするため、変更用とタスク用の変換スクリプトを編集します。
たとえば、convertChange.js ファイルと convertTask.js ファイルに、構成に応じて次のようなコードを convert 関数に追加できます。


```
function convert(sc_rfc, generic_rfc) {
    ..
    generic_rfc.setField("origin-url", sc_rfc.get("url"));
    ..
}
```
- 8 「HP Service Manager/Center チケットへのリンクの作成方法」の 456 ページの手順 2 の説明に従って、request-id フィールドの URL の構成を続行します。

SDI 操作スクリプトを更新して Deny 関数をサポートする方法

Deny 関数をサポートするように統合サービスデスクを構成するには、以下の手順を実行します。SDI 操作スクリプトの Deny 関数については、「SDI 操作スクリプト」(464 ページ)を参照してください。

- 1 [モジュール]>[管理者]>[構成] タブ > [統合] > [サービス デスクアダプター] > [SDI 操作スクリプト] を選択します。構成ファイルが右側のウィンドウに表示されます。

- 2 次の関数をスクリプトに追加します。

```
function canDeny(genericRFC, userLoginName) {  
    return canApprove(genericRFC, userLoginName);  
}
```

- 3 構成変更を保存し、アクティブ化します (「構成変更の保存方法と適用方法」(277 ページ) を参照してください)。

リファレンス

SDI操作スクリプト

このウィンドウには、**sdOperations.js** スクリプトが含まれています。特定の操作を行うと、HP Release Control は、**sdOperations.js** スクリプトで定義された条件に基づいて、統合されたサービスデスクに情報を送信します。

アクセス方法	[モジュール]>[管理者]>[構成] タブ > [統合] > [サービス デスク アダプター] > [SDI 操作スクリプト] を選択します。 注： このファイルの編集の詳細については、「[構成] タブのファイルの構成方法」(277 ページ) を参照してください。
重要な情報	このスクリプトは、次のサービスデスクのみを対象としています。 ▶ HP Service Manager/Center ▶ HP Project and Portfolio Management / IT Governance Center
関連タスク	「サービスデスク内の承認ステータスの更新」(439 ページ)

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
<p><sdOperations.js スクリプトに含まれる 関数></p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ canApprove。分析モジュールの [コラボレーション]> [決議]> タブの [承認] ボタンを有効にする条件を定義します。(HP Service Manager/CenterおよびHP Project and Portfolio Management / IT Governance Centerに適用) ▶ canRetract。分析モジュールの [コラボレーション]> [決議] タブの [撤回] ボタンを有効にする条件を定義します。(HP Service Manager/Centerに適用) ▶ canDeny。分析モジュールの [コラボレーション]> [決議] タブの [拒否] ボタンを有効にする条件を定義します。(HP Service Managerに適用) <p>注 : canDeny 関数をサポートするには、sdOperations.js スクリプトを更新する必要があります。詳細については、「SDI 操作スクリプトを更新してDeny関数をサポートする方法」(463 ページ)を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ canUpdateReview。分析モジュールの [レビュー]> [結論] タブの [レビュー] ボタンを有効にする条件を定義します。(HP Service Manager/Centerに適用) ▶ canUpdateStatus。ディレクターモジュールと実施担当者モジュールの、作業の実際の開始/終了時間を更新可能にする日時を定義します。これらの日時は、元になったサービスデスクチケットで自動的に更新されます。(HP Service Manager/Centerに適用) ▶ canUpdatePlannedTimes。分析モジュールの変更プランナーで、更新後の開始/終了時間をいつ保存できるかを定義します。これらの日時は、元になったサービスデスクチケットで自動的に更新されます。(HP Service Manager/Centerに適用) ▶ canClose。分析モジュールの [レビュー]> [結論] タブの [クローズ] ボタンを有効にする条件を定義します。(HP Service Manager/Centerに適用) <p>注 : スクリプト関数に組み込めるオブジェクトの詳細は、API_Reference.chm ファイルを参照してください。(API リファレンスにアクセスするには、[スタート]> [プログラム]> [HP Release Control 9.20]> [ドキュメント] をクリックし、pdfs ディレクトリを開きます。)</p>

サービス デスク アダプターのプロパティ

サービスデスク構成ユーティリティ (**SdiConfigurer.bat**) を使用してサービスデスクの初期構成を実行すると、すべてのサービスデスク統合プロパティを含むサービスデスクアダプター構成ファイルが作成されます。

この項では、ニーズに合わせて変更できる、アダプター構成ファイルのプロパティについて説明します。

サービスデスクアダプターの変更の詳細は、「サービスデスクアダプタープロパティの変更方法」(444ページ) を参照してください。

この項では、次の項目を説明します。

- ▶ 「アダプターの共通属性」(467ページ)
- ▶ 「BMC Remedy Action Request System コネクター設定」(472ページ)
- ▶ 「XML コネクター設定」(473ページ)
- ▶ 「HP Service Manager/Center のコネクター設定」(474ページ)
- ▶ 「HP Service Desk コネクター設定」(477ページ)
- ▶ 「HP Project and Portfolio Management/IT Governance Center Web サービスのコネクター設定」(478ページ)
- ▶ 「HP Server Automation のコネクター設定」(480ページ)
- ▶ 「HP Network Automation のコネクター設定」(481ページ)
- ▶ 「データベースのコネクター設定」(482ページ)

アダプターの共通属性

アダプター構成ファイルの先頭セクションには、すべてのサービスデスクアプリケーションに共通するアダプター属性が含まれています。以下は、そのようなアダプター属性の例です。次のプロパティは、変更することができます。

プロパティ名	説明
connection-properties	<p>要求タイプレベル1および2に共通しているため複製不要なプロパティの一覧を表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ HP Service Manager と HP Release Control の両方が Lightweight Single Sign-On (LW-SSO) を使用するよう初期設定を行っていない場合、requiresUserCredentials パラメーターを指定することによって、資格情報を入力せずにログインが可能になります。たとえば、送信済みの変更要求チケットがあり、変更要求が承認されたので HP Service Manager を更新したい場合などがあります。 <p>オプションは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ False。資格情報を入力しなくても、システムにログインできます。 ▶ True (デフォルト)。システムへのログイン時に資格情報の入力プロンプトが表示されます。 ▶ また、HP Service Manager サーバーへの接続を有効にするためには、serviceURL パラメーターの変更も必要です。 <p>例については、「HP Release Control と HP Service Manager での LW-SSO の構成方法」(446 ページ) を参照してください。</p>

プロパティ名	説明
<p>number-of-tickets</p>	<p>一度に処理される要求数を設定します。これにより、HP Release Control およびサービスデスクアプリケーションのリソース (たとえば、メモリーやネットワーク帯域幅) の過剰消費を回避できます。</p> <p>number-of-tickets はニーズに合わせて大きい値に設定することも可能です。ただし、HP Release Control またはサービスデスクアプリケーションに対する負荷が過剰にならないように注意する必要があります。number-of-tickets は、サービスデスクアプリケーションからすべての要求を取得できるように、十分に大きな値を設定してください。また、サービスデスクアプリケーションが1つの測定タイムスロットで更新を実行するのに必要な要求数よりも大きい値にする必要があります。たとえば、サービスデスクアプリケーションが1秒に更新する要求数が50の場合は、number-of-tickets を50より大きい値にする必要があります。</p> <p>HP Release Control は、要求の処理中に number-of-tickets を使用しますが、サービスデスクアプリケーションから返される要求の数がこの値を上回るまたは下回る場合があります。</p> <p>注 : number-of-tickets を確認したい場合は、組織内のサービスデスクアプリケーション担当者にお問い合わせください。</p>

プロパティ名	説明
polling-schedules	<p>サービスデスクアプリケーションに対して変更要求のポーリングを実行するスケジュール。このスケジュールは cron 式で算出されます。</p> <p>デフォルトでは、ポーリング間隔を 30 秒に設定する cron 式が使用されます。ポーリング間隔は、必要に応じて変更できます。たとえば、次のような設定が可能です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 次のような場合は、ポーリング間隔を長くします (サービスデスクアプリケーションのポーリング頻度は低くなります)。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 新しいチケットがないか HP Release Control がサービスデスクアプリケーションをチェックする頻度を減らしたい場合。 ▶ チケットの更新を大量に実行する可能性がある場合。これにより、1 回のポーリング間隔で、処理能力を超えるチケット数を HP Release Control が受け取る状況を回避できます。 ▶ HP Release Control が変更要求の変更に基づいて更新を行う頻度を高くするには、ポーリング間隔を短くします (サービスデスクアプリケーションのポーリング頻度は高くなります)。 <p>Cron 式は、編集や、複数の式を改行文字で区切って追加できます。例：</p> <pre><polling-schedules> 0/30 **** ? 0/50 **** ? </polling-schedules></pre> <p>Cron 式の詳細は、次を参照してください。 http://www.opensymphony.com/quartz/api/org/quartz/CronTrigger.html</p>

プロパティ名	説明
<p>initial-load-state</p>	<p>注：このプロパティは、HP Service Manager またはデータベースアダプターの設定で使用します。HP Service Manager やデータベースアプリケーションから日付を特定して変更要求を収集するようにアダプターを設定する方法は、“指定の日付以降の変更要求をすべて取得 (Service Manager とデータベースサービスデスクアプリケーションのみから取得)” on page 443 を参照してください。</p> <p>string 型の日付を指定すると、指定した作成日から現在日付までのすべての要求がアダプターにより一括収集され、新しい要求または更新済み要求の収集は続行されません。</p> <p>デフォルトでは、このプロパティは無効になり、値は割り当てられません。</p> <p>initial-load-state プロパティを有効にすると、polling-schedule が上書きされます。</p> <p>このプロパティを有効にするには、SDI Persistency Cleanup ユーティリティを使用して SDI 映像性を削除する必要があります (「SDI 永続性の削除」(634 ページ) を参照)。</p> <p>HP Release Control での要求収集処理が完了したら、行をコメントアウトして、このプロパティを無効にする必要があります。</p> <p>形式： MM/dd/yy HH:mm:ss z</p>
<p>request-types (必須)</p>	<p>アダプターによって収集されるすべての要求タイプの一覧を表示します。この一覧には、すべての要求タイプレベルも表示されます。デフォルトでは、レベル 1 は変更で使用され、レベル 2 はタスクで使用されます。</p> <p><request-type> 要素の一部として含める要求タイププロパティおよび操作プロパティについては、「要求のタイププロパティ」(471 ページ) を参照してください。</p>

要求のタイププロパティ

<request-type> 要素には、次のようなプロパティがあります。

プロパティ名	説明
connection-properties	要求レベルごとにポーリングおよび操作コネクタのプロパティの一覧を表示します。

<operation> 要素 (<request-type> 内の <operations> 下) には、次のような操作プロパティがあります。

プロパティ名	説明
name (必須)	操作の検索に使用される操作名。 現在サポートされている操作は、approve、canApprove、retract、canRetract、deny、canDeny、reviewUpdate、canUpdateReview、updatePlannedtimes、canUpdatePlannedTimes、updateStatus、canUpdateStatus、close、canClose、updateAnalysisData です。 操作によっては、特定のサービスデスクでのみサポートされているものもあります。
operation-type (必須)	実行される操作のタイプを定義します。 このプロパティは変更しないことをお勧めします。
connector (operation の下) (必須)	操作の実行に使用される操作コネクタを定義します。 このプロパティは変更しないことをお勧めします。
sender-properties	操作の送信側の初期設定に使用されるデフォルトのプロパティを上書きします。

BMC Remedy Action Request System コネクター設定

BMC Remedy Action Request System アダプター構成ファイルでは、次のコネクター属性を設定できます。

プロパティ名	説明
serverName (必須)	BMC Remedy Action Request System サーバーの名前。 注： このプロパティは、サービスデスク構成ユーティリティ (SdiConfigurer.bat) で設定されます。
userName (必須)	HP Release Control が BMC Remedy Action Request System サーバーへの接続に使用するユーザー名。 注： このプロパティは、サービスデスク構成ユーティリティ (SdiConfigurer.bat) で設定されます。
userPassword (必須)	HP Release Control が BMC Remedy Action Request System サーバーへの接続に使用するパスワード。パスワードは暗号化が必要です。詳細については、「パスワードの暗号化」(623 ページ) を参照してください。 注： このプロパティは、サービスデスク構成ユーティリティ (SdiConfigurer.bat) で設定されます。
schemaName (必須)	必要な変更要求が格納されているスキーマの名前。
field-names (必須)	取得される要求フィールドのカンマ区切り一覧。 すべての要求フィールドを収集するには、* を使用します。
associationSchemaName	CI を BMC Remedy ARS サーバー内のチケットに関連付けるスキーマ。 注： BMC Remedy 7.0 にのみ適用可能です。
idFieldNameInTicket	関連スキーマ内に使用されるチケット ID が格納されている列の名前。 注： BMC Remedy 7.0 にのみ適用可能です。

プロパティ名	説明
associationForeignIdFieldName	関連スキーマ内のCIの外部IDが格納されている列の名前。 注 ：BMC Remedy 7.0にのみ適用可能です。
associationResultFieldName	関連スキーマからの関連CIの配列が格納されている ([Raw Ticket] 内の) チケットのフィールド名。 注 ：BMC Remedy 7.0にのみ適用可能です。

XMLコネクタ設定

XMLアダプター構成ファイルには、次のコネクタ属性を設定できます。

プロパティ名	説明
idPropertyName (必須)	サービスデスクアプリケーション要求の送信先となる各XMLファイルの、要求IDのプロパティ名。
creationDatePropertyName (必須)	<p>該当の要求を示す、XMLファイル内の creation-date 値のプロパティ名。</p> <p>creation-date がXML要素の場合、要素の名前を使用します。プロパティ名 creation-date は、たとえば次の要素に使用します。</p> <pre><change-request> <creation-date>01/01/01</creation-date> </change-request></pre> <p>creation-date が要求のXML要素の属性である場合、@<要素の名前>を使用します。プロパティ名 @creation-date を使用する要素としては、たとえば次のものがあります。</p> <pre><change-request creation-date="01/01/01"> </change-request></pre>
dateFormat (必須)	XMLファイル内の creation-date の形式。

プロパティ名	説明
directoryName (必須)	サービスデスクアプリケーション要求をXMLファイルフォーマットで格納する共有ディレクトリのパス。 注: このプロパティは、サービスデスク構成ユーティリティ (SdiConfigurer.bat) で設定されます。
pattern	正規表現としてのファイル名のパターン。 詳細については、 http://java.sun.com/j2se/1.4.2/docs/api/java/util/regex/Pattern.html を参照してください。

HP Service Manager/Center のコネクタ設定

HP Service Manager/Center アダプター構成ファイルでは、次のコネクタ属性を設定できます。

プロパティ名	説明
idProperty	HP Service Manager/Center Webサービスから返されるインスタンスの、IDフィールドのプロパティ名。
lastUpdatedPropertyFor Query	HP Service Manager/Center Webサービスのクエリに使用される last-update フィールドのプロパティ名 (HP Service Manager/Center クライアントマシン上でのエキスパート検索に使用されるフィールド名)。
creationDatePropertyFor Query	HP Service Manager/Center Webサービスのクエリに使用される creation-date フィールドのプロパティ名。
lastUpdatedPropertyFor Result	HP Service Manager/Center Webサービスから返されるインスタンスの、 last-update フィールドのプロパティ名 (通常、APIとして公開されるフィールド名)。
creationDatePropertyFor Result	HP Service Manager/Center Webサービスから返されるインスタンスの、 creation-date フィールドのプロパティ名。
keyMethodName	要求キーのメソッドの名前 (通常、IDフィールド名)。

プロパティ名	説明
startFrom (必須)	チケットの取得を開始する過去の日時を指定します。たとえば、13/01/2000 00:00:00 EST など。
upperLimitDelta (省略可能)	HP Release Control がチケットを取得する頻度を指定します。ミリ秒単位で指定します。 注 : デフォルトでは、 upperLimitDelta プロパティは <アダプター名>- adapter.settings ファイルに含まれません。このプロパティの値を定義するには、ファイルの < connection-properties > セクションにプロパティを手作業で追加する必要があります。
timeZone	HP Service Managerからの要求の最終更新日時を変換するときに使用される HP Service Manager/Center サーバータイムゾーン。 タイムゾーンの設定後、下記の queryDateFormatPattern プロパティがタイムゾーン定義に一致することを確認する必要があります。 注 : ▶ タイムゾーンを Java データベース内に表示する形式で入力します。 ▶ 夏時間への対応には、GMT を基準とする相対時間を指定する代わりに、地域タイムゾーンを使用します。
wsDateFormatPattern	HP Service Manager/Center Web サービスの応答に使用される日付形式。 使用可能な形式については、 http://java.sun.com/j2se/1.4.2/docs/api/java/text/SimpleDateFormat.html を参照してください。
queryDateFormatPattern	HP Service Manager/Center システムのクエリに使用される (UI エキスパート検索に使用される) 日付形式。 使用可能な形式については、 http://java.sun.com/j2se/1.4.2/docs/api/java/text/SimpleDateFormat.html を参照してください。

プロパティ名	説明
serviceUrl	WebサービスのURL。 注: このプロパティは、サービスデスク構成ユーティリティ (SdiConfigurer.bat) で設定されます。
userName	HP Release ControlがHP Service Manager/Centerシステムへの接続に使用するユーザー名。 注: このプロパティは、サービスデスク構成ユーティリティ (SdiConfigurer.bat) で設定されます。
password	HP Release ControlがHP Service Manager/Centerシステムへの接続に使用するパスワード。 注: <ul style="list-style-type: none"> ▶ パスワードを暗号化できます。詳細については、「パスワードの暗号化」(623ページ)を参照してください。 ▶ このプロパティは、サービスデスク構成ユーティリティ (SdiConfigurer.bat) で設定されます。
additionalConstraintsForInitialLoad (省略可能)	追加のフィルター条件。初期ロード時に取得対象となる変更をより柔軟に指定できます。この制限の構文は、HP Service Managerのエキスパート検索によって使用される構文と同じです。 注: これを実行するには、 and (<constraint>) を HP Service Manager/Center クエリに追加します。
additionalConstraintsForPolling (省略可能)	追加のフィルター条件。ポーリングモードで取得対象となる変更をより柔軟に指定できます。この制限の構文は、HP Service Manager/Centerのエキスパート検索によって使用される構文と同じです。 注: これを実行するには、 and (<constraint>) を HP Service Manager/Center クエリに追加します。

HP Service Deskコネクタ設定

HP Service Desk アダプター構成ファイルでは、次のコネクタ属性を設定できます。

プロパティ名	説明
connector-type (必須)	最上位の要求に対しては、connector-type の値を hpsdChange に設定する必要があります。 第2レベルの要求に対しては、connector-type の値を hpsdWorkOrder に設定する必要があります。
idProperty (必須)	HP Service Desk から返されるインスタンスの、ID フィールドのプロパティ名。
lastUpdatedProperty (必須)	last-update フィールドのプロパティ名
createdProperty (必須)	creation-date フィールドのプロパティ名
serviceUrl (必須)	Web サービスの URL。 形式 : [<HP Service Desk サーバーの IP アドレス>:<HP Service Desk サーバーポート>] 注 : サーバーポートは通常 30999 です。 このプロパティは、サービスデスク構成ユーティリティ (SdiConfigurer.bat) で設定されます。
userName (必須)	HP Release Control が HP Service Desk への接続に使用するユーザー名。 注 : このプロパティは、サービスデスク構成ユーティリティ (SdiConfigurer.bat) で設定されます。
password (必須)	HP Release Control が HP Service Desk への接続に使用するパスワード。 注 : パスワードを暗号化できます。詳細については、「パスワードの暗号化」(623 ページ) を参照してください。 このプロパティは、サービスデスク構成ユーティリティ (SdiConfigurer.bat) で設定されます。

HP Project and Portfolio Management/IT Governance Center Web サービスのコネクター設定

HP Project and Portfolio Management / IT Governance Centerアダプター構成ファイルでは、次のコネクター属性を設定できます。

プロパティ名	説明
requestTypeName (必須)	取得される HP Project and Portfolio Management/IT Governance Center 要求タイプの名前。このフィールドは大文字と小文字の区別があるので注意してください。
parentRequestTypeName (対象の要求第 2 レベルであり、上位レベルが存在する場合は必須)	対象の要求が第 2 レベルの要求である (つまり、上位要求に関連付けられている) 場合、取得される HP Project and Portfolio Management/IT Governance Center 上位要求タイプの名前。
username (必須)	HP Release Control が HP Project and Portfolio Management/IT Governance Center への接続に使用するユーザー名。 注: このプロパティは、サービスデスク構成ユーティリティ (SdiConfigurer.bat) で設定されます。
password (必須)	HP Release Control が HP Project and Portfolio Management/IT Governance Center への接続に使用するパスワード。パスワードは暗号化が必要です。詳細については、「パスワードの暗号化」(623 ページ) を参照してください。 注: このプロパティは、サービスデスク構成ユーティリティ (SdiConfigurer.bat) で設定されます。
serviceUrl (必須)	HP Project and Portfolio Management/IT Governance Center Web サービスの URL。 注: このプロパティは、サービスデスク構成ユーティリティ (SdiConfigurer.bat) で設定されます。

プロパティ名	説明
sourceStepSequence	ユーザーが HP Release Control から HP Project and Portfolio Management のステップを承認できるような環境設定を行う場合は、HP Project and Portfolio Management で承認を実施するステップを定義しておいてください。 注： このプロパティは、サービスデスク構成ユーティリティ (SdiConfigurer.bat) で設定します。
dbURL	有効な Oracle DB SID (システム ID)、サーバー名、ポートを指定します。 注： このプロパティは、サービスデスク構成ユーティリティ (SdiConfigurer.bat) で設定します。
userName	Oracle DB ユーザー名。 注： このプロパティは、サービスデスク構成ユーティリティ (SdiConfigurer.bat) で設定します。
password	Oracle DB パスワード。 注： このプロパティは、サービスデスク構成ユーティリティ (SdiConfigurer.bat) で設定します。

HP Server Automation のコネクタ設定

HP Server Automation アダプター構成ファイルでは、次のコネクタ属性を設定できます。

プロパティ名	説明
saServerUrl (必須)	HP Server Automation サーバーの URL。 注 ：このプロパティは、サービスデスク構成ユーティリティ (SdiConfigurer.bat) で設定されます。
saUsername (必須)	HP Server Automation サーバーにアクセスするための有効なユーザー名。 注 ：このプロパティは、サービスデスク構成ユーティリティ (SdiConfigurer.bat) で設定されます。
saPassword (必須)	HP Server Automation サーバーにアクセスするための有効なパスワード。 注 ：このプロパティは、サービスデスク構成ユーティリティ (SdiConfigurer.bat) で設定されます。
trustCertFile (必須)	HP Server Automation のセキュリティ証明書ファイルの場所。このファイルは var/opt/optsware/crypto/coglib/opsware-ca.crt などの場所に格納できます。
filterRelevantJobs	HP Release Control にインポートされるジョブのタイプの一覧。詳細については、『Opware Automation Platform Developers Guide(Opware オートメーションプラットフォーム開発者ガイド)』で検索フィルター構文の説明を参照してください。 デフォルト ：ステータスが [保留中] または [Recurring(繰り返し)] のすべてのジョブ。

HP Network Automation のコネクタ設定

HP Network Automation アダプター構成ファイルでは、次のコネクタ属性を設定できます。

プロパティ名	説明
naServerURL (必須)	HP Network Automation サーバーの URL。 注: このプロパティは、サービスデスク構成ユーティリティ (SdiConfigurer.bat) で設定されます。
naUsername (必須)	HP Network Automation サーバーにアクセスするための有効なユーザー名。 注: このプロパティは、サービスデスク構成ユーティリティ (SdiConfigurer.bat) で設定されます。
naPassword (必須)	HP Network Automation サーバーにアクセスするための有効なパスワード。 注: このプロパティは、サービスデスク構成ユーティリティ (SdiConfigurer.bat) で設定されます。
timeZoneString	別のタイムゾーンに位置している要求を変換する際に、対象のタイムゾーンの判別に用いられるフォーマット。このタイムゾーンを特定のタイムゾーンに変更するには、タイムゾーンに Java 命名規則を使用します。 デフォルト : UTC
dateFormatString	日付/時刻の形式。
queryStatus	タスクは、このタグにリストされたステータスのうちのいずれかが設定されている場合にのみ、インポートされます。
daysBefore	この数は、現在の日付以前の何日分のタスクを HP Network Automation からインポートするかを指定します (たとえば、「14」を指定した場合、本日より 14 日前までにスケジュールされたすべてのタスクがインポート対象になります)。

プロパティ名	説明
daysAfter	この数は、現在の日付以後の何日分のタスクを HP Network Automation からインポートするかを指定します (たとえば、「7」を指定した場合、本日より7日後までにスケジュールされたすべてのタスクがインポート対象になります)。
excludeTaskTypes	HP Network Automation からインポートされないようにするタスクタイプのリスト。

データベースのコネクター設定

データベース構成ファイルでは、次のコネクター属性を設定できます。

プロパティ名	説明
dbUrl (必須)	データベースの URL。 注: このプロパティは、サービスデスク構成ユーティリティ (SdiConfigurer.bat) で設定されます。
userName (必須)	HP Release Control がデータ ベース への接続に使用するユーザー名。 注: このプロパティは、サービスデスク構成ユーティリティ (SdiConfigurer.bat) で設定されます。
password (必須)	HP Release Control がデータベースへの接続に使用するパスワード。パスワードは暗号化が必要です。詳細については、「パスワードの暗号化」(623ページ)を参照してください。 注: このプロパティは、サービスデスク構成ユーティリティ (SdiConfigurer.bat) で設定されます。
driverClassName (必須)	JDBC ドライバの名前。ドライバが <HP Release Control インストールディレクトリ>\tomcat\lib ディレクトリに格納されていることを確認してください。

プロパティ名	説明
idSelectQuery (必須)	<p>変更要求の last-updated フィールドの値に基づいて、変更要求 ID を返す SQL クエリ。</p> <p>重要 : このクエリでは、最後の変更要求を取得した日付を指定しないでください。指定すると、同じ変更要求が毎回取得され、無限ループが発生します。この状態を回避するには、>= 記号を使用しないでください。> 記号のみを使用してください。</p> <p>正しいクエリの例 :</p> <p>最後の変更要求を取得した日付よりも後の日付をクエリで指定します。</p> <p>たとえば、最後の変更要求が 2010 年 2 月 1 日に取得された場合、次のように日付を設定します。</p> <pre>select change_id from changes where last_updated > 2/1/2010</pre>
startFrom (必須)	<p>チケットの取得を開始する過去の日時を指定します。たとえば、13/01/2000 00:00:00 EST など。</p>
upperLimitDelta (省略可能)	<p>HP Release Control がチケットを取得する頻度を指定します。ミリ秒単位で指定します。</p> <p>注 : デフォルトでは、upperLimitDelta プロパティは <アダプター名>-adapter.settings ファイルに含まれません。このプロパティの値を定義するには、ファイルの <connection-properties> セクションにプロパティを手作業で追加する必要があります。</p>
ticketFetchQuery (必須)	<p>変更要求の ID に基づいて、変更要求を返す SQL クエリ。</p> <pre>select * from changes where ID = ?</pre>
lastUpdatedFieldName (必須)	<p>last-update フィールド値が格納されている、解析結果セット内の列の名前。</p>
lastUpdatedFieldType (必須)	<p>次の値のいずれかです。time、timestamp、date、milliseconds、seconds。</p>

プロパティ名	説明
idFieldName (必須)	IDフィールド 値が格納されている、解析結果セット 内の列の名前。
connectionProperties	java.util.Properties フォーマットのデータベースプロパティ。 例： key1=value1 key2=value2
connectionPoolProperties	java.util.Properties フォーマットのデータベースプール接続プロパティ。 指定可能な値については、 http://www.mchange.com/projects/c3p0/index.html を参照してください。

HP Release Control へのリンクを作成するルールおよび構文

HP Release Control へのリンクの作成で使用する URL に関するさまざまなルール、ヒント、構文要件を、次に箇条書き形式で示します。

- ▶ 列挙値は大文字と小文字の区別があります。
- ▶ ブーリアン値はそれぞれ **true** あるいは **false** の形式で指定します。
- ▶ 日時制限はサポートされていません。
- ▶ 複数の値を指定する場合は、間に空白文字を含めずにカンマ (,) で区切る必要があります。
- ▶ BETWEEN 演算子が含まれているフィールドには、等しくない2つの値を入力する必要があります。
- ▶ フィルター値のタイプが正しいことを確認してください。たとえば、数値範囲を指定する必要のあるフィールドに単一の値を入力した場合、アプリケーションから例外が返されます。

カスタマイズ リンク用の URL パラメーター

サービスデスクから HP Release Control へのリンクを作成することができます（「サービスデスクから HP Release Control インタフェースへのリンク」（437 ページ）を参照）。

以下の表に、URL に使用可能なパラメーターを示します。

パラメーター	説明
filterName	<p>指定されたフィルター名に従って、HP Release Control に表示される要求をフィルターします。</p> <p>注：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 下で説明する field-<フィールド名> パラメーターを定義すると、フィルターをさらに絞り込むことができます。 ▶ フィルター名は、HP Release Control 分析モジュールまたはディレクターモジュールに定義されています。
field-<フィールド名>	<p>このパラメーターで定義されているフィールド値に従って、HP Release Control に表示される要求をフィルターします。例： field-status=APPROVED,CLOSED。</p> <p>このパラメーターで使用されるフィールドの許容値の検索場所については、「HP Release Control へのリンクに使用されるフィールドパラメーター値」（486 ページ）を参照してください。</p> <p>注：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ すべてのフィールド名は、field-プレフィックスで始まる必要があります。 ▶ このパラメーターで使用するフィールドは、HP Release Control でフィルター可能なフィールドとして定義されている必要があります。 ▶ フィールド名は、管理者モジュールの [フィールド] ウィンドウでの表示に基づいて記述する必要があります（[モジュール]>[管理者]>[構成] タブ > [統合]>[フィールド] を選択）。詳細については、「[フィールド] ウィンドウ」（353 ページ）を参照してください。 ▶ filterName パラメーターにフィルターを指定した場合、field-<フィールド名> パラメーターでこのフィルターをさらに絞り込みます。 ▶ フィールド名 (field-<フィールド名>) がフィルター (filterName) にも存在する場合、field-<フィールド名> パラメーターの値がフィルターの値を上書きします。 ▶ 複数の field-<フィールド名> パラメーターを指定できます。

パラメーター	説明
timestamp	<p>カレンダーを開く日時。日時は、ミリ秒単位のタイムスタンプとして表示されます。</p> <p>注：タイムスタンプが定義されていない場合、デフォルトの日時は、現在の日時です。</p>
perspective	<p>注：このパラメーターを指定するのは、HP Release Control アプリケーション全体へのリンクを作成する場合のみです。</p> <p>分析モジュールを開くビュー。設定できる値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ RFCViewer。 リストビューを開きます。 ▶ カレンダー。 カレンダービューを開きます (デフォルト)。

HP Release Control へのリンクに使用されるフィールド パラメーター値

サービスデスクから HP Release Control へのリンクを作成する場合、フィールド名パラメーターを URL の一部として使用できます。この項には、**field-<フィールド名>** パラメーターに使用されるフィールドの許容値が表示される場所を示してあります。値を定義する場所は、次のとおりです。

- ▶ サービスデスクアプリケーション
- ▶ HP Universal CMDB
- ▶ [列挙] ウィンドウ ([**モジュール**] > [**管理者**] > [**構成**] > [**統合**] > [**列挙**] の順に選択します。)

[列挙] ウィンドウの [列挙エントリ] テーブルに、各フィールドの許容値を表示することができます。詳細については、「[列挙] ウィンドウ」(351 ページ) を参照してください。

次の表は、フィールドの許容値の説明です。

フィールド名	対応する列挙値
abnormal-cause	管理者モジュールの [期間] タブの、期間ルールの名前
application	ビジネス CI の ID (HP Universal CMDB に定義されています。)
category	サービスデスクチケットで定義された値
change-type	<ul style="list-style-type: none"> ▶ REGULAR ▶ LATENT ▶ SURROGATE ▶ AUTOMATED
collision-severity	<ul style="list-style-type: none"> ▶ NONE ▶ VERY_LOW ▶ LOW ▶ MEDIUM ▶ HIGH ▶ CRITICAL
collision-type	<ul style="list-style-type: none"> ▶ CCI_CCI ▶ CCI_ACI ▶ ACI_ACI ▶ IAA_IAA ▶ IAA_DAA ▶ DAA_DAA ▶ IMPLEMENTOR
creating-service-desk	サービスデスクチケットで定義された値
impact-severity	[列挙] ウィンドウ
implementation-outcome	[列挙] ウィンドウ
implementors	サービスデスクチケットで定義された値
lastImpact-cis-label	システム CI のラベル (HP Universal CMDB に定義されています。)

フィールド名	対応する列挙値
lastImpact-cis-refId	システム CI の ID (HP Universal CMDB に定義されていません。)
opinion-type	[列挙] ウィンドウ
priority	[列挙] ウィンドウ
review-customer-satisfaction	[列挙] ウィンドウ
review-planning-satisfaction	[列挙] ウィンドウ
status	[列挙] ウィンドウ
subcategory	サービスデスクチケットで定義された値
ticket-level	[列挙] ウィンドウ

トラブルシューティングと制限事項

このセクションでは、HP Service Manager/Center の稼働中に発生する問題の HP Release Control のトラブルシューティングについて説明します。

実施後レビューコメントを HP Service Manager に保存する際の問題

IIA 搭載の HP Service Manager を使用している場合は、実施後のレビューコメントを HP Release Control から HP Service Manager に保存する機能が無効化されてしまうことがあります。この機能が無効化されたことをユーザーに通知するエラーメッセージまたは警告は表示されないため、HP Release Control では、コメントが保存されたように見えます。この状態を検出するには、HP Service Manager を調べ、コメントが保存されたかどうかを確認するしかありません。実施後のレビューコメントを HP Service Manager に保存するためには、回避策として次の手順を実行してください。

- 1 HP Service Manager クライアントで、**[ナビゲーションメニュー]** > **[カスタマイズ]** > **[データベース ディクショナリ]** に移動します。
- 2 **[ファイル名]** ボックスに「**cm3t**」と入力し、**ENTER** を押します。

- 3 画面の下部でテーブル内の最初のアイテムを選択し、[新規フィールド/キー] ボタンをクリックします。
- 4 [名前] ボックスに「closure.comments」と入力し、[タイプ] ボックスに「配列」と入力します。
- 5 [フィールドの追加] ボタンをクリックします。
- 6 同様のウィンドウが開きます。[タイプ] ボックスに「文字」と入力します。
- 7 [フィールドの追加] ボタンをクリックします。

第 16 章

ラベルと用語の構成トピック

本章の内容

概念

- ▶ 「デフォルトの表示ラベルと用語の構成に関する概要」 (492 ページ)

リファレンス

- ▶ 「[ラベルと用語] ウィンドウ」 (494 ページ)

概念

デフォルトの表示ラベルと用語の構成に関する概要

HP Release Control のユーザーインターフェイス要素のラベルと用語を表示する方法を変更するには、管理者モジュールの **[ラベルと用語]** ウィンドウにあるスクリプトに含まれるデフォルトの表示値を変更します。

たとえば、**enumeration-labels.properties** スクリプトでは、変更要求のインパクトの重大度（「[変更要求]-カレンダービュー」（114 ページ）を参照）を示す色を定義できます。

	9 金	10 土	11 日

要求 ID: C-00000051
 インパクトの重大度: 中
 リスク: 低い
 衝突の重大度: 衝突なし
 実施担当者: Maimon, Amnon; CA 3, CA 3
 計画開始日時: 2010 7 月 08 木 午前 11:50
 計画終了日時: 2010 7 月 09 金 午後 06:50

HP Release Control ユーザーインターフェイスのラベルと用語の表示には、デフォルト言語として英語 (米国) が使用されます。現在、HP Release Control では英語のみがサポートされています。Language Builder を使用すれば、ラベルと用語を他のサポート対象言語に変換することができます。詳細については、『*HP Release Control Open Localization Toolkit User Guide*』を参照してください。（このドキュメントにアクセスするには、**[スタート]** > **[プログラム]** > **[HP Release Control 9.20]** > **[ドキュメント]** をクリックし、pdfs ディレクトリを開きます）。

このドキュメントは、HP Release Control DVD に収録されている Language Builder ツールをインストールすると参照可能になります。ラベルと用語を他の言語に変換する手順の詳細は、HP Software Support を参照してください。

注：文字列の変換が完了したら、HP Release Control のユーザーインターフェースの表示言語を変更してください（「[ユーザー ワークスペース] ウィンドウ」（34ページ）で示す言語設定の自動検出ボックスで、目的の言語を選択します）。

注：ラベルのプロパティで行った変更は、HP Release Control サーバーのサービスを再起動すると有効になります。ラベルのプロパティが更新されるのは、たとえば、列挙を **PriorityEnum.IMMEDIATE=即時** から **PriorityEnum.IMMEDIATE=致命的** に変更したような場合です。

詳細については、「[ラベルと用語] ウィンドウ」（494ページ）を参照してください。

リファレンス

[ラベルと用語] ウィンドウ

このウィンドウでは、HP Release Control において、ユーザーインターフェース要素のラベルと用語を表示する方法を変更します。

アクセス方法	[モジュール]>[管理者]>[構成]>[ラベルと用語]をクリックします。
重要な情報	<p>HP Release Control のユーザーインターフェースのラベルと用語の表示には、デフォルト言語として英語（米国）が使用されます。Language Builder を使用すれば、ラベルと用語を他のサポート対象言語に変換することができます。詳細については、<i>HP Release Control Open Localization Toolkit User Guide</i> を参照してください。（このドキュメントにアクセスするには、[スタート]>[プログラム]>[HP Release Control 9.20]>[ドキュメント]をクリックし、pdfs ディレクトリを開きます）。</p> <p>文字列の変換が完了したら、HP Release Control のユーザーインターフェースの表示言語を変更してください（「[ユーザー ワークスペース] ウィンドウ」（34 ページ）で示す言語設定の自動検出ボックスで、目的の言語を選択します）。</p>
関連項目	「[構成] タブのファイルの構成方法」（277 ページ）

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UI の要素	説明
ロケール	HP Release Control ユーザーインターフェースのラベルと用語の表示に使用するデフォルト言語。

[ラベルと用語] ウィンドウを以下に説明します。

UIの要素	説明
customizable-labels.properties	<p>HP Release Controlで使用するビジネス用語を、デフォルトの表示値にマッピングします。このファイルに含まれるビジネス用語は、HP Release Controlでの表示方法を個別に変更できます。</p> <p>たとえば、変更対象外という期間の名前を、対象外に変更するとします。</p> <p>これには、行</p> <p>timeperiod.type.neutraltochanges.label=変更対象外</p> <p>を次のように変更します。</p> <p>timeperiod.type.neutraltochanges.label=対象外</p>

UIの要素	説明
<p>enumeration-labels.properties</p>	<p>HP Release Control で構成済みの列挙フィールドを、デフォルトの表示値にマッピングします。このファイルに含まれる列挙フィールドは、HP Release Control での表示方法を個別に変更できます。</p> <p>たとえば、クローズ済みというステータス表示を、完了に変更するとします。</p> <p>これには、行</p> <p>StatusEnum.CLOSED=クローズ済み</p> <p>を次のように変更します。</p> <p>StatusEnum.CLOSED=完了</p> <p>また、重大度レベルを示すアイコンの色も変更できます。たとえば、重大度レベル高いのアイコンの表示色を、オレンジではなく赤に変更するには、行</p> <p>SeverityEnum.High.color=orange</p> <p>を次のように変更します。</p> <p>SeverityEnum.High.color=red</p> <p>注：色アイコン自体を変更することはできません。使用できる色には、red、orange、yellow、green_yellow、green、grayがあります。</p> <p>HP Release Control アプリケーションのデフォルトでは、最上位または親レベルの変更要求は変更、2 番目のレベルまたは子レベルの変更要求はタスクと表示されます。これ以外の階層レベルの要求は、不明となります。この用語を変更するには、enumeration-labels.properties ファイルで次の行を変更します。</p> <p>LevelEnum.1=変更</p> <p>LevelEnum.2=タスク</p> <p>LevelEnum.Level.UNKNOWN=不明</p> <p>注：等号 (=) の左側にあるデフォルトキーは変更しないでください。変更可能なのは、等号 (=) の右側にある値のみです。</p>

UIの要素	説明
fields-labels.properties	<p>HP Release Controlのフィールドを、デフォルトの表示値にマッピングします。このファイルに含まれるフィールドは、HP Release Controlでの表示方法を個別に変更できます。たとえば、[計画開始日時]フィールドの名前を[開始予定時刻]に変更するとします。これには、行</p> <pre>fields.planned-start-time.label=計画開始日時</pre> <p>を次のように変更します。</p> <pre>fields.planned-start-time.label=開始予定時刻</pre> <p>注: 等号(=)の左側にあるデフォルトキーは変更しないでください。変更可能なのは、等号(=)の右側にある値のみです。</p>
override-labels.properties	<p>HP Release Controlのラベルをデフォルト値にマッピングするリソースファイルは、<HP Release Control installation directory>\RC500\apps\WEB-INF\lib\<ccm-l10n-*.jar files>に格納されています。</p> <p>override-labels.properties スクリプトを使用することによって、ccm-l10n-*.jar ファイルにあるデフォルトのラベル値を上書きできます。</p> <p>注: デフォルトでは、override-labels.properties スクリプトファイルは空です。</p> <p>デフォルトのラベル値を上書きするには :</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 関連する <ccm-l10n-*.jar> ファイルに含まれる文字列を編集します。たとえば、[期間]フィールドの名前を「変更対象期間」に変更する場合、行 <pre>admin.main.timePeriodsSettings.title=期間</pre> <p>を次のように変更します。</p> <pre>admin.main.timePeriodsSettings.title=変更対象期間</pre> 2 期間のインスタンスがないかテキスト検索を行い、変更対象期間に変更します。 3 変更した文字列を override-labels.properties ファイルにコピーします。

第 17 章

モジュールの構成

本章の内容

概念

- ▶ 「通知構成の概要」 (499 ページ)
- ▶ 「レポート構成の概要」 (500 ページ)

タスク

- ▶ 「ダッシュボード設定の構成方法」 (501 ページ)

リファレンス

- ▶ 「値式」 (502 ページ)
- ▶ 「通知ルールの構成」 (503 ページ)
- ▶ 「モジュール構成のユーザーインターフェース」 (506 ページ)

概念

通知構成の概要

デフォルトでは、HP Release Control は、自動の電子メール通知とカスタマイズ以外の通知を送信します。ただし、HP Release Control を定期的に使用しないためにインパクト分析の結果として作成されるアクションアイテムの表示や監視を行わない可能性があるユーザーにも、通知を送信する設定を行うことをお勧めします。電子メール通知をカスタマイズすることで、ユーザーに関連するアプリケーションに悪影響を与える変更要求を通知することができます。カスタマイズ通知を送信する条件や通知の受信者は、**change-flow.js** スクリプト (管理者モジュールの [変更フロー スクリプト] ウィンドウ) で **getUsersToNotify** 関数を使用して定義します。詳細については、「[変更フロー スクリプト] ウィンドウ」 (308 ページ) を参照してください。

getUsersToNotify 関数を使用して通知を構成する方法の詳細は、「通知ルールの構成」(503 ページ) を参照してください。

通知を構成する方法の詳細と、HP Release Control が **ftl** ファイルで送信する電子メールの形式については、「[通知] ウィンドウ」(511 ページ) を参照してください。

レポート構成の概要

分析モジュールで HP Release Control が作成するレポートをカスタマイズできます。HP Release Control は、レポートエンジンとして JasperReports を使用します。

レポートのテンプレートファイルは、管理者モジュールの [レポート] ウィンドウにあります。レポートの説明は、「[レポート] ウィンドウ」(516 ページ) を参照してください。レポートテンプレートの編集には、iReport ツールを使用します。iReport ツールの最新バージョンは、<http://sourceforge.net/projects/ireport/> からダウンロードできます。

レポートのカスタマイズには、値式を使用します。詳細については、「値式」(502 ページ) を参照してください。

注：

- ▶ レポートの編集後、HP Release Control サーバーを再起動する必要はありません。
 - ▶ 分析モジュールでレポートを作成することによって、変更内容を確認できます。
-

タスク

ダッシュボード設定の構成方法

<HP Release Control インストールディレクトリ>\conf\

Dashboard_Objects_Export.xml ファイルには、ダッシュボードの HP Release Control デフォルトページの定義が含まれています。[モジュール]>[管理者]>[構成]>[統合]>[列挙] ウィンドウで承認待ちステータスまたはクローズ済みステータスを変更した場合、Dashboard_Objects_Export.xml ファイルでも代替のステータスまたは使用中のステータスを指定し、ファイルを更新する必要があります。

このタスクでは、クローズ済みステータスと承認待ちステータスを更新する方法を説明します。

本項の内容

- ▶ 「クローズ済みステータスの更新」(501 ページ)
- ▶ 「承認待ちステータスの更新」(502 ページ)

クローズ済みステータスの更新

1 Dashboard_Objects_Export.xml ファイルで以下の行を探します。

```
[CLOSED][Closed]
```

この行は、ファイル内に2回現れます。

- 2** [モジュール]>[管理者]>[構成]>[統合]>[列挙] で定義したステータスで、[CLOSED] を置換します。詳細については、「[列挙] ウィンドウ」(351 ページ)を参照してください。
- 3** [モジュール]>[管理者]>[構成]>[ラベルと用語] で上記ステータスに割り当てたラベルで、[Closed] を置換します。詳細については、「[ラベルと用語] ウィンドウ」(494 ページ)を参照してください。

承認待ちステータスの更新

1 `Dashboard_Objects_Export.xml` ファイルで以下の行を探します。

```
[PENDING_APPROVAL][Pending_Approval]
```

この行は、ファイル内に2回現れます。

2 [モジュール] > [管理者] > [構成] > [統合] > [列挙] で定義したステータスで、`[PENDING_APPROVAL]` を置換します。詳細については、「[列挙] ウィンドウ」(351 ページ) を参照してください。

3 [モジュール] > [管理者] > [構成] > [ラベルと用語] で上記ステータスに割り当てたラベルで、`[Pending_Approval]` を置換します。詳細については、「[ラベルと用語] ウィンドウ」(494 ページ) を参照してください。

リファレンス

値式

値式の定義では、レポートのパラメーター、変数、フィールドを使用できます。また、Java式を使用して、レポートをカスタマイズできます。

分析モジュールの一覧表示やカレンダー表示で生成されるレポートに使用するテンプレートの詳細は、「[レポート] ウィンドウ」(516 ページ) を参照してください。

チケットフィールド

JasperReports には、事前設定された **ticket** フィールドがあります。このフィールドには、最新の変更要求 (**GenericRFC** オブジェクトのラッパー) が格納されています。変更要求フィールドの1つから値を取得するには、次の式を使用します。

```
#{Ticket}.getFieldLabel(<"field name">)
```

次に例を示します。

```
#{Ticket}.getFieldLabel(<"summary">)
```

`{Ticket}` は、ラップされた **GenericRFC** オブジェクトを返します。HP Release Control API の **GenericRFC** クラスに含まれるメソッドを使用すると、これよりも複雑な式を指定できます。**GenericRFC** クラスの詳細は、**API_Reference.chm** ファイルを参照してください (API リファレンスにアクセスするには、[\[スタート\]](#) > [\[プログラム\]](#) > [\[HP Release Control 9.20\]](#) > [\[ドキュメント\]](#) をクリックし、**pdfs** ディレクトリを開きます)。

Java 式

レポートのカスタマイズには、Java 式を使用します。たとえば、ユーザーインターフェースで空白の値に **N/A** が表示される部分を、レポートでも **N/A** と表示するとします。これには、次の式を使用します。

```
((String){Ticket}.getFieldLabel(<field name>)).length() > 0) ?{Ticket}.getFieldLabel(<field name>) :$P{N/A}
```

上の例では、**`{N/A}`** は文字列値 **N/A** を含むパラメーターであり、データがない場合に表示されます。文字列値は、必要に応じて変更できます。

通知ルールの構成

change-flow.js スクリプトの **getUsersToNotify** 関数 ([\[モジュール\]](#) > [\[管理者\]](#) > [\[構成\]](#) タブ > [\[変更プロセス\]](#) > [\[変更フロー スクリプト\]](#)) では、次の内容を定義します。

- ▶ 通知を送信する条件
- ▶ 通知の受信者
- ▶ 通知メッセージの内容

getUsersToNotify 関数を有効にすると、HP Release Control は、デフォルトで、指定したステータスを持つ変更要求が新しく発生するたびに、これまでに収集した要求のバージョンと比較し、計算されたリスクが指定のしきい値を超えているかどうかを確認します。

```
function getUsersToNotify(prevChange, newChange, notificationContext) {
    return false;
    /*
    var statusIsPendingApproval = (newChange.getField("status") ==
        STATUS_PENDING_APPROVAL);

    var message = "";
    var riskStatusStr = "is ";

    var riskIncreased = true; // リスク増大を前提に開始 (変更が最初に到着した時点)

    if (prevChange != null) {
        riskIncreased = (newChange.getField("calculated-risk") >
            prevChange.getField("calculated-risk"));
        if (riskIncreased) {
            riskStatusStr = "has increased to ";
        }
    }

    var threshold = 0;
    var riskAboveThreshold = (newChange.getField("calculated-risk") > threshold);
```

注： リスク計算の詳細については、「リスク分析」(296 ページ) を参照してください。

計算したリスクが指定のしきい値を超えた場合、**getUsersToNotify** 関数のデフォルトバージョンは、インパクトの重大度が指定レベルを超えたアプリケーションに関連するすべてのユーザーに通知を送信するように、HP Release Controlに指示します。

```

if (statusIsPendingApproval && riskIncreased && riskAboveThreshold) {
    var message = "The current status of the request is " +
        newChange.getField("status").name +
        " and the calculated risk level of the request " +
        riskStatusStr +
        " " +
        newChange.getField("calculated-risk") +
        ".";

    // Severityが0 (VERY_LOW) を超える場合、この変更要求の関連ユーザーを追加。
    // 影響するすべてのユーザーに -1を送信させる :newChange.getAffectedusers()
    notificationContext.addUsers(newChange.getAffectedUsersAboveSeverity
    (SEVERITY_LOW));

    if (notificationContext.hasUsers()) {
        // この要求の影響を受けるユーザーが存在する場合、確認するように通知
        message = "This request potentially affects one or more applications for which
        you are registered " +

            "to receive notifications.\n" + message;
    }
}

```

このアプリケーションに関連付けられているユーザーが存在しない場合、**getUsersToNotify** 関数のデフォルトバージョンは、管理者への通知をHP Release Controlに指示します。

```

} else {
    notificationContext.addUsersByRole("Administrator");
    message = "HP Change Control Management has not identified specific users that" +
        "will be notified regarding this request." +
        "You are receiving this notification due to your role" +
        "as an HP Change Control Management administrator.\n" +
        message;
}

```

`getUsersToNotify` 関数で使用できるオブジェクトの説明は、`API_Reference.chm` ファイルの `notificationContext` クラスと `GenericRFC` クラスを参照してください (API リファレンスにアクセスするには、[\[スタート\]](#) > [\[プログラム\]](#) > [\[HP Release Control 9.20\]](#) > [\[ドキュメント\]](#) をクリックし、`pdfs` ディレクトリを開きます)。

モジュール構成のユーザーインターフェイス

本項の内容

- ▶ [「\[分析\] ウィンドウ」](#) (506 ページ)
- ▶ [「\[カレンダー\] ウィンドウ」](#) (508 ページ)
- ▶ [「\[グラフ\] ウィンドウ」](#) (510 ページ)
- ▶ [「\[通知\] ウィンドウ」](#) (511 ページ)
- ▶ [「\[レポート\] ウィンドウ」](#) (516 ページ)
- ▶ [「\[ダッシュボード\] ウィンドウ」](#) (517 ページ)
- ▶ [「\[ディレクター\] ウィンドウ」](#) (518 ページ)
- ▶ [「\[アラート\] ウィンドウ」](#) (518 ページ)

[分析] ウィンドウ

このウィンドウでは、分析モジュールのタブで使用されるデフォルトプロパティを定義します。

アクセス方法	[モジュール] > [管理者] > [構成] タブ > [モジュール] > [分析] をクリックします。
--------	--

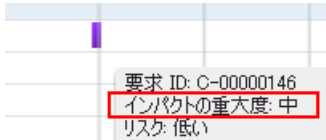
ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
変更の更新頻度	<p>[変更プランナー]ダイアログボックスと[コラボレーション]>[決議]タブにあると[変更の承認]ウィンドウで、更新頻度を設定します。</p> <p>デフォルト：5000(ミリ秒)</p>
インパクト検索結果の最大サイズ	<p>Release Controlで変更要求ごとに表示することができる、インパクトを受けるCIの最大数を定義します。この限界に達すると、次のメッセージが表示されます。</p> <p>インパクトを受けるCI(表示するCIが多すぎます。検索基準を絞り込んでください。)</p> <p>デフォルト：2000</p>
名前	分析モジュールのタブ名。
タブの表示	HP Release Controlのタブの表示/非表示を設定します。
先行読み込みの使用	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 選択すると、データが自動的に取得されます。 ▶ 選択しないと、要求された場合にのみデータが取得されます。

🔗 [カレンダー] ウィンドウ

このウィンドウでは、カラースキーマを定義することで、既存のフィールド値と色を関連付けることができます(「[変更要求]- カレンダービュー」(114ページ)と「<[変更要求サマリ チャート] ウィンドウ>」(117ページ))。

たとえば、インパクトの重要度の**中**に紫をマッピングすると、カレンダー表示の**日**モードまたは**週**モードで、インパクトの重要度が**中**の変更要求は紫で表示されます。グラフィック形式でフィールドを表示すると(「<[変更要求サマリ チャート] ウィンドウ>」(117ページ))、そのフィールドに該当する部分が紫で表示されます。



また、週の始まりの曜日や、1週間あたりの営業日数も定義できます。

アクセス方法	[モジュール]>[管理者]>[構成] タブ>[モジュール]>[分析]>[カレンダー] をクリックします。
関連項目	「[変更要求]- カレンダービュー」(114ページ)

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。



UIの要素	説明
フィールド別の色	マッピングするフィールド。値を色にマッピングします。
デフォルトの色	値に色が定義されていない場合に、フィールド値のマッピングに使用する色。 デフォルト : Gray
週初の曜日	週の最初の曜日を設定します。 デフォルト : 月曜日

UIの要素	説明
営業日数	1週間の営業日数を指定します。

[カレンダー色マッピング] ウィンドウ

このウィンドウでは、既存のフィールド値を色にマッピングします（「[変更要求]-カレンダービュー」(114ページ)と「<[変更要求サマリ チャート] ウィンドウ>」(117ページ)）。

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
	構成を構成セットに追加。 [フィールド別の色] ボックスで選択したフィールドに、既存のフィールド値を追加します。
	構成を構成セットから削除。 選択したフィールド値とそれに関連付けられた色を削除します。
色	フィールド値に関連付ける色を定義します。[色] ボックスをクリックし、目的の色を選択します。色を定義しない場合、[カレンダー] ウィンドウの [デフォルトの色] ボックスで定義されているデフォルトの色にマッピングされます。
フィールド値	[フィールド別の色] リストから選択したフィールドに対して定義されている既存のフィールド値。 注： 指定したフィールド値が、[フィールド別の色] リストから選択したフィールドで有効であることを確認してください。 たとえば、[インパクトの重大度] フィールドに、[致命的]、[高い]、[中]、[低い] という値を定義するとします。[フィールド別の色] リストから [連絡先窓口] フィールドを選択すると、[致命的]、[高い]、[中]、[低い] という値は [連絡先窓口] フィールドでは有効ではないため、HP Release Control ではこの値は表示されなくなります。

[グラフ] ウィンドウ

分析モジュールで、変更要求の月次カレンダー表示を行うと、次の内容が表示されます。



- ▶ HP Release Control によって処理された変更要求を、選択された月の日付ごとに表示。
- ▶ 現在アクティブなフィルターに含まれる変更要求について、特定のフィールドのデータをグラフ表示。

このウィンドウでは、月次カレンダー表示に表示したいデータを含むフィールドを選択し、データを表示するデフォルトのグラフ形式を指定します。

カレンダーの詳細については、「[変更要求] - カレンダービュー」（114 ページ）を参照してください。

アクセス方法	[モジュール]>[管理者]>[構成] タブ>[モジュール]>[分析]>[グラフ] をクリックします。
---------------	--

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
	構成を構成セットに追加。 フィールドを追加します。
	構成を構成セットから削除。 選択したフィールドを削除します。 注： このウィンドウですべてのフィールドを削除すると、月次カレンダー表示でグラフは表示されなくなります。
有効	月次カレンダー表示でグラフ形式で表示するフィールドを選択します。 注： <ul style="list-style-type: none"> ▶ 有効にできるフィールドは最大4つです。 ▶ 有効なフィールドがないと、月次カレンダー表示でグラフは表示されなくなります。

UIの要素	説明
フィールド	カレンダー表示の <変更要求サマリチャート> でグラフ形式で表示するデータを含むフィールドを選択します。 注 : [有効] に定義したフィールドのみが、月次カレンダー表示で表示されます。
タイプ	データの表示形式を選択します。オプションは以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ Pie (円グラフ) ▶ Column (棒グラフ)

[通知] ウィンドウ

このウィンドウでは、通知のプロパティを構成します。

アクセス方法	[モジュール]>[管理者]>[構成] タブ>[モジュール]>[分析]>[通知] をクリックします。
関連項目	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「通知構成の概要」 (499 ページ) ▶ 「通知ルールの構成」 (503 ページ)

ユーザーインタフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
電子メール通知を有効にする	通知機能を有効または無効にします。 無効にすると、HP Release Control は通知を送信しません。
通知の寿命	拒否された電子メール (不明、または正しくない電子メールアドレスが記載された電子メールなど) をキューに保持する期間 (秒)。
通知ジョブ頻度	送信される電子メール通知間の間隔 (秒)。
送信者電子メールアドレス	デフォルトの通知送信者の電子メールアドレス。

<通知テンプレートウィンドウ>

[通知] ウィンドウでは、HP Release Controlが電子メールを送信する際の形式を **ftl** で構成できます。

<p>アクセス方法</p>	<p>[モジュール]>[管理者]>[構成] タブ>[モジュール]>[分析]>[通知]><通知テンプレート>をクリックします。</p> <p>注：このウィンドウでのファイルの編集の詳細は、「[構成] タブのファイルの構成方法」(277ページ)を参照してください。</p>
<p>重要な情報</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ FTLファイルは、FreeMarker構文を使って記述します。FreeMarkerの使い方の詳細は、http://freemarker.sourceforge.net/docs/index.htmlを参照してください。 ▶ FTLファイルで使用できるオブジェクトの詳しい説明は、API_Reference.chm ファイルを参照してください(APIリファレンスにアクセスするには、[スタート]>[プログラム]>[HP Release Control 9.20]>[ドキュメント]をクリックし、pdfsディレクトリを開きます)。 ▶ FTLファイルで使用できるHP Release Controlフィールドは、管理者モジュールの[フィールド]ウィンドウで定義されています。詳細については、「[フィールド]ウィンドウ」(353ページ)を参照してください。
<p>関連項目</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「通知構成の概要」(499ページ) ▶ 「通知ルールの構成」(503ページ)

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
<p>アクションアイテム HTMLテンプレート</p>	<p>[アクションアイテム]ウィンドウの[電子メールで転送(参考用)]ボタンをクリックしてユーザーが送信する電子メールの内容(HTML形式)を定義します。</p>
<p>アクションアイテム メール本文HTML テンプレート</p>	<p>[アクションアイテム]ウィンドウの[電子メールで転送(参考用)]ボタンをクリックしてユーザーが送信するアクションアイテム(HTML形式)を定義します。</p>

UIの要素	説明
アクションアイテム メール本文テキスト テンプレート	[アクション アイテム] ウィンドウの [電子メールで転送 (参考用)] ボタンをクリックしてユーザーが送信するアクションアイテム (テキスト形式) を定義します。
アクションアイテム メール件名テンプレート	電子メールの件名を定義します。HP Release Control がデフォルトで表示する件名は、<要求ID> - <要求のサマリ> (たとえば C-10020 - Upgrade database server) です。
アクションアイテム テキストテンプレート	[アクション アイテム] ウィンドウの [電子メールで転送 (参考用)] ボタンをクリックしてユーザーが送信する電子メールの内容を定義します。
CAB 招待HTML テンプレート	[変更要求] ウィンドウの [電子メールの送信] > [CAB 招待の送信] ボタンをクリックしたときに使用する、CAB ミーティングの参加者 (HTML形式) の一覧を定義します。
CAB 招待テキスト テンプレート	[変更要求] ウィンドウで [電子メールの送信] > [CAB 招待の送信] ボタンをクリックしたときに使用する、CAB ミーティングの参加者 (テキスト形式) の一覧を定義します。
CAB 議事録HTML テンプレート	[変更要求] ウィンドウで、[電子メールの送信] > [CAB 議事録の送信] ボタンをクリックしたときに使用する、CAB ミーティングの議事録 (HTML形式) を定義します。
CAB 議事録テキスト テンプレート	[変更要求] ウィンドウで [電子メールの送信] > [CAB 議事録の送信] ボタンをクリックしたときに使用する、CAB ミーティングの議事録 (テキスト形式) を定義します。
変更要求メール本文 HTML テンプレート	変更要求の更新通知を登録しているユーザーに対して送信する電子メール (HTML形式) の内容を定義します。
変更要求メール本文 テキストテンプレート	変更要求の更新通知を登録しているユーザーに対して送信する電子メールの内容を定義します。
変更要求メール件名 テンプレート	変更要求の更新通知を登録しているユーザーに対して送信する電子メールの件名を定義します。
自由テキスト専用HTML テンプレート	[コラボレーション] タブのディスカッション表示にある [電子メールの送信] ボタンをクリックしてユーザーが送信する電子メール (HTML形式) の内容を定義します。

UIの要素	説明
自由テキスト専用 テキストテンプレート	[コラボレーション] タブのディスカッション表示にある [電子メールの送信] ボタンをクリックしてユーザーが送信する電子メールの内容を定義します。
メール本文HTML テンプレート	HTML形式で送信する通知の内容を定義します。
メール本文テキスト テンプレート	テキスト形式で送信する通知の内容を定義します。
メール件名テンプレート	変更要求が発生した後、ユーザーに送信する電子メールの件名を定義します。
PIR招待HTML テンプレート	[変更要求] ウィンドウで [電子メールの送信] > [PIR 招待の送信] ボタンをクリックしたときに使用する、PIR ミーティングの参加者 (HTML形式) の一覧を定義します。
PIR招待テキスト テンプレート	[変更要求] ウィンドウで [電子メールの送信] > [PIR 招待の送信] ボタンをクリックしたときに使用する、PIR ミーティングの参加者 (テキスト形式) の一覧を定義します。
PIR議事録HTML テンプレート	[変更要求] ウィンドウで [電子メールの送信] > [PIR 議事録の送信] ボタンをクリックしたときに使用する、PIR ミーティングの議事録 (HTML形式) を定義します。
PIR議事録テキスト テンプレート	[変更要求] ウィンドウで [電子メールの送信] > [PIR 議事録の送信] ボタンをクリックしたときに使用する、PIR ミーティングの議事録 (テキスト形式) を定義します。
ユーザーメール本文 HTMLテンプレート	[変更要求] ウィンドウの [電子メールの送信] ボタンをクリックしてユーザーが送信する電子メール (HTML形式) の内容を定義します。
ユーザーメール本文 テキストテンプレート	[変更要求] ウィンドウの [電子メールの送信] ボタンをクリックしてユーザーが送信する電子メールの内容を定義します。

HP Release Control オブジェクト

上記のファイルは、デフォルトで次の HP Release Control オブジェクトを使用します。

オブジェクト	説明
notificationRuleSummary	change-flow.js スクリプトの getUsersToNotify 関数に含まれるメッセージを参照します。このメッセージは、ユーザーが通知を受け取った理由の説明を示しています。
freeTextBody	HP Release Control アプリケーションの [変更要求] ウィンドウから電子メールを送信する際に、ユーザーが入力するテキスト。
ScriptingActionItem	送信する通知のアクションアイテムオブジェクト。このオブジェクトを使用することにより、アクションアイテムプロパティをすべて参照できます。このオブジェクトで使用できるメソッドの詳細は、 API_Reference.chm ファイルの ScriptingActionItem クラスを参照してください。(API リファレンスにアクセスするには、[スタート]>[プログラム]>[HP Release Control 9.20]>[ドキュメント]をクリックし、 pdfs ディレクトリを開きます)。
request	通知を送信する要求オブジェクト。このオブジェクトを使用することにより、要求フィールドをすべて参照できます。このオブジェクトで使用できるメソッドの詳細は、 API_Reference.chm ファイルの GenericRFC クラスを参照してください (API リファレンスにアクセスするには、[スタート]>[プログラム]>[HP Release Control 9.20]>[ドキュメント]をクリックし、 pdfs ディレクトリを開きます)。
affectedCIs	変更要求によって影響を受ける CI の一覧を返します。

オブジェクト	説明
viewCis	特定の変更要求のインパクト分析のコンテキストで、CIに関する情報を返します。このオブジェクトで使用できるメソッドの詳細は、 API_Reference.chm ファイルの CI クラスを参照してください (APIリファレンスにアクセスするには、 [スタート]>[プログラム]>[HP Release Control 9.20]>[ドキュメント] をクリックし、 pdfs ディレクトリを開きます)。
affectedViews	変更要求によって影響を受けるビジネス CIの一覧を返します。
viewInfo	特定の変更要求のインパクト分析のコンテキストで、影響を受けるユーザーに関連付けられているビジネスCIの情報を返します。このオブジェクトで使用できるメソッドの詳細は、 API_Reference.chm ファイルの ViewInfo クラスを参照してください (APIリファレンスにアクセスするには、 [スタート]>[プログラム]>[HP Release Control 9.20]>[ドキュメント] をクリックし、 pdfs ディレクトリを開きます)。

[レポート] ウィンドウ

このウィンドウでは、分析モジュールの一覧表示やカレンダー表示で生成されるレポートのテンプレートを指定します。

アクセス方法	[モジュール]>[管理者]>[構成] タブ > [モジュール]>[分析]>[レポート] をクリックします。
重要な情報	値式の定義では、レポートのパラメーター、変数、フィールドを使用できます。また、Java式を使用して、レポートをカスタマイズできます。詳細については、「値式」(502ページ) を参照してください。
関連項目	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「[構成] タブの操作」 (275ページ) ▶ 「[レポートの詳細] ダイアログボックス」 (150ページ)

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
レポートしきい値	生成されるレポートに含めることができる変更要求の最大数。詳細については、「[レポートの詳細] ダイアログボックス」(150ページ)を参照してください。

[レポート] ウィンドウを以下に説明します。

UIの要素	説明
1ページレポート テンプレート	1ページのPDFまたはHTMLレポート作成用テンプレート。
変更レポート - HTMLと PDFテンプレート	1番目のレベルの変更を示すPDFまたはHTML一覧レポートを作成する際に使用するテンプレート。
タスクサブレポート テンプレート	2番目のレベルの変更を示すPDFまたはHTML一覧レポートを作成する際に使用するテンプレート。
変更レポート - Excel テンプレート	Excel形式で一覧レポートを作成する際に使用するテンプレート。

[ダッシュボード] ウィンドウ

このウィンドウには、**dashboard.settings** ファイルが含まれます。このファイルでは、HP Release Controlで使用される **user** と **administrator** という2つの役割を、それぞれ **users** と **administrators** ダッシュボードグループにマッピングし、各グループに割り当てる権限を定義します。このファイルには、[ダッシュボード] ページやポートレットの表示に関連する定義も含まれます。

アクセス方法	[モジュール]>[管理者]>[構成] タブ > [モジュール]>[ダッシュボード] をクリックします。
重要な情報	このファイルに含まれる定義は、変更しないでください。
関連項目	「[構成] タブの操作」(275ページ)

[ディレクター] ウィンドウ

このウィンドウでは、ディレクターモジュールの表示と非表示を設定します。

アクセス方法	[モジュール]>[管理者]>[構成] タブ>[モジュール]>[ディレクター]をクリックします。
関連項目	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「[構成] タブの操作」 (275 ページ) ▶ 「ディレクターモジュール」 (193 ページ)

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
ディレクターモジュール	ディレクターモジュールを非表示または表示にします。

[アラート] ウィンドウ

このウィンドウでは、ディレクターモジュールの [アラート] ウィンドウのアラート設定を構成します。

アクセス方法	[モジュール]>[管理者]>[構成] タブ>[モジュール]>[ディレクター]>[アラート]をクリックします。
重要な情報	構成の変更内容を有効にするには、HP Release Control サービスを再起動する必要があります。
関連項目	「[アラート] ウィンドウ」 (207 ページ)

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
アラート計算期間	<p>アラートエンジンを最初に稼働する際、2日間さかのぼってアラート計算が実行されるため(デフォルト設定)、システムに非常に大きな負荷がかかります。</p> <p>このオプションでは、アラートエンジンがアラートを計算する間隔を変更できます。</p> <p>デフォルト : 2日 (2880分)、分単位。</p>
アラートエンジン cron 式	<p>HP Release Control は、ディレクターモジュールのアラート更新に、アラートエンジンを使用します。このオプションでは、アラートエンジンの実行頻度を示す間隔を指定します。</p> <p>デフォルト : 1 (分単位)。cron 式では 0 0/1 *** ?</p> <p>例 :</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ エンジンを5分ごとに実行するには、値を 0 0/5 *** ? に変更します ▶ エンジンを30分ごとに実行するには、値を 0 0/30 *** ? に変更します <p>cron 式の詳細は、http://www.quartz-scheduler.org/documentation を参照してください。</p>
アラートエンジンを有効にする	<p>アラートエンジンを有効または無効にします。</p> <p>デフォルト : 有効</p>

UIの要素	説明
<p>変更-変更最小時間 ウィンドウ/最大時間 ウィンドウ</p>	<p>変更-変更最小時間ウィンドウと変更-変更最大時間ウィンドウ内でスケジューリングされているすべての作業について、緊急作業アラートと作業変更アラートが生成されます。</p> <p>さらに詳しい条件を説明します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 緊急作業アラートが生成されるのは、新しい作業が作成され、変更-変更時間ウィンドウ内で開始するようにスケジューリングされた場合です。 ▶ 作業変更アラートが生成されるのは、変更-変更時間ウィンドウ内にスケジュールが含まれる作業が変更された場合です。 <p>[変更-変更最小時間ウィンドウ]と[変更-変更最大時間ウィンドウ]とは、現在日時の前後の範囲または現在日時に近い時間枠です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [変更-変更最小時間ウィンドウ]は、現在日時までの時間を定義します。 時間枠の開始日時を、現在日時を基準に前(負の値)または後(正の値)で指定します(単位は分)。 デフォルト : -12時間 (-720分間)。分単位で指定します。 ▶ [変更-変更最大時間ウィンドウ]は、現在の日時からの時間を定義します。 時間枠の終了日時を、現在時刻を基準に前(負の値)または後(正の値)で指定します(単位は分)。 デフォルト : 24時間 (1440分間)。分単位で指定します。 <p>時間ウィンドウの最小値と最大値を示す例と、アラートが生成されるケースとされないケースについては、「アラートが生成されるケースとされないケース」(521ページ)を参照してください。</p>
<p>衝突アラートの 変更ステータス</p>	<p>選択したステータスを持つ作業のみについて、衝突関連のアラートを計算します。</p>

[アラート タイプ] ウィンドウ

このウィンドウでは、アラートを有効または無効に設定し、アラートを生成するタイミングをイベントの前後の時間 (分単位) で定義します。

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
アラートタイプ	アラートのタイプ。
有効	アラートを有効または無効にできます。
通知オフセット	アラートを生成するタイミングを、イベントの前または後の時間 (分単位) で指定します。

アラートが生成されるケースとされないケース

次の例は、時間ウィンドウの最小値と最大値を示す例と、アラートが生成されるケースとされないケースを示しています。

<p>シナリオ1 - アラートが生成されないケース</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 緊急作業の発生時刻：12:00 ▶ 時間ウィンドウ：最小 = +60、最大 = +120 ▶ 作業開始：12:10、作業終了：12:30 	
<p>シナリオ2 - アラートが生成されるケース</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 作業変更日時：12:00 ▶ 時間ウィンドウ：最小 = +60、最大 = +120 ▶ 作業開始：12:10、作業終了：13:30 	

<p>シナリオ3 - アラートが生成されるケース</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 緊急作業の発生時刻：12:00 ▶ 時間ウィンドウ：最小 = -60、最大 = +120 ▶ 作業開始：11:30:00、作業終了：11:45 	<p>Timeline diagram for Scenario 3:</p> <ul style="list-style-type: none"> Task (green bar): 11:30 (開始時刻) to 11:45 (終了時刻) Time Window (red bar): 11:00 (現在の時刻 - 60) to 14:00 (現在の時刻 + 120) Current Time (現在の時刻): 12:00
<p>シナリオ4 - アラートが生成されるケース</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 作業変更日時：12:00 ▶ 最小 = -60、最大 = +120 ▶ 作業開始：10:30:00、作業終了：15:00 	<p>Timeline diagram for Scenario 4:</p> <ul style="list-style-type: none"> Task (green bar): 10:30 (開始時刻) to 15:00 (終了時刻) Time Window (red bar): 11:00 (現在の時刻 - 60) to 14:00 (現在の時刻 + 120) Current Time (現在の時刻): 12:00

第 18 章

セキュリティの構成

本章の内容

概念

- ▶ 「Lightweight Single Sign-On 認証の概要」 (524 ページ)
- ▶ 「HP Release Control ユーザー認証の概要」 (524 ページ)
- ▶ 「ID 管理の使用」 (525 ページ)
- ▶ 「HP Release Control の ID マネージャー モードのアーキテクチャ」 (526 ページ)
- ▶ 「LDAP 認証の使用」 (527 ページ)
- ▶ 「HP Release Control の LDAP 認証アーキテクチャ」 (528 ページ)

タスク

- ▶ 「ID 管理モードの使用法」 (529 ページ)
- ▶ 「データベース認証モードでの動作」 (535 ページ)
- ▶ 「LDAP 接続プロパティの構成方法」 (535 ページ)
- ▶ 「HP Release Control と LDAP サーバー間の接続の設定方法」 (537 ページ)

リファレンス

- ▶ 「LW-SSO の制約」 (538 ページ)
- ▶ 「LW-SSO のセキュリティ警告」 (539 ページ)
- ▶ 「LW-SSO の重要な情報」 (540 ページ)
- ▶ 「セキュリティ構成のユーザーインターフェース」 (540 ページ)

概念

Lightweight Single Sign-On 認証の概要

シングルサインオンは、一度ログインするだけで、それ以降ログインプロンプトを表示せず、複数のソフトウェアシステムのリソースへのアクセスを可能にするアクセス制御方法です。ソフトウェアシステムで構成されたグループ内のアプリケーションは、認証を信頼するため、アプリケーション間を移動する際にもさらに認証する必要はありません。

HP Release Control では、デフォルトのシングルサインオン認証ストラテジーとして、Lightweight Single Sign-On (LW-SSO) を使用します。LW-SSO は HP Release Control に組み込まれており、認証用に外部のコンピューターを必要としません。

HP Release Control で LW-SSO を有効にする方法の詳細は、「[HP Lightweight SSO (LWSSO)] ウィンドウ」(552 ページ) を参照してください。

HP Release Control ユーザー認証の概要

HP Release Control では、次のいずれかのユーザー認証モードを構成できます。

- ▶ **ID マネージャー。**HP Release Control は、認証管理を行う ID 管理システムと連携できます。この例としては、Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) があります。ID 管理の使用方法の詳細は、「ID 管理の使用」(525 ページ) を参照してください。
- ▶ **LDAP。**HP Release Control は、ユーザー認証を行う Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) サーバーと直接連携します。ユーザー情報は LDAP 情報ディレクトリに格納され、クエリの処理やこのディレクトリの更新には LDAP サーバーが使用されます。詳細については、「LDAP 認証の使用」(527 ページ) を参照してください。
- ▶ **データベース。**HP Release Control は、ID 管理システムや LDAP を使用せずに、HP Release Control がすべてのユーザーを認証します。詳細については、「データベース認証モードでの動作」(535 ページ) を参照してください。

ID 管理の使用

ID 管理システムを使用すると、アプリケーションへのログインアクセスを制御する目的で、ユーザーアカウント情報を保持することができます。ID 管理システムが実装されている環境でユーザーがアプリケーションにアクセスしようとする、ID 管理システムはまず、ユーザー名やパスワードなどの資格情報を要求し、ユーザーを認証します。ユーザーの認証が完了すると、ID 管理システムは、ユーザーの ID と権限に基づいて、アプリケーションに対する適切なアクセスレベルを承認します。この方法では、重要なデータは適切な承認によって保護され、エンドユーザーの ID 情報も適切に格納されます。

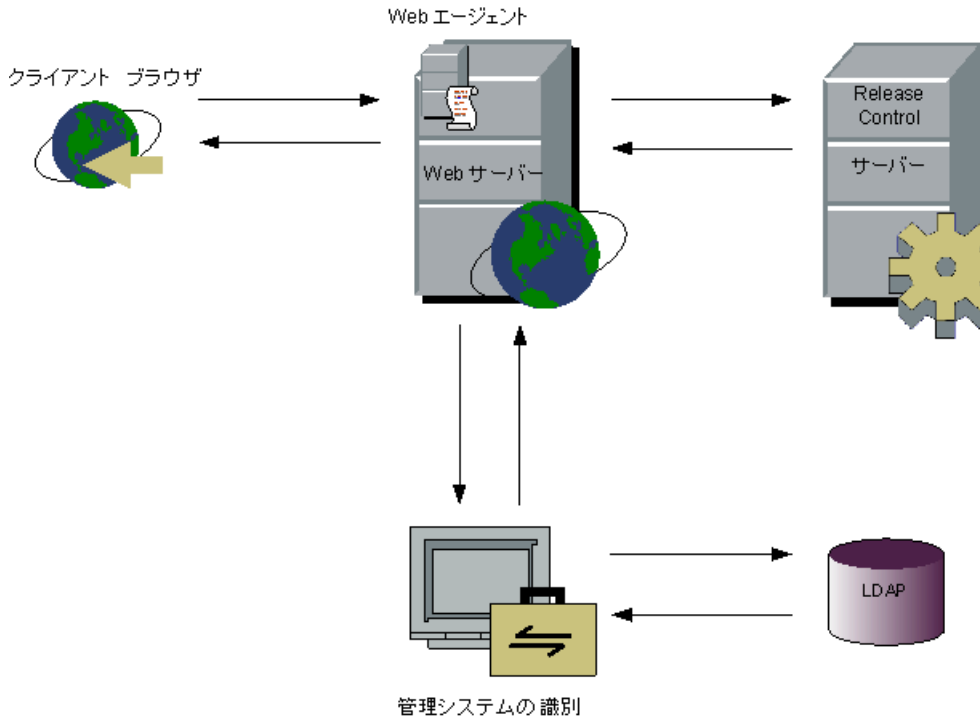
HP Release Control は、さまざまな ID 管理システムをサポートします。本書の構成サンプルでは、ID 管理システムとして CA SiteMinder 6.0 を使用しています。

ID マネージャーモードのアーキテクチャの詳細は、「HP Release Control の ID マネージャーモードのアーキテクチャ」(526 ページ) を参照してください。

ID 管理モードの使用方法の詳細には、「ID 管理モードの使用方法」(529 ページ) を参照してください。

HP Release Control の ID マネージャー モードのアーキテクチャ

次の図は、HP Release Control の ID マネージャーモードのアーキテクチャを示しています。



ID管理とHP Release Controlを組み合わせるには、Webサーバー (Microsoft Internet Information Services (IIS) またはApache HTTP Server のいずれか) と連携する構成でHP Release Controlを導入する必要があります。詳細については、『HP Release Control デプロイメントガイド』を参照してください。

ID管理 Web エージェントは、Web サーバー上にインストールされ、すべての Web クライアントのシングルアクセスポイントとして使用されます。この Web エージェントは、送信されてきた要求をすべて受け取り、確実に認証を行います。認証済みの要求のみが、HP Release Control に転送されます。

LDAP 認証の使用

HP Release Control では、ユーザー認証に LDAP を使用する構成を行うことができます。HP Release Control は、LDAP サーバーからユーザー ログイン情報を自動的に取得します。HP Release Control と LDAP は同期しているため、LDAP でユーザー情報が変更されると、次のユーザー ログイン時に HP Release Control に変更内容が反映されます。LDAP 認証の構成では、LDAP ユーザー グループを HP Release Control ユーザー役割にマッピングします。

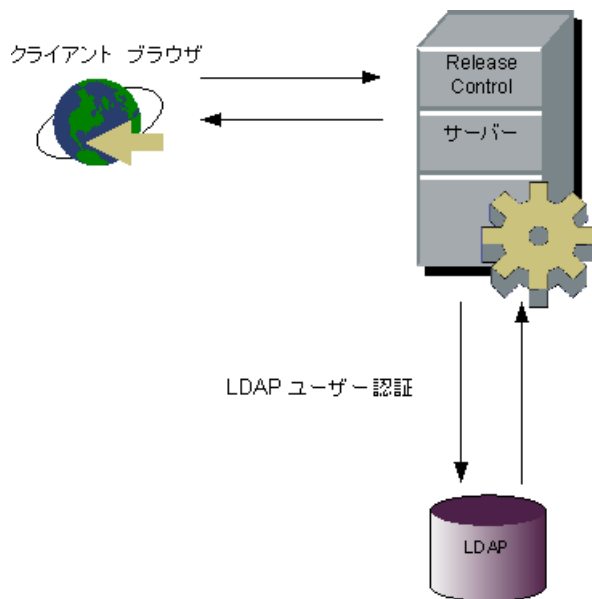
LDAP 認証アーキテクチャの詳細は、「HP Release Control の LDAP 認証アーキテクチャ」(528 ページ) を参照してください。

LDAP 認証の使用方法の詳細は、「LDAP 接続プロパティの構成方法」(535 ページ) を参照してください。

注: LDAP サーバーが匿名バインドを許可する場合、空のパスワードで HP Release Control へログインできます。

🔗 HP Release Control の LDAP 認証アーキテクチャ

次の図は、HP Release Control の LDAP 認証モードのアーキテクチャを示しています。



タスク

ID 管理モードの使用方法

HP Release Control と ID 管理システム (CA SiteMinder など) を組み合わせて使用するには、HP Release Control と ID 管理システム両方の構成が必要になります。ここでは、CA SiteMinder を例として使用していますが、各種 ID 管理システムにも同じ概念を適用することができます。

注意：セキュリティ設定を変更する場合は、HP Release Control 構成セットのエクスポートユーティリティを使用して、現在の構成セットをバックアップしてください。詳細については、「構成セットのエクスポート」(614 ページ) を参照してください。

HP Release Control の ID 管理モードの構成では、次の操作を行います。

- ▶ ID マネージャーとの連携のための HP Release Control の構成
- ▶ HP Release Control との連携のための ID マネージャーの構成
- ▶ 組織の管理者を HP Release Control に追加
- ▶ ID 管理モードでの操作

1 ID マネージャーとの連携のための HP Release Control の構成

HP Release Control と CA SiteMinder を組み合わせて使用するには、HP Release Control 管理者は次の手順を行う必要があります。

- a 認証モードを設定します。[モジュール]>[管理者]>[構成] タブ > [セキュリティ] > [認証] をクリックします。[認証] ウィンドウの [認証モード] 一覧から [ID マネージャー] を選択します。LDAP サーバーに接続するために必要なユーザーログイン情報を指定します。

- b** [モジュール]>[管理者]>[構成] タブ>[セキュリティ]>[認証]>[ID マネージャーモード] をクリックします。[ID マネージャーモード] ウィンドウで、次のユーザーログイン情報を定義します。

- ▶ 名ヘッダー
- ▶ 姓ヘッダー
- ▶ 電子メールヘッダー
- ▶ 要求エンコーディング

詳細については、「[ID マネージャーモード] ウィンドウ」(544 ページ) を参照してください。

- c** [ログアウト] ウィンドウを使用する場合は、CA SiteMinder 管理者に HP Release Control ログアウト URL を表示するように依頼してください。[モジュール]>[管理者]>[構成]>[セキュリティ] をクリックし、[ログアウト URL] フィールドに値を入力します。詳細については、「[セキュリティ] ウィンドウ」(541 ページ) を参照してください。
- d** 構成設定を保存および適用したら、HP Release Control サービスを起動します。

2 HP Release Control との連携のための ID マネージャーの構成

CA SiteMinder と HP Release Control を組み合わせて使用するには、CA SiteMinder 管理者は以下の手順を行う必要があります。

- a** Web エージェントのインストールと構成を行います。

HP Release Control サーバーコンピューターに Web エージェントをインストールし、HP Release Control リソースを保護する構成を行います。HP Release Control の使用を承認されたユーザーのみに、HP Release Control リソースへのアクセスを許可します。

Web エージェントのインストールと、リソース保護の構成についての詳細は、CA SiteMinder が提供している『*eTrust SiteMinder Web Agent Installation Guide*』を参照してください。

- b** CA SiteMinderを構成します。認証に成功すると返されるHTTPヘッダー要求に、次のヘッダーを追加します。
 - ▶ ログイン名ヘッダー
 - ▶ 名ヘッダー
 - ▶ 姓ヘッダー
 - ▶ 電子メールヘッダー

- c** HP Universal CMDB 変更フェデレーションアダプターとコマンド行ユーティリティを使用するには、CA SiteMinderへのログインで基本認証がサポートされていることを確認してください。

CA SiteMinderの [Authentication Scheme (認証スキーマ)] ダイアログで、**[Support non-browser clients (ブラウザを使用しないクライアントをサポート)]** チェックボックスをオンにします。

- d** [ログアウト]ウィンドウを構成します。[ログアウト]ウィンドウがない場合、HP Release Controlのログアウトウィンドウを使用するようにCA SiteMinderを構成してください。このウィンドウは、**[モジュール]>[管理者]>[構成]>[セキュリティ]**ウィンドウの**[ログアウト URL]**ボックスで定義されます。

3 組織の管理者をHP Release Controlに追加

HP Release Controlでは、デフォルトでユーザー1人が設定されています。ユーザー名は**admin**で、管理者権限が割り当てられています。ただし、このユーザーは、LDAP情報ディレクトリには存在しません。組織で実際に使用するHP Release Control管理者は、LDAPディレクトリにプロパティが保存されますが、出荷時にはHP Release Controlで設定されていないため、次の準備手順で追加する必要があります。組織の管理者をHP Release Controlに追加するには、次の手順を実行してください。

- a** ID管理モードのユーザーには、**[デフォルトの役割]**ボックスの役割が割り当てられ、デフォルトは**[System Administrator]**です。このように、最初にログインしたユーザーにはシステム管理者の権限が割り当てられます。

HP Release Controlで管理者として使用したい資格情報を持つユーザーで、HP Release Controlにログインします ([http://<server name>/ccm](http://<server_name>/ccm))。

- b** それ以降HP Release Controlにログインするユーザーには、通常のユーザー権限を割り当ててください。

これには、[モジュール]>[管理者]>[構成] タブ > [セキュリティ] > [認証] > [ID マネージャー] をクリックし、[デフォルトの役割] ボックス内の役割を [User] に変更します。

- c (オプション) **admin** ユーザーのパスワードを変更します。
- d 構成設定を保存および適用したら、HP Release Control サービスを起動します。

注：

- ▶ 上記の手順が完了したら、受信トラフィックについては、ファイアウォールで Tomcat サーバーポート (デフォルトは 8080) を閉じることができます (ローカルホストからのトラフィックに対しては Tomcat サーバーが開いていることを確認してください)。
 - ▶ HP Release Control から **admin** ユーザーを削除しないことをお勧めします。
-

4 ID 管理モードでの操作

ID マネージャーモードでは、ID 管理システムはすべてのユーザーを認証します。ユーザーの認証が完了すると、ID 管理システムは、HTTP ヘッダー要求でユーザー名、名、姓、住所などのユーザー プロパティを返します。HP Release Control は、このユーザーがすでに HP Release Control に存在するかどうかをチェックします。存在する場合、ユーザーの名、姓、住所を必要に応じて更新します。存在しない場合、通常のユーザー (役割は **User**) としてユーザーを HP Release Control に追加し、ID 管理システムによって提供されたプロパティを登録します。

注：

- ▶ HP Release Control 管理者が HP Release Control パスワードを設定するまでの間、作成されたユーザーは、データベース認証モードでは HP Release Control にログインできません。詳細については、「データベース認証モードでの動作」(535 ページ) を参照してください。
- ▶ ユーザーが HP Release Control に存在しない状態でユーザー関連の操作 (アクション アイテムをユーザーに割り当てる操作など) を実行する場合には、インポートユーティリティを使ってユーザーを HP Release Control に追加することができます。このユーティリティ操作の構成の詳細については、「ユーザーのインポート」(620 ページ) を参照してください。

ID 管理モードでは、ユーザーと HP Release Control 管理者には次のような制限があります。

- ▶ ユーザーは、ユーザー名、パスワード、名、姓、電子メールアドレスを変更できません。
- ▶ HP Release Control 管理者は、管理者モジュールを使用して HP Release Control にユーザーを追加することはできません。
- ▶ HP Release Control 管理者は、HP Release Control に存在する任意のユーザーのユーザー名、パスワード、名、姓、電子メールアドレスを変更できません。

5 ユーティリティ実行時にIDマネージャーモードのコマンド行オプションを使用

ユーティリティを実行する際、HP Release ControlがIDマネージャーモードで動作することを指定するには、コマンド行で **--im-mode** オプションを使用します。詳細については、「HP Release Control ユーティリティ」(608 ページ) を参照してください。

6 (オプション) HP Universal CMDBでccm_package.zipを再導入 (HP Release Controlをアップグレードし、変更構成アダプターを使用する場合のみ)

HP Release Controlバージョンをアップグレードしたら、**ccm_package.zip** ファイルをHP Universal CMDBに再度導入してください。詳細については、『*HP Release Control デプロイメントガイド*』の「HP Universal CMDBの構成」を参照してください。

7 IDマネージャーモードでフェデレーションアダプターを使用するための HP Release Controlの構成

HP Universal CMDBでフェデレーションアダプターを設定するには、資格情報の入力で、ユーザー名の前に {IMMODE} を指定します。

次に例を示します。{IMMODE}<username>

フェデレーションアダプターの構成については、『*HP Universal CMDB 開発者向け参考情報ガイド*』を参照してください。

データベース認証モードでの動作

HP Release Control では、ID 管理またはLDAP ユーザー認証ソリューションの他に、HP Release Controlのデータベース認証モードを使用できます。

データベース認証モードを使用するには：

- 1 Tomcat サーバーポート (デフォルトは8080) が閉じている場合は、再度開きます。
- 2 [モジュール]>[管理者]>[構成] タブ > [セキュリティ]>[認証] ウィンドウの [認証モード] 一覧でHP Release Control 認証モードを [データベース] に設定し、HP Release Control サービスを再起動します。
- 3 ユーザー名とパスワードに **admin** を指定し、HP Release Control (<http://<サーバー名>:<Tomcatサーバーポート>/ccm>) にログインします。
- 4 必要に応じてユーザーを追加し、初期パスワードを設定します。ID管理モードで追加したユーザーのパスワードを設定することも可能です。追加したユーザーは、HP Release Controlの通常認証モードを使用して、HP Release Controlにログインします。詳細については、「ユーザープリファレンス」(27ページ) を参照してください。

LDAP 接続プロパティの構成方法

このタスクでは、HP Release ControlでLDAP認証を使用するために必要となるLDAPパラメーターの設定方法を説明します。

- 1 LDAPサーバーをセットアップします。
- 2 認証モードを設定します。
 - a [モジュール]>[管理者]>[構成] タブ > [セキュリティ]>[認証] をクリックします。
 - b [認証] ウィンドウの [認証モード] 一覧から [LDAP] を選択します。
 - c LDAPサーバーに接続するために必要なユーザーログイン情報を指定します。

- 3 [モジュール]>[管理者]>[構成] タブ>[セキュリティ]>[認証]>[LDAP モード] をクリックします。[LDAP モード] ウィンドウで、次のユーザーログイン情報を定義します。

- ▶ 名ヘッダー
- ▶ 姓ヘッダー
- ▶ 電子メールヘッダー

詳細については、「[LDAP モード] ウィンドウ」(545 ページ) を参照してください。

- 4 [LDAP グループから Release Control 役割へのマッピング] で、LDAP ユーザーグループを HP Release Control の役割にマッピングします。[モジュール]>[管理者]>[構成] タブ>[セキュリティ]>[認証]>[LDAP モード] をクリックします。

LDAP ユーザーグループの [グループ名] を指定し、1 つまたは複数の [HP Release Control 役割] を選択します。

- 5 定義が変更された時点でグループマッピングを同期するかどうかを指定します。[モジュール]>[管理者]>[構成] タブ>[セキュリティ]>[認証]>[LDAP モード] をクリックします。次のように [同期する役割] チェックボックスを設定します。

- ▶ ユーザーを別の LDAP グループに変更したとき、HP Release Control の新しい役割に自動マッピングする場合は、[同期する役割] チェックボックスをオンにします。
- ▶ ユーザーを別の LDAP グループに変更したとき、元の役割のまま使用する場合は、[同期する役割] チェックボックスをオフにします。この場合、役割を変更するには HP Release Control クライアントを使用する必要があります。

- 6 groups セクションで定義されているどのグループにも該当しない場合に、役割のマッピング先となるユーザーを指定します。[モジュール]>[管理者]>[構成] タブ>[セキュリティ]>[認証]>[LDAP モード] をクリックし、[デフォルトの役割] 一覧からデフォルトとして使用する役割を選択します。[デフォルトの役割] 一覧からデフォルトで使用する役割を選択すると、LDAP 認証では、LDAP グループに属さないユーザーでも HP Release Control へのアクセスが可能になり、デフォルトの役割が割り当てられます。

注： デフォルトの役割またはマッピングされた役割のいずれか一方に、**editConfiguration** 権限が必要です。デフォルトでは、**System Administrator** という役割に **editConfiguration** 権限が割り当てられます。

HP Release Control と LDAP サーバー間の接続の設定方法

ldap.properties ファイルを使用して、HP Release Control と LDAP サーバー間の接続を設定します。

HP Release Control のインストールでは、サンプルの **ldap.properties** ファイルが 2 つ提供されます。これらのファイルには、HP Release Control と LDAP サーバー間の接続を設定するための詳細な手順が含まれています。

このタスクでは、HP Release Control と LDAP サーバー間の接続を **ldap.properties** ファイルを使用して設定する方法について説明します。

1 [モジュール]>[管理者]>[構成] タブ > [セキュリティ] > [認証] > [LDAP モード] > [LDAP サーバー プロパティ] をクリックします。LDAP 情報は右側のウィンドウに追加できます。

2 <HP Release Control インストールディレクトリ>\examples\ldap-examples ディレクトリに移動し、次のいずれかの手順を実行します。

- ▶ LDAP Active Directory を扱う場合は、**ldap.properties.AD** ファイルの内容を右側ウィンドウにコピーします。
- ▶ LDAP SUN One を扱う場合は、**ldap.properties.SO** ファイルの内容を右側ウィンドウにコピーします。

注： 他の LDAP サーバーを扱う場合は、このいずれかの例をテンプレートとして使用できます。

- 3 必要なLDAP情報を設定し、ファイルを保存します。

注 : SSLを使用する構成をLDAPサーバーで行っている場合、`ldap.properties` ファイルで `enableSSL = true` を設定し、HP Release Control Java 仮想マシン (JVM) にセキュリティ証明書をインストールしてください。

リファレンス

LW-SSO の制約

ここでは、LW-SSO構成での制約について説明します。

▶ **アプリケーションへのアクセス :**

- ▶ クライアントがアプリケーションにアクセスする際には、次の例のように、ログインURLで完全修飾ドメイン名 (FQDN) を指定する必要があります。
`http://flood.mercury.global:8080/WebApp`

- ▶ LW-SSOでは、IPアドレス、つまりドメインなしのURLはサポートされていません。

▶ **負荷分散装置の構成 :**

負荷分散装置でLW-SSOを使用する場合、スティッキーセッションを使用する構成を行う必要があります。

▶ **マルチドメインのサポート :**

- ▶ マルチドメイン機能は、HTTPリファラーを使用します。したがって、LW-SSOは、アプリケーション間のリンクをサポートしますが、アプリケーションが同一ドメイン内にある場合を除き、URLをブラウザウィンドウに入力する機能はサポートしていません。

- ▶ マルチドメイン環境での保護 (HTTPS) ページから非保護 (HTTP) ページへのリンク :

保護 (HTTPS) ページから非保護 (HTTP) ページへのリンクでは、マルチドメインは機能しません。

▶ Internet Explorer でのサードパーティ Cookies の動作 :

Microsoft Internet Explorer 6 には、「Platform for Privacy Preferences (P3P) プロジェクト」をサポートするモジュールが付属しています。これは、サードパーティドメインから送信された Cookies を、「インターネット」のセキュリティゾーンでデフォルトでブロックする機能です。Internet Explorer は、セッション Cookies もサードパーティ Cookies とみなしてブロックするため、LW-SSO は動作できなくなります。詳細については、<http://support.microsoft.com/kb/323752/en-us> を参照してください。

この問題を解決するには、起動したアプリケーション (つまり DNS ドメインサブセットが *.mydomain.com) を、コンピューターの「インターネット」/「信頼済み」ゾーンに追加します (Microsoft Internet Explorer で、[ツール] > [インターネットオプション] > [セキュリティ] > [ローカルイントラネット] > [サイト] > [詳細] をクリック)。これにより、Cookies が受信されるようになります。

注意 : LW-SSO セッション Cookie は、ブロックされたサードパーティアプリケーションが使用する Cookies として認識されます。

▶ Internet Explorer 7 を使用する場合のマルチドメインログアウト機能 :

マルチドメインのログアウト機能は、Internet Explorer 7 を使用する環境や、アプリケーションがログアウトプロシージャで HTTP 302 リダイレクトの動詞を 4 つ以上連続して実行する場合、エラーが発生することがあります。

このようなケースでは、Internet Explorer 7 は HTTP 302 リダイレクト応答を誤って処理し、その結果「Internet Explorer ではこのページは表示できません」というエラーページが表示されることがあります。

エラーを回避するためには、可能であれば、アプリケーションがログアウトプロシージャで実行するリダイレクトコマンドの数を減らすことをお勧めします。

LW-SSO のセキュリティ警告

ここでは、LW-SSO 構成に関連するセキュリティ警告について説明します。

LW-SSO の initString 機密パラメーター :

LW-SSOは、対称暗号方式に基づいてLW-SSOトークンの検証と生成を行います。構成に含まれる **initString** パラメーターは、秘密キーの初期化に使用されます。アプリケーションがトークンを生成すると、同じ **initString** パラメーターを使用する各アプリケーションがトークンを検証します。

注：

- ▶ LW-SSOを使用するには、**initString**パラメーターを設定する必要があります。
 - ▶ **initString**パラメーターは機密情報であり、公開、転送、維持において機密扱いにしてください。
 - ▶ **initString** パラメーターの共有は、LW-SSO を使用して相互に統合されるアプリケーション間のみ限定してください。
 - ▶ **initString**パラメーターは12文字以上です。
-

LW-SSOの重要な情報

ここでは、LW-SSOに関する重要な情報について説明します。

- ▶ **GMT時間。**LW-SSOによる統合に参加するアプリケーションはすべて、最大時差15分の同じGMT時間を使用します。
- ▶ **マルチドメイン機能。**LW-SSO統合に参加するアプリケーションが異なるDNSドメインにある場合、マルチドメイン機能を使用するには、参加するすべてのアプリケーションで**[保護されたドメイン]**の設定を行う必要があります (**[モジュール]** > **[管理者]** > **[構成]** タブ > **[セキュリティ]** > **[HP Lightweight SSO (LWSSO)]** ウィンドウをクリック)。

セキュリティ構成のユーザーインターフェース

本項の内容

- ▶ 「**[セキュリティ]** ウィンドウ」 (541 ページ)
- ▶ 「**[認証]** ウィンドウ」 (542 ページ)

- ▶ 「[データベース モード] ウィンドウ」 (542 ページ)
- ▶ 「[ID マネージャーモード] ウィンドウ」 (544 ページ)
- ▶ 「[LDAP モード] ウィンドウ」 (545 ページ)
- ▶ 「[LDAP サーバー プロパティ] ウィンドウ」 (547 ページ)
- ▶ 「[HP Lightweight SSO (LWSSO)] ウィンドウ」 (552 ページ)

[セキュリティ] ウィンドウ

このウィンドウでは、ログアウト後にアプリケーションをリダイレクトする URL を定義し、ユーザー名やパスワードの入力なしでコンピューターにログインするための構成を行います。

アクセス方法	[モジュール]>[管理者]>[構成] タブ>[セキュリティ] をクリックします。
関連タスク	「ID 管理モードの使用方法」 (529 ページ)
関連項目	「ID 管理の使用」 (525 ページ)

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UI の要素	説明
ログアウト URL	ログアウト後にアプリケーションをリダイレクトする URL。 デフォルト : /ccm/imresources/ccmLogout.html
ユーザー名の保存を有効にする	最初のページから HP Release Control へのログイン時に、[ユーザー名の保存] を選択できます。選択すると、次回このコンピューターにログインする際、ユーザー名とパスワードを入力する必要がなくなります。

[認証] ウィンドウ

このウィンドウでは、HP Release Control が動作する認証モードを定義します。

アクセス方法	[モジュール]>[管理者]>[構成] タブ > [セキュリティ]>[認証] をクリックします。
関連タスク	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「ID管理モードの使用方法」 (529ページ) ▶ 「データベース認証モードでの動作」 (535ページ) ▶ 「LDAP 接続プロパティの構成方法」 (535ページ)
関連項目	「HP Release Control ユーザー認証の概要」 (524ページ)

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
認証モード	<p>HP Release Control が動作するユーザー認証モードとして、次のいずれかを構成できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ データベース ▶ LDAP ▶ IDマネージャー

[データベース モード] ウィンドウ

このウィンドウでは、データベース認証モードを使用する場合の HP Release Control のセキュリティ要件を構成します。

アクセス方法	[モジュール]>[管理者]>[構成] タブ > [セキュリティ]>[認証]>[データベース モード] をクリックします。
---------------	--

関連タスク	「データベース認証モードでの動作」(535ページ)
関連項目	「HP Release Control ユーザー認証の概要」(524ページ)

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
パスワード最小長	パスワードで指定できる最小文字数を指定します。デフォルトは、1文字以上です。
パスワード最大長	パスワードで指定できる最大文字数を指定します。この数値は25より大きくなければなりません。 デフォルト : 50
パスワード検証パターン	ユーザーパスワードで指定できる文字を正規表現で指定します。たとえば、任意の大文字、小文字、数字をパスワードで指定できるようにするには、 <code>^[A-Z,a-z,0-9]\$</code> と指定します。
パスワード検証パターンのエラーメッセージ	許可されていない文字がパスワードに含まれている場合に表示するエラーメッセージのタイプ。
ユーザー名最大長	ユーザー名で指定できる最小文字数を指定します。この数値は25より大きくなければなりません。 デフォルト : 50
ユーザー名最小長	ユーザー名で指定できる最大文字数を指定します。 デフォルト : 1
ユーザー名検証パターン	ユーザー名に含めることができる文字を正規表現で指定します。たとえば、任意の大文字、小文字、数字をユーザー名で指定できるようにするには、 <code>^[A-Z,a-z,0-9]\$</code> と指定します。

UIの要素	説明
ユーザー名検証パターンのエラーメッセージ	許可されていない文字がユーザー名に含まれている場合に表示するエラーメッセージのタイプ。

[ID マネージャーモード] ウィンドウ

ID マネージャーシステムと HP Release Control を組み合わせて使用する場合、ID マネージャーの構成を行う必要があります。このウィンドウでは、認証が成功した後で返される HTTP ヘッダー要求に追加するヘッダーを指定します。

アクセス方法	[モジュール]>[管理者]>[構成] タブ > [セキュリティ] > [認証] > [ID マネージャーモード] をクリックします。
関連タスク	「ID 管理モードの使用方法」(529 ページ)
関連項目	「ID 管理の使用」(525 ページ)

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
電子メールヘッダー	ユーザーの電子メールアドレスを含みます。
名ヘッダー	ユーザーの名を含みます。
姓ヘッダー	ユーザーの姓を含みます。
ログイン名ヘッダー	ユーザーが HP Release Control ログイン時に使用するユーザー名を含みます。
要求エンコーディング	ID 管理で使用するエンコーディングの値。 デフォルト : ISO-88591

[LDAPモード] ウィンドウ

このウィンドウでは、HP Release ControlがLDAPモードで動作するための構成を行います。

アクセス方法	[モジュール]>[管理者]>[構成] タブ>[セキュリティ]>[認証]>[LDAPモード]をクリックします。
関連タスク	「LDAP 接続プロパティの構成方法」(535ページ)
関連項目	「LDAP認証の使用」(527ページ)

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。



UIの要素	説明
デフォルトの役割	<p>いずれのLDAPユーザーグループにもマッピングされていないユーザーに割り当てられる、HP Release Controlのデフォルトのユーザー役割。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [デフォルトの役割] 一覧からデフォルトの役割を選択すると、LDAP 認証では、LDAP グループに属さないユーザーでもHP Release Controlへのアクセスが可能になり、デフォルトの役割が割り当てられます。 ▶ LDAP 認証では、いずれのLDAPグループにも属さないユーザーは、デフォルトの役割を選択しないとHP Release Controlにログインできません。
電子メールヘッダー	ユーザーの電子メールアドレスが格納されているLDAP属性名。
名ヘッダー	ユーザーの名が格納されているLDAP属性名。
姓ヘッダー	ユーザーの姓が格納されているLDAP属性名。

UIの要素	説明
同期する役割	<p>定義が変更された場合に、グループマッピングを同期するかどうかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ユーザーを別の LDAP グループに変更したときに、HP Release Control の新しい役割に自動マッピングする場合は、このチェックボックスをオンにします。 ▶ ユーザーを別のLDAPグループに変更したとき、元の役割のまま使用する場合は、このチェックボックスをオフにします。この場合、役割を変更するにはHP Release Control クライアントを使用する必要があります。 <p>デフォルト：未選択</p>

[LDAP グループから HP Release Control 役割へのマッピング] ウィンドウ

このウィンドウでは、LDAP ユーザーグループを HP Release Control ユーザー役割にマッピングします。

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
	構成を構成セットに追加。 別のLDAPユーザーグループを HP Release Control ユーザー役割にマッピングします。
	構成を構成セットから削除。 選択した行を削除します。
LDAPグループ名	LDAP ユーザーグループの名前。
Release Controlの役割	LDAP ユーザーグループにマッピングする HP Release Control ユーザー役割を選択します。

[LDAP サーバー プロパティ] ウィンドウ

このウィンドウでは、**ldap.properties** ファイルを使用して、HP Release Control と LDAP サーバー間の接続を設定します。

HP Release Control のインストールでは、サンプルの **ldap.properties** ファイルが 2 つ提供されます。これらのファイルには、HP Release Control と LDAP サーバー間の接続を設定するための詳細な手順が含まれています。

- ▶ LDAP Active Directory で作業している場合、<HP Release Control インストールディレクトリ>\examples\ldap-examples にある **ldap.properties.AD** ファイルをローカルディレクトリにコピーします。
- ▶ LDAP SUN One で作業している場合、<HP Release Control インストールディレクトリ>\examples\ldap-examples にある **ldap.properties.SO** ファイルをローカルディレクトリにコピーします。

ファイルの変更方法の詳細については、「[構成] タブのファイルの構成方法」(277 ページ) を参照してください。

ldap.properties ファイル に含まれる接続の詳細については、「ldap.properties ファイルに含まれる接続プロパティ」(548 ページ) を参照してください。

アクセス方法	[モジュール]>[管理者]>[構成] タブ>[セキュリティ]>[認証]>[LDAP モード]>[LDAP サーバー プロパティ] をクリックします。
関連タスク	「HP Release Control と LDAP サーバー間の接続の設定方法」(537 ページ)
関連項目	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「LDAP 認証の使用」(527 ページ) ▶ 「HP Release Control の LDAP 認証アーキテクチャ」(528 ページ) ▶ 「[構成] タブの操作」(275 ページ)

ldap.properties ファイルに含まれる接続プロパティ

ここでは、**ldap.properties** ファイルに含まれる接続プロパティについて説明します。

接続プロパティ	説明
管理者パスワード	最初の LDAP 接続を確立する際に使用する管理者パスワード。 注: <code>useAdministrator</code> オプションが <code>false</code> に設定されている場合、このパラメーターは必要ありません。
管理者のユーザー名	最初の LDAP 接続を確立する際に使用する管理者のユーザー名。 注: <code>useAdministrator</code> オプションが <code>false</code> に設定されている場合、このパラメーターは必要ありません。
BATCHSIZE	結果が返される前に受信する必要があるチャンクの最小サイズを示します。 注: このパラメーターは、LDAP 応答時間にのみ影響を与えます。
dynamicGroupsClass	動的グループの情報を格納するために使用されるオブジェクトクラス。
dynamicGroupsDescriptionAttribute	動的グループの説明を格納するために使用される属性。
dynamicGroupsDisplayNameAttribute	動的グループの表示名を格納するために使用される属性。
dynamicGroupsMemberAttribute	動的グループのメンバーを定義する検索 URL を格納するための属性。
dynamicGroupsMemberAttribute	動的グループの名前を格納するために使用される属性。
enableDynamicGroups	動的グループと静的グループのユーザーを検索するように、HP Release Control に指示します。
enableNestedGroups	サブグループのすべてのユーザーを繰り返し検索するように、HP Release Control に指示します。 注: インスタンスは、グループの検索フィルターによって返されます。

接続プロパティ	説明
enableSSL	このパラメーターを選択すると、LDAP サーバーへの接続に SSL が使用されます。
groupsBase	LDAP ディレクトリ内のグループの検索で使用する識別名 (DN)。
groupsDescription Attribute	グループの説明を格納するために使用します。
groupsDisplayNameAttribute	グループの表示名を格納するために使用します。
groupsFilter	LDAP グループ検索で返すインスタンスを示します。
groupsMembers Attribute	グループのメンバー情報を格納するために使用します。
groupNameAttribute	グループ名を格納するために使用します。
groupsObjectClass	静的グループの情報の格納に使用されるオブジェクトクラス。
groupsScope	グループ検索の範囲は、次のいずれかです。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ SCOPE_SUB。グループのベースの下のサブツリーを検索します。 ▶ SCOPE_ONE。グループのベースの下で、サブツリーの最初のレベルのみを検索します。 ▶ SCOPE_BASE。サブツリーのルートのみを検索します。 注 ：グループのベースは、 groupsBase 属性で定義します。
ldapHost	LDAP サーバーを実行するコンピューターのホスト名。
maximalAllowed GroupsHierarchyDepth	グループ階層で許容される深さの最大値を定義します。負の値を指定すると、深さは無制限になります。 注 ：このパラメーターが有効になるのは、 enableNestedGroups パラメーターが true に設定されている場合のみです。

接続プロパティ	説明
MAXBACKLOG	BATCHSIZE の値が 0 以外の場合、バッチの結果を待つキューのサイズを指定します。 注 ：このパラメーターは、LDAP 応答時間にのみ影響を与えます。
ldapPort	LDAP サーバーのポート番号。 enableSSL が true に設定されている場合、このポートは SSL 接続で使用されます。
REFERRALS	LDAP のオブジェクトには、必要な情報を格納している別の LDAP を参照するだけのものがあります。このプロパティを選択すると、 REFERRALS_HOP_LIMIT パラメーターで指定された数に達するまで、検索の後に自動的に参照が行われます。選択しないと、ホップ数を越えた場合に、必要な検索結果がすべて返されないことがあります。
REFERRALS_HOP_LIMIT	例外が発生して検索が終了するまで、実行する参照の回数を指定します。
rootGroupsBase	LDAP ディレクトリ内のルートグループの検索で使用する識別名 (DN)。
rootGroupsFilter	LDAP 検索で返されるインスタンスを示します。
rootGroupsSearch Scope	ルートグループ検索の範囲は、次のいずれかです。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ SCOPE_SUB。グループのベースの下のサブツリーを検索します。 ▶ SCOPE_ONE。グループのベースの下で、サブツリーの最初のレベルのみを検索します。 ▶ SCOPE_BASE。サブツリーのルートのみを検索します。 注 ：グループのベースは、 rootGroupsBase 属性で定義します。
SIZELIMIT	1 回の検索で LDAP が返す結果の総数の上限を指定します。
TIMELIMIT	1 回の検索に LDAP が使用する時間の上限を指定します。

接続プロパティ	説明
usersBase	LDAPディレクトリ内のユーザーの検索で使用する識別名 (DN)。
usersDisplayName Attribute	ユーザーの表示名を格納するために使用される属性。
usersFilter	LDAPユーザー検索で返されるインスタンスを示します。
useAdministrator	true に設定すると、 Administrator username パラメーターと Administrator password パラメーターで指定した管理者のユーザー名とパスワードを使用して、LDAP接続が生成されます。 true に設定しないと、LDAP接続はユーザー名とパスワードなしで作成されます。 注 ：v2ゲストユーザーはライブラリでサポートされません。
usersObjectClass	ユーザー情報の格納に使用されるオブジェクトクラス。
usersScope	ユーザー検索の範囲は、次のいずれかです。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ SCOPE_SUB。グループのベースの下のサブツリーを検索します。 ▶ SCOPE_ONE。グループのベースの下で、サブツリーの最初のレベルのみを検索します。 ▶ SCOPE_BASE。サブツリーのルートのみを検索します。 注 ：ユーザー検索のベースは、 usersBase 属性で定義します。
usersUniqueIDAttribute	ユーザーの実際のログイン名を格納します。 注 ：DN検索機能と認証機能は、この属性が一意であることを前提とします。

[HP Lightweight SSO (LWSSO)] ウィンドウ

このウィンドウでは、HP Release ControlでLW-SSOを有効にします。

アクセス方法	[モジュール]>[管理者]>[構成] タブ >[セキュリティ]>[HP Lightweight SSO (LWSSO)] をクリックします。
関連項目	「Lightweight Single Sign-On 認証の概要」(524 ページ)

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
ドメイン	(オプション) HP Release Control サーバードメインを指定します。指定しない場合、HP Release Control は自動的に値を割り当てます。
初期化文字列	LW-SSO と統合するすべての信頼済みアプリケーションが共有する文字列を指定します。
保護されたドメイン	(オプション) HP Release Control サーバードメインを1つ以上指定します。信頼済みアプリケーションが別のドメインにある場合、そのドメインをすべてここで定義してください。

第 19 章

サーバーの構成

本章の内容

概念

- ▶ 「複数テナントの構成の概要」 (554 ページ)
- ▶ 「クラスター導入の概要」 (556 ページ)

タスク

- ▶ 「HP Release Control サーバーの複数テナント向けの構成方法 (SaaSのみ)」 (558 ページ)
- ▶ 「HP Release Control のクラスター導入のセットアップ方法」 (560 ページ)
- ▶ 「サーバー構成のユーザーインターフェース」 (571 ページ)

リファレンス

- ▶ 「サーバー構成のユーザーインターフェース」 (571 ページ)

概念

複数テナントの構成の概要

注: 複数テナントは、特にSaaSプロバイダー向けに提供されている構成オプションです。

HP Release Controlサーバーが複数のクライアント組織(テナント)にサービスを提供する構成を行うことができます。

このような環境では、各HP Release ControlテナントはHP Universal CMDB顧客IDにマッピングされます。サービスデスクの変更要求チケットは、テナント割り当てフィールドの値に基づいて、HP Release Controlのテナントに割り当てられます。

複数のテナントが割り当てられているユーザーがHP Release Controlへログインすると、テナント名を選択するプロンプトが表示されます。選択したテナントに、変更要求チケットが割り当てられます。

システムへのログイン後にテナントを変更する場合、ログアウトする必要はありません。画面右上の[ログアウト]ボタンの左にあるテナント選択オプションから、目的のテナントを選択します(下の図を参照)。資格情報を入力しなくても、HP Release Controlに再度ログインできます。



注：

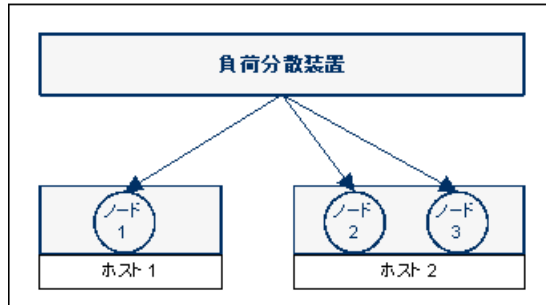
- ▶ ユーザーに関連付けられているテナントが 1 つのみの場合には、テナント選択オプションは表示されません。
 - ▶ HP Release Control での **テナント** という表示値は、**customizable-labels.properties** ファイルで変更できます ([**モジュール**] > [**管理者**] > [**構成**] タブ > [**ラベルと用語**] を選択)。詳細については、「ラベルと用語の構成トピック」(491 ページ) を参照してください。
-

複数テナント環境では、HP Release Control の基本構成は、すべてのテナントで共通です。

複数テナント向けのサーバー構成の詳細は、「HP Release Control サーバーの複数テナント向けの構成方法 (SaaS のみ)」(558 ページ) を参照してください。

🔗 クラスタ導入の概要

HP Release Control サーバーは、複数のノードに導入できます。同じ物理コンピューターの複数のインスタンスまたは個別のコンピューターに、ノードのクラスタを導入できます。



注： クラスタを導入する方法の詳細は、「HP Release Control のクラスタ導入のセットアップ方法」(560 ページ) を参照してください。

負荷分散装置

クライアント要求は、**負荷分散装置**によってノード間に分散されます。クラスタ導入では、負荷分散装置がシステムへのエントリーポイントとなり、ユーザーは負荷分散装置の URL 経由で HP Release Control にアクセスします。

HP Release Control には、ソフトウェア負荷分散装置のリファレンス実施が含まれていません。この負荷分散装置は、Web サーバーコンポーネント (Apache または IIS) と **mod_jk** コンポーネントで構成されています。ただし、ハードウェア負荷分散装置の使用をお勧めします。HP Release Control は、**スティッキーセッション**機能を備えるすべての負荷分散装置をサポートします。

クラスタリングの利点 - ユーザーキャパシティとサーバーの可用性

クラスタは、1 台のコンピューターまたは複数のコンピューター上で構成できますが、いずれの場合も HP Release Control の **同時ユーザーキャパシティ**は増大します。ただし、**サーバーの可用性**も向上したい場合には、複数のコンピューターにクラスタを導入する必要があります。

注意事項と制限

- ▶ 一部の構成変更では、HP Release Control サービスの再起動が必要となります。クラスターの導入では、クラスターに含まれるすべてのノードを再起動する必要があります。
- ▶ クラスター導入でフィールド設定を変更した場合 ([**モジュール**] > [**管理者**] > [**構成**] タブ > [**統合**] > [**フィールド**]), 1つを除くすべてのノードをシャットダウンする必要があります。上記の手順を実行しても、1つのノードが稼働状態のまま残るので、システムでダウンタイムは発生しません。

ノードをシャットダウンするのは、上記の構成によってデータベースのスキーマで変更が発生することがあるためです。このような構成変更を1つのノードで処理することによって、データベースモデルの再構成を各ノードで同期する必要がなくなります。

フィールド設定の変更をアクティブにするには：

- a 変更のドラフトを保存します。
 - b 1つを除き、クラスター内のすべてのノードをシャットダウンします。
 - c 残った1つのノード上で構成をアクティブにします。
 - d 他のノードを起動します。
- ▶ 1つのノード上でサービスデスクアダプターを構成していて、他のノードは別のコンピューターにインストールされている場合は、次の手順を実行してください。
 - a HP Release Control をいずれかのノードで実行中の場合は、HP Release Control サービスを停止します。
 - b **<serviceDeskName>-adapter-log4j.properties** ファイルを最初のノードの **conf** ディレクトリからもう一方のノードの **conf** ディレクトリにコピーします。
 - c **SDI-<serviceDeskName>** ディレクトリを最初のノードの **apps** ディレクトリからもう一方のノードの **apps** ディレクトリにコピーします。

タスク

HP Release Control サーバーの複数テナント向けの構成方法 (SaaSのみ)

注： このタスクは、特に SaaS プロバイダー向けの手順です。

ここでは、HP Release Control サーバーが複数のクライアント組織 (テナント) にサービスを提供するための構成を行う方法を説明します。構成オプションの詳細は、「複数テナントの構成の概要」(554 ページ) を参照してください。

このタスクでは、以下の手順を実行します。

- ▶ 「テナント割り当て用のカスタムフィールドの定義」(558 ページ)
- ▶ 「テナントの追加と割り当てフィールドの値の指定」(559 ページ)
- ▶ 「テナントと UCMDB 顧客 ID のマッピング」(559 ページ)
- ▶ 「ユーザーとテナントの関連付け」(560 ページ)

1 テナント割り当て用のカスタムフィールドの定義

- a サービスデスクでは、テナント割り当てフィールドとして使用するフィールドを指定してください。サービスデスクの変更要求チケットは、このフィールドの値に基づいて、HP Release Control のテナントに割り当てられます。さらに、各テナントにどの値を使用するかを選択してください。

注： Service Manager と連携している場合は、[会社] フィールドを選択し、複数テナントの使用を有効にします。

- b 上記で選択したサービスデスク割り当てフィールドを、HP Release Control のフィールドにマッピングします。HP Release Control のフィールドのタイプは、**Short Text** でなければなりません。

- ▶ HP Release Controlでのフィールド作成に関する詳細については、「フィールドと列挙設定の構成」(339ページ)を参照してください。
- ▶ サービスデスクフィールドをHP Release Controlフィールドにマッピングする方法の詳細は、「変換スクリプトの記述」(433ページ)を参照してください。

2 テナントの追加と割り当てフィールドの値の指定

[複数テナント] ウィンドウ ([モジュール]>[管理者]>[構成]>[サーバー]>[複数テナント]) では、テナントを新規追加し、各テナントを、テナント割り当てフィールドの値にマッピングすることができます。この値に基づいて、変更要求は関連するテナントに割り当てられます。

ユーザーインターフェースの詳細については、「[複数テナント] ウィンドウ」(577ページ)を参照してください。

3 テナントとUCMDB顧客IDのマッピング

[利用できる接続] ウィンドウの [UCMDB顧客IDからテナントへのマッピング] 領域 ([モジュール]>[管理者]>[構成]>[統合]>[HP Universal CMDB]>[利用できる接続]><HP Universal CMDB server name>) で、テナントをHP Universal CMDB顧客IDに関連付けます。

注: 複数テナントを、同じHP Universal CMDB構成を持つ複数の顧客IDに関連付けることや、異なるHP Universal CMDB構成に異なるテナントを関連付けることができます。

HP Universal CMDB構成が複数存在する場合、構成はすべて同じバージョンでなければなりません。

ユーザーインターフェースの詳細については、「<使用可能な接続ウィンドウ>」(407ページ)を参照してください

4 ユーザーとテナントの関連付け

HP Release Control ユーザーを異なるテナントに関連付けるには、ユーザーインポーターユーティリティを使用します。このユーティリティは、定義済みのユーザーとユーザープロパティの一覧を、CSVファイルからHP Release Controlにインポートします。

CSVファイルの**TENANT**プロパティで、ユーザーと関連付けるテナント名を指定します。ユーザーは、複数のテナントに関連付けることができます。テナント名は、セミコロンで区切ります。次のCSVファイルエントリーの例では、John Doeが**customer1**と**customer2**という2つのテナントに関連付けられています。

```
USERNAME,PASSWORD,FIRST_NAME,LAST_NAME,EMAIL,BUSINESS_ID,TENANT,ROLE  
jdoe,1234,John,Doe,jon.doe@hp.com,jdoe,customer1;customer2,NOC
```

ユーザーインポーターユーティリティの詳細については、「ユーザーのインポート」(620ページ)を参照してください

HP Release Controlのクラスター導入のセットアップ方法

このタスクでは、複数のノード上でHP Release Controlを導入する方法を説明します。

このタスクでは、以下の手順を実行します。

- ▶ 「最初のノードでのHP Release Controlのインストールと構成」(561ページ)
- ▶ 「HP Release Controlサーバーでの負荷分散装置の構成」(561ページ)
- ▶ 「最初のノードでのネットワークトランスポートオプションの構成」(562ページ)
- ▶ 「追加ノードでのHP Release Controlのインストールと構成」(562ページ)
- ▶ 「負荷分散装置の構成」(563ページ)

1 最初のノードでのHP Release Controlのインストールと構成

最初のノードでは、通常の導入方法に従ってHP Release Controlをインストールし、初期構成を行います。HP Release Controlのインストールと初期構成の詳細は、『*HP Release Control デプロイメントガイド*』を参照してください。

最低限必要な作業は、製品のインストールとデータベース構成です。ただし、HP Universal CMDB 接続、サービスデスク統合設定、カスタムフィールド、カスタム列挙設定など、基本的な構成手順はすべて実行することをお勧めします。

注：一部の構成変更では、HP Release Controlサービスの再起動が必要となります。ただし、この時点ではシングルノードの再起動のみを行います。クラスターの導入後に構成を変更した場合には、クラスター全体を再起動する必要があります。

2 HP Release Controlサーバーでの負荷分散装置の構成

- a [モジュール]>[管理者]>[構成]>[サーバー]をクリックして、[サーバー]ウィンドウで次の設定を行います。
 - ▶ **サーバー名。** 負荷分散装置のホスト名 (完全ドメイン) またはIPアドレスを入力します。
 - ▶ **サーバーアドレス。** 負荷分散装置のURLを指定します。
- b 構成の変更を保存し、適用します (「構成変更の保存方法と適用方法」(277ページ)を参照してください)。

3 最初のノードでのネットワークトランスポートオプションの構成

マルチキャストトランスポートとユニキャストトランスポートのいずれかを構成できます。

a トランスポートのタイプを選択します。

[モジュール]>[構成]>[サーバー]>[クラスター]をクリックし、[クラスタートランスポート]ボックスでマルチキャストまたはユニキャストのいずれかを選択します。

b トランスポート設定を構成します。

▶ **マルチキャストトランスポートを選択した場合**、[マルチキャスト クラスター] ウィンドウ ([モジュール]>[管理者]>[構成]>[サーバー]>[クラスター]>[マルチキャスト クラスター]をクリック) でトランスポート設定を行います。

ユーザーインターフェースの詳細については、「[マルチキャスト クラスター] ウィンドウ」(574ページ)を参照してください

▶ **ユニキャストトランスポートを選択した場合**、[ユニキャスト クラスター] ウィンドウ ([モジュール]>[管理者]>[構成]>[サーバー]>[クラスター]>[ユニキャスト クラスター]をクリック) でトランスポート設定を行います。

ユーザーインターフェースの詳細については、「[ユニキャスト クラスター] ウィンドウ」(575ページ)を参照してください

c 構成の変更を保存し、適用します(「構成変更の保存方法と適用方法」(277ページ)を参照してください)。

d HP Release Control サービスを再起動します。

4 追加ノードでのHP Release Controlのインストールと構成

同じ物理コンピューターの複数のインスタンスまたは個別のコンピューターに、ノードのクラスターを導入できます。

同じ物理コンピューターの複数インスタンスに、ノードのクラスターを導入するには：

ノード作成ユーティリティを実行します。詳細については、「同じコンピューター上でのHP Release Controlの複数インスタンスの導入」(564ページ)を参照してください

別のコンピューター上で追加ノードをインストールするには：

- a 新しいコンピューターに HP Release Control をインストールします。
- b **database.properties** ファイルを、最初のノードの **conf** ディレクトリから、新規ノードの **conf** ディレクトリにコピーします。
- c 最初のノード上でサービスデスクアダプターを構成した場合は、次の手順を実行してください。
 - ▶ HP Release Control をいずれかのノードで実行中の場合は、HP Release Control サービスを停止します。
 - ▶ **<serviceDeskName>-adapter-log4j.properties** ファイルを、最初のノードの **conf** ディレクトリから新規ノードの **conf** ディレクトリにコピーします。
 - ▶ **SDI-<serviceDeskName>** ディレクトリを最初のノードの **apps** ディレクトリから最初のノードの **apps** ディレクトリにコピーします。

5 負荷分散装置の構成

ハードウェアまたはソフトウェアによる負荷分散装置を構成できます。ただし、ハードウェア負荷分散装置の使用をお勧めします。

▶ 負荷分散装置を構成するには：

サードパーティ製の負荷分散装置で、**スティッキーセッション**の使用と、全ノードの要求ルーティングを構成します。

▶ ソフトウェア負荷分散装置を構成するには：

HP Release Control には、ソフトウェア負荷分散装置のリファレンス実施が含まれています。この負荷分散装置は、Web サーバーコンポーネント (Apache または IIS) と **mod_jk** コンポーネントから構成されています。

Apache Web サーバーでソフトウェア負荷分散装置を構成する例については、「負荷分散装置の構成」(567 ページ) を参照してください

同じコンピューター上での HP Release Control の複数インスタンスの導入

ここでは、ノード作成ユーティリティを使用して、同じ物理コンピューターの複数ノード上で HP Release Control を導入する手順を説明します。

注： ノードの作成では、そのノードの Windows サービスも作成します。この手順を省略し、後でサービスを作成することもできます。

- ▶ 「ノードの新規作成」 (564 ページ)
- ▶ 「既存ノードの削除」 (566 ページ)
- ▶ 「既存ノードで使用する Windows サービスの作成」 (566 ページ)
- ▶ 「既存ノードでの Windows サービスの削除」 (567 ページ)

ノードの新規作成

<HP Release Control インストールディレクトリ>\bin ディレクトリから、以下のコマンドを実行します。

```
createNode create -<ノードパラメーター>
```

以下のパラメーターを使用してノードを定義します。

- ▶ **-DnodeName**。新規ノードの名前です。この名前は、**servers** ディレクトリの下でのディレクトリ名と、Tomcat の `jvmRoute` として使用されます。

注： デフォルトのノード名は、**server-<n>** です。たとえば、最初のノードの名前は **server-0** となります。

- ▶ **-DtomcatPort**。Tomcat 制御ポート。server-0 では、これが 8005 に設定されます。
- ▶ **-DhttpPort**。Tomcat http ポート。server-0 では、これが 8080 に設定されます。

- ▶ **-DhttpsPort**。Tomcat https ポート。server-0 では、これが 8443 に設定されます。
- ▶ **-DajpPort**。Apach Java プロトコルポート。server-0 では、これが 8009 に設定されます。
- ▶ **-DjmxHttpPort**。JMX http ポート。server-0 では、これが 39900 に設定されます。
- ▶ **-DjmxRemotePort**。JMX リモートポート。server-0 では、これが 39600 に設定されます。
- ▶ **-DnodeDebugPort**。デバッグポート。server-0 では、これが 7878 に設定されます。
- ▶ **-DservicePrefix**。Windows では、作成されるノードのサービス名は **ReleaseControl <node-name>** となります。このパラメーターを使用して、プレフィックスを **ReleaseControl** から別のプレフィックスに変更します。
- ▶ **-Dskip.service**。任意の値に設定することで、Windows サービスの作成を省略できます。

注：別のコマンドを実行することによって、ノードの Windows サービスを後で作成することが可能です。詳細については、「既存ノードで使用する Windows サービスの作成」(566 ページ) を参照してください。

Windows サービスを作成しない場合、<HP Release Control インストールディレクトリ>\StartCcm-<server-name>.bat スクリプトで Tomcat サーバーを起動できます。

例：

```
createNode create -DnodeName=server-1 -DtomcatPort=9005 \  
-DhttpPort=9090 -DhttpsPort=9443 \  
-DajpPort=9009 -DjmxHttpPort=29900 \  
-DjmxRemotePort=29600 -DnodeDebugPort=7878
```

既存ノードの削除

<HP Release Control インストールディレクトリ>\bin ディレクトリから、以下のコマンドを実行します。

```
createNode remove-node -DnodeName=<nodeName>
```

<nodeName> には、削除する既存ノードの名前を指定します。

例 :

```
createNode remove-node -DnodeName=server-1
```

既存ノードで使用する Windows サービスの作成

ノードの新規作成時に Windows サービスを作成しなかった場合は、Windows サービスを別コマンドで作成できます。

<HP Release Control インストールディレクトリ>\bin ディレクトリから、以下のコマンドを実行します。

```
createNode create-service <ノード詳細>
```

以下のパラメーターを使用してノードを定義します。

- ▶ **-DnodeName**。 サービスを作成する既存ノードの名前。
- ▶ **-DjmxHttpPort**。 JMX http ポート。 server-0 では、これが 39900 に設定されます。
- ▶ **-DjmxRemotePort**。 JMX リモートポート。 server-0 では、これが 39600 に設定されます。
- ▶ **-DnodeDebugPort**。 デバッグポート。 server-0 では、これが 7878 に設定されます。
- ▶ **-DservicePrefix**。 Windows サービス名のプレフィックス。 デフォルトのプレフィックスは、**ReleaseControl** です。

例 :

```
createNode create-service -DnodeName=server-1 \  
-DjmxHttpPort=29900 \  
-DjmxRemotePort=29600
```

既存ノードでのWindowsサービスの削除

- a** <HP Release Control インストールディレクトリ>\binディレクトリから、以下のコマンドを実行します。

```
createNode remove-service -DnodeName=<nodeName>
```

<nodeName> には、サービスを削除する既存ノードの名前を指定します。

- b** <HP Release Control インストールディレクトリ>\serversディレクトリから、該当するノードファイルを削除します。

例：

```
createNode remove-service -DnodeName=server-1
```

負荷分散装置の構成

HP Release Control には、ソフトウェア負荷分散装置のリファレンス実施が含まれています。この負荷分散装置は、Webサーバーコンポーネント (Apache または IIS) と **mod_jk** コンポーネントから構成されています。

ここでは、Apache Webサーバーを使用してソフトウェア負荷分散装置を構成する方法を説明します。

このタスクでは、以下の手順を実行します。

- ▶ 「各ノードでのserver.xmlファイルの変更」 (568ページ)
- ▶ 「負荷分散装置として使用するノードを指定します。」 (568ページ)
- ▶ 「指定したコンピューターでのApacheとmod_jk.soのインストール」 (568ページ)
- ▶ 「負荷分散装置の構成」 (569ページ)
- ▶ 「結果」 (571ページ)

1 各ノードでの server.xml ファイルの変更

注： この手順は、クラスター内の各ノードで実行してください。

a <HP Release Control インストールディレクトリ>\tomcat\conf\server.xml ファイルを開きます。

b <Engine> をテキスト検索し、次の属性を追加します。

```
jvmRoute="<nodeName>"
```

<nodeName> には、ノード名を指定します。

たとえば、server-0 の場合は次の内容を追加します。

```
jvmRoute="server-0"
```

2 負荷分散装置として使用するノードを指定します。

HP Release Control をインストールしたノード、または HP Release Control がインストールされていない別ノードを使用できます。

3 指定したコンピューターでの Apache と mod_jk.so のインストール

a <HP Release Control インストールディレクトリ>\utilities\webServerConfigurer\apache ディレクトリの apache_2.2.9-win32-x86-openssl-0.9.8h-r2.msi を実行し、ウィザードの指示に従います。インストール先のノードを記録しておいてください。

b <HP Release Control インストールディレクトリ>\utilities\webServerConfigurer\modules ディレクトリから、mod_jk-1.2.28-httpd-2.2.3.so ファイルをコピーし、<Apache インストールディレクトリ>\modules ディレクトリに貼り付けます。

4 負荷分散装置の構成

- a** (Windowsのみ) 次の行を **httpd.conf** ファイルの最後に追加します。

```
Include conf.d/*.conf
```

- b** **conf.d** という名前のディレクトリを Apache インストールディレクトリの下に作成します。
- c** **rc-cluster.conf** という名前のファイルをこのディレクトリに作成し、次の例に従ってファイルを構成します (ホスト名とノード名を置換)。

```
LoadModule jk_module modules/mod_jk.so

LoadModule jk_module modules/mod_jk.so

JkLogLevel info
JkLogStampFormat "[%a %b %d %H:%M:%S %Y] "
JkLogFile logs/mod_jk.log

JkWorkerProperty worker.list=balancer,jkstatus,server-0

JkWorkerProperty worker.jkstatus.type=status

JkWorkerProperty worker.balancer.type=lb
JkWorkerProperty worker.balancer.balance_workers=server-0,server-1
JkWorkerProperty worker.balancer.sticky_session=true

JkWorkerProperty worker.server-0.type=ajp13
JkWorkerProperty worker.server-0.host=host1.example.com
JkWorkerProperty worker.server-0.port=8009
JkWorkerProperty worker.server-0.lbfactor=1

JkWorkerProperty worker.server-1.type=ajp13
JkWorkerProperty worker.server-1.host=host2.example.com
JkWorkerProperty worker.server-1.port=9009
JkWorkerProperty worker.server-1.lbfactor=1

JkMount /ccm/messagebroker/amfpolling server-0
JkMount /ccm/messagebroker/amfpolling/* server-0
JkMount /ccm/* balancer
JkUnMount /ccm/messagebroker/amfpolling balancer
JkUnMount /ccm/messagebroker/amfpolling/* balancer
JkMount /dashboard/* balancer
JkMount /rcdocs/* balancer
JkMount /jkmanager/* jkstatus

Redirect /rc /ccm/
```

注：ディレクターモジュールのグラフ機能を使用するには、LW-SSOのドメインを正しく設定し、完全修飾名でのドメイン名を使用してクライアントアクセスを行う必要があります。

- d Apacheを再起動します。

5 結果

負荷分散装置が稼働状態になります。稼働状態かどうかを確認するには、<http://balancer-host/jkmanager/> の負荷分散装置管理URLにアクセスしてください。

リファレンス

サーバー構成のユーザーインターフェース

本項の内容

- ▶ 「[サーバー] ウィンドウ」 (571 ページ)
- ▶ 「[クラスター] ウィンドウ」 (573 ページ)
- ▶ 「[マルチキャスト クラスター] ウィンドウ」 (574 ページ)
- ▶ 「[ユニキャスト クラスター] ウィンドウ」 (575 ページ)
- ▶ 「[複数テナント] ウィンドウ」 (577 ページ)

[サーバー] ウィンドウ

このウィンドウで以下を構成できます。

- ▶ HP Release Control 電子メール通知を送信する SMTP メールサーバーの接続プロパティ。
- ▶ HP Release Control アプリケーションサーバー名とアドレス。HP Release Control は、この設定に基づいて、電子メール通知から、HP Release Control アプリケーションの要求へのリンクを作成します。

- ▶ その他一般的な設定。

アクセス方法	[モジュール]>[管理者]>[構成]>[サーバー]をクリックします。
関連項目	「[構成] タブの操作」(275ページ)

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
クライアント タイムゾーン	このオプションを使用するのは、[クライアント タイム ゾーンの強制] オプションを選択した場合のみです。[クライアント タイム ゾーンの強制] オプションを選択すると、選択したタイムゾーン内での日時表示をすべてのユーザーに強制します。
デフォルトフィルター名	このデフォルトフィルターは、[モジュール]>[分析]>[変更要求]の[フィルター] ウィンドウと、システムへのログイン時に[モジュール]>[ディレクター]>[コントロール]の[作業]ボックスで使用されます。
クライアント タイムゾーンの強制	すべてのHP Release Controlユーザーが同じタイムゾーンで日時表示を行います。このタイムゾーンは、[クライアント タイム ゾーン]ボックスで選択したタイムゾーンです。 デフォルト ：未選択
サーバーアドレス	HP Release Controlサーバーアドレスを次の方法で指定してください。 ▶ HP Release Controlサーバーを1台インストールしている場合、このコンピューターのURLを指定します。 注 ：Webサーバーを使用している場合は、Webサーバーのポートを使用してください。 ▶ 負荷分散装置の背後で複数のHP Release Controlサーバーでクラスター構成を行っている場合は、負荷分散装置のURLを指定してください。
サーバー名	サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を指定します。 注 ： ▶ デフォルト値である localhost や IP アドレスは使用しないでください。 ▶ 負荷分散装置の背後で複数のHP Release Controlサーバーでクラスター構成を行っている場合は、負荷分散装置のドメイン名を指定してください。

UIの要素	説明
SMTPホスト	SMTP メールサーバーコンピューターのホスト名を入力します。
SMTPパスワード	SMTP メールサーバーへの接続に必要なパスワードを入力します。パスワードの暗号化が必要な場合は、「パスワードの暗号化」(623 ページ) でパスワードの暗号化の詳細を参照してください。
SMTPポート	SMTP メールサーバーへの接続に使用するポートを指定します。
SMTPユーザー名	SMTP メールサーバーに接続するために必要なユーザー名を指定します (必要に応じて)。
システム言語	HP Release Controlが使用するデフォルト言語。 デフォルト : 英語
表示するタイムゾーン	長い日付形式の場合に、日付にタイムゾーンを含めます。 デフォルト : 未選択

[クラスター] ウィンドウ

このウィンドウでは、クラスター導入で使用するトランスポートのタイプを選択します。

アクセス方法	[モジュール]>[管理者]>[構成]>[サーバー]>[クラスター]をクリックします。
関連タスク	「HP Release Control のクラスター導入のセットアップ方法」(560ページ)
関連項目	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「[構成] タブの操作」(275ページ) ▶ 「クラスター導入の概要」(556ページ)

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
クラスター トランスポート	クラスター導入で使用するトランスポートのタイプを選択します： <ul style="list-style-type: none"> ▶ クラスタートランスポートを無効にする。クラスターで HP Release Control を導入しない場合、このオプションを選択します。このオプションは、デフォルトで選択されます。 ▶ マルチキャストトランスポート。このオプションを選択する場合、[マルチキャスト クラスター] ウィンドウでマルチキャストトランスポートの詳細を構成してください（「[マルチキャスト クラスター] ウィンドウ」(574 ページ) を参照してください）。 ▶ ユニキャストトランスポート。このオプションを選択する場合、[ユニキャスト クラスター] ウィンドウでユニキャストトランスポートの詳細を構成してください（「[ユニキャスト クラスター] ウィンドウ」(575 ページ) を参照してください）。

[マルチキャスト クラスター] ウィンドウ

このウィンドウでは、クラスター導入でのマルチキャストトランスポートの詳細を構成します。

アクセス方法	[モジュール]>[管理者]>[構成]>[サーバー]>[クラスター]>[マルチキャスト クラスター] をクリックします。
重要な情報	このウィンドウが表示されるのは、[クラスター] ウィンドウ（[モジュール]>[管理者]>[構成]>[サーバー]>[クラスター]）で [マルチキャスト トランスポート] オプションを選択した場合のみです。
関連タスク	「HP Release Control のクラスター導入のセットアップ方法」(560 ページ)
関連項目	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「[構成] タブの操作」(275 ページ) ▶ 「クラスター導入の概要」(556 ページ)

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
マルチキャストアドレス	マルチキャスト IP アドレスを入力します。IP アドレスがない場合は、作成が可能です。マルチキャストアドレスの有効な IP アドレスは、クラス D の範囲内です。239.0.0.0/8 の範囲のアドレス、たとえば 239.0.0.1 などを使用することをお勧めします。 注： 既存のクラスター IP アドレスは使用しないでください。
マルチキャストポート	1025～65000 のポートをランダムに選択します。 例： 45566

[ユニキャスト クラスター] ウィンドウ

このウィンドウでは、クラスター導入でのユニキャストトランスポートの詳細を構成します。

アクセス方法	[モジュール]>[管理者]>[構成]>[サーバー]>[クラスター]>[ユニキャスト クラスター]をクリックします。
重要な情報	このウィンドウが表示されるのは、[クラスター]ウィンドウ([モジュール]>[管理者]>[構成]>[サーバー]>[クラスター])で[ユニキャスト トランスポート]オプションを選択した場合のみです。
関連タスク	「HP Release Control のクラスター導入のセットアップ方法」(560ページ)
関連項目	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「[構成] タブの操作」(275ページ) ▶ 「クラスター導入の概要」(556ページ)

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。



UIの要素	説明
ポート範囲	<p>同じコンピューター上で複数のノードを導入する場合、ノードを起動すると、最初に使用可能なポートが検索されます。</p> <p>ノードが使用可能かどうかを検索するポートの数を定義します。ノードは、[開始ポート] ボックスで定義したポート番号から、検索を開始します。</p>
開始ポート	<p>ノードの起動時に、使用可能かどうかを最初に検索するポート番号を定義します。</p>
静的アドレス	<p>クラスター内のすべてのノードの静的IPアドレスを入力します。</p> <p>例： ノード 1 が 10.0.0.1 上、ノード 2 が 10.0.0.2 上にあり、いずれもポート 7800 上にある場合、次の文字列を入力します。 10.0.0.1[7800],10.0.0.2[7800].</p>
タイムアウト	<p>1つのノードが別ノードからのメッセージ受信を待機する時間であり、この時間が経過するとタイムアウトが発生します。</p> <p>デフォルト： 3000 ミリ秒 (推奨値)</p>

[複数テナント] ウィンドウ

このウィンドウでは、HP Release Control サーバーが複数のクライアント組織 (テナント) にサービスを提供する構成を行います。

アクセス方法	[モジュール]>[管理者]>[構成] タブ > [サーバー] > [複数テナント] をクリックします。
重要な情報	このウィンドウは、SaaSプロバイダー専用です。
関連タスク	「HP Release Control サーバーの複数テナント向けの構成方法 (SaaSのみ)」 (558ページ)
関連項目	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「[構成] タブの操作」 (275ページ) ▶ 「複数テナントの構成の概要」 (554ページ)

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
	構成を構成セットに追加。 新しいテナントを追加します。
	構成を構成セットから削除。 選択したテナントを削除できます。
テナント割り当てフィールド	<p>変更要求チケットをテナントに割り当てる際の基準となる変更要求フィールドを選択します。</p> <p>注： Service Managerと連携している場合は、[会社] フィールドを選択し、複数テナントの使用を有効にします。</p>
テナント割り当てフィールドの値	テナント割り当てフィールドの値を指定します。この値に基づいて、変更要求チケットが [テナント名] 列のテナントに割り当てられます。
テナント名	テナントの名前を指定します。

第 20 章

期間の構成

本章の内容

概念

- ▶ 「期間の構成の概要」 (579 ページ)

タスク

- ▶ 「期間の定義方法」 (581 ページ)

リファレンス

- ▶ 「[期間] タブ」 (583 ページ)

概念

期間の構成の概要

期間は、さまざまなタイプのものを構成し、グループ化してカテゴリに分類することができます。HP Release Control は、各カテゴリで定義された条件に基づいて、処理済みの変更要求をカテゴリに割り当てます。

HP Release Control では、次のタイプの期間を構成できます。

- ▶ **変更対象期間。** 変更要求を実施できる期間。
- ▶ **ブラックアウト。** 変更要求を実施できない期間。

- ▶ **変更対象外**。休日など、要求の実施に直接影響しない外部イベントを示す期間。

期間の詳細は、「期間」(50ページ)を参照してください。

期間の定義について推奨される手順については、「期間の定義方法」(581ページ)を参照してください。

HP Release Control は、カテゴリに合致する変更要求のコンプライアンスを、そのカテゴリに関するルールに基づいて計算します。

構成された**変更対象期間**中に実施が予定されていない変更要求は、分析モジュールで**期間の競合**と表示されます。同様に、構成された**ブラックアウト**期間中に実施が予定されている変更要求は、**期間の競合**と表示されます。このような変更要求は、分析一覧表示の[異常]列にアイコンが表示されます。また、カレンダー表示にすると黒い枠が表示されます。



変更要求の実施日時が**変更対象期間**外または**ブラックアウト**期間内のいずれかでスケジュールされている場合、このような期間の競合を参照することができます。詳細については、「[評価]>[期間の競合]タブ」(97ページ)を参照してください。

注： 期間に適用するリスク因子を定義した後で期間設定を更新した場合、手動で再計算を実行することによって、新しい期間設定に基づいてリスクを計算することができます。詳細については、「[手動変更プロセスの起動]ダイアログボックス」(136ページ)を参照してください。

タスク

期間の定義方法

このタスクでは、期間を定義する際に推奨される手順について説明します。

本項の内容

- ▶ 「変更対象期間とブラックアウト期間」 (581 ページ)
- ▶ 「フィルターの定義」 (581 ページ)
- ▶ 「期間カテゴリの定義」 (583 ページ)

1 変更対象期間とブラックアウト期間

期間では、変更要求を実施できるまたはできない時間帯を定義します。

期間を定義する際には、組織で使用する変更対象期間とブラックアウト期間を確認しておくことをお勧めします。



- ▶ 変更対象期間は、変更要求を実施できる期間です。たとえば、会社の Web サイトを土曜日の 5:00 PM から日曜日の 11:00 PM までの時間帯にのみ変更を許可するように、変更対象期間を定義することができます。



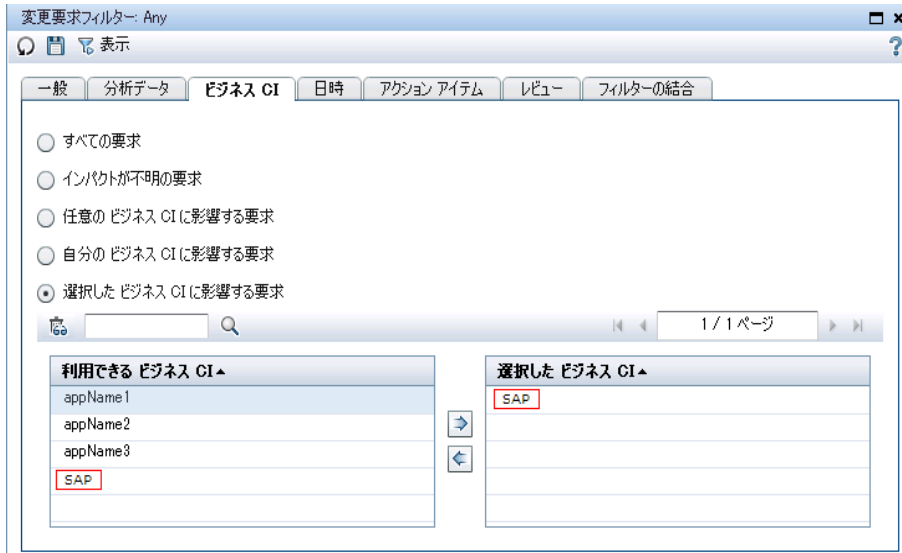
- ▶ ブラックアウト期間は、変更要求を実施できない期間です。たとえば、会計四半期の最終日後の第 1 日目から、四半期の業績に関するプレスリリースを発表するまでの間、会社の Web サイトの変更を制限するように、ブラックアウト期間を定義することができます。

2 フィルターの定義

組織で使用する変更対象期間またはブラックアウト期間に関連するフィルターを定義します。

たとえば、SAP アプリケーションの変更が必要な組織では、インパクト分析の結果が特定のビジネス CI に影響を与えるものを特定し、そのような変更要求を表示するフィルターを作成することができます。そのためには、SAP アプリケーションに関連付けられているビジネス CI を含むフィルターを定義します。

[変更要求フィルター] ダイアログボックスの [ビジネス CI] タブでは、フィルターに含めるビジネスCIを選択します。次の例では、SAPビジネスCIを選択しています。



フィルターの作成方法の詳細は、「[作業フィルター]/[変更要求フィルター] ダイアログボックス」(165ページ)を参照してください。

フィルターを保存する際には、適切な名前 (sap_application など) を付けてから、[期間フィルター] チェックボックスをオンにします。このフィルターは、管理者モジュールの [期間] タブにある [一致する変更: フィルター] ボックスに表示されるので、期間カテゴリの定義で選択できます。

注: ただし、[期間フィルター] チェックボックスを選択できない場合もあります。フィルターを期間フィルターとして保存できるケースについては、「期間フィルター」(190ページ)を参照してください

期間の定義の詳細は、「期間の構成の概要」(579ページ)を参照してください。

3 期間カテゴリの定義

フィルターを作成したら、変更対象期間とブラックアウト期間にそれぞれ期間カテゴリを定義します。変更対象期間とブラックアウト期間のタイプが複数存在する場合は、それぞれに異なるカテゴリを定義してください。

たとえば、SAP アプリケーションと Siebel アプリケーションの両方に変更対象期間を定義しているとします。この場合、たとえば、1つの変更対象期間で、SAP アプリケーションの変更を毎週金曜日の 10:00 PM から 11:30 PM の時間帯に限定し、別の変更対象期間で、Siebel アプリケーションの変更を毎週土曜日の 9:00 PM から 11:00 PM に限定します。このケースでは、変更対象期間ごとに異なる期間カテゴリを定義します。

管理者モジュールの [期間] タブで、新しい期間カテゴリを定義します。SAP アプリケーション用の期間カテゴリを新しく定義する際に、[一致する変更: フィルター] ボックスで `sap_application` フィルターを選択すると、HP Release Control は、この変更要求を現在のカテゴリに含めます。次に、期間カテゴリに適用する繰り返しルールを定義します。

期間の定義の詳細は、「期間の構成の概要」(579 ページ) を参照してください。

リファレンス







[期間] タブ





このタブでは、さまざまなタイプの期間を設定し、グループ化してカテゴリに分類することができます。

アクセス方法	[モジュール] > [管理者] > [期間] タブをクリックします。
関連タスク	「期間の定義方法」(581 ページ)
関連項目	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「期間の構成の概要」(579 ページ) ▶ 「期間」(50 ページ) ▶ 「[評価] > [期間の競合] タブ」(97 ページ)

【期間】ウィンドウ

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
	<p>期間カテゴリを追加。期間カテゴリを設定します。新しく追加した期間カテゴリは、[期間]ウィンドウに表示されます。新規カテゴリのプロパティを右ウィンドウで定義します。詳細については、「[期間カテゴリ]ウィンドウ」(588ページ)を参照してください。</p> <p>注：HP Release Controlの旧バージョンで作成した期間カテゴリは、システム内に保持されていますが、プロパティを変更することはできません。このような期間カテゴリがあれば、削除し、同じプロパティで新規作成することをお勧めします。</p>
	<p>期間カテゴリを削除。選択した期間カテゴリを削除します。</p>
	<p>期間繰り返しルールを追加。[期間]ウィンドウで選択したカテゴリに対して、期間繰り返しルールを設定します。新しく追加した期間繰り返しルールは、[期間]ウィンドウに表示されます。新規ルールのプロパティを右ウィンドウで定義します。詳細については、「[期間繰り返しルール]ウィンドウ」(589ページ)を参照してください。</p>
	<p>期間繰り返しルールを削除。選択した期間繰り返しルールを削除します。</p>
	<p>変更の更新と取り消し。全般設定、カテゴリ、ルールの構成を取り消します(ただし、設定を保存する前)。[期間]タブの内容は、最後に保存した設定に戻ります。</p>
	<p>設定を保存。構成設定の保存。</p> <p>注：保存処理には、数分かかる場合があります。保存中にHP Release Controlにログインした場合、分析表示を更新すると、更新後の期間設定を表示できます。</p>

UIの要素	説明
	<p>クリックすると、以下の操作を実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 期間の全般設定の表示 ▶ 期間カテゴリの詳細表示 <p>注： 期間カテゴリを選択した状態で、アイテムの左側にある [展開]</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ボタンをクリックすると、カテゴリの繰り返しルールが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ▶  は、変更対象期間を示します。 ▶  は、ブラックアウト期間を示します。 ▶  は、変更対象外期間を示します。
<p>一般設定</p>	<p>期間の全般的な設定を右ウィンドウで行います。詳細については、以下の [一般設定] ウィンドウを参照してください。</p>

[一般設定] ウィンドウ


アクセス方法	[期間] ウィンドウの [一般設定] をクリックします。
---------------	---------------------------------------

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します (ラベルのない要素は、山かっこ <> で囲まれています)。

UIの要素	説明
<背景パターン>	<p>変更対象期間、ブラックアウト期間、変更対象外期間を表示する背景パターンを、以下から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ プレーン。分析モジュールでは、変更対象期間はベタ塗りの背景で表示されます。 ▶ 対角線。分析モジュールでは、変更対象期間は斜め縞模様の背景で表示されます。 ▶ 水平線。分析モジュールでは、変更対象期間は横縞模様の背景で表示されます。 ▶ 正方形。分析モジュールでは、変更対象期間は色付きの四角の背景で表示されます。
「ブラックアウト」期間のパターン	変更要求のカレンダー表示で ブラックアウト 期間を表示するときに、HP Release Controlの分析モジュールが使用する背景パターン。使用可能な背景パターンを選択します。
「変更対象期間」のパターン	変更要求のカレンダー表示で変更対象期間を表示するときに、HP Release Controlの分析モジュールが使用する背景パターン。使用可能な背景パターンを選択します。

UIの要素	説明
「変更対象外期間」の パターン	変更要求のカレンダー表示で変更対象外期間を表示するときに、HP Release Controlの分析モジュールが使用する背景パターン。使用可能な背景パターンを選択します。
期間	<p>期間設定の計算の対象となる日数。HP Release Controlは、指定された日数の期間を毎日計算します。したがって、この設定は現在の日付を基準に適用されます。</p> <p>たとえば、この期間を200日に指定した場合、HP Release Controlにログインすると、その日から200日間の期間が分析モジュールのカレンダー表示で表示されます。受信要求は、この期間を基準に分析されます。</p>

[期間カテゴリ] ウィンドウ


アクセス方法	[期間] ウィンドウの [期間カテゴリの追加]  をクリックします。
関連項目	「変更要求および作業のフィルター」(161 ページ)

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
色	新しい期間カテゴリに割り当てる色。これは、HP Release Controlが分析モジュールのカテゴリ表示で使用される色です。
一致する変更	<p>HP Release Controlが、新しく定義したカテゴリに変更要求を含めるかどうかを決定する条件。</p> <p>次の2つのうち1つを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ フィールド。[名前] ボックスで選択したフィールドの値として [値] ボックスで指定した値が、変更要求のこのフィールドの値と一致した場合、変更要求を現在のカテゴリに含めることをHP Release Controlに指示します。 例 : [名前] ボックスで contact-person を選択し、[値] ボックスに Bob と入力した場合、contact-person フィールドの値が Bob の変更要求は、新しく定義したカテゴリに追加されます。 ▶ フィルター。変更要求が選択したフィルターの条件を満たす場合、変更要求を現在のカテゴリに含めるようにHP Release Controlに指示します。 フィルターは、[フィルター] ドロップダウンリストから選択します。この一覧には、[フィルターの保存] ダイアログボックスで定義したフィルターが含まれます (つまり、フィルターを作成した管理者が [期間フィルター] チェックボックスがオンにしたことを意味します)。詳細については、「[フィルターの保存] ダイアログ ボックス」(189 ページ) を参照してください。 新しいフィルターの作成方法の詳細は、「[作業フィルター]/[変更要求フィルター] ダイアログ ボックス」(165 ページ) を参照してください。

UIの要素	説明
名前	新しい期間カテゴリに割り当てる名前。 例 ：たとえば、会社の Web サイトに関連する変更要求をすべて含むカテゴリを定義する場合には、新規作成した期間カテゴリに Corporate Web site などの名前を割り当てます。この名前は、フィルター選択一覧（「[フィルターを選択] リスト」（187 ページ）を参照）で表示されます。
タイプ	変更対象期間 、 ブラックアウト期間 、 変更対象外期間 のタイプ。このカテゴリには、このタイプのルールがすべて含まれます。期間タイプの説明は、「期間の構成の概要」（579 ページ）を参照してください。

[期間繰り返しルール] ウィンドウ

アクセス方法	[期間] ウィンドウの [期間繰り返しルールの追加]  をクリックします。
--------	--

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
名前	新しい期間繰り返しルールに割り当てる名前。 例 ：たとえば、特定の週末を含む 変更対象期間 を定義する場合、新しい期間繰り返しルールとして、weekends などの名前を付けることができます。
繰り返しパターン	期間を繰り返すパターン。1回、日次、週次、月次、年次から選択できます。
繰り返し間隔×日/ 週/月/年	日次、週次、月次、年次のいずれかを繰り返しパターンとして選択した場合、繰り返しの頻度を選択できます。 例 ：期間の繰り返しパターンに [日次] を選択し、[繰り返し間隔] ボックスで 3 を指定すると、パターンは3日ごとに繰り返します。

UIの要素	説明
開始日時	<p>[開始日時] オプションは、期間の繰り返しで選択したパターンによって異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [1回] を選択した場合は、期間を開始する日付と時刻を入力します。 ▶ [日次] を選択した場合は、期間を開始する時刻を入力します。 ▶ [週次] を選択した場合は、期間を開始する曜日と時刻を入力します。 ▶ [月次] を選択した場合は、期間を開始する日付と時刻を入力するか、週、曜日、時刻を選択します。 ▶ [年次] を選択した場合は、期間を開始する日付と時刻を入力するか、月、週、曜日、時刻を選択します。
終了日時	<p>次の [終了日時] オプションを指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 期間を終了する日付と時刻をテキストボックスに入力します。 ▶ 同日の時刻。期間が終了する日の時刻。 ▶ 今日からX日後のX。期間が終了する日時を、開始日時以降の日数と時刻で指定します。 <p>[繰り返しパターン] と [開始日時] で選択した内容によって、一部のオプションが淡色表示になることがあります。</p>
有効期限の開始日時	<p>ルールの適用が開始される日時。日付と時刻を入力します。</p>
有効期限の終了日時/ 期限なし	<p>ルールの適用を終了する日時。日付と時刻を入力します。また、ルールに期限を設けない場合は、[期限なし] チェックボックスをオンにすることもできます。</p>

第 21 章

ビジネス CI の構成

本章の内容

概念

▶ 「ビジネス CI の構成の概要」 (591 ページ)

リファレンス

▶ 「ビジネス CI 構成のユーザーインターフェース」 (592 ページ)

概念

ビジネス CI の構成の概要

HP Release Control では、HP Release Control によって処理される変更要求が影響するビジネス CI の詳細を表示できます。

さらに、ビジネス CI に重要度レベルを割り当て、それを特定のユーザーに関連付けることもできます。ビジネス CI の構成方法の詳細については、「ビジネス CI 構成のユーザーインターフェース」 (592 ページ) を参照してください。

リファレンス

ビジネスCI構成のユーザーインターフェース

本項の内容




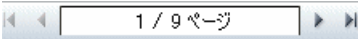
- ▶ 「[ビジネス CI] タブ」 (592ページ)
- ▶ 「ビジネスCI <Business CI Name> の編集ダイアログボックス」 (594ページ)

[ビジネス CI] タブ

このタブでは、HP Release Control用に定義したHP Universal CMDBビューに含まれるビジネスCIの詳細が表示されます。


アクセス方法	[モジュール]>[管理者]>[ビジネス CI] タブをクリックします。
--------	-------------------------------------

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します (ラベルのない要素は、山かっこ <> で囲まれています)。

UIの要素	説明
	<p>編集。ビジネスCI <Business CI Name> の編集ダイアログボックスが開きます。</p> <p>次の操作を実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ビジネスCIの説明や、選択したビジネスCIのHP Universal CMDB 関連情報を表示します。 ▶ 相対的な重要度レベルをビジネスCIに割り当てます (HP Universal CMDB 7.5を使用している場合)。 <p>注：HP Universal CMDB 8.x以降を使用している場合、重要度レベルはHP Universal CMDBで設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 特定のHP Release ControlユーザーとビジネスCIを関連付けます。 <p>詳細については、「ビジネスCI <Business CI Name> の編集ダイアログボックス」(594ページ)を参照してください。</p>
	<p>廃止の表示/非表示。廃止CIの非表示と表示を切り替えます。</p>
	<p>検索。特定のビジネスCIを検索するには、名前または名前の一部を検索ボックスに入力します。検索結果として、入力文字列を名前に含むビジネスCIがすべて返されます。</p> <p>[検索] ボタンをクリックすると、検索が実行されます。</p>
<p><その他のページの表示></p>	<p>その他のページを表示するには、左矢印と右矢印を使用します。左矢印と右矢印の間の数値は、現在表示中のページを示します。たとえば、1 / 9ページは、全9ページのうち1ページ目が表示されていることを意味します。</p> 

ビジネスCI <Business CI Name> の編集ダイアログボックス

このダイアログボックスでは、ビジネスCIのHP Universal CMDB関連情報が表示され、特定のHP Release ControlユーザーをビジネスCIと関連付けることができます。

アクセス方法	[モジュール]>[管理者]>[ビジネスCI] タブ > [編集]  をクリックします。
--------	--

[ビジネスCIの詳細] タブ

注: 相対的な重要度レベルをHP Release Control内のビジネスCIに割り当てます (ただし、HP Universal CMDB 7.5を使用している場合のみ)。

このウィンドウでは、ビジネスCIの詳細を表示できます。

<p>重要な情報</p>	<p>HP Release Control リスク分析構成の作業中に、ビジネスCIに相対的な重要度レベルを割り当てます。各ビジネスCIには、1から10までの重要度レベルを割り当てることができます。HP Release Controlでは、影響を与えるビジネスCIの重要度が高いほど、その変更要求のリスクが高いとみなされます。</p> <p>ビジネスCIの重要度プロパティの設定は、使用するHP Universal CMDBのバージョンによって異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ HP Universal CMDB 8.0以降でビジネスCIの重要度プロパティを設定する場合は、HP Universal CMDBで重要度プロパティを設定してください。HP Universal CMDBでのプロパティ名は business_criticality_level です。HP Release Controlで割り当てた重要度プロパティのデータをHP Universal CMDBにエクスポートする手順については、「HP Universal CMDBバージョンのアップグレード」(389ページ)を参照してください。 ▶ HP Universal CMDB 7.5でビジネスCIの重要度プロパティを設定する場合は、HP Release Controlで重要度プロパティを設定してください。
---------------------	--






ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

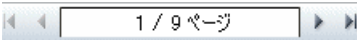
UIの要素	説明
<p>ビジネスCI重要度</p>	<p>ビジネスCIの重要度レベルを1～10の値で選択します。</p> <p>注: ビジネスCIに重要度レベルを割り当てないと、デフォルトの重要度レベルである0が割り当てられます。</p> <p>この場合、リスク計算の business CI importance リスク因子には、デフォルトのマッピングが使用されます。リスク因子の定義の詳細は、「[リスク因子]ウィンドウ」(325ページ)を参照してください。</p>

[ビジネス CI ユーザー] タブ

このタブでは、特定の HP Release Control ユーザーを、選択したビジネス CI に関連付けます。

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します (ラベルのない要素は、山かっこ <> で囲まれています)。

UIの要素	説明
	ビジネスCIの強制。 ユーザーが、特定のビジネスCIとの関連付けを削除できないようにします。
	ビジネスCIの強制の停止。 ユーザーが、特定のビジネスCIとの関連付けを削除できるようにします。
	検索。 特定のユーザーを検索するには、名前または名前の一部を検索ボックスに入力します。検索結果として、入力文字列を名前に含むユーザーがすべて返されます。 [検索] ボタンをクリックすると、検索が実行されます。
	左ウィンドウで選択したユーザーを、 [選択したユーザー] ウィンドウに移動します。このユーザーは、ビジネスCIに関連付けられます。 注： CTRL キーを使用して複数のユーザーを選択できます。
	[選択したユーザー] ウィンドウで選択したユーザーを、左ウィンドウに移動します。このユーザーは、ビジネスCIとの関連付けが解除されます。 注： <ul style="list-style-type: none"> ▶ ビジネスCIと現在のユーザーの関連付けを解除できるのは、管理者がビジネスCIの強制機能を使ってビジネスCIのデータ表示をユーザーに要求していない場合のみです。 ▶ CTRL キーを使用すれば、複数のユーザーを選択できます。
<左ウィンドウ>	管理者がこれまでに定義した HP Release Control ユーザーの一覧が表示されます。

UIの要素	説明
<その他のページの表示>	<p>その他のページを表示するには、左矢印と右矢印を使用します。左矢印と右矢印の間の数値は、現在表示中のページを示します。たとえば、1/9ページは、全9ページのうち1ページ目が表示されていることを意味します。</p> 
[選択したユーザー] ウィンドウ	選択したビジネスCIに関連付けられているユーザー。

第 22 章

ユーザーの構成

本章の内容

概念

- ▶ 「ユーザーの構成の概要」 (599 ページ)

リファレンス

- ▶ 「ユーザー構成のユーザー インタフェース」 (600 ページ)

概念

ユーザーの構成の概要

HP Release Control では、新規ユーザーの設定を行い、そのユーザーにビジネス CI を関連付けることができます。また、既存の HP Release Control ユーザーの設定を変更することも可能です。ユーザー設定の構成方法の詳細は、「ユーザー構成のユーザー インタフェース」 (600 ページ) を参照してください。

現在の HP Release Control ユーザーのユーザープロパティの構成については、「ユーザープロパティのリファレンス」 (27 ページ) を参照してください。

リファレンス



ユーザー構成のユーザー インタフェース

本項の内容

- ▶ 「[ユーザー設定] ダイアログ ボックス」 (600ページ)
- ▶ 「[ユーザー] タブ」 (603ページ)

[ユーザー設定] ダイアログ ボックス

このダイアログボックスでは、ユーザーの基本情報や関連する ビジネス CI などの設定を行って新規ユーザーを定義したり、既存の HP Release Control ユーザーの設定を変更したりできます。

アクセス方法	[モジュール]>[管理者]>[ユーザー] タブをクリックします。 ▶ 新しいユーザーを定義するには、[新規ユーザー]  をクリックします。 ▶ 既存のユーザーの設定を変更する場合は、[ユーザーの編集]  をクリックします。
重要な情報	ID管理モードまたはLDAPモードで作業中の場合、ユーザーを管理者モジュールに追加することはできません。ID管理モードでの作業についての詳細は、「ID管理の使用」(525 ページ)を参照してください。
関連項目	▶ 「セキュリティの構成」(523ページ) ▶ 「ユーザープリファレンス」(27ページ)

[ユーザー詳細] タブ

このタブでは、新規ユーザーの設定や、既存ユーザーの設定変更を行います。







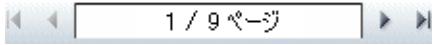
ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します。

UIの要素	説明
電子メールアドレス	定義中のユーザーの電子メールアドレス。このユーザーに通知を送信するとき使用する電子メールアドレスです。
名	定義中のユーザーの名。
姓	定義中のユーザーの姓。
パスワード	ユーザーがHP Release Controlにログインできるパスワード。
パスワードの再入力	[パスワード] ボックスに入力したパスワードを確認します。
ユーザー ID	ユーザーのログインID (該当する場合)。
ユーザーログイン名	ユーザーがHP Release Controlにログインできるユーザー名。
ユーザー役割	事前定義された役割の一覧であり、ユーザーに割り当てることができます。 注： <ul style="list-style-type: none">▶ 事前定義された役割に割り当てることができる権限の説明は、「役割マネージャー」(627ページ)を参照してください。▶ カスタム役割を作成したり、この一覧に含める役割を定義したりできます。詳細については、「役割マネージャー」(627ページ)を参照してください。

[ユーザービジネス CI] タブ

このウィンドウでは、定義中のユーザーにビジネスCIを関連付けます。ユーザーにCIを関連付けると、そのCIが変更されるたびに、ユーザーに通知が送信されます。現在のユーザーとビジネスCIを関連付ける方法や関連付けを削除する方法の詳細は、「[ビジネス CI] ウィンドウ」(28ページ)を参照してください。

ユーザー インタフェースの要素を以下に説明します (ラベルのない要素は、角かっこで囲まれています)。

UIの要素	説明
	ビジネスCIの強制。 ユーザーが、特定のビジネスCIとの関連付けを削除できないようにします。
	ビジネスCIの強制の停止。 ユーザーが、特定のビジネスCIとの関連付けを削除できるようにします。
	検索。 特定のビジネスCIを検索するには、名前または名前の一部を検索ボックスに入力します。検索結果として、入力文字列を名前に含むビジネスCIがすべて返されます。 [検索] ボタンをクリックすると、検索が実行されます。
	選択したビジネスCIを、[利用できるビジネスCI]の一覧から [選択したビジネスCI] の一覧に移動します。ビジネスCIは、現在のユーザーに関連付けられます。
	選択したビジネスCIを、 [選択したビジネスCI] の一覧から[利用できるビジネスCI]の一覧に移動します。ビジネスCIと現在のユーザーの関連付けは解除されます。
	廃止CIの表示。 廃止CIの非表示と表示を切り替えます。
<その他のページの表示>	その他のページを表示するには、左矢印と右矢印を使用します。左矢印と右矢印の間の数値は、現在表示中のページを示します。たとえば、1/9ページは、全9ページのうち1ページ目が表示されていることを意味します。 




UIの要素	説明
利用できるビジネスCI	この一覧にあるビジネスCIは、現在のユーザーに関連付けられていません。
選択したビジネスCI	この一覧にあるビジネスCIは、現在のユーザーに関連付けられています。



[ユーザー] タブ

このタブでは、新しいHP Release Controlユーザーの設定、ビジネスCIとの関連付け、既存ユーザーの設定の編集、ユーザーの削除を実行します。

アクセス方法	[モジュール]>[管理者]>[ユーザー]タブをクリックします。
重要な情報	ID管理モードまたはLDAPモードで作業中の場合、ユーザーを管理者モジュールに追加することはできません。ID管理モードでの作業についての詳細は、「ID管理の使用」(525ページ)を参照してください。
関連項目	「ユーザープリファレンス」(27ページ)

ユーザーインターフェースの要素を以下に説明します(ラベルのない要素は、山かっこ<>で囲まれています)。

UIの要素	説明
	新規ユーザー。 新規ユーザーのユーザー設定を行い、そのユーザーにビジネスCIを関連付けます。[ユーザー設定]ダイアログボックスが開きます。詳細については、「[ユーザー設定]ダイアログボックス」(600ページ)を参照してください。
	ユーザーの編集。 既存のHP Release Controlユーザーの設定を変更します。[ユーザー設定]ダイアログボックスが開きます。詳細については、「[ユーザー設定]ダイアログボックス」(600ページ)を参照してください。
	ユーザーの削除。 定義済みのHP Release Controlユーザーをデータベースから削除します。

UIの要素	説明
	<p>検索。 名前または名前の一部を検索ボックスに入力し、特定のユーザーを検索します。検索結果として、入力文字列を名前に含むユーザーがすべて返されます。</p> <p>[検索] ボタンをクリックすると、検索が実行されます。</p>
<p><その他のページの表示></p>	<p>その他のページを表示するには、左矢印と右矢印を使用します。左矢印と右矢印の間の数値は、現在表示中のページを示します。たとえば、3 / 5 ページは、全5ページのうち3ページ目が表示されていることを示します。</p> 
<p>電子メールアドレス</p>	<p>定義中のユーザーの電子メールアドレス。このユーザーに通知を送信するときに使用する電子メールアドレスです。</p>
<p>名</p>	<p>定義中のユーザーの名。</p>
<p>ユーザー ID</p>	<p>ユーザーのログインID (該当する場合)。</p>
<p>姓</p>	<p>定義中のユーザーの姓。</p>
<p>ユーザー役割</p>	<p>ユーザーに割り当てられる役割。</p>
<p>ユーザーログイン名</p>	<p>ユーザーがHP Release Controlにログインできるユーザー名。</p>

パート VII

付録

付録A

ユーティリティ

注：

以下は、すべてのユーティリティに該当します。

- ▶ HP Release Controlのアップグレード後に以前のインストール環境のユーティリティを実行する場合、ユーティリティを実行する前に、コマンド行から「**set CCM_HOME=<前のインストールディレクトリ>**」と入力して、**CCM_HOME**変数を変更する必要があります。

以下は、アプリケーション重要度のエクスポート、キューマネージャー、変更クリーナー、役割マネージャー、ユーザーのインポートの各ユーティリティに該当します。

- ▶ IDマネージャーモードで作業している場合、ユーティリティの実行時に **--im-mode** オプションを使用する必要があります。
- ▶ ユーティリティコマンドを実行するには、**<ユーザー名>** と **<パスワード>** の各オプションが必要になります。コマンド行にこれらのオプションを指定しないと、入力が要求されます。
- ▶ デフォルト以外のポート番号とサーバー名でHP Release Controlサーバーに接続する場合、接続に使用する値を指定する必要があります。

本章の内容

リファレンス

- ▶ 「HP Release Control ユーティリティ」(608 ページ)

リファレンス

HP Release Control ユーティリティ

ここでは、以下のユーティリティについて説明します。

- ▶ 「変更クリーナー」 (608ページ)
- ▶ 「コンテキストパスの変更」 (611ページ)
- ▶ 「ダンプ」 (613ページ)
- ▶ 「構成セットのエクスポート」 (614ページ)
- ▶ 「アプリケーション重要度のエクスポート」 (617ページ)
- ▶ 「構成セットのインポート」 (618ページ)
- ▶ 「ユーザーのインポート」 (620ページ)
- ▶ 「パスワードの暗号化」 (623ページ)
- ▶ 「テーブルの作成」 (625ページ)
- ▶ 「キューマネージャー」 (625ページ)
- ▶ 「役割マネージャー」 (627ページ)
- ▶ 「SDI永続性の削除」 (634ページ)

変更クリーナー

変更クリーナーユーティリティは、HP Release Control データベースの変更要求をカウントおよび削除するユーティリティです。利用可能なすべての変更要求、指定日付より前の変更要求、指定したフィルターの条件を満たす変更要求をカウント および削除できます。

注意： 変更クリーナーユーティリティは、稼働中の HP Release Control サーバーに要求を送信します。したがって、変更クリーナーコマンドの実行後は、変更要求の削除は停止できません。コマンド行を閉じて、操作は停止しません。

データベース内の要求をカウントまたは削除するには：

次のコマンドを実行します。

```
<HP Release Control インストールディレクトリ> \bin\ChangeCleaner.bat <オプション>
```

以下は、コマンド行の <オプション> です。

オプション	説明
-c --count	変更の数をカウントします。
-cb <yyyy-MM-dd> --count-before <yyyy-MM-dd>	指定日付より前の変更の数をカウントします。
--encrypted-password-file <ファイル>	<ファイル>で指定した暗号化パスワードを使用します。
-cf <フィルター名> --count-filter <フィルター名>	指定されたフィルターに含まれている変更の数をカウントします。「フィルターの指定:注意事項と制限」(610 ページ)を参照してください。
-h --help	すべてのコマンド行の <オプション> を出力します。
--im-mode	HP Release Control は ID マネージャーモードで動作しています。
-p <パスワード> --password <パスワード>	単一のプレーンテキストパスワードを暗号化します。
---port	HP Release Control サーバーが使用するポートを指定します。 デフォルト値 : 8080
--server <サーバー>	HP Release Control サーバーの名前または IP アドレスを指定します。 デフォルト値 : localhost
-u <ユーザー名> --username <ユーザー名>	HP Release Control サーバーへの接続に必要なユーザー名を指定します。

-ra --remove-all	データベースからすべての変更を削除します。
-rb <yyyy-MM-dd> --remove-before <yyyy-MM-dd>	指定の日付より前の変更を削除します。
-rf <フィルター名> --remove-filter <フィルター名>	指定のフィルターに含まれている変更タスクと依存タスクを削除します。「フィルターの指定：注意事項と制限」(610ページ)を参照してください。

たとえば、IDマネージャーモードで、2008年9月20日より前に計画または実施された変更を削除するには、次のコマンドを実行します。

```
<HP Release Control インストールディレクトリ>\bin\ChangeCleaner.bat --im-mode -rb
2008-09-20
```

フィルターの指定：注意事項と制限

変更クリーナーユーティリティを使用する場合、**-cf**、**--count-filter**、**-rf**、**--remove-filter**の各オプションを使用することによって、指定のフィルターに含まれているすべての変更要求をカウントまたは削除できます。このオプションを使用する際には、次の内容と制限に注意してください。

- ▶ フィルターは、HP Release Control 分析モジュールまたはディレクターモジュールで定義されています。
- ▶ 指定可能なフィルターは、管理者役割を持つユーザーが作成したフィルターのみです。
- ▶ 指定可能なフィルターは、最上位レベルの変更を返すフィルターのみです(フィルター定義では、**[階層レベル]**を**[変更]**に定義する必要があります)。
- ▶ 複数のフィルターに同じ名前を付けた場合、そのフィルター名は指定できません。たとえば、特定のユーザー用の非公開フィルターと、管理者フィルターには、同じフィルター名を割り当てることができます。
- ▶ ユーザーのコンテキストに依存するフィルターはサポートされていません(たとえば、**自分のビジネスCIに影響する要求**)。

コンテキストパスの変更

コンテキストパスの変更ユーティリティを使用すると、HP Release Control で **/ccm** のデフォルトコンテキストパスを別のコンテキストパスに変更できます。

コンテキストパスを変更するには：

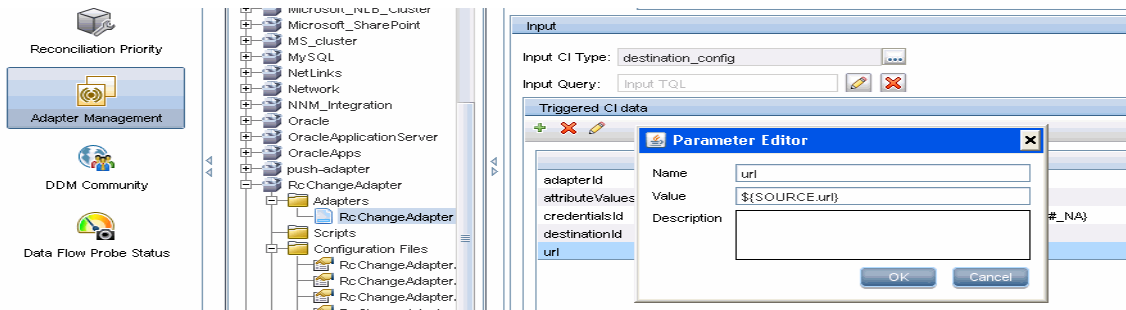
- 1 HP Release Control サービスを停止します。
- 2 HP Release Control 9.13以前の場合、WindowsでChangeContextPath.bat コマンドを実行します。

HP Release Control 9.20以降の場合、WindowsでChangeContextPath.bat コマンドを実行するか、LinuxでChangeContextPath.sh コマンドを実行します。
- 3 プロンプトで新しいコンテキストパスを入力します。パスをスラッシュ (/) で開始または終了することはできません。たとえば、パス「**/abc/**」は無効ですが、「**abc**」と「**a/b/c**」は有効です。
- 4 サーバーアドレスを確認します。HP Release Controlで、**[モジュール]>[管理者]>[サーバー]**をクリックします。必要に応じてサーバーアドレスを更新します。

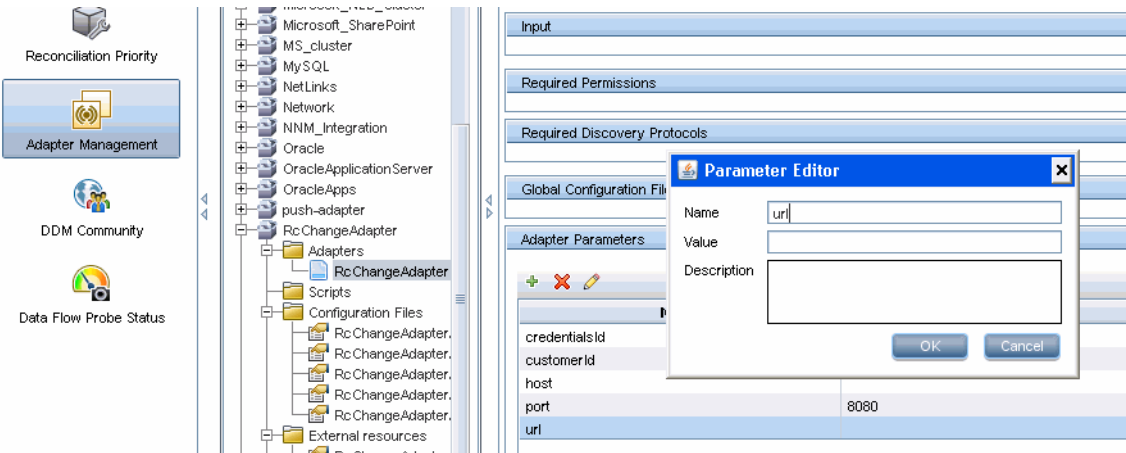
注： HP Release Controlに対してプロキシサーバーが使用されている場合、サーバーアドレスを変更する必要はありません。

- 5 HP Universal CMDBでアダプターパラメーターを変更します。uCMDBでHP Release Control変更アダプターを使用していない場合、この手順をスキップできます。
 - a URLの新しいパラメーターを追加します。

[**アダプタ管理**]に移動し、リストから **RcChangeAdapter** を選択します。[展開] ボタン (+)をクリックし、[**アダプタ**] > [**RcChangeAdapter**] を選択します。[入力] セクションで、[追加] ボタンをクリックして、**url** という名前で、値が **\${SOURCE.url}** の新しいパラメーターを追加します。

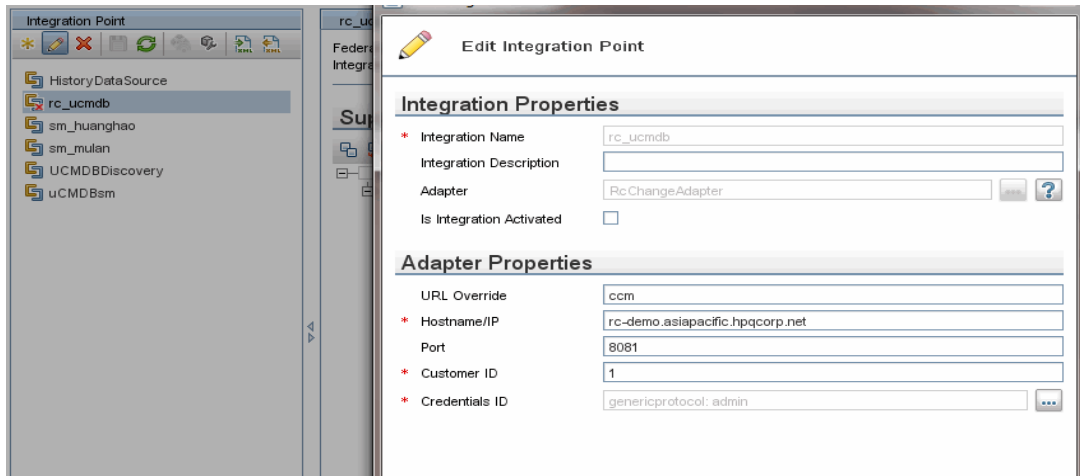


[アダプタ パラメータ] セクションで、[追加] ボタンをクリックして、url という名前の新しいパラメーターを追加します。



b パラメーターを新しいコンテキストパスに設定します。

[Integration Studio] に移動し、**インテグレーション ポイント** リストから **rc_ucmdb** を選択します。[編集] ボタンをクリックしてこのパラメーターを開きます。[URL 上書き] フィールドで、新しいコンテキストパス値を指定します。



上のスクリーンショットで表示されている **rc_ucmdb** は HP Release Control のアダプター名で、環境によって異なります。存在しない場合、新しいアダプター名を作成する必要があります。

6 HP Release Control サービスを再起動します。

注: HP Release Control ドキュメントのコンテキスト パスは、**/ccm** アプリケーションのコンテキスト パスに変更されると自動的に更新されます。たとえば、コンテキストパスが **/CCM/CustomerA** に変更された場合、HP Release Control ドキュメントのコンテキストパスが **/CCM/CustomerA/rcdocs** に更新されます。

ダンプ

ダンプユーティリティは、サービス要求を必要とする問題が発生した時に、HP Software Support に実行環境に関する情報を提供するユーティリティです。

ダンプユーティリティは、ログファイルとアクティブな構成セットすべて(ただしドラフト構成セットは除く)のコピーを作成し、これを **dump.zip** という名前のzipファイルに圧縮します。**dump.zip**のデフォルトの保存先は、ユーティリティの呼び出し元のディレクトリです。

ダンプユーティリティを使用するには：

次のコマンドを実行します。

```
<HP Release Control インストールディレクトリ>\bin\Dump.bat
```

 **構成セットのエクスポート**

構成セットのエクスポートユーティリティは、構成セットを構成ダンプファイルにエクスポートします。この構成ダンプファイルは、後で同じ HP Release Control インスタンスまたは別のインスタンスにインポートできます。この機能は、構成セットをステージング/テスト環境から実働環境へ移行する場合などに便利です。

注：

- ▶ また、この機能はHP Release Control UI内でも実行できます。このユーティリティは、何らかの理由でUIがロックされている場合 (HP Release Controlを無効な構成で起動したため、サーバーを起動できないなど) に限定して使用してください。
 - ▶ このユーティリティを実行するために、Release Controlサーバーを稼動状態にする必要はありません。
 - ▶ SDIアダプターを別のHP Release Controlサーバーからインポートする前に、インポートするSDIアダプターと同じタイプ、同じ名前のSDIアダプターを作成します。
-

構成セットをエクスポートするには：

次のコマンドを実行します。

```
<HP Release Control インストールディレクトリ> \bin\ExportCs.bat <データベースプロパティ>
<構成セットID> <ダンプファイル名>
```

<データベースプロパティ>には、**database.properties** ファイルの場所をポイントするか、各データベースプロパティを指定します。

構成セットIDを特定するには、ExportCSユーティリティを **--history** または **--drafts** オプションで実行し、履歴構成セットとドラフト構成セットをすべて一覧表示します。履歴構成セットには、現在の構成セットを含め、これまでにアクティブ化した構成セットがすべて含まれています。

以下は、コマンド行の<オプション>です。

オプション	説明
--connection-url	データベース接続URL 注： このオプションは、 -p を指定していない場合にのみ使用します。 --dialect 、 --driver 、 --username 、 --password と組み合わせて指定します。
--dialect	データベース言語。 サポートされる言語： H2Dialect、SQLServerDialect、Oracle9iDialect、Oracle10gDialect 注： このオプションは、 -p を指定していない場合にのみ使用します。 --connection-url 、 --driver 、 --username 、 --password と組み合わせて指定します。
--driver	データベースドライバークラス名。例：org.h2.Driver、net.sourceforge.jtds.jdbc.Driver、oracle.jdbc.OracleDriver。 注： このオプションは、 -p を指定していない場合にのみ使用します。 --connection-url 、 --dialect 、 --username 、 --password と組み合わせて指定します。
--drafts	ドラフト構成セット（アクティブ化していないすべての構成セット）を表示します。
-f<ファイル名>	ダンプファイル名
--file <ファイル名>	注： このオプションは必須です

オプション	説明
-h --help	使用法のメッセージ
--history	構成セットの履歴 (これまでアクティブ化したすべての構成セット) を表示します
-i <id> --id <id>	エクスポートする構成セットのID
-p <ファイル> --database-properties <ファイル>	database.properties ファイルの場所。 注 : --connection-url、--driver、--username、--passwordでデータベースのプロパティを指定する場合を除き、このオプションは必須です。
--password	データベースのパスワード 注 : このオプションは、-pを指定していない場合にのみ使用します。--connection-url、--dialect、--driver、--usernameと組み合わせて指定します。
--username	データベースのユーザー名 注 : このオプションは、-pを指定していない場合にのみ使用します。--connection-url、--dialect、--driver、-passwordと組み合わせて指定します。
--verbose	詳細モード

例 :

- ▶ ID 1の構成セットをdump.zipにエクスポートするには :

```
cd <RCインストールホーム>\bin
ExportCs.bat -p ..\conf\database.properties -i 1 -f dump.zip
```

- ▶ 履歴構成セットを一覧表示するには :

```
cd <RCインストールホーム>\bin
ExportCs.bat -p ..\conf\database.properties --history
```


アプリケーション重要度のエクスポート

アプリケーション重要度のエクスポートユーティリティは、ビジネス CI の重要度レベルを HP Release Control から HP Universal CMDB にエクスポートします。ビジネス CI に重要度レベルを割り当てる方法については、「ビジネス CI <Business CI Name> の編集ダイアログボックス」(594 ページ) を参照してください。

HP Universal CMDB 7.5 では、ビジネス CI の重要度レベルは HP Release Control で定義します。

HP Universal CMDB 8.x 以降では、ビジネス CI の重要度レベルは HP Universal CMDB で定義します。HP Universal CMDB 7.x 環境の HP Release Control で重要度レベルを定義し、その後 8.x 以降にアップグレードした場合、**ApplicationImportanceExporter.bat** ユーティリティを使用して Business Criticality 属性を HP Release Control から HP Universal CMDB にエクスポートできます。

このユーティリティを使用して重要度レベルをエクスポートするには：

次のコマンドを実行します。

```
<HP Release Control インストールディレクトリ>\bin\ApplicationImportanceExporter.bat
<オプション>
```

以下は、コマンド行の <オプション> です。

オプション	説明
--encrypted-password-file <ファイル>	<ファイル> で指定した暗号化パスワードを使用します。
-h --help	すべてのコマンド行の <オプション> を出力します。
--im-mode	HP Release Control は ID マネージャーモード で動作しています。
-p <パスワード> --password <パスワード>	単一のプレーンテキストパスワードを暗号化します。

オプション	説明
<code>---port</code>	HP Release Control サーバーが使用するポートを指定します。 デフォルト値 : 8080
<code>--server <サーバー></code>	HP Release Control サーバーの名前またはIPアドレスを指定します。 デフォルト値 : localhost
<code>-u <ユーザー名></code> <code>--username <ユーザー名></code>	HP Release Control サーバーへの接続に必要なユーザー名を指定します。

構成セットのインポート

構成セットのインポートユーティリティは、構成セットのダンプファイルを HP Release Control のインスタンスにインポートします。構成セットのインポートは、たとえば、環境間で移行する際 (ステージング/テスト環境から実働環境など) に便利です。

注 :

- ▶ また、この機能は HP Release Control UI 内でも実行できます。インポートした構成セットの検証も行う UI オプションを使用することをお勧めします。
 - ▶ インポートされた構成セットには、ダンプファイルの名前が付けられます。構成セットの名前は一意なので、同じダンプファイル名を 2 回インポートすることはできません。
-

構成セットをインポートするには：

- 1 このユーティリティは、サーバーが稼働中に実行することが可能ですが、一部の構成でシステム全体の再起動が必要になるため、最初にHP Release Controlの実行中のすべてのインスタンスを停止しておくことをお勧めします。
- 2 次のコマンドを実行します。

```
<HP Release Controlインストールディレクトリ>\bin\ImportCs.bat <データベースプロパティ>
<ダンプファイル名>
```

<データベースプロパティ>には、**database.properties** ファイルの場所をポイントするか、各データベースプロパティを指定します。

以下は、コマンド行の<オプション>です。

オプション	説明
--activate	インポートした構成をアクティブ化します。
--connection-url	データベース接続URL 注 ：このオプションは、 -p を指定していない場合にのみ使用します。 --dialect 、 --driver 、 --username 、 --password と組み合わせて指定します。
--dialect	データベース言語。 サポートされる言語 ：H2Dialect、SQLServerDialect、Oracle9iDialect、Oracle10gDialect 注 ：このオプションは、 -p を指定していない場合にのみ使用します。 --connection-url 、 --driver 、 --username 、 --password と組み合わせて指定します。
--driver	データベースドライバークラス名。例：org.h2.Driver、net.sourceforge.jtds.jdbc.Driver、oracle.jdbc.OracleDriver。 注 ：このオプションは、 -p を指定していない場合にのみ使用します。 --connection-url 、 --dialect 、 --username 、 --password と組み合わせて指定します。
-f<ファイル名> --file<ファイル名>	ダンプファイル名 注 ：このオプションは必須です
-h --help	使用法のメッセージ

オプション	説明
-p <ファイル> --database-properties <ファイル>	database.properties ファイルの場所。 注 ：--connection-url、--driver、--username、--passwordでデータベースのプロパティを指定する場合を除き、このオプションは必須です。
--password	データベースのパスワード 注 ：このオプションは、-pを指定していない場合にのみ使用します。--connection-url、--dialect、--driver、--usernameと組み合わせて指定します。
--username	データベースのユーザー名 注 ：このオプションは、-pを指定していない場合にのみ使用します。--connection-url、--dialect、--driver、-passwordと組み合わせて指定します。
--verbose	詳細モード

たとえば、mydump.zip という名前の構成セットのダンプファイルをインポートするには：

```
cd <RC インストールホーム>\bin
ImportCs.bat -p ..\conf\database.properties -f mydump.zip
```

ユーザーのインポート

ユーザーのインポートユーティリティは、定義済みのユーザーとユーザープロパティの一覧を CSV ファイルから HP Release Control にインポートします。

このユーティリティを使用してユーザーをインポートするには：

次のコマンドを実行します。

```
<HP Release Control インストールディレクトリ> \bin\ImportUsers.bat <オプション>
```

以下は、コマンド行の <オプション> です。

オプション	説明
--list-charsets	このユーティリティでは、さまざまな文字セットのファイルをインポートできます。このオプションを指定すると、使用可能な文字セットの一覧が表示されます。 --charset オプションでは、文字セットを指定します。
--charset <文字セット>	ファイルの文字セットを指定します (アジアの言語で使用すると便利です)。このオプションを指定しないと、デフォルトのファイル文字セットは UTF-8 になります。
--encrypted-password-file <ファイル>	<ファイル> で指定した暗号化パスワードを使用します。
-f <ファイル> --file <ファイル>	<ファイル> で指定したファイルをインポートします。
-r <レベル> --report-level <レベル>	インポート用のエラーレポートのレベルを指定します。<レベル> には次の種類があります。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 0。レポートなし。 ▶ 1。エラーをレポートします。 ▶ 2。警告をレポートします。 ▶ 3。すべてをレポートします (このオプションを指定すると、非常に詳細な内容が提供されます)。 このオプションを指定しないと、デフォルトのレベルは1 (エラーのレポート) になります。
-h --help	すべてのコマンド行の <オプション> を出力します。
--im-mode	HP Release ControlはIDマネージャーモードで動作しています。
-p <パスワード> --password <パスワード>	単一のプレーンテキストパスワードを暗号化します。
---port	HP Release Controlサーバーが使用するポートを指定します。 デフォルト値 : 8080

オプション	説明
--server <サーバー>	HP Release Control サーバーの名前またはIPアドレスを指定します。 デフォルト値 : localhost
-u <ユーザー名> --username <ユーザー名>	HP Release Control サーバーへの接続に必要なユーザー名を指定します。

次に、1人のユーザーを含むCSVファイルの例を示します。

```
USERNAME,PASSWORD,FIRST_NAME,LAST_NAME,EMAIL,BUSINESS_ID,ROLE
jdoe,1234,John,Doe,jon.doe@hp.com,jdoe,NOC
```

ユーザーの詳細情報の更新

ビジネスIDと**ユーザー名**の各フィールドは、一意の識別子です。HP Release Controlでは、2人のユーザーに同じビジネスIDまたは同じユーザー名を設定することはできません。

ビジネスIDフィールドは、ビジネスキーでもあります。既存のユーザーの詳細情報を更新するには、同じビジネスIDを持つユーザーをインポートし、詳細情報を変更します。

たとえば、ビジネスIDが**123**で、ユーザー名が**john_doe**のJohn Doeというユーザーがいるとします。John Doeのユーザー名を**johnd**に変更する場合、ビジネスIDが**123**のユーザーをインポートし、ユーザー名を**johnd**に変更します。これにより、John Doeのユーザー名は**johnd**に更新されます。ただし、HP Release Controlに**johnd**というユーザー名が既に存在している場合、ユーザーの更新はできません。

パスワードの暗号化

パスワードを暗号化するには：

- 1 HP Release Control インストールディレクトリに、次のファイルを含む**security**ディレクトリがあることを確認します。

- ▶ private_key.txt

- ▶ public_key.txt

上記のファイルは、インストールプロセス中に作成されます。ただし、このファイルが存在しない場合は、<HP Release Control インストールディレクトリ>\binディレクトリで次のコマンドを実行します。

```
GenerateKeys.bat
```

- 2 <HP Release Control インストールディレクトリ>\binディレクトリで、以下を実行します。

```
EncryptPassword <オプション>
```

コマンド行の<オプション>は、次のとおりです。

オプション	説明
-f <ファイル> --password-file <ファイル>	指定したプレーンテキストパスワードファイルのパスワードを暗号化します。
-p <パスワード> --password <パスワード>	単一のプレーンテキストパスワードを暗号化します。
--keys-path <パス>	指定したパスに格納されている暗号化キーを使用します。このオプションを指定しない場合、デフォルトのキーの場所は <CCM インストール>\security となり、このディレクトリにGenerateKeysユーティリティは秘密キーと公開キーを作成します。
-h --help	このメッセージを出力します。

たとえば、1つのパスワードを暗号化するには、次のコマンドを実行します。

```
EncryptPassword.bat -p <暗号化するパスワード>
```

- 3 生成された暗号化パスワード (**{ENCRYPTED}** <暗号化されたパスワード>) を、HP Release Control 構成ファイルにコピー / 貼り付けます。

ファイル内のすべてのパスワードを暗号化するには：

- 1 次に示すように、ファイル内の各パスワードが行ごとに指定されていることを確認します。

```
<パスワード 1>  
<パスワード 2>  
<パスワード 3>
```

- 2 <HP Release Control インストールディレクトリ>\bin ディレクトリで、以下を実行します。

```
EncryptPassword.bat -f <ファイル名>
```

同じ名前と拡張子 **.enc** を持つファイルが作成されます。このファイルには、元のファイルに含まれている各パスワードに対する暗号化パスワードが含まれています。

- 3 生成された暗号化パスワード (**{ENCRYPTED}** <暗号化されたパスワード>) を、HP Release Control 構成ファイルにコピー / 貼り付けます。

テーブルの作成

テーブルの作成ユーティリティは、HP Release Control データベースにテーブルを作成します。

注：このユーティリティは、データベースに格納されていたデータを削除します。

テーブルの作成ユーティリティを使用するには：

次のコマンドを実行します。

```
<HP Release Control インストールディレクトリ>\bin\Populate.bat i
```

キューマネージャー

キューマネージャーユーティリティは、サービスデスクアプリケーションから HP Release Control への入力を待機している変更要求を管理します。

キューマネージャーユーティリティを使用するには：

次のコマンドを実行します。

```
<HP Release Control インストールディレクトリ>\bin\QueueManager.bat <オプション>
```

以下は、コマンド行の <オプション> です。

オプション	説明
--encrypted-password-file <ファイル>	<ファイル> で指定した暗号化パスワードを使用します。
-l sd --list sd	サービスデスクから発行され、キュー内にある変更要求をすべて一覧表示します。
-l mcp --list mcp	手動変更プロセスから発行され、キュー内にある変更要求をすべて一覧表示します。

オプション	説明
--remove sd	サービスデスクから発行され、キュー内にある変更要求をすべて削除します。
--remove mcp	手動変更プロセスから発行され、キュー内にある変更要求をすべて削除します。
-h --help	すべてのコマンド行の<オプション>を出力します。
--im-mode	HP Release ControlはIDマネージャーモードで動作しています。
-p <パスワード> --password <パスワード>	HP Release Controlへの接続に必要なパスワードを指定します。
---port	HP Release Controlサーバーが使用するポートを指定します。 デフォルト値 : 8080
--server <サーバー>	HP Release Controlサーバーの完全修飾名を指定します。 デフォルト値 : localhost
-u <ユーザー名> --username <ユーザー名>	HP Release Controlサーバーへの接続に必要なユーザー名を指定します。

たとえば、サービスデスクから発行され、キュー内にある変更要求をすべて削除するには、次のコマンドを実行します。

```
<HP Release Control インストールディレクトリ>\bin\QueueManager.bat --remove sd
```

役割マネージャー

HP Release Control では、ユーザーに割り当て可能な役割セットがあらかじめ定義されています。事前定義された役割の詳細は、「事前定義の役割」（630ページ）を参照してください。

事前定義の役割には、1つまたは複数の権限が割り当てられています。HP Release Control で事前に定義されている権限の説明は、「使用可能な権限」（632ページ）を参照してください。

役割マネージャーユーティリティでは、事前定義された権限を使用して、新しい役割の作成、既存の役割の更新、役割の削除を実行できます。

役割マネージャーユーティリティを使用するには：

次のコマンドを実行します。

```
<HP Release Control インストールディレクトリ> \bin\ManageRoles.bat <オプション>
```

以下は、コマンド行の <オプション> です。

オプション	説明
-a --permissions	HP Release Control で事前定義されている権限を一覧表示します。詳細については、「使用可能な権限」（632ページ）を参照してください。
-c --create	新しい役割を作成します。
--delete	役割を削除します。
--description	(オプション) 役割の説明を入力します。
--encrypted-password-file <ファイル>	<ファイル> で指定した暗号化パスワードを使用します。
-h --help	すべてのコマンド行の <オプション> を出力します。
--im-mode	HP Release Control はIDマネージャーモードで動作しています。

オプション	説明
-l --list-all	使用可能な役割を一覧表示します。
--list-permissions	使用可能な権限を一覧表示します。
-p <パスワード> --password <パスワード>	HP Release Control への接続に必要なパスワードを指定します。
---port	HP Release Control サーバーが使用するポートを指定します。 デフォルト値 : 8080
-r <役割> --role-name <役割>	役割の名前を指定します。
--rename <新しい名前>	既存の役割の新しい名前を指定します。
--server <サーバー>	HP Release Control サーバーの名前またはIPアドレスを指定します。 デフォルト値 : localhost
-u <ユーザー名> --username <ユーザー名>	HP Release Control サーバーへの接続に必要なユーザー名を指定します。
--update	既存の役割の権限を変更します。

例：

- ▶ **NewRole** という名前の役割を作成するには、次のコマンドを実行します。

```
<HP Release Control インストールディレクトリ>\bin\ManageRoles.bat -c -r NewRole -a  
<権限名 1> <権限名 2>
```

- ▶ **ExistingRole** という名前の役割を **NewRole** という名前に変更するには、次のコマンドを実行します。

```
<HP Release Control インストールディレクトリ>\bin\ManageRoles.bat -r NewRole  
--rename ExistingRole
```

- ▶ **NewRole** という名前の既存の役割の権限を置き換えるには、次のコマンドを実行します。

```
<HP Release Control インストールディレクトリ>\bin\ManageRoles.bat --update -r  
NewRole -a <権限名 1> <権限名 2>
```

- ▶ **NewRole** という名前の役割を削除するには、次のコマンドを実行します。

```
<HP Release Control インストールディレクトリ>\bin\ManageRoles.bat --delete -r  
NewRole
```

事前定義の役割

次の表は、HP Release Control で事前に定義されている役割と役割に割り当てられている権限のまとめです。

役割	権限
ビジネス管理者	<ul style="list-style-type: none"> ▶ abortAnyManualChangeProcess ▶ collaborate ▶ dashboardAdministrator ▶ editBusinessCis ▶ editFilterCategory ▶ editPublicFilter ▶ editTimePeriod ▶ login ▶ planChange ▶ teachSimilarity ▶ triggerManualChangeProcess ▶ viewAdminsitratorModule ▶ viewAnalysisModule ▶ viewDashboardModule ▶ viewDirectorModule ▶ viewImplementorModule
変更マネージャー	<ul style="list-style-type: none"> ▶ abortAnyManualChangeProcess ▶ approveChange ▶ collaborate ▶ editCabMinutes ▶ login ▶ planChange ▶ reviewChange ▶ sendCabInvitation ▶ sendCabMinutes ▶ triggerManualChangeProcess ▶ viewAnalysisModule

役割	権限
実施担当者	<ul style="list-style-type: none"> ▶ editActivityStatus ▶ login ▶ viewAnalysisModule ▶ viewImplementorModule
NOC	<ul style="list-style-type: none"> ▶ editActivityStatus ▶ editEventLog ▶ chatAdministrator ▶ login ▶ rescheduleActivity ▶ resolveAlert ▶ viewAnalysisModule ▶ viewDirectorModule
制限ユーザー	<ul style="list-style-type: none"> ▶ login ▶ viewAnalysisModule ▶ viewDirectorModule ▶ viewImplementorModule
システム管理者	すべての権限
ユーザー	<ul style="list-style-type: none"> ▶ collaborate ▶ login ▶ viewAnalysisModule ▶ viewDirectorModule ▶ viewImplementorModule

使用可能な権限

次の表は、HP Release Controlで事前に定義されている権限のまとめです。役割には、1つまたは複数の権限を割り当てることができます。

権限	説明
abortAnyManualChange Process	任意の手動変更プロセス(ユーザー自身または他のユーザーによってトリガーされた)を中止します。詳細については、「[手動変更プロセスの起動]ダイアログボックス」(136ページ)を参照してください。
approveChange	変更要求を承認または拒否するか、承認を撤回します。詳細については、「[コラボレーション]>[決議]タブ」(130ページ)を参照してください。
chatAdministrator	チャットルームを追加または削除します。詳細については、「ユーザーコミュニケーション」(229ページ)を参照してください。
collaborate	<ul style="list-style-type: none"> ▶ アクションアイテムを追加、更新、削除します。詳細については、「[アクションアイテムの追加][アクションアイテムの編集]ダイアログボックス」(73ページ)を参照してください。 ▶ ディスカッションスレッドを追加し、任意の変更要求に投票します。詳細については、「[新規ディスカッションスレッド]ダイアログボックス」(138ページ)を参照してください。
dashboardAdministrator	ダッシュボードポートレットをエクスポートまたはインポートします。
editBusinessCis	ビジネスCIに関連付けるユーザーの一覧を編集します。
editCabMinutes	選択した変更のCAB議事録を編集します。詳細については、「[変更要求]ツールバーのオプション」(122ページ)を参照してください。
editActivityStatus	ディレクターモジュール内の作業の開始時刻、終了時刻、ステータスを変更します。詳細については、「[作業の再スケジュール]ダイアログボックス」(213ページ)を参照してください。
editConfiguration	構成セットを編集、保存、エクスポート、アクティブ化します。詳細については、「[構成]タブ」(280ページ)を参照してください。

権限	説明
editEventLog	イベントログメッセージを追加します。詳細については、「[作業情報] ダイアログボックス」(199ページ)の[イベント ログ] タブを参照してください。 注: イベントログメッセージを追加できるのは、ディレクターモジュールのみです。
editFilterCategory	フィルターカテゴリを追加、編集、削除します。詳細については、「[一般] タブ」(167ページ)を参照してください。
editPublicFilter	公開フィルターを追加、更新、削除します。詳細については、「[フィルターの選択] リスト」(187ページ)を参照してください。
editTimePeriods	期間を追加、更新、削除します。詳細については、「[期間] タブ」(583ページ)を参照してください。
editUser	ユーザーを追加、更新、削除します。詳細については、「[ユーザー] タブ」(603ページ)を参照してください。
login	HP Release Controlにログインします。
planChange	変更を、変更プランナーからの変更に保存します。詳細については、「[変更プランナー] ダイアログボックス」(102ページ)を参照してください。
purgeChange	変更クリーナーユーティリティを使用して、変更を削除します。詳細については、「変更クリーナー」(608ページ)を参照してください。
rescheduleActivity	ディレクターモジュール内の作業を再スケジュールします。詳細については、「[作業の再スケジュール] ダイアログボックス」(213ページ)を参照してください。
resolveAlert	アラートを解決および取り消します。詳細については、「[アラート] ウィンドウ」(207ページ)を参照してください。
reviewChange	レビューメモを、評価およびクローズのステータスを持つ変更要求に追加します。詳細については、「[レビュー]>[結論] タブ」(154ページ)を参照してください。
sendCabInvitation	CAB会議への出席依頼を送信します。詳細については、「[変更要求] ツールバーのオプション」(122ページ)を参照してください。

権限	説明
sendCabMinutes	選択した変更のCAB議事録を送信します。詳細については、「[変更要求] ツールバーのオプション」(122ページ)を参照してください。
teachSimilarity	類似の変更を追加、削除、確認します。詳細については、「類似した変更」(53ページ)を参照してください。
triggerManualChangeProcess	選択した変更に関する変更プロセスを再度実行し、手動プロセスを中止します。詳細については、「[手動変更プロセスの起動] ダイアログボックス」(136ページ)を参照してください。
viewAdministratorModule	管理者モジュールを表示します。
viewAnalysisModule	分析モジュールを表示します。
viewDashboardModule	ダッシュボードモジュールを表示します。
viewDirectorModule	ディレクターモジュールを表示します。
viewImplementorModule	実施担当者モジュールを表示します。

SDI永続性の削除

変更要求を定期的に取得できるように、サービスデスクアダプターがデフォルトで構成されます。

または、サービスデスクアプリケーションの前回のポーリングよりも前の日時を開始点として、サービスデスクの変更要求をすべて取得することができます。そのためには、**SDI永続性の削除**ユーティリティを実行して、データベースの永続性を削除する必要があります。

注：このユーティリティは、サービスデスクアダプターを設定しないと実行できません。詳細については、「サービスデスクアダプターのプロパティ」(466ページ)を参照してください。

データベースの永続性を削除するには：

- 1 HP Release Controlのインスタンスをすべて停止します。
- 2 <HP Release Control インストールディレクトリ>\binディレクトリから、以下のコマンドを実行します。

```
SdiPersistencyCleanup.bat
```

- 3 HP Release Controlで現在アクティブになっているアダプターが一覧表示されます。永続性を削除する対象のアダプターを選択します。
- 4 HP Release Controlサービスを再度起動します。

付録 B

ログ ファイル

本章の内容

概念

- ▶ 「ログファイルの概要」 (637 ページ)

タスク

- ▶ 「ログファイルのプロパティの構成」 (638 ページ)

リファレンス

- ▶ 「HP Release Control で使用可能なログファイル」 (640 ページ)

概念

ログファイルの概要

HP Release Control では、クラスターのセットアップが可能です。クラスターには、オペレーティングシステムの1つのインスタンスで実行される複数のサーバーを含めることができます。各サーバーには、複数のアダプターを含めることができます。クラスター導入の詳細は、「クラスター導入の概要」 (556 ページ) を参照してください。

- ▶ HP Release Control ログと Tomcat サーバーログは、ノード (サーバー) 名に基づいて別のディレクトリに生成されます。ログは **<HP Release Control インストールディレクトリ>\servers\<サーバー名>\logs** に生成されます。

たとえば、最初のサーバー (デフォルトでインストールされるサーバー) の場合、ログは **<HP Release Control インストールディレクトリ>\servers\server-0\logs** に生成されます。

ログには、デフォルトで次のファイルが含まれています。

- ▶ Tomcat ログ (**localhost**、**admin**、**manager**、**host-manager**)。
- ▶ HP Release Control ログ (**ccm*.log**) ファイル。各ログファイルの説明は、「HP Release Controlで使用可能なログファイル」(640ページ)を参照してください。
- ▶ HP Release Control ログファイルは、アダプターごとに作成されます。各アダプターのログは、**<HP Release Control インストールディレクトリ>\servers\<サーバー名>\logs\<アダプター名>-adapter**に生成されます。
- ▶ HP Release Control ログファイルは、CMDBアダプターごとに作成されます。各アダプターのログは、**<HP Release Control インストールディレクトリ>\servers\<サーバー名>\logs\cmdb-<バージョン>**に生成されます。

タスク

ログファイルのプロパティの構成

次に、**<HP Release Control インストールディレクトリ>\servers\<サーバー名>\logs** および **<HP Release Control インストールディレクトリ>\servers\<サーバー名>\logs\<アダプター名>-adapter** ディレクトリにあるログファイルのログ定義を変更する方法について説明します。

- ▶ サーバー固有のログファイルのログ定義は、**<HP Release Control インストールディレクトリ>\conf\ccmlog4j.properties** ファイルで変更します。
- ▶ アダプター固有のログファイルのログ定義は、**<HP Release Control インストールディレクトリ>\conf\<アダプター名>-adapter-ccmlog4j.properties** ファイルで変更します。
- ▶ CMDBアダプター固有のログファイルのログ定義は、**<HP Release Control インストールディレクトリ>\conf\cmdblog4j.properties** ファイルで変更します。

log4j ファイルの詳細は、<http://logging.apache.org/log4j/1.2/manual.html> を参照してください。

- ▶ 「表示されるメッセージのタイプの変更」 (639ページ)
- ▶ 「ファイルサイズの変更」 (639ページ)
- ▶ 「ファイルバックアップポリシーの変更」 (640ページ)

表示されるメッセージのタイプの変更

表示されるメッセージのタイプを変更するには、次の行を編集します。

```
log4j.rootCategory=WARN, ccm_general_fileout, stdout
```

次の3つのログメッセージコマンドを使用できます。

- ▶ **FATAL**。致命的なエラーメッセージのみ表示します。
- ▶ **ERROR**。エラーメッセージのみ表示します。
- ▶ **WARN**。警告とエラーメッセージを表示します。
- ▶ **INFO**。警告とエラーメッセージに加えて、システムが実行する処理作業を記録する情報メッセージを表示します。
- ▶ **DEBUG**。すべてのタイプのメッセージと追加のデバッグメッセージ。

注意： ログを **DEBUG** レベルに設定すると、パフォーマンスに影響を与える可能性があります。

ファイルサイズの変更

デフォルトでは、ログファイルの最大サイズは4000 KBに設定されています。すべてのログファイルの設定を変更するには、以下の行を変更します。

```
def.file.max.size=4000KB
```

ファイルバックアップポリシーの変更

デフォルトでは、バックアップログファイルが常に10セット保持されます。すべてのログファイルの設定を変更するには、以下の行を変更します。

```
def.files.backup.count=10
```

リファレンス

HP Release Control で使用可能なログファイル

次の表は、<HP Release Control インストールディレクトリ>\servers\<サーバー名>\logs ディレクトリにあるサーバー固有の **ccm*.log** ファイルのまとめです。

ログ名	使用
ccm_c3p0	c3p0 データベース接続プールを使用するデータベースとのやり取りが記録されたログファイル。
ccm_client	ユーザーインターフェースまたは Web サービスから開始された要求のログファイル。
ccm_cmdb	HP Universal CMDB とのインターフェースを行うモジュールのログファイル。
ccm_datamodel	HP Release Control とデータベース間のやり取りの大部分が記録されたログファイル。
ccm_general	これまで Tomcat コンソールに表示されていた HP Release Control コンソールメッセージのログファイル。
ccm_hibernate	データベースマッパーに対する 休止状態 オブジェクトに関連するデータベースとのやり取りが記録されたログファイル。
ccm_services	HP Release Control サーバー要求のログファイル。変更要求分析プロセス (インパクト分析、衝突分析など)、通知配信、リスク再計算に関する情報やその他のデータを含みます。

ログ名	使用
ccm_reporting	HP Release Control レポートモジュールのログファイル。
ccm_sdi	サービスデスクアプリケーションから取得されたチケットの数や、アダプターの接続性の問題に関する情報が含まれるログファイル。
ccm_security	セキュリティインフラストラクチャの問題で使用されるログファイル。
ccm_dashboard	ダッシュボードモジュールのログファイル。
ccm_jobs	システム内のジョブの詳細に関する情報が含まれるログファイル。

次の表は、<HP Release Control インストールディレクトリ>
servers\<サーバー名>\logs\<アダプター名>-adapter>ディレクトリにあるアダプター固有の **ccm*.log** ファイルのまとめです。

アダプター関連の問題をトラブルシューティングする場合は、これらのログを参照してください。

ログ名	使用
ccm_general	これまで Tomcat コンソールに表示されていた HP Release Control コンソールメッセージのログファイル。
ccm_jobs	システム内のジョブの詳細に関する情報が含まれるログファイル。
ccm_sdi	サービスデスクアプリケーションから取得されたチケットの数や、アダプターの接続性の問題に関する情報が含まれるログファイル。
ccm_security	セキュリティインフラストラクチャの問題で使用されるログファイル。
ccm_services	HP Release Control サーバー要求のログファイル。

注: インシデントを調査する場合には、変更要求プロセスのどの部分を調査するかによって、サービスデスク統合モジュール (**ccm_sdi**) または HP Release Control サービス要求 (**ccm_services**) の各ログファイルの調査から始めることをお勧めします。

次の表は、<HP Release Control インストールディレクトリ>\servers\<サーバー名>\logs\cmdb-<バージョン> ディレクトリにある CMDB アダプター固有のログファイルのまとめです。

CMDB 関連の問題をトラブルシューティングする場合は、これらのログを参照してください。

ログ名	使用
cmdb_general	CMDB 関連のすべてのメッセージが含まれるログファイル。
cmdb_adapter	アダプター関連のすべてのメッセージが含まれるログファイル。
cmdb_cmdb	CMDB サーバーのエラーメッセージを表示するログファイル。
cmdb_commons	HP Release Control の内部メッセージが含まれるログファイル。

付録C

チケット処理のエラー処理

本章の内容

概念

- ▶ 「変更要求の変換中のエラー処理」 (643ページ)
- ▶ 「変更要求の分析中のエラー処理」 (644ページ)

概念

変更要求の変換中のエラー処理

変更要求は、サービスデスクアプリケーション固有のアダプターを使用して、サービスデスクアプリケーションのフォーマットから汎用フォーマットへと変換されます。詳細については、「変更要求の変換の概要」(431ページ)を参照してください。

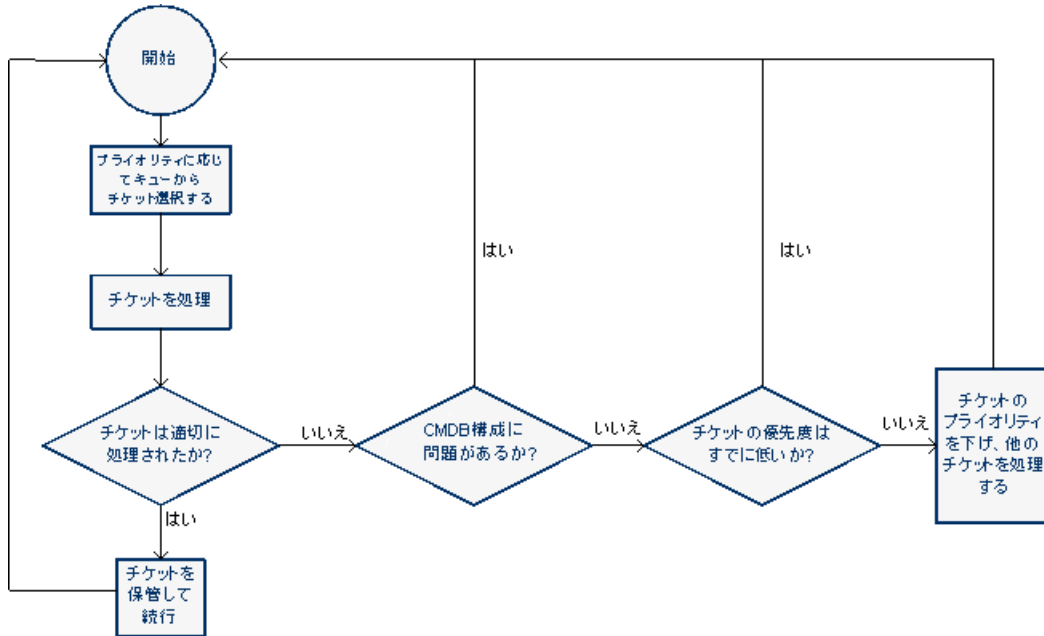
HP Release Control では、変換プロセス中にサービスデスク内のチケットに関するエラーが発生する場合があります。いずれかのチケットでエラーが検出された場合、これらのエラーはHP Release Controlによって次のように処理されます。

- ▶ **サービスデスク内のすべてのチケットを変換している場合 (初期読み込み)**、メッセージは `ccm_sdi` ログファイルに書き込まれ、変換プロセスは停止します。
- ▶ **更新されたチケットのみ変換している場合 (ポーリング)**、HP Release Controlは、問題のあるチケットをスキップし、残りのチケットの変換を続行します。メッセージは `ccm_general` ログに書き込まれます。

変更要求の分析中のエラー処理

HP Release Controlは、変更要求を分析し、インパクト分析、リスク分析、衝突分析などの計算を実行します。

HP Release Controlでは、分析プロセス中にサービスデスク内のチケットに関するエラーが発生する場合があります。次の図は、変更要求チケットの分析中のエラー処理のプロセスを示しています。



上記の図で示したように、チケットで発生している問題がCMDB構成の問題に関連していない場合、そのチケットの優先度は低くなります。チケットはキューの最後に移動し、それよりも高い優先度のチケットを先に処理できるようになります。

付録D

データベースの構成とメンテナンス

本章の内容

リファレンス

- ▶ 「MS SQL Server データベースの構成とメンテナンスのガイドライン」 (645 ページ)
- ▶ 「Oracle Server データベースのガイドライン」 (647 ページ)
- ▶ 「英語以外のロケールでの作業」 (649 ページ)
- ▶ 「データベースプールの構成設定」 (650 ページ)

リファレンス

MS SQL Server データベースの構成とメンテナンスのガイドライン

以下の手順に従って、MS SQL Server データベースでのメンテナンスプランの作成、インデックス統計の更新、スナップショット分離機能の有効化を行うことをお勧めします。

本項の内容

- ▶ 「データおよびインデックスページの再構築」 (646 ページ)
- ▶ 「統計の更新」 (647 ページ)

データおよびインデックスページの再構築

実行した要求がある程度の数に達すると、HP Release Control データベースが断片化することがあります。断片化によってクライアントのパフォーマンスが大幅に低下しないように、データベーステーブルのインデックスを削除して再構築するメンテナンスプランを作成することをお勧めします。

メンテナンスプランを作成するには：

- 1 MS SQL Server Enterprise Managerを開きます。
- 2 MS SQL Serverの登録で、[管理]を選択します。
- 3 [データベース メンテナン スプラン]を右クリックし、[新しいメンテナンス プラン]をクリックします。データベースメンテナンスプランウィザードが起動するので、指示に従って必要な定義パラメーターを設定します。
- 4 メンテナンスプランを作成するデータベースを選択し、[次へ]をクリックします。
- 5 [データおよびインデックス ページを再構成する]チェックボックスをオンにして、[ページごとの空き領域の比率を変更する]オプションを選択します。
- 6 ページあたりの空き領域を10%に設定し、[次へ]をクリックします。
- 7 他の設定はすべてデフォルト値を選択し、メンテナンスプランを保存します。

注：メンテナンスプランを実行したら、統計を更新する必要があります。

統計の更新

MS SQL Server 2000では、列の値の分散に関する統計情報を作成できます。この統計情報を元に、クエリプロセッサは、クエリの評価に最適な戦略を決定します。インデックスが作成されると、MS SQL Serverはインデックス付きの列の値の分布に関する統計情報を自動的に保存します。MS SQL Serverのクエリオプティマイザーは、この統計情報を使用して、クエリによるインデックス使用コストを見積もります。列内のデータが変更されると、インデックスと列統計が古くなってしまうため、クエリオプティマイザーは、クエリ処理に関して最適な意思決定を実行できなくなります。

テーブル内のデータ値の分布に関する最新情報をクエリオプティマイザーに提供するために、インデックス統計を更新することをお勧めします。クエリオプティマイザーは、データベースに格納されているデータの情報量が増えるほど、データアクセス方法に関してより最適な判断を行うことができます。

[統計の自動更新] データベースオプションはデフォルトで有効になっています。このオプションが無効になっている場合には、頻繁に変更されるデータに対応するためにも、データベース統計を毎日更新する自動タスクの作成を強くお勧めします。このジョブは、**sp_updatestats** APIを特定のデータベースに対して実行する必要があります。

Oracle Server データベースのガイドライン

次の手順に従って、キャッシュ属性を設定し、Oracle Serverデータベースの統計を収集することをお勧めします。

キャッシュ属性の設定

次のステートメントを実行して、**CCM_CHANGES** テーブルの **cacheInocache** 属性を **cache** に設定します。

```
alter table CCM_CHANGES cache;
```

統計の収集

統計は、1日1回の頻度で収集することをお勧めします。

1日1回統計を収集するには：

- 1 以下を実行して、HP Release Control スキーマ内のテーブルに対する **MONITORING** フラグをオンにします。

```
exec dbms_stats.alter_schema_tab_monitoring('<name of oracle schema>',TRUE);
```

- 2 毎日深夜に統計を収集するジョブを作成します。

```
declare
  job_num number;
begin
  dbms_job.submit(job_num,'dbms_stats.gather_schema_stats
(ownname=>"<name of oracle schema>", options=>"GATHER AUTO",
cascade=>TRUE);', sysdate+1/1440,'trunc(sysdate+1)');
  commit;
end;
/
```

注意：

- ▶ ジョブを実行するためには、**job_queue_processes** パラメーターを正の値に設定する必要があります。
 - ▶ Oracle 10g では、統計収集プロセスはデフォルトで自動実行されます。**GATHER_STATS_JOB** という名前のジョブが毎日自動的に実行されるので、上記の手順でアクションを実行する必要はありません。
-

英語以外のロケールでの作業

英語以外の言語を使用する HP Release Control 環境では、Oracle Server データベースまたは Microsoft SQL Server データベースのいずれかを使用できます。

- ▶ **Oracle Server 環境。**文字セットの定義では、データベースのエンコーディングとして **UTF-8** または **AL32UTF-8** のいずれかを選択できます。

注：推奨されるエンコーディングは、**AL32UTF-8** です。

- ▶ **Microsoft SQL Server 環境。****照合順序**の設定では、英語の場合はデフォルトである **SQL_Latin1_General_CP1_CI_AS** を選択し、英語以外のデータをデータベースに格納する場合は他の言語を選択してください。選択する言語は、Windows オペレーティングシステムの言語と同じでなければなりません。

注：Microsoft SQL Server データベースを使用する場合、データベースのエンコーディングは、選択した言語のエンコーディングと同じでなければなりません。

データベースプールの構成設定

MS SQL データベースや Oracle Server データベース、ユーザースキーマのデータベースプールの構成設定は、必要に応じて変更できます。データベースプール設定の構成の詳細は、次の URL を参照してください。<http://www.mchange.com/projects/c3p0/index.html>

HP Release Control のデフォルト設定では MS SQL または Oracle Server データベースステートメントのログは記録されません。この設定を変更するには、**<HP Release Control installation directory>\conf\ccmlog4j.properties** ファイル内で次の行がコメントになっていないことを確認してください。

```
log4j.logger.org.hibernate.SQL=debug
```

索引

B

BMC Remedy Action Request System コネクター属性
472

C

ccmlog4j.properties ファイル 638

CI

削除 59

追加 62

[CI KPI] タブ ([作業情報] ダイアログボックス) 202

[CI 属性] ダイアログボックス 210

[CI タイプに一致する変更タイプ] ウィンドウ 422

[CI 表示] ウィンドウ 411

[CI 分析ルックアップ命令] ウィンドウ 410

cmdb-mock.js 394

CSV ファイル 620

D

Dashboard_Objects_Export.xml ファイル 501

E

[Edit Business CIs (ビジネスCIの編集)] ダイアログ
ボックス 594

H

HP Release Control へのログイン 23

HP Universal CMDB 7.x の構成 (推奨) 380

HP Universal CMDB 8.0以降の構成 (推奨) 383

HP Lightweight Single Sign-On 認証、LW-SSO を参照
524

[HP Lightweight SSO (LWSSO)] ウィンドウ 552

HP Network Automation、*Network Automation* を参照

HP Project and Portfolio Management Web Services、
Project and Portfolio Management Web Services
を参照

Project and Portfolio Management Web Services のコネ
クター属性 478

HP Release Control

アクセス 23

概要 21

構成の概要と概念図 265

データフロー 266

導入 268

ユーザー認証 (概要) 524

リンク 437

ログイン 23

HP Release Control および HP Universal CMDB

LDAP を操作するための構成 402

HP Release Control へのリンク

パラメーター 485

フィールドパラメーター値 486

アプリケーション 449

HP Server Automation、*Server Automation* を参照

HP ServiceCenter/Service Manager、*ServiceCenter/*
Service Manager を参照

HP Service Desk、*Service Desk* を参照

[HP Universal CMDB] ウィンドウ 406

HP Universal CMDB のアップグレード 389

HP Universal CMDB の詳細設定 387

HP Universal CMDB パッチ、手動構成 393

HP ソフトウェア Web サイト 18

HP ソフトウェア サポート Web サイト 18

I

ID 管理

ID 管理モード 529

概要 525

[ID マネージャーモード] ウィンドウ 544

索引

IT Governance Center Web Servicesのコネクタ属性
478

J

JMX コンソール
パスワードの暗号化 401

K

KPI、HP Business Availability CenterまたはHP
Business Service Managementでフェデレー
ションとして構成 398

L

LDAP
LDAP.properties 527
LDAP 認証アーキテクチャ 528
接続プロパティの構成 535
ユーザー認証 527
[LDAP] ウィンドウ 545
[LDAP グループから役割へのマッピング] ウィンド
ウ 546
[LDAP サーバー プロパティ] ウィンドウ 547
Lightweight Single Sign-On 認証、LW-SSOを参照
LW-SSO
LW-SSO 認証の概要 524
重要な情報 540
制約 538
セキュリティ警告 539

M

Modeling Studioの統合 49
MS SQL Server データベース、構成とメンテナンス
645

N

Network Automation、コネクタ設定 481
[NOC アシスタンス要求] ダイアログボックス 223

O

Oracle Server データベース、ガイドライン 647

S

SDI 永続性の削除ユーティリティ 634
SDI 操作スクリプト
Deny 関数をサポートするための更新 463
security.settings 535
Server Automation、コネクタ設定 480
Service Manager
HP Release Control 分析情報での更新 445
HP Service Manager と HP Release Control での
LW-SSO の構成 446
要求承認のための HP Release Control の構成
447
ServiceCenter/Service Manager
コネクタ属性、手動設定 474

U

URL、HP ServiceCenter/Service Manager 用に生成 456

X

XML コネクタ属性 473

あ

アクションアイテム 42
自動作成の構成 303
通知登録 68
フィルター 161
[アクション アイテム] ウィンドウ 66
[アクション アイテムの追加] ダイアログボックス
73
値式
レポートの構成 502
アダプター
アダプタープロパティ 466
アダプタープロパティ、変更 444
概要 432
共通属性の構成 467
構成ファイル 432
[アプリケーション] ウィンドウ 415
[アプリケーションの重大度の分布] ポートレット
244
[アプリケーションのステータスの分布] ポート
レット 245

[アラート] ウィンドウ
 構成 518
 ディレクターモジュール 207
 [アラートの処理] ダイアログボックス 211

い

[異常変更の経時変化] ポートレット 242
 一般設定とシステムプリファレンス、構成 272
 [一般] タブ ([作業フィルター] ダイアログボックス)
 167
 [イベント ログ] タブ ([作業情報] ダイアログボック
 ス) 202
 [インパクト] ウィンドウ 412
 [インパクト グラフ] ウィンドウ 134
 インパクト分析
 概要 44
 計算するタイミングの決定 295, 296
 結果の変更 59, 62
 ルールの構成 300
 (インパクト分析) 相関ルール、構成 376
 インパクト分析のCI候補数を増やす 386
 インパクト分析の計算結果の変更 59, 62
 [インパクト分析ルール] ウィンドウ 319

え

英語以外のロケール 649
 エラー処理
 変更要求の分析中 644
 変更要求の変換中 643

お

お気に入り、アクションアイテムの追加 68, 124
 オンラインリソース 18

か

[カレンダー] ウィンドウ 508
 [監視] ウィンドウ 425
 管理者モジュール
 [期間] タブ 583
 [構成] タブ 280
 [ビジネス CI] タブ 592
 [ユーザー] タブ 603
 外部リンク、ルールおよび構文 484

き

期間
 概要 50
 構成の概要 579
 定義 581
 [期間] タブ 583
 キューマネージャーユーティリティ 625
 近接レベル、衝突 52, 291

く

[クイック フィルター表示] ウィンドウ 33
 [クラスター] ウィンドウ 573
 クラスター導入
 概要 556
 [クラスター] ウィンドウ 573
 セットアップ 560
 負荷分散装置の概要 556
 複数インスタンス 564
 [マルチキャスト クラスター] ウィンドウ
 574
 [ユニキャスト クラスター] ウィンドウ 575
 [グラフ] ウィンドウ 510
 [グリッド表示] ウィンドウ 31

け

計算
 推奨日時解析 440
 [結果の時間変化] ポートレット 247
 結合フィルター、作成 164
 [結合フィルター] タブ ([作業フィルター] ダイアロ
 グボックス) 179

こ

構成設定の検証で発生する問題の解決 278
 構成セットのインポートユーティリティ 618
 構成セットのエクスポートユーティリティ 614
 [構成セットを開く] ダイアログボックス 286
 [構成] タブ
 UI 280
 概要 276
 構成スクリプト 277
 構成の変更の保存と適用 277

索引

コネクタ設定
 HP Network Automation 481
 HP Server Automation 480
[コミュニケーション] ウィンドウ
 実施担当者モジュール 222
 [チャット ルームの管理] ダイアログボックス 234
 ディレクターモジュール 210
[コラボレーション] タブ (分析モジュール)
 [アクション アイテム] タブ 126
 [決議] タブ 130
 [ディスカッション] タブ 127

さ

[サーバー] ウィンドウ 571
サービスデスク
 アダプターの構成の概要 432
 構成 429
 コネクタ属性 477
 承認ステータス、更新 439
 初期構成 441
 チケット、取得 441
 チケットの取得 441
 トラブルシューティング 488
作業
 実施 218
 タイムライン上のスケジュール 194
 フィルター 161
作業アラート 196
[作業完了のレポート] ダイアログボックス 224
作業実施の管理 218
[作業情報] ダイアログボックス 199, 222
作業スケジュール、タイムラインに表示 194
作業タイムライン
 作業の表示 195
 日時範囲 196
[作業タイムライン] ウィンドウ
 情報レイヤー 206
 ディレクターモジュール 204
作業チャットルーム 197, 231
[作業の更新] ダイアログボックス
 ディレクターモジュール 214
[作業の再スケジュール] ダイアログボックス 213
[作業のメモ] ダイアログボックス 212

[作業フィルター][変更要求フィルター] ダイアログボックス 165
[作業フィルター] ダイアログボックス
 [一般] タブ 167
 [結合フィルター] タブ 179
 [日時] タブ 175
 [ビジネス CI] タブ 174
 [分析データ] タブ 170
 [レビュー] タブ 177
[サンプルの変更要求の追加] ダイアログボックス 329

し

システムCI、インパクトの重大度 82
シミュレーション結果の表示
 変更プランナー 57
社内文書 335
[手動変更プロセスの起動] ダイアログボックス 136
[詳細] ウィンドウ 30
[詳細] タブ ([作業情報] ダイアログボックス) 199
衝突
 近接レベル 291
 計算 291
 原因 53
 構成 290
 衝突の原因 293
 重大度レベル 53, 294
[衝突] ウィンドウ 311, 315
衝突の原因 53
[衝突の原因] ウィンドウ 84
将卒の重大度レベル 53
使用可能な接続ウィンドウ 407
[新規ディスカッション スレッド] ダイアログボックス 138
[新規ルームの追加] ダイアログボックス 231
事前定義変更要求フィールド 345
[実施ガイドライン] タブ ([作業情報] ダイアログボックス) 201
実施後ポートレット 246
[実施後レビュー] ダイアログボックス 139
実施担当者モジュール
 概要 217
 [コミュニケーション] ウィンドウ 222
 作業実施の管理 218
[重大度列举マッピング] ウィンドウ 416

重大度レベル、衝突 294
 重要度レベルのエクスポートユーティリティ 617
 [条件値] ダイアログボックス 182
 情報レイヤー
 [作業タイムライン] ウィンドウ 206

す

推奨日時解析
 計算 440
 スクリプト
 [構成] タブでの構成 277
 ログファイル 436
 [スタンドアローン HP Universal CMDB KPI スクリプト] ウィンドウ 427
 [スタンドアローン HP Universal CMDB スクリプト] ウィンドウ 427
 スタンドアローンモード、作業 372

せ

正規表現 163
 [セキュリティ] ウィンドウ 541
 [潜在変更] ウィンドウ 418
 [潜在変更の経時変化] ポートレット 243
 潜在変更要求と検出変更要求 372
 [前提条件] ウィンドウ 312

た

タイムライン、作業の表示 194
 タイムラインビュー 89
 ダッシュボード
 カスタマイズ 254
 設定の構成 501
 ページの更新 256
 ページのコピー 257
 ページの追加 255
 ページの変更 257
 ポートレット 240
 ポートレットの追加 258
 [ダッシュボード] ウィンドウ 517
 ダッシュボードのカスタマイズ 254
 ダッシュボードモジュール 239
 ダンプユーティリティ 613

ち

[チャット ルームの管理] ダイアログボックス 234

つ

通常認証モード
 元に戻す 535
 通知、構成 499
 [通知] ウィンドウ 511
 通知登録
 変更要求 68, 125

て

テーブルの作成ユーティリティ 625
 ディレクターモジュール
 [アラート] ウィンドウ 207
 概要 194
 [コミュニケーション] ウィンドウ 210
 [作業タイムライン] ウィンドウ 204
 [作業の更新] ダイアログボックス 214
 [作業の再スケジュール] ダイアログボックス 213
 [作業のメモ] ダイアログボックス 212
 表示/非表示 518
 変更要求、作業、アクションアイテムのフィルター 161
 ディレクターモジュールウィンドウ 211
 データベースのコネクター属性 482
 データベースプールの構成設定 650
 [データベース モード] ウィンドウ 542
 電子メール通知、構成 499

と

トレンドポートレット 241
 [同期] ウィンドウ 426
 ドキュメント 17
 [ドラフトとして保存] ダイアログボックス 287

に

[日時] タブ ([作業フィルター] ダイアログボックス) 175
 [認証] ウィンドウ 542

索引

は

パスワードの暗号化 623
JMX コンソールの使用 401

ひ

[評価] タブ (分析モジュール)
[インパクト] タブ 76
[期間の競合] タブ 97
[衝突] タブ 83
[リスク] タブ 90
[類似した変更] タブ 93
表示ラベル、構成の概要 492
ビジネス CI
インポート 403
構成の概要 591
ビジネス CIT
システム CIT への変換 384
[ビジネス CI] ウィンドウ 28
[ビジネス CI] タブ
[作業フィルター] ダイアログボックス 174
管理者モジュール 592
[ビジネス CI 名属性] ウィンドウ 416

ふ

ファイル
ccmlog4j.properties 638
cmdb-mock.js 394
Dashboard_Objects_Export.xml 501
フィールド、構成 340
[フィールド] ウィンドウ 353
フィルター
アクションアイテム 161
作業 161
変換後 435
変換前 435
変更要求 161
[フィルター] ウィンドウ 183
[フィルターの保存] ダイアログボックス 189
[フィルターの選択] リスト 187
フェデレーションアダプター
カスタムフィールドの追加 399
変更フェデレーションアダプター 378
負荷分散装置
概要 556

複数テナント
概要 554
構成 558
[複数テナント] ウィンドウ 577
文書、社内 335
[分析] ウィンドウ 506
[分析] タブ ([作業フィルター] ダイアログボックス)
170
分析ポートレット 243
分析モジュール 42
分析ルール、追加と編集 319
[プレビュー] タブ (分析モジュール)
[関連レコード] タブ 148
[概要] タブ 144
[詳細] タブ 142

へ

変換後フィルター 435
変換スクリプト
関数 434
ログファイル 436
変換スクリプトのログファイル 436
変換前フィルター 435
変更クリーナーユーティリティ 608
[変更の経時変化] ポートレット 242
変更の変換 431
変更フェデレーションアダプター 378
[変更フロー スクリプト] ウィンドウ 308
変更プランナー
シミュレーション結果の表示 57
[変更プランナー] ダイアログボックス 102
[変更プロセス] ウィンドウ 306
変更要求
カレンダービュー 114
検出された、潜在 54
衝突 52
設定済みフィールド 345
通知登録 125
フィルター 161
[変更要求] ウィンドウ、ツールバーオプション 122
[変更要求サマリ チャート] ウィンドウ 117
[変更要求のインパクト分析の割合] ポートレット
246
[変更要求の承認]/[変更承認の撤回] ダイアログボッ
クス 75

変更要求の分析、構成 268

変更要求フィールド 348

カスタム 348

事前定義 345

[返答] ダイアログボックス 152

ほ

ポートレット

アプリケーションの重大度の分布 244

アプリケーションのステータスの分布 245

異常変更の経時変化 242

結果の時間変化 247

コピー 259

削除 260

実施後 246

潜在変更の経時変化 243

ダッシュボードページの配置 259

追加 258

デフォルトの表示 240

トレンド 241

名前の変更 260

分析 243

変更の経時変化 242

変更要求のインパクト分析の割合 246

Outcome Grouped By Risk (リスク別結果グループ) 247

ま

[マルチキャスト クラスタ] ウィンドウ 574

や

役割マネージャーユーティリティ 627

ゆ

有効な表示形式 343

ユーザーコミュニケーション

概要 229

作業チャットルーム 197, 231

[ユーザー設定] ダイアログボックス 600

[ユーザー] タブ (管理モジュール) 603

ユーザー認証、LDAP 527

ユーザーのインポートユーティリティ 620

ユーザーの構成 599

ユーザープリファレンス 27

[ユーザー ワークスペース] ウィンドウ 34

ユーティリティ

SDI 永続性の削除 634

キューマネージャー 625

構成セットのインポート 618

構成セットのエクスポート 614

重要度レベルのエクスポート 617

ダンプ 613

テーブルの作成 625

変更クリーナー 608

役割マネージャー 627

ユーザーのインポート 620

[ユニキャスト クラスタ] ウィンドウ 575

ら

[ラベルと用語] ウィンドウ 494

り

[リスク因子] ウィンドウ 325

リスク分析

概要 44

計算 45

計算プロパティの構成 297

構成 296, 302

前に操作を追加 298

[Outcome Grouped By Risk (リスク別結果グループ)]

ポートレット 247

[利用できるフィルター] ダイアログボックス 180

リンク

HP Release Control カレンダー 451

HP Release Control の単一要求 453

HP Release Control の [評価] タブ 452

サービスデスクからの HP Release Control

インタフェース 437

タイムゾーンとロケールパラメーターを

使用する HP Release Control 453

テナントパラメーターを使用した HP Release

Control 455

る

類似した変更 53

類似した変更分析 299

[類似性] ウィンドウ 332

索引

[類似性セットに変更要求を追加] ダイアログ
ボックス 72

れ

[列挙] ウィンドウ 351

列挙の概要 341

列挙フィールド

変換スクリプト内でのマッピング 434

[レビュー] タブ ([作業フィルター] ダイアログボッ
クス) 177

[レビュー] タブ (分析モジュール)

[イベント ログ] タブ 157

[確認] タブ 158

[結論] タブ 154

レビューとコラボレーション設定、構成 271

レポート、構成の概要 500

[レポート] ウィンドウ 516

[レポートの詳細] ダイアログボックス 150

ろ

ログファイル

HP Release Control で使用可能 640

概要 637

プロパティの構成 638